

社会医療法人 **かりゆし会 年報** 第23巻 平成28年度
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

Annual report of Social medical corporation KARIYUSHIKAI
Vol.23 2016(April 1,2016-March 31,2017)

年報発刊によせて



沖縄県地域医療構想は平成 29 年 3 月末に策定し厚生労働省に報告されました。そして平成 28 年 11 月末から平成 29 年 1 月にかけて、県保健医療部と沖縄県医師会を中心に地区医師会長・地域医療担当理事等や琉大附属病院院長、国立・県立病院院長等を中心に 4 回の会議を開きました。あれ程、大きな波がうねっていたが、何度か意見交換する間に（時に行政の責務を超えた内容も含め）大きかった波は小さくなり、出席者の間に共通の認識が確認され、各医療圏における問題点も提起・抽出されました。

2025 年に向けて、病床機能の分化と連携における重要な点は、県全体で高度急性期・急性期の病床増は今後あり得ないだろう事を確認する事でしょう。しかし、一方で回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟領域の増床、在宅医療と介護の連携、すなわち地域包括ケアシステムの構築が重要な課題となります。超高齢者で多臓器疾患、そして認知症も伴い、さらに介護度も高く寝たきりに近い状態の方が、高熱等を有して救急救命センター・二次救急病院に搬送され入院した場合、高度な検査や医療ではなく適切な医療がなされ、家族あるいは医療（介護）施設のスタッフと共に寄り添い支える（看取る）環境作りが望まれる時代が来ていると思います。すると医療機関に入院する際の、入口論になると思われますが、救急救命センター・二次救急病院ではなく、地域包括ケア病棟を有する病院や、平成 30 年度に新設される地域包括ケア病床を有する診療所や介護医療院等への入院を望まれる時代が到来しつつ有るのではと感じています。

とある 91 歳女性の終末の 2～3 年は、狭心症・虚血性心不全等で緊急 PTCA を施行され、その後慢性腎不全の増悪にて人工透析を受けました。経過中には下肢末梢血管の閉塞、左上肢血管閉塞血栓除去術、腹部大動脈瘤のステント術を受け、さらにその頃より認知症も伴い、火を消し忘れたり、時に尿・便失禁もあり、タクシーで南部戦跡まで行き帰る家がわからなくなり、何故か、たどり着いたところがいつも通っている病院でした。その後、住宅型老人ホームに入居しましたが、貧血・低栄養状態・微熱が持続し、入居中にノロウイルスによる大腸炎になり、下痢の持続による全身衰弱と共に転倒によって右大腿部骨頭を骨折しました。救急病院へ転院し超短時間で骨頭置換術を受け、早期よりリハビリを行いました。筋力低下とリハビリを継続する意思も気力もなえて寝たきり状態となってしまいました。老人ホームに戻り経過を見るも、食欲低下と軽眠傾向に加え微熱が持続しており、再度、救急病院へ転院となりました。一度人工透析をし、その後点滴と酸素療法のみで経過を見るも、彼女は日曜日の朝、救急病院で永眠されました。

家族も含め、どの時点でどの場所において適切な医療と見守り・看取りがなされるのを望むのでしょうか。訪問診療の支援も受け、いわゆる地域包括ケアシステムの中で支えられていく必要が有るのではと強く感じる昨今です。

社会医療法人かりゆし会
理事長 安里 哲好

目次

年報発刊によせて	3	産婦人科	85
ハートライフ病院 平成 28 年度 年次報告	7	皮膚科	88
年報発刊によせての挨拶	9	放射線科	89
病院概要	10	麻酔科	92
組織概要	10	血液浄化部	94
施設概要	10	救急総合診療部	98
診療体制	13	メディカルクラーク	103
平成28年度事業目標	14	看護部	107
患者統計	18	各部署概要・実績	113
外来・救急外来	18	外来	113
入院	22	救急外来	118
医療の質 Quality Indicator (QI)	28	人工透析室	120
地域医療支援病院認定 関連統計情報	33	手術室・中央材料室	125
ハートライフ病院 DMAT	35	ICU	128
社会医療法人かりゆし会 財務状況推移	37	西 2 階病棟 (産婦人科)	132
社会医療法人かりゆし会 平成 28 年度の活動実績	38	3 階病棟 (整形外科・脳神経外科・眼科・形成外科)	135
かりゆし会病児保育室 利用実績推移	40	3 階新病棟	138
部署別業務実績	41	4 階病棟 (外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科)	140
医 局	42	5 階病棟 (消化器内科・小児科)	143
各科概要・実績	51	6 階病棟 (血液内科・腎臓内科)	145
内 科	51	7 階病棟 (呼吸器内科・循環器内科)	147
呼吸器内科	52	内視鏡センター	150
循環器内科	54	看護部 年度総括	153
消化器内科	57	医療技術部	155
肝臓内科	59	各部署概要・実績	155
血液内科	62	放射線科	155
小児科	65	臨床検査科	163
心療内科	67	臨床工学科	167
外 科	68	栄養科	181
整形外科	73	リハビリテーション科	186
形成外科	75	事務部	193
脳神経外科	78	各部署概要・実績	194
眼 科	80	総務課	194
耳鼻咽喉科	82	経理課	195
泌尿器科	83	管財課	196
		診療情報管理室	205
		請求業務課	207
		地域医療連携室	210
		ハートライフ病院 企画室	
		法人事務局 経営企画室	220
		料飲・販売	228

人事課（法人事務局）……………	230	施設概要……………	322
事務部 年度総括……………	231		
医療安全管理室……………	233	かりゆし会の1年……………	325
感染対策管理室……………	236	平成28年度 20年勤続者……………	330
栄養サポート室……………	240	サークル活動……………	332
内視鏡センター……………	243	安里 哲好 理事長 沖縄県医師会会長就任……………	334
予防医学センター……………	247	編集後記……………	335
委員会活動……………	253		
ハートライフクリニック 平成28年度 年次報告……………	293		
年報発刊によせての挨拶……………	295		
クリニック概要……………	296		
組織概要……………	296		
施設概要……………	296		
患者統計……………	298		
ハートライフクリニック業務実績……………	303		
糖尿病内科……………	304		
内科……………	311		
小児科……………	313		
附属施設……………	314		
疾病予防運動施設リユーズ……………	314		
ヘルシーカフェ ohana……………	317		
ハートライフ地域包括ケアセンター…	319		
平成28年度 年次報告……………	319		
年報発刊によせての挨拶……………	321		

笑顔で親切、
ハートライフ病院

笑顔だと、
気持ちいいよね。

ハートライフ病院 平成 28 年度 年次報告

Annual report of Heartlife hospital 2016



理念

わたしたちは心と心を結ぶ信頼される医療をめざします

基本方針

1. 急性期医療（質の高いチーム医療）
2. 地域完結型医療（地域保健・医療・福祉施設との連携）
3. 救急医療（24 時間二次救急）
4. がんの予防と治療
5. 研修教育病院
6. 健全な医療経営
7. 笑顔で親切



年報発刊によせての挨拶



平成 28 年度も 880 人あまりの職員が一丸となり日々の診療で患者さんに対して「より安全な医療」「より質の高い医療」を実践し、ハートライフ病院にとって大変充実した年になりました。

年度の前半は外科系の収入が伸びず病院全体として対前年比で、マイナス 7200 万円と大きな収入減となりました。この状況をうけて、外科系各科の新規入院患者増対策委員会を定期的に行い多職種で対策を実行しました。その甲斐もあり年度の後半には外科系の収入が増加しました。最終的には病院を挙げての努力が実を結び医業収入 83 億 3 千万円と対前年比で、マイナス 2500 万円、当期利益 4 億 4 千万円（利益率 5.3 %）と減収入ですが増収益となりました。また、経営企画室が中心となって多職種が集まり各加算を取り漏れしないための増収入の取り組み「落穂ひろい」が始まりました。事務部は光熱費などの経費削減で黒字化に貢献しました。職員の皆様の底力を見せていただきました。

各診療科に目を移すと、耳鼻咽喉科は琉大からの常勤医の派遣が一年間無く、それだけで年間約 1 億円の減収が見込まれていました。一方で、「あいち小児医療保健センター」に 1 年間国内留学した小児科の崎原医師が 4 月より小児アレルギー外来を開設しました。大変好評で患者さんが急増しています。

さて、今年度も県医師会から 20 年永年勤続職員として 9 人の職員が表彰を受けました。院長として大変嬉しく名誉に思うと同時に、ご本人の努力とご家族や職場の同僚の支えや励ましに心から感謝申し上げます。

今年度からハートライフ病院が 10 年後も急性期病院・地域の医療の中核病院として輝くことができる体制づくりを始めました。まず駐車場の一部を利用して 5 階建ての東館の増築を開始しました。これは古くなった産婦人科の病棟を中心に手狭になった各科の外来を新館に移します。また、ICU、透析室、血管造影室、化学療法室などが移ります。太平洋の青い海原を眺めながら、広くゆったりした個室でご家族と一緒に安全で安心なお産ができる態勢が整います。平成 29 年 9 月オープン予定で建築が進んでいます。その後順次、手術室、救急外来、リハビリ室、内視鏡室、人間ドックなどが改装されます。

平成 29 年 3 月には急性期病院としての頑張りが県に認められ、病床が 300 床から 308 床に増床になりました。また、平成 28 年 4 月の熊本地震の際は当院 DMAT 隊が出動し、沖縄県の DMAT 隊の中では現地に一番乗りをしました。全国規模の訓練にも多く参加しており、そのような地道な活動が評価され平成 29 年 3 月には県の地域災害拠点病院に認定されました。今後も沖縄県で災害が発生しても医療を継続できる態勢を整えていきたいと思えます。

最後に、今年度は本当に嬉しいニュースがありました。長年実現できなかった事業所内保育園が事務部の努力により補助金を獲得し実現できる予定です。平成 29 年 4 月の開園を目指して「はーとらいふ保育園」を建築中で、子育てをしながら医療の仕事を継続できる環境が整う予定です。

平成 29 年度も職員が生き生きと働ける環境づくり、職員が日々成長を感じることができる病院づくりをしていきたいと思えます。

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
院長 奥島 憲彦

病院概要

(平成 28 年 4 月 1 日現在 / データ作成 総務課 吉川)

組織概要

施設名

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院

所在地

〒 901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地

連絡先

電話 (098) 895-3255 (代表)

FAX (098) 895-2534

ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/>

管理者一覧

理事長	安里哲好	副院長	佐久川 廣	看護部長	宮平典子
院長	奥島憲彦	循環器内科部長	與座 一	医療技術部長	宮城竜也
副院長	松元 悟	外科系統括部長	西原 実	事務部長	當銘秀之
副院長	久場良也	医局長	普天間 光彦		

施設概要

許可病床数

300 床 (開放病床 22 床) ⇒ 308 床 (平成 29 年 3 月 1 日)

敷地面積及び建物概要

敷地面積	19,474.80㎡	建築面積	7,231.56㎡	延べ床面積	24,680.51㎡
規模構造	鉄筋コンクリート造 地上 9 階・地下 1 階				

職員数

総数 842名

職種別

(平成28年4月1日現在 / データ作成 総務課 吉川)

職種	人数	職種	人数	職種	人数	職種	人数
常勤医師	63	クラーク	21	OMA	1	ソーシャルワーカー	5
研修医	10	臨床工学士	10	視能訓練士	1	施設技術者	5
保健師	5	臨床検査技師	40	診療放射線技師	19	保育士	1
助産師	21	理学療法士	15	管理栄養士	5	その他	35
准看護師	18	言語聴覚士	4	調理師	12		
看護師	353	作業療法士	5	事務	113		
看護助手	51	薬剤師	12	医師事務作業補助者	17	合計	842

指導医・専門医・認定医

(平成28年4月現在 / データ作成 総務課 渡久地)

名称	人数
日本内科学会指導医	2
日本内科学会総合内科専門医	5
日本内科学会認定内科医	16
日本循環器学会専門医	5
日本心血管インターベンション治療学会認定医	1
日本消化器病学会指導医	3
日本消化器病学会専門医	6
日本消化器がん検診学会認定医	4
日本消化器内視鏡学会指導医	4
日本消化器内視鏡学会専門医	8
日本肝臓学会専門医	2
日本肝臓学会指導医	1
日本感染症学会指導医	1
インфекションコントロールドクター	2
日本感染症学会専門医	1
日本血液学会指導医	1
日本血液学会専門医	4
日本透析医学会専門医	3
日本透析医学会指導医	1
日本透析医学会認定医	2
日本臨床腎移植学会腎移植認定医	1
精神保健指定医	1
日本精神神経学会指導医	1
日本精神神経学会専門医	1
日本小児科学会専門医	2
日本がん治療認定医機構暫定教育医	4
日本がん治療認定医機構認定医	7
日本外科学会指導医	2
日本外科学会専門医	7
日本外科学会認定医	4
日本乳癌学会認定医	3
検診マンモグラフィ読影認定医	8
日本食道学会認定医	1
日本大腸肛門病学会専門医	1
日本消化器外科学会指導医	3
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医	2
日本消化器外科学会専門医	2

名称	人数
日本内視鏡外科学会技術認定医	2
日本小児外科学会指導医	1
日本小児外科学会専門医	1
日本整形外科学会専門医	3
日本整形外科学会リウマチ認定医	2
日本手外科学会認定手外科専門医	1
日本形成外科学会専門医	1
日本創傷外科学会専門医	1
日本熱傷学会専門医	1
日本レーザー医学会指導医	1
日本レーザー医学会専門医	1
日本脳神経外科学会専門医	2
日本脳神経血管内治療学会専門医	1
日本産婦人科学会専門医	2
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍指導医	1
母体保護法指定医	1
日本泌尿器科学会指導医	2
日本眼科学会専門医	1
AMO Advanced Femtosecond Laser	1
iEK certification	1
日本医学放射線学会診断専門医	1
日本医学放射線学会専門医	3
日本麻酔科学会指導医	1
日本麻酔科学会専門医	2
日本麻酔科学会認定医	1
日本ペインクリニック学会認定医	1
麻酔科標榜医	3
日本病理学会専門医	1
日本病理学会認定医	1
日本集中治療医学会専門医	1
日本救急医学会救急科専門医	2
日本人間ドック学会人間ドック健診専門医	1
日本人間ドック学会認定医	1
日本体育協会公認スポーツドクター	4
日本東洋医学会認定医	1
日本医師学会認定健康スポーツ医	1
日本医師会認定産業医	4
身体障害者福祉法指定医	21

病院機能認定など

1. 医師臨床研修指定病院（基幹型） 厚生労働省発医政第 1030005 号
2. 地域医療支援病院
3. 24 時間二次救急指定病院
4. （財）日本医療機能評価機構 一般病院 認定第 GB97-3 号
5. DPC 対象病院（Ⅲ群）

指定医療一覧

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保険医療機関 2. 労働者災害補償保険指定医療機関 3. 妊娠中毒症医療費援護法指定医療機関 4. 母体保護法指定医療機関 5. 結核予防法指定医療機関 6. 生活保護法指定医療機関 7. 戦傷病者特別援護法指定医療機関 8. 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）
《腎臓に関する医療》 9. 原爆医療法指定医療機関 10. 指定自立支援医療機関（精神通院医療）《てんかん》 | <ol style="list-style-type: none"> 11. 母子保健法指定病院医療機関（養育医療）
《未熟児医療》 12. 特定疾患治療研究事業指定医療機関 13. 小児特定疾患治療研究事業指定医療機関 14. 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）
《心臓脈管外科に関する医療》 15. 身体障害者福祉法指定医療機関（更正医療）
18 歳以上、肝臓に係わるもの 16. 児童福祉法指定医療機関（育成医療） |
|--|--|

施設認定一覧

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本脳神経外科学会認定研修施設 2. 日本内科学会認定教育病院 3. 日本血液学会血液研修施設 4. 日本がん治療認定医機構認定研修施設 5. 日本感染症学会研修施設 6. 非血縁者間骨髄採取認定施設 7. 非血縁者間骨髄移植認定施設 8. 日本肝臓学会認定施設 9. 日本整形外科学会専門医研修施設 10. 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 11. 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 12. 日本泌尿器科学会専門医教育認定施設 13. 日本乳癌学会認定施設 14. 日本眼科学会専門医制度研修施設 15. 日本消化器内視鏡学会指導施設 16. 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設 17. 日本救急医学会救急科専門医指定施設 | <ol style="list-style-type: none"> 18. 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設 19. 日本外科学会外科専門医制度修練施設 20. 日本消化器外科学会専門医修練施設 21. 日本臨床細胞学会施設 22. 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 23. 日本消化器病学会認定施設 24. 日本呼吸器学会関連施設 25. 健康保険組合連合会指定日帰り人間ドック実
施施設 26. 日本透析医学会教育関連施設 27. マンモグラフィ検診施設画像認定 28. エキスパンダー実施施設（二次再建） 29. インプラント実施施設 30. 日本形成外科学会教育関連施設 |
|--|--|

診療体制

標榜診療科目

- | | | | | |
|--------|---------|----------|--------|-------------|
| ●内科 | ●腎臓内科 | ●食道外科 | ●脳神経外科 | ●放射線科 |
| ●呼吸器内科 | ●人工透析内科 | ●血管外科 | ●産婦人科 | ●麻酔科 |
| ●循環器内科 | ●心療内科 | ●大腸・肛門外科 | ●泌尿器科 | ●リハビリテーション科 |
| ●消化器内科 | ●小児科 | ●膵臓外科 | ●眼科 | ●救急科 |
| ●肝臓内科 | ●外科 | ●整形外科 | ●耳鼻咽喉科 | ●病理診断科 |
| ●血液内科 | ●乳腺外科 | ●形成外科 | ●皮膚科 | |

その他、センター・専門外来など

- | | | |
|-------------------------------------|-------------|---------------------|
| ●予防医学センター
(人間ドック・一般健診・生活習慣病予防健診) | ●ヘルニアセンター | ●睡眠時無呼吸症候群 (SAS) 外来 |
| ●内視鏡センター | ●がん相談支援センター | ●股関節外科・股関節スポーツ外来 |
| ●人工透析センター
(昼間・夜間) | ●胸やけ外来 | ●通院治療室 (外来化学療法) |
| ●無菌治療センター | ●不整脈外来 | |
| | ●甲状腺外来 | |
| | ●生活習慣病・禁煙外来 | |

24 時間救急指定病院【内科・循環器内科外科・整形外科・脳神経外科】

受付時間

月曜日～金曜日	午前 8:00～11:30	午後 12:00～16:30
土曜日	午前 8:00～11:30	午後 休診

診療時間

月曜日～金曜日	午前 9:00～12:00	午後 14:00～17:00
土曜日	午前 9:00～12:30	午後 休診

休診日

救急を除き、日曜日・祝日・土曜日の午後

平成28年度事業目標

平成 27 年度は目標として総医業収入 86 億 8 千万円、当期利益 6 億 2 千万円（利益率 7.17%）を目指しましたが、目標に達せず 総医業収入 83 億 6 千 2 百万円、当期利益 3 億 9 千万円（利益率 4.67%）（3 月時点の予測）という結果でした。しかし、平成 26 年度の総医業収入 82 億 9 千万円に比べ増収で連続して黒字経営を続けることができました。これも職員の皆さん一人一人がそれぞれの持ち場で、全力で頑張っておられたお蔭です。院長として職員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 28 年 2 月 21 日の日本経済新聞に「診療体制が充実した病院はどこか？」という特集があり、「診療体制」の実力病院全国 32 病院にハートライフ病院が沖縄県からは県立中部病院と共に選ばれました。これは日経新聞が独自に採点したようで 1. 当院も 4 年ごとに受審している日本医療機能評価機構の病院機能評価の得点が 70 点以上（当院は 72 点）。2. 厚生労働省の毎年評価している DPC 機能評価係数で効率性（入院期間の短さ）、複雑性（重症などの治療が複雑な患者の受け入れ）、カバー率（より多くの疾患の治療対応）、救急医療（救急患者の受け入れ）、地域医療（がん、脳卒中、産婦人科、小児科などの周産期医療への貢献）、後発医薬品（入院患者への後発医薬品の使用）の 6 項目を A～D の 4 段階評価し、6 項目すべてが B 以上の評価、の 2 つの方法で採点したそうです。ある方法で評価するとハートライフ病院も全国の一流病院と肩を並べられることがわかったのは我々にとって大きな自信になります。これは誇りにして良いと思います。これまで我々が「私たちは心と心を結ぶ信頼される医療を目指します」の理念のもと「より安全な医療の実践、より質の高い医療の実践」に努力してきた方向性が間違っていなかったことがわかりました。

平成 28 年度は診療報酬改定の年で診療行為本体は +0.4% ですが薬価が -1.4% で全体では -1.0% と実質マイナス改定になりました。それだけで当院では年間約マイナス 750 万円になると試算され厳しい一年になると思われます。

「2025 年モデル」に向かって病床機能報告制度と県での機能別適正病床数の検討が行われています。当院は今年度「300 床急性期病院、ICU など一部で高度急性期」を目指します。現在、一部ある高度急性期機能ができる限り伸ばしていきたいと思えます。そして、地域包括ケアシステムにおける当院の役割を院外や県に実績で示して、県が策定する地域医療ビジョンに反映させたいと思えます。そのためにも、今回の診療報酬改定で重症度、医療、看護必要度 25% 以上（これまでは 15% 以上）とハードルが高くなり、基準の厳格化が進んだ 7:1 入院基本料を病院全体（300 床）で死守したいと思えます。7:1 入院基本料から 10:1 入院基本料に変更を余儀なくされると 300 床規模の病院では 2 億円～2 億 5 千万円の減収入になるという試算もあります。また、2 年前に皆で頑張っておられた取得した総合入院体制加算の要件がかなり厳しいものになりましたが総合入院体制加算 3 を絶対に確保したいと思えます。

平成 28 年度は総医業収入 84 億 8 千万円、当期利益 5 億 1 千万円（利益率 6.05%）をめざします。そのために病棟運営の 3 指標を病棟運営会議での検討、各科部長へのヒヤリングをもとに下記のように設定しました。

[平成 28 年度病棟運営の 3 指標]

[平成 27 年度目標]

1. 新規入院患者数	690 人 / 月	675 人 / 月
2. 病床利用数	281 床 (93.7%)	281 床
3. 平均在院日数	12.4 日	12.7 日

この目標を達成することが黒字経営のかぎになりますので全職員が日々の診療でこの数値を常に意識して努力していきましょう。

各部署の事業計画などを参考にハートライフ病院の平成 28 年度の目標を下記のように設定しました。全職員でこの目標達成に向けて努力していききたいと思います。

[平成 28 年度ハートライフ病院の目標]

1. より安全な医療とより質の高い医療の実践
2. 急性期医療のレベルアップを図る。一部で高度急性期機能の強化
3. 健全な医療経営（増収入と経費節減）
4. 5 年後を見据えた人材育成、職員研修。
5. より良い接遇の実践
6. ワークライフバランスのとれた労働環境の整備
7. 職員とその家族の幸せを考える

上記目標を職員一人一人が毎日の診療の中で、仕事の中で努力していただきたいと思います。特に役職者は、病院の目標を「率先垂範」して行い、職員の模範になっていただきたいと思います。病院も目標達成に努力します。

平成 19 年から維持している「地域医療支援病院」の認定条件は紹介率 65%、かつ逆紹介率 40% です。今年度は紹介率 74%、逆紹介率 60% を目指します。治療が落ち着いた患者さんは積極的に地域のクリニックの先生方に逆紹介していくことが大切です。逆紹介促進のため患者さんの住所を入力すると周囲のクリニックの名前と特徴、専門科目がでるシステムを構築したいと思います。それが長い目で見ると紹介率のアップにつながります。また紹介率を上げるため各科の特徴や実績を診療所の先生方にこまめに宣伝を行います。出前健康講座を積極的に行い、自治会や婦人会など地域の方々へもより一層 PR したいと思います。

これまでも地域の診療所、病院、施設と連携して行ってきた「地域包括ケアシステム」での当院の役割を継続します。地域医療連携室の活動をより活発化し、新規入院患者の増加を図ると同時に「後方支援」の強化を行い在宅復帰率の向上につなげていきたいと思います。

平成 21 年に沖縄県で初めて「救急医療」の分野で「社会医療法人」に認定されました。今後も救急医療のより一層の充実を図っていききたいと思います。昨年度は「ロード・アンド・ゴー」の夜間の受け入れを徐々に実現しており、24 時間「救急車は断らない」体制づくりに努力します。そのためにも医師の補強を行い夜間や土、日の体制強化に取り組み、専門医研修のできる救急総合診療部をつくっていききたいと思います。

経営企画室や診療情報管理室、請求業務課から医療データが出されていますが、まだ十分にわかりやすいデータがリアルタイムに提示できていない、DPC データの有効活用ができていない現状があります。全国の同規模病院とのベンチマークや県内での各疾患の現状なども含めてリアルタイムにデータを提示できるように強化したいと思います。

そして、ソフト（EVE や Medical Code など）を導入し、経営陣や各科の医師や各部署のニーズに応じたデータが提供できるようにしたいと思います。中心となる経営企画室の強化を行います。新しいソフトの導入で未算定率を明示し職員に対する「DPC 制度」と「診療報酬制度」の勉強会を徹底的に行い、全職員で各種の指導料、管理料、加算の請求漏れを防ぐことにより増収入を図ります。また、新しい加算やより高次の施設基準を取得すべくチャレンジしていききたいと思います。DPC の調整係数が毎年減少し廃止されます。今年度もこれまで同様 DPC の機能係数Ⅱを上げるべく努力していききたいと思います。

開業などのため医師数減となる内科医は早急に増員を図り勤務医の過重労働を避けたいと思います。昨年度も医師数減で頑張ってきた産婦人科と整形外科の増員も緊急の課題です。耳鼻咽喉科が今年、1 年間常勤医の

派遣が無く不在となり、月曜～土曜の午前中の外来診療のみ琉大から派遣となります。院内外に多大なご迷惑をかけると思いますが現在、耳鼻咽喉科常勤医の募集を県内外で行っています。昨年度 3 人体制であった麻酔科は今年度 5 人体制にできる予定です。各専門科の強化は今後も必要で人事課と一緒に充実した診療体制の実現に努力します。

新しい「専門医制度」が動き始めています。当院が主体でできる科は専門医研修体制の整備、充実を図り、それ以外の科は大学病院や他の病院と協力しての専門医連携施設となれるように努力します。少しずつ実現できている「当直明けの午後から帰宅」は今年度も全員が実現できるように体制づくりに努力します。新しい専門医に採用された「総合診療科」を当院でも開設し専門医の養成ができる体制を整えたいと思います。4 月から新しく、あいち小児保健医療総合センターで専門医研修を受けた医師が着任し、「小児アレルギー外来」を開設します。

現在、産婦人科病棟や外来、手術室増、ICU 増を含めた増改築計画が開始され、平成 29 年度オープンを目指しています。5 年後の地域のニーズに応えられる手術件数増、各科の診療の充実、レベルアップにつなげるべく人員確保や体制づくりも並行して行います。工事にあたっては喫茶店や売店の縮小、場所移動、駐車場の縮小、騒音などで患者さんや職員の皆さんに多大なご迷惑をおかけすると思いますがご理解の程、どうぞよろしくお願いいたします。

これまで同様、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の 4 疾病の院内体制の強化を行うと同時に救急医療、災害時における医療、離島、僻地の医療、小児救急を含めた小児医療、周産期医療の 5 事業にも市町村や県などの行政や医師会と連携して取り組んでまいります。昨年度も災害対策委員会や DMAT チームを中心に災害対策トレーニングを行いました。災害対策はまだ多くの問題点があり、今年度も災害対策委員会を中心に多くの職員に参加していただき、災害対策トレーニングに力をいれたいと思います。

入院患者にしめる高齢者の割合が増加しています。また、80～90 歳の高齢でも手術を受ける例が増えていきます。入院したらリハビリ開始、手術前、手術直後からリハビリ、とより一層「急性期リハビリ」に力をいれたいと思います。早期の退院、自宅復帰の観点からは将来的に「365 日リハビリができる体制」づくりに努力します。患者さんの中で認知症の患者も増加しており、全職員に「認知症サポーター」の講義を受けてもらい勉強会を定期的に行い病院全体で認知症に対応できるように理解を深めたいと思います。「認知症」認定看護師の養成は緊急の課題です。また、耳鼻科外来での嚥下機能評価検査の継続と「嚥下」認定看護師の養成も急がれます。

病院にとって「人材が宝」です。医師を含めた職員がいきいきと健康的に働ける労働環境の整備に取り組みます。各職種の給与体系の見直しを行い職員のニーズにできるだけ応えていきます。職員の満足度調査の結果も反映させ、各部署の離職率の低下に努力します。

5 年後を見据えた人材育成を実現するためにより充実した人材育成、職員教育を行います。人事課を強化し、研修教育委員会を活性化させ、人材育成、役職者研修、高度技術の習得、接遇研修、各部署の診療レベルの向上に取り組みます。認定看護師のサポートを今後も継続し当院に足りない部門の認定看護師の養成に努力します。クリニックでの病児保育は昨年 236 人の利用があり、子育てしながらの職務継続に貢献しており、今後も維持、強化していきます。また、平成 29 年春の開設を目指してかりゆし会の保育所をつくります。時短勤務の制度なども整備し子育てしながら働ける労働環境の整備を行います。

現在、フルマッチが続いている初期臨床研修医教育のより一層の充実を図ります。そして、初期研修医が後期研修医に残れるような魅力ある後期研修医教育の整備に努めます。新しい専門医制度が動き始めており各大

学病院や優れた専門病院との連携を図ります。また、看護実習学生、各看護学校への当院教育システムと病院のPRを、看護部を中心として病院全体で取り組みます。また、看護師、薬剤師などメディカルスタッフの教育システムのより一層の充実に努力し、研修、教育を求めて各職種の人材が就職を希望してくるマグネットホスピタルになれるようにします。

厚生労働省、沖縄労働局の推奨する「ひやみかち健康経営宣言」に「職員の健康なくして、地域の健康は守れない。」をスローガンに参加しています。「健康経営」は職員の健康増進を経営投資だとする考え方で、職員一人一人の生産性向上につなげたいと思います。これまで同様「健康増進委員会」の活動を継続します。また「職員健診100%受診」「要精査、要治療の100%受診」を目指します。そして職員のメタボ率の減少、喫煙率の減少に努めます。そのため現在、週半日の兼任で行っている産業保健師を専従に採用したいと思います。

3年前に健全な医療経営をマネジメントするために「BSC(バランスト・スコアカード)」の導入を図りましたが、現在、看護部で活用しています。是非、今年度は「経営の視点」「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」の4つの視点から戦略をたてて実行していくBSCを役職者研修にとり入れていきたいと思っています。

3年前に受審した日本病院機能評価で指摘された点を今年度も改善すべく努力します。患者さんの療養環境のアメニティの向上や職員の接遇教育の強化、患者満足度調査を継続し患者さんの満足度向上を図る努力を継続します。年度はじめの「各科診療実績報告会」を今年度も継続します。そして、より充実した「年報」を作製します。職員の頑張りが詰まった年報を8月までには発刊できるように努力します。3年前から日本病院協会の「医療の質検討プロジェクト」の参加病院に選ばれクリニカルインジケーター（臨床指標）をホームページに公開しています。今年度も参加を継続し、全国の病院とベンチマークを行い改善につなげたいと思います。

他病院が新しい専従の建物を作って競争の激しい人間ドックは経鼻細径内視鏡の導入で内視鏡検査の対応件数を増加し受診者増を図ります。また、昨年「ホテル・コスタピスタ」と提携している宿泊ドックの改善やオプションメニューの導入などを行い、受診者増を図ります。今年も特定健診の増加に努めます。昨年度、念願だったドックの機能評価に合格し、今年度も受診者の満足度向上に努力します。

今年度も国の医療政策との整合性を図りながら、ハートライフ病院の地域における立ち位置を把握し、地域に求められている医療は何か？を常に問い続けながら事業計画を実行していきたいと思っています。

今年度も厳しい医療環境ですが、私たちは「笑顔で親切、ハートライフ病院」をスローガンに職員が一丸となって「より安全な医療」、「より質の高い医療」を実践していきたいと思っています。そして、患者さんやご家族が病院を出るときに「ハートライフ病院に来て良かった」と言っていただけるように努力します。そして、職員が生き生きと働ける労働環境、職員が日々成長を実感できる労働環境をつくり、健全な医療経営も実現したいと思っています。

ハートライフ病院 院長 奥島 憲彦

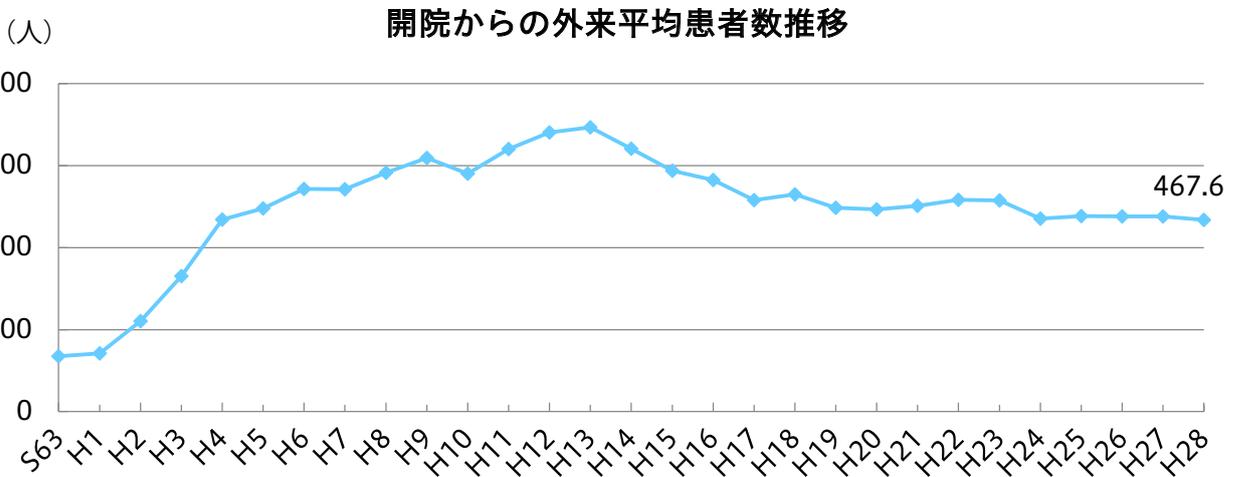
患者統計

外来・救急外来

外来 1 日平均患者数推移

(データ作成：請求業務課 桑江)

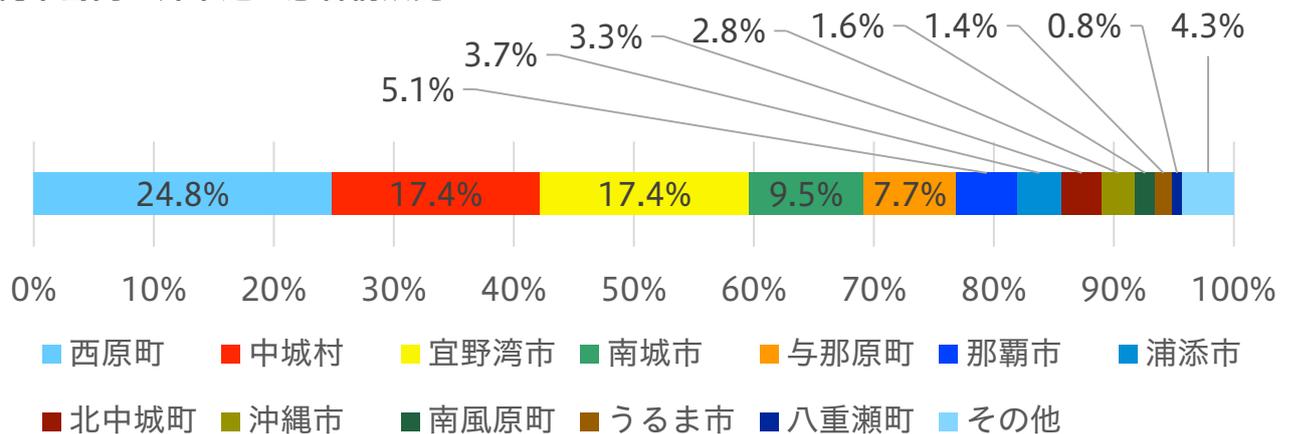
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成 24 年度	455.7	461.3	446.5	475.9	459.4	488.1	466.9	481.7	481.1	483.0	475.9	470.4	470.5
平成 25 年度	464.0	488.0	462.2	480.1	452.3	478.9	470.7	469.3	492.8	496.8	483.7	484.9	477.0
平成 26 年度	465.2	477.8	459.8	471.1	446.2	481.9	491.1	477.7	495.2	499.2	473.0	476.4	476.2
平成 27 年度	467.3	468.8	463.9	461.4	443.8	503.8	479.4	502.8	500.7	480.4	475.8	462.1	475.9
平成 28 年度	447.6	469.5	457.7	464.2	453.9	477.1	455.0	487.5	484.1	475.8	473.0	466.0	467.6



地域別外来患者数 (延べ患者数)

地域	患者数
沖縄本島 (橋で接続されている島を含む)	132,106
離島	791
県外	634
国外・その他・不明	314
総合計	133,845

沖縄本島内 外来延べ患者構成比



救急搬送件数推移と救急患者の入院数

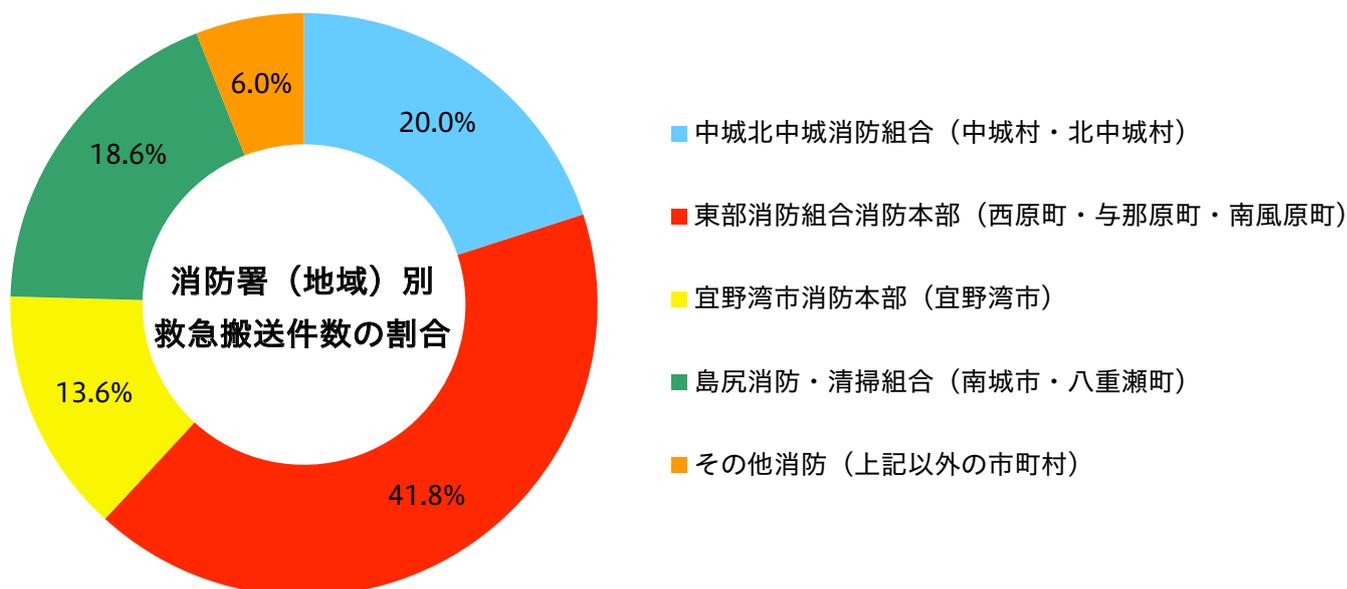
(データ作成：地域医療連携室 砂川)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	入院率
H19年度	搬送人数	210	183	190	210	170	195	173	157	161	184	200	192	2,225	185.4	
	内入院数	91	87	83	95	67	97	76	77	81	99	92	77	1,022	85.2	45.90%
H20年度	搬送人数	204	179	174	219	195	183	190	169	195	208	158	168	2,242	186.8	
	内入院数	92	68	67	79	69	67	85	80	85	92	71	72	927	77.3	41.30%
H21年度	搬送人数	131	117	140	187	207	194	154	153	194	207	175	176	2035	169.6	
	うち入院数	65	55	56	90	101	87	71	82	98	99	81	81	966	80.5	47.50%
H22年度	搬送人数	163	188	185	230	221	224	195	225	223	231	169	222	2476	206.3	
	うち入院数	81	76	91	88	83	84	87	110	96	110	91	99	1096	91.3	44.30%
H23年度	搬送人数	202	187	201	209	215	190	230	209	226	224	240	250	2583	215.3	
	うち入院数	84	78	91	90	109	84	112	98	118	105	101	114	1184	98.7	45.80%
H24年度	搬送人数	205	193	184	230	226	204	215	241	234	228	179	204	2543	211.9	
	うち入院数	97	99	94	108	107	96	107	127	111	118	91	90	1245	103.8	49.00%
H25年度	搬送人数	188	197	212	259	222	218	174	170	208	210	185	200	2443	203.6	
	うち入院数	93	104	101	99	106	110	92	91	97	104	82	89	1168	97.3	47.80%
H26年度	搬送人数	185	188	209	235	204	197	200	193	199	262	187	191	2450	204.2	
	うち入院数	80	91	95	110	94	98	113	94	106	131	99	97	1208	100.7	49.30%
H27年度	搬送人数	194	209	206	217	192	222	218	191	196	212	228	222	2507	208.9	
	うち入院数	98	106	97	122	98	119	119	90	88	104	101	108	1250	104.2	49.90%
H28年度	搬送人数	201	221	225	239	226	219	238	200	241	265	224	266	2,765	230.4	
	うち入院数	104	116	119	105	107	116	120	92	122	130	100	136	1,367	113.9	49.4%

消防署（地域）別救急搬送件数

(地域医療支援病院運営委員会資料より / データ作成：地域医療連携室 砂川)

	当院救急搬送件数	うち、時間外救急搬送件数	時間外の比率
中城北中城消防組合（中城村・北中城村）	553	354	64.0%
東部消防組合消防本部（西原町・与那原町・南風原町）	1,157	754	65.2%
宜野湾市消防本部（宜野湾市）	376	246	65.4%
島尻消防・清掃組合（南城市・八重瀬町）	514	339	66.0%
その他消防（上記以外の市町村）	165	75	45.5%
合計	2,765	1,768	63.9%

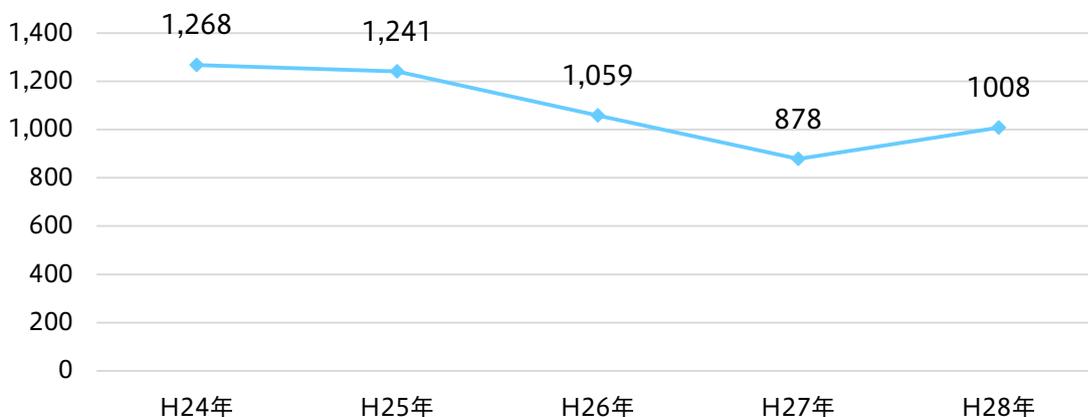


外来化学療法室施行数推移

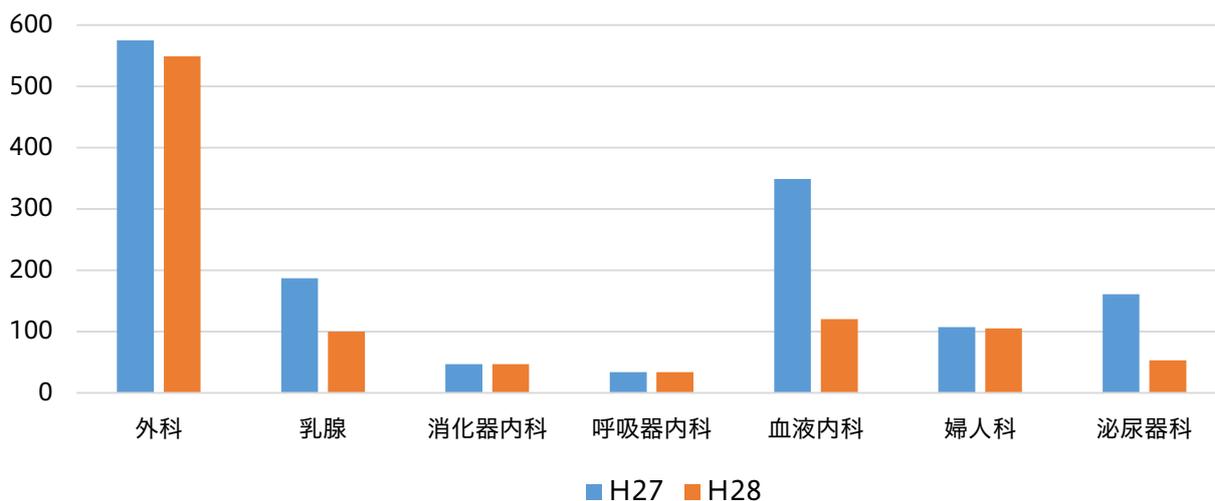
(データ作成：看護部 外来 本田)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	46	53	56	55	49	50	44	58	47	43	36	38	575
乳腺	17	11	13	15	13	19	19	11	15	19	11	24	187
消化器内科	3	5	1	5	2	5	4	3	5	6	2	6	47
呼吸器内科	7	3	4	4	4	5	4	3	0	0	0	0	34
肝臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	12	23	19	29	40	27	24	33	22	38	41	41	349
婦人科	6	14	9	6	9	6	8	8	11	9	11	10	107
泌尿器科	9	15	16	15	18	18	16	18	17	10	4	5	161
合計	100	124	118	129	135	130	119	134	117	125	105	124	1,460

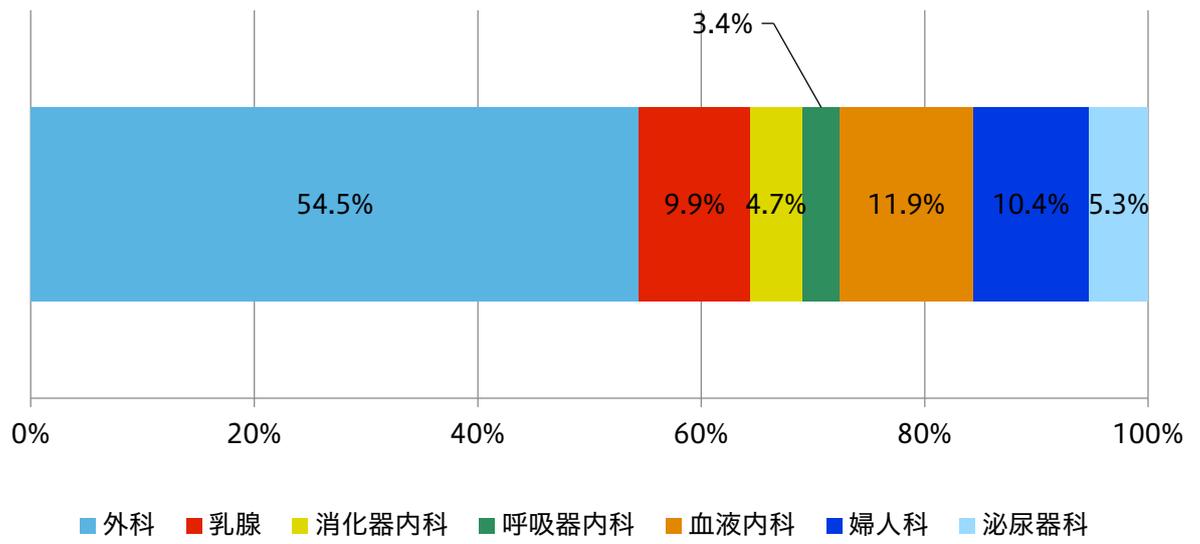
外来化学療法加算の件数年次推移



化学療法総件数と加算件数 (各科別)



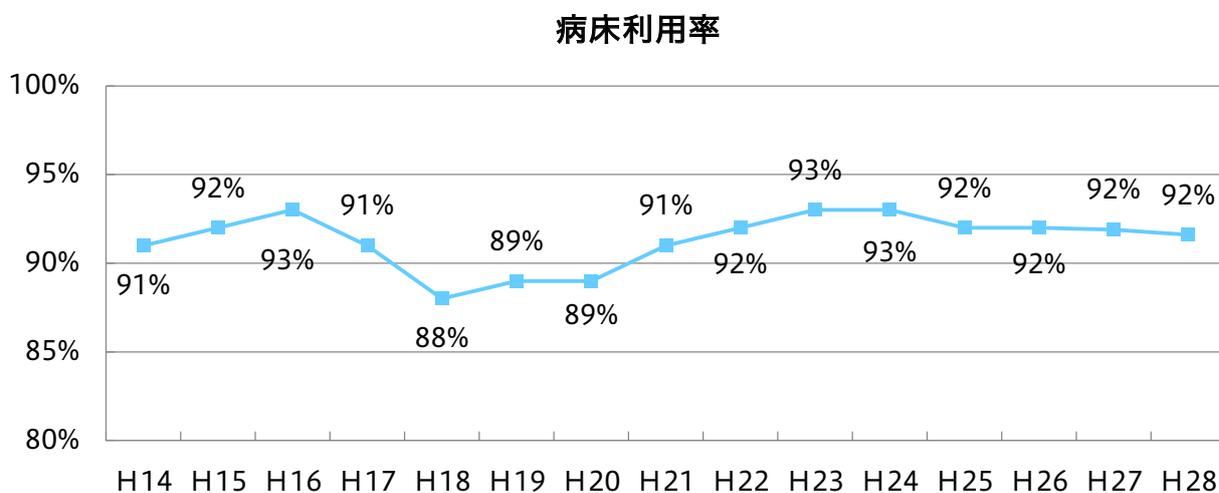
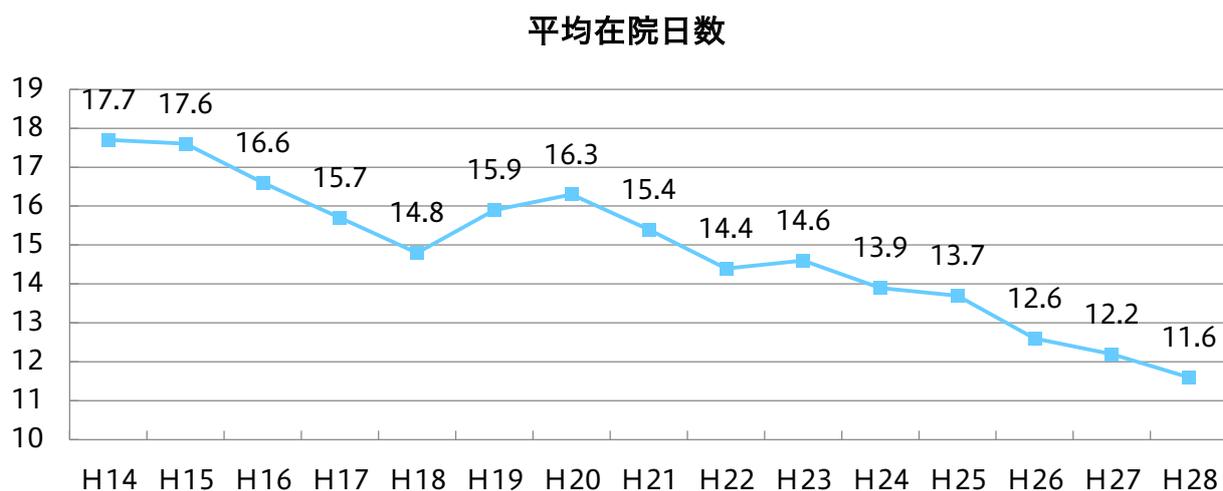
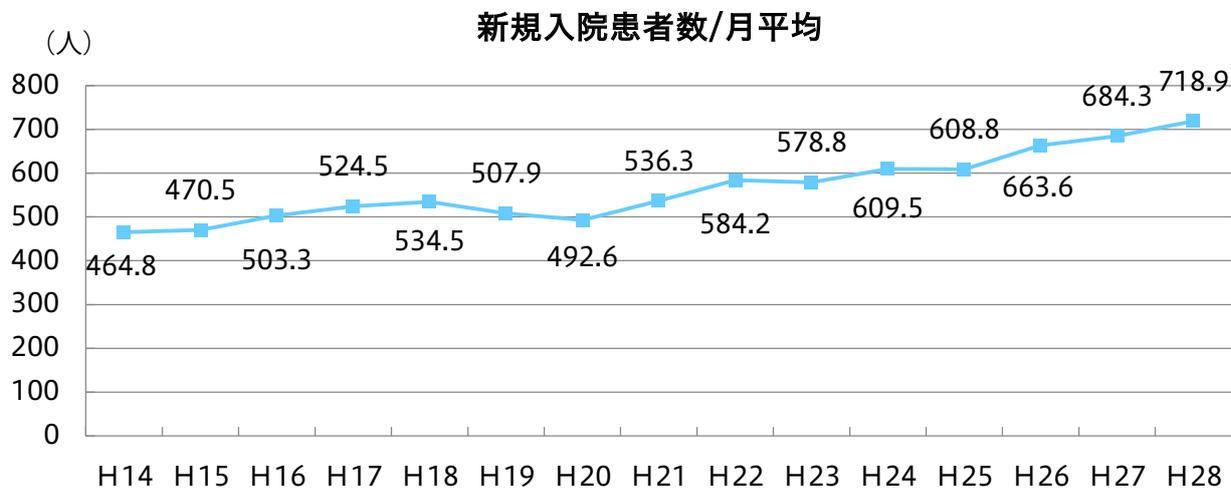
外来化学療法 診療科別割合



入院

3 指標

(データ作成：地域医療連携室 栗盛)

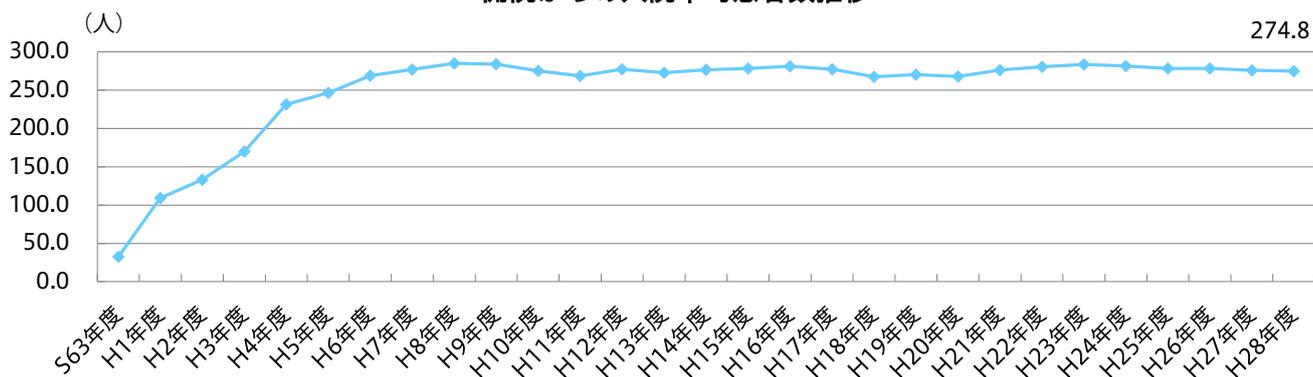


入院 1 日平均患者数推移 (稼働)

(データ作成: 請求業務課 宮城)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
H24年度	283.6	274.2	273.4	277.7	273.1	274.7	281.5	283.7	284.8	290.6	294.5	284.8	3,376.6	281.4
H25年度	270.3	270.4	286.9	284.5	275.3	287.4	278.5	274.2	270.5	286.0	284.2	271.4	3,339.6	278.3
H26年度	267.3	256.7	274.0	290.2	291.0	278.0	276.8	268.2	267.6	291.1	291.5	288.4	3,340.8	278.4
H27年度	281.3	268.9	283.3	278.5	272.7	272.1	270.8	272.8	266.8	277.4	291.7	274.8	3,311.1	275.9
H28年度	264.8	285.0	274.7	276.7	268.7	278.4	269.8	256.4	258.9	283.1	290.1	290.9	3,297.5	274.8

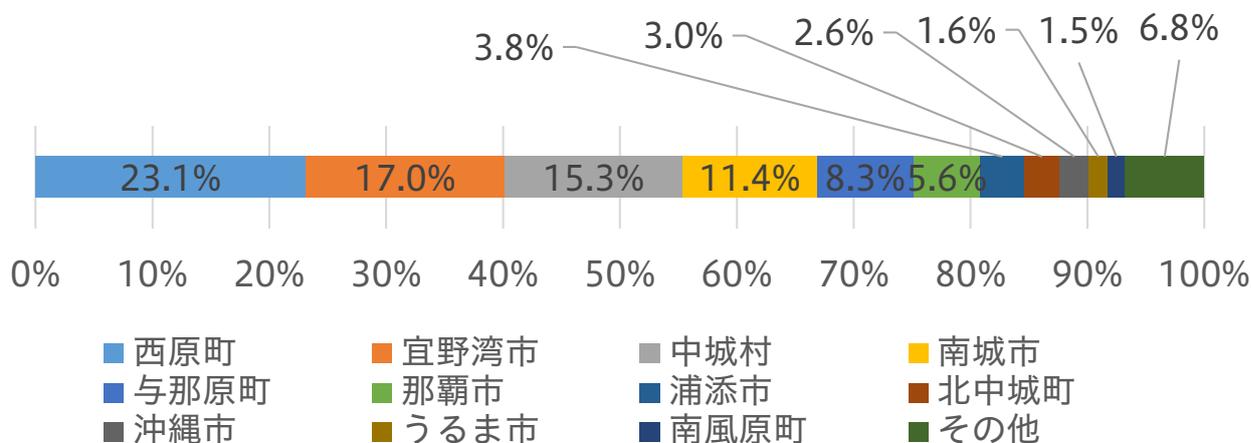
開院からの入院平均患者数推移



エリア別入院患者数 (延べ患者数)

地域	患者数
沖縄本島 (橋で接続されている島を含む)	8,837
離島	95
県外	93
その他	16
総合計	9,041

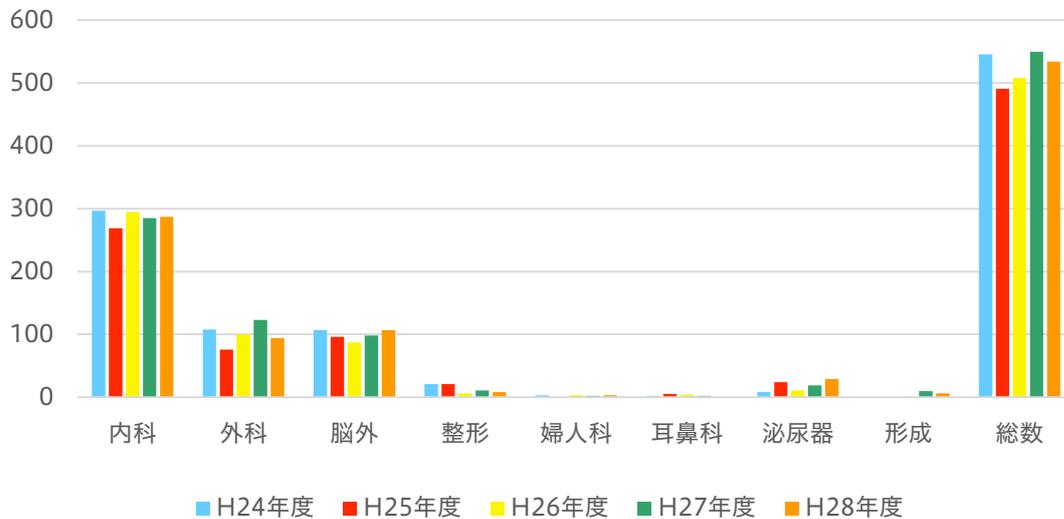
沖縄本島内 入院延べ患者構成比



ICU 患者統計

(データ作成 ICU 洲鎌)

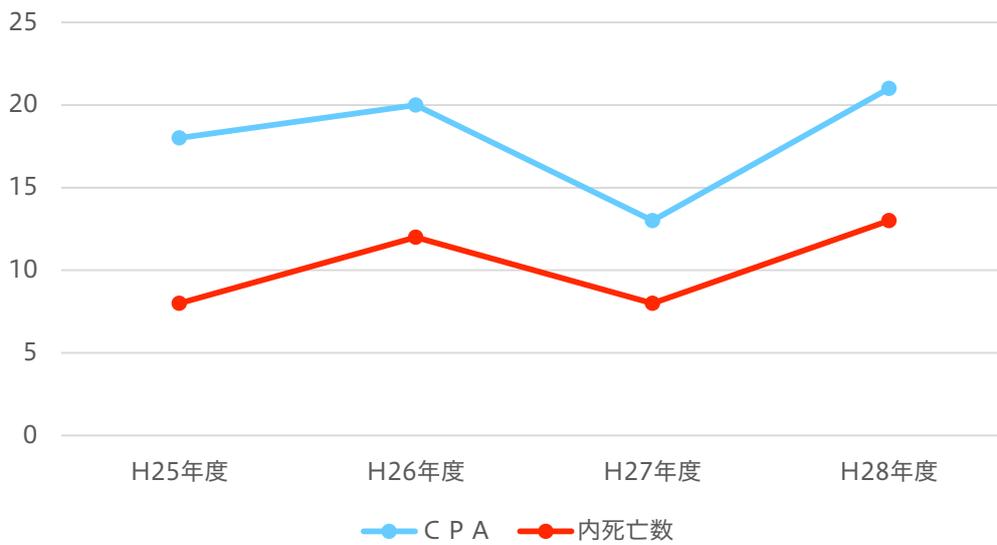
科別入院患者数



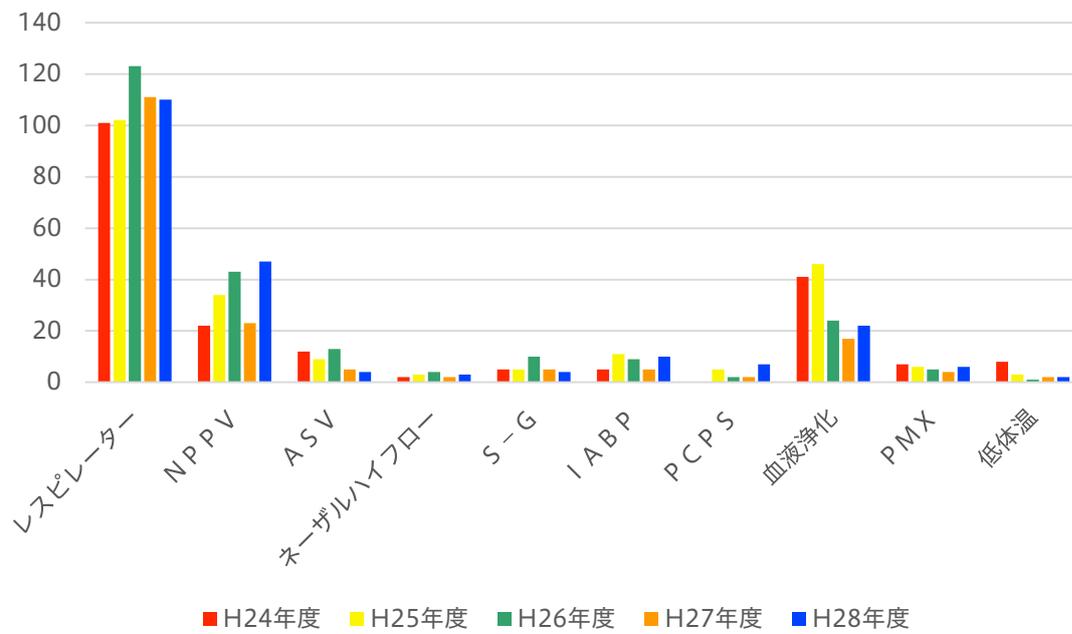
	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
内科	384	367	366	370	313	300	257	313	295	269	295	285	287
外科	324	318	319	362	306	302	175	122	102	76	100	123	94
脳神経外科	62	104	116	104	98	113	123	93	110	96	87	98	107
整形外科	100	83	103	102	142	64	24	11	20	21	6	11	8
産婦人科	74	86	80	52	65	27	17	5	3	0	3	2	3
耳鼻咽喉科	41	55	76	101	101	9	7	1	2	5	4	2	2
泌尿器科	12	13	5	10	7	22	15	12	14	24	11	19	29
形成外科											1	10	6
眼科	15	35	20	31	34	11	2	0	0	0	1		
総数	1,012	1,061	1,085	1,132	1,066	848	620	557	546	491	508	550	534

※収容のルール変更により ICU に収容された外科の患者数は減少傾向にあります。

CPA 件数（死亡数）動向



特殊治療の動向



退院患者疾患別（病態）分類

（データ作成：診療情報管理室 真栄平）

		内科	外科	泌尿器科	整形外科	形成外科	脳外科	眼科	耳鼻咽喉科	小児科	産科	婦人科	救急科	総計
I. 感染症および寄生虫症 (A 00- B 99)	男	63	7	3	0	0	1	0	0	59	0	0	3	136
	女	84	4	0	2	0	1	0	0	49	0	0	3	143
	計	147	11	3	2	0	2	0	0	108	0	0	6	279
II. 新生物 (C 00- D 48)	男	375	184	50	10	16	5	1	0	0	0	0	0	641
	女	181	174	4	7	17	2	1	0	0	1	69	0	456
	計	556	358	54	17	33	7	2	0	0	1	69	0	1,097
III. 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D 50- D 89)	男	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	女	27	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	30
	計	37	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	40
IV. 内分泌、栄養および代謝疾患 (E 00- E 90)	男	39	2	0	0	0	0	0	0	7	0	0	4	52
	女	54	3	0	0	1	0	0	0	3	0	0	1	62
	計	93	5	0	0	1	0	0	0	10	0	0	5	114
V. 精神および行動の障害 (F 00- F 99)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	計	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
VI. 神経系の疾患 (G 00- G 99)	男	50	3	1	5	1	9	0	0	0	0	0	0	69
	女	18	0	0	5	0	9	0	0	2	0	0	0	34
	計	68	3	1	10	1	18	0	0	2	0	0	0	103
VII. 眼及び付属器の疾患 (H 00- H 59)	男	0	0	0	0	5	0	209	0	1	0	0	0	215
	女	0	0	0	0	1	0	267	0	0	0	0	0	268
	計	0	0	0	0	6	0	476	0	1	0	0	0	483
VIII. 耳および乳様突起の疾患 (H 60- H 95)	男	4	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	2	15
	女	18	1	0	0	0	0	0	0	14	0	0	5	38
	計	22	1	0	0	0	0	0	0	23	0	0	7	53
IX. 循環器系の疾患 (I 00- I 99)	男	338	39	4	0	6	71	0	0	0	0	0	41	499
	女	217	32	0	0	15	49	0	0	0	0	0	32	345
	計	555	71	4	0	21	120	0	0	0	0	0	73	844
X. 呼吸器系の疾患 (J 00- J 99)	男	561	10	4	0	0	1	0	0	220	0	0	15	811
	女	463	2	2	1	0	0	0	0	184	2	0	23	677
	計	1024	12	6	1	0	1	0	0	404	2	0	38	1,488
XI. 消化器系の疾患 (K 00- K 93)	男	323	403	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	727
	女	270	250	1	0	1	0	0	0	3	0	1	0	526
	計	593	653	1	0	1	0	0	0	3	0	1	1	1,253
XII. 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	男	12	27	0	13	35	0	0	0	9	0	0	0	96
	女	27	24	0	10	28	0	0	0	9	0	1	1	100
	計	39	51	0	23	63	0	0	0	18	0	1	1	196
XIII. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	男	12	2	0	76	4	0	0	0	3	0	0	1	98
	女	8	5	0	100	6	0	0	0	3	0	0	0	122
	計	20	7	0	176	10	0	0	0	6	0	0	1	220
XIV. 腎尿路生殖系系の疾患 (N00-N99)	男	97	3	73	0	11	0	0	0	4	0	0	3	191
	女	206	3	88	0	4	1	0	0	5	1	69	3	380
	計	303	6	161	0	15	1	0	0	9	1	69	6	571
X V. 妊娠、分娩および産じょく<<褥>> (O00-O99)	女	0	1	0	0	1	0	0	0	0	401	0	0	403
	計	0	1	0	0	1	0	0	0	0	401	0	0	403
X VI. 周産期に発生した病態 (P00-P96)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	8

		内科	外科	泌尿器科	整形外科	形成外科	脳外科	眼科	耳鼻咽喉科	小児科	産科	婦人科	救急科	総計
X VII . 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	男	1	3	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	7
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	1	3	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	8
X VIII . 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
X IX . 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	男	40	36	5	262	31	49	2	0	72	0	0	2	499
	女	37	17	1	300	21	24	0	0	41	0	1	0	442
	計	77	53	6	562	52	73	2	0	113	0	1	2	941
XX I . 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 (Z00-Z99)	男	124	75	19	67	1	0	0	0	155	0	0	0	441
	女	97	52	8	49	5	0	0	0	161	0	11	0	383
	計	221	127	27	116	6	0	0	0	316	0	11	0	824
総計		3,758	1,363	263	907	212	223	480	-	1,026	405	152	142	8,931

医療の質 Quality Indicator (QI)

(データ作成：診療情報管理室 柳)

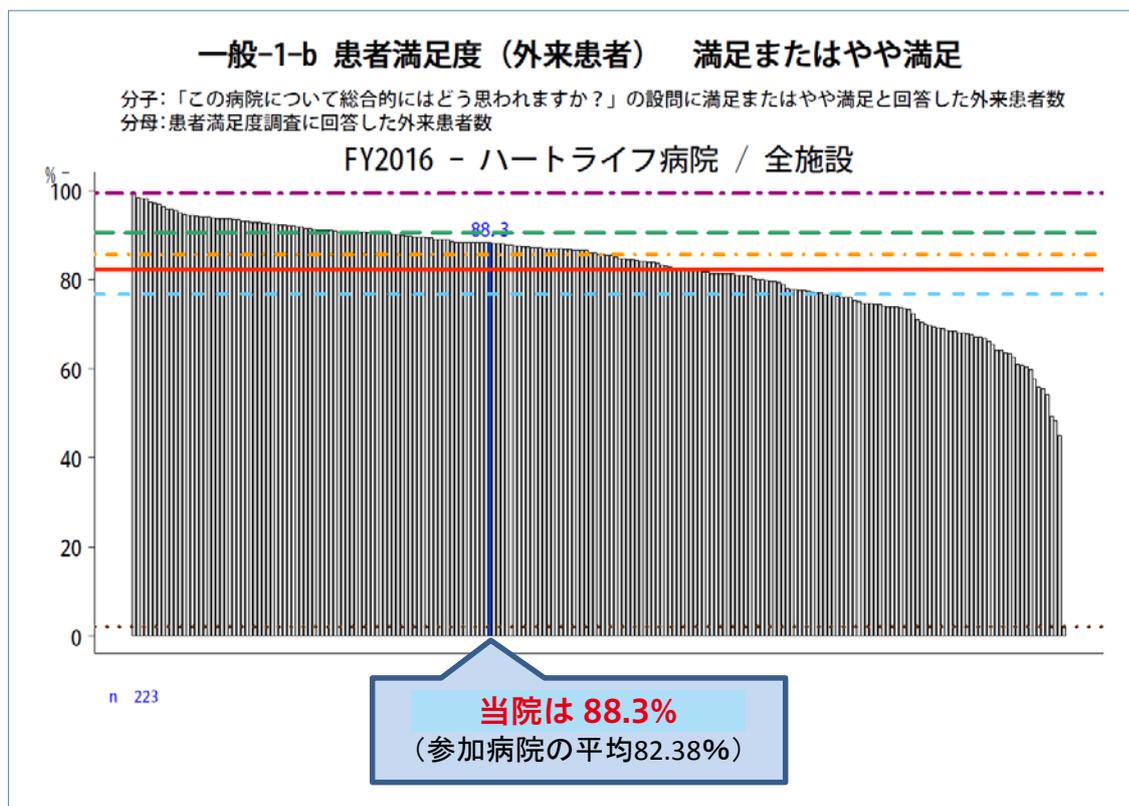
当院では、2013 年 4 月より日本病院会主催「QI プロジェクト」参加しています。このプロジェクトでは、日本病院会が指定する 32 の指標について、全国の参加病院 343 病院がデータを提出、ベンチマークすることで、自院の立ち位置を確認することが出来ます。これらの指標を観察・分析し常に医療の質の向上につとめています。これらの指標の一部をここで紹介します。

患者満足度調査

Q. この病院について総合的にはどう思われますか？

「不満 / やや不満 / どちらともいえない / やや満足 / 満足」の 5 段階評価をして頂き、満足またはやや満足とご回答頂いた外来患者の割合。

※外来調査期間：平成 28 年 11 月 22 日 ~23 日の 2 日間 回答者数：231 名



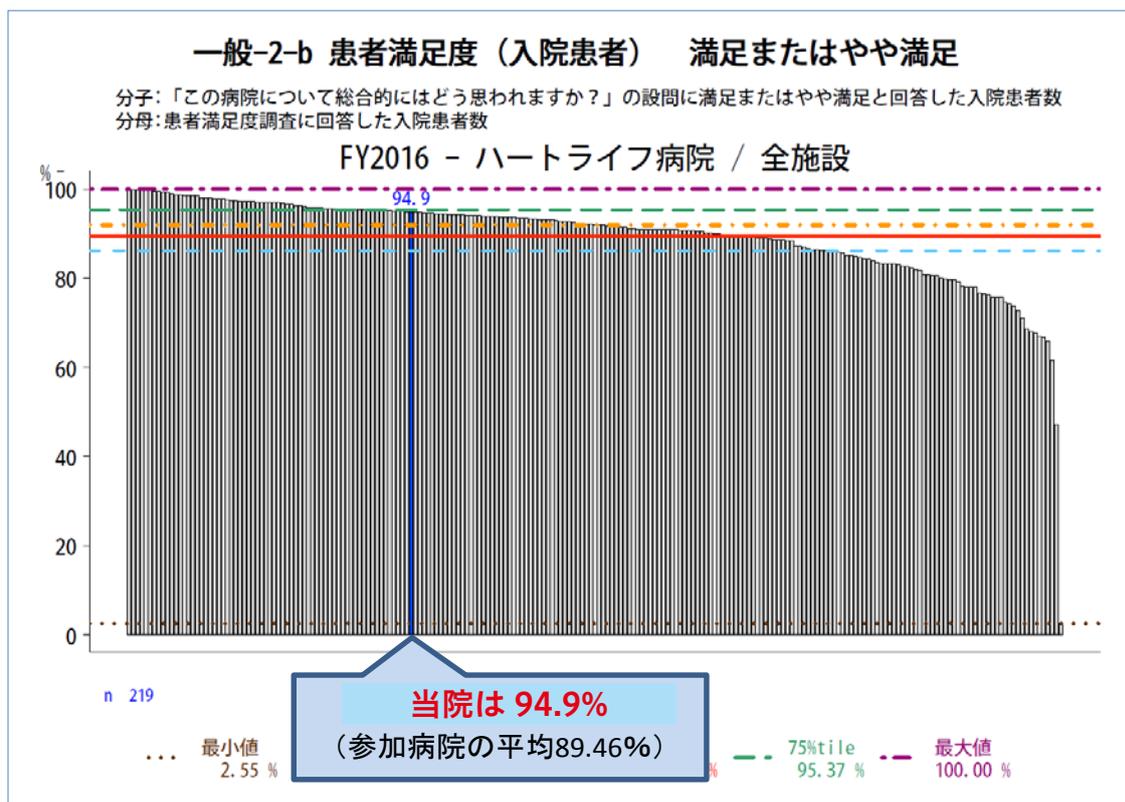
外来における患者満足度は、「満足のみ」、「満足+やや満足」共に増加しています。

	2013	2014	2015	2016
満足のみ	26.4%	34.3%	32.5%	36.8%
満足+やや満足	88.9%	90.9%	84.6%	88.3%
どちらともいえない	10.6%	8.7%	14.5%	10.0%
やや不満	0.5%	0.4%	0.9%	1.3%
不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%

Q. この病院について総合的にはどう思われますか？

「不満 / やや不満 / どちらともいえない / やや満足 / 満足」の5段階評価をして頂き、満足またはやや満足とご回答頂いた入院患者の割合。

※入院調査期間：平成28年11月21日～26日の6日間 回答者数：79名

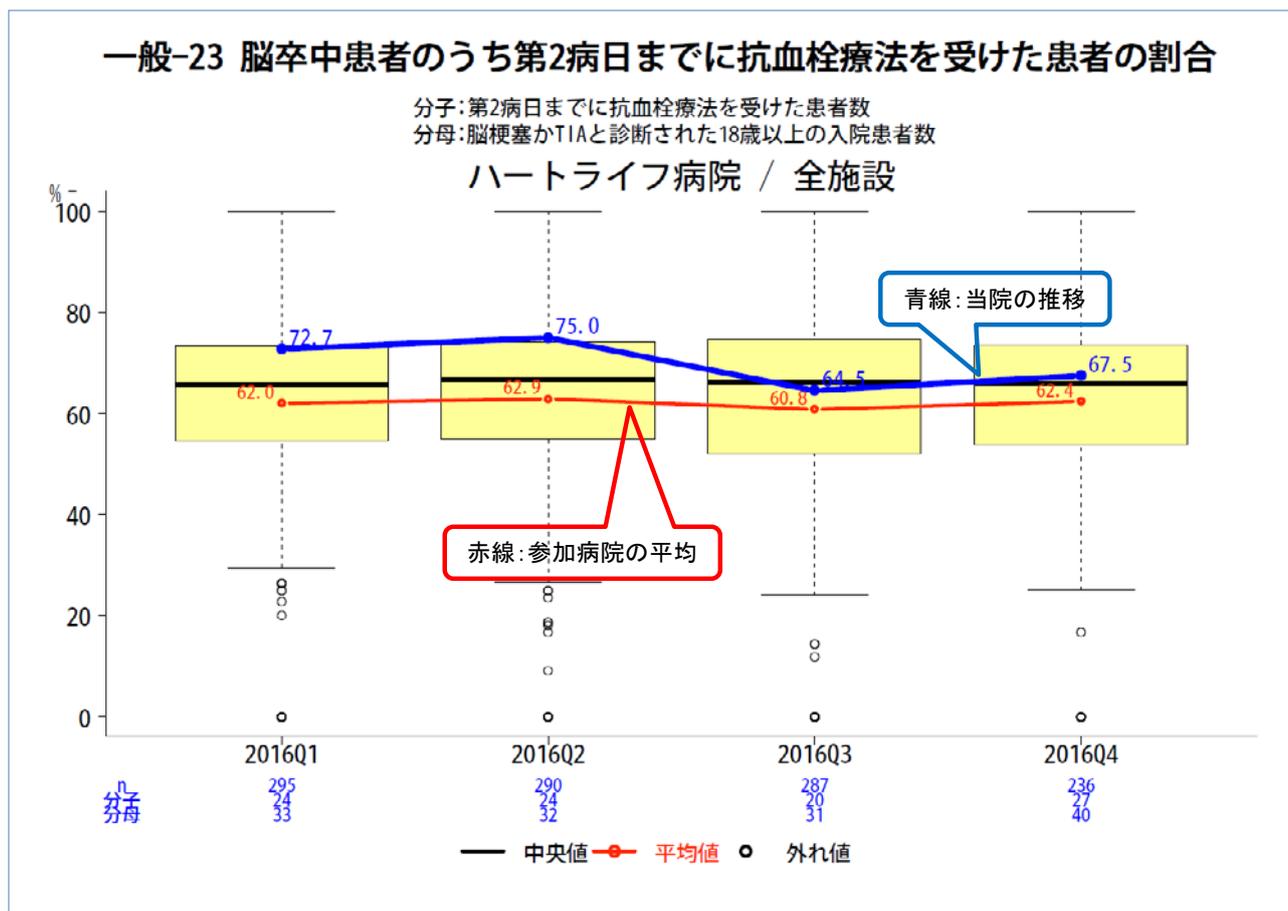


入院における患者満足度は、年々上昇傾向にあり、9割を超える高い満足度を頂いています。

	2013	2014	2015	2016
満足のみ	46.9%	44.1%	42.2%	46.8%
満足+やや満足	93.8%	90.6%	94.1%	94.9%
どちらともいえない	5.4%	9.4%	4.9%	5.1%
やや不満	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%
不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

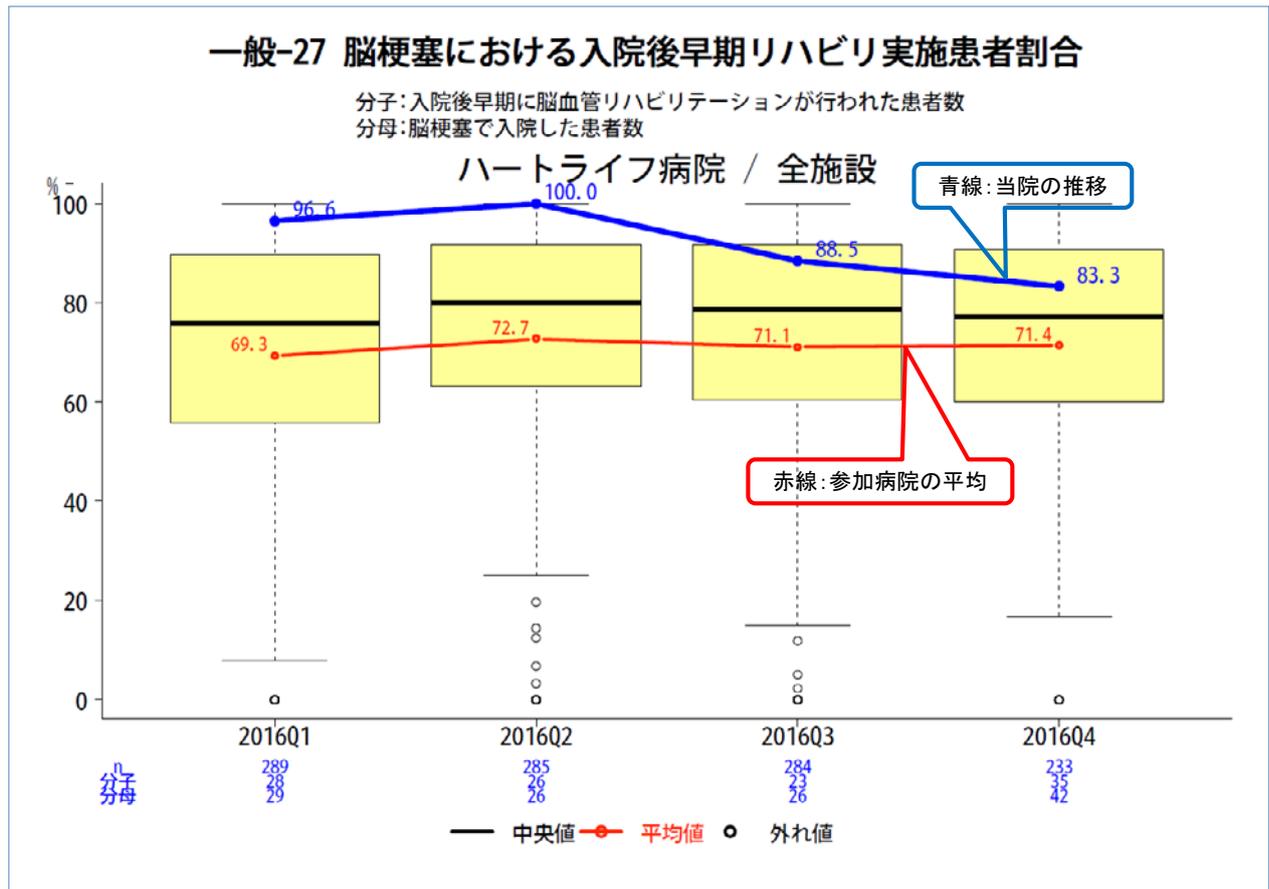
やや不満・不満は施設・設備などの老朽化等に伴うご意見が多くありました。そこで、新たに東館の増築を計画し、療養・診療環境等の改善を目指しています。次年度より快適に入院生活や外来診療を受けていただけるようになっております。

脳卒中患者のうち第 2 病日までに抗血栓療法を受けた患者の割合



「脳卒中患者のうち第 2 病日までに抗血栓療法を受けた患者の割合」は、QI プロジェクト参加病院の平均 61.9 に対し、当院は 69.9% と参加病院の平均を上回っていました。(診療情報管理室)

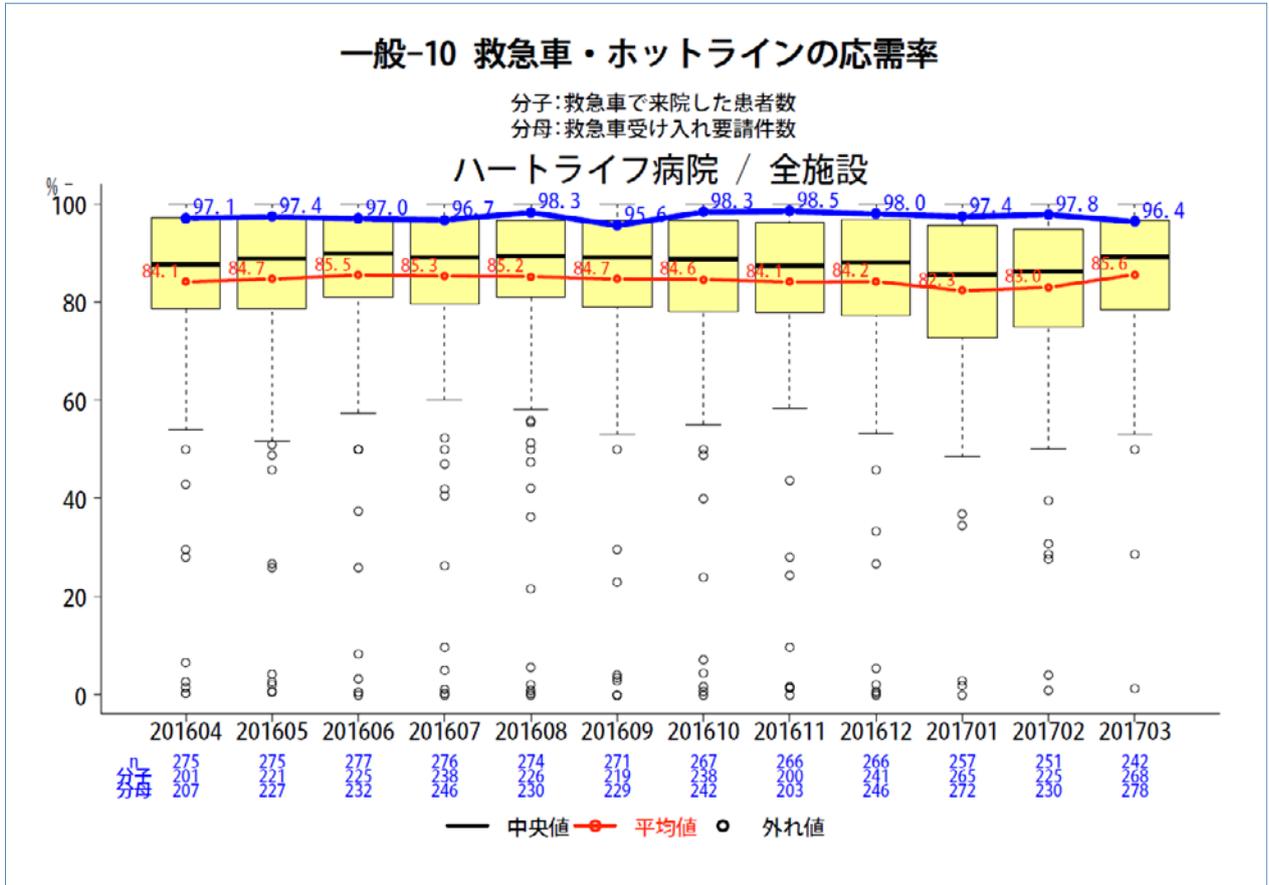
脳梗塞における入院後早期リハビリ実施患者の割合



「脳梗塞における入院後早期リハビリ実施患者の割合」は、QI プロジェクト参加病院の平均 71.1% に対し、当院は 91.1% と参加病院の平均を大きく上回っていました。(診療情報管理室)

救急車・ホットライン応需率

救急車・ホットライン応需率とは、救急車受入要請のうち何台を受け入れることができたかの割合を示しています。本指標の向上のために、救急センターをはじめ、病棟や各診療科、スタッフの協力が必要です。ハートライフ病院は本島中南部東海岸の中核病院の役割を担う地域医療支援病院で2次救急指定病院です。「救急車は断らない」を目標に積極的な受け入れに取り組み、地域の救急医療に貢献できるよう努めています。



救急車搬入台数は年々増加し、救急車・ホットラインの応需率は当院が97.4%で全国平均の84.5%を大きく上回っています。毎月断り症例の検討を行ない、応需率を上げるように努力しています。

地域医療支援病院認定 関連統計情報

紹介率・逆紹介率

平成 26 年度より計算式と認定基準が変更になりました。紹介率 60%かつ逆紹介率 30%から紹介率 65%かつ逆紹介率 40%という厳しい基準になりました。

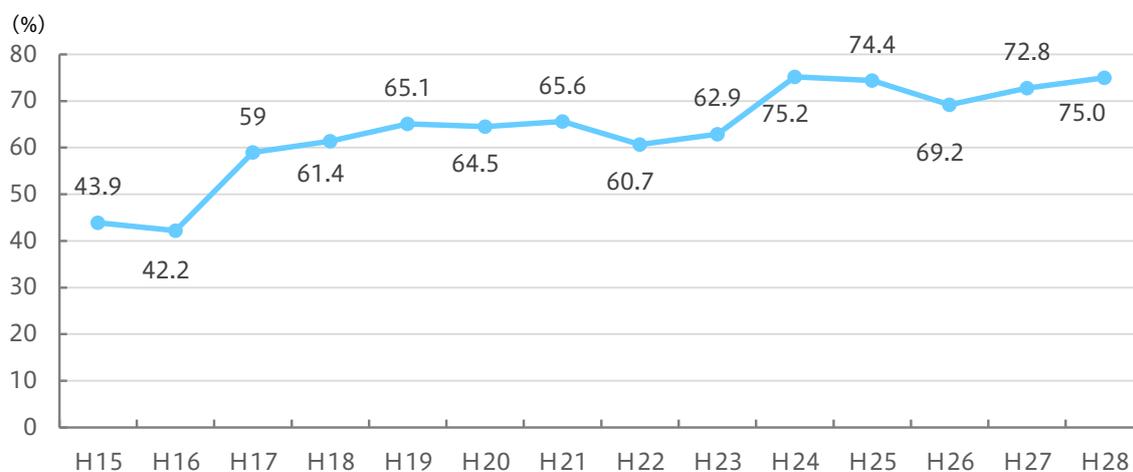
(データ作成 地域医療連携室 砂川)

紹介患者状況

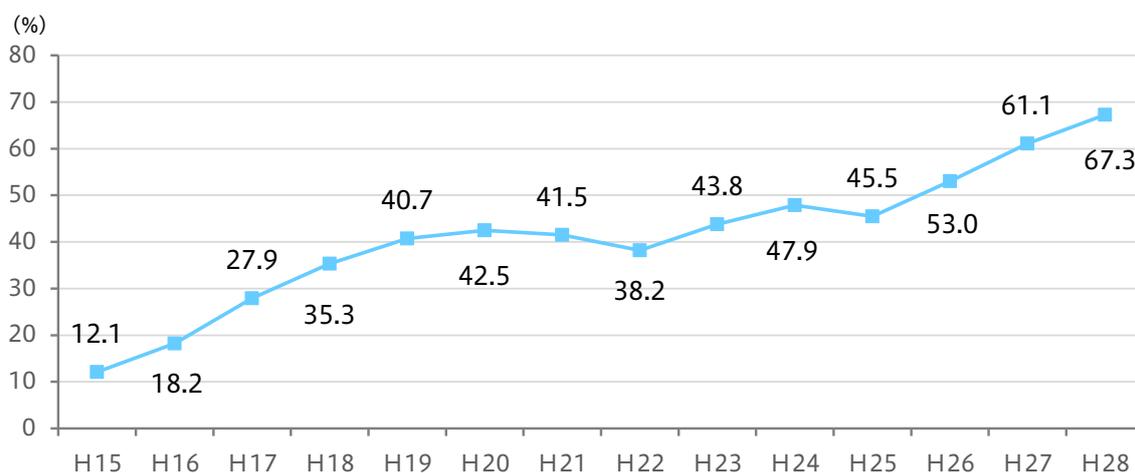
	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	患者数 (人)	月平均								
紹介患者数	6,345	529	6,931	578	7,591	633	8,280	690	8,596	716
緊急入院患者数	2,041	170	1,956	163						
初診患者数	17,254	1,438	18,641	1,553	18,509	1,542	17,791	1,483	18,157	1,513
救急初診患者数	6,874	573	7,431	619	7,700	642	6,512	543	6,761	563
初診救急入院患者数	803	67	738	62						
時間内初診救急搬送件数					485	40	613	51	623	52
逆紹介患者数	5,329	444	5,418	452	5,813	484	6,949	579	7,716	643
紹介率	75.2%		74.4%		69.2%		72.8%		75.0%	
逆紹介率	47.9%		45.5%		53.0%		61.1%		67.3%	

※ 1 平成 26 年度の認定基準の変更により「初診救急入院患者数」と「緊急入院患者数」の集計は行っていません。

地域医療支援病院紹介率の実績 (月平均紹介率 / 基準値 65% 目標値 71%)



地域医療支援病院逆紹介率の実績 (基準値 40% 目標値 55%)



共同利用

年度別 登録医状況

	登録医数	備考
平成 20 年 3 月	276	
平成 21 年 3 月	292	
平成 22 年 3 月	303	
平成 23 年 3 月	307	登録医療機関は 303
平成 24 年 3 月	304	登録医療機関は 300
平成 25 年 3 月	299	登録医療機関は 294
平成 26 年 3 月	297	登録医療機関は 290
平成 27 年 3 月	300	登録医療機関は 292
平成 28 年 3 月	322	登録医療機関は 313

平成 28 年度登録施設 診療圏内訳

医療圏	件数
北部医療圏	10
中部医療圏	101
南部医療圏	180
宮古医療圏	13
八重山医療圏	8
その他医療圏	1
合計	313

開放病床の共同利用状況（開放病床 22 床）

	延べ利用患者数	年間平均利用率
平成 22 年度	11,073	137.0%
平成 23 年度	9,300	115.0%
平成 24 年度	9,892	123.0%
平成 25 年度	8,557	106.6%

(データ作成 地域医療連携室 新垣)

	延べ利用患者数	年間平均利用率
平成 26 年度	8,950	115.1%
平成 27 年度	8,843	110.0%
平成 28 年度	10,521	131.2%

医療機器の共同利用状況

		MRI	CT	RI	超音波
平成 22 年度	総件数	3,417	11,073	293	12,876
	紹介件数	678	972	33	1,586
	利用率	19.8%	8.8%	11.3%	12.3%
平成 23 年度	総件数	3,452	11,775	333	14,533
	紹介件数	626	894	39	1,854
	利用率	18.1%	7.6%	11.7%	12.8%
平成 24 年度	総件数	3,551	11,322	341	12,942
	紹介件数	664	941	42	2,049
	利用率	18.6%	8.3%	12.5%	15.9%
平成 25 年度	総件数	3,964	11,547	307	13,094
	紹介件数	689	1,055	49	2,156
	利用率	17.4%	9.1%	16.0%	16.5%
平成 26 年度	総件数	3,823	12,256	317	13,263
	紹介件数	658	1,093	41	2,250
	利用率	17.2%	8.9%	12.9%	17.0%
平成 27 年度	総件数	3,758	12,147	286	12,884
	紹介件数	667	1,134	46	2,270
	利用率	17.9%	9.4%	15.8%	17.6%
平成 28 年度	総件数	3,780	12,230	202	11,677
	紹介件数	782	1,340	35	2,435
	利用率	20.7%	11.0%	17.3%	20.9%

研修

(データ作成 地域医療連携室 砂川)

地域医療従事者に対する検討会・勉強会実施状況

内訳	回数	症例件数	参加人数		
			院内	院外	合計
救急症例検討会	4	14	242	138	380
消化器系症例検討会	5	20	25	97	122
その他講習会・講演会等	2	4	13	22	35
合計	11	38	280	257	537

救急救命士実習実績（気管挿管：8名・薬剤投与：0名）

消防本部名	実習名	実習期間(開始-終了)	成功症例	備考
東部消防組合消防本部	気管挿管	2016年5月20日~7月12日	30例	(救気管)第28-001号
中城北中城消防本部	気管挿管	2016年7月12日~9月1日	30例	(救気管)第28-002号
比謝川行政事務組合ニライ消防本部	気管挿管	2016年9月2日~10月26日	30例	(救気管)第28-003号
東部消防組合消防本部	薬剤投与	2016年10月25日~10月31日	Bパート1例	(薬)第28-001号
東部消防組合消防本部	気管挿管	2016年10月28日~12月16日	30例	(救気管)第28-004号
中城北中城消防本部	薬剤投与	2016年12月12日~12月12日	Bパート1例	(薬)第28-002号
沖縄市消防本部	気管挿管	2016年12月19日~2017年2月8日	30例	(救気管)第28-005号
中城北中城消防本部	気管挿管	平成29年2月9日~3月31日	30例	(救気管)第28-006号

ハートライフ病院 DMAT

概要

DMATとは、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの急性期の現場で活動できる専門的な訓練を受け、通常診療が行えれば避けられた死（防ぎ得た災害死）を減らすため、できるだけ多くの人に根本治療を、そのためにできるだけ多くの人を適切な医療機関へ搬送するための安定化処置を施し、最大多数の最大幸福をめざして活動をする厚生労働省の認めた専門研修・訓練を受けた災害派遣医療チームです。

ハートライフ病院はこれまで、救急・災害医療面で多くの会議・協議会・実働訓練・学会、講習会等に参加し、実績を残してきましたが、なかなかDMAT 隊員養成研修の沖縄県の受講枠を得ることができず、DMAT 指定医療機関として災害急性期に活動することができませんでした。

地道な努力と辛抱強く申請を続け、平成26年にDMAT 隊員養成研修に5名の職員が受講することができ、正式にハートライフ病院がDMAT 指定医療機関となり、ハートライフ病院DMAT が設立されました。設立後も、各種訓練、講習会に参加しつつ、薬局・臨床工学科・管財課用度係・企画室・救急総合診療部・災害対策委員会と連携しながら、DMAT 派遣・災害医療の体制作りを進め、平成28年に起きた熊本地震では沖縄からの最先着隊として被災地に入り、活動をしてきました。

これからも引き続き、院内の各種委員会との連携を進め、DMAT 活動体制を更に前進させます。

メンバー構成

氏名	所属・役職	職種
三戸 正人	救急総合診療部副部長 兼 循環器内科 医長	医師 (内科系)
国吉 史雄	外科	医師 (外科系)
竹本 健太	救急外来 主任	看護師
兼本 愛美	救急外来 救急看護認定看護師	看護師
江口 まり子	ICU	看護師
安里 健二	事務部企画室 電算係	ロジスティクス (事務・調整役)
安里 直樹	ドクター専任 ER 業務調整員 (ER aide)	ロジスティクス (事務・調整役)
野原 剛	臨床工学科	ロジスティクス (事務・調整役) ※補助要員
砂川 直樹	事務部地域医療連携室 主任	ロジスティクス (事務・調整役) ※補助要員

活動報告

種別	名称・参加者
災害派遣	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年 熊本地震 (活動期間: 2016/4/16 ~ 2016/4/18・熊本県) 派遣メンバー: 三戸正人、国吉史雄、竹本健太、兼本愛美、安里健二
訓練	<ul style="list-style-type: none"> 美ら島レスキュー2016 (7月・沖縄県 陸上自衛隊那覇駐屯地) 参加者: 三戸正人、国吉史雄、竹本健太、兼本愛美、安里健二、野原剛 平成28年度 総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練 (8月・静岡県) 参加者: 三戸正人、国吉史雄、竹本健太、兼本愛美、安里健二 平成28年度 沖縄県総合防災訓練 (9月・沖縄県石垣市) 参加者: 三戸正人、国吉史雄、竹本健太、兼本愛美、安里健二、野原剛、安里直樹 平成28年度 航空機事故対処図上訓練 (9月・沖縄県那覇空港) 参加者: 兼本愛美、安里直樹 平成28年度 九州・沖縄ブロックDMAT 実働訓練 (11月・長崎県) 参加者: 三戸正人、兼本愛美、安里健二、安里直樹 平成28年度 第25回中部地区消防総合訓練 (1月・沖縄県浦添市) 参加者: 三戸正人、国吉史雄、兼本愛美、江口まり子、安里健二、野原剛、安里直樹 大型旅客船事故対策訓練 (3月・沖縄県那覇市) 参加者: 兼本愛美、江口まり子、安里健二、野原剛、安里直樹
研修	<ul style="list-style-type: none"> 第4回 日本災害医療ロジスティクス研修 (8月・岩手県) 参加者: 砂川直樹 統括DMAT 研修 (9月・東京都) 参加者: 三戸正人 西第8回 DMAT 隊員養成研修 (2月・兵庫県) 参加者: 江口まり子、安里直樹

種別	名称・参加者
会議	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年 熊本地震に係る医療従事者の派遣に関する報告会 平成 28 年度 沖縄県総合防災訓練全体会議 平成 28 年度 沖縄県総合防災訓練医療部会 那覇空港緊急計画連絡協議会 DMAT 連絡会議
事務局活動	<ul style="list-style-type: none"> ハートライフ DMAT 委員会 (DMAT 隊員、企画室、臨床工学科、管財課用度)

2016/04/16～4/18 (熊本県)
熊本地震おける災害派遣



2016/07/21
美ら島レスキュー2016



2016/08/06 (静岡県)
大規模地震時医療活動訓練



2016/09/03 (石垣市)
沖縄県総合防災訓練



2016/11/05 (長崎県)
九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練



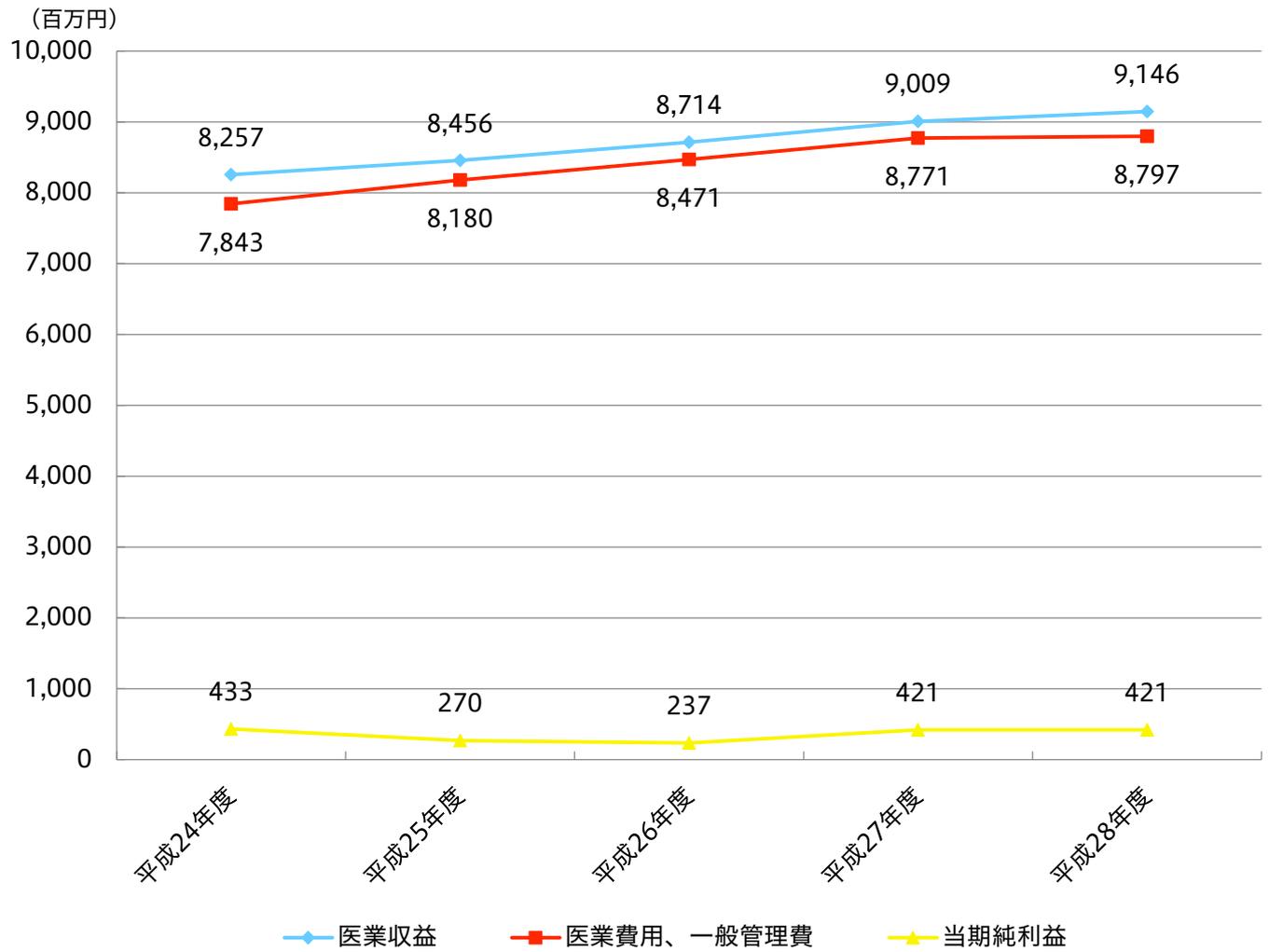
2017/01/20 (浦添市)
中部地区消防総合訓練



2017/03/10 (那覇市)
大型旅客船事故対策訓練



社会医療法人かりゆし会 財務状況推移



社会医療法人かりゆし会 平成 28 年度の活動実績

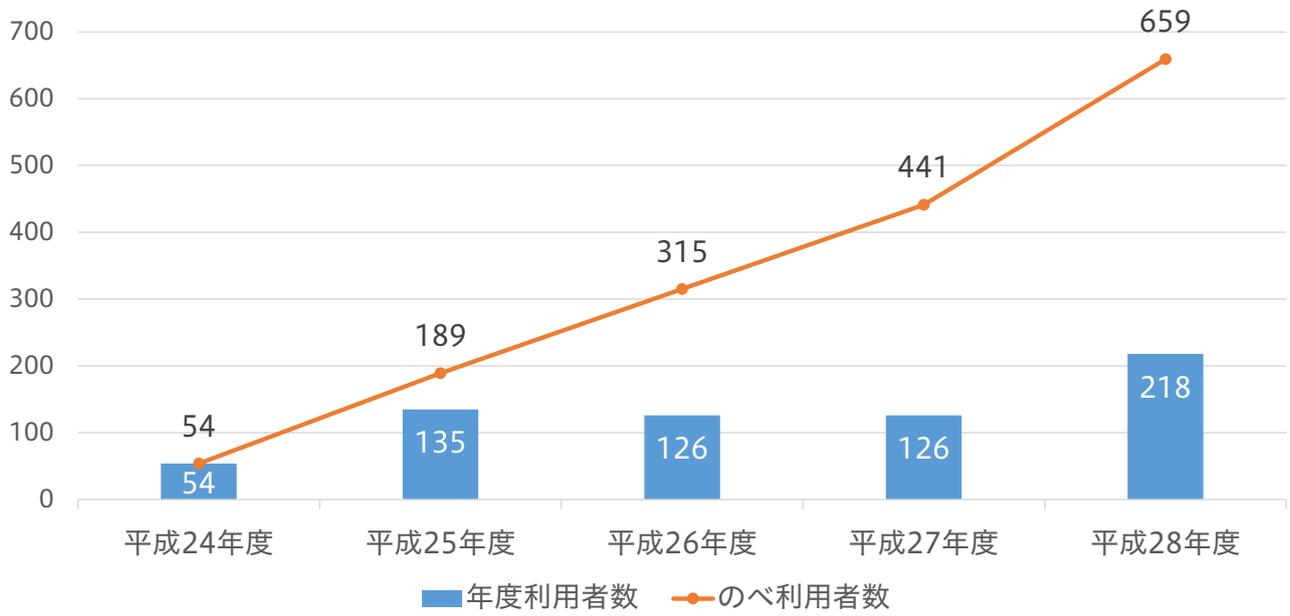
(データ作成 総務課 吉川)

日付	名称
4月1日	入職式・オリエンテーション
4月8日	【講演会】病院の差は職員の差 講師：福井県済生会病院 院長 登谷 大修 先生
4月16日	熊本地震へのDMAT派遣
4月20日	救急症例検討会
4月22日	インターネット講演会 精神科リエゾンチームの取り組み
4月25日	ハートライフ病院 慰霊祭
4月27日	【講演会】腰痛革命 講師：東京大学附属病院 22 世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ & マネジメント講座長、特任准教授 松平 浩 先生
4月28日	【講演会】医療事故調査制度について 講師：名古屋大学医学部附属病院 副院長 医療の質・安全管理室 教授 長尾 能雅 先生
5月15日	全島縦断駅伝
5月18日	感染対策講演会
6月7日	ハートライフ病院 平成27年度科別実績報告会 一日目
6月8日	ハートライフ病院 平成27年度科別実績報告会 二日目
6月15日	第1回ハートライフ病院 院内携帯電話使用基準説明会
6月17日	「ハートライフ」を役務区分第44類で商標登録
6月23日	当法人の理事長 安里 哲好が沖縄県医師会会長に就任
6月27日	第2回 ハートライフ病院 院内携帯電話使用基準説明会
7月6日	第3回クリニカルパス大会 工夫・苦労した点あれこれ～工夫すればここまでつかえる～ <特別講演> クリニカル検討会の活動 豊見城中央病院パス担当師長 兼島 貴乃 先生
7月7日	【講演会】攻めの医療で救急救命に挑む 講師：公立豊岡病院但馬救急救命センター センター長 小林 誠人 先生
7月14日	卓球大会
7月14日	ドクターカー納車式
7月22日	救急症例検討会
7月30日	救急フェア
8月4日	ハートライフ病院 総合防災訓練
8月12日	【講演会】糖尿病診療 Now and Future ～ beyond the BG control ～ 講師：福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 准教授 野見山 崇 先生
8月22日	ハートライフ病院 開院 28 周年
9月2日	【講演会】患者さんに学ぶ 出会いを大切に 講師：国立病院機構沖縄病院名誉院長 介護老人保健施設「あけみおの里」施設長 石川 清司 先生
9月4日	ハートライフ地域包括ケアセンター 家族交流会
9月8日	【講演会】航空業界における安全教育的現状 講師：JTA パイロット 佐藤 栄作 先生
9月18日	乳がん患者会
9月21日	デイサービスはーとらいふ 敬老会
9月23日	【講演会】急性期病院における業務集中化と職種別役割分担の取り組み ～メディカルサポートセンター（入院支援センター）の価値と効果～ 講師：松本 武浩 先生 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療情報学 准教授 長崎大学病院 医療情報部 副部長
9月29日	ハートライフ病院地域医療連携懇談会
9月30日	【講演会】皮膚の再生医療 講師：聖マリアンナ大学形成外科名誉教授 熊谷 憲夫 先生
10月8日	平成28年度 役職者研修会
10月13日	院内研究発表会 事務部予選
10月17日	【講演会】形成外科における様々な皮膚再建法 講師：東京女子医科大学 形成外科 主任教授 櫻井 裕之 先生
10月20日	【講演会】原因不明の発熱へのアプローチ 講師：沖縄県立中部病院 感染症内科 成田 雅 先生
10月20日	ボランティア民謡講演会 うるま民謡愛好会・内間 安雄 民謡研究所顧問 内間 安雄 氏
10月21日	救急症例検討会
10月25日	JMAT熊本派遣報告会
10月26日	院内研究発表会 看護部予選
10月31日	かりゆし会 ソフトバレー大会
11月4日	【講演会】ドクターカー 8 年 8000 件 講師：八戸市民病院内の救命救急センター センター所長 今 明秀 先生
11月10日	はーとらいふ保育園 安全祈願祭

日付	名称
11月10日	はーとらいふ保育園入園説明会
11月12日	役職者研修会 講師：株式会社インテリジェンス・アンリミテッド代表取締役 藤本 ゆかり 先生
11月17日	消化器症例検討会
11月18日	院内研究発表会 本選
11月25日	新型インフルエンザ対応訓練
11月26日	第1回 ハートライフ病院 市民公開講座「乳がんなんて怖くない」 乳がん看護認定看護師 砂川 克子
11月28日	個人情報保護法伝達講習会
12月2日	ハートライフ地域包括ケアセンター消防訓練
12月8日	【講演会】胆膵内視鏡診療の最前線 講師：埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 教授 良沢 昭銘 先生
12月16日	認定看護師活動報告会
12月17日	第2回 ハートライフ病院 市民公開講座「大腸がんで死なないために～予防と早期発見が大切～」 外科部長 宮平 工
12月27日	デイサービスはーとらいふ 忘年会
12月30日	平成28年納会
1月6日	新春もちつき大会
1月13日	【講演会】運動器エコーのススメ 講師：城東整形外科 診療部長 皆川 洋至 先生
1月14日	【講演会】運動器エコーのススメ(二日目/専門医対象) 講師：城東整形外科 診療部長 皆川 洋至 先生
1月25日	救急症例検討会
1月28日	第3回 ハートライフ病院 市民公開講座「MRI 検査で何が分かるの？」 検査科副技師長 斎藤 辰好
2月2日	消化器症例検討会
2月3日	【講演会】クリーンコロんとコールドポリペクトミー 講師：昭和伊南総合病院 内科診療部長・消化器病センター長 堀内 朗 先生
2月24日	【講演会】2016年度診療報酬制度改定に対するDPC対応と今後の予測 講師：松阪市民病院 総合企画室 副室長・診療部経営担当 世古口 務 先生
2月25日	第4回 ハートライフ病院 市民公開講座 「心不全になったらどうすればいいの？」 慢性心不全認定看護師 島袋 すがこ
3月1日	許可病床数300床から308床へ増床
3月3日	【講演会】職員ニーズ対応は病院づくりの基盤～当院の実践例と課題～ 講師：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 代表理事副理事長 相田 俊夫 先生
3月14日	地域災害拠点病院指定
3月23日	初期臨床研修医第2期生修了式
3月23日	初期臨床研修医第2期生修了パーティ
3月24日	【講演会】なぜ今、学校でがん教育が必要なのか？ 講師：東京女子医科大学 がんセンター センター長 林 和彦 先生
3月24日	【講演会】急性期病院における精神症状のマネジメント せん妄を中心に 講師：東京女子医科大学 医学部精神医学講座 教授・講座主任 西村 勝治 先生
3月25日	第5回 ハートライフ病院 市民公開講座 「痛くないお産」 産婦人科医医師 上原 博香

かりゆし会病児保育室 利用実績推移

かりゆし会では職員の働きやすさ実現のために平成 24 年 8 月より、ハートライフクリニック内に職員向け病児保育室を設置しています。



部署別業務実績

医 局

部門紹介

平成 27 年度の医局は病院の中心部署として頑張ってきました。その構成は内科 21 名（内科初診担当 1 名、呼吸器 3 名、循環器 4 名、消化器 7 名、血液 5 名、腎臓内科 1 名）、外科 10 名、麻酔科 3 名、整形外科 6 名、産婦人科 4 名、小児科 3 名、脳神経外科 2 名、泌尿器科 2 名、眼科 1 名、形成外科 2 名、放射線科 3 名、救急科 2 名（1 名は兼任）、心療内科 1 名、人間ドック 3 名、人工透析内科 1 名、初期研修医 10 名の計 74 名となっていました。

年間 142,344 名の外来患者、9,041 名の入院患者、2,751 件の救急搬送患者の診察をしています。また、初期研修医 10 名、後期研修医 4 名の指導に加え、年間 60 名程のクリニカルクラークシップ（琉球大学医学部生）に対応しています。

医師数（常勤）

（平成 28 年 4 月現在）

	内科	外科	救急科	小児科	産婦人科	整形外科	脳神経外科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	眼科	放射線科	心療内科	麻酔科	予防医学	人工透析	形成外科	病理診断科	合計
全医師数 (初期研修医除く)	21	10	2	3	4	6	2	2	0	1	3	1	3	3	1	2	0	64
うち各種学会認定・専門医数	14	8	1	3	2	2	2	2	0	1	1	1	2	0	1	1	0	41
うち臨床研修指導医数	16	7	2	3	2	2	2	2	0	0	1	1	2	1	1	1	0	43
後期専門研修医	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4
初期研修医	1 年目：5 名 2 年目：5 名																	10

医局方針

1. 患者の安全・QOL を第一とし、インフォームドコンセントによる良好な信頼関係を確立する。
2. 自己の専門性の確立のため学会活動など自己研鑽に励み、専門性の提供によりチーム医療を行う。
3. 地域の医療機関、保健、福祉施設との連携を積極的に行う。
4. 他部署との交流・院内行事への参加を積極的に行う。
5. 健全な医療経営の意識を持ち、院内各会議に積極的に参加する。

活動実績

Journal Club (抄読会 / 毎週水曜日 8:00 ~ 8:30)

年	月日	担当者	演題名
2016年 (H28)	4月6日	屋比久博己	偽痛風発作
	4月13日	松田英敏	ACL 損傷の治療
	4月20日	親川 格	新しい角膜内皮移植治療の導入
	4月27日	仲本 学	消化管出血に対する内視鏡的止血術
	5月11日	東盛貴光	下肢難治性皮膚潰瘍と形成外科～「足」はじめました～
	5月18日	秋元芳典	肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症
	5月25日	折田 均	消化器内視鏡検査時の抗血栓薬の取り扱い～当院における今後の対応について～
	6月1日	喜久本 藍	水腎症をきたした完全子宮脱の1例
	6月8日	菅谷明子	当院の産業保健体制について
	6月15日	喜屋武秀文	デクスメトミジン (DEX) による鎮静・鎮痛
	6月22日	仲村義一	仮性動脈瘤に対するトロンビン注入療法
	6月29日	松元 悟	オリンピックについて
	7月6日	山田義貴	NPPV(Non-invasive Positive Pressure Ventilation) 非侵襲的陽圧換気
	7月13日	崎原徹裕	食物アレルギー発症予防に関する最新の知見
	7月20日	新垣珠代	気管・気管支結核
	7月27日	友寄毅昭	HTLV-1 キャリア
	8月3日	喜久山 明	前立腺癌に対する外照射放射線治療
	8月10日	島袋 泰	周術期の低体温
	8月17日	比嘉浩太郎	軟骨基質高分子を複合化したダブルネットワークゲルの生体材料特性評価：軟骨再生誘導材料としての可能性
	8月24日	高良 誠	TACE 最近の工夫
	8月31日	奥島憲彦	食道アカラシアに対する新しい治療法 POEM について
	9月7日	国島知子	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2015
	9月14日	菅野善一郎	前頭側頭型認知症
	9月21日	宮城 敬	Hyperleukocytosis 白血球数著増
	9月28日	久場良也	Life is Why? 心肺蘇生法 (CPR) 50 周年
	10月12日	銘苅 正	Damage Control Resuscitation DCR 外傷時の大量出血にどう対応するか
	10月19日	花城直次	門脈ガス血症
	10月26日	渡慶次学	上腕骨顆上骨折
	11月2日	東江ゆりか	神経内分泌腫瘍 (NET) の画像診断
	11月9日	佐久川 廣	アルコール性肝障害について
	11月16日	武田 理	子宮内膜症と癌化
	11月30日	末吉健次	PRES とは～ Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome ～
12月7日	張 同輝	REPORT OF MY VERY FIRST VISIT OF MYANMAR	
12月14日	上原博香	お産と歴史	
12月21日	嘉手苅由梨	オピオイドによる痒み	
12月28日	仲吉博亮	カゼと漢方	
2017年 (H29)	1月4日	上笹 航	脳梗塞再開通治療の新展開
	1月11日	溝淵貴俊	鼠咬傷
	1月18日	尾下陽大	腸管気腫症の2例
	1月25日	柴田大介	急性肝不全の診療～ある劇症肝炎症例からの考察～
	2月1日	栗原沙織	今日から使える外用薬の知識
	2月8日	大瀧昌代	鉄剤不応の鉄欠乏性貧血
	2月15日	梁 英樹	脾外科この1年について
	2月22日	太田沙也加	1年間を振り返って
	3月1日	大山恵理子	輸血について調べてみました
	3月9日	仲本 寛	たこつぼ型心筋症
	3月15日	仲本正哉	喉頭浮腫 (アナフィラキシー) & 輪状甲状靭帯切開・穿刺法
	3月22日	林 絹子	Urosepsis についての検討
	3月29日	宮崎優樹	糞線虫症

院内 CPC (臨床病理検討会)

年月日	演題名	発表者	担当者
2016 年 8 月 26 日	胆管細胞癌と胆嚢癌肝転移の鑑別に苦慮した 1 例	金城優美	佐久川 廣、青山 肇、宮城 純
2016 年 12 月 6 日	悪性胸膜中皮腫の経過中に自宅で心肺停止した一例	涌川 林	普天間光彦、青山 肇、宮城 純
2017 年 1 月 30 日	腹腔内リンパ筋腫大を伴い、急速な転帰の呼吸不全で死亡した一例	石川瀬里	友寄毅昭、松本 裕文、宮城 純
2017 年 2 月 28 日	原因不明の肝硬変の一例	太田沙也加	佐久川 廣、仲地里織、宮城 純
2017 年 3 月 21 日	急激な転帰をとった若年者慢性骨髄性白血病の 1 例	大山恵理子	友寄毅昭、仲地里織、宮城 純

研修医向け教育

研修医向けに、毎週下表のスケジュールで各種ミニレクチャーを開催しています。また、外部講師を招聘して講習会を行っています。

	時間・内容	時間・内容
月曜日	8:00 ~ 8:15 ミニ救急症例検討会	
火曜日	8:00 ~ 8:15 ミニ救急症例検討会	8:15 ~ 8:45 画像診断レクチャー
水曜日	8:00 ~ 8:15 ミニ救急症例検討会	8:15 ~ 8:45 Journal Clab (全医師対象)
木曜日	8:00 ~ 8:15 ミニ救急症例検討会	8:15 ~ 8:45 基礎的手技&ケースカンファレンス
金曜日	8:00 ~ 8:15 ミニ救急症例検討会	8:15 ~ 8:45 基礎研修

画像診断ミニレクチャー

(毎週火曜日 午前 8:15 ~ 8:45 医局にて)

呼吸器内科					
胸写	正常	気胸	肺炎	腫瘍	胸水
日付	4 月 12 日	4 月 19 日	4 月 26 日	5 月 10 日	5 月 17 日
担当医	普天間光彦	普天間光彦	普天間光彦	普天間光彦	普天間光彦
循環器					
心電図	正常	徐脈性不整脈	頻脈性不整脈	虚血性心疾患	房室ブロック
日付	5 月 24 日	5 月 31 日	6 月 7 日	6 月 14 日	6 月 21 日
担当医	三戸正人	三戸正人	三戸正人	三戸正人	三戸正人
外科					
腹部画像	正常	腹部外傷	肝・胆のう疾患	脾疾患	腸管
日付	6 月 28 日	7 月 5 日	7 月 12 日	7 月 19 日	7 月 26 日
担当医	西原実	西原実	西原実	西原実	西原実
整形外科					
骨単純(骨折・脱臼)	上肢	下肢	大腿骨	椎体	骨盤
日付	9 月 6 日	9 月 13 日	9 月 20 日	9 月 27 日	10 月 4 日
担当医	渡慶次学	松田英敏	屋比久博己	渡慶次学	渡慶次学
放射線科					
診断学	診断学	診断学	診断学	診断学	診断学
日付	10 月 11 日	10 月 18 日	10 月 25 日	11 月 1 日	11 月 8 日
担当医	高良誠	高良誠	高良誠	高良誠	高良誠
脳神経外科					
頭部画像	正常	脳出血	SAH・硬膜下出血	脳梗塞	脳腫瘍
日付	11 月 15 日	11 月 22 日	11 月 29 日	12 月 6 日	12 月 13 日
担当医	末吉健次	上笹航	上笹航	上笹航	末吉健次
呼吸器内科					
胸部CT	正常	気胸	肺炎	肺腫瘍	縦隔腫瘍
日付	1 月 10 日	1 月 17 日	1 月 24 日	1 月 31 日	2 月 7 日
担当医	新垣珠代	新垣珠代	新垣珠代	新垣珠代	新垣珠代
放射線科					
シンチ	骨シンチ	Gaシンチ	心筋シンチ	出血シンチ	肺血流シンチ
日付	2 月 14 日	2 月 21 日	2 月 28 日	3 月 7 日	3 月 14 日
担当医	高良誠	高良誠	高良誠	高良誠	高良誠

基礎的手技（毎週木曜日 午前 8:15 ～ 8:45 医局にて）

内容	日付	担当	講師・担当医
Common disease	2016年4月14日	研修医	牟田宏樹
Common disease	2016年4月21日	研修医	山田義貴
熱中症・低体温	2016年4月28日	研修医	金城優美
高血糖緊急症・低血糖	2016年5月12日	研修医	湧川林
急性呼吸不全 ALI/ARDS	2016年5月19日	研修医	山田義貴
喘息発作	2016年5月26日	研修医	石川瀬里
高血圧緊急症	2016年6月2日	研修医	湧川林
Medical Control について	2016年6月9日	救急	銘苅正
肺血栓塞栓症	2016年6月16日	人工透析内科	菅谷明子
心電図の解釈とその処置	2016年6月23日	循環器	三戸正人
IVHの挿入方法	2016年6月30日	麻酔科	釜野武志
急性腹症	2016年7月7日	人工透析内科	菅谷明子
導尿・尿道カテーテルの挿入方法	2016年7月14日	泌尿器科	嘉川春生
消毒と縫合	2016年7月21日	外科	国吉史雄
外来における緊急止血方法	2016年7月28日	外科	国吉史雄
グラム染色の検鏡所見	2016年8月4日	呼吸器	仲吉博亮
腰椎穿刺の実際	2016年9月1日	麻酔科	嘉手苅由梨
形成外科的縫合①	2016年9月8日	形成外科	東盛貴光
輸血の適応	2016年9月15日	血液内科	宮城敬
救急外来における鼻出血止血方法	2016年9月29日	人工透析内科	菅谷明子
経鼻・経口胃管・イレウスチューブ挿入方法と胃洗浄	2016年10月6日	外科	阿嘉裕之
耳鏡の見方と異物除去（鼻腔・耳腔・咽頭・気管）	2016年10月13日	人工透析内科	菅谷明子
骨折と副木固定	2016年10月20日	整形外科	比嘉浩太郎
直腸診・肛門鏡の取り扱い	2016年10月27日	外科	阿嘉裕之
機械的人工呼吸方法	2016年11月10日	呼吸器	普天間光彦
動脈ラインのとり方と圧測定の方法・中心静脈圧の測定方法	2016年11月17日	麻酔科	釜野武志
形成外科的縫合②	2016年11月24日	形成外科	東盛貴光
形成外科的縫合③	2016年12月1日	形成外科	東盛貴光
骨髄穿刺および生検方法	2016年12月15日	血液内科	狩俣かおり
眼底の見方とその所見	2016年12月22日	眼科	親川格
緊急ペースメーカー挿入と設定の仕方	2017年1月12日	循環器	三戸正人
腹腔臓器破裂・損傷	2017年1月19日	外科	花城直次
緊急透析の判断と適応	2017年1月26日	人工透析内科	菅谷明子
胸腔穿刺とトロッカーカテーテルの挿入方法	2017年2月2日	呼吸器	普天間光彦
切開とドレナージ	2017年2月9日	外科	尾下陽大
気管切開法と輪状甲状間膜穿刺法	2017年2月16日	救急	銘苅正
眼内異物と眼外傷	2017年2月23日	眼科	親川格
内視鏡（GF・CF）の適応とその前処置（緊急内視鏡）	2017年3月2日	消化器	仲本学
スワガツカテーテルの適応とその解釈	2017年3月9日	循環器	三戸正人
気管支鏡の適応とその前処置	2017年3月16日	呼吸器	新垣珠代

ケースカンファレンス（毎週金曜日 午前 8:15 ～ 8:45 医局にて）

内容	日付	担当	講師・担当医
Common disease	2016年4月15日	研修医	金城優美
Common disease	2016年4月22日	研修医	金城優美
アナフィラキシーショック	2016年5月6日	研修医	山田義貴
敗血症	2016年5月13日	研修医	牟田宏樹
抗生剤の使い方	2016年5月20日	呼吸器	仲吉博亮
急性心不全	2016年5月27日	研修医	石川瀬里
徐脈・頻脈	2016年6月3日	研修医	湧川林
吐血・下血	2016年6月10日	研修医	石川瀬里
急性冠症候群	2016年6月17日	研修医	牟田宏樹
急性中毒	2016年6月24日	人工透析内科	菅谷明子

内容	日付	担当	講師・担当医
頭痛	2016 年 7 月 1 日	脳外科	末吉健次
気胸	2016 年 7 月 8 日	呼吸器	新垣珠代
脊髄損傷について	2016 年 7 月 15 日	整形外科	比嘉浩太郎
裂傷・刺傷・挫創	2016 年 7 月 22 日	外科	尾下陽大
アレルギー	2016 年 7 月 29 日	小児科	崎原徹裕
子宮外妊娠・救急でみる産婦人科疾患	2014 年 7 月 31 日	産婦人科	喜久本藍
漢方治療①	2016 年 9 月 2 日	呼吸器	仲吉博亮
漢方治療②	2016 年 9 月 9 日	呼吸器	仲吉博亮
肺炎	2016 年 9 月 16 日	呼吸器	仲吉博亮
急性腹症・消化管穿孔	2016 年 9 月 23 日	外科	宮平工
めまい・救急でみる耳鼻咽喉科疾患	2016 年 9 月 30 日	人工透析内科	菅谷明子
多発骨折	2016 年 10 月 7 日	整形外科	屋比久博己
甲状腺機能亢進症 ※クリニックにて	2016 年 10 月 14 日	DM	山本壽一
せん妄	2016 年 10 月 21 日	心療内科	菅野善一郎
けいれん or asthma	2016 年 10 月 28 日	小児科	国島知子
解離性大動脈瘤	2016 年 11 月 4 日	循環器	三戸正人
尿管結石の救急	2016 年 11 月 11 日	泌尿器科	喜久山明
急性肝炎	2016 年 11 月 18 日	消化器	佐久川廣
出血傾向・DIC	2016 年 11 月 25 日	血液内科	宮城敬
急性膵炎	2016 年 12 月 2 日	消化器	宮城純
皮膚	2016 年 12 月 9 日	小児科	川満豊
脳血管障害	2017 年 1 月 6 日	脳外科	上笹航
救急でみる眼科疾患	2017 年 1 月 13 日	眼科	親川格
多発性外傷	2017 年 1 月 20 日	外科	国吉史雄
認知症	2017 年 1 月 27 日	心療内科	菅野善一郎
見落としやすい骨折	2017 年 2 月 3 日	整形外科	松田英敏
腰痛	2017 年 2 月 10 日	整形外科	比嘉浩太郎
胆石・胆嚢炎・胆管炎	2017 年 2 月 17 日	消化器	柴田大介
アレルギー	2017 年 2 月 24 日	小児科	崎原徹裕
卵巣捻転	2017 年 3 月 3 日	産婦人科	喜久本藍
痛風発作	2017 年 3 月 10 日	整形外科	屋比久博己
腎臓内科症例	2017 年 3 月 17 日	腎臓内科	張同輝

外部講師による教育回診・講習会

教育回診・講演会名	主催	開催日	参加者
一般社団法人群星沖縄臨床研修センターセンター長 宮城征四郎先生による教育回診症例検討 (33 歳男性 発熱)	群星沖縄プロジェクト	2016 年 4 月 21 日	石川瀬里、牟田宏樹、仲本正哉、宮崎優樹、太田沙也加、医学生 6 年次 5 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センターセンター長 宮城征四郎先生による教育回診症例検討 (66 歳男性 発熱)	群星沖縄プロジェクト	2016 年 5 月 19 日	宮崎優樹、仲本寛、大山恵理子、石川瀬里、金城優美、牟田宏樹、医学生 6 年次 4 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センターセンター長 宮城征四郎先生による教育回診症例検討 (61 歳男性 腹痛)	群星沖縄プロジェクト	2016 年 6 月 2 日	仲本正哉、大山恵理子、宮崎優樹、湧川林、医学生 6 年次 5 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センターセンター長 宮城征四郎先生による教育回診症例検討 (62 歳男性 発熱・腹痛)	群星沖縄プロジェクト	2016 年 7 月 7 日	仲本寛、大山恵理子、太田沙也加、金城優美、院外研修医 2 名、医学生 6 年次 2 名
公立豊岡病院但馬救命救急センターセンター長 小林誠人先生による講演会 攻めの医療で救命救急に挑む	ハートライフ病院	2016 年 7 月 7 日	参加者 73 名【院内職員(研修医含む) 62 名、院外 11 名】
一般社団法人群星沖縄臨床研修センターセンター長 宮城征四郎先生による教育回診症例検討(70 歳女性 左背部～腰への痛み)	群星沖縄プロジェクト	2016 年 8 月 4 日	太田沙也加、大山恵理子、仲本正哉、宮崎優樹、金城優美

教育回診・講演会名	主催	開催日	参加者
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 宮城征四郎先生による教育回診 症例検討 (69歳女性 右腰部痛・吐き気)	群星沖縄プロジェクト	2016年9月1日	大山恵理子、太田沙也加、仲本寛、 宮崎優樹、石川瀬里、金城優美、 大城和桂子
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 宮城征四郎先生による教育回診 症例検討 (19歳女性 発熱・咳・倦怠感)	群星沖縄プロジェクト	2016年10月6日	太田沙也加、大山恵理子、宮崎優樹、 仲本正哉、林絹子、山田義貴
八戸市立市民病院救命救急センター 所長 今明秀先生による講演会 ドクターカー8年8,000件	ハートライフ病院	2016年11月4日	参加者72名【院内職員(研修医含む) 45名、院外27名】
医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院 総長 亀井徹正先生による神経内科教育回診 症例検討①(32歳女性 発熱・嘔吐・独り言) 症例検討②(47歳男性 てんかん・痙攣)	ハートライフ病院	2016年11月10日	金城優美、牟田宏樹、湧川林、太 田沙也加、大城和桂子、院外研修 医1名
米国医科大学協会 Dr. Jacobs [Joshua L Jacobs MD, FAAFP/Senior Association of America Medical College] による教 育回診 症例検討 (48歳女性 手足のしびれ、歩行 困難) ※英語にてプレゼン	群星沖縄プロジェクト	2016年12月8日	Dr. Jacobs (講師)、群星沖縄 宮里事務長、林絹子、仲本正哉、仲 本寛、太田沙也加、宮崎優樹、石 川瀬里、金城優美、牟田宏樹、大 城和桂子
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 宮城征四郎先生による教育回診 症例検討 (30歳女性 発熱)	群星沖縄プロジェクト	2017年1月5日	林絹子、仲本正哉、仲本寛、大山恵 理子、宮城泰雅、親富祖さやか、牟 田宏樹
福井大学医学部附属病院 地域医療推進講 座教授 兼 群星沖縄臨床研修センター副セ ンター長 寺澤秀一先生によるER教育回診 症例検討 (89歳男性 意識消失・腹痛)	群星沖縄プロジェクト	2017年1月20日	大山恵理子、太田沙也加、仲本寛、 宮崎優樹、林絹子、宮城泰雅、石 川瀬里、牟田宏樹、仲吉博亮、院 外研修医1名、医学生5年次4名
米国ミシガン大学内科アシスタントプロ フェッサーDr. Chopra [Vineet Chopra MD, MSc/Assistant Professor of Medicine and Research Scientist] によ る教育回診 症例検討 (87歳女性 発熱・倦怠感) ※英語にてプレゼン&ベッドサイド回診	群星沖縄プロジェクト	2017年2月17日	Dr. Chopra (講師)、群星沖縄 センター長宮城征四郎先生、群星沖 縄宮里事務長、太田沙也加、大山 恵理子、仲本寛、仲本正哉、石川 瀬里、金城優美、牟田宏樹、湧川林、 新潟糸魚川総合病院研修医3名、 医学生5年次5名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 宮城征四郎先生による教育回診 症例検討 (37歳男性 左側腹部痛・心窩部 痛)	群星沖縄プロジェクト	2017年3月2日	宮城泰雅、仲本正哉、林絹子、金 城優美、牟田宏樹、医学生5年次6 名

研修医学会発表

2 年目研修医 (12 期生)

学会名 (開催場所)	日時	タイトル	発表者と研究者
第 121 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 6 月 12 日	著名な胆道系酵素上昇を伴い診断に苦慮したリウマチ性多発筋痛症の 1 例	山田義貴、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣、狩俣かおり
第 121 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 6 月 12 日	多発肺、肝および脊椎転移に伴う直腸がんに対して集学的治療が奏功した 1 例	湧川林、宮平工、林裕樹、国吉史雄、尾下陽大、白石牧子、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、西原実、奥島憲彦
第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (佐賀県)	2016 年 6 月 24 日	POEMにて症状が改善した手術後食道アカラシア再発の一例	湧川林、奥島憲彦、林裕樹、国吉史雄、尾下陽大、白石牧子、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、西原実、宮平工
第 107 回日本消化器病学会九州支部例会 (佐賀県)	2016 年 6 月 24 日	肝胆道系酵素を契機に見えられた膵癌の一例	牟田宏樹、佐久川廣、柴田大介
第 120 回日本循環器学会九州地方会 (大分県)	2016 年 6 月 25 日	クラウド型 12 誘導心電図伝送システムが加速させる急性冠症候群治療	金城優美、三戸正人、仲村義一、秋元芳典、與座一
第 120 回日本循環器学会九州地方会 (大分県)	2016 年 6 月 25 日	食道癌再発、気管浸潤による急性呼吸不全に緊急 VVECMO 導入、翌日気管ステント留置を行い独歩退院した一例	石川瀬里、三戸正人、仲村義一、秋元芳典、與座一
第 70 回日本食道学会学術集会 (東京都)	2016 年 7 月 6 日	POEM治療で熱傷による胃潰瘍を合併した食道アカラシア再発の一例	石川瀬里、奥島憲彦、林裕樹、国吉史雄、尾下陽大、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、西原実、宮平工
第 44 回日本救急医学会総会・学術集会 (東京都)	2016 年 11 月 18 日	断裂した E-Z-I/O の内針による骨髄炎をきたした一例	湧川林、三戸正人、銘苅正
第 108 回日本消化器病学会九州支部例会 (熊本県)	2016 年 11 月 25 日	ALP 優位の胆道系酵素上昇を伴ったリウマチ性多発筋痛症の一例	石川瀬里、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣
第 121 回循環器学会九州地方会 (鹿児島県)	2016 年 12 月 3 日	左室内血栓に対しエドキサバンが奏功した 3 症例	湧川林、仲村義一、秋元芳典、三戸正人、與座一
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	画像で増大を認めるも FDG-PET 陰性であった肺腺癌の一例	金城優美、仲吉博亮、新垣珠代、普天間光彦
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	沖縄県北部の河川でのレジャー後に集団発生したレプトスピラ症の検討	石川瀬里、崎原徹裕、川満豊、国島知子
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	穿孔した胃 GIST に対し、切除術後にイマチニブを長期投与した一例	山田義貴、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会 (福岡県 9)	2017 年 1 月 14 日	ECMO を使用し救命できた重症右室梗塞の一例	湧川林、仲村義一、秋元芳典、三戸正人、與座一
第 31 回千葉集中治療研究会 (千葉県)	2017 年 1 月 28 日	診断に難渋した感染症心内膜炎の一例	牟田宏樹、菅谷明子、仲吉博亮、仲村義一、三戸正人
第 78 回日本呼吸器学会日本結核病学会九州支部 春季学術講演会 (福岡県)	2017 年 3 月 11 日	人工呼吸器管理及び深麻酔が無効で ECMO を用いて救命し得た重症気管支喘息の一例	金城優美、仲吉博亮、新垣珠代、普天間光彦

1 年目研修医 (13 期)

学会名 (開催場所)	日時	タイトル	発表者と研究者
第 44 回日本救急医学会総会・学術集会 (東京都)	2016 年 11 月 18 日	急性大動脈解離はキーワードと単純 CT で疑うことができる	太田沙也加、根間優美、三戸正人、銘苅正
第 108 回日本消化器病学会九州支部例会、第 102 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (熊本県)	2016 年 11 月 25 日	乳癌術前化学療法導入後に顕在化した糞線虫の一例	宮崎優樹、折田均、柴田大介、仲本学、宮城純、佐久川廣
第 315 回日本内科学会九州地方会 (熊本県)	2016 年 11 月 20 日	形質芽球様の形態・表面形質を呈した HIV 陰性 HHV8 陰性 Primary effusion lymphoma-like lymphoma の一例	大山恵理子、宮城敬、山入端敦、大濱昌代、狩俣かおり、友寄毅昭、加留部謙之輔 (琉球大学医学部細胞病理講座)、大島孝一 (久留米大学医学部病理学講座)
第 108 回日本消化器病学会九州支部例会 (熊本県)	2016 年 11 月 25 日	急性発症した AIH + PBC オーバーラップ症候群の一例	大山恵理子、佐久川廣、柴田大介

学会名(開催場所)	日時	タイトル	発表者と研究者
第 78 回日本臨床外科学会(東京都)	2016 年 11 月 25 日	前額部皮下血腫の進行が顎下部までに拡大し気管挿管に至った一例	仲本正哉、阿嘉裕之、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、花城直次、宮平工、西原実、梁英樹、奥島憲彦
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	ネクサバル投与後に肝細胞癌が縮小し切除し得た一例	仲本正哉、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、宮平工、梁英樹、奥島憲彦
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	自然退縮した肝細胞癌の一例	太田沙也加、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	両下肢浮腫で見つかった巨大肝嚢胞に対して腹腔鏡下肝嚢胞開窓術を行い、著効を示した一例	仲本寛、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、宮平工、梁英樹、奥島憲彦
第 122 回沖縄県医師会医学会総会	2016 年 12 月 11 日	上腸間膜動脈閉塞症に対して8Fr Thrombuster による血栓吸引が著効した一例	大山恵理子、秋元芳典、仲村義一、三戸正人、與座一
第 316 回日本内科学会九州地方会(福岡県)	2017 年 1 月 21 日	巨大肝嚢胞による深部静脈血栓症(DVT)に対しDOAC使用し、血栓消失後肝嚢胞開窓術試行し下腿浮腫改善もDVTを再発した症例	宮崎優樹、秋元芳典、仲村義一、三戸正人、與座一
第 53 回日本腹部救急医療医学会総会(神奈川県)	2017 年 3 月 2 日	回腸潰瘍による穿孔性腹膜炎の1切除例	仲本寛、宮平工、国吉史雄、尾下陽大、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、西原実、奥島憲彦

※各科より初期研修医のみ再掲。後期研修医の実績については、各診療科ページをご覧ください。

医師卒後臨床研修 第 12 期生 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(前方左より)

石川 瀬里 (鳥取大学卒)

金城 優美 (琉球大学卒)

(後方左より)

山田 義貴 (琉球大学卒)

牟田 宏樹 (琉球大学卒)

湧川 林 (琉球大学卒)



医師卒後臨床研修 第 13 期生 (平成 28 年 4 月 1 日～)

(左より)

宮崎 優樹 (琉球大学卒)

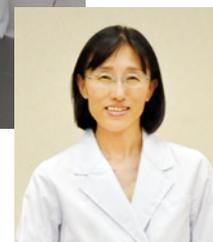
仲本 正哉 (琉球大学卒)

仲本 寛 (琉球大学卒)

太田 沙也加 (琉球大学卒)

大山 恵理子 (琉球大学卒)

林 絹子 (京都府立大学卒 /
平成 28 年 10 月入職)



林 絹子

研修風景

Dr.Chopra 教育回診



ハロウィーン回診（呼吸器内科）



沖縄県医師会医学会総会



宮城先生教育回診



形成縫合レクチャー



第 12 期修了式



各科概要・実績

内 科

ハートライフ病院の内科は、消化器 7 名、循環器 4 名、血液 5 名、呼吸器 3 名、総合診療 1 名の体制です。それぞれの専門分野において、県内でトップレベルの診療をしております。一方で、循環器内科医が救急総合診療部の診療を兼任で行っており、幅広い疾患に対応しています。また、当院は県内に 7 病院しかない内科学会の認定教育施設になっております。

内科系の詳細なデータは、各専門内科ページをご参照ください。

二次精査件数

他医療機関からの二次精査の紹介患者数 [※]	1,257
ハートライフ病院の予防医学センターからの紹介で2次精査として当院を受診した患者数 [※]	2,026

※診療科にかかわらず、すべての患者を含みます。

呼吸器内科

呼吸器内科は現在、医師 3 名体制で毎日の外来診療と入院診療を行っています。対象となる疾患は肺炎、気管支炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、気管支拡張症、慢性呼吸不全、間質性肺炎、気胸、肺癌、縦隔腫瘍等と多岐に渡っており、他疾患を合併した患者さんも多く診療しています。当科のスケジュールとしては、金曜日の午後 1 時より 7 階病棟で呼吸器内科回診を行っており、医師に加え、研修医・病棟師長・病棟リーダー・薬剤師・リハビリ・MSW と一緒に部屋を回診しています。各部署と回診する事により共通した患者認識を持ち、より良いグループ診療が出来るように目指しています。また、画像カンファレンスとして月曜日の 13 時から胸写カンファレンスを行い、水曜日 17 時からは放射線科との合同画像カンファレンスを行う事で胸写や胸部 CT の読影力向上に努めています。火曜日の午後は気管支鏡検査を施行し、呼吸器疾患の診断率向上に努めています。木曜日の午後は医師・看護師・リハビリ・臨床工学士等の各職種と連携した RST ラウンドを行っています。

医師プロフィール

(平成 28 年現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
呼吸器内科部長 7 階病棟医長 医局長 <専門外来>睡眠 時無呼吸症候群 (SAS) 外来	普天間 光彦	肺炎、気管支喘息、肺気腫、肺癌、肺結核	
	新垣 珠代	呼吸器内科一般	
	仲吉 博亮	呼吸器内科一般	

検査・治療件数

検査・治療	件数
気管支鏡検査	59

検査・治療	件数
睡眠時無呼吸外来のべ患者数	902 名

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
食道癌患者の傍気管リンパ節転移及び気管浸潤による切迫窒息に対し、V-V ECMO 補助下に気管ステントを留置した一例	第 121 回沖縄県医師会医学会総会	沖縄県	2016 年 6 月 12 日	仲吉博亮、名嘉山裕子、普天間光彦、奥島憲彦、三戸正人
画像で増大を認めるも FDG-PET 陰性であった肺腺癌の一例	第 122 回沖縄県医師会医学会総会	沖縄県	2016 年 12 月 11 日	金城優美、仲吉博亮、新垣珠代、普天間光彦
人工呼吸器管理及び深麻酔が無効で ECMO を用いて救命し得た重症気管支喘息の一例	第 78 回日本呼吸器学会日本結核病学会九州支部春季学術講演会	福岡県	2017 年 3 月 11 日	金城優美、仲吉博亮、新垣珠代、普天間光彦

年度総括

呼吸器内科部長
普天間 光彦

平成 28 年度は年間 728 名ほどの入院患者の診療を行い、59 名の気管支鏡検査を実施しました。学会活動としては呼吸器学会に参加して見聞を広め、県医学会や日本内科学会九州地方会で演題発表を行いました。また、呼吸気同好会や胸部レントゲン勉強会等の県内での研究会へ参加し他医療機関との連携や診療の向上に努めています。教育活動として初期研修医の指導、学生への指導も積極的に行っており、ほとんどの初期研修医は当科での研修を修了しています。来年度は学会参加や県内の研究会等の院外活動をさらに活発にしていく予定です。



循環器内科

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
循環器内科部長	與座 一	一般循環器内科	日本循環器学会専門医
循環器内科副部長	秋元 芳典	一般循環器内科	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会専門医 日本医師会認定産業医 日本内科学会総合内科専門医
救急総合診療部副部長 循環器内科医長	三戸 正人	循環器救急、地域医療、 スポーツ医学	日本救急医学会救急科専門医 日本循環器学会専門医 日本内科学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本体育協会公認スポーツドクター 日本医師会認定健康スポーツ医 日本内科学会総合内科専門医
	仲村 義一	一般循環器内科	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医
	相澤 直輝 (非常勤)		
<専門外来>不整脈外来	石垣 清子 (非常勤)		

検査・治療・手術件数

検査件数一覧

	H24	H25	H26	H27	H28
ペースメーカークリニック患者数	-	226	221	222	255
冠動脈 CT	412	467	508	515	443
トレッドミル	85	69	82	52	36
ホルター心電図	176	187	232	236	203
心筋シンチ	149	106	140	110	57
経胸壁心エコー	2,827	2,778	2,796	2,605	2516
経食道心エコー	34	22	24	28	29

治療件数一覧

	H24	H25	H26	H27	H28
経皮的冠血行再建術 (PCI)	124	125	158	116	127
ペースメーカー植込み術	10	21	9	25	21
電池交換	6	5	2	2	3
一時的ペースメーカー	5	10	9	16	11
IABP	7	10	9	6	9
PCPS	1	4	2	6	8
下大静脈フィルター	2	0	7	2	2
末梢血管拡張術 (PPI)	7	7	17	57	103

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
食道癌再発、気管浸潤による急性呼吸不全に緊急VVECMO導入、翌日気管ステント留置を行い独歩退院した一例	第120回 日本循環器学会 九州地方会	大分県	2016年6月25日	石川瀬里、三戸正人、仲村義一、秋元芳典、與座一
クラウド型12誘導心電図伝送システムが加速させる急性冠症候群治療	第120回 日本循環器学会 九州地方会	大分県	2016年6月25日	根間優美、三戸正人、仲村義一、秋元芳典、與座一
左室内血栓に対しエドキサバンが奏功した3例	第121回 日本循環器学会 九州地方会	鹿児島県	2016年12月3日	湧川林、仲村義一、秋元芳典、三戸正人、與座一
上腸間膜動脈閉塞症に対して8Fr Thrombusterによる血栓吸引が著効した一例	第122回 沖縄県医師会 医学会総会	沖縄県	2016年12月11日	大山恵理子、秋元芳典、仲村義一、三戸正人、與座一
ECMOを使用し救命できた重症右室梗塞の一例	第24回 日本心血管インターベンション治療学会 九州地方会	福岡県	2017年1月14日	湧川林、仲村義一、秋元芳典、三戸正人、與座一
巨大肝嚢胞による発症したDVTにDOAC使用し、血栓が消失し手術が行われた症例	第316回 内科学会九州地方会	福岡県	2017年1月21日	宮崎優樹、秋元芳典、仲村義一、三戸正人、與座一

年度総括



循環器内科副部長
秋元 芳典

平成 26 年にハートライフ病院の循環器内科に勤務してから早いもので約 3 年が経ちます。與座先生、三戸先生のお二人で頑張っているところへ参加させていただきました。その後、平成 28 年 1 月に仲村先生が加わり 4 人体制となりました。

最近の循環器の患者さんの動向として、心筋梗塞、狭心症の治療である PCI については横ばいの状態が続いております。使用するステント、バルーンの進化により再狭窄が少なくなり、さらに 2 次予防の充実で再発が少なくなっていることが理由として挙げられます。患者さんの高齢化が進み、糖尿病が増えている状況ですが PCI の数はあまり変動はないと考えます。そのような中で、一昨年より透析患者さんの内シャント PTA の治療を積極的に行わせていただきました。また、形成外科の先生と協力しながら、下肢病変の PTA についても行っております。それによりアンギオ室を使用する治療は増加しています。さらに、平成 29 年 4 月には東京の心臓血管研究所に研修にいていた金城 大貴 先生が入職されるので、今まで施行できなかった不整脈に対するカテーテルアブレーションを開始することとなりました。急に増やすのは難しいですが、徐々に件数を増やしていければと考えております。これにより、循環器として心不全や冠動脈、末梢血管に合わせ不整脈の治療も可能となり充実していけると思われます。

今後、高齢者が増えることを考えると心不全の治療も充実が必要で、そのなかでも特に心臓リハビリテーションが大切だと考えています。幸いにもスタッフ数も充実し、心リハの患者数や回数、入院・外来共に増えています。それに伴い再入院が減ってきておりますが、今後はさらに心臓リハビリテーションの枠を増やす必要があると考えます。

救急ではいよいよドクターカーが本格稼働し、救急隊とも連帯しながら運用を行っていくこととなります。急性期病院である当院にとってより重症な患者さんを受け入れることは重要ですのでドクターカーはその有用な武器になると考えます。

来年度も例年同様にこれまで積み上げてきものに、さらなる充実を図り、医師だけではなく、心リハ指導士や心不全専任看護師、臨床工学技士の育成など、昨年度はできなかったこと、足りなかったことを充実させていきたいと考えます。今後も楽しい循環器内科をよろしく願いいたします。

消化器内科

消化器内科が扱う臓器は幅広く、腹部の臓器のほとんど（腎臓、副腎など一部臓器を除く）が守備範囲となります。そのため対象となる患者は多く多岐にわたります。また、人間は精神的ストレスが掛ると身体的には消化管に影響が出る事が多く、心身医療とも密接な関わりがあります。さらにはメタボリックシンドロームと関連する消化器疾患もあり、おそらく病院を受診する患者さんのかなりの部分を消化器系の疾患が占めているものと思われます。当科はなかでも肝疾患に対する治療に力を入れており、平成 25 年以降、アルコール性肝硬変症例に対する自己幹細胞投与療法を行っています。

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
消化器内科部長 5 階病棟医長	宮城 純	上部・下部消化管疾患の診断・治療。	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器がん検診学会認定医 日本内科学会認定内科医
内視鏡センター長 <専門外来>胸やけ外来	折田 均	胸やけ外来（機能的消化管疾患）、胃癌・大腸癌の内視鏡的治療	日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
内視鏡センター副センター長	仲本 学	消化管内視鏡診断・治療（ESD）	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医
消化器内科医長	柴田 大介	肝癌の治療、肝・胆道系疾患の治療	日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医

検査・治療・手術件数

1. 検査内視鏡実績

	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度	H28 年度
胃内視鏡	8,169	8,439	8,947	9,586	9,971
大腸内視鏡	2,471	2,663	2,860	3,052	3,020
ERCP	91	140	161	134	115
超音波内視鏡（上部・下部合計）	52	36	28	23	15

※外科症例を含みます。

2. 治療内視鏡実績

上部消化管 (内訳)	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度	H 28 年度
止血術	70	42	45	44	45
EMR	13	20	18	4	11
EVL	21	28	25	23	53
EIS	29	9	8	10	11
異物摘出術	13	10	12	16	10
粘膜下層切開剥離術 (ESD)	19	14	22	27	17

下部内視鏡 (内訳)	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度	H 28 年度
EMR	272	280	331	355	409
止血術	14	11	11	14	18

時間外緊急内視鏡下手技件数

内訳	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度	H 28 年度
胃・十二指腸内視鏡検査	4	8	6	6	11
大腸内視鏡検査		1	5	2	9
食道・胃静脈瘤結紮術	4	5	7	6	10
食道下部及び胃内異物摘出	1	2	1	3	2
消化管止血術	4	6	4	7	11
胆管・膵管ステント留置術		1	1	0	0
合計	13	23	24	24	43

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
急性発症の様式を呈し自己免疫性肝炎との鑑別を要した抗ミトコンドリア陰性原発性胆汁性肝硬変の 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	福岡県	2016 年 5 月 28 日	柴田大介、城間丈二、仲本学、折田均、宮城純、佐久川廣
肝胆道系酵素を契機に見えられた膵癌の 1 例	第 107 回日本消化器病学会	佐賀県	2016 年 6 月 24 日	牟田宏樹、佐久川廣、柴田大介
著明な胆道系酵素上昇を伴い診断に苦慮したリウマチ性多発筋痛症の 1 例	第 121 回沖縄県医師会医学会総会	沖縄県	2016 年 6 月 12 日	山田義貴、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣 (社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院消化器内科)、狩俣かおり (社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院血液内科)
乳癌術前化学療法導入後に顕在化した糞線虫症の 1 例	日本消化器病学会九州支部第 108 回例会・日本消化器内視鏡学会九州支部第 102 回例会	熊本県	2016 年 11 月 1 日	宮崎優樹、折田均、柴田大介、仲本学、宮城純、佐久川廣
ALP 優位の肝胆道系酵素上昇を伴ったリウマチ性多発筋痛症の 1 例	第 108 回日本消化器病学会九州支部例会	熊本県	2016 年 11 月 25 日	石川瀬里、仲本学、柴田大介、宮城純、折田均、佐久川廣
急性発症した AIH+PBC オーバーラップ症候群の 1 例	第 108 回日本消化器病学会九州支部例会	熊本県	2016 年 11 月 25 日	大山恵理子、佐久川廣、柴田大介
自然退縮した肝細胞癌の 1 例	第 122 回沖縄県医師会医学会総会	沖縄県	2016 年 12 月 11 日	太田沙也加、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣

肝臓内科

文：ハートライフ病院 副院長 兼 内科部長 佐久川 廣

担当医師 / 佐久川 廣、柴田大介

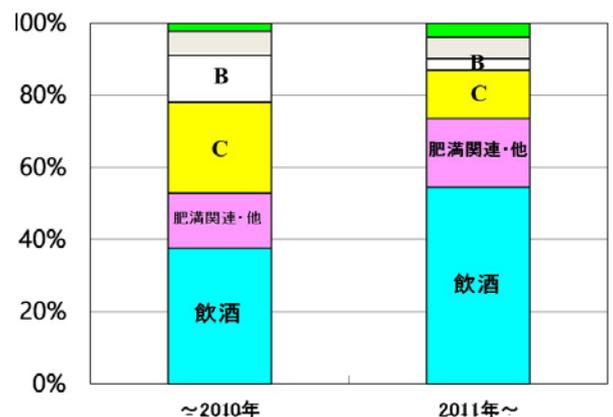
肝臓内科は昨年度まで3名(佐久川廣、城間丈二、柴田大介)体制でしたが、昨年度末に城間丈二先生が西原町に開業することになり、平成28年度は2名(佐久川廣、柴田大介)体制となりました。肝臓内科は肝疾患全般の診療を行っていますが、その中で重点的に取りくんでいるのが、B型、C型ウイルス性肝疾患に対する抗ウイルス療法、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の診断と治療、肝癌の局所療法です。

C型慢性肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス療法は、日本において1992年頃から行われるようになりました。当初、インターフェロンによる治療が中心でしたが、インターフェロンは副作用が強く、高齢者には使用しにくい薬剤でした。2014年から、直接作用型抗ウイルス剤(DAA製剤)が保険適用になり、C型慢性肝炎、肝硬変の治療成績は飛躍的に改善しました。当院でも2014年度から2015年度にかけて28症例にインターフェロンフリー治療を実施しました。2016年度には新たに15例でインターフェロンフリーの治療を行い、投与終了した12例中、10例でウイルスが消失し、治癒と判定しました。残念ながら、2例で投与後の経過観察が中断し、効果判定ができませんでした。

沖縄県は、肥満の割合が全国で最も高く、肥満に関連した肝疾患である非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)が増加傾向にあります。NASHの診断は肝生検を必要としますので、肝臓内科では肝生検を積極的に行っています。2016年度の肝生検数は68件で、その中でNASHと診断した症例は20例でした。NASHの治療は食事療法や運動療法が基本ですので、栄養師に介入してもらい、食事指導を積極的に行っています。また、糖尿病のコントロールの悪化により、NASHが悪化する症例も多いため、ハートライフクリニックの糖尿病内科と連携して診療しています。

2006年から当院で診断された肝硬変患者さんは589名で、これらの患者さんを成因別に分類しますとアルコール性が最も多く、全体の45.8%を占め、C型が19.5%、原因不明が18.2%、B型が8.3%です。原因不明と分類される患者の多くが肥満や糖尿病を合併しており、NASHから肝硬変に進行したと思われる症例です。肝硬変患者さんを2010年以前に診断された症例と2011年以降に診断された症例に分けますと、2011年以降では、アルコール性肝硬変の割合が更に増加し、全体の54.6%を占めます。更に肥満関連肝硬変と合わせますと70%以上が飲酒や肥満といった生活習慣に関連する疾患に分類されます(図1/次ページ)。このように当院を含めて沖縄県は生活習慣病関連肝硬変が多いことより、2012年度から生活習慣病関連肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法の臨床研究を山口大学消化器内科と共同で行ってきました。2015年度までに10例(アルコール性6例、NASH関連4例)に対して治療を行い、うち5例が治療後24週の時点で有効と判定されました。有効と判定された5例はいずれもアルコール性肝硬変の患者さんで、残念ながら、NASH由来肝硬変患者には有効例はいませんでした。これらの成績を基に先進医療として申請の準備を進め、2016年度には厚生労働省の担当者との面談し、申請について意見を交換しました。しかしながら、厚生労働省の担当者より治療効果が十分でないと評価を受け、申請

図1 当院における肝硬変の成因の推移
(2011年以降アルコール性と肥満関連肝硬変が増加している)



を見送ることにしました。

当院において肝癌は増加傾向にあり、肝臓内科では肝癌の局所療法を積極的に行っています。右の図2は琉球大学医学部附属病院がんセンターがまとめた沖縄県内のがん登録データに載った施設別肝癌症例数ですが、当院は県内で最も多くの肝癌患者を診療している施設になっています。右の図3に当院での新規肝硬変、肝癌症例数を示しますが、新規肝癌患者数は2013年以降、それ以前と比較して明らかに増加しています。

肝臓内科では肝癌に対する肝動脈化学塞栓療法とラジオ波焼灼術を積極的に行っています。肝動脈化学塞栓療法は放射線科の高良医師と共同で行っており、2016年度は37例に実施し、これまでで最も多い実施数でした。肝動脈化学塞栓療法の実施件数は2012年度から増加傾向にあり、その数は沖縄県内で最も多くなっています。一方、ラジオ波焼灼術は城間丈二医師が中心となって行っておりましたが、城間医師が2016年4月に開業したことで、本年度の実施件数は減少しました。しかしながら、柴田大介がその後を継いでおり、城間医師の応援を得ながら、徐々に経験症例数を増やしています。来年度は更に症例数を増やせると思います(図4)。

肝動脈化学塞栓療法とラジオ波焼灼術を施行した患者さんは中部や南部医療圏のみでなく、北部や宮古、八重山からの紹介患者が増えてきています。沖縄県において、今後も60歳以上のいわゆる癌年齢の人口が増加するため、肝癌は増加するものと思われます。また、当院を含めて沖縄県はB型やC型肝炎ウイルスが原因の肝癌の割合が低く、アルコール性肝疾患やNASHが原因の非B非C肝癌の占める割合が多いという特徴があります。更にこの傾向は2011年以降顕著になっています(図5)。人口の高齢化と生活習慣病の増加により肝癌が増加すると思われ、肝癌の局所療法は今後も増えることが予想されます。

肝臓内科の診療は病院内の様々なスタッフの協力により成り立っていますが、中でも5階病棟看護師、外来看護師、薬剤師、栄養士は診療の良きパートナーです。また、肝癌に対する肝動脈化学塞栓療法は高良医師を始めとする放射線科のスタッフの協力が必要ですし、肝胆膵外科グループには手術を依頼しています。その他にも事務系職員やメディカルクラークのサポートにより、日々の診療が円滑に行われており、今後とも多くの職員の協力を得て、更に診療内容を向上させたいと思います。

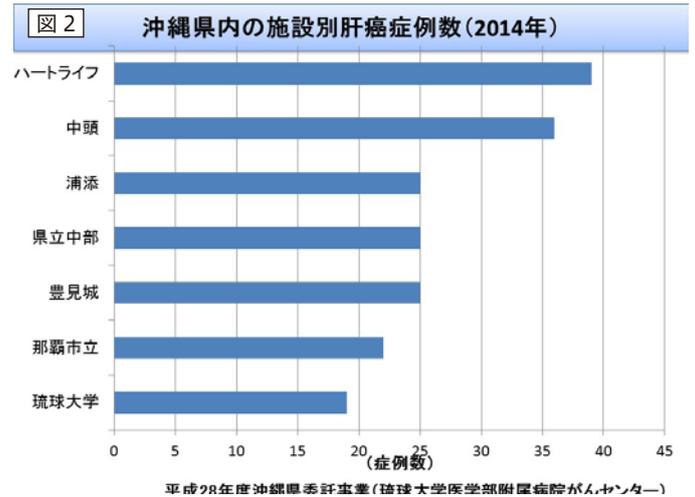


図3 平成28年度沖縄県委託事業(琉球大学医学部附属病院がんセンター) 肝硬変、肝癌患者数(新規症例)の推移

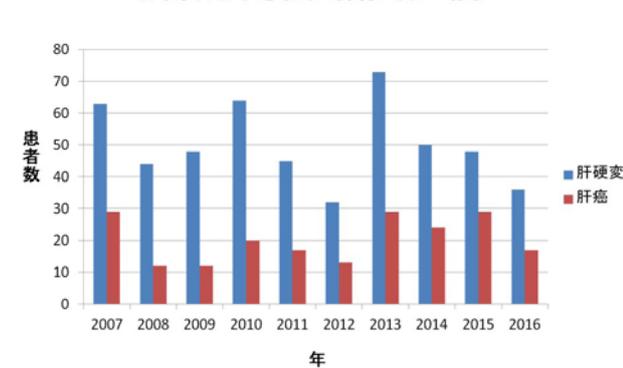


図4 肝癌に局所療法(TACE, RFA)施行件数の推移

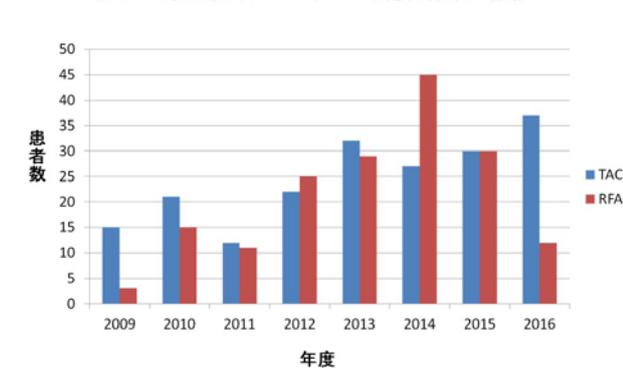
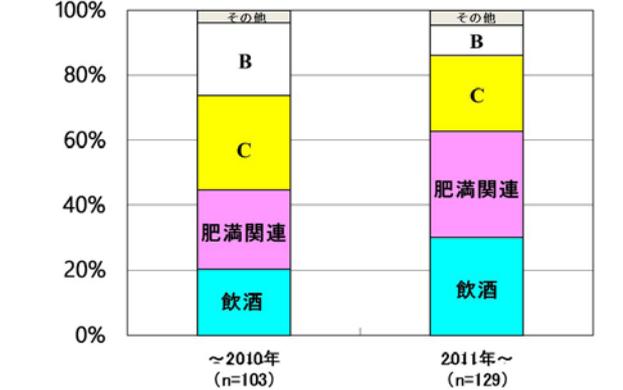


図5 当院における肝癌の成因の推移 (2011年以降アルコール性と肥満関連肝癌が増加している)



年度総括



消化器内科部長
宮城 純

内視鏡検査数は徐々に増加してきており、5年前と比較して平成28年度は上部が約1,800件、下部が約550件増加しました。平成26年度に内視鏡の新機種への変更を行い、より詳細な観察が可能となりました。平成26年度に開業の先生方が内視鏡検査依頼で紹介するときの、手続きや準備する書類の簡素化を行いました。これによりこれまで紹介していただいていた先生方からの内視鏡検査紹介がみられるようになりましたが、平成28年度も内視鏡検査の依頼件数は増える傾向でした。

平成24年2月から、ヘリコバクターピロリの検査・除菌の保険適用疾患の拡大により、除菌療法が急増しました。ヘリコバクターピロリ感染胃炎は、胃癌の原因の一つであり、ヘリコバクターピロリ感染胃炎を診断し除菌を行うことで、胃癌の撲滅が可能となります。ヘリコバクターピロリの検査・除菌を行うためには、内視鏡検査が行われていることが必須となっています。そのため、胃検診をすべて内視鏡で施行することが理想です。しかし、現状の内視鏡検査室数、スタッフ数では検査件数の増加はほぼ限界とされます。内視鏡検査室の増設、スタッフの増員が必要です。

平成29年度目標

- ・ 消化器疾患の診断能・治療技術の更なる向上を目指します。
- ・ 消化器病内科関連専門医、内視鏡専門医の確保を目指します。
- ・ 消化器内科志望の後期研修医の確保を目指します。
- ・ 長期の目標として、胃検診の全件を内視鏡で行える体制を目指します。

血液内科

血液内科は造血器腫瘍や貧血性疾患、血友病を除く出血・血栓性疾患などほとんどの血液疾患の診療を行っています。平成 28 年度のスタッフは友寄 毅昭、宮城 敬、狩俣 かおり、大瀧 昌代、山入端 敦の 5 人です。同種造血幹細胞移植は主に宮城、山入端、狩俣が行い、ドナーの診療は狩俣、大瀧が担当しています。当院の特徴としては、完全無菌室を 10 床有し、血縁者間・非血縁者間の造血幹細胞移植（骨髄移植、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植）を行っています。沖縄県内の血液内科で造血幹細胞移植を行っているのは琉球大学附属病院と当院のみで、沖縄県の造血器移植医療、血液診療を支えているという自負があります。週 1 回、琉球大学保健学科の福島卓也先生も参加してグループカンファレンスを行い、最善の診断・治療ができるよう心がけています。

医師プロフィール

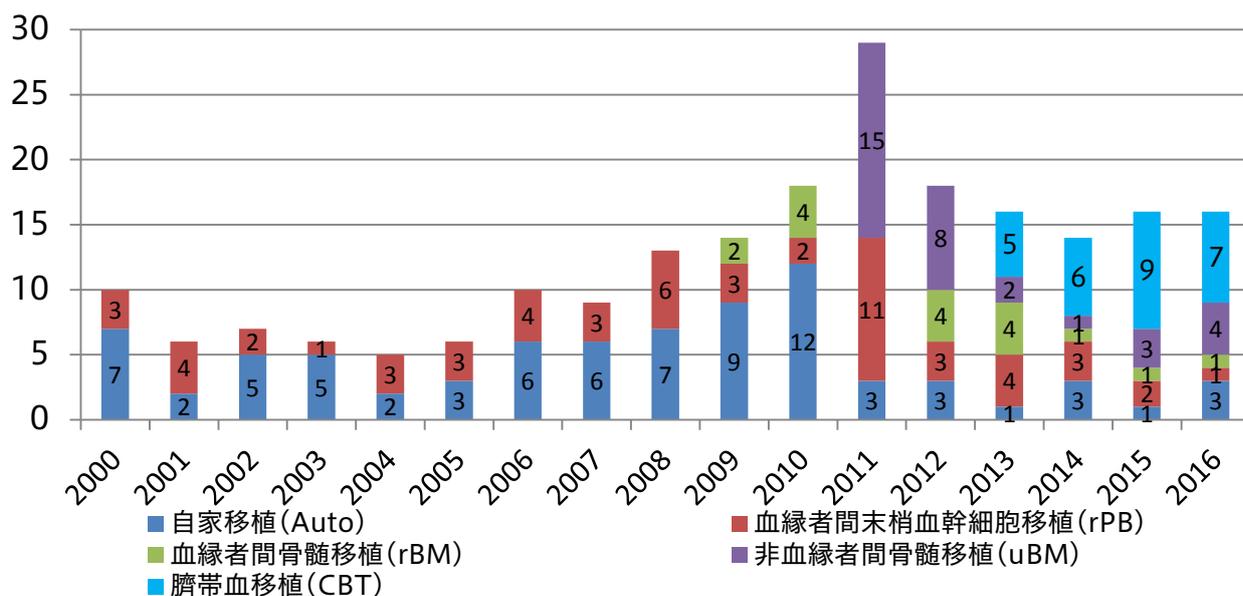
(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
血液内科部長 無菌治療センター長 外来通院治療室室長	友寄 毅昭	一般血液内科	日本血液学会専門医 日本内科学会総合内科専門医
血液内科副部長 6 階病棟医長	宮城 敬	一般血液内科	日本血液学会指導医 日本血液学会専門医 日本内科学会総合内科専門医
血液内科医長	山入端 敦	一般血液内科	日本血液学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医
	狩俣 かおり	一般血液内科	日本血液学会専門医 日本内科学会認定内科医
	大瀧 昌代	一般血液内科	日本内科学会認定内科医

検査・治療・手術件数

骨髄移植術実施一覧

	H24	H25	H26	H27	H28
自家末梢血幹細胞移植	3	1	3	7	3
同種血縁者間末梢血幹細胞移植	3	4	3	2	1
同種血縁者間骨髄移植	4	4	1	1	1
非血縁者間骨髄移植 (骨髄バンク)	8	2	1	3	4
臍帯血移植 (臍帯血バンク)	0	5	6	8	7
計	18	16	14	21	16



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
形質芽球様の形態・表面形質を呈した HIV 陰性 HHV8 陰性 Primary effusion lymphoma-like lymphoma の一例	日本内科学会第 315 回九州地方会	熊本県	2016 年 11 月 20 日	大山恵理子、宮城敬、山入端敦、大濱昌代、狩俣かおり、友寄毅昭、加留部謙之輔 (琉球大学医学部細胞病理講座)、大島孝一 (久留米大学医学部病理学講座)

年度総括



血液内科部長
宮城 敬

平成 29 年 4 月より血液内科部長に就任いたしました宮城 敬と申します。おもに成人対象の造血幹細胞移植を行っており、骨髄バンク・さい帯血バンクの認定施設です。移植件数については全体としては横ばいですが、疾患特性から平均入院患者数、延べ入院患者数が多く、在院日数が長い傾向は変わらず、医師の負担が懸念されるところです。継続できる医療、安全で質の高い医療を提供できるような人、システムの環境づくりに努力する所存です。今後ともご協力、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

内科年度総括



内科部長・副院長
佐久川 廣

平成 28 年度の内科の収益は、前年と比較して +0.6% と僅かな増加となりました。外来は、延患者数で - 1,442 名と減少しましたが、日当額が 17,678 円（前年度:15,955 円）と、前年度より増加したことにより、収益は +1.5% の増加となりました。入院患者数に関しては、新規入院患者数が月平均 337.2 名で、平成 28 年度の目標であった 326 名を上回り、また、前年（316.8 名）と比較して 20.4 名の大幅な増加となりました。しかしながら平均在院日数が短縮したため、病床利用数は平均で 143.0 と前年と変わらない結果となりました。稼働患者数は昨年と同様でしたが、入院収益は昨年より - 1.0% の減少となりました。その理由は、日当額が 50,783 円（前年度：51,175 円）と、前年度を 1% ほど下回っていたことにあります。今後も医療技術や治療薬の進歩により平均在院日数が短縮していくものと予想されます。したがって、日当額を増やす対策が必要になってきます。

入院の日当額が減少した原因を分析してみました。退院患者数を年齢階層別に分けて、平成 27 年度と 28 年度を比較しますと、平成 28 年度は高齢者が多いことが分かります。グラフからの明らかなように、80 歳代、90 歳代の患者数が前年度と比較して増加しています^(図1)。また、データには示していませんが、これらの年齢層の患者さんの平均の日当額は 4 万円代前半で、70 歳代以下の年齢層の平均の日当額と比較すると、1 万円以上低下します。日当額の低い患者

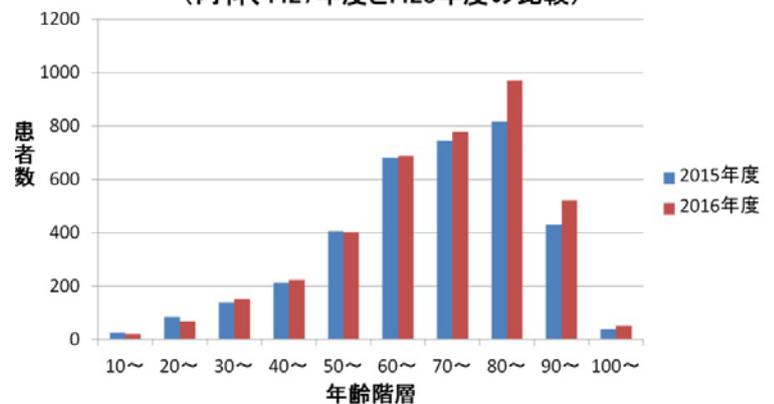
さんは、専門医療の必要性がない患者さんが多く含まれます。つまり、急性期病院でなくても慢性期や地域包括ケア病棟等で診療することが可能な症例が多いと推測されます。今後はこのような高齢の患者さんを地域全体でどのようにケアしていくか、他施設との連携や話し合いが重要になると考えられます。

内科の診療グループ別には、循環器内科が前年度と比較して約 1.3 億円の増収となっており、外来、入院ともに増収となりました。一方、消化器内科はメンバーが 6 名から 5 名に減少したことが大きく影響し、8,248 万円の減収になりました。血液内科と呼吸器内科は大きな変動なく、それぞれ微減、微増でした^(図2)。医師数の増加、減少は収益に大きな影響を及ぼすため、今後は現在の医師数を最低でも確保しながら、若手を中心に常勤医を増やすことが最重要課題です。

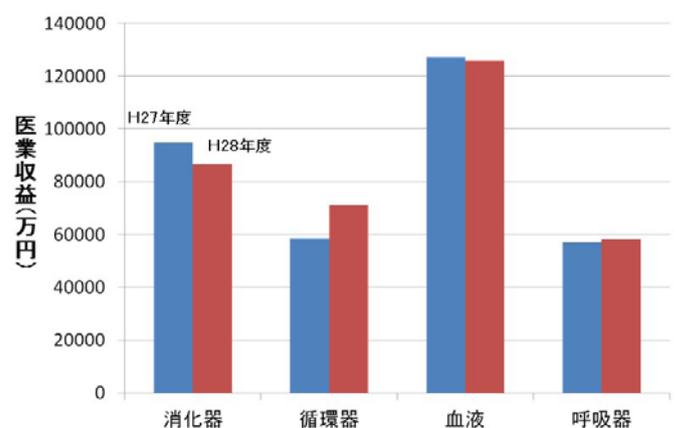
平成 28 年度の入院と外来を合わせた内科の収益が約 34 億で、病院全体の入院・外来総収益（約 79 億）の 43% であることを考慮すると高収益部門と評価できます。しかしながら、入院患者の平均の日当額は前年度を下回っており、

今後は専門医療が必要な患者さんをどのようにして増やすかが、重要な課題になります。また、医業収益と最終利益は必ずしも比例しないことより、医薬品や医療材料のコストを抑えて、より高い利益を目指す必要があります。

(図1) 年齢階層別退院患者数
(内科、H27年度とH28年度の比較)



(図2) 内科各診療グループ別医業収益
(平成27年度と28年度の比較)



小児科

当院小児科では二次病院として紹介患者を中心に診療を行い、外来部門であるハートライフクリニックからの入院を含め、3名の医師が連携し感染症などの一般的な疾患、予防接種、小児の手術の術前診、小児の術後管理を行っています。

また二次医療機関としてだけでなく、宜野湾市、中城村、西原町、与那原町などの近隣市町村の乳幼児健診や西原小学校、中城小学校の校医の活動を通して地域の小児の健康管理への貢献も目標として活動しています。

平成27年4月から一年間、あいち小児医療総合センターアレルギー科で研修してきました、崎原徹裕医師が平成28年4月から小児アレルギー外来を開設し診療を開始しました。小児の食物アレルギーの診断・治療を中心に行っており、ほかにも薬剤アレルギーの診断や、看護師や栄養士と共にアレルギー性皮膚炎等のスキンケアや食事療法指導なども行っています。毎週金曜には入院による食物負荷試験を行っています。

医師プロフィール

(平成28年9月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
小児科部長	国島知子	一般小児科	日本小児科学会指導医 日本小児科学会専門医 地域総合小児医療認定医
	川満 豊	一般小児科	日本小児科学会専門医
	崎原徹裕	一般小児科、小児アレルギー	日本小児科学会専門医

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
乳児期の人工乳使用と即時型牛乳アレルギー発症の関連	第65回日本アレルギー学会	東京都	2016年6月19日	崎原徹裕
オボムコイド特異的IgE抗体価高値の症例に対するゆで卵白経口負荷試験と食事療法	第86回沖縄小児科学会	沖縄県	2016年9月11日	崎原徹裕
鶏卵で即時型誘発歴のない児に対する「ゆで卵2gを食べられるかどうか」の予測～TS/Proの有用性の検討～	第53回日本小児アレルギー学会	群馬県	2016年10月8日	崎原徹裕、川満豊、国島知子(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院)、加藤泰輔、小野学、田上和憲、田島、酒井一徳、林直史、佐々木溪円、中川朋子、杉浦至郎、伊藤浩明(あいち小児科保健医療総合センターアレルギー科)
沖縄県北部の河川でのレジャー後に集団発生したレプトスピラ症の検討	第122回沖縄県医師会医学学会総会	沖縄県	2016年12月11日	石川瀬里、崎原徹裕、川満豊、国島知子
当院における食物経口負荷試験の取り組み	平成28年度第6回沖縄県小児科医会研修会	沖縄県	2017年2月8日	崎原徹裕
小児レプトスピラ症集団発生における臨床的特徴及び発症リスク因子の検討	第88回沖縄小児科学会	沖縄県	2017年3月19日	崎原徹裕

論文著書

題名	雑誌名	掲載年・号・頁	著者
The ingestion of cow's milk formula in the first 3 months of life prevents the development of cow's milk allergy	Asia pacific Allergy	2016; 6: 207-212	Sakihara T, et al

年度総括



小児科部長
国島 知子

総入院患者数は在院日数の短さ（3.4 日 / 人）や治癒退院率の高さを維持しながら、710 名でした。入院患者の 34% は紹介患者で、65% は 3 歳未満の小児が占めており、また 50.6% は気道感染が占めています。

外来に関しては、クリニックと病院小児科の役割分担を明確にし、クリニック小児科は急性期患者を、病院小児科は慢性患者の定期フォローを行っており、かりゆし会の小児科としての外来患者数は 15,429 名で 7.9% の増加となっています。

心療内科

当科は医師一名体制で、専属スタッフの配置はありません。そのため、待ち時間が長くなることもありご迷惑をおかけすることもしばしばです。また外来診療のほか、身体疾患のため入院中の方のメンタルヘルストラブルの対応や相談なども行っています。なお、当科での入院治療はやっておりません。

よく言われる心療内科と精神科の違いですが、精神科は精神疾患の治療をする科で、心療内科は自律神経の治療を専門とする科ということになります。

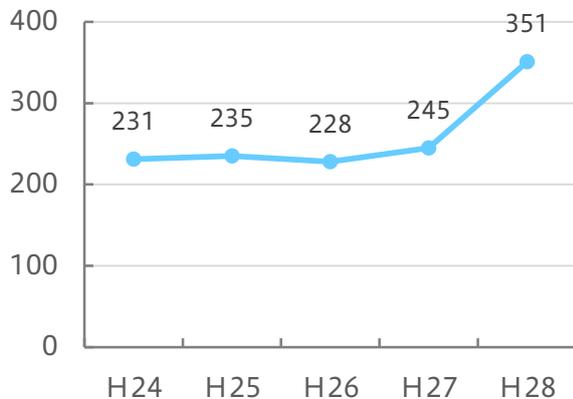
自律神経の機能がうまく調整できなくなる理由は、老化や体質、ホルモン機能のほか、ストレスや過労などさまざまです。うつ病などの精神疾患や認知症が原因のこともあります。そのため、厳密にわけることが難しい分野でもあります。検査しても病気じゃないといわれたけど体調が悪いというかたは、自律神経の治療を受けることで楽になることがあるかもしれません。

医師プロフィール

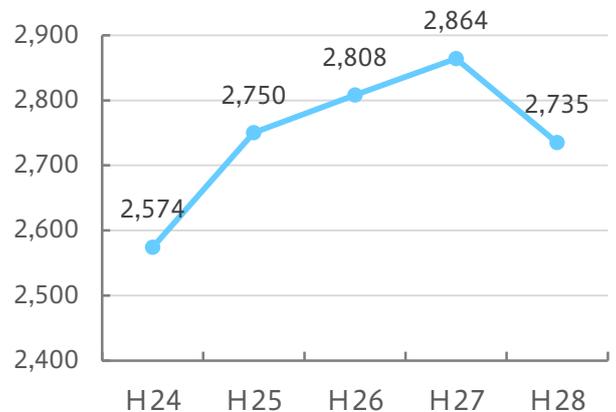
(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
心療内科医長	菅野 善一郎	リエゾン精神医学・心身医療	精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医

心療内科への院内コンサルト件数



外来患者数推移



年度総括



心療内科
菅野 善一郎

心療内科を立ち上げて7年が経ちました。これまで、外来診療および他科と連携した診療を続けていましたが、院内・院外ともに紹介をいただくことが増え、実績に伴いそれなりに役立っているという自負も育ってきております。

前年度は治療としての関わりだけでなく、病棟スタッフへのせん妄対応教育も行いました。高齢化社会では精神科医療のニーズが増えるのを実感しております。

外科

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
院長	奥島 憲彦	消化器外科、食道外科、食道癌の内視鏡的治療、 食道アカラシアの POEM 治療	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本食道学会認定医 日本体育協会公認スポーツドクター 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本消化器内視鏡学会専門医
外科系統括部長 外来診療部長	西原 実	一般消化器外科、肝胆膵外科、内視鏡外科、抗がん剤治療	日本外科学会指導医 日本外科学会専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
外科部長	宮平 工	胃癌・大腸癌に対する手術治療、抗がん剤治療、 各種消化器疾患に対する腹腔鏡手術	日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本内視鏡外科学会評議員 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本がん治療認定医機構暫定教育医
膵臓外科部長	梁 英樹	膵・胆道外科、消化器外科全般	日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本乳癌学会認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
消化器外科部長・ 外科副部長・4 階 病棟医長	花城 直次	一般外科、腹腔鏡下大腸切除術	日本外科学会認定医 日本外科学会専門医
ヘルニアセンター 長	高原 裕夫	小児・成人の鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニア（瘢痕ヘルニア・臍ヘルニア）	日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本小児外科学会専門医 日本小児外科学会指導医
大腸・肛門外科医 長	阿嘉 裕之	肛門科・消化器外科、各種肛門疾患（痔核・痔瘻・ 裂肛・直腸脱・尖圭コンジロームなど）、便通異常 などに対して注射療法	日本大腸肛門病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本外科学会認定登録医
乳腺外科医長	野村 寛徳	乳癌、一般外科	日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
	国吉 史雄	一般外科	
	尾下 陽大	一般外科	日本外科学会専門医
	白石 牧子 (非常勤)	乳腺・漢方	日本外科学会専門医 日本外科学会認定医 日本乳癌学会認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
血管外科	仲栄真 盛保 (非常勤)		日本外科学会専門医 日本脈管学会専門医

検査・治療・手術実績

術式別一覧

手技	件数
肺	
胸腔鏡下手術	2
食道	
POEM手術	10
食道癌ESD	6
食道悪性腫瘍手術	5
食道EMR	1
頸部食道憩室切除術	1
甲状腺	
甲状腺良性腫瘍手術	3
甲状腺悪性腫瘍手術	9
乳腺	
乳腺悪性腫瘍切除術	37
乳腺腫瘍摘出術	11
胃	
腹腔鏡下胃切除術(悪性)	4
胃悪性腫瘍手術(開腹)	6
胃全摘術(悪性)	1
腹腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合術	1
胃腸吻合術	1
胃縫合術(大網充填術又は被覆術)	1
胆嚢・胆管	
腹腔鏡下胆嚢摘出術	106
開腹胆嚢摘出術	9
胆管切開結石摘出術	3
胆嚢悪性腫瘍手術	1
総胆管胃(腸)吻合術	2
肝臓	
肝切除術	7
開腹ラジオ波	1
腹腔鏡下肝嚢胞切開術	1
脾臓	
脾頭部十二指腸腫瘍切除術	4
脾全摘	1
小腸	
小腸切除術	1
腸吻合術	1
腸閉塞症手術	11
虫垂	
腹腔鏡下虫垂切除術	39
開腹虫垂切除術	1
結腸	
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	26
開腹結腸悪性腫瘍切除術	29
腹腔鏡下結腸良性腫瘍切除術	1

手技	件数
開腹結腸切除術(良性)	6
直腸	
腹腔鏡下直腸悪性腫瘍切除術	3
開腹直腸悪性腫瘍切除術	7
経肛門直腸腫瘍摘出術	5
人工肛門造設術・人工肛門閉鎖術	17
直腸脱手術	3
肛門	
痔核硬化療法	60
痔核根治手術	4
痔瘻根治手術	8
肛門形成手術	1
肛門ポリープ切除術	4
肛門潰瘍根治術	3
肛門皮膚剥離切除術	1
毛巣洞手術	2
膿皮症	1
ヘルニア	
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(成人)	86
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(小児)	48
鼠径ヘルニア手術	5
臍ヘルニア手術(成人)	6
臍ヘルニア手術(小児)	5
腹壁癒痕ヘルニア手術	12
停留精巣固定術	2
胃瘻	
胃瘻造設術	32
その他部位	
気管切開術	5
大網、腸間膜、後腹膜手術	4
リンパ節生検	15
リンパ管開窓術	1
体表の手術	184
CVポート	29
腹壁腫瘍摘出術	1
S状結腸嚢切除術	1
限局性腹腔内膿瘍手術	
急性汎発性腹膜炎手術	8
試験開腹術	2
皮膚悪性腫瘍手術	1
総合計	915

外来小外科	164件
-------	------

外来小外科含まない件数	751件
-------------	------

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
Evaluation for clinical outcome of laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure(LPEC)method to adult inguinal hernias	17th AMERICAS HERNIA SOCIETY	アメリカ合衆国 ワシントンDC	2016 年 4 月 1 日	西原実、髙原裕夫、国吉史雄、宮平工、花城直次、阿嘉裕之、尾下陽大、梁英樹、野村寛徳、奥島憲彦
成人鼠径部ヘルニアに対する LPEC の適応拡大の試みとその評価	第 116 回日本外科学会定期学術集会	大阪府	2016 年 4 月 16 日	西原実、髙原裕夫、国吉史雄、宮平工、花城直次、阿嘉裕之、尾下陽大、梁英樹、野村寛徳、奥島憲彦
難治性腹水を有する消化器癌患者に対する腹水濾過濃縮再静注法の検討		大阪府	2016 年 4 月 16 日	宮平工、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、西原実
正常型内視鏡像を呈する食道アカラシアの検討	第 121 回沖縄県医師会医学学会総会	沖縄県	2016 年 6 月 12 日	奥島憲彦、林裕樹、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、西原実
消化器癌に対するソロサージャーリーの経験		沖縄県	2016 年 6 月 12 日	宮平工、尾下陽大、国吉史雄、阿嘉裕之、花城直次、西原実、梁英樹、奥島憲彦
肛門狭窄に対する皮膚弁移動術 SSG:Sliding Skin Graft の 1 例		沖縄県	2016 年 6 月 12 日	阿嘉裕之、林裕樹、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、宮平工、西原実、花城直次、梁英樹、奥島憲彦
非外傷性前下隣十二指腸動脈出血の 1 例		沖縄県	2016 年 6 月 12 日	花城直次、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、西原実、梁英樹、奥島憲彦
POEM にて症状が改善した手術後食道アカラシア再発の一例	第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	佐賀県	2016 年 6 月 24 日	湧川林、奥島憲彦、林裕樹、尾下陽大、国吉史雄、阿嘉裕之、野村寛徳、花城直次、梁英樹、宮平工、西原実
POEM 治療で熱傷による胃潰瘍を合併した食道アカラシア再発の一例	第 70 回日本食道学会学術集会	東京都	2016 年 7 月 6 日	石川瀬里、奥島憲彦、林裕樹、尾下陽大、国吉史雄、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、西原実、梁英樹
食道癌術後に心タンポナーデを発症した 1 例		東京都	2016 年 7 月 6 日	尾下陽大、花城直次、林裕樹、国吉史雄、阿嘉裕之、宮平工、西原実、梁英樹、奥島憲彦(ハートライフ病院外科) 秋元芳典、三戸正人(同循環器内科)
正常型内視鏡像を呈する食道アカラシアの検討		東京都	2016 年 7 月 6 日	奥島憲彦、林裕樹、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、西原実
術後せん妄予防の臨床試験	第 71 回日本消化器外科学会総会	徳島県	2016 年 7 月 14 日	宮平工、尾下陽大、国吉史雄、阿嘉裕之、花城直次、西原実、梁英樹、奥島憲彦
Laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure for over 80 year-oldpatients	第 12 回アジア太平洋ヘルニア学会	東京都	2016 年 10 月 28 日	西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦、髙原裕夫
高齢者鼠径部ヘルニアについて	第 15 回 LPEC 研究会	東京都	2016 年 10 月 27 日	西原実、髙原裕夫、国吉史雄、宮平工、花城直次、阿嘉裕之、尾下陽大、梁英樹、野村寛徳、奥島憲彦
若年成人鼠径ヘルニアに対する LPEC 法の検討		東京都	2016 年 10 月 27 日	西原実、髙原裕夫、国吉史雄、宮平工、花城直次、阿嘉裕之、尾下陽大、梁英樹、野村寛徳、奥島憲彦

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
『LPEC 法のビットフォール』 - 正直者は馬鹿を見る -	第 15 回 LPEC 研究会	東京都	2016 年 10 月 27 日	髙原裕夫、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、奥島憲彦
集学的治療が奏功した上行結腸癌多発骨転移の 1 例	第 78 回日本臨床外科学会総会	東京都	2016 年 11 月 25 日	尾下陽大、花城直次、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、西原実、梁英樹、奥島憲彦
前額部皮下血腫の進行が顎下部まで拡大し気管挿管に至った一例		東京都	2016 年 11 月 25 日	仲本正哉、阿嘉裕之、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、花城直次、宮平工、西原実、梁英樹、奥島憲彦
小児鼠径ヘルニアに対する LPEC 法は思春期・若年成人鼠径ヘルニアの至適術式になりうるか		東京都	2016 年 11 月 25 日	西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦、髙原裕夫
若年成人の鼠径ヘルニアに対する窩間靭帯を利用した LPEC 法		東京都	2016 年 11 月 25 日	髙原裕夫、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、奥島憲彦
高齢者鼠径ヘルニアに対し Advanced LPEC を行った 1 例	第 2 回 Surgical Forum Abdominal Wall Hernia	沖縄県	2016 年 10 月 14 日	西原実、髙原裕夫、国吉史雄、宮平工、花城直次、阿嘉裕之、尾下陽大、梁英樹、野村寛徳、奥島憲彦
肛門狭窄による腸閉塞に経肛門イレウス管で待機手術とし、皮膚弁移動術 SSG を施行した 1 例	第 71 回日本大腸肛門病学会	三重県	2016 年 11 月 19 日	阿嘉裕之、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、宮平工、西原実、花城直次、梁英樹、奥島憲彦 (ハートライフ病院外科)、堤慎吾 (沖縄北部地区医師会病院外科)
腹腔鏡手術を施行した盲腸癌腸重積の 1 例	第 29 回日本内視鏡外科学会総会	神奈川県	2016 年 12 月 8 日	宮平工、尾下陽大、国吉史雄、阿嘉裕之、花城直次、西原実、梁英樹、奥島憲彦
約 10 年生存した Stage I/b 膵癌の 1 例 当科における膵癌症例の検討も含めて	第 122 回沖縄県医師会医学学会総会	沖縄県	2016 年 12 月 11 日	西原実、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦、髙原裕夫
食道アカラシアに対する POEM 手術 28 例の治療成績の検討		沖縄県	2016 年 12 月 11 日	奥島憲彦、仲本正哉、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、西原実
多発肺、肝および脊椎転移に伴う直腸癌に対して集学的治療が奏功した 1 例		沖縄県	2016 年 12 月 11 日	湧川林、宮平工、林裕樹、国吉史雄、尾下陽大、白石牧子、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、西原実、梁英樹、奥島憲彦
両下肢浮腫で見つかった巨大肝嚢胞に対して腹腔鏡下肝嚢胞開窓術を行い、著効を示した 1 例		沖縄県	2016 年 12 月 11 日	仲本寛、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦
ネクサバル投与後に肝細胞癌が縮小し切除し得た一例		沖縄県	2016 年 12 月 11 日	仲本正哉、西原実、尾下陽大、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、宮平工、梁英樹、奥島憲彦
穿孔した胃 GIST に対し、切除術後にイマチニブを長期投与した 1 例		沖縄県	2016 年 12 月 11 日	山田義貴、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦
前立腺癌術後の鼠径ヘルニアに対する LPEC 変法の検討		第 16 回 Needlescopic Surgery Meeting	沖縄県	2017 年 1 月 28 日
膵頭十二指腸切除後の腹腔鏡内出血に対し、膵空腸から膵胃吻合への一期的再建変更が奏功した一例	消化器病センター例会	東京都	2017 年 1 月 21 日	梁英樹、国吉史雄、尾下陽大、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、西原実、奥島憲彦

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
若年成人の外鼠径ヘルニアに対する Needlescopic surgery	第 16 回 Needlescopic Surgery Meeting	沖縄県	2017 年 1 月 28 日	尾下陽大、嵩原裕夫、西原実、国吉史雄、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、奥島憲彦
Abdominoscrotal hydrocele に対する Needlescopic surgery - LPEC 法による治療成績		沖縄県	2017 年 1 月 28 日	嵩原裕夫、西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、花城直次、梁英樹、宮平工、奥島憲彦
前立腺癌、腹腔内リンパ転移、転移生骨腫瘍症例に発症した両側外鼠径ヘルニアに対して multi-LPEC を施行した 1 例	第 4 回沖縄ヘルニア研究会	沖縄県	2017 年 2 月 4 日	西原実、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、梁英樹、奥島憲彦、嵩原裕夫
lg G4 関連疾患と診断された胃粘膜下腫瘍の 1 例	第 89 回日本胃癌学会	広島県	2017 年 3 月 9 日	宮平工

年度総括



外科部長
宮平 工

平成 28 年度は奥島 憲彦 院長（食道）、嵩原 裕夫 ヘルニアセンター長（ヘルニア）、梁 英樹 痔臓外科部長（肝胆膵）、西原 実 外科系統括部長（肝胆膵・ヘルニア）、宮平 工 外科部長（胃・大腸）、花城 直次 消化器外科部長（胃・大腸）、阿嘉 裕之 大腸肛門科副部長（大腸・肛門）、野村 寛徳 乳腺外科副部長、国吉 史雄、尾下 陽大（一般外科）の 10 名の常勤医と、非常勤の仲栄真 盛保（血管）各先生方のご尽力を頂き運営してまいりました。敬称略（カッコ内は専門領域）

手術件数は 915 件（外来小手術も含む）を達成しましたが、琉球大学からの派遣医が 1 名減員となったため、手術件数はわずかに減少しました。このような厳しい状況の中、ヘルニア、肛門疾患、胆嚢摘出術などは増加傾向でした。手術だけでなく消化器がんと乳がんの化学療法も担当しています。初期研修医の指導だけでなく、琉球大学医学部学生の臨床実習も受け入れており、外科の魅力伝えることで、外科医減少の歯止めを微力ながらも貢献できればと考えています。臨床や教育の合間には学会発表や論文投稿も積極的に行っています。

嵩原 裕夫 ヘルニアセンター長が非常勤より常勤医となりヘルニア症例数のさらなる増加が見込まれます。

今後もより安全で質の高い医療を目指すだけでなく、最新の医療も提供すべく邁進してまいります。皆様方のますますのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

整形外科

スタッフは、松元悟・渡慶次学・琉球大学からのローテーター松田英敏・比嘉浩太郎・屋比久博己の5人です。琉球大学整形外科講座より、金曜日は関節外科非常勤医師の応援を得ています。また、水曜日はじのん整形外科新垣薫先生に股関節専門外来および手術指導など御協力いただいています。バークレーじのん整形外科院長新城宏隆先生には週1日膝関節手術を御執刀いただいています。松元悟は膝関節・スポーツを担当。渡慶次学は手の外科を担当し、上肢外傷・末梢神経絞扼障害等の手術を行っています。松田英敏と比嘉浩太郎は膝関節を担当し、関節鏡を用いた前十字靭帯再建・半月板縫合等の手術を行っています。屋比久博己は一般外傷を担当し、整形外科医としての研鑽を積んでいます。

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
副院長	松元 悟	一般整形外科	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医 日本整形外科学会リウマチ認定医 日本体育協会公認スポーツドクター 日本医師会認定健康スポーツ医
整形外科部長	渡慶次 学	手外科	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会認定手外科専門医 日本整形外科学会リウマチ認定医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医
	松田英敏	関節外科(膝関節)	日本整形外科学会専門医
	比嘉浩太郎	関節外科(膝関節)	
	屋比久博己		
<専門外来>膝関節スポーツ外来	新垣 和伸	関節外科(膝関節)	日本整形外科学会専門医
<専門外来>股関節外来	新垣 薫	関節外科(股関節)	日本整形外科学会専門医

検査・治療・手術件数

主な手術一覧

部位・行為	件数
骨折観血的手術	265
関節鏡下靭帯断裂形成術十字靭帯	61
人工関節置換術	52
骨折経皮的鋼線刺入固定術	50
関節鏡下半月板手術	50

部位・行為	件数
人工骨頭挿入術	26
腱鞘切開術	25
腱縫合術	20
手根管開放術	11
その他	298
総計	858

年度総括



整形外科部長
渡慶次 学

平成 28 年度は 11 月より松田英敏医師の転勤により 4 人体制となりましたが、新規入院患者数・手術件数ともに増加しました。手術内訳では手外科領域・四肢軟部腫瘍は昨年度と変化無く関節外科・骨折その他外傷症例が増加しました。

平成 29 年度は琉球大学より膝関節外科チーフの新垣和伸医師が当院へ赴任し膝前十字靭帯再建術・半月板縫合術等の関節鏡視下手術への取り組みを強化し、スポーツ障害患者へより満足いただける医療を目指していく予定です。今後も安全で、健全な診療を継続していけるよう努力致します。

形成外科

当科は、平成 23 年 4 月に非常勤として診療を開始し、平成 26 年 4 月から常勤となり 4 年目を迎えました。当科の特徴は、県内に数少ない形成外科専門施設として、難治性皮膚潰瘍、皮膚軟部組織腫瘍摘出術、巻き爪などの爪のトラブル、眼瞼下垂症やわきがなどの美容的手術のみならず、癌切除後の再建手術や四肢のリンパ浮腫、重度顔面外傷、重症熱傷などオールラウンドに、大学レベルで対応できるように心がけていることです。最近は、下肢難治性皮膚潰瘍に対するフットケアを含めた総合的な治療や、救急部門における重度四肢外傷の対応、重症熱傷治療、レーザー設備の拡大など、ますます発展させて形成外科治療で県民に広く貢献して参りたいと考えておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

医師プロフィール

(平成 28 年 4 月現在)

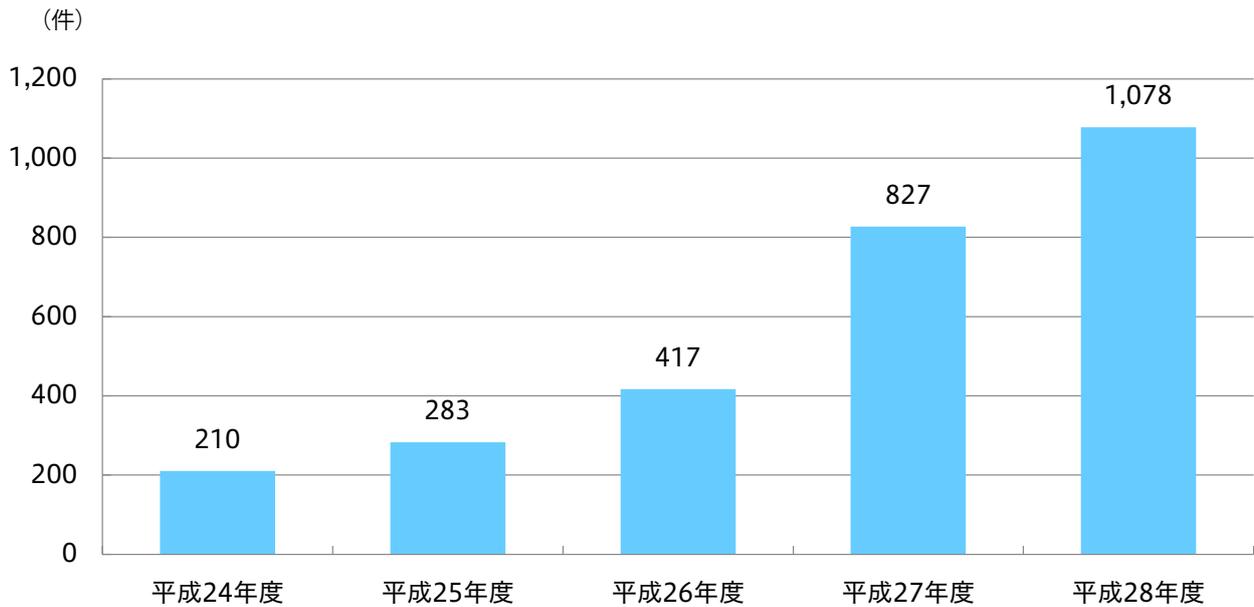
役職	氏名	専門分野	学会認定など
形成外科部長	東盛貴光	創傷外科、フットケア、手の外科、広範囲重症熱傷、下肢難治性皮膚潰瘍に対する治療、マイクロサージャリーを用いた頭頸部がん術後の再建・乳がん術後の乳房再建、レーザー治療	日本形成外科学会専門医 日本熱傷学会専門医 日本レーザー医学会専門医 日本レーザー医学会指導医 日本創傷外科学会専門医 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定エキスパンダー・インプラント治療責任医師 臨床研修指導医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医(肢体不自由)
	溝淵貴俊	形成外科一般、創傷外科	
	栗原沙織	形成外科一般、皮膚悪性腫瘍	

検査・治療・手術件数

手術件数一覧

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
デブリードマン	6	13	15	18	18
植皮術	0	0	10	12	14
局所皮弁術	5	1	16	16	16
腫瘍摘出術	101	104	148	252	395
筋皮弁・動脈皮弁術	5	1	11	19	11
遊離皮弁術	2	0	5	8	11
陥入爪手術	27	32	58	37	45
眼瞼の手術	0	3	24	24	9
レーザー治療	63	129	108	307	341
その他	1	0	22	134	218
合計	210	283	417	827	1,078

※外来での日帰り手術もすべて含まれます。



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
重症虚血肢の大切断における TcPO2 の有用性	第 59 回 日本形成外科学会総会・学術集会	福岡	2016 年 4 月 13 日～4 月 15 日	○東盛貴光、溝渕貴俊
当施設における壊死性筋膜炎 11 症例の検討	第 59 回 日本形成外科学会総会・学術集会	福岡	2016 年 4 月 13 日～4 月 15 日	○溝渕貴俊、東盛貴光
Usefulness of the arterialized venous flap in Hand surgery	第 59 回 日本手外科学会学術集会	広島	2016 年 4 月 21 日～4 月 22 日	○東盛貴光、溝渕貴俊
手指熱傷瘢痕に対する治療戦略	第 42 回 日本熱傷学会総会・学術集会	東京	2016 年 6 月 2 日～6 月 3 日	○東盛貴光、溝渕貴俊、八巻隆、櫻井裕之
重症下肢虚血症例における TcPO2 の有用性	第 121 回 沖縄県医師会総会・学術集会	沖縄県医師会館	2016 年 6 月 12 日	○東盛貴光、溝渕貴俊
重度下肢外傷に対する歩行機能獲得のための遊離皮弁術の有用性	第 121 回 沖縄県医師会総会・学術集会	沖縄県医師会館	2016 年 6 月 12 日	○溝渕貴俊、東盛貴光
重症下肢虚血における皮膚灌流圧 (SP) と経皮的酸素分圧 (TcPO2) の比較検討	第 8 回 日本創傷外科学会総会・学術集会	東京	2016 年 7 月 21 日～22 日	○東盛貴光、溝渕貴俊
末梢用アミノ酸製剤の血管外漏出に対するマニュアルの有用性	第 8 回 日本創傷外科学会総会・学術集会	東京	2016 年 7 月 21 日～22 日	○東盛貴光、溝渕貴俊
褥瘡から生じた壊死性筋膜炎の検討	第 8 回 日本創傷外科学会総会・学術集会	東京	2016 年 7 月 21 日～22 日	○東盛貴光、溝渕貴俊
重症下肢創傷患者の歩行機能獲得における遊離組織移植術の有用性	第 5 回 日本下肢救済・足病学会 九州・沖縄地方会 学術集会	福岡	2016 年 10 月 29 日	○東盛貴光、溝渕貴俊、櫻井裕之
開頭術後感染症例の人工物による頭蓋形成に対し遊離前外側大腿皮弁による皮膚再建を行った 3 例	第 122 回 沖縄県医師会総会・学術集会	沖縄県医師会館	2016 年 12 月 11 日	○溝渕貴俊、東盛貴光

論文著書

題名	雑誌名	掲載年・号・頁	著者
重症下肢虚血症例における TcPO2 の有用性	沖縄医学会雑誌	55 卷 (2).p36-39,2016	東盛貴光

その他実績

- ・ 日本形成外科学会専門医研修 教育関連施設（施設番号 15-3030-009）
- ・ 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定 エキスパンダー実地施設（二次再建）（実地施設認定番号 EY439 号）
- ・ 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定 インプラント実地施設（一次二期再建・二次再建）（実地施設認定番号 IY439 号）
- ・ 日本褥瘡学会九州・沖縄地方会 世話人
- ・ 日本下肢救済・足病学会 九州沖縄地方会 理事
- ・ 沖縄実践フットケア研究会 世話人

次年度目標

- ・ 手術件数増
- ・ レーザー設備充実
- ・ 重症熱傷治療の充実
- ・ フットケア外来設立
- ・ 学会発表（2回 / 年以上）
- ・ 論文執筆（1編 / 年以上）

年度総括



形成外科
東盛 貴光

常勤となり大きな問題も無く4年目を終えました。琉球大学形成外科学教室からの要望による1年6カ月の後期研修医が10月から加わることで3名体制となり、昨年も一昨年を大幅に超える診療実績でしたが、今年も昨年よりさらに入院患者数、外来患者数、そして手術件数増となりました。

当科としての学会発表を11回行い、研究論文を1編執筆しました。また、初期研修医は院内から2名、他院から2名が研修されました。

後期研修医は形成外科の基礎的な手術を多く執刀経験し、次年度はさらに高度な手術研修に入ります。さらに1名の後期研修医はこの春から当科の連携施設である東京の大学病院で形成外科後期研修医（専攻医）として研修を開始します。昨年も同様に東京で研修を行った県出身の後期研修医は新たに関連施設で奮闘しております。貴重な形成外科専門医となって当院に戻ってきて県民に貢献する日が近くまで来ています。

来年度もますます手術実績、研究業績を上げていきたいと思っておりますので、今後とも、御指導の程、よろしく願いいたします。

脳神経外科

脳神経外科は末吉 健次、上笹 航の二人の脳神経外科専門医で担当しています。

脳卒中（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞）を中心に診療し、脳動脈瘤治療に関しましては患者さんの状態に応じて開頭手術、脳血管内手術を選択しております。

一般的に治療可能な認知症として知られている慢性硬膜下出血、正常圧水頭症の手術も行っております。

医師プロフィール

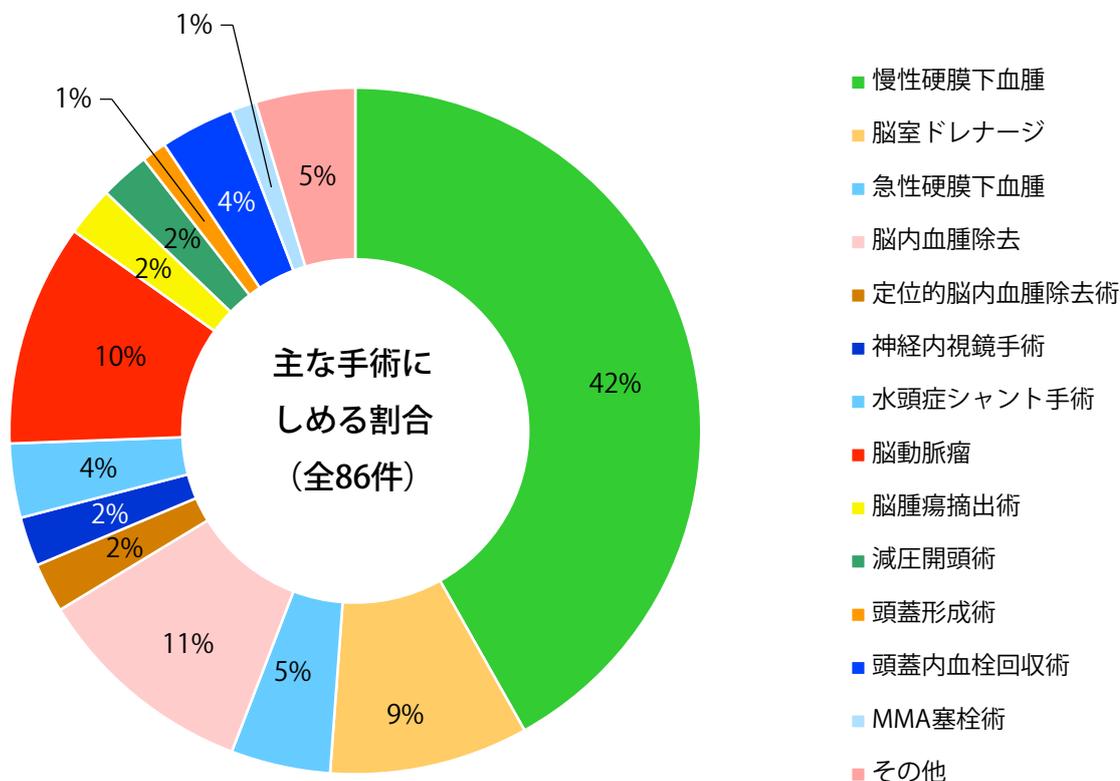
(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
脳神経外科部長	末吉 健次	脳外科一般	日本脳神経外科学会専門医
脳神経外科医長 3 階病棟医長	上笹 航	脳血管障害、血管内治療	日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医

検査・治療・手術件数

	件数
慢性硬膜下血腫	36
脳室ドレナージ	8
急性硬膜下血腫	4
脳内血腫除去	9
定位的脳内血腫除去術	2
神経内視鏡手術	2
水頭症シャント手術	3
脳動脈瘤 うちクリッピング 5 件 うち血管内手術 4 件	9

	件数
脳腫瘍摘出術	2
減圧開頭術	2
頭蓋形成術	1
頭蓋内血栓回収術	3
MMA 塞栓術	1
その他	4
合計	86



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
脳アミロイドアンギオパチーと思われる頭頂円蓋部に少量のくも膜下出血を認めた一例	第121回沖縄県医師会医学学会総会	沖縄県	2016年6月12日	上笹航、末吉健次

年度総括



脳神経外科部長
末吉 健次

今年度は手術件数も増加しており多忙な一年でした。特に急性期脳梗塞に対してt-PA投与のみではなく、血栓回収術も可能となり成果を上げる事ができました。

来年度は新しいアンギオ室も完成予定で、ますます血管内治療の機会が増えると思われます。スタッフ共々安全に早く対応出来るように精進して参ります。

眼 科

当科の特徴は、前眼部（角膜・結膜）疾患に力を入れて診療を行っていることで、外来では一般的な眼科診療はもとより、アトピー性角結膜炎や春季カタルといった重症アレルギー性疾患や、細菌・真菌性角膜炎などの前眼部感染症の症例経験も豊富です。また円錐角膜や角膜移植後に用いる特殊なハードコンタクトレンズ処方も行っています（注：通常のコンタクトレンズは取り扱っておりません）。

その他、糖尿病性網膜症などの網膜疾患や、緑内障に対する各種レーザー治療も行っています。緑内障や網膜疾患に関しては、必要に応じて琉大附属病院の専門外来と連携しており、患者さんにとって最適な医療を提供できるよう工夫しています。

手術は、白内障手術や翼状片手術をはじめ、年間約 30 件の角膜移植手術を行っており、表層角膜移植や角膜内皮移植といった角膜部分移植（パーツ移植）は、県内では当科のみが行っています。当科での手術は白内障や翼状片手術も含め、基本的に入院手術となりますが、それにより病院スタッフによるしっかりとした周術期の管理を行うことが可能です。近隣の眼科クリニックからも多数の患者さんをご紹介いただいております。皆様安心して手術を受けていただけるものと思っています。

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
眼科部長	親川 格	一般眼科・角膜移植（移植、特に角膜内皮移植）	日本眼科学会専門医 AMO Advanced Femtosecond Laser iEK certification

研究業績

学会発表

演題	学会名	開催地	発表年月日	演者等
DSAEK における予防的移植片逢着の有効性の検討	日本眼科学会	仙台市	2016 年 4 月 7 日	國分沙帆、林孝彦、親川格ほか
DMEK における移植片マーキングの有効性	日本眼科学会	仙台市	2016 年 4 月 8 日	林孝彦、松澤亜紀子、親川格ほか
無硝子体眼内レンズ逢着眼に対する DMEK	臨床眼科学会	京都市	2016 年 11 月 3 日	林孝彦、湯田健太郎、親川格ほか
Chandelier を用いた DMEK の短期成績	臨床眼科学会	京都市	2016 年 11 月 3 日	清水俊輝、林孝彦、親川格ほか
低眼圧濾過胞を有する水疱性角膜症に対する角膜内皮移植術の工夫	角膜カンファレンス	福岡市	2017 年 2 月 16 日	親川格、林孝彦、加藤直子ほか
DMEK 後の移植片機能不全に対する再手術の術式の比較・検討	角膜カンファレンス	福岡市	2017 年 2 月 16 日	林孝彦、松澤亜紀子、親川格ほか
農業により角膜内皮障害をきたしたと思われる 1 例	角膜カンファレンス	福岡市	2017 年 2 月 17 日	小橋川裕子、親川格、澤口昭一

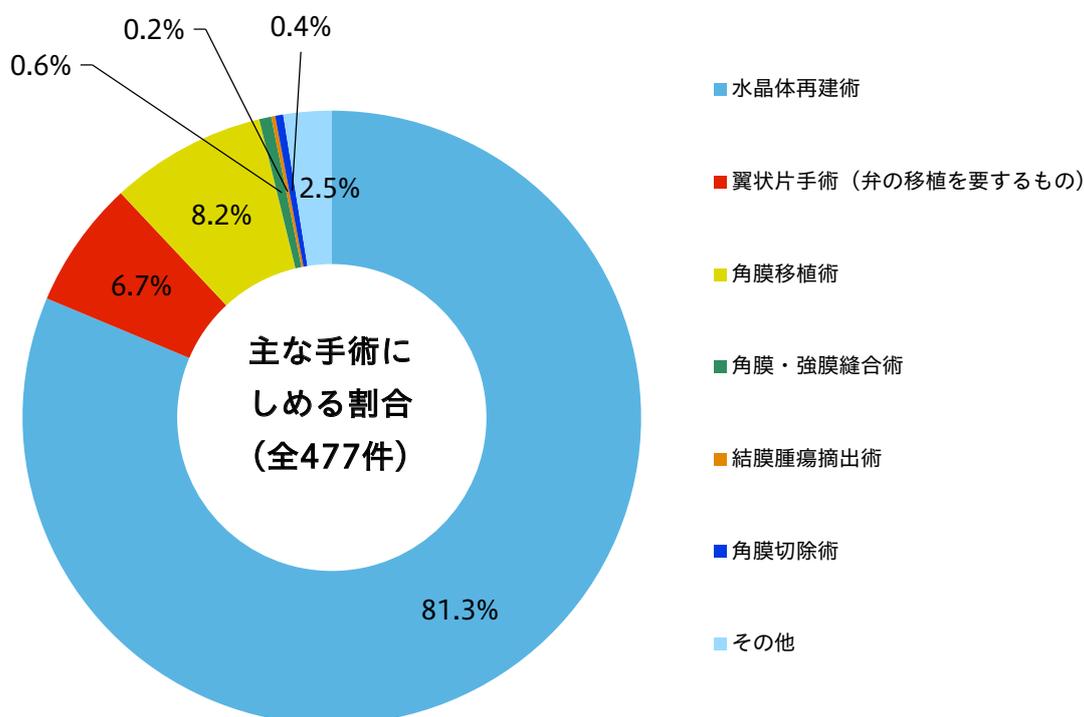
論文著書

論題名	雑誌名	掲載年・号・頁	著者
Descemet membrane endothelial keratoplasty(DMEK) における移植片折れ曲がり修復テクニック	臨床眼科 (0370-5579)	70 巻 5 号 Page729-734(2016.05)	親川 格, 澤口 昭一

検査・治療・手術件数

手術件数一覧

部位・行為	件数
水晶体再建術	388
翼状片手術（弁の移植を要するもの）	32
角膜移植術	39
角膜・強膜縫合術	3
結膜腫瘍摘出術	1
角膜切除術	2
その他	12
合計	477



年度総括



眼科部長
親川 格

平成 25 年度より、角膜内皮移植術を導入することができ、より専門性を活かした眼科診療が可能になっています。

近隣の眼科クリニックを中心として沖縄県全域の眼科施設から多くの紹介患者さんの診療・治療をさせて頂いているため、今年度は年間手術総数 400 件以上、角膜移植 30 件の治療を行う事ができました。また、患者さんの負担軽減のため手術待機期間を 2 ヶ月以内に短縮することができております。外来での待ち時間は依然として長く、待ち時間の短縮は今後の大きな課題と考えています。

次年度は常勤医が 2 名体制となる予定もあり、さらなる眼科診療のクオリティー向上を目標に掲げ、外来での待ち時間対策にも取り組んで参ります。

これからも患者さん一人一人に最も適した、質の高い医療を提供できるよう、スタッフ一同精進していきたいと考えています。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は文字どおり、耳や鼻、咽頭、咽喉の手術、頸部腫瘍などを扱っている診療科ですが、その範囲は広く、のどの先の気管や食道の病気や機能異常も取り扱います。

平成 28 年度は琉大病院からの派遣が無く、常勤医のいない一年となりました。琉大非常勤医による外来診療を継続しました。

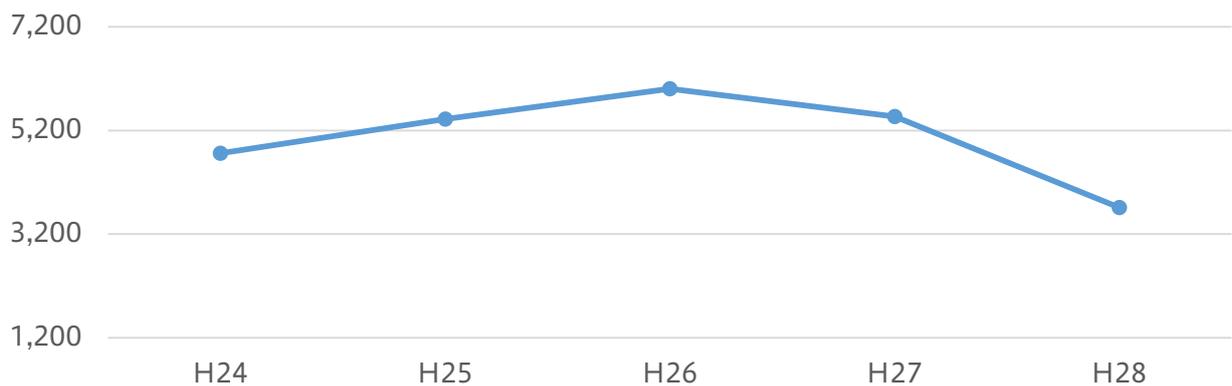
医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
	喜友名 朝則		

診療実績

のべ受診者数推移



泌尿器科

当科は、平成8年度から琉球大学泌尿器科からの常勤医1人体制でスタートし、平成20年4月からは常勤医2人体制になりました。しかしながら大学の医局員不足の影響から平成26年4月からは1人体制で診療を継続していました。平成28年度からは喜久山明医師が入職され2人体制で診療に当たりました。当科の特徴としては北中城村、宜野湾市、中城村、西原町、与那原町、南城市、那覇市の一部、浦添市の一部をカバーしています。人口約20万人のこの広い地域で、泌尿器科は琉大以外では当院と与那原中央病院のみとなっています。

病診連携の浸透でクリニックや施設からの紹介の増加とともに、患者さんが年を追うごとに増加しています。特に今年度はPSA検査が普及し前立腺生検を69例施行し、うち47例が前立腺癌の診断でした。前立腺全摘術は琉大や中部徳洲会病院へ紹介し、放射線治療はトモセラピーで南部徳洲会病院へ主に依頼しています。ホルモン療法の患者さんは総計100人に達しています。

手術では、結石性腎盂腎炎等に対する尿管ステント留置術、経尿道的膀胱腫瘍切除手術、経尿道的前立腺切除術等を施行しています。尿路結石治療では平成27年度6月からESWLが再稼働可能となり年間平均30例ほどの破碎治療を施行しております。

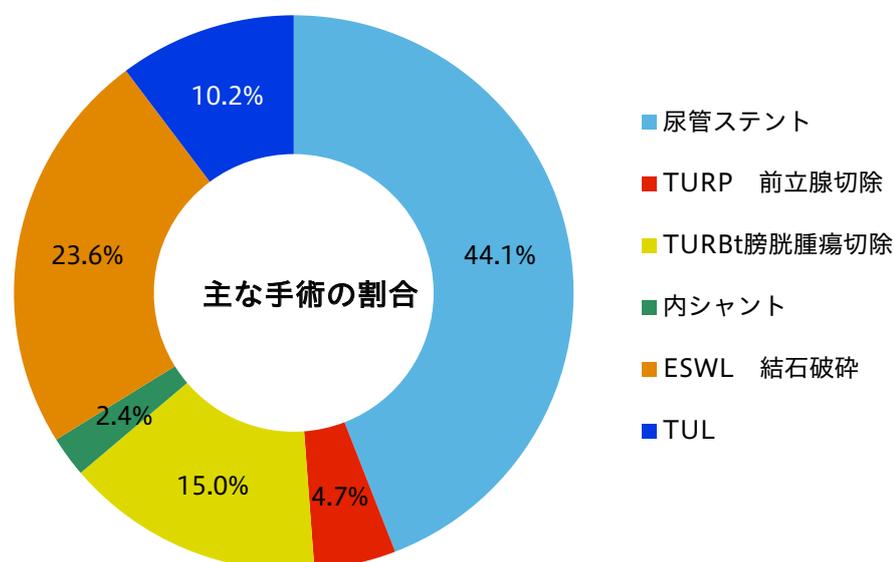
琉大泌尿器科からは月、金、土午前の外来の応援を頂きました。

医師プロフィール

(平成28年9月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
泌尿器科部長 血液浄化部長	嘉川春生	一般泌尿器	日本透析医学会専門医 日本泌尿器科学会指導医
泌尿器科副部長	喜久山 明		日本泌尿器科学会指導医 日本泌尿器科学会専門医
	宮里 実 (非常勤)		
	安次嶺 聡 (非常勤)		

検査・治療・手術件数



年度総括



泌尿器科部長
嘉川 春生

今年度も前年度にも引き続き外来患者さんが増加傾向にあり、それに伴い待ち時間対策が必要です。平成 24 年 12 月から外来に軟性膀胱鏡が導入され痛みの少ない膀胱鏡検査が可能となりました。検査数は年間 100 例以上であり、平成 28 年度末までに 400 例以上施行しています。

入院に関しては、手術件数は減少しており、前立腺全摘術等は琉大や中部徳洲会病院に紹介しています。ESWL による結石治療は平成 28 年度は新規 31 人でした。平成 29 年度 4 月からは再び常勤 1 人の診療体制の予定です。

次年度目標

1. 琉大泌尿器科との連携の継続
2. 待ち時間対策 検査日の拡充
3. ESWL の継続と症例数の増加

産婦人科

常勤医師 3 名、後期研修医 1 名、助産師 18 名、看護師 8 名、看護助手 3 名、医療事務 1 名の体制でした。産科領域では 35 週以降の分娩、無痛分娩、婦人科領域では良性、悪性腫瘍の開腹、経膈、腹腔鏡手術 / 化学療法や緩和医療、不妊内分泌ホルモン療法、更年期の薬物療法等を行い、放射線及び体外受精以外の治療を幅広く行なっています。

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

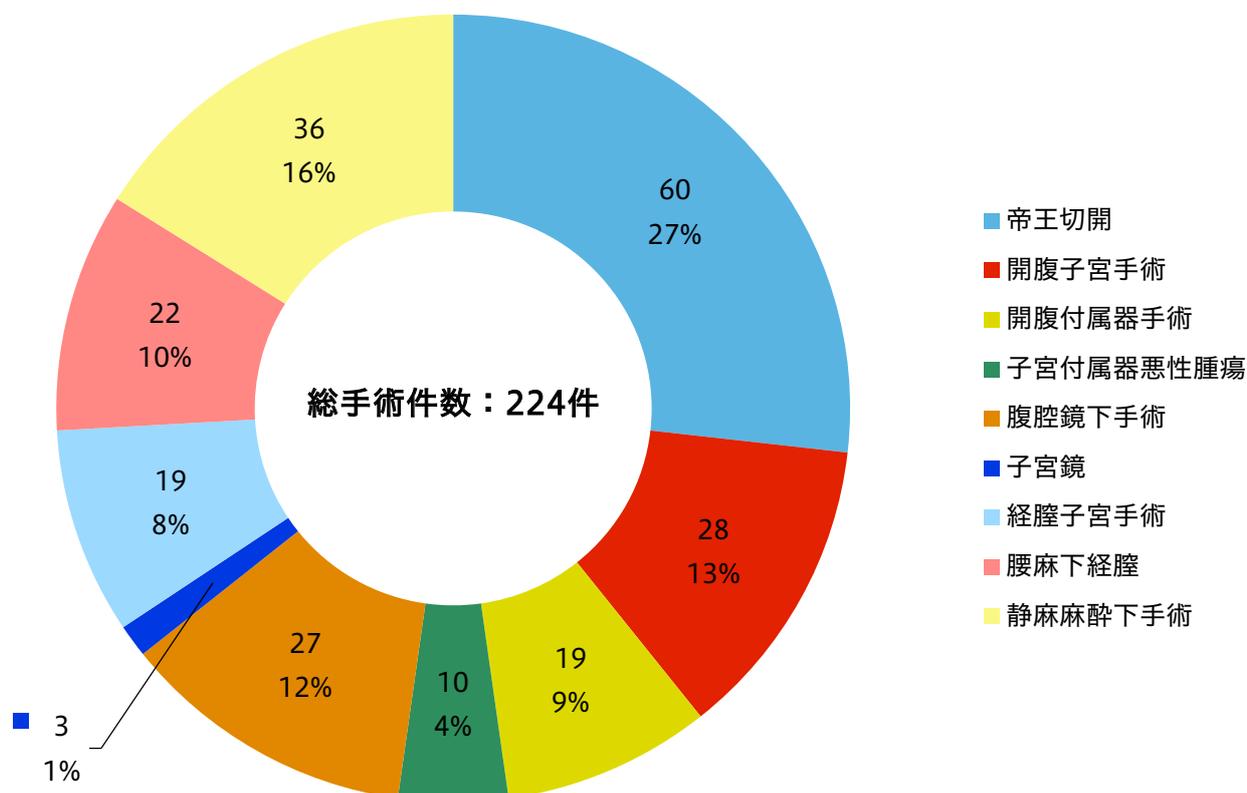
役職	氏名	専門分野	学会認定
産婦人科センター長 婦人科部長	武田 理	産婦人科全般、婦人科腫瘍、腹腔鏡下手術	日本産婦人科学会専門医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本産婦人科学会指導医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍指導医
産科部長	大西 勉	産婦人科全般	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医
	喜久本 藍	一般産婦人科	日本産婦人科学会専攻医
	上原 博香	一般産婦人科	日本産婦人科学会専攻医

検査・治療・手術件数

産科部門

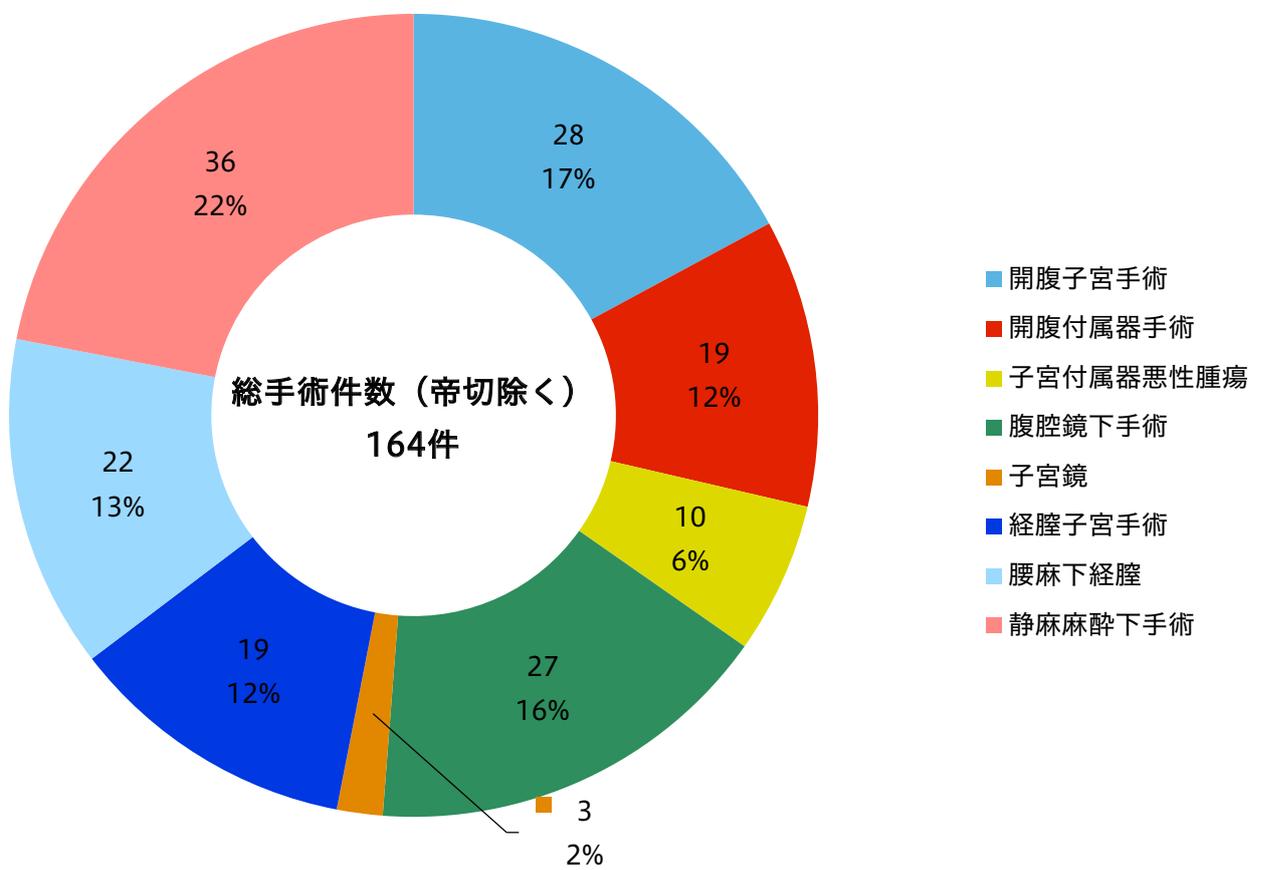
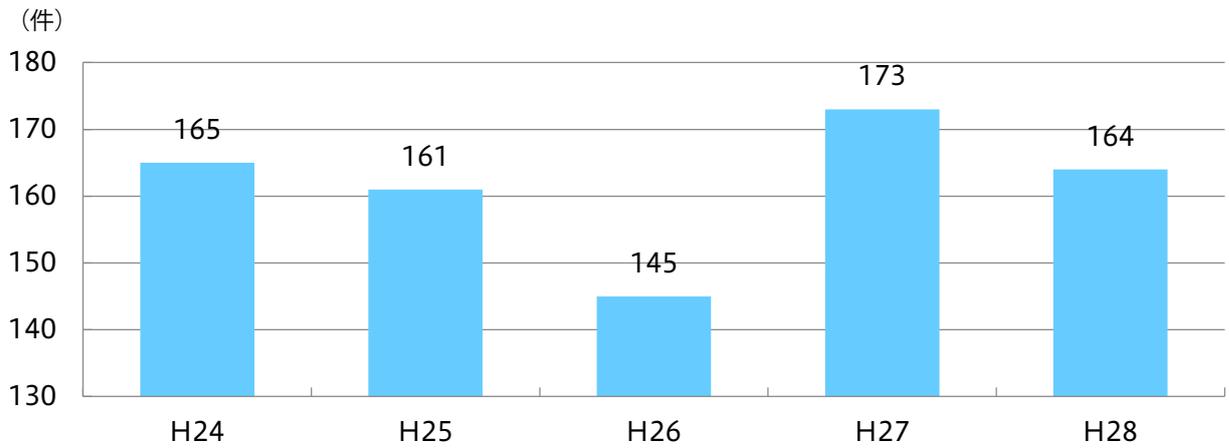
総分娩件数

318 件 (うち経膈分娩 258 件, 帝王切開 60 件)



婦人科部門

総手術件数



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
腹膜偽粘液腫の1例	公益社団法人日本産科婦人科学会第68回学術講演会	東京都	2016年4月24日	武田理、喜久本藍、大西勉
Ovarian ligament adenomyomaの1例	第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	鳥取県	2016年7月8日	武田理、喜久本藍、大西勉(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院)、喜友名正也(豊見城中央病院病理)
腹腔鏡から開腹術へ変更した卵巢境界悪性腫瘍の1例	第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	長崎県	2016年9月2日	武田理、上原博香、喜久本藍、大西勉
異所性妊娠を疑った稽留流産の1例	第43回沖縄産科婦人科学会学術集会	沖縄県	2016年9月11日	喜久本藍、武田理、上原博香、大西勉
当院における境界悪性卵巢腫瘍の臨床的検討	第43回沖縄産科婦人科学会学術集会	沖縄県	2016年9月11日	武田理、上原博香、喜久本藍、大西勉、青山肇
子宮留膿腫穿孔の1例	第122回沖縄県医師会医学会総会	沖縄県	2016年12月11日	上原博香、喜久本藍、大西勉、武田理(社会医療法人かりゆし会)、青山肇(琉球大学腫瘍病理)
LEPにより子宮筋腫の増大を来した子宮内膜症性嚢胞の1例	第38回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会	東京都	2017年1月21日	武田理、上原博香、喜久本藍、大西勉(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院)、青山肇(琉球大学腫瘍病理)

年度総括



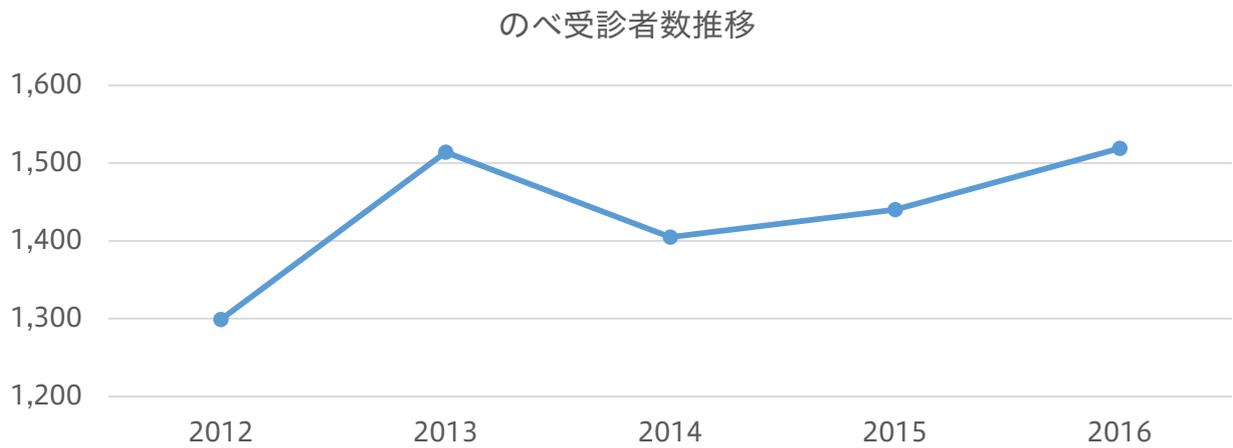
産婦人科
センター長
武田 理

分娩数は平成27年度から減少しましたが、現状のスタッフ数から考えて十分健闘していると思われます。一方で婦人科手術は27年度とほぼ同様の実績でした。内視鏡手術や経膈手術例の増加をさらに図りたいと考えています。分娩数と更なる婦人科患者数増加のため新病棟開設も予定されており医師、病棟スタッフの増員が急務と思われます。院外への広報活動も引き続き活発に推進いただけますと幸いです。宜しくお願いします。

皮膚科

皮膚科は、毎週火曜日と木曜日の午後の外来診療を行っています。
診療は琉球大学医学部附属病院の皮膚科医師が非常勤で対応しております。

診療実績



放射線科

放射線科の診療はCT、MRI、RI(ラジオアイソトープ)、マンモグラフィ、IVR(血管内治療)の適用判断、検査内容の指示、診断、読影が主な業務内容になっております。画像のみを扱う画像診断と画像支援で治療を行うIVRに大きく分かれます。IVRには肝動脈化学塞栓療法などの待機的治療から、出血に対する血管塞栓術など緊急を要する治療も他科と連携しながら行っています。さらに外科、内科とのカンファレンスを行います。夜間、休日の遠隔診断も受け付けています。

医師プロフィール

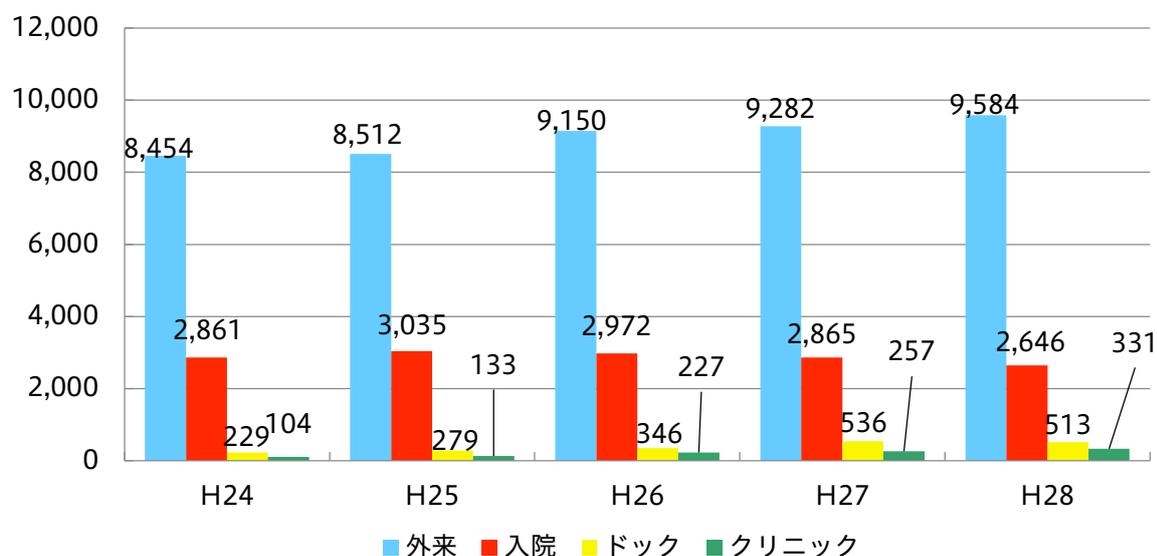
(平成28年9月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
放射線科部長	高良 誠	放射線診断学	日本医学放射線学会診断専門医 日本医学放射線学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医
	東江 ゆりか	放射線診断学	日本医学放射線学会診断専門医 日本核医学会核医学専門医 日本核医学会 PET 核医学認定医

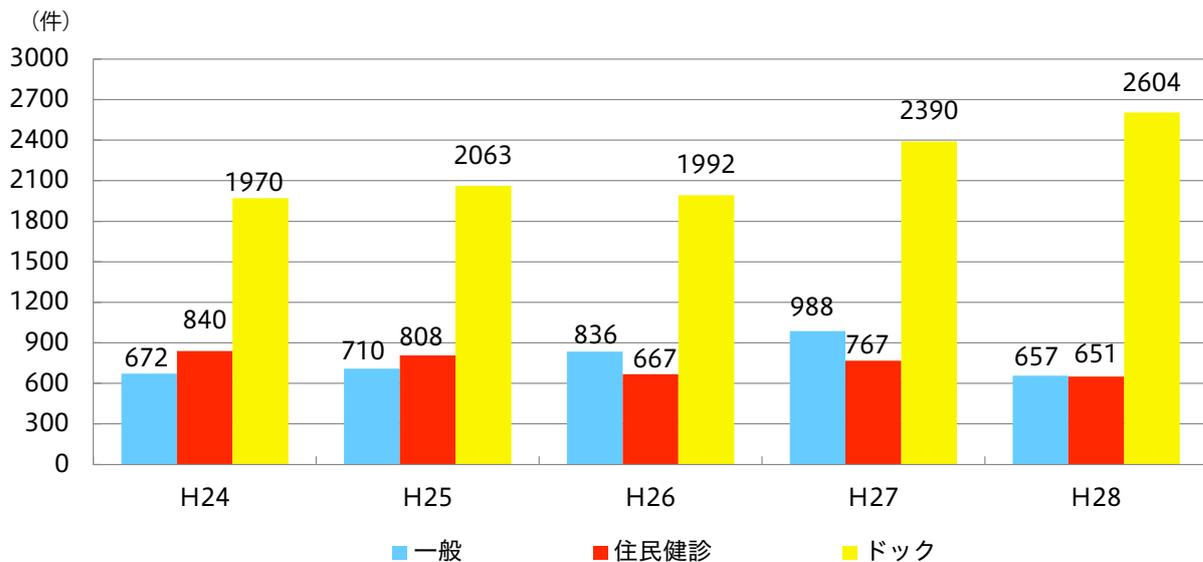
各種検査・治療件数と推移一覧

CT検査

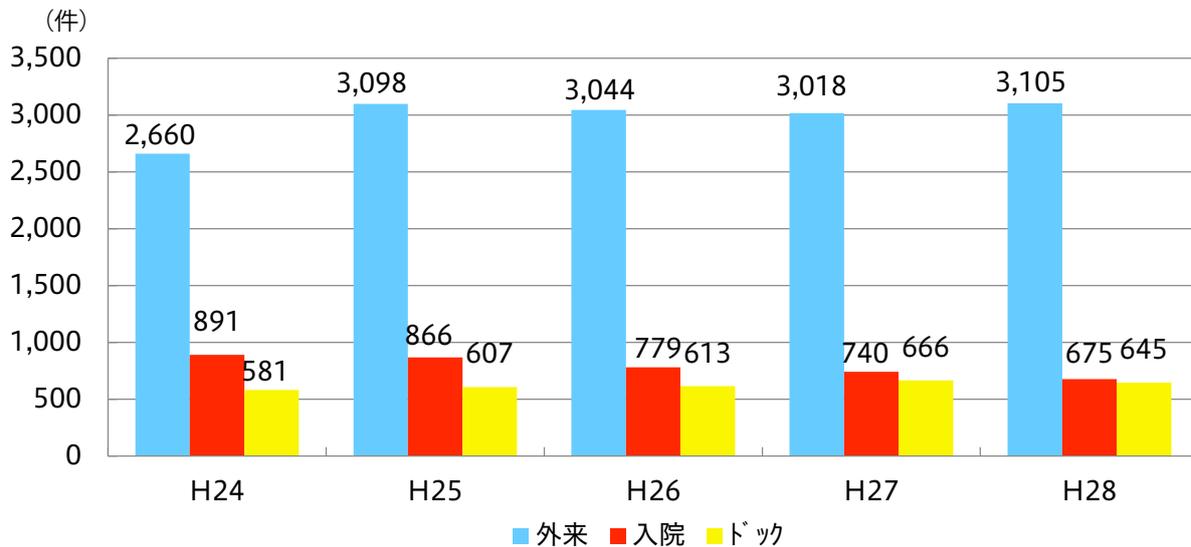
(件)



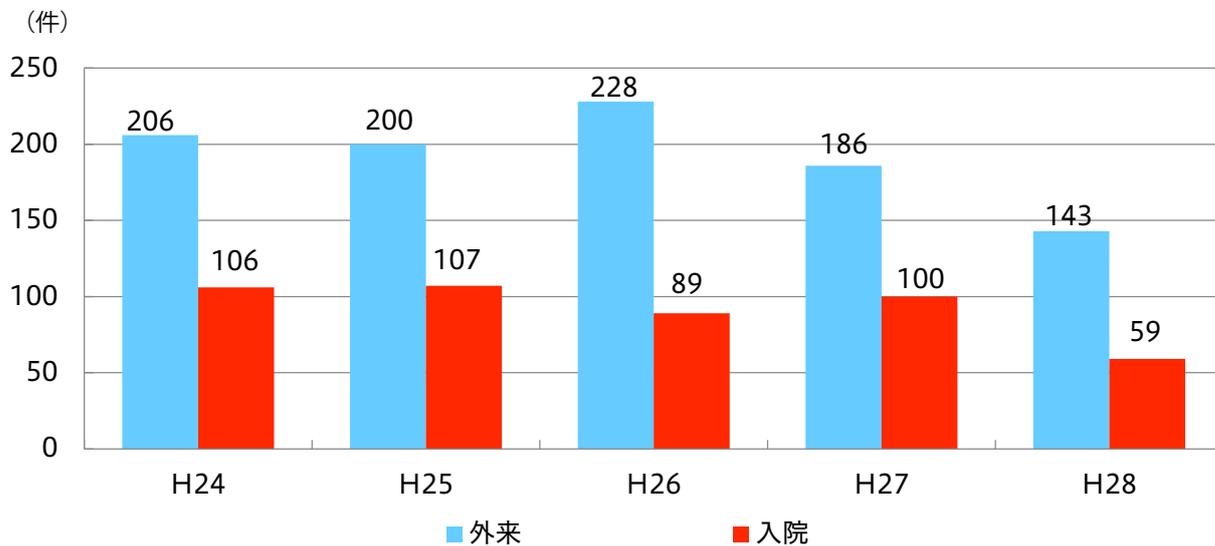
マンモグラフィ検査



MRI 検査

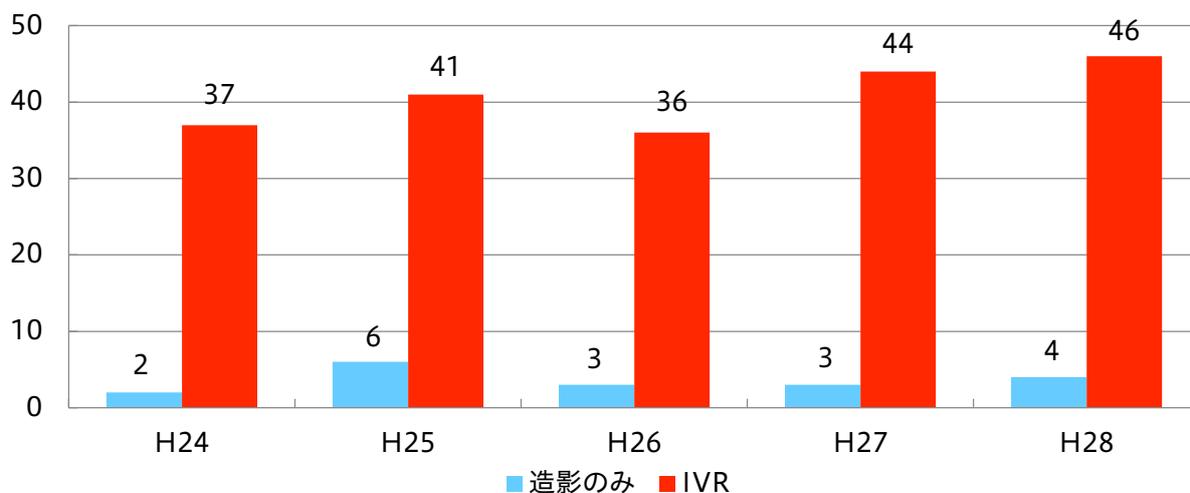


RI 検査



腹部アンギオ

(件)



年度総括

放射線科部長
高良 誠

平成 28 年度の目標は MRI、アンギオ装置の新規購入と IVR の充実を挙げています。両方とも Philips 社製の 3.0 テスラ MRI および biplane angiography system に決定しました。来年度、外来棟に設置が予定されています。IVR は例年どおり肝動脈塞栓化学療法が多かったですが、塞栓物質に球状塞栓物質を加え、治療のバリエーションが拡大しています。

平成 28 年度は常勤 2 名体制で、ダブルチェック体制、カンファレンス、研修医教育など、放射線科業務に対応しています。

平成 28 年度の CT、IVR の検査件数は増加し、MRI は横ばい、MMG、RI は減少。翌診療日までの読影加算 2 の規定は十分クリアーできています。

平成 28 年度は IVR で特に肝動脈塞栓化学療法の件数が増加し、さらに新しいデバイスなどによる治療効果の向上がありました。また MRI、CT、マンモグラフィーの診断能向上に向け、放射線科医、放射線技師、検査技師が連携して取り組んでいます。

平成 29 年度は新外来棟の完成に併せ、新しいアンギオ装置の導入および新しい MRI の導入が予定されております。アンギオ装置は前後 / 左右を同時に観察できる機械で、血管内治療時の利便性が向上します。MRI は 3.0 テスラというこれまでより高磁場の機械で、画質向上が期待され、さらにボア径の拡大、静音化など患者に優しい設計になっています。いずれも使いこなすためには細かい条件設定や慣れが必要ですが、十分な能力を発揮させられる様に対応します。

近年、RI の検査が減少していますが、まだまだ代替のきかない検査なので存続させられるよう、放射線科として適応のある症例は積極的にお勧めしていくようにします。

夜間、休日の検査で判断に迷う症例では遠隔読影の依頼をお受けしています。

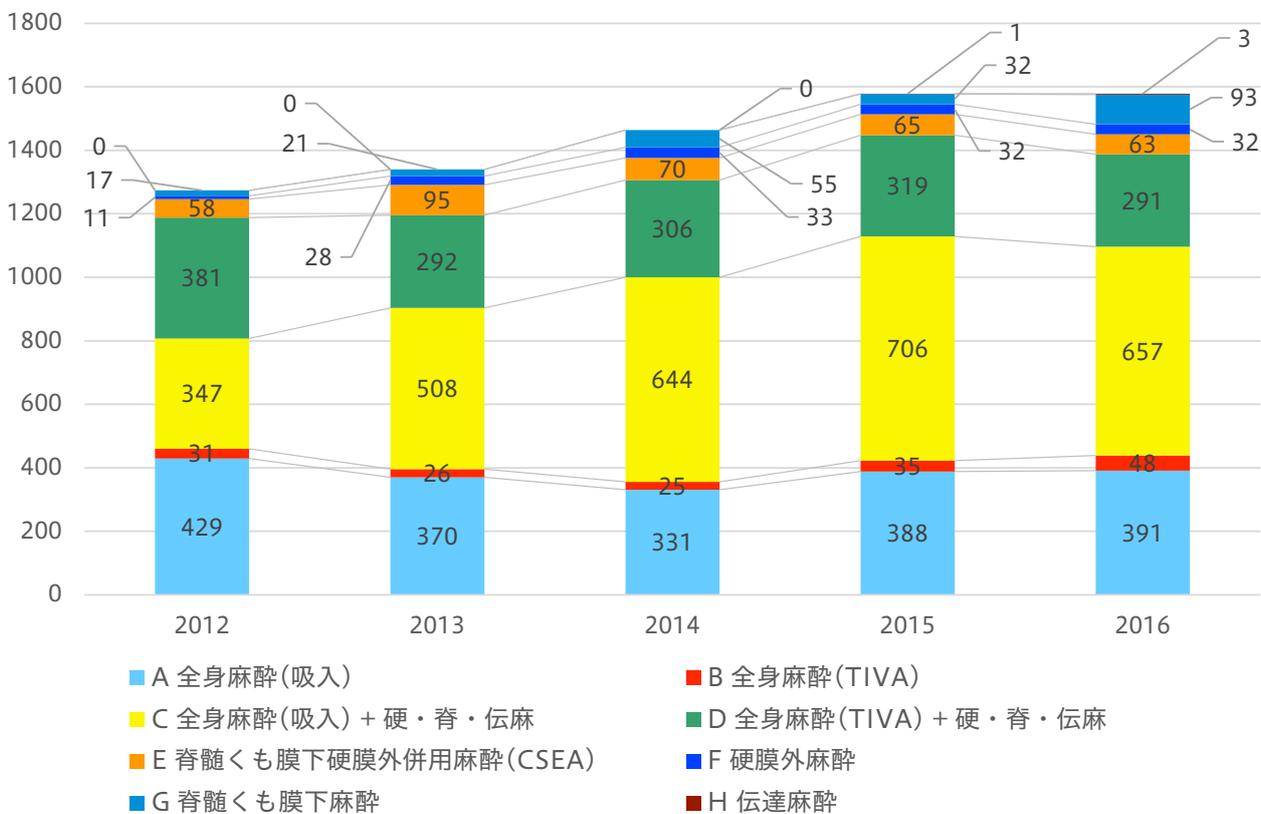
麻酔科

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

麻酔科			
副院長 手術室部長	久場 良也	集中治療・麻酔	日本麻酔科学会指導医 日本集中治療医学会専門医 日本ペインクリニック学会認定医
麻酔科部長	島袋 泰	一般麻酔	日本麻酔科学会指導医
麻酔科副部長	釜野 武志	一般麻酔	日本麻酔科学会専門医
	喜屋武 秀文	一般麻酔	日本麻酔科学会専門医
	嘉手苺 由梨	一般麻酔	日本麻酔科学会認定医

麻酔別件数推移



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
粟粒結核の治療中に転倒し後天性血友病が疑われ麻酔法の選択に苦慮した人工骨頭置換術症例	第回日本麻酔科学会九州地方会	佐賀県	2016年9月3日	釜野 武志、嘉手苺 由梨、喜屋武 秀文、島袋 泰、久場 良也
偽性軟骨無形成症合併妊婦の選択帝王切開の麻酔経験	第 36 回日本臨床麻酔学会学術集会	高知県	2016年11月3日	釜野 武志、嘉手苺 由梨、喜屋武 秀文、島袋 泰、久場 良也
PMX-DHP と CHDF の併用が有効であった臍帯血移植後に敗血症性ショックを合併した急性骨髄性白血病の一例	第 21 回エンドトキシン血症救命治療研究会	東京都	2017年2月10日	久場 良也、島袋 泰、釜野 武志、喜屋武 秀文、嘉手苺 由梨
エンドトキシン吸着療法が有用であった臍帯血移植後に敗血症性ショックを合併した急性骨髄性白血病の一例	第 44 回日本集中治療医学会学術集会	北海道	2017年3月10日	久場 良也、島袋 泰、釜野 武志、喜屋武 秀文、嘉手苺 由梨

論文著書

論文名	雑誌名	号	
当院での高齢者敗血症性ショックに対するPMX-DHP 施行症例の年代別比較	エンドトキシン血症救命治療研究会誌	第20巻1号 2016:192-5	久場 良也、釜野 武志、喜屋武 秀文、嘉手苺 由梨

年度総括



麻酔科副部長
釜野 武志

平成28年5月より島袋 泰 麻酔科部長を迎え、久場 良也 副院長、釜野、喜屋武 秀文 医師、嘉手苺 由梨 医師の計5人常勤医師で麻酔科運営を行っています。今後の手術室3床増床に合わせてもう少し常勤医師を確保できればと考えております。

主な業務は手術麻酔で、一部集中治療室管理も行っております。外科、整形外科、産婦人科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科など各外科系手術、及び内科経口内視鏡的手術の麻酔を幅広く行っております。昨年同様アカラシアに対する経口内視鏡的手術(POEM)など県内他施設ではほぼ目にする事のない手術の麻酔管理、90代の骨折手術の麻酔から乳幼児の腹腔鏡下単径ヘルニア手術の麻酔管理、帝王切開の麻酔管理まで幅広い症例の麻酔を行っているのは当院ならではのことでと考えております。集中治療室管理として、術後の呼吸管理、鎮痛管理や血液浄化の管理を中心に行っておりますが予定手術件数が多くなると集中治療室の対応が後手に回っているのが現状です。

平成28年度の麻酔管理件数は1,578件(前年同数)、全身麻酔管理件数1,384件(同4.5%減)でした。全身麻酔件数に関しては、超音波ガイド下末梢神経ブロック法の普及に伴い、いままで全身状態が悪い患者に対し全身麻酔を無理して行っていた骨折等の症例を区域麻酔で安全に施行可能になってきたため、件数が少し減少したのかと考えております。昨年同様、手術室増室までは現在の件数を維持できるようにしたいと考えております。

本年度も研究業績に挙げたとおり、久場副院長を筆頭に全員が可能な限り各学会に参加・発表を行い、レベルの高い周術期管理を実践できるよう日々研鑽しております。本年度も学会出張時には手術制限を行い各科の先生方にはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

今後とも安全で効率的な手術室管理へのご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。



副院長
久場 良也



麻酔科部長
島袋 泰



喜屋武 秀文



嘉手苺 由梨

血液浄化部

血液浄化部は、医師 3 人、月曜日の夜間透析回診琉大非常勤医師、正看護師 20 人、臨床工学技士 11 人、助手 2 人、医事課 1 人で診療にあたっています。平成 26 年度 6 月から菅谷医師が、平成 27 年 4 月から腎臓内科の張医師が加わり常勤 3 人体制で臨みました。現在、透析コンソールは 49 台で全自動プライミング装置付きです。日機装社の Future Net は院内電子カルテともリンクし日常業務の効率化が進んでいます。

患者さんの待ち時間対策として、朝の申し送りは 8 時開始、8 時 15 分を患者さんの入室時間に設定しており、患者さんには非常に好評です。

透析の患者数は平成 23 年の 133 人をピークに平成 27 年度は 109 人に低下していましたが、平成 28 年度末で 119 人に増加しました。

職員数

医師	3 名	臨床工学技士	11 名 (機器管理、カテ業務含む)
正看護師	20 名	助手	2 名
		事務	1 名

医師プロフィール

(平成 28 年 9 月現在)

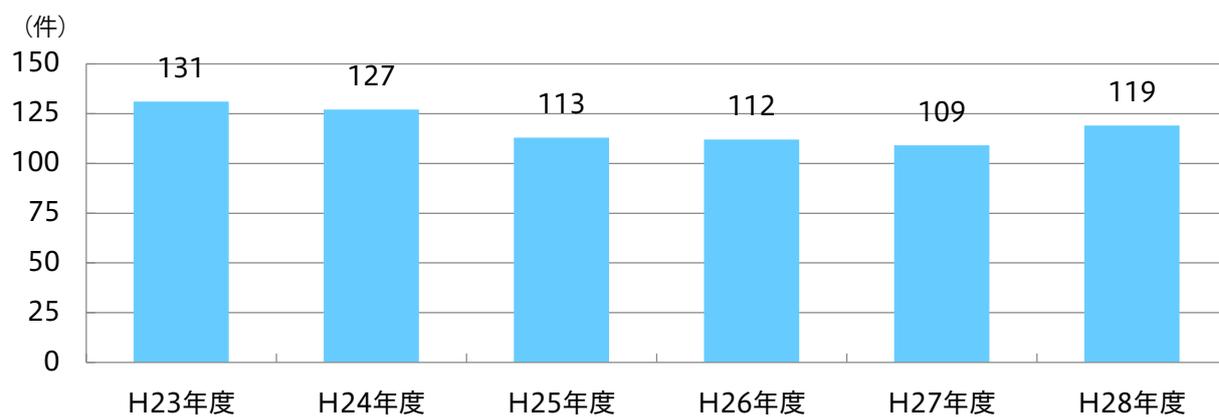
役職	氏名	専門分野	学会認定
泌尿器科部長 血液浄化部長	嘉川 春生	一般泌尿器	日本透析医学会専門医 日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医
血液浄化部医長	菅谷 明子	急性血液浄化、産業保険、外傷外科・集中治療	日本産業衛生学会専門医 産業医科大学産業医学ディプロマ 日本医師会認定産業医 日本救急医学会救急科専門医 BDLS プロバイダー JPTEC インストラクター
	張 同輝	腎臓、特に慢性腎炎	日本透析医学会指導医 日本透析医学会専門医 日本腎臓学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医 日本外科学会認定医 日本臨床腎移植学会腎移植認定医

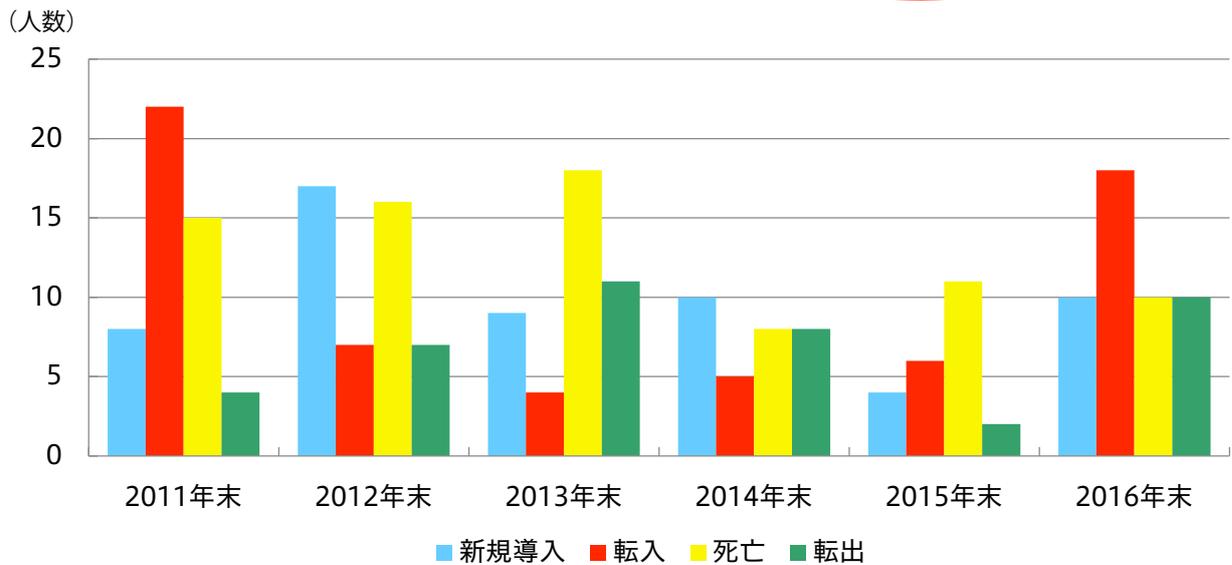
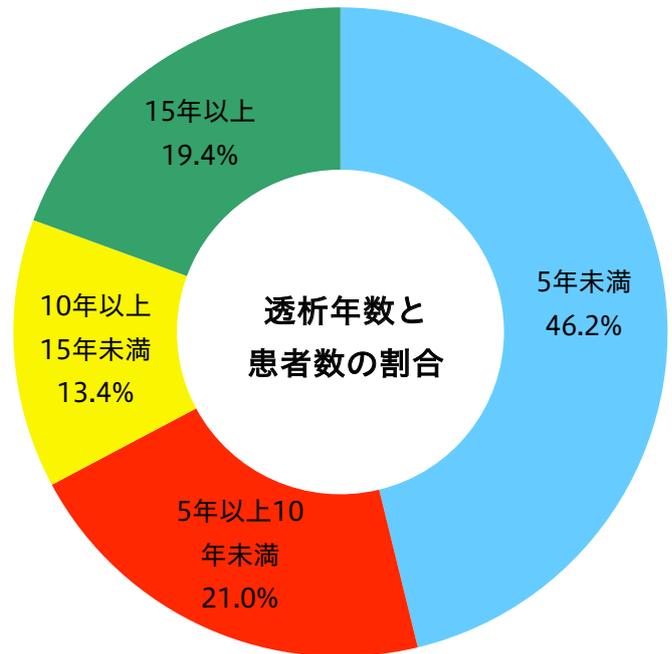
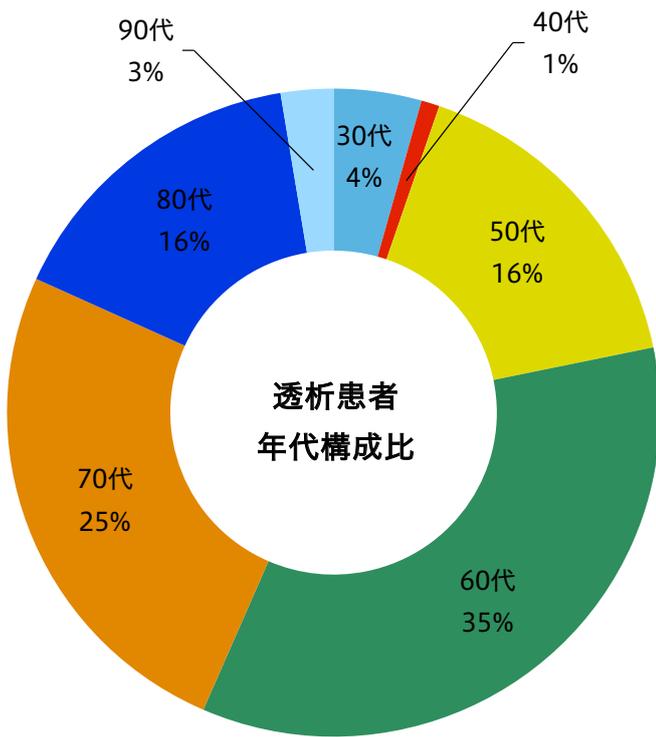
認定・資格

氏名	職種	認定・資格名
宮城幸江	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
屋良淳子	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
新里恭子	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
米須 真由美	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
田下 茜	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
赤嶺 美智江	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
呉屋久子	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
伊保 和加子	看護師	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
清水史恵	看護師	透析療法指導看護師

氏名	職種	認定・資格名
大城 安	臨床工学技士	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
野原 剛	臨床工学技士	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
弓濱義之	臨床工学技士	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
仲松晋也	臨床工学技士	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士
内里 司	臨床工学技士	透析療法専門合同委員会認定 透析技術認定士

透析患者推移





研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
A PROPOSAL GLUCOSE MEASUREMENT OF PLEURAL EFFUSION-FROM A CASE OF PLEUROPERITONEAL COMMUNICATION IN A PERITONEAL DIALYSIS PATIENT-	16thCongress of the International Society for Peritoneal Dialysis	メルボルン・オーストラリア	2016年2月27日～3月1日	張同輝、菅谷明子、嘉川春生(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院)、諸見里拓宏(沖縄県立北部病院)

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
医療機関における労働安全衛生体制の構築～かりゆし会からの報告【第5報】～産業保健活動の核となる保健師と衛生管理者を育成する	第89回日本産業衛生学会	福島県	2016年5月25日	菅谷明子、奥島憲彦、宮平典子、田中健嗣、神谷乗敏、吉川忍、波平勇一郎、大屋聡樹、池村久美子
腎臓内科医によるカンパセーションマップの報告	第4回日本糖尿病療養指導学会	京都府	2016年7月23日	張同輝、菅谷明子(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院)、久高恵、山本壽一(ハートライフクリニック)、与儀洋之(友愛会南部病院)、比嘉盛丈(友愛会豊見城中央病院)
当院の腹膜透析導入についての報告	第22回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	北海道	2016年9月24日	張同輝、菅谷明子、嘉川春生(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院)、恒吉章治(琉球大学医学部附属病院血液浄化部腎臓病総合治療学講座)、大屋祐輔(琉球大学大学院循環器・腎臓・神経内科学講座)
Report of Conversation Map sessions held by a nephrologist	11th IDF-WPR Congress 2016 & 8th AASD Scientific Meeting	Taipei Taiwan	2016年	張同輝、菅谷明子

年度総括



血液浄化部部長
嘉川 春生

今年度はVA委員会の確立を行いました。臨床工学技士が中心となり、シャントトラブルに対してそれを未然に防ぐために定期的なPTA（経皮的血管拡張術）の依頼やシャント手術の依頼が行えるシステムを確立しました。これには、循環器内科、形成外科に相当のバックアップを頂き、検査科や放射線科にも協力を依頼しました。

今年度はほかにも腹膜透析外来の立ち上げを行いました。琉大第3内科をはじめ、他院での研修を含め担当スタッフのスキルアップを図り専門外来として透析室で行っています。

さらに今年度は長期留置カテーテルの管理や定期処方院外薬局への移行を実施しました。

透析室は高齢者が多く死亡や長期入院のための転院等で患者数が減少していましたが今年度は歯止めがかかりました。

【次年度目標】

1. 新透析室へむけて業務の整理化とワンフロア55床の効率的な活用
2. 医師3人体制での透析管理体制の強化（嘉川、張、菅谷）
3. 腎臓リハビリテーションの取り組み継続
4. 火、木、土 時差透析の固定化
5. 患者さんの待ち時間対策

救急総合診療部

「ちゃんと助ける救急室」「地域に開かれた救急室」「専門診療科との高度な連携を取る救急室」「充実した研修のできる救急室」を目標に業務の改善を図っています。

平成 28 年度は、地域との関係が深くなった 1 年でした。

研究業績

学会発表

今年度も救急学会を始め多くの学会で発表を行いました。今年度の特徴としては、心電図伝送システム「スクナ」の発表を精力的に行いました。「スクナ」に関する講演依頼も三戸医師にあり、地域だけでなく、全国的にシステムの先進性を示せました。

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
中規模循環器内科にこそモバイル心電図伝送システムは有効である	第 19 回日本臨床救急医学会総会・学術集会	福島県	2016 年 5 月 14 日	三戸正人、銘苺正
クラウド型心電図・画像伝送システムが加速させる救急治療	第 44 回日本救急医学会総会	東京都	2016 年 11 月 17 日	三戸正人、銘苺正
12 誘導心電図伝送システム導入の理想と現実	第 4 回 12 誘導心電図伝送を考える会	東京都	2017 年 1 月 14 日	三戸正人、銘苺正
VV-ECMO を利用し、安全に気管ステントを留置できた 3 症例	第 44 回日本集中治療医学会学術集会	北海道	2017 年 3 月 11 日	三戸正人、銘苺正
沖縄からの支援 DMAT としての参集方法を検討する	第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会	愛知県	2017 年 2 月 13 日	三戸正人、銘苺正

医師プロフィール

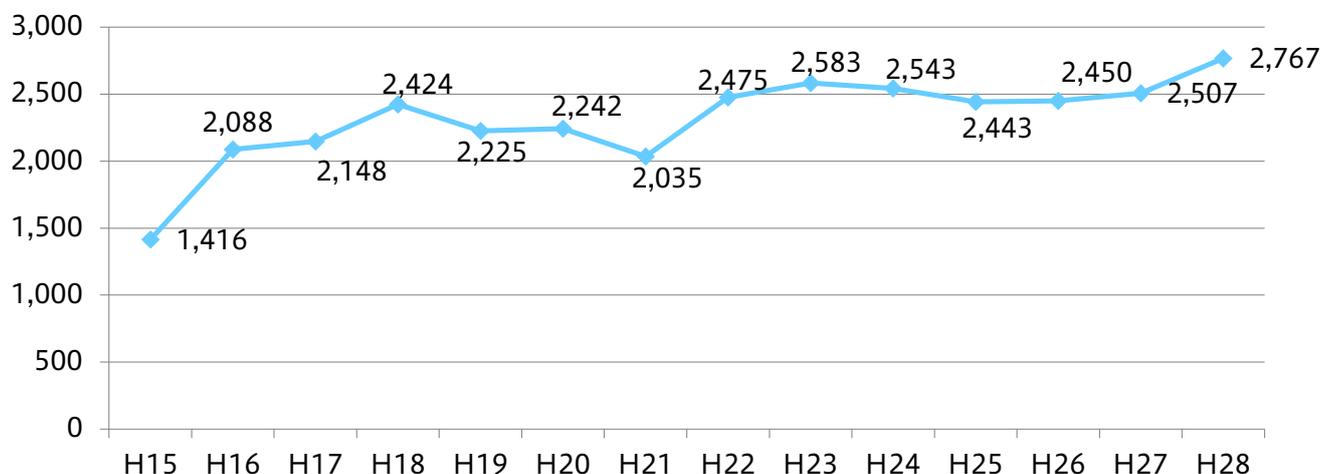
平成 29 年度から開始される新専門医制度の専攻医確保のため、県内の体制づくりの会議に積極的に参加しました。

(平成 28 年 9 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
救急総合診療部長	銘苺 正	一般外科、外傷外科	日本医師会認定産業医
救急総合診療部副部長 循環器内科医長	三戸 正人	循環器救急、地域医療、 スポーツ医学	日本救急医学会救急科専門医 日本循環器学会専門医 日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医 日本体育協会公認スポーツドクター 日本医師学会認定健康スポーツ医

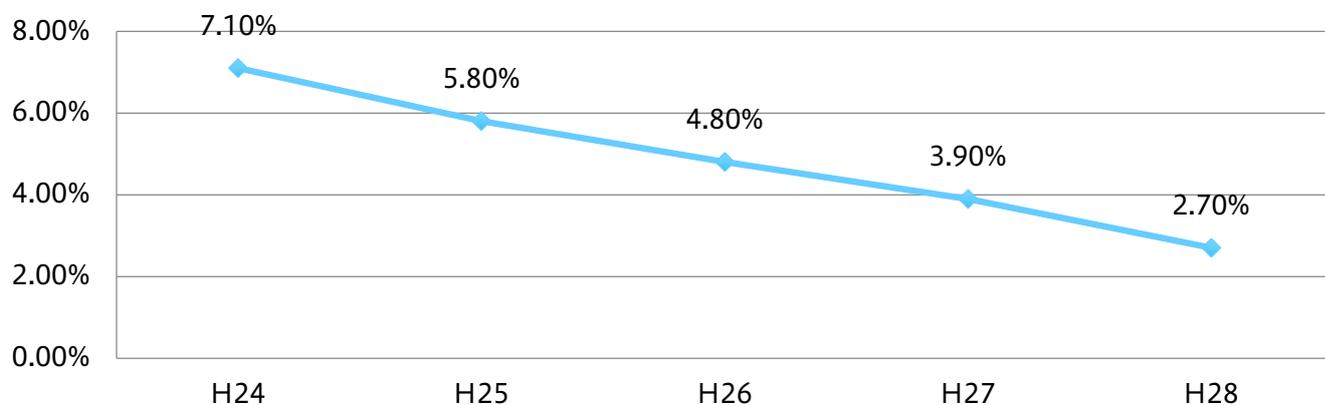
実績

救急搬送受け入れ患者の推移



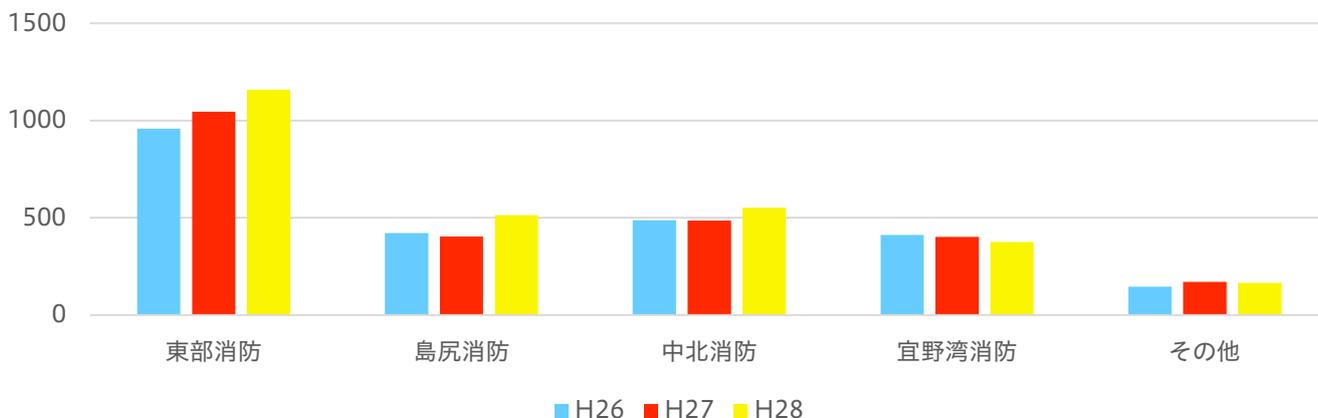
救急搬送患者数は初めて2,700件を上回りました。昨年に比べ260件、10.4%増となっています。搬送患者の入院率は約50%で昨年と同じですが、搬送数が多い分、実数は増加しています。

不応受率



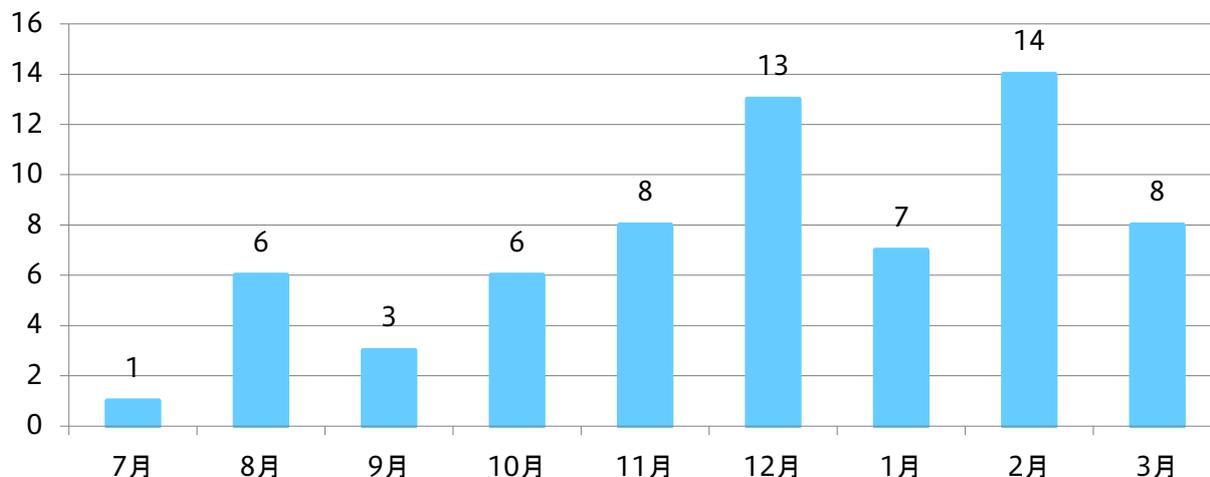
救急車の断り件数・不応受率は低下傾向にあり、平成24年度の61%まで減少しています。原因としては、各科医師の理解と協力、断り基準の明確化、消防署との緊密な連絡により当院の受け入れ体制の理解が進んだことなどが考えられます。

消防署別搬送数



昨年度の実績報告で予想した通り、東部消防と島尻消防の搬送数が増加しています。これは近隣病院の救急業務縮小が影響していると分析しています。中部徳洲会の移転による、宜野湾消防の搬送数減少も予想通りでしたが、影響は予想より少ないものでした。同じ理由で中北消防の減少を予想していましたが、実際には搬送数の増加が認められました。

ドクターカー実績



救急車型ドクターカーの運用を開始しました。それに伴い、近隣消防と協定を結び、消防指令からの直接的なドクターカー出動要請が増加するものと思わます。

現在は、近隣クリニックや介護施設からの搬送依頼が主ですが、外傷現場への出動実績も積みつつあります。

ドクターカー導入を記念して、救急フェスタを開催しました。予想以上の地域の方々にお越しいただき、概ね好評であったと自負しています。このフェスタに消防隊員のボランティア参加が多かったことは、症例検討会などでこれまで積み上げてきた消防署との信頼関係が大きく貢献しているものと考えます。

その他の実績

DMAT 隊が熊本地震被災に派遣されました。当院の DMAT 隊は沖縄県勢では、熊本一番乗りを果たしました。

来年度の目標

●休日受け入れ態勢の充実

平日の救急はドクターカー出動を含めて、かなり充実していますが、夜間・休日の救急対応レベルをいかに向上させるかが一番の課題です。

●研修医教育の充実：特に後期研修医希望者の育成

JATEC への 2 年目研修医の派遣

新専門医研修関連病院申請中

今年はオフザジョブトレーニングを開始できたので充実させたいと思います。

●DMAT、病院救急車同乗出動の体制構築

平日の内科系は、かなり体制が固まりました。

●携帯型心電計の活用

年度総括



救急総合診療部長
銘苅 正

1：診療体制

月～金の夜間の Load&Go 患者の受け入れを開始しました。平成 28 年度は、平日夜間の L&G 症例は 2 例のありました。耳鼻科の常勤が不在なため、幾つかの問題がありました。平成 29 年度は、泌尿器科が一人体制になることも含め、マイナー科の救急体制検討が必要となります。

また、現在行われている増改築工事で、かなりスペースが広がるので、その有効活用を考えていきます。特に災害拠点病院としての役割や、シュミレーション教育に、スペースを有効利用できないか計画中です。

2：地域支援

医師や看護師への負担が増えていますが、ドクターカーによる地域医療機関へのサービスが充実してきています。

3：専門診療科との連携

専門診療科との連携を今後も深めていく方針です。今年度は専門家の医師に依頼して、救急マニュアルの改定を行いました。

4：研修・教育

平成 28 年度の目標として可能な限り、院外の研修医や学生を受け入れたいと考えていました。また、救急室で研修した研修医には、救急や循環器の学会にいくつかの演題を出すことができました。これは副部長の三戸医師の頑張りが大きいところ です。

今年度も救急や総合診療の専門家に講演をお願いしました。来年度も積極的に講演会を計画したいと思います。

当院で行っている救急隊との症例検討会は、院外からの関心も高く評価されています。研修医の教育や学会発表の訓練の場としても有効と感じています。当院の初期研修医の中から、救急医療を希望する者が出るように努力します。その一環として、2 年目研修医の JATEC 受講を積極的に進めていきたいと思っています。また、循環器内科や形成外科が行っているオフザジョブトレーニングを救急部でも積極的に取り入れたいと考えています。

メディカルクラーク

職員数

総数

17名

認定・資格

認定・資格名	人数
診療情報管理士	3
医師事務作業補助技能認定資格	14

運営方針

1. 医師の業務軽減を図る
2. 他職種との協働によるチーム医療を目指す
3. スキルの向上に努める

平成 28 年度業務計画

6. 業務量の偏りをなくし、残業時間を減らす
7. 新人教育の流れを見直す
8. 病棟業務の新規開拓
9. 担当科を定期的に交代し、スタッフのスキルアップを図る

業務実績

文書作成

名称	H26	H27	H28
生命保険文書	1,747	1,847	1,856
介護主治医意見書	485	480	462
傷病手当金請求書	404	464	377
医療要否意見書	653	606	611
特定疾患調査票	288	226	285
身障 / 年金診断書	155	265	276
自賠責診断書	1,107	1,181	1,118
その他	1,612	1,762	2,013
合計	6,451	6,831	6,998

名称	H26	H27	H28
退院サマリー	1,053	774	827
高額コメント	287	290	115
NCD (外科手術症例登録)	805	999	916

統計業務

- ・ 日本胸部外科学会食道分野学術調査
- ・ 日本内視鏡外科学会症例報告
- ・ 日本外科学会指定施設年次報告
- ・ 日本ヘルニア学会症例報告
- ・ 日本血液学会疾患登録
- ・ 日本短期滞在手術外科手術手技研究会アンケート
- ・ 外科研修関連施設実績報告（琉大・東京女子医大）
- ・ 乳癌症例報告

活動実績

研修会・セミナー参加など

名称	開催地	年月日	参加者
医師事務作業補助者コース受講	東京	2016年6月24日	1名
沖縄県医師事務作業補助者勉強会	県内	2016年8月20日	9名
日本医療秘書実務学会第7回全国大会	岡山	2016年9月10日	2名
リーダー対象医師事務活用セミナー	石川	2016年10月14日	1名
沖縄県医師事務作業補助者意見交換会	県内	2016年11月19日	3名
医師事務ケーススタディ勉強会	県内	2016年12月17日	4名
院内緩和ケア研修会	院内	2017年1月7日	2名
沖縄県医師事務作業補助者勉強会	県内	2017年3月18日	8名

医局総括



医局長兼
呼吸器内科部長
普天間 光彦

日々の診療に関してはプライマリーケアから専門的な医療までエビデンスに基づき、患者さんに寄り添った医療に取り組んできました。

第一、第三木曜には、夕方に医局会を開催し、医局員の団結を深めています。

学術的領域では年間2～6回の学会への発表・参加、県内・県外の講演会参加等で知識の向上を図り、ラボ実習や手術・手技見学等で技術の研鑽に励みました。また、院内での定期的な取り組みとしては、毎週水曜のジャーナルクラブ（勉強会）、火曜・木曜・金曜の朝には研修医に対するレクチャー等、大変忙しく勉強してまいりました。

医局行事としては、年に数回の歓送迎会、ビアパーティー、研修終了パーティー、忘年会等を執り行いました。

このように活気あふれる医局として自認しておりますが、次年度は病院の増改築もあり、更なる飛躍を目指して努力していきます。

看護部

部門紹介

職員数（平成 28 年 4 月 1 日現在）

総数	462 名	保育士	1 名
保健師	5 名	栄養士	1 名
助産師	21 名	クラーク	19 名
正看護師	353 名	事務	2 名
准看護師	18 名		
看護助手	42 名		

認定看護師・認定看護管理者

氏名	認定看護分野
内間 幸人	集中ケア
島袋 すが子	慢性心不全看護
本田 由佳里	がん化学療法看護
砂川 克子	乳がん看護
兼本 愛美	救急看護

氏名	認定看護分野
嘉数 智子	皮膚・排泄ケア
石川 由希	感染管理
宮城 美那	感染管理
城間 克也	感染管理
仲地 ますみ	認定看護管理者

看護部理念

わたくしたちは、患者さんの信頼に応え、感性豊かな心ふれあう看護を提供いたします。

看護部運営方針

1. 患者さんに満足していただける環境ときめ細やかな看護サービスを提供する
2. 専門職として看護の基本を大切にされた質の高い看護を実践する
3. 温かい心のふれあう看護ができる豊かな感性を培う
4. 地域住民のニーズに応える医療・保健・福祉を総合的にとらえ、地域医療に貢献する
5. 医療チーム内の情報交換を密にし、よいチームワークを図り、業務を円滑にする

看護体制

7 : 1 看護

勤務体制 二交替制

看護方式 PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム)

■内視鏡センター

■予防医学センター

■一般病棟

- ・ 2 階病棟 (産婦人科)
- ・ 3 階病棟 (整形外科・脳神経外科・眼科・形成外科)
- ・ 3 階新病棟 (混合)
- ・ 4 階病棟 (外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科)
- ・ 5 階病棟 (消化器内科・小児科)
- ・ 6 階病棟 (血液内科※クリーンルーム 10 床)
- ・ 7 階病棟 (呼吸器内科・循環器内科・糖尿病)

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地		所属	担当・参加者
新入職者オリエンテーション	病院	院内	2016 年 4 月 1 ~ 月 2	—	総務課、看護部
基礎看護技術研修	看護部	院内	2016 年 4 月 4 ~ 4 月 20	主任会・教育委員会	仲地ますみ、主任会
リンパ浮腫講習会	琉球光和	県内	2016 年 4 月 16、17	2F	成田明日香、小森名津季
乳房ケア	BS ケアプロジェクト	県内	2016 年 4 月 29 ~ 30	2F	上原美佳
領域研修 (感染②)	院内認定看護師会	院内	2016 年 5 月 6 日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城間克也
フレッシュマン研修	沖縄県看護協会	県内	2016 年 5 月 11 日、18 日、25 日	各部署	新人看護師 14 名
フィジカルアセスメント	沖縄県看護協会	県内	2016 年 5 月 6 日	7F・救急外来	照屋杏奈、松原賛美
領域研修 (救急看護①)	院内認定看護師会	院内	2016 年 5 月 13 日	救急外来	兼本愛美、竹本健太
領域研修 (糖尿病看護①)	院内認定看護師会	院内	2016 年 5 月 20 日	看護部	堀江恭子
助手研修①	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 20 日	主任会・教育委員会	米須智子、島袋香織、奥間有太郎、甲斐博子
中堅研修①	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 26 日	教育委員会	島袋すが子、宮城つかさ、古波倉美登利、小橋川広美
領域研修 (慢性心不全看護①)	認定看護師会	院内	2016 年 5 月 27 日	7F	島袋すが子
医療事故調査制度と看護記録	沖縄県看護協会	県内	2016 年 5 月 27 日	看護部	外間真紀子、仲地ますみ、鈴木千恵
周術期管理チームセミナー	日本麻酔科学会	福岡	2016 年 5 月 27 ~ 29	OR	富田賢一
CLoCMiP 研修	日本助産実践能力推進協議会	e-ラーニング	2016 年 5 月 28 ~ 7 月 28	2F	我那覇美帆
プリセプター報告会	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 30 日	主任会	仲地ますみ 半嶺梢、金城隆也
領域研修 (感染②)	院内認定看護師会	院内	2016 年 6 月 3 日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城間克也
日看協通常総会・全国職能別集会	日本看護協会	千葉	2016 年 6 月 7 ~ 6 月 9	予防医学	小橋川広美
看護部領域研修 (呼吸ケア①)	認定看護師会	院内	2016 年 6 月 10 日	救急外来	内間幸人

研修名	主催	開催地		所属	担当・参加者
看護部領域研修(安全①)	看護部	院内	2016年6月10日	医療安全・管理室	中野久乃
地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み	沖縄県看護協会	県内	2016年6月11日	看護部・7F	宮平典子、島袋すが子
第61回日本透析医学会学術集会	日本透析医学会	大阪	2016年6月11日～13日	透析室	上原千晶
助手研修②	看護部教育委員会	院内	2016年6月17日	主任会・教育委員会	米須智子、島袋香織、奥間有太郎、甲斐博子
基礎から学ぶ救急看護	沖縄県看護協会	県内	2016年6月21日	6F・5F・4F	真柴田さつき、上運天明穂、樋口真美、与那嶺裕、末吉彩夏
新人看護師3か月フォローアップ研修	看護部教育委員会	院内	2016年6月24日	教育委員会	仲地ますみ、半嶺梢、金城隆也、東恩納小百合、鈴木千恵
プリセプター報告会	看護部教育委員会	院内	2016年6月27日	主任会	仲地ますみ、半嶺梢、金城隆也
中堅研修②	看護部教育委員会	院内	2016年6月30日	教育委員会	島袋すが子、宮城つかさ、古波倉美登利、小橋川広美
領域研修(感染③)	院内認定看護師会	院内	2016年7月1日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城間克也
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	沖縄県看護協会	県内	2016年7月5日、8月18日	OR・5F・4F	比嘉憲貴、米須智子、宮城つかさ
看護部領域研修(安全②)	看護部	院内	2016年7月8日	医療安全・管理室	中野久乃
看護部領域研修(呼吸ケア②)	認定看護師会	院内	2016年7月8日	救急外来	内間幸人
認知症高齢者の看護に必要な知識	沖縄県看護協会	県内	2016年7月8～9月	5F・7F・3F	大城祥子、宮城梨乃、知念宏共
新人リフレッシュ研修	看護部教育委員会	県内	2016年7月13日	主任会	主任会、プリセプター
認知症対応力向上研修会	全日本病院協会	東京	2016年7月14～15月	3F 5F 7F	屋宜鮎美、鈴木千恵、知念恵子
領域研修(救急看護①)	院内認定看護師会	院内	2016年7月15日	救急外来	兼本愛美、竹本健太
第47回日本看護学会学術集会	日本看護学会	県内	2016年7月15～16月	救急外来	大宜味宗史
医療安全と助産記録	沖縄県看護協会	県内	2016年7月19日	2F	具志堅理沙、金城嘉奈子
モニター講習会(ベーシック)	日本光電 臨床工学化	院内	2016年7月21日	各部署	卒後3年目中心に22名
中堅研修③	看護部教育委員会	院内	2016年7月22日	教育委員会	島袋すが子、宮城つかさ、古波倉美登利、小橋川広美
看護部領域研修(がん看護①)	認定看護師会	院内	2016年7月22日	外来	本田由佳理、砂川克子
看護実践能力を育てる	沖縄県看護協会	県内	2016年7月22日	7F・内視鏡	島袋すが子、喜屋武香織
重症度、医療・看護必要度 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	県内	2016年7月24日	看護部 6F・5F・4F	宮平典子、仲地ますみ、仲田ひろ子、鈴木千恵、與那覇亜紀子
プリセプター報告会	看護部教育委員会	院内	2016年7月25日	主任会	仲地ますみ、半嶺梢、金城隆也
第57回日本人間ドック学会学術大会	日本人間ドック学会	長野	2016年7月27～30月	予防医学	安次富道代
領域研修(慢性心不全看護②)	認定看護師会	院内	2016年7月29日	7F	島袋すが子
リーダーシップ研修I	沖縄県看護協会	県内	2016年7月29日	4F・7F	宮平良太、与那嶺美咲
がん看護I	沖縄県看護協会	県内	2016年7月30日	4F・6F	下地睦、外間勝貴
3年目研修	看護部教育委員会	院内	2016年8月5日	主任会	比嘉憲貴、屋宜鮎美、宮平良太、喜屋武香織、洲鎌正子
看護部領域研修(呼吸ケア③)	認定看護師会	院内	2016年8月5日	救急外来	内間幸人

研修名	主催	開催地		所属	担当・参加者
退院調整力向上の取り組み	沖縄県看護協会	県内	2016 年 8 月 6 日	連携室 外来 7F・5F	竹本直美、屋良ちえみ、 新川優子、鈴木千恵
領域研修(感染④)	院内認定看護師会	院内	2016 年 8 月 12 日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城 間克也
領域研修(救急看護③)	院内認定看護師会	院内	2016 年 8 月 19 日	救急外来	兼本愛美、竹本健太
第 61 回新生児蘇生法講習会	新生児蘇生法普及 実行委員会	県内	2016 年 8 月 20 日	2F	富里由美子
予期せぬ死亡、死産発生時の対応	沖縄県看護協会	県内	2016 年 8 月 20 日	2F	我那覇美帆、原順子
災害看護	沖縄県看護協会	県内	2016 年 8 月 22 日	看護部 外来・7F	宮平典子、安谷屋佳子、 仲里寛、屋良ちえみ
中堅研修④	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 25 日	教育委員 会	島袋すが子、宮城つかさ、 古波倉美登利、小橋川広 美
領域研修(慢性心不全看護③)	認定看護師会	院内	2016 年 8 月 26 日	7F	島袋すが子
重症度、医療・看護必要度 院内指 導者研修	日本臨床看護マネ ジメント学会	県内	2016 年 8 月 28 日	2F ICU・ 7F・6F・ 5F・4F・ 3F・OR	平屋敷加代、安村公均、 仲里寛、金城隆也、比嘉 君代、宮平良太、屋宜鮎美、 奥間有太郎、宮城美奈
プリセプター報告会	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 29 日	主任会	仲地ますみ、半嶺梢、金 城隆也
施設における継続教育のプログラム開 発	沖縄県看護協会	県内	2016 年 8 月 31 日	教育委員 会	竹本健太、屋宜鮎美
医療安全管理者に求められるもの	沖縄県看護協会	県内	2016 年 9 月 2 日	内視鏡	古波倉美登利
領域研修(感染⑤)	院内認定看護師会	院内	2016 年 9 月 2 日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城 間克也
看護の本質を再確認	沖縄県看護協会	県内	2016 年 9 月 3 日	7F	上原慎
看護部領域研修(呼吸ケア④)	認定看護師会	院内	2016 年 9 月 8 日	救急外来	内間幸人
看護師救急医療実施修練	厚生労働省医政局	東京	2016 年 9 月 8 日、 16 日、26 日～30 日	救急外来	竹本健太
2 年目研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 9 日	主任会	屋良ちえみ、瀬底真由美、 與那覇亜紀子
救急看護ブラッシュアップセミナー	救急看護認定看護 師会	滋賀県	2016 年 9 月 9～11 日	CN	兼本愛美
重症度、医療・看護必要度院内研修	看護部	院内	2016 年 9 月 13 日		部署師長、主任
がん看護Ⅱ	沖縄県看護協会	県内	2016 年 9 月 14 日	4F・6F	下地睦、外間勝貴
領域研修(救急看護④)	院内認定看護師会	院内	2016 年 9 月 16 日	救急外来	兼本愛美、竹本健太
第 29 回サイコオンコロジー学会	日本サイコオンコ ロジー学会	札幌	2016 年 9 月 22 日 ～25 日	CN・2F	本田由佳里、成田明日香
第 22 回日本腹膜透析学会学術集会	日本腹膜透析学会	札幌	2016 年 9 月 23 日 ～25 日	透析室	山内敦子
看護職と倫理	沖縄県看護協会	県内	2016 年 9 月 23 日	ICU・内視 鏡・救急外 来	安村公均、古波倉美登利、 内間幸人
看護部領域研修(がん看護②)	認定看護師会	院内	2016 年 9 月 23 日	外来	本田由佳理、砂川克子
保健師助産師看護師実習指導者講習 会	沖縄県	県内	2016 年 9 月 28 日 ～11 月 29 日	3F・5F	奥間有太郎、大城祥子
中堅研修⑤	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 29 日	教育委員 会	島袋すが子、宮城つかさ、 古波倉美登利、小橋川広 美
新人看護師 6 か月フォローアップ研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 30 日	教育委員 会	外間真紀子、仲地ますみ、 半嶺梢、金城隆也、仲里 寛、
師長・主任合同研修	看護部	院内	2016 年 10 月 4 日	看護部	宮平典子、仲地ますみ
がん看護Ⅲ	沖縄県看護協会	県内	2016 年 10 月 5 日	4F・6F	高宮理沙、外間勝貴

研修名	主催	開催地		所属	担当・参加者
第1回乳房オンコプラスチックサージャリー看護セミナー	日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会	東京	2016年10月6日 ～10月7日	CN	砂川克子
領域研修(感染⑥)	院内認定看護師会	院内	2016年10月7日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城間克也
リーダーシップ研修Ⅲ	沖縄県看護協会	県内	2016年10月7日	外来・3F 5F・透析室	安谷屋佳子、屋宜鮎美、鈴木千恵、宮城幸江
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	沖縄県看護協会	県内	2016年10月13日 ～14日	7F・6F・ 5F・4F・ 3F	宮城梨乃、備瀬結香、山城由衣、富里理恵、與那覇亜紀子、知念宏共
領域研修(救急看護⑤)	院内認定看護師会	院内	2016年10月14日	救急外来	兼本愛美、竹本健太
スピリチュアルケアといのちの質	民間病院管理者会	県内	2016年10月20日	7F・外来・ 6F	久手堅政直、屋良ちえみ、仲田ひろ子
プリセプター研修	看護部教育委員会	院内	2016年10月21日	教育委員会	仲地ますみ、半嶺梢、金城隆也、
第10回沖縄感染管理・洗浄滅菌研修会		県内	2016年10月22日	OR	比嘉憲貴、東恩納小百合、宮城美那
中堅研修⑥	看護部教育委員会	院内	2016年10月27日	教育委員会	島袋すが子、宮城つかさ、古波倉美登利、小橋川広美
看護部領域研修(がん看護③)	認定看護師会	院内	2016年10月28日	外来	本田由佳理、砂川克子
看護部門長研修コース	全日本病院協会	東京	2016年10月28日 ～30日	看護部	宮平典子
院内研究発表会看護部予選会	看護部	院内	2016年10月29日	師長会	古波倉美登利、小橋川広美
地域包括的視点に基づく看護管理	沖縄県看護協会	県内	2016年10月29日	4F	宮城つかさ
第18回日本救急看護学会	日本救急看護学会	千葉	2016年10月29日 ～30日	救急外来	兼本愛美、恒富加奈、徳比嘉佳奈
領域研修(感染⑦)	院内認定看護師会	院内	2016年11月4日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城間克也
看護部領域研修(安全③)	看護部	院内	2016年11月11日	医療安全・ 管理室	外間真紀子
看護部領域研修(呼吸ケア⑤)	認定看護師会	院内	2016年11月11日	救急外来	内間幸人
下部尿路機能障害の治療とケア研修会	全日本病院協会	東京	2016年11月11日 ～12日	7F・4F・ 3F	宮城久美子、宮里誠、与那嶺美咲
第63回新生児蘇生法講習会	新生児蘇生法普及実行委員会	県内	2016年11月12日	2F	我那覇美帆
領域研修(救急看護⑥)	院内認定看護師会	院内	2016年11月18日	救急外来	兼本愛美、竹本健太
看護部領域研修(がん看護④)	認定看護師会	院内	2016年11月25日	外来	本田由佳理、砂川克子
中堅看護師研修⑥ 実践報告会	看護部教育委員会	院内	2016年11月25日	教育委員会	島袋すが子、宮城つかさ、古波倉美登利、小橋川広美
第17回日本クリニカルパス学会学術集会	日本クリニカルパス学会	金沢	2016年11月25日 ～26日	4F	與那覇亜紀子、喜屋武ゆりか
プリセプター報告会	看護部教育委員会	院内	2016年11月28日	主任会	仲地ますみ、半嶺梢、金城隆也
領域研修(感染⑧)	院内認定看護師会	院内	2016年12月2日	院内 ICT	石川由希、宮城美那、城間克也
新人看護職員研修教育担当者研修	沖縄県看護協会	県内	2016年12月4日、 6日、7日	主任会	我那覇美帆、花城優子
看護部門長研修コース	全日本病院協会	東京	2016年12月2日 ～月4	看護部	宮平典子
新人看護職員実地指導者研修	沖縄県看護協会	県内	2016年12月7日 ～9日	3F・7F	松村優美、宮城梨乃
中堅研修⑦	看護部教育委員会	院内	2016年12月8日	教育委員会	島袋すが子、宮城つかさ、古波倉美登利、小橋川広美

研修名	主催	開催地		所属	担当・参加者
NST 臨床実地修練	宜野湾記念病院	県内	2016 年 12 月 8 日	7F	當眞さゆり
看護部領域研修 (安全④)	看護部	院内	2016 年 12 月 9 日	医療安全管理室	外間真紀子
看護部領域研修 (呼吸ケア⑥)	認定看護師会	院内	2016 年 12 月 9 日	救急外来	内間幸人
第 49 回九州人工透析研究学会	九州人工透析研究会	熊本	2016 年 12 月 10 ~ 月 12	透析室	宮城幸江、田下茜
認知症高齢者の看護に必要な知識	沖縄県看護協会	県内	2016 年 12 月 13 日	5F・4F	知念晶子、新里紗希果
2 年目症例発表会	看護部教育委員会	院内	2016 年 12 月 16 日	主任会	勝連しのぶ、高宮恵利子
プリセプター報告会	看護部教育委員会	院内	2017 年 1 月 10 日	主任会	仲地ますみ、半嶺梢、金城隆也
1 年目体験発表会	看護部教育委員会	院内	2017 年 1 月 27 日	主任会	半嶺梢、金城隆也、プリセプター
看護部門長研修コース	全日本病院協会	東京	2017 年 1 月 27 日 ~ 月 29	看護部	宮平典子
第 16 回 Needlescopic Surgery Meeting	Needlescopic Surgery Meeting	県内	2017 年 1 月 28 日	OR	東恩納小百合、宮城美那久志周子
第 31 回日本がん看護学会学術集会	日本がん看護学会	高知	2017 年 2 月 4 ~ 月 6	CN	本田由佳里
第 64 回新生児蘇生法講習会	新生児蘇生法普及実行委員会	県内	2017 年 2 月 4 日	2F	古謝奈津紀、江島純子
プリセプター研修 (29 年度向)	看護部教育委員会	院内	2017 年 2 月 10 日	主任会	仲地ますみ、半嶺梢、花城優子、我那覇美帆
モニター講習会	日本光電 臨床工学科	院内	2017 年 2 月 16 日	各部署	ベーシック受講済の 13 名
第 31 回沖縄県看護研究学会			2017 年 2 月 18 日		
2017JSPEN 臨床栄養セミナー	日本静脈経腸栄養学会	岡山	2017 年 2 月 22 日 ~ 26 日	7F	當眞さゆり
第 32 回日本環境感染学会学術集会	日本環境感染学会	神戸	2017 年 2 月 23 日 ~ 25 日	CN	城間克也
師長・主任合同研修	看護部	院内	2017 年 3 月 7 日	看護部	宮平典子、仲地ますみ
プリセプター研修	看護部教育委員会	院内	2017 年 3 月 10 日	教育委員会	仲地ますみ、半嶺梢、新川優子、成田明日香
1 年目フォローアップ研修・修了式	看護部教育委員会	院内	2017 年 3 月 10 日	教育委員会	仲地ますみ、半嶺梢、新川優子、成田明日香
第 35 回沖縄県人工透析研究会	沖縄県人工透析研究会	県内	2017 年 3 月 12 日	透析室	川満桃子、伊保和歌子

各部署概要・実績

外来

外来師長 安谷屋 佳子

職員数

総数	37名		
看護師	23名	看護助手	4名
准看護師	1名	クラーク	9名

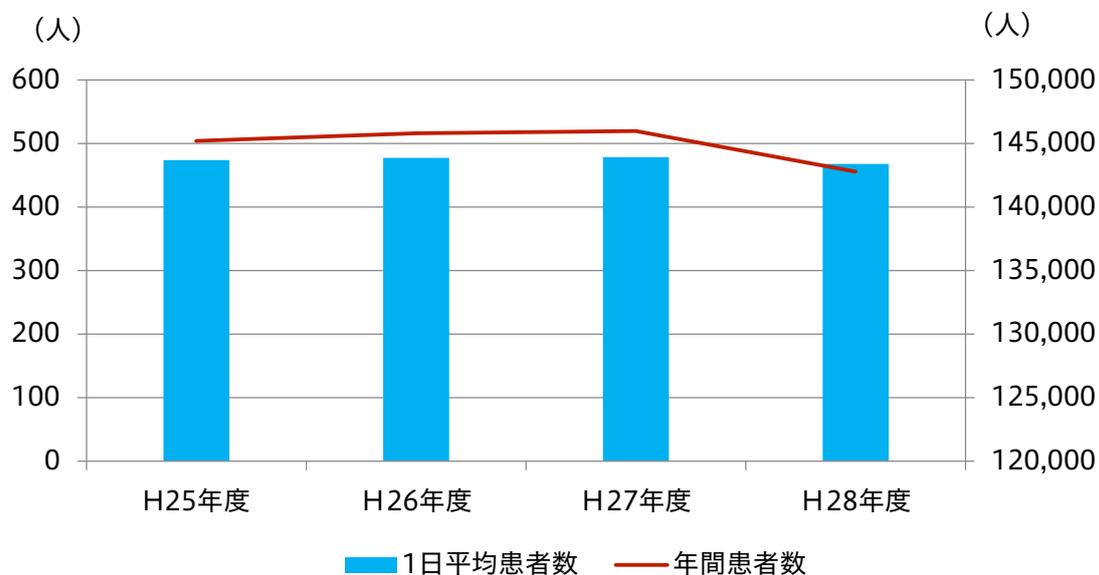
認定看護師

名称	人数
リンパ浮腫複合的治療技術者	1名
乳がん認定看護師	1名
慢性心不全認定看護師	1名

資格取得

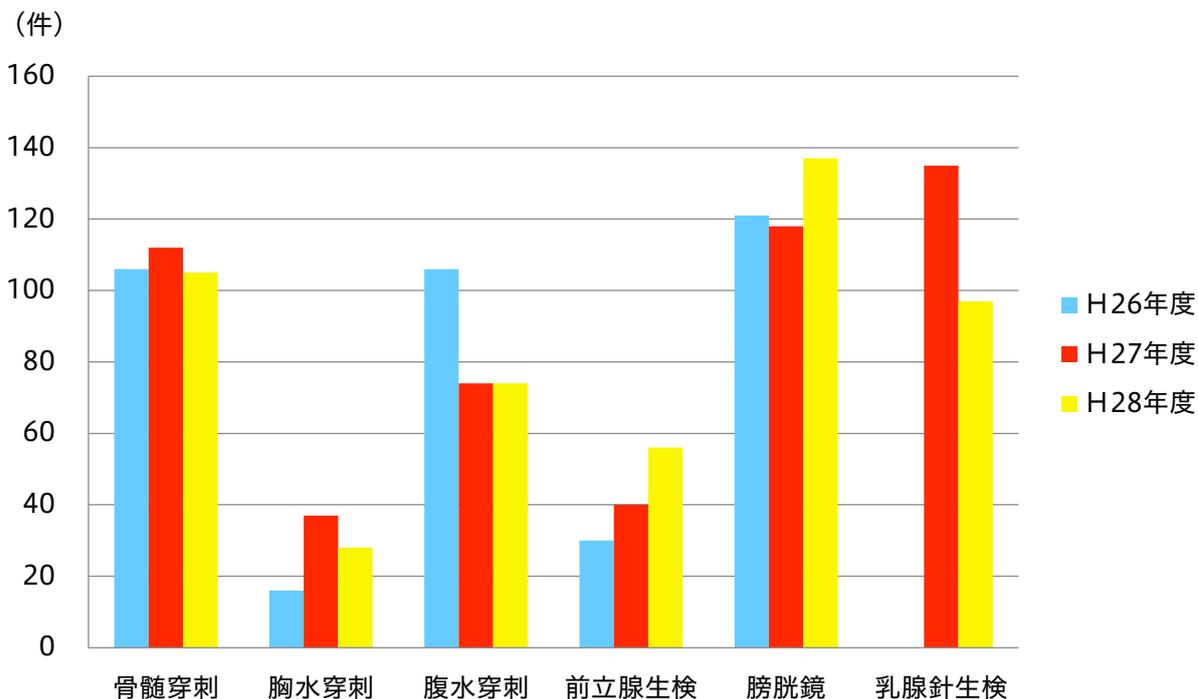
資格名称	人数
リンパ浮腫複合的治療技術者	1名
排尿自立指導料該当研修修了者	1名
ELNEC-J 指導資格者	1名

年間外来患者数と1日平均患者数

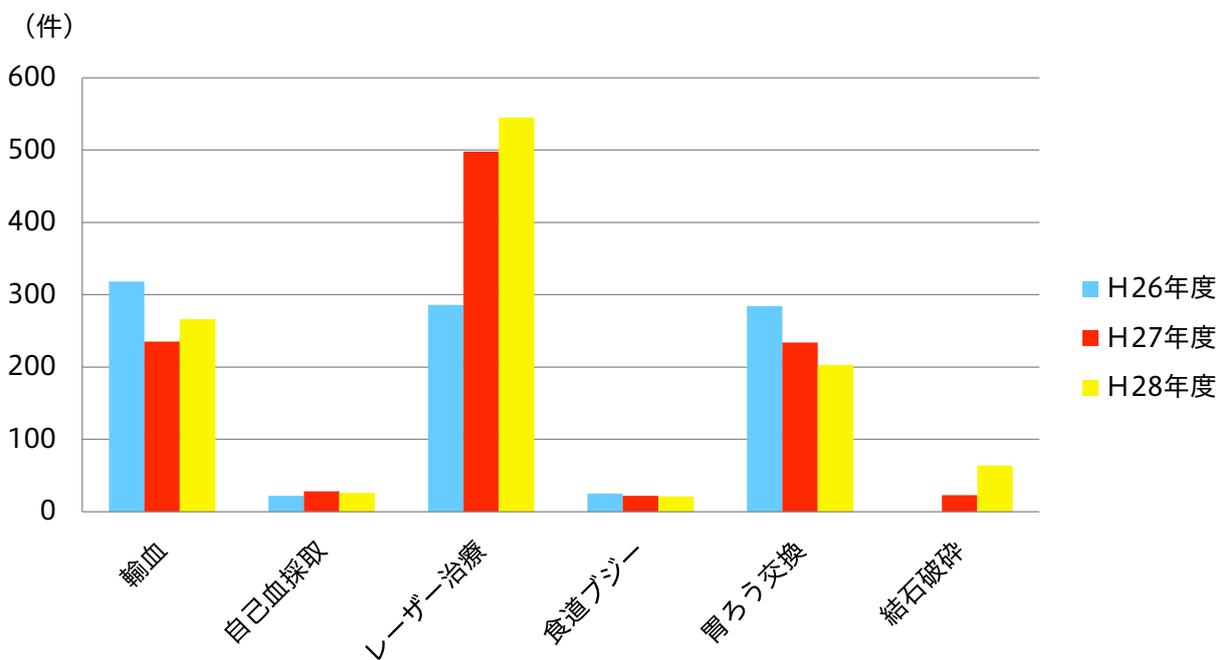


業務実績

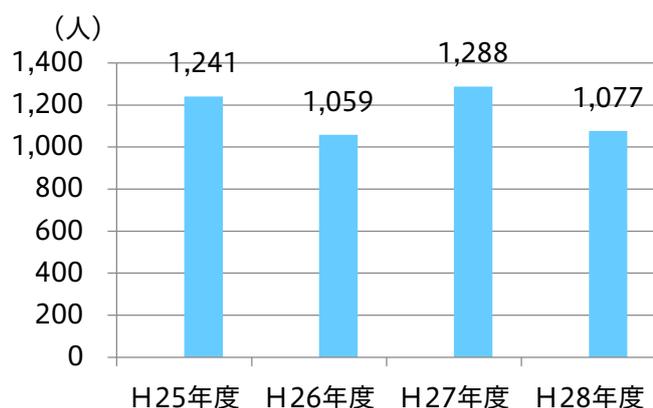
外来で行われる主な検査の年次推移



外来で行われる主な処置の年次推移



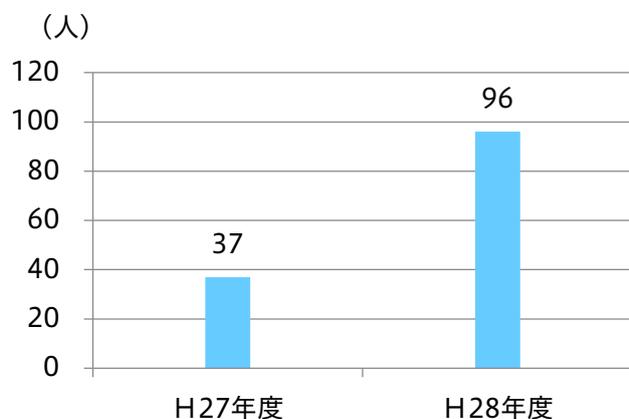
外来化学療法



無呼吸外来患者数



リンパ腫外来患者数 ※平成 27 年 5 月より開設



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
新人研修	看護部	院内	2016年4月	本田由佳理、島袋香織、安谷屋佳子
新入職研修	病院	院内	2016年4月1～2日	親川歩未、照喜名このみ、南風原亜紀
看護助手研修	看護部	院内	2016年5月20日	島袋香織、新垣千賀子
看護助手研修	看護部	院内	2016年6月17日	大田ひろみ、宮平エミコ
新入職研修	看護部	院内	2016年4月4日～4月20日	親川歩未
	内科外来スタッフ	院内	2016年4月	外来スタッフ
	外科外来スタッフ	院内	2016年5月	外来スタッフ
感染領域研修①	感染管理者石川	院内	2016年5月6日	仲西まゆみ
心不全領域研修①	島袋すが子	院内	2016年5月27日	神山紋子
感染領域研修②	感染管理者石川	院内	2016年6月3日	仲西まゆみ
中堅研修①	看護部	院内	2016年6月28日	石原桂子
看護連盟総会	沖縄看護連盟	院外	2016年6月2日	島袋香織
心不全領域研修②	島袋すが子	院内	2016年6月24日	神山紋子
輸血	処置室スタッフ	院内	2016年6月	外来スタッフ
学校講師(乳癌)	那覇医師会看護学校	院外	2016年7月21日	砂川克子
モニター講習会	日本光電	院内	2016年7月21日	島袋香織、當間克美

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
がん看護領域研修①	本田由佳理	院内	2016 年 7 月 22 日	本田由佳理
ハブ咬傷	整形外科スタッフ	院内	2016 年 8 月 9 日	外来スタッフ
中堅研修②	看護部	院内	2016 年 7 月 22 日	石原桂子
ペースメーカー勉強会	内科外来 (ME 弓濱)	院内	2016 年 7 月 27 日	安谷屋佳子、神山紋子、 當間直美、山内美咲、 仲西まゆみ
定期接種化が予定されている B 型肝炎ワクチンについて	小児科外来・アステラス製薬 (須磨崎亮)	小児科外来	2016 年 8 月 3 日	国島知子、川満豊、崎原徹裕、石川せり、安谷屋佳子、安里直美、大城貴子、玉那覇久美子
地域包括ケア	沖縄看護協会	院外	2016 年 8 月 6 日	屋良ちえみ
災害看護	沖縄看護協会	院外	2016 年 8 月 22 日	屋良ちえみ、安谷屋佳子
内視鏡中止薬運用チャート	外来 (田中薬局長)	院内	2016 年 8 月 23 日	外来スタッフ
中堅研修③	看護部	院内	2016 年 8 月 26 日	石原桂子
心不全領域研修③	島袋すが子	院内	2016 年 8 月 26 日	神山紋子
緩和ケア学会		院内	2016 年 8 月 27 日～28 日	本田由佳理、山内美咲
	形成外来スタッフ	院内	2016 年 8 月	外来スタッフ
2 年目研修担当	看護部	院内	2016 年 9 月 9 日	屋良ちえみ
看護必要度研修	看護部	院内	2016 年 9 月 13 日	屋良ちえみ、本田由佳理、安谷屋佳子
がん看護Ⅱ	沖縄看護協会	院外	2016 年 9 月 14 日	本田由佳理
	折田医師	院内	2016 年 9 月 20 日	安谷屋、屋良、本田、石原、小橋川、大滝、金城、玉那覇、安里、玉元、砂川敦子、當間克美、内視鏡スタッフ
		北海道	2016 年 9 月 23～24 日	本田由佳理
中堅研修④	看護部	院内	2016 年 9 月 30 日	石原桂子
がん看護領域研修②	本田由佳理	院内	2016 年 9 月 30 日	本田由佳理
リーダー研修Ⅱ	沖縄看護協会	院外	2016 年 10 月 7 日	安谷屋佳子
がんのリンパ浮腫研修	財団法人ライフプランニングセンター	院外	2016 年 9 月 17～18 日	新垣 薫
排尿機能訓練回復のための治療とケア講座	埼玉県慢性期医療協会	院外	2016 年 11 月 30 日～12 月 2 日	新垣 薫
赤ちゃん子供スキンケア	看護協会	院外	2016 年 12 月 13 日	玉那覇 久美子
H28 年度沖縄県地域肝炎治療コーディネーター養成講座	沖縄県保健医療部	院外	2017 年 1 月 27 日	金城 こずえ
予防接種について		院内	2017 年 2 月 18 日	金城、玉那覇安谷屋、安里大城、Dr 国島 Dr 崎原、Dr 川満
スキンケアの実践	看護協会	院外	2017 年 2 月 23 日	玉那覇 久美子
ELNEC-J コアカリキュラム	看護協会	院外	2017 年 2 月 25 日	石原 桂子
看護師教育プログラム			～2017 年 2 月 26 日	

実績報告資料等

H29年度外来目標

- 1 安心・安全な医療の提供
 - ・徹底した5R確認 ・報告・連絡・相談の徹底
- 2 個々の遂行能力向上のための教育
 - ・知識、表現力、積極性向上に向けた取り組み
 - ・積極的に研修参加、伝達講習の実施
- 3 増改築に向けた外来体制の見直し
 - ・急変時の知識・技術の習得
 - ・マニュアル整備と運営計画

H28年度総括

- 業務改善
 - ・通院治療室の業務の見直しを行った
 - 処置室、各診療科で業務分担することで、業務量の偏りが改善された
 - ・重要な患者情報となる禁忌薬剤などの入力漏れを防ぐためシステムの変更を行った
- 報告・連絡・相談の徹底
 - ・0レベルの報告件数が増加し、インシデント回避につながっている
 - ・報告事案から業務の見直しにつながり、業務改善としても成果を上げた
- スタッフの配置見直し
 - ・間接業務(予約確認や入力作業等)のクラークを増やしたことで、診察に看護師を配置できるようになり、診察、処置の介助がスムーズになった。
- 人材育成・WLB
 - ・スタッフの学びたい事アンケートをもとに診療科の配置を調整したことで、学習意欲や、WLBの向上につながっている

H28年度総括

業務改善

・これまで化学療法室担当NSが採血・ルート確保・問診・治療まで一手に引き受

見直し

・診察室側へクラーク配置人数を増員、カルテ返却・検査案内・予約確認等業務配分したことにより処置の多い部署へNSを配置することができた

・アレルギー薬剤の入力漏れを防止する為、権限の見直しを行い入力が行えるようシステム変更 開始まで至ることができた

WLB

・個々の学習意欲を高める為、学びたいことを含めアンケート実施内容を重視しながら科の配属を行った

H28年度外来目標

- 1 安心・安全な医療の提供
- 2 働きやすい職場作り(WLB)
- 3 人材育成
- 4 増改築に向けて外来体制の見直し

救急外来

救急外来師長 内間 幸人

職員数

総数 20 名

正看護師 20 名

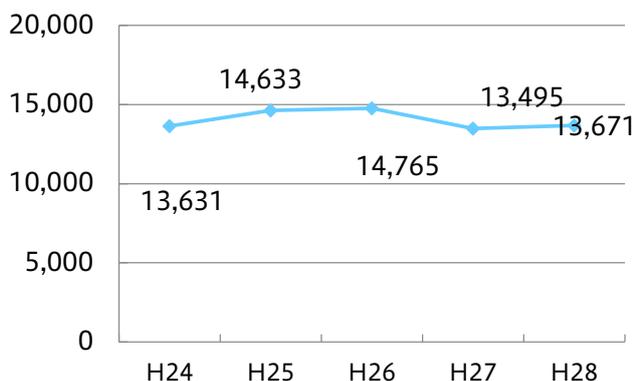
認定・資格など

名称	氏名
AHA BLS インストラクター	内間幸人
	兼本愛美
	知花満津子
	平田千佳
	恒富加奈

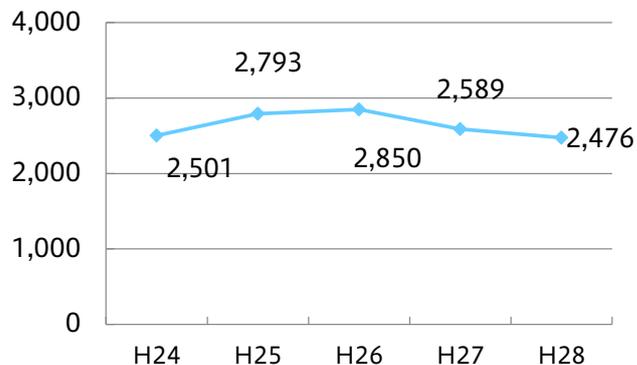
名称	氏名
集中ケア認定看護師	内間幸人
救急看護認定看護師	兼本愛美
ICLS インストラクター	兼本愛美

業務実績

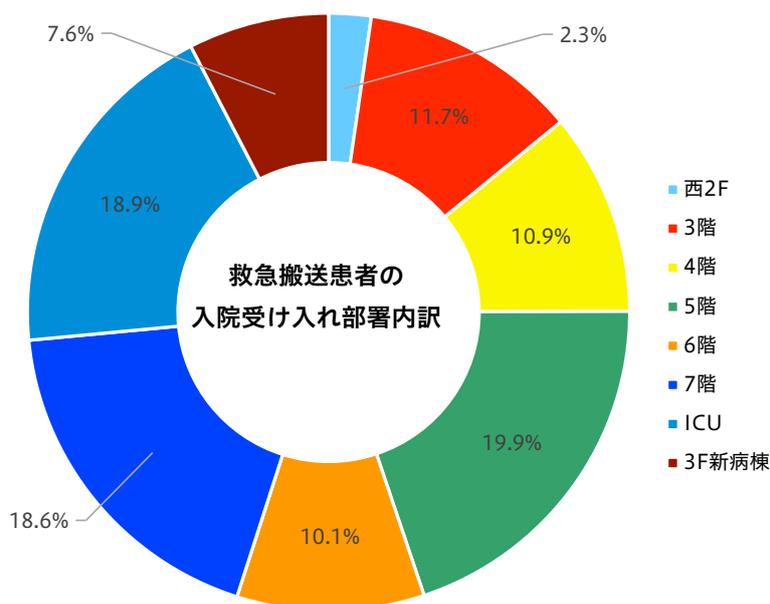
救急受付患者年次推移



救急受付患者の入院数年次推移



研究業績



学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
クラウド型12誘導心電図伝送システムを活用していくにあたっての現状と課題	第18回日本救急看護学術集会	東京	2016/10/29.30	恒富加奈 徳比嘉佳奈 内間幸人
A病院における院内急変による初動体制の現状と今後の課題	第18回日本救急看護学術集会	東京	2016/10/29.30	兼本愛美 内間幸人

論文著書

雑誌名	掲載年・号・頁	発表者と研究者
呼吸器ケア Emergency Care	2017.1 Vol.15 no.1	内間幸人
	2016.VOL29.NO12	兼本愛美

活動実績

院外研修実績

研修名	開催地	開催日	参加者
第148回JNTECプロバイダーコース	県内	2016年5月28日、29日	仲里栄春
第47回日本看護学会 急性期看護 看護師救急医療業務実地修練	県内 東京	2016年7月15日、16日 2016年9月8日～16日、9月26～月30日	大宜見宗史 竹本健太
第12回日本救急看護認定看護師会ブラッシュアップセミナー	滋賀	2016年10月27日～28日	兼本愛美
第8回日本DMAT隊員要請研修西日本会場	兵庫	2017年1月31日～2月5日	安里直樹
第46回JPTECプロバイダーコース	県内	2017年3月5日	知花満津子
AHA Core-Instructor Course	県内	2017年3月19日	恒富加奈、平田千佳

その他

研修名	開催日	担当者
具志川看護専門学校 非常勤講師 「周術期看護～術後～」	平成28年10月	内間幸人

実績報告資料等

平成28年度総括

- ◆ 安全な医療の提供
インシデント・アクシデント発生が70件と前年度より増加した。内訳はレベル1が殆どで、3b以上のアクシデントは無かった。
- ◆ 専門性の高い看護の提供
重症外傷患者対応のスキルを高めることを目標に掲げ、JNTECを2名受講、部署スタッフを対象に伝達講習会を開催した。
- ◆ 救急搬送件数の増加
救急搬送件数は過去最多を更新した。不応受率・件数ともに減少した。今後も地域医療連携を図り件数の維持に努めたい。
- ◆ 多職種との連携
下半期になり脳神経外科領域の治療件数増加した。この事からも、診療制と協働し、より安全な医療の提供が出来るよう努めたい。
- ◆ ドクターカー業務の導入
今年度は、本格運用前の試験運用を実施した。本格運用に向けて、スキルアップ、症例検討会、救急隊との更なる連携強化などに努め、ドクターカー業務の確立に繋げたい。

平成29年度の目標

- 安全な医療の提供
- 専門性の高い看護の提供
- 救急搬送件数増加
- 他職種との連携強化
- ドクターカー業務の確立

救急外来看護師による勉強会①



救急外来看護師による勉強会②



人工透析室

人工透析室師長 宮城 幸江

職員数

総数 21 名

正看護師 19 名

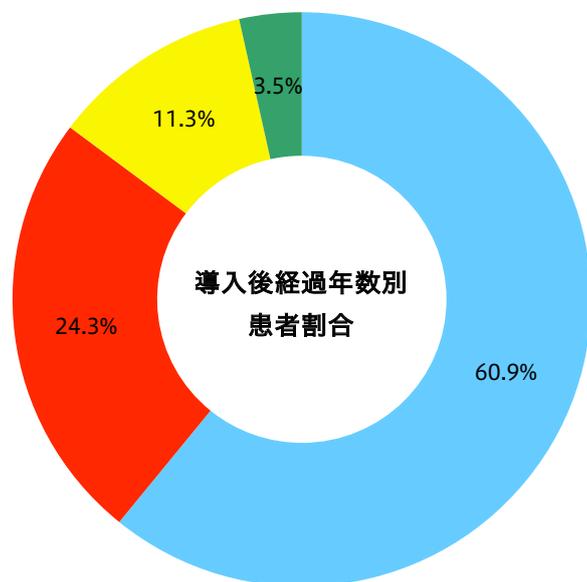
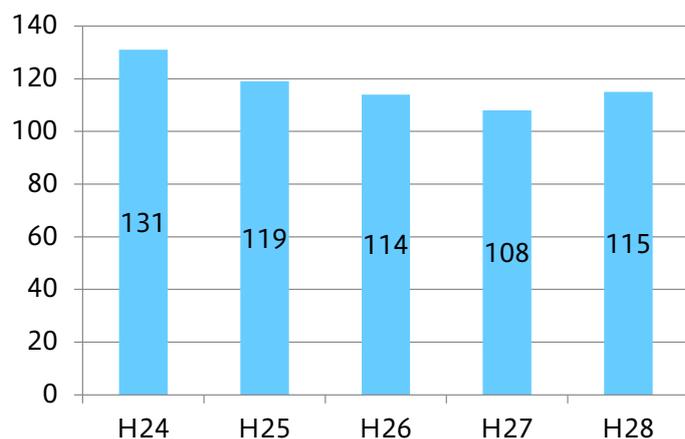
看護助手 2 名

認定・資格取得状況

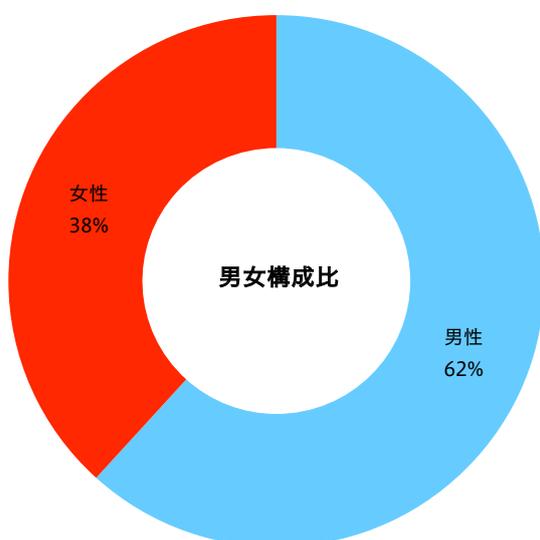
資格・認定名称	人数
透析療法指導看護師	1 名
透析技術認定士	8 名

業務実績

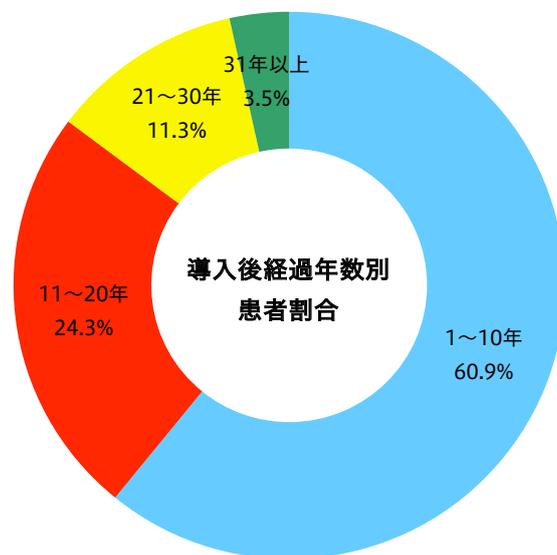
透析患者総数の推移 (人)



■ 1~10年 ■ 11~20年 ■ 21~30年 ■ 31年以上



■ 男性 ■ 女性



■ 1~10年 ■ 11~20年 ■ 21~30年 ■ 31年以上

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
透析室専用フットカール作成、継続的ケアをめざし	第 61 回日本透析医学会・学術集会・総会	大阪	平成 28 年 6 月 13 日	○赤嶺美智江、上原千晶
QOL 向上に向けたポータル経験して学んだこと	第 22 回日本腹膜透析医学会	北海道	平成 28 年 9 月 25 日	○山内敦子、田下茜、上原千晶、佐次田桃子、瀬底真由美、宮城幸江
穿刺困難から腹膜透析選択した患者のポータルから学んだこと	第 50 回九州人工透析学会	熊本	平成 28 年 12 月 10 日	○田下茜、山内敦子、上原千晶、佐次田桃子、瀬底真由美、宮城幸江
QOL 向上に向けたポータル経験して学んだこと	沖縄県 PD ナースゆいの会研究会	沖縄（看護協会）	平成 29 年 1 月 21 日	○山内敦子、田下茜、上原千晶、佐次田桃子、瀬底真由美、宮城幸江
ナース、エコー下ガイド穿刺始めました	沖縄県腎不全研究会	沖縄県宜野湾市（ラグナガーデンホテル）	平成 29 年 2 月 16 日	○米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、宮城幸江
腎不全研究会活動報告	沖縄県腎不全研究会	沖縄県宜野湾市（ラグナガーデンホテル）	平成 29 年 2 月 16 日	○清水史恵
長期留置カテーテル管理（感染予防）を経験して	第 35 回沖縄県人工透析研究会	沖縄県宜野湾市（沖縄コンベンションセンター）	平成 29 年 3 月 12 日	○佐次田桃子、伊保和加子
セクション 8 座長	第 35 回沖縄県人工透析研究会	沖縄県宜野湾市（沖縄コンベンションセンター）	平成 29 年 3 月 12 日	○宮城幸江

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
領域研修 感染①・⑤	看護部	院内	2016 年 5 月 6 日、9 月 2 日	呉屋久子、島袋さおり
モニターデモ開始のための取扱説明	日本光電	透析室	2016 年 4 月 20 日	田下茜、平良美幸、新里恭子、赤嶺美智江、島袋さおり、米須真由美、呉屋久子、宮城幸江、清水史恵、佐次田桃子、山内敦子、上原千晶
CAPD カテーテル出口部 段階別分類とその管理	日機装	透析室	2016 年 5 月 13 日	田下茜、新里恭子、赤嶺美智江、島袋さおり、呉屋久子、宮城幸江、清水史恵、山内敦子、上原千晶、瀬底真由美、砂川香澄、屋良淳子、久場和子
IHDF	東レ	透析室	2016 年 5 月 16 日	佐次田桃子、屋良淳子、大工夏希、山内敦子
助手研修①	看護部	院内	2016 年 5 月 20 日	仲松初美
CAPD 基礎コース	テルモ	看護協会	2016 年 5 月 21 日	上原千晶、田下茜、宮城幸江
ステイセーフバランス CAPD システムについて	日機装	透析室	2016 年 6 月 1 日	佐次田桃子、平良美幸、久場和子、呉屋久子、島袋さおり、砂川香澄、上原千晶、米須真由美、山内敦子
領域研修 感染②⑥	看護部	院内	2016 年 6 月 3 日・10 月 7 日	佐次田桃子

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
領域研修 安全①②③④	看護部	院内	2016年6月10日、 7月8日、11月11日、 12月9日	新垣直樹、宮城幸江
助手研修②	看護部	院内	2016年6月17日	仲村多鶴代
領域研修 心不全	看護部	院内	2016年6月27日	瀬底真由美
中堅研修	看護部	院内	2016年6月28日、 7月22日、8月25日、 9月29日、10月27 日、11月25日、12 月8日	平良美幸
除水不全と対策	日機装	透析室	2016年6月29日	平良美幸、宮城幸江、大工夏希、米 須真由美、屋良淳子、赤嶺美智江、 田下茜、瀬底真由美、上原千晶、伊 保和加子、新垣直樹、呉屋久子、清 水史恵、與那覇直子、砂川香澄、山 内敦子
シャント評価評価について伝達講習	臨床工学 科	透析室	2016年7月1日	與那覇直子、大工夏希、砂川香澄、 新垣直樹、呉屋久子、佐次田桃子、 島袋さおり、田下茜、清水史恵、上 原千晶、久場和子、屋良淳子、米須 真由美、山内敦子、伊保和加子
領域研修 感染③⑦	看護部	院内	2016年7月1日、 11月4日	新里恭子
透析心のエルカルニチン欠乏と静脈内投与	大塚製薬	透析室	2016年8月10日	山内敦子、宮城幸江、赤嶺美智江、 伊保和加子、與那覇直子、上原千晶、 清水史恵、佐次田桃子、島袋さおり、 瀬底真由美、砂川香澄、新里恭子、 新垣直樹、呉屋久子、平良美幸
領域研修 感染④⑧	看護部	院内	2016年8月12日、 12月9日	清水史恵
ASVについて	テイジン	透析室	2016年9月2日	屋良淳子、山内敦子、佐次田桃子、 砂川香澄、清水史恵、與那覇直子、 米須真由美
急変時対応について	透析室	透析室	2016年9月7日	平良美幸、宮城幸江、大工夏希、米 須真由美、屋良淳子、赤嶺美智江、 上原千晶、伊保和加子、砂川香澄、 久場和子、瀬底真由美、與那覇直子 新里恭子、島袋さおり
領域研修 救急	看護部	院内	2016年9月16日、 11月18日	平良美幸
バクスターCAPDナースカレッジ基礎コース	バクス ター	クリニカル シュミレー ションセン ター	2016年10月9日	山内敦子、田下茜、佐次田桃子、清 水史恵、伊保和加子、宮城幸江
CAPD応用編	テルモ	看護協会	2016年10月15日	佐次田桃子
透析室における手指衛生5つのタイミング	感染委員 会	透析室	2016年10月17日、 2月22日	新垣直樹、平良美幸、久場和子、與 那覇直子、伊保和加子、島袋さおり、 大工夏希、上原千晶、砂川香澄、田 下茜、山内敦子、瀬底真由美、屋良 淳子、米須真由美
CAPD ナースカレッジ基礎コース	バクス ター	沖縄クリニカ ルシュミレー ションセン ター	2016年10月9日	田下茜、山内敦子、佐次田桃子、伊 保和加子、宮城幸江
カテーテル出口部の段階別分類とその管理	日機装	透析室	2016年10月18日	赤嶺美智江、佐次田桃子、久場和子、 新里恭子、呉屋久子、清水史恵、大 工夏希、田下茜、山内敦子、宮城幸 江
腹膜透析について	腹膜透析 担当	透析室	2016年11月25日	新垣直樹、呉屋久子、平良美幸、赤 嶺美智江、新里恭子、久場和子、大 工夏希、伊保和加子、宮城幸江

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
インスリンについて	日本イーライリリー	透析室	2016年12月14日	宮城幸江、屋良淳子、瀬底真由美、島袋さおり、田下茜、與那覇直子、山内敦子、佐次田桃子、清水史恵、大工夏希、呉屋久子、新里恭子、米須真由美、上原千晶、伊保和加子、赤嶺美智江
チームで取り組む透析患者のかゆみ対策	鳥居薬品	透析室	2016年12月15日	平良美幸、久場和子、伊保和加子、田下茜、山内敦子、屋良淳子、赤嶺美智江、大工夏希、清水史恵、新垣直樹、米須真由美
長期留置カテーテルについて	日本コヴィディエン	透析室	2016年12月16日、12月21日	佐次田桃子、平良美幸、久場和子、呉屋久子、島袋さおり、上原千晶、山内敦子、田下茜、宮城幸江、瀬底真由美、伊保和加子、屋良淳子、清水史恵、與那覇直子、砂川香澄、大工夏希、米須真由美、新垣直樹
シャント管理	VA 担当	透析室	2017年1月18日	伊保和加子、久場和子、赤嶺美智江、清水史恵、新里恭子、宮城幸江、田下茜、屋良淳子、砂川香澄、呉屋久子、米須真由美
オンライン HDF について	ニプロ	透析室		平良美幸、宮城幸江、砂川香澄、久場和子、伊保和加子、山内敦子、清水史恵、屋良淳子、上原千晶、佐次田桃子、呉屋久子、島袋さおり、米須真由美、赤嶺美智江、田下茜
腎性貧血や MBD から考える透析患者の心疾患	キリン	透析室	2017年2月2日	宮城幸江、久場和子、呉屋久子、上原千晶、伊保和加子、島袋さおり、新里恭子、與那覇直子、赤嶺美智江、山内敦子
主任・師長合同研修	看護部	院内		瀬底真由美、宮城幸江
リン吸着薬と服用にしずむピットホール		透析室	2017年2月9日	田下茜、屋良淳子、赤嶺美智江、山内敦子、大工夏希、呉屋久子、島袋さおり、伊保和加子、新里恭子
ピートルチュアブル錠について	キッセイ薬品	透析室	2017年2月13日	佐次田桃子、山内敦子、屋良淳子、赤嶺美智江、瀬底真由美、田下茜、宮城幸江、砂川香澄、上原千晶、島袋さおり、伊保和加子、久場和子、平良美幸
モニター研修伝達講習会	研修参加者	透析室	2017年3月17日	瀬底真由美、宮城幸江、大工夏希、米須真由美、佐次田桃子、上原千晶、與那覇直子、新里恭子、島袋さおり、伊保和加子、呉屋久子、屋良淳子
日常診療で活かせるリン管理の新しい知見		透析室	2017年3月23日	佐次田桃子、宮城幸江、田下茜、清水史恵、瀬底真由美、呉屋久子、米須真由美、山内敦子、島袋さおり、伊保和加子
プログラム補液 IHDF	日機装	透析室	2017年3月24日	大工夏希、上原千晶、久場和子、佐次田桃子、赤嶺美智江、新垣直樹、砂川香澄、島袋さおり、瀬底真由美、山内敦子、呉屋久子、平良美幸、屋良淳子

実績報告資料等

平成28年度 目標

- ・インシデント、アクシデントの低減
(確認・照合の徹底)
- ・専門的ケア、サービスの提供、選択療法
(血液透析・腹膜透析)
- ・患者、家族への教育指導の充実
- ・接遇向上

平成28年度 取り組みと成果

◇バスキュラアクセスチームの立ち上げ
ブラッドアクセス管理をすることでシャントPTAの流れができシャント閉塞患者が減少

シャントPTA件数

H27年度(40件)

H28年度(97件)

◇フットケアの取り組み

評価表の電子化で業務効率が向上し、
評

価体制が整い取り組み継続中

◇腹膜透析外来の立ち上げ

患者2名

◇患者、家族向けのパンフレットの作成、
掲

平成29年度 目標

- ・インシデント、アクシデントの低減
- ・専門的ケア、サービスの提供
(フットケア・バスキュラアクセス・腎臓リハビリ)
- ・患者、家族への教育指導の充実

手術室・中央材料室

手術室・中央材料室師長 比嘉 憲貴

職員数

総数 23 名

正看護師 18 名

准看護師 1 名

看護助手 3 名

メディカルクラーク 1 名

業務実績

手術総件数 2,825 件

(うち全身麻酔下手術 1,349 件)

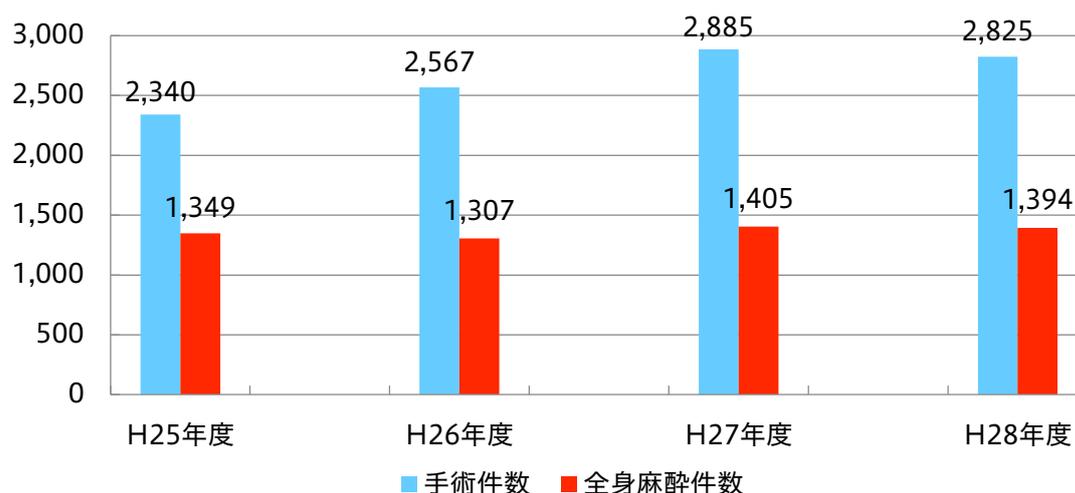
月平均手術件数

240 件

1 日平均手術件数

11 件 (最大 20 件)

手術実績推移



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催日	開催地	参加者
DVT セミナー		2016 年 4 月 9 日	院外	
沖縄バイタルサインセミナー	日本麻酔科医会	2016 年 4 月 30 日	院外	神里歩、米田梓
フレッシュマン研修	沖縄県看護協会	2016 年 5 月 11 日、18 日	院外	上原直樹、玉寄聡愛
救急領域研修	看護部教育委員会	2016 年 5 月 13 日	院内	神里歩、久志周子
助手研修	看護部教育委員会	2016 年 5 月 20 日	院内	仲村渠直美
中堅研修	看護部教育委員会	2016 年 6 月 19 日	院内	神里歩
看護協会通常総会	沖縄県看護協会	2016 年 6 月 18 日	院外	大城星乃
部署間研修 (産婦人科病棟)	看護部教育委員会	2016 年 6 月 20 日	院内	大城星乃
3 カ月フォローアップ研修	看護部教育委員会	2016 年 6 月 24 日	院内	上原直樹、玉寄聡愛
ポリナビワークショップ	沖縄県看護連盟	2016 年 6 月 28 日	院外	玉寄聡愛
看護連盟通常総会	沖縄県看護連盟	2016 年 7 月 2 日	院外	上原直樹
ファーストレベル研修	沖縄県看護協会	2016 年 7 月 5 日	院外	比嘉憲貴

研修名	主催	開催日	開催地	参加者
リフレッシュ研修	看護部教育委員会	2016 年 7 月 13 日	院内	上原直樹、富田暁美
モニター講習会	看護部教育委員会	2016 年 7 月 21 日	院内	神里歩、名波唯奈
日本手術学会九州地区分会	日本手術看護学会	2016 年 8 月 6 日	院内	前村明菜、名波唯奈、富田暁美、大城星乃、久志周子、米田梓、神里歩、上原直樹、富田賢一、東恩納小百合、宮城美那、
救急領域研修	看護部教育委員会	2016 年 8 月 19 日	院内	新垣徹司、松川幸樹
2 年目研修	看護部教育委員会	2016 年 9 月 9 日	院内	上原春菜
救急領域研修	看護部教育委員会	2016 年 9 月 16 日	院内	大城星乃
6 ヶ月フォローアップ研修	看護部教育委員会	2016 年 9 月 30 日	院内	上原直樹
師長、主任合同研修	看護部教育委員会	2016 年 10 月 4 日	院内	宮城美那、東恩納小百合、比嘉憲貴
沖縄感染管理・洗浄滅菌研修会	沖縄県感染管理学会	2016 年 10 月 22 日	院外	宮城美那、東恩納小百合、比嘉憲貴
琉大整形外科 AO 法研修	琉大整形外科	2016 年 11 月 5 日	院外	久志周子、宮野真理、上原春菜
役職者研修	法人人事課	2016 年 11 月 12 日	院内	宮城美那、東恩納小百合、比嘉憲貴
院内研究発表会	看護部教育委員会	2016 年 11 月 18 日	院内	松川幸樹、比嘉憲貴
中堅看護師実践報告会	看護部教育委員会	2016 年 11 月 25 日	院内	神里歩、比嘉憲貴
日本手術学会九州地区分会	日本手術看護学会	2016 年 11 月 26 日	院外	屋良絢子、久志周子、上原直樹、久手堅緑、東恩納小百合、比嘉憲貴
2 年目症例発表	看護部教育委員会	2016 年 12 月 16 日	院内	上原春菜、東恩納小百合
急変時対応シミュレーション研修	中頭病院	2017 年 1 月 7 日	院外	久手堅緑、上原直樹、富田賢一、久志周子、宮野真理、米田梓、東恩納小百合、比嘉憲貴
1 年目症例発表	看護部教育委員会	2017 年 1 月 27 日	院内	上原直樹、富田暁美、東恩納小百合
プリセプター研修	看護部教育委員会	2017 年 2 月 10 日	院内	松川幸樹、米田梓
日本手術学会九州地区分会	日本手術看護学会	2017 年 2 月 25 日	院内	屋良絢子、宮野真理、宮城美那、富田賢一、神里歩、米田梓、松川幸樹、名波唯奈、久志周子、上原直樹、上原春菜、古内正樹、大城星乃、久手堅緑、東恩納小百合、比嘉憲貴
プリセプター研修	看護部教育委員会	2017 年 2 月 10 日	院内	松川幸樹、米田梓

平成 28 年度総括

今年度は「安全」と「組織貢献」、「人材育成とチーム医療の展開」の 3 つを目標に念頭に業務を行いました。

①安全

入室、執刀前の確実なタイムアウトにより患者誤認、手術部位誤認はありませんでしたが、3a のインシデントを生じました。手術室には多くのリスクがある上に、インシデントは重大事故に繋がりがやすい事を念頭に、再発防止に向けたマニュアルの整備及び、部署全体で取り組みを強化します。

②組織貢献（手術件数）

手術件数は対前年比マイナス 0.2 % という結果でした。しかし、今年度目標件数を前年度に達成していた経緯を踏まえると、今年度の手術件数のマイナスは本来の適正数に近づいた結果だと推測できます。

次年度は診療体制の変更に合わせて手術件数が増加する見込みです。効率かつ安全に手術室運営できるように努めていきます。また、消耗品及び手術材料の積極的な見直しや製品の統一により、大幅なコスト削減が実現しました。今後も、積極的なコスト削減への取り組みにより、診療報酬マイナス改定に伴う医療収益の減収を補えるよう努めていきます。

③人材育成

主任を中心として毎月 1 回勉強会を開催し、スタッフの知識・技術の向上に努めています。また、各スタッフが勉強会を担当することによりモチベーションの向上にも繋がっています。今年度、日本手術看護学会九州地区分会において看護研究発表を行いました。今後も引き続き学会等への参加も含めて、スタッフ 1

人ひとりがキャリアアップできる機会を作っていきたいと思います。

また、各科にチーム制が導入されており、チームを通して、執刀医、看護師間のコミュニケーションが図れており、良好なチーム医療に繋がっています。マニュアルの整備や器械管理の面でもチーム制のメリットが活かされました。しかし、スタッフの入れ替わりに弱い一面があるため、手術看護の質の低下をきさないよう努めていきます。

ICU

ICU 師長 洲鎌 正子

職員数

総数 22 名

正看護師 21 名

看護助手 1 名

月平均入院患者状況

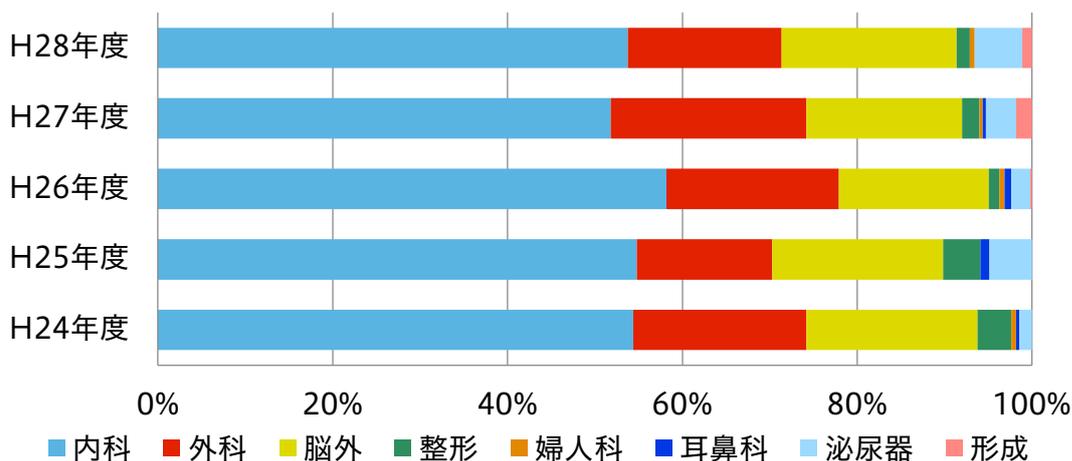
新規入院患者数 32.6 名

病床利用数 4.4 床

在院日数 7.2 日

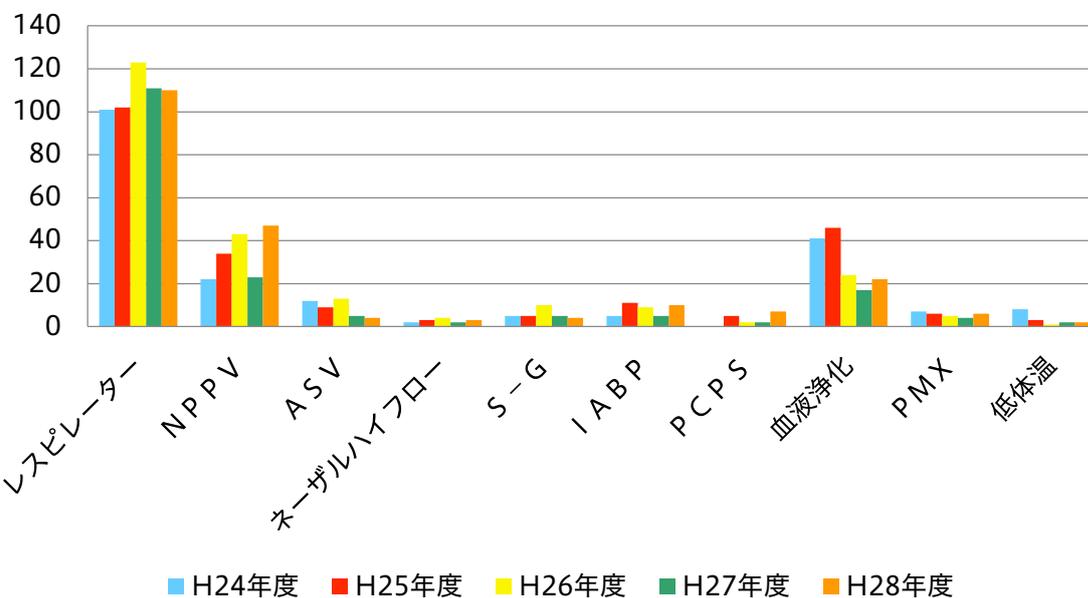
業務実績

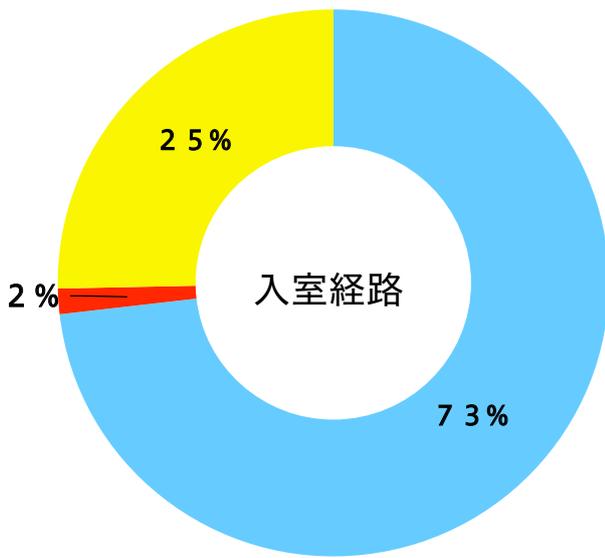
入院患者診療科別内訳



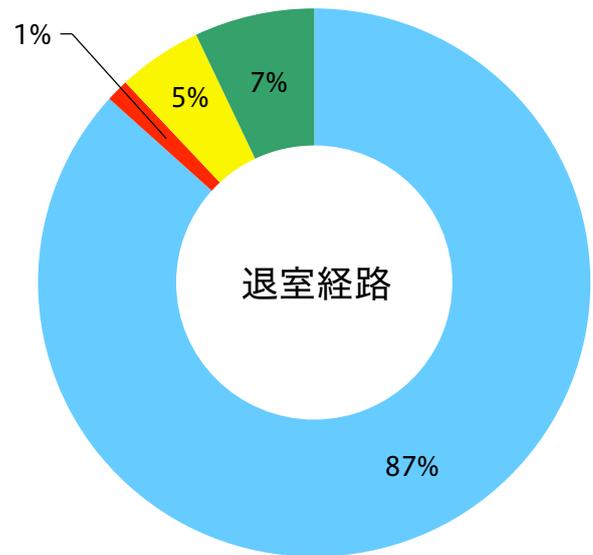
特殊治療の動向

(件)



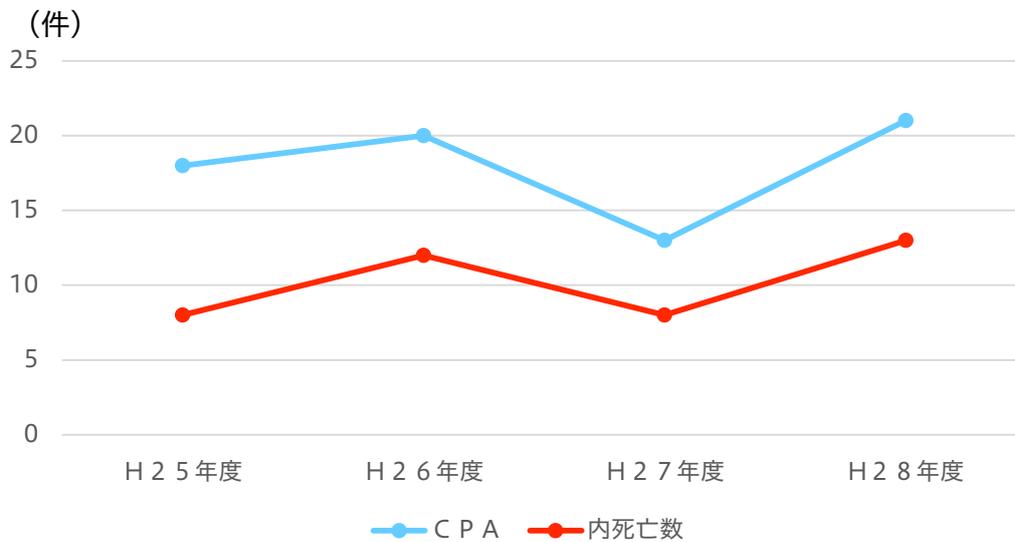


■ 救急外来 ■ 外来 ■ 病棟



■ 転棟 ■ 転院 ■ 退院 ■ 死亡退院

CPA 件数 (死亡数) 動向



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
気管内挿管患者における早期経腸栄養の取り組み	日本集中医学会	北海道	2017年3月9日～3月11日	アノールド寿々奈、富里康太、勝連しのぶ
包交車管理ラウンドの導入と今後の課題	日本環境感染学会	神戸	2017年2月24～2月25	城間克也

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開始日	参加者
新人入職者研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 4 月 2 日～ 4 月 20 日	田中優希菜、勝連しのぶ、洲鎌正子、城間克也
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 6 日	宮里伸也
救急領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 13 日	正野貴則
助手研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 20 日	宮里ともみ、与那嶺敬子
糖尿病領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 20 日	伊藤諒
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 5 月 26 日	與那嶺史子
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 6 月 3 日	山城俊裕
安全領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 6 月 10 日	阿部誠
呼吸領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 6 月 10 日	比嘉若菜、宮里奈央、勝連しのぶ、洲鎌正子
新人入職者研修	看護協会	院外	2016 年 6 月 10 日	城間克也
糖尿病領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 6 月 17 日	松田早紀
3か月フォローアップ研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 6 月 24 日	田中優希菜、仲眞菜都美
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 6 月 30 日	與那嶺史子
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 1 日	又吉愛美
安全領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 8 日	阿部誠
呼吸領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 8 日	比嘉若菜、宮里奈央、勝連しのぶ、洲鎌正子
救急領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 15 日	正野貴則
化学療法領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 22 日	又吉咲恵
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 28 日	與那嶺史子
慢性心不全領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 7 月 29 日	與那嶺史子
3年目研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 5 日	洲鎌正子
呼吸領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 5 日	比嘉若菜、宮里奈央、勝連しのぶ、洲鎌正子
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 12 日	仲眞菜都美
救急領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 19 日	仲舛美奈
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 25 日	與那嶺史子
慢性心不全領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 8 月 26 日	與那嶺史子
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 2 日	宮里伸也
呼吸領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 8 日	勝連しのぶ、洲鎌正子
2年目研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 9 日	池根悠太
救急領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 16 日	石戸谷寸志
化学療法領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 23 日	又吉咲恵
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 9 月 29 日	與那嶺史子
師長主任合同研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 10 月 4 日	安村公均、洲鎌正子、勝連しのぶ
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 10 月 7 日	山城俊裕
救急領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 10 月 14 日	仲舛美奈
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 10 月 27 日	與那嶺史子
化学療法領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 10 月 28 日	又吉咲恵
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 11 月 4 日	又吉愛美
安全領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 11 月 11 日	阿部誠
救急領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 11 月 18 日	石戸谷寸志
化学療法領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 11 月 25 日	又吉咲恵
感染領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 12 月 2 日	仲眞菜都美
中堅看護師研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 12 月 8 日	與那嶺史子
安全領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 12 月 9 日	阿部誠
呼吸領域研修	看護部教育委員会	院内	2016 年 12 月 9 日	勝連しのぶ、洲鎌正子

研修名	主催	開催地	開始日	参加者
師長主任合同研修	看護部教育委員会	院内	2017年3月7日	安村公均、洲鎌正子、勝連しのぶ
1年目フォローアップ研修プリセプター研修	看護部教育委員会	院内	2017年3月10日	田中優希菜、仲真菜都美
DMAT 隊員養成研修	厚生労働省医政局地域医療計画課	神戸	2017年2月1日～2月4日	江口まり子

実績報告資料等

28年度取り組みと結果

- 1) 安全な医療の提供
⇒インシデント件数は、55件と目標達成できなかった。継続しPNSで確認の徹底、連携強化を図っている。
- 2) 院内感染対策強化
⇒手指衛生遵守率は38. 目標達成できず。リウカースと連携し手指衛生強化を図る
⇒部署内伝播0件達成できた。感染予防対策継続を行う。
- 3) 個々のスキルアップ
⇒教育委員と連携し開催できた。次年度も継続し個人のスキルアップに努める。
- 4) PNS確立
⇒PNSの確立ができており時間短縮者を交えた病棟運営ができた。
- 5) 接遇強化
⇒クレーム0達成することが出来た。
- 6) 病棟稼働率UP
⇒4.5床目標にしていたが、4.4床であった。受け入れ制限に至ることはなく次年度は稼働率UPを意識した管理を行う。

29年度目標

- 1) 安全な医療の提供
 - ・インシデント件数30件/年以下
 - ・患者誤認 0件/年
- 2) PNS 看護方式の向上
 - ・超過勤務時間減少
 - ・個人のスキルUP
 - ・プロジェクトチーム活動の継続・勉強会1回/月
- 3) 患者サービスの向上
 - ・接遇強化・クレーム0件/年
 - ・感染対策の強化(院内伝播0件/年)
- 4) 病床利用数・6.0床 ・在室日数5.2を目指した運営

西 2 階病棟 (産婦人科)

西 2 階病棟師長 崎山 久美

職員数

総数 30 名

助産師 20 名

看護助手 2 名

正看護師 6 名

クラーク 1 名

准看護師 1 名

認定・資格など

アドバンス助産師 9 名

新生児蘇生 A コース受講修了者 18 名

月平均入院患者状況

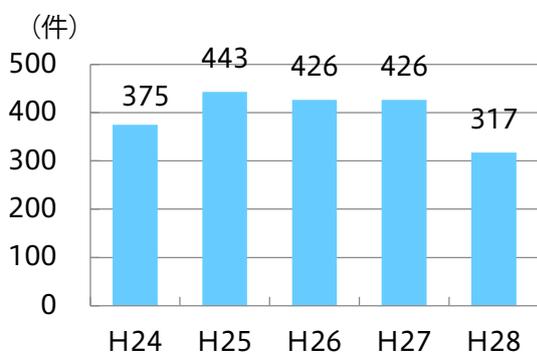
新規入院患者数 75.9 名

病床利用数 15.8 床

在院日数 5.8 日

業務実績

分娩件数



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
新入職者オリエンテーション	看護部教育委員	当院	2016 年 4 月 2 日、4 日、11 日、15 日、19 日	成田明日香、山城杏奈、平屋敷加代
BS ケア ベーシックセミナー	BS ケアプロジェクト		2016 年 4 月 29 日	上原美佳
BS ケア アドバンス	BS ケアプロジェクト		2016 年 4 月 30 日	長嶺明子
BS ケア 発展		ゆいクリニック	2016 年 5 月 1 日	長嶺明子
助手研修	看護部教育委員	当院	2016 年 5 月 20 日	宮城美和子、神谷國子
中堅研修①	看護部教育委員	当院	2016 年 5 月 26 日	中根汐香
領域 (慢性心不全①)	看護部教育委員	当院	2016 年 5 月 27 日	本村いづみ
メディエーション研修	看護部教育委員	当院	2016 年 5 月 28 日	我那覇美帆
看護協会代議員研修	日本看護協会	看護協会	2016 年 5 月 28 日	小野朋子

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
助手研修	看護部教育委員	当院	2016年6月17日	柴野川摩美
領域(感染)	看護部教育委員	当院	2016年6月3日	小野朋子
クリニカルラダーレベルIII認証申請の為に必須研修「CTG判読とその対応」	日本看護協会	オンデマンド	2016年6月7日	具志堅理沙、金城嘉奈子、富里由美子
日本看護協会 通常総会	日本看護協会	幕張メッセ	2016年6月7日～9日	小野朋子
ちゅらママ、赤ちゃんすくすくプロジェクト	沖縄県健康長寿課	小児保健センター	2016年6月9日	平屋敷加代、金城嘉奈子
クリニカルラダーレベルIII認証申請の為に必須研修「助産師を育成する支援者の役割」	日本看護協会	オンデマンド	2016年6月10日	具志堅理沙
クリニカルラダーレベルIII認証申請の為に必須研修「産科における母体救急とその対応」	日本看護協会	オンデマンド	2016年6月10日	具志堅理沙
領域(MRM①)	看護部教育委員	当院	2016年6月10日	中根汐香
領域(DM①)	看護部教育委員	当院	2016年6月17日	神谷富士子
沖縄県看護協会総会	日本看護協会	看護協会	2016年6月18日	小野朋子
3ヵ月フォローアップ研修	看護部教育委員	当院	2016年6月24日	長嶺明子
領域(慢性心不全②)	看護部教育委員	当院	2016年6月24日	本村いずみ
中部管轄ハイリスク妊産婦連絡会	中部保健所	中部保健所	2016年6月28日	平屋敷加代
中堅研修②	看護部教育委員	当院	2016年6月30日	中根汐香
看護職と倫理	日本看護協会	看護協会	2016年6月30日	具志堅理沙、富里由美子
領域(感染)	看護部教育委員	当院	2016年7月1日	仲地春代
看護連盟総会	日本看護連盟		2016年7月2日	平屋敷加代
クリニカルラダーレベルIII認証申請の為に必須研修「新生児のフィジカルアセスメントとケア」	日本看護協会	オンデマンド	2016年7月5日	具志堅理沙、古謝奈津紀
新人リフレッシュ研修	看護部教育委員	県総合運動公園	2016年7月13日	長嶺明子、山城杏奈
医療安全と助産記録	日本看護協会	看護協会	2016年7月19日	金城嘉奈子、具志堅理沙
子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイント	日本看護協会	看護協会	2016年7月19日	具志堅理沙、金城嘉奈子
中堅研修②	看護部教育委員	当院	2016年7月22日	中根汐香
領域(がん看護①)	看護部教育委員	当院	2016年7月22日	具志堅弘美
救急フェア		当院	2016年7月30日	下柿元恵理、東條晴奈
領域(感染)	看護部教育委員	当院	2016年8月12日	金城嘉奈子
領域(救急①)	看護部教育委員	当院	2016年8月19日	小野朋子
医療に起因する予期せぬ死亡又は死産が発生した際の対応	日本看護協会	看護協会	2016年8月20日	我那覇美帆、原順子
中堅研修③	看護部教育委員	当院	2016年8月25日	中根汐香
領域(慢性心不全③)	看護部教育委員	当院	2016年8月26日	本村いずみ
緩和ケア講習会	沖縄県緩和	当院	2016年8月27日、28日	成田明日香
看護必要度研修	日本看護協会	看護協会	2016年8月28日	平屋敷加代
領域(感染)	看護部教育委員	当院	2016年9月2日	富里由美子
2年目研修	看護部教育委員	当院	2016年9月9日	古謝奈津紀
領域(救急)	看護部教育委員	当院	2016年9月16日	
日本サイコオンコロジー相会	サイコオンコロジー学会	札幌市	2016年9月22日～25日	成田明日香
中堅研修④	看護部教育委員	当院	2016年9月29日	中根汐香
領域(がん看護②)	看護部教育委員	当院	2016年9月30日	具志堅弘美、成田明日香
領域(感染)	看護部教育委員	当院	2016年10月7日	仲地春代
領域(救急)	看護部教育委員	当院	2016年10月14日	小野朋子
プリセプター研修	看護部教育委員	当院	2016年10月21日	
中堅研修⑤	看護部教育委員	当院	2016年10月27日	中根汐香
領域(がん看護③)	看護部教育委員	当院	2016年10月28日	具志堅弘美
いいお産の日	看護協会、助産師職能	こどもの国	2016年11月3日	我那覇美帆、上原美佳、長嶺明子

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
領域 (感染)	看護部教育委員	当院	2016 年 11 月 4 日	小野朋子
小学生職業説明会	西原町	坂田小学校	2016 年 11 月 6 日	下柘元恵理、東條晴奈
領域 (MRM)	看護部教育委員	当院	2016 年 11 月 11 日	原順子
NCPR A コース	周産期ネットワーク協議会		2016 年 11 月 12 日	我那覇美帆
領域 (救急)	看護部教育委員	当院	2016 年 11 月 18 日	我那覇美帆
領域 (がん看護④)	看護部教育委員	当院	2016 年 11 月 25 日	具志堅弘美
中堅研修発表	看護部教育委員	当院	2016 年 11 月 25 日	中根汐香
中部管轄ハイリスク妊産婦連絡会	中部保健所	中部保健所	2016 年 11 月 25 日	平屋敷加代
領域 (感染)	看護部教育委員	当院	2016 年 12 月 2 日	金城嘉奈子
領域 (MRM)	看護部教育委員	当院	2016 年 12 月 9 日	我那覇美帆
スキンケア研修	母子衛生研究会		2016 年 12 月 13 日	具志堅里沙、上原美佳、中根汐香
宜野湾市ハイリスク妊産婦連絡会	宜野湾保健所	宜野湾市保健相談センター	2016 年 12 月	平屋敷加代
2 年目症例発表	看護部教育委員	当院	2016 年 12 月 16 日	古謝奈津紀、我那覇美帆
別科事例発表会	県看護大学別科	県看護大学	2016 年 12 月 22 日	原順子
緩和ケア講習会	沖縄県緩和	当院	2017 年 1 月 7 日	成田明日香
新人看護師教育担当研修	日本看護協会	看護協会	2017 年 2 月 3 ~ 7	我那覇美帆
NCPR A コース	周産期ネットワーク協議会		2017 年 2 月 4 日	江島純子、古謝奈津紀
プリセプター研修	看護部教育委員	当院	2017 年 2 月 10 日	
師長主任合同研修	看護部教育委員	当院	2017 年 3 月 7 日	平屋敷加代、我那覇美帆、成田明日香

実績報告資料等

平成28年度総括

1. 安全な医療の提供
 - ☆目標をめざして、行動の前に確認を確実にした。
 - ☆0.1レベルでも、重大なミスにつながりそうなインシデントに関しては、クイックセーフターを用いた分析を行った。
 - ☆インシデント報告は61件。うち、ほとんどは0.1レベルの報告。2aレベルの報告は2件。
 - ☆指示伝達、薬剤に関わるインシデントが多く、29年度の課題とする。
 - ☆形成外科にて長期治療を要する創離開には至っていない。
2. 人材の育成
 - ☆アドバンス助産師の認定:3名認定追加
 - 中途入職者を含め実働5名
 - ☆部署間研修は1名受け入れたが、出せていない。
 - ☆NCPRシミュレーションの継続はできていない。

H29年度 病棟目標

- 1.安全な医療
 - ☆インシデントの共有と速やかな問題分析と対策
 - ☆患者誤認0件
 - ☆指示、伝達に関するインシデントの発生防止
- 2.人材の育成
 - ☆新入職者、リーダーNsの育成
 - ☆クリニカルリーダー取得のための研修
- 3.私たちが目指す周産期看護の提供
 - ☆新病棟への引越し後のアメニティ、クスの充実
 - ☆助産師外来の継続・評価
- 4.接遇:患者・家族への接遇向上、耳を傾ける風土づくり
- 5.他科患者受け入れの体勢づくり

3 階病棟（整形外科・脳神経外科・眼科・形成外科）

3 階病棟師長 屋宜 鮎美

職員数

総数 35 名
正看護師 31 名
看護助手 4 名

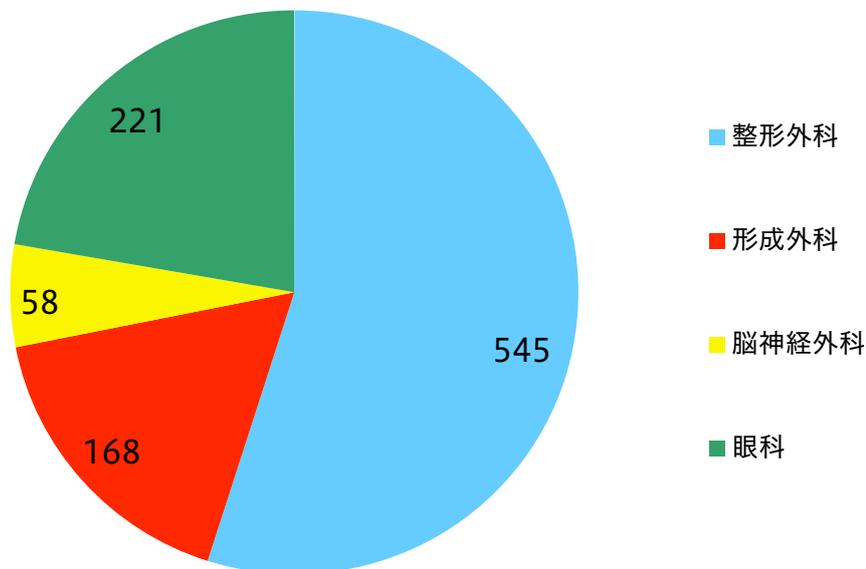
月平均入院患者状況

在院日数 16.8 日

新規入院患者数 99.3 名

病床利用数 57.1 床

診療科別手術件数内訳（件）



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
新入職者オリエンテーション	看護部	当院	2016年4月2日～	前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香
領域研修感染①	看護部	当院	2016年5月6日	宮里誠
フレッシュマン研修	沖縄県看護協会	南風原町	2016年5月11日	前田飛鳥、知念未弓
フレッシュマン研修	沖縄県看護協会	南風原町	2016年5月18日	前田力、西改泰子
助手研修①	看護部	当院	2016年5月20日	島袋涼花、小波津忍
中堅看護師 能力開発研修	看護部	当院	2016年5月26日、 6月30日、7月28日、 8月25日、9月29日、 10月28日	松村優美

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
領域研修感染②	看護部	当院	2016 年 6 月 3 日	宮里誠
沖縄県看護連盟総会	沖縄県看護連盟	南風原町	2016 年 6 月 8 日	外間真紀子
領域研修安全①	看護部	当院	2016 年 6 月 10 日	比嘉優
領域研修呼吸基礎	看護部	当院	2016 年 6 月 10 日	知念宏共
助手研修②	看護部	当院	2016 年 6 月 17 日	伊良波さやか
新人対象 BLS	看護部	当院	2016 年 6 月 18 日	前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香
新人 3 カ月フォローアップ研修	看護部	当院	2016 年 6 月 24 日	金城実花、前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香
領域研修感染③	看護部	当院	2016 年 7 月 1 日	東江隼士
領域研修安全②	看護部	当院	2016 年 7 月 8 日	比嘉優
新人リフレッシュ研修	看護部	沖縄市	2016 年 7 月 13 日	前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香、久下泰代
認知症ケア		東京都	2016 年 7 月 15 日	屋宜鮎美
認知症ケア		南風原町		知念宏共
新人 6 カ月フォローアップ研修	看護部	当院	2016 年 8 月 5 日	前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香
3 年目研修	看護部	当院	2016 年 8 月 5 日	金城実花、平良勝郎、名波美香
領域研修感染④	看護部	当院	2016 年 8 月 12 日	城間一輝
重症度医療 看護必要度評価者・院内指導者研修	S-QUE 研究会	南風原町	2016 年 8 月 28 日	屋宜鮎美、奥間有太郎
2 年目研修	看護部	当院	2016 年 9 月 9 日	比嘉優、宮城守寿
保健師助産師看護師実習指導者講習会	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 9 月 28 日 ～ 11 月 29 日	奥間有太郎
師長・主任合同研修	看護部	当院	2016 年 10 月 4 日	屋宜鮎美
リーダーシップ研修	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 10 月 7 日	屋宜鮎美
領域研修救急	看護部	当院	2016 年 10 月 14 日	平良勝郎、比嘉優
プリセプター研修	看護部	当院	2016 年 10 月 21 日	金城実花、久下泰代、名波美香、奥間有太郎
排尿自立支援研修		東京都	2016 年 11 月 11 日 ～ 11 月 12 日	宮里誠
新人看護職員研修 実施指導者研修	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 12 月 7 日 ～ 12 月 9 日	松村優美
1 年目症例	看護部	当院	2017 年 1 月 27 日	金城実花、前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香
プリセプター研修 (29 年度担当)	看護部	当院	2017 年 2 月 3 日	屋宜よし乃、松村優美、城間一輝、東江隼士
日本光電モニター講習	日本光電	当院	2017 年 2 月 16 日	足立聖子
1 年目フォローアップ研修 プリセプター研修	看護部	当院	2017 年 3 月 3 日	久下泰代、前田力、前田飛鳥、知念未弓、西改泰子、真名井菜、比嘉由布香

実績報告資料等

H28年度 3F病棟実績報告

1. 安全

薬剤に関するインシデント、また患者誤認11件と多い。5R、リストバンドの確認が徹底されていないのが原因であり、リーダーやリンクナースを中心に決まり事の周知徹底、KYTの強化、個人にあった指導方法を目指す

2. 現場教育

病棟の中心となるスタッフの産休育休が多く、新人看護師や2、3年目看護師の教育が不十分であった。中堅以上のスタッフへ病棟での役割意識の動機づけを積極的に行い全体の底上げにつなげる

3. 連携

各診療科のカンファレンスは定着。コミュニケーションの場でもあり、患者中心に他職との連携を積極的に行い、個々にあった医療を提供する

重点取り組み(重症度、医療・看護必要度)

目標⇒25%以上

H28年度3階病棟平均⇒**24.1%**

評価はナース2人で行い、夜勤ナースで再評価

夜勤リーダーナースでチェック

師長が確認、修正

意識づけのため病棟会でも報告

H29年度の取り組み課題

1. 安全

・療養環境整備 ・KYTの視点の強化 ・各スタッフに合わせた指導

2. 人材育成

・臨床看護実践レベルを指標とし、各個人役割意識をもつ
・患者中心に多角的にアセスメント(積極的なカンファレンス)

3. 連携

・他職種との連携により在院日数の短縮 ・手術患者を受け入れる病棟運営⇒必要度UP

4. WLB

・残業減少 ・元気な職場

3 階新病棟

3 階新病棟師長 洲鎌 正子

職員数

総数 15 名

正看護師 13 名

看護助手 2 名

月平均入院患者状況

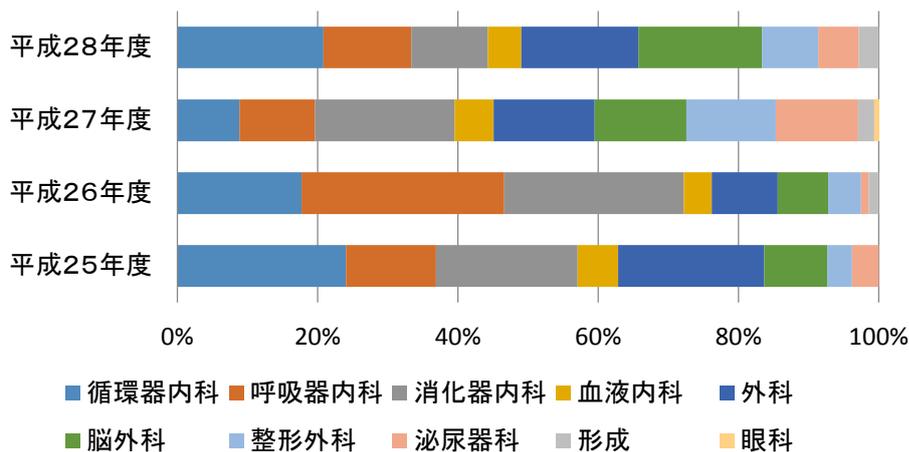
新規入院患者数 21.3 名

病床利用数 5.9 床

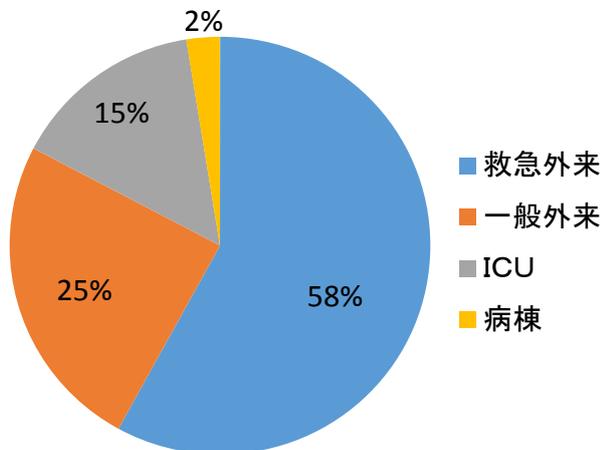
在院日数 11.2 日

業務実績

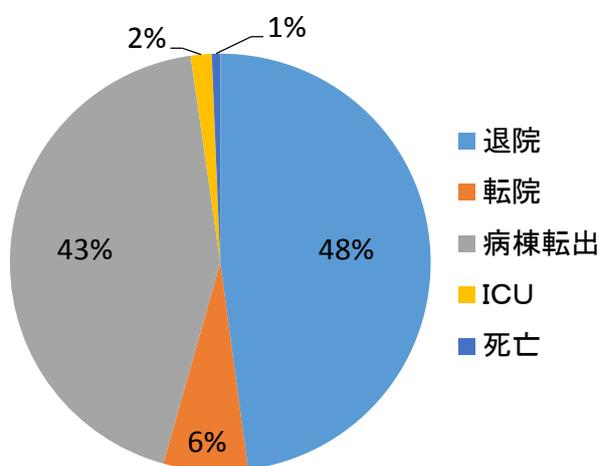
診療科別入院患者の割合



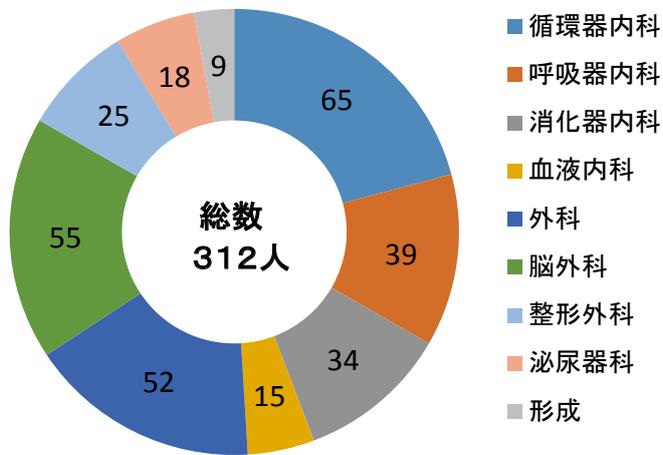
入室経路



退室経路



入院患者診療科別内訳



4 階病棟（外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科）

4 階病棟師長 宮城 つかさ

職員数

総数	41 名		
正看護師	35 名	看護助手	4 名
准看護師	1 名	クラーク	1 名

認定・資格取得など

下部尿道機能障害の治療とケア研修修了証取得	取得者：与那嶺美咲
2016・重症度医療看護必要度院内指導者研修修了	取得者：宮平良太、与那覇明子
認知症・高齢者の看護実践に必要な知識研修修了証取得	取得者：新里紗希果、与那覇亜希子

月平均入院患者状況

新規入院患者数	133.5 名
病床利用数	47.5 床
在院日数	11.0 日

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
ストーマ・セルフケアの手技獲得までに難渋した症例	第 15 回沖縄ウインドマネジメント研究会	沖縄	平成 28 年 9 月 10 日	宮城辰史、平田美加、新川綾香
腹腔鏡下胆のう摘出術クリニカルパスの検討	第 17 回日本クリニカルパス学会学術集会	石川県	平成 28 年 11 月 25 日・26 日	与那覇亜紀子、喜屋武ゆりか

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
新入職者研修	看護部	当院	2016 年 4 月 1 日～4 月 20 日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮
新人研修（排泄ケア）	看護部	当院	2016 年 4 月 4 日	新里瀬名
新人研修（療養環境）	看護部	当院	2016 年 4 月 5 日	池原勇弥
新人研修（口腔ケア）	看護部	当院	2016 年 4 月 6 日	野国夕貴
新人研修（電子カルテ）	看護部	当院	2016 年 4 月 7 日	玉城亜衣
新人研修（情報収集・入院時問診）	看護部	当院	2016 年 4 月 8 日	半嶺梢、与那嶺美咲
新人研修（看護計画・記録）	看護部	当院	2016 年 4 月 11 日	新里瀬名
新人研修（採血）	看護部	当院	2016 年 4 月 14 日	与那嶺美咲
新人研修（注射）	看護部	当院	2016 年 4 月 15 日	与那覇亜紀子
				野国夕貴
新人研修（清潔操作・導尿）	看護部	当院	2016 年 4 月 19 日	与那嶺美咲
バイタルサインセミナー		院外	2016 年 4 月 30 日	末吉彩夏、新川綾香
感染領域研修	看護部	当院	2016 年 5 月 6 日	由布真実
フレッシュマン研修	看護協会	院外	2016 年 5 月 18 日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮
中堅研修	看護部	当院	2016 年 5 月 26 日	宮城つかさ

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
メディエーション養成講座	日本医療メディエーション協会	当院	2016年5月28日、29日	宮城つかさ
ポリナビショッ	看護協会	院外	2016年5月28日	大里奈央
新人対象 BLS	看護部	当院	2016年6月18日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮
看護協会通常総会	看護協会	院外	2016年6月18日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮
3か月フォローアップ研修	看護部	当院	2016年6月24日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮、半嶺梢
基礎から学ぶ救急看護	看護協会	院外	2016年6月25日	末吉彩夏
中堅研修	看護部	当院	2016年6月28日	新里紗希果、宮城つかさ
パス大会	パス委員会	当院	2016年7月6日	西尾幸恵
領域研修(感染)	看護部	当院	2016年7月1日	喜屋武ゆりか
領域研修(呼吸)	看護部	当院	2016年7月8日	外間幸代
TA 研修	おもと会看護学校	院外	2016年7月6日	宮平良太
新人リフレッシュ研修	看護部	院外	2016年7月13日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮、新里瀬名、半嶺梢
看護管理ファーストレベル研修	看護協会	院外	2016年7月5日～8月18日	宮城つかさ
日本光電心電図セミナー	日本光電	当院	2016年7月21日	池原勇弥、新里瀬名
領域研修(化学療法)	看護部	当院	2016年7月22日	斉藤路子
中堅研修	看護部	当院	2016年7月22日	新里紗希果
看護必要度研修	看護協会	院外	2016年7月24日	与那覇亜紀子
3年目研修	看護部	当院	2016年8月5日	池原勇弥、新里瀬名、与那嶺美咲、穴井夕貴、宮平良太
領域研修(救急看護)	看護部	当院	2016年8月9日	祖堅萌佳
インタ-ンシップ	看護部	当院	2016年8月10日、11日	与那覇亜紀子
領域研修(感染)	看護部	当院	2016年8月12日	与那嶺美咲
中堅研修	看護部	当院	2016年8月25日	新里紗希果、 宮城つかさ
プリセプター報告会	看護部	当院	2016年8月29日	新里瀬名、半嶺梢
インタ-ンシップ	看護部	当院	2016年8月17日、24日	与那覇亜紀子
緩和ケア研修会	沖縄県緩和ケア委員会	当院	2016年8月27、28日	半嶺梢、下地睦
緩和ケア研修Ⅱ	看護協会	院外	2016年9月14日	下地睦
看護必要度研修	看護協会	院外	2016年9月28日	宮平良太
専門職連携・教育とコンフリクトマネジメント	日本医療メディエーション協会	当院	2016年9月25日	宮城つかさ
中堅研修	看護部	当院	2016年9月29日	新里紗希果、宮城つかさ
6か月フォローアップ研修	看護部	当院	2016年9月30日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮、半嶺梢
領域研修(癌看護)	看護部	当院	2016年9月30日	斉藤路子
がん看護Ⅲ	看護協会	院外	2016年10月5日	高宮里沙
師長・主任合同研修	看護部	当院	2016年10月4日	宮城つかさ、与那覇亜紀子、半嶺梢、宮平良太
領域研修(感染)	看護部	当院	2016年10月7日	宮城辰史
役職者研修	当院	当院	2016年10月8日	宮城つかさ、与那覇亜紀子、半嶺梢
認知症高齢患者の看護実践に必要な基礎知識	看護協会	院外	2016年10月13、14日	与那覇亜紀子
プリセプター研修	看護部	当院	2016年10月21日	池原勇弥、新里瀬名、半嶺梢
熊本災害支援報告会	当院	当院	2016年10月25日	高宮里沙
業務改善実践報告会	当院	当院	2016年10月26日	西尾幸恵、祖堅萌佳、川崎聖信、由布真実
領域研修(ガン看護)	看護部	当院	2016年10月28日	斉藤路子
地域包括的視点に基づく看護管理	看護協会	院外	2016年10月29日	宮城つかさ
嚥下機能研修		院外	2016年11月5日	与那覇亜紀子

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
下部尿路機能障害治療とケア	東京・全日本病院協会	院外	2016 年 11 月 11.12 日	与那嶺美咲
役職者研修	当院	院内	2016 年 11 月 12 日	宮城つかさ、与那覇亜紀子、半嶺梢
領域研修(救急看護)	看護部	当院	2016 年 11 月 18 日	新里瀬名
領域研修(ガン看護)	看護部	当院	2016 年 11 月 25 日	齋藤路子
感染領域研修	看護部	当院	2016 年 12 月 2 日	与那嶺美咲
緩和ケア研修会	緩和ケア委員会	当院	2017 年 1 月 7 日	高宮理沙
プリセプター報告会	看護部	当院	2017 年 1 月 10 日	半嶺梢、新里瀬名
1 年目症例報告会	看護部	当院	2017 年 1 月 27 日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮、半嶺梢
日本光電心電図セミナーベーシック	日本光電	当院	2017 年 2 月 16 日	宮平良太
平成 29 年度プリセプター研修	看護部	当院	2017 年 2 月 10 日	末吉彩夏、新川綾香
ELNECJ		中部病院	2017 年 2 月 25、26 日	大里奈央
師長主任合同研修	看護部	当院	2017 年 3 月 7 日	宮城つかさ、半嶺梢、與那覇亜紀子、宮平良太
1 年目フォローアップ研修	看護部	当院	2017 年 3 月 10 日	大城絢女、平良ナナ、比嘉亮、新里瀬名、半嶺梢

実績報告資料等

★平成28年度病棟目標★

- 1・安全な医療
- 2・ワークライフバランス
- 3・人材育成
- 4・接遇の徹底

★平成28年の度取り組み★

- ▶ 決まり事の周知を徹底する体制づくり(情報周知のための手順の定着)
- ▶ 5Rの徹底・照会の徹底(患者誤認ゼロ)
- ▶ インシデントの分析(振り返りと対策)
- ▶ MRM委員による患者ラウンド・転倒転落予防の評価・スタッフ教育
- ▶ リーダー育成
- ▶ Drによる勉強会の継続(月1回)
- ▶ 残業時間の減少(時間内での業務終了の意識づけ・居残り当番をつける)
- ▶ 院外研修の参加・学会の参加・発表
- ▶ PNSの確立

★取り組みの成果★

- ▶ 患者誤認ゼロを目標としたが5件の患者誤認が発生した。リストバンド確認・照合・フルネーム確認ができていない現状がある。次年度は、患者誤認防止マニュアルを徹底しスタッフ一人一人に行為の確認を行っていき患者誤認をゼロにする。
- ▶ 今年度、転倒・転落予防のため、MRM委員による週1回の病棟ラウンドとスタッフへのフィードバックを行った。4月～7月は転倒3件～5件。ラウンド開始後の8月～11月は転倒1件～2件と減少傾向にあったが、11月以降は4件～5件と増加した。KYTが弱いと分析した。シミュレーションを通して危険予知トレーニングを行い強化していきたい。
- ▶ 時間外勤務を減らすため、下半期、居残り当番1名つけた。そのことで業務時間内での終了の意識づけとなり、時間外勤務を減らすことに繋がった。

★平成29年度病棟目標★

- ▶1・安全な医療
- ▶2・人材育成
- ▶3・ワークライフバランス
- ▶4・接遇の徹底

5 階病棟（消化器内科・小児科）

5 階病棟師長 米須 智子

職員数

総数 41 名

正看護師 34 名

准看護師 2 名

看護助手 4 名

保育士 1 名

月平均入院患者状況

新規入院患者数 189.8 名

病床利用数 47.7 床

在院日数 7.7 日

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
新入職オリエンテーション	看護部	院内	2016 年 4 月 1 日～ 4 月 20 日	糸数真優、港川誉志也、真野明日花
オリエンテーション (排泄ケア・トランスファー)	看護部	院内	2016 年 4 月 4 日	中野愛、平出彩夏
オリエンテーション (血管確保・採血)	看護部	院内	2016 年 4 月 14 日	中野愛、平出彩夏
沖縄バイタルサインセミナー	日本光電	院外	2016 年 4 月 30 日	宮里夏樹、照喜名朝邦
領域別研修(感染 I - ①)	看護部	院内	2016 年 5 月 6 日	我謝要子、大城祥子
領域別研修(救急①)	看護部	院内	2016 年 5 月 13 日	富里理恵
看護助手研修	看護部	院内	2016 年 5 月 20 日	仲村嶺子、金城義乃、玉木紗希
医療調査制度と看護記録	日本看護協会	院外	2016 年 5 月 27 日	鈴木千恵
領域別研修(心不全①)	看護部	院内	2016 年 5 月 27 日	大宮那保、佐藤友美
患者との対話モデル セルフメディエーション	看護部	院内	2016 年 5 月 28 日	米須智子、鈴木千恵
領域別研修(感染 I - ②)	看護部	院内	2016 年 6 月 3 日	与那城友子、安里恵美子
領域別研修(呼吸①)	看護部	院内	2016 年 6 月 10 日	富里理恵
領域別研修(安全①)	看護部	院内	2016 年 6 月 10 日	佐藤寛子
日本看護連盟通常総会	日本看護連盟	院外	2016 年 6 月 14 日～ 15 日	米須智子
看護助手研修	看護部	院内	2016 年 6 月	尾崎聖子、島袋加奈恵
3 ヶ月フォローアップ研修	看護部	院内	2016 年 6 月 24 日	糸数真優、港川誉志也、真野明日花
領域別研修(心不全②)	看護部	院内	2016 年 6 月 24 日	大宮那保
SSI ユーザー会	看護部	院内	2016 年 6 月 24 日	米須智子
中堅研修①	看護部	院内	2016 年 6 月 28 日	前田利枝子
領域別研修(感染 I - ③)	看護部	院内	2016 年 7 月 1 日	嘉陽陽子、新垣涼香
領域別研修(安全②)	看護部	院内	2016 年 7 月 10 日	佐藤寛子
領域別研修(呼吸②)	看護部	院内	2016 年 7 月 10 日	富里理恵
領域別研修(救急②)	看護部	院内	2016 年 7 月 15 日	富里理恵
日本光電心電図セミナー	日本光電	院内	2016 年 7 月 21 日	宮里夏樹、照喜名朝郁
看護必要度研修	看護協会	院外	2016 年 7 月 24 日	鈴木千恵
領域別研修(化学療法①)	看護部	院内	2016 年 7 月 22 日	大城祥子
中堅研修②	看護部	院内	2016 年 7 月 28 日	前田利枝子
ファーストレベル研修	看護協会	院外	2016 年 7 月 5 日～ 8 月 27 日	米須智子

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
中堅研修③	看護部	院内	2016 年 8 月 25 日	前田利枝子
6ヶ月フォローアップ研修	看護部	院内	2016 年 9 月 30 日	糸数真優、港川誉志也、宮川明日花
実習指導者講習	看護協会	院外	2016 年 10 月～11 月	大城祥子
コーチングリーダーシップ 個人の成長と組織の成功	ハートライフ病院	院内	2016 年 10 月 8 日	米須智子、鈴木千恵
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	日本看護協会	院外	2016 年 10 月 13 日～4 日	富里理恵
小児のスキンケアを学ぶ	母子衛生研究会	院外	2016 年 12 月 13 日	米須智子、大城祥子、諸見里佳奈、平出彩夏
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	日本看護協会	院外	2016 年 12 月 13 日～4 日	知念晶子
2 年目症例報告会	看護部	院内	2016 年 12 月 16 日	宮里夏樹、照喜名朝邦
1 年目報告会	看護部	院内	2017 年 1 月 27 日	糸数真優、港川誉志也、宮川明日花
プリセプター研修	看護部	院内	2017 年 2 月 10 日	照喜名朝邦、宮里夏樹、中野愛、比嘉真文、金城竜弥
モニター講習会	日本光電	院内	2017 年 2 月 16 日	大城祥子、我謝要子
師長・主任合同研修	看護部	院内	2017 年 3 月 7 日	米須智子、鈴木千恵
1 年目フォローアップ研修	看護部	院内	2017 年 3 月 10 日	糸数真優、港川誉志也、宮川明日花

実績報告資料等

H28年度実績報告

H28年度総括
 新規入院患者⇒目標132に対し累計187
 病床利用率⇒目標49に対し累計47.2
 在院日数⇒目標11.3日に対し7.8日
小児科：小児入院増加要因
 (H28年4月から小児経口負荷試験入院が始まり定期的入院が入った)
 ※アトピー性皮膚炎のスキンケア入院を含め110名であった
消化器内科：消化器内科の特殊検査・治療の件数減と重症患者が減少
 (H28年度より消化器内科医1名減によりERCP・RFAなどの特殊検査、治療減)

H28年度新たな取り組み

「食物経口負荷試験入院の体制確立」
「食べさせない」時代から
「食べられる範囲で食べさせる」時代へ

★食物アレルギーの程度★
 どれくらいまで安全に食べることができるかを判断するための検査入院

◇◆安全に行うことが条件◆◇
 ・医師・看護師付き添いのもと食物の量と時間を設定して食べていく
 ・症状が出たら負荷試験中止し速やかに処置・対応を行う(内服、吸入など)
 ・医師指示のもと、摂取可能な量を管理栄養士からの栄養指導
 (調理方法や市販のお菓子や食物の紹介)

年度別小児科入院実績

※アレルギー症状が出た食材は小さいころから食べ慣れていなかったり症状がでたらクマとなり摂取することが過剰に感じていることが多い。そこで「食べられるように」工夫。コマレシシクや味付け海苔を味をこまかくして摂取しています。

H28年度病棟目標

- 安全：5Rの確認・直前照合の徹底
⇒患者誤認ゼロ
- 思いやり：患者、家族の立場に立って考える
⇒参加型カンファレンス実施と情報共有
- 接遇：いつも笑顔で親切な対応(接遇10カ条の徹底)
⇒クレームゼロ
- 育成：病状に合わせた看護の提供、知識の共有
⇒勉強会実施1回/月・伝達講習会の実施
- WLBの推進：生活全体の充実により良い看護の提供
⇒家庭生活の充実・自己啓発充実によるより良い看護を提供する

★★目指せ！家族・知り合いを入院させたい病棟★★

H29年度の取り組み

※小児入院の充実

- 食物経口負荷試験患児の入院受け入れ増
—H29年度 4名/日⇒ 6名/日へ—
(入院受け入れ態勢の整備)
- 小児麻酔ヘルニア手術件数増
1泊2日入院受け入れ増
(勉強会実施、手術見学実施)

※消化器内科

- 長期入院患者減に向けて
入院時カンファレンス
毎週月曜日の消化器内科回診の実施、30日越え患者のリストアップ

6階病棟（血液内科・腎臓内科）

6階病棟師長 安村 公均

職員数

総数 40名

正看護師 34名

准看護師 1名

看護助手 5名

月平均入院患者状況

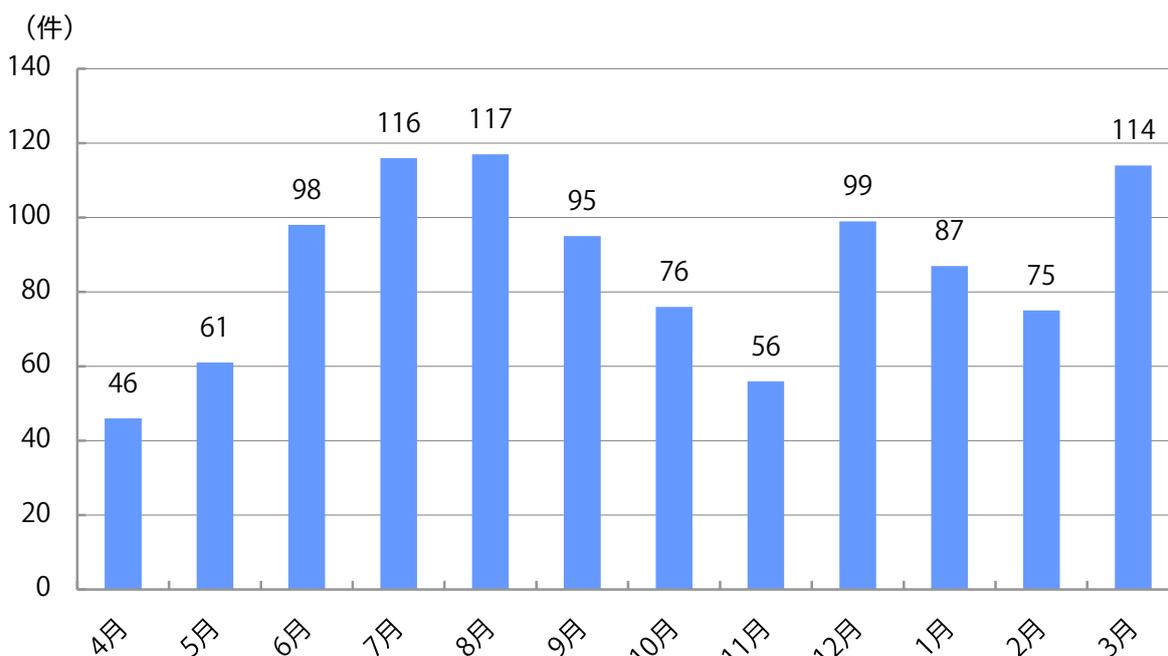
新規入院患者数 57.0名

病床利用数 47.8床

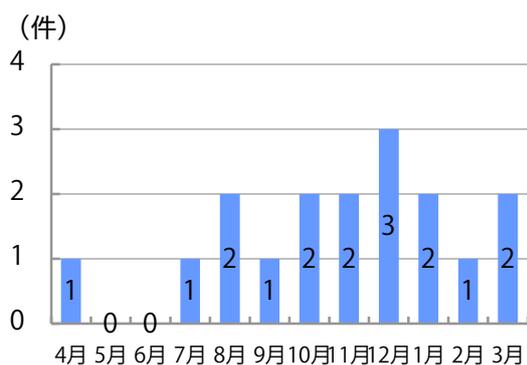
在院日数 23.7日

業務実績

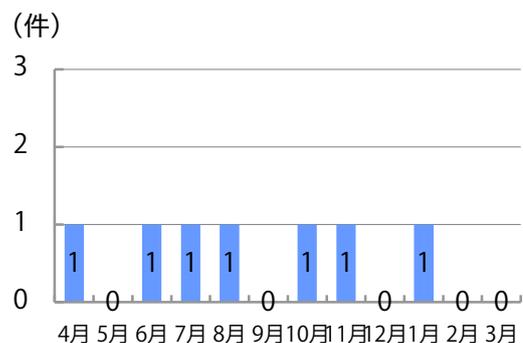
化学療法件数



移植件数



バンクドナー採取件数



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
ピアサポート相談室用務	琉球大学医学部附属病院 (沖縄県地域統括相談支援センター)	西原町		仲田ひろ子

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
第 27 回 日本臨床モニター学会総会	日本臨床モニター学会	宜野湾市	2016 年 4 月 30 日	大城まりな、仲村渠恵理子、真境名美鈴、池村悠
沖縄パイタルサインセミナー	日本臨床モニター学会	宜野湾市	2016 年 4 月 30 日	大城まりな、仲村渠恵理子、真境名美鈴、池村悠
フレッシュマン研修	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 5 月 11 日、18 日	大城まりな、仲村渠恵理子、真境名美鈴、池村悠
平成 28 年度 ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟	宜野湾市	2016 年 5 月 28 日	上原拓也
沖縄県看護協会 通常総会	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 6 月 18 日	宮城杏子
基礎から学ぶ救急看護 - 急変予測と対応 -	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 6 月 21 日、22 日、24 日	上運天明穂、真柴田さつき、樋口真美
仲間と語る会 「浦看カフェ」	浦添看護学校	浦添市	2016 年 6 月 25 日	仲村渠恵理子
'16 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会 S-QUE 研究会	南風原町	2016 年 7 月 24 日	仲田ひろ子
沖縄県看護協会 がん看護 I(看護概論・疼痛ケア・放射線療法看護)	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 7 月 30 日	外間勝貴
'16 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 8 月	金城隆也
沖縄県看護協会 がん看護 II (化学療法看護)	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 9 月 14 日	外間勝貴
沖縄県看護協会 がん看護 III (症状マネジメント・がん患者とのコミュニケーションスピリチュアルペインケア)	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 10 月 5 日	外間勝貴
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 10 月 13 日、14 日	山城由衣、備瀬結香
人工呼吸器管理の基礎と患者のケア	沖縄県看護協会	南風原町	2016 年 12 月 16 日	宮里瀬菜
医療安全管理者研修	沖縄県看護協会	南風原町	2017 年 1 月 21 日～27 日	安村公均

実績報告資料等

総括	部署名	6階
<p>1 PNS、WLBの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全意識の向上 ・患者誤認防止の強化 ・後輩育成能力の向上 ・超過勤務の低減 <p>→患者誤認防止については、朝の唱和とWチェックの徹底により達成できた。安全意識の向上については、転倒に対しては強化できた。しかしスキンケア件数が増加し、アラートから予防面での対応が課題として残った。</p> <p>後輩育成に関しては、PNSを通して一つずつ課題を設けながら進めている。超過勤務に対しては大きな変化はなく、PNSの質向上と遅番勤務を活用することで低減に向けた取り組みを継続している。</p> <p>2 報告・連絡・相談を活かした他職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護アセスメント能力の向上 ・根拠に基づいた看護展開 		
平成 28 年度		

7 階病棟（呼吸器内科・循環器内科）

7 階病棟師長 島袋 すが子

職員数

総数 41 名

正看護師 34 名

准看護師 2 名

看護助手 5 名

認定・資格等

氏名	認定・資格など
花城優子	沖縄看護専門学校 TA
花城優子	2016 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修修了証取得
仲里 寛	2016 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修修了証取得
宮城久美子	下部尿路機能障害の治療とケア研修修了証取得
知念恵子	病院看護師のための認知症対応力向上研修修了証取得
宮城梨乃	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了証取得
眞眞さゆり	栄養サポートチーム専門療法士認定規定に基づく臨床実地修練修了証 取得

月平均入院患者状況

新規入院患者数 103.8 名

病床利用数 50.2 床

在院日数 13.6 日

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
活用状況と今後の課題 ～循環器編～	クリティカルパス大会	当院	2016 年 7 月 6 日	奈良成明、久手堅政直、宮城梨乃
笑顔で働ける職場づくり～WLB を充実させるには～	院内研究発表会	当院	2016 年 10 月 26 日	與那城未咲、仲村和士、渡口純
褥創の院内発生予防と褥創悪化予防の取り組み	中堅研修	当院	2016 年 11 月 25 日	新垣仕言
慢性心不全看護認定看護師の役割	沖縄県看護学会	沖縄県看護協会	2017 年 2 月 18 日	島袋すが子

活動実績

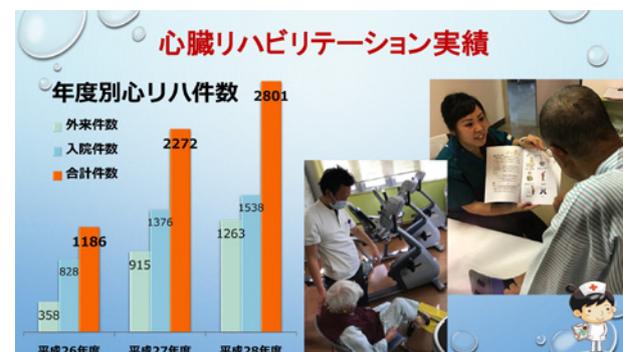
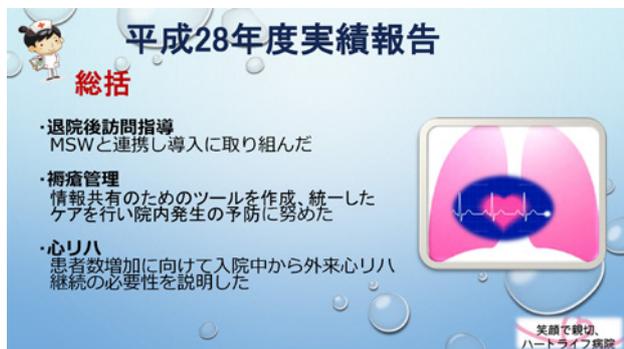
院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
新入職者オリエンテーション	看護部	当院	2016 年 4 月 6 日～14 日	花城優子、米須さやか、宮城梨乃、眞玉橋幸
感染管理領域別研修①	看護部	当院	2016 年 5 月 6 日	渡口純
フレッシュマン研修	看護協会	南風原町	2016 年 5 月 11 日	上原芹香、浦崎奈々瀬
助手研修	看護部	当院	2016 年 5 月 20 日	小濱るり子、宮城麗美
フレッシュマン研修	看護協会	南風原町	2016 年 5 月 25 日	仲宗根幸菜、城間ゆずき
慢性心不全領域別研修①	看護部	当院	2016 年 5 月 27 日	與那城未咲、花城優子、島袋すが子

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
プリセプター報告会①	看護部	当院	2016 年 5 月 30 日	真玉橋幸
呼吸領域別研修①(基礎編)	看護部	当院	2016 年 6 月 10 日	米須さやか
地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み	看護協会	南風原町	2016 年 6 月 11 日	島袋すが子
助手研修	看護部	当院	2016 年 6 月 17 日	新垣絹子、新垣裕子、玉城由花
糖尿病領域別研修	看護部	当院	2016 年 6 月 17 日	島袋すが子
3 ヶ月フォローアップ研修	看護部	当院	2016 年 6 月 24 日	上原芹香、浦崎奈々瀬、仲宗根幸菜、城間ゆずぎ
慢性心不全領域別研修②	看護部	当院	2016 年 6 月 24 日	與那城未咲、花城優子、島袋すが子
プリセプター報告会②	看護部	当院	2016 年 6 月 27 日	米須さやか
中堅研修	看護部	当院	2016 年 6 月 28 日	新垣仕言、島袋すが子
感染管理領域別研修①	看護部	当院	2016 年 7 月 1 日	川上さくら
安全管理領域別研修	看護部	当院	2016 年 7 月 8 日	真玉橋幸
呼吸領域別研修②(基礎編)	看護部	当院	2016 年 7 月 8 日	米須さやか、宮城梨乃
リフレッシュ研修	看護部	沖縄市(泡瀬運動公園)	2016 年 7 月 13 日	仲宗根幸菜、上原芹香、浦崎奈々瀬、城間ゆずぎ、米須さやか真玉橋幸
モニター講習会(基礎編)	日本光電	当院	2016 年 7 月 21 日	米須さやか、真玉橋幸、新城久留美
がん看護領域別研修①	看護部	当院	2016 年 7 月 22 日	宮城秀成
中堅研修	看護部	当院	2016 年 7 月 22 日	新垣仕言、島袋すが子
看護実践能力を育てる	看護協会	南風原町	2016 年 7 月 22 日	島袋すが子
プリセプター報告会③	看護部	当院	2016 年 7 月 25 日	真玉橋幸
リーダー研修Ⅰ- チーム力を高めるリーダーシップを学ぼう	看護協会	南風原町	2016 年 7 月 29 日	與那城未咲
3 年目研修	看護部	当院	2016 年 8 月 5 日	真玉橋幸
急性期病院における地域包括ケアシステム構築に向けた退院調整力向上の取り組み	看護協会	南風原町	2016 年 8 月 6 日	花城優子
感染管理領域別研修①	看護部	当院	2016 年 8 月 12 日	伊佐友美
救急領域別研修①	看護部	当院	2016 年 8 月 19 日	松原賛美
災害看護(看護管理者編)	看護協会	南風原町	2016 年 8 月 22 日	仲里寛
中堅研修	看護部	当院	2016 年 8 月 25 日	新垣仕言、島袋すが子
慢性心不全領域別研修③	看護部	当院	2016 年 8 月 26 日	與那城未咲、花城優子、島袋すが子
院内緩和ケア研修会	看護部	当院	2016 年 8 月 27 ~ 28 日	宮城秀成
プリセプター報告会④	看護部	当院	2016 年 8 月 29 日	宮城梨乃、仲里寛
感染管理領域別研修②	看護部	当院	2016 年 9 月 2 日	渡口純
看護の本質を再確認しよう!- 看護の臨床の「知」から -	看護協会	南風原町	2016 年 9 月 3 日	上原慎
2 年目研修	看護部	当院	2016 年 9 月 9 日	川上さくら、松原賛美、照屋杏奈
救急領域別研修①	看護部	当院	2016 年 9 月 16 日	照屋杏奈
呼吸領域別研修③(基礎編)	看護部	当院	2016 年 9 月 16 日	米須さやか、宮城梨乃
中堅研修	看護部	当院	2016 年 9 月 29 日	新垣仕言、島袋すが子
がん看護領域別研修②	看護部	当院	2016 年 9 月 30 日	宮城秀成
6 ヶ月フォローアップ研修	看護部	当院	2016 年 9 月 30 日	上原芹香、浦崎奈々瀬、仲宗根幸菜、城間ゆずぎ、花城優子
師長・主任合同研修①	看護部	当院	2016 年 10 月 4 日	島袋すが子、花城優子、仲里寛
感染管理領域別研修②	看護部	当院	2016 年 10 月 7 日	川上さくら
役職者研修(コーチング・リーダーシップ)	看護部	当院	2016 年 10 月 8 日	島袋すが子、花城優子、仲里寛
救急領域別研修②	看護部	当院	2016 年 10 月 14 日	松原賛美
スピリチュアケアと命の質	医師会館	南風原町	2016 年 10 月 20 日	久手堅政直
プリセプター研修	看護部	当院	2016 年 10 月 21 日	米須さやか、宮城梨乃、真玉橋幸、仲里寛
中堅研修	看護部	当院	2016 年 10 月 27 日	新垣仕言、島袋すが子
がん看護領域別研修③	看護部	当院	2016 年 10 月 28 日	宮城秀成
感染管理領域別研修②	看護部	当院	2016 年 11 月 4 日	伊佐友美

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
安全管理領域別研修	看護部	当院	2016年11月11日	照屋杏奈
呼吸領域別研修④(基礎編)	看護部	当院	2016年11月11日	上原慎
役職者研修(コーチング・リーダーシップ)	看護部	当院	2016年11月12日	島袋すが子、花城優子、仲里寛
救急領域別研修②	看護部	当院	2016年11月18日	照屋杏奈
がん看護領域別研修④	看護部	当院	2016年11月25日	宮城秀成
プリセプター報告会⑤	看護部	当院	2016年11月28日	米須さやか、仲里寛
新人看護職員研修教育実地指導者研修	看護協会	南風原町	2016年12月7～9日	宮城梨乃
安全管理領域別研修	看護部	当院	2016年12月9日	東江幸恵
呼吸領域別研修(上級編)	看護部	当院	2016年12月9日	上原慎
院内緩和ケア研修会	看護部	当院	2017年1月7日	東江幸恵、宮城秀成
プリセプター報告会⑥	看護部	当院	2017年1月10日	宮城梨乃、仲里寛
2017JSPEN 臨床栄養セミナー岡山	JSPEN	岡山県	2017年2月23～25日	當間さゆり
新人看護職員研修教育担当者研修	看護協会	南風原町	2017年2月3～7日	花城優子
プリセプター研修	看護部	当院	2017年2月10日	川上さくら、松原賛美、新城久留美、下地恵美奈
モニター講習会(上級編)	日本光電	当院	2017年2月16日	花城優子、上原慎
師長・主任合同研修②	看護部	当院	2017年3月7日	島袋すが子、花城優子
1年目フォローアップ研修	看護部	当院	2017年3月10日	上原芹香、浦崎奈々瀬、仲宗根幸菜、城間ゆずき
プリセプター研修	看護部	当院	2017年3月10日	宮城梨乃

実績報告資料等



内視鏡センター

内視鏡センター師長 古波蔵 美登利

職員数

総数 19 名 (看護部所属)

看護師 13 名

助手 3 名

准看護師 3 名

認定・資格など

氏名	認定・資格名
古波倉美登利	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ 第 1 種衛生管理
喜屋武香織	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
国仲トモ子	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
渡久山すえの	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ

氏名	認定・資格名
野原さやか	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅱ
大城 敦	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
宮城愛子	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ

内視鏡センター 運営方針

1. インフォームドコンセントを充実させ、受検者の満足に答える医療サービスを提供する。
2. 安全性を確保しつつより高いレベルへの診断能の向上、内視鏡治療の質の向上をめざす。
3. 消化器内視鏡指導施設として、医師及びコメディカルスタッフの指導・育成を行う。

目標

- (1) より高い診療技術の向上
- (2) 患者安全の確保
- (3) 洗浄・消毒の徹底と管理

検査・治療件数

内視鏡検査及び内視鏡的治療

種別	合計
胃内視鏡	9,971
大腸内視鏡	3,020

種別	合計
ERCP	115
小腸内視鏡	1
気管支鏡	59

詳細な検査・治療実績は「内視鏡センター」をご覧ください。

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
研究会世話人	第1回沖縄県消化器内視鏡技師会	沖縄県 琉球大学	平成28年10月29日	古波倉美登利
紙チェックリストを電子カルテに移行 しての試み	第1回沖縄県消化器内視鏡技師会	沖縄県 琉球大学	平成28年10月29日	山内芳
座長	沖縄県消化器内視鏡技師 主催教育講演	沖縄県 琉球大学	平成29年3月5日	古波倉美登利

活動実績

院内外研修・勉強会参加実績

名称	開催地	年月日	参加者
内視鏡における薬品の薬効・用量・用法・副作用・禁忌について	当院	5月10日	渡久山、國仲、大城、前田、山内、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里、伊禮、喜屋武
下剤（ニフレック・マグコロールP・モビブレップ）について	当院	5月21日	渡久山、國仲、大城、前田、山内、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里、伊禮、喜屋武、古波倉
ピロリ菌について（Dr 仲本）	当院	6月18日	渡久山、國仲、大城、前田、山内、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里、伊禮、喜屋武、古波倉
第69回九州消化器内視鏡技師研究会	福岡	6月24日	古波倉美登利
感染の標準予防策・スタンダードプリコーション	当院	7月23日	渡久山、國仲、大城、前田、山内、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里、伊禮、喜屋武、古波倉
救急カートの薬品テスト	当院	10月20日	古波倉、喜屋武、國仲、大城、前田、山内、照屋、宮城、兼本、伊佐、宮里
第1回沖縄県消化器内視鏡技師研究会	沖縄県琉球大学	10月29日	古波倉、喜屋武、國仲、大城、前田、山内、照屋、宮城、兼本、伊佐
医療事故調査制度	東京	11月9日	古波倉美登利
医療事故調査制度の現状	沖縄県看護協会	11月17日	古波倉美登利
逆流性食道炎について（Dr 折田）	当院	11月22日	古波倉師長、渡久山、國仲、前田、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、伊禮、山口
ERCPについて（Dr 柴田）	当院	11月29日	古波倉師長、渡久山、國仲、前田、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里
インスリン製剤の種類について～超速効型・持効型とは～ 内服の種類 ～超速効型・持効型とは～	当院	12月5日	古波倉師長、喜屋武、渡久山、大城、前田、山内、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里
対極板について スコープ先端カバー焼けと処置具の取り扱い	当院	12月8日	古波倉師長、喜屋武、渡久山、大城、前田、山内、照屋、入与那国、宮城、兼本、伊佐、宮里、伊禮
医療事故調査制度	東京	12月10日、11日	古波倉美登利
内視鏡・緊急止血術について テスト方式（必要物品・手順方法）	当院	1月31日	古波倉師長、渡久山、國仲、大城、山内、照屋、宮城、兼本、伊佐、宮里
医療機関が抱えるトラブルの対応について	沖縄県薬剤師会館	2月10日	古波倉美登利
沖縄県消化器内視鏡技師主催教育講演	沖縄県琉球大学	3月5日	古波倉、喜屋武、伊佐、入与那国

内視鏡センター年度総括

1. 検査件数 上部 9,000 件 下部 3,000 件

⇒実績 上部 9,971 件 下部 3,020 件で目標達成

2. 検査終了時間 上部 12 : 15 下部 16 : 15

⇒実績 上部達成率 91% 下部達成率 85%

検査件数が増加する中、目標達成率が高いのは、PNS が定着し役割分担と協力体制ができている事と医師との連携体制が構築されている結果だと評価しています。次年度も継続致します。

3. 機器管理の徹底

⇒故障件数 11 件 (前年度比 2 件増)

件数増加で使用回数も増える事と使用年数経過に伴い故障率も高くなるので、防げない部分もありますが、事象毎に故障分析を行い注意喚起を行いました。また、異常に一早く気づき故障を最小限にとどめることにも目を向け、故障分析に基づき機器取扱いや点検法の勉強会を行い、周知を図りました。

4. 安全管理

インシデント 0 の目標に対し発生が 22 件あり、 そのうち書類関連を含めた患者誤認が 5 件発生と最も多くありました。発生したインシデントは、事象レベルを問わず全症例クイックセーファーを行い要因の明確化、対策の立案と実施を行いました。また、患者誤認のように対策を立てていたが再度起こった事象については、要因を明確にした後、前対策の PDCA を行う取組をした。次年度は 0 レベル報告に目がいくように KYT の強化と安全風土を意識し指摘し合える関係の構築を課題とし取り組んでいきます。

5. 感染管理

交差感染を防ぐよう洗浄・消毒の技術チェックを全スタッフがを行い、消毒液の濃度チェックと洗浄後スコープの培養を年 2 回目標通り実施しました。リンク NS. の働きかけで手洗い講習や PPI 着脱講習は受講 100% でした。

6. コスト意識を持つ

加算の取り漏れがないように 加算可能な手技を各検査室に貼りだし注意喚起を行いました。担当看護師が所見内容と実施項目を W チェックし、取り漏れ防止に努めました。

7. WLB の充実

部署内勉強会の実施は、前年度と比較し増えましたが、月 1 の実施はできてないので、次年度は計画的に行っていきます。院外研修では、内視鏡技師研究会や勉強会へは積極的に参加していましたが、看護研修への参加が無かったので次年度は呼びかけを強化していきます。

やりがいの 1 つとして FISH 活動を取り入れました。月の担当で計画的に行われチームワークの構築に役立ったと思います。帰宅時間の徹底は、ゆいまーるボードを使い残務処理を皆で行う風土が定着しています。しかしリーダー業務に関しては、業務整理が必要であり次年度の課題です。

H29 年度は 医師の増員に伴う件数の増加や機器の入れ替え更新、内視鏡センターの改築が計画されているので、それを踏まえた体制の整備を行い、より安全管理を強化し質のある看護を意識して取り組んでいきたいと思ひます。

看護部 年度総括



看護部長
宮平 典子

平成 28 年度は新体制のもと、安全教育の強化と看護の質向上に取り組みました。これから変革していく社会情勢に対応すべく、次世代の看護師育成は重要な課題となります。それらを踏まえた職場風土の醸成を目標にスタートしました。

平成 28 年度看護部目標

1. 安全
2. 看護方式—PNS 確立（3 年目）
インシデント、アクシデントの低減
人材育成（知識・技術・接遇の向上）と人員確保
3. WLB の推進

まずは、「安全第一・安全風土の醸成」です。安全管理者による現場教育の強化を行いました。インシデント報告から現場ラウンドでの情報収集及びスタッフ個々への直接指導を行うことで、リスク感性の向上を目指し 0 レベルの報告件数増とレベル 3 を低減する事できました。また、安全管理者を中心に他部門との垣根をこえた連携を構築し、病院全体で医療事故防止策に取り組んでいます。

看護方式 PNS（パートナーシップナーシングシステム）は導入し 3 年目を迎え、各部署でウォーキングカンファレンスを実施することができました。患者さん、ご家族を前に治療の予定や経過の確認、そして転倒等の対策について状況の共有が可能となり、当院独自の PNS 看護方式として形になりつつあります。相互に補完し合う PNS は、インシデントの低減や人材育成、WLB の推進等にも多大な効果が期待できます。新人看護師の離職は 2 年連続でゼロ、今現場では若手看護師達が頑張っておりとても頼もしく思います。また、看護部全体の離職率は 8% 台へ低減できた事は、各現場の師長をはじめ主任・スタッフが取り組んできた結果と評価できると考えます。

最も重要な課題は看護の質の向上と患者満足度向上です。当院の外来受診、入院等で患者さんやご家族が安心して利用して頂けるよう、入院支援室を設置し外来フロアマネージャーを配置しました。療養環境や診療に関する事、職員の接遇等多くのご意見をお聞きすることができ、感謝しております。少しでもご期待に添えるよう努めて参ります。

平成 29 年度は、病院が増築移転・改築と大きく変化する年となります。看護の体制も整備し対応していくと同時に、5 年後を見据えた人材育成と看護サービスの質向上に向け、認定看護師育成と活用推進を行い現場教育の強化と、教育体制の見直しを行っていきたいと考えています。

「当院の看護師達が、やりがいを持ち生き生きと働き続ける事ができる職場風土を目指して」日々精進してまいります。

医療技術部

部門紹介

医療技術部門は放射線科、臨床検査科、臨床工学科、栄養科、薬局、リハビリテーション科の6部署で構成され、チーム医療の一員として各診療科と連携し、それぞれ専門の有資格者が検査・治療及び機器管理の様々な面から診療をサポートしています。

各部署概要・実績

放射線科

放射線科技師長 仲座 義富

放射線科は平成28年4月に4名の新人放射線技師が就職しました（3名は新卒、1名は他施設からの転職）。計画的な新人教育を実践し、経験のある技師1名と新卒1名が当直を出来るところまで進捗しています。次年度までには4名全員が当直できるようさらに教育を進めていきたいと思ひます。女性技師2名は次年度に向け検診マンモグラフィ認定取得を目指したいと考えています。

設備面では8F予防医学センターのX線TV装置が老朽化した事を受け、平成28年度にX線TV装置2台を新機種に入れ替えしました。新型X線TVは最新型のフラットパネルを搭載しており、高画質で低被ばくを実現しているため受診者にも優しい装置となっています。また自動肩当て機能なども付いているため倒低位の時に安全性がさらに高くなっており、受検者の不安感も低減できていると思ひます。今後は新型X線TV装置を活用し、人間ドックでバリウム検査を「より高精細の画像で」「より低被ばくで」「より安全に」「病変を確実に拾い上げていく」をモットーに検査施行していきたいと思ひます。

職員数

総数

18名

職種別

診療放射線技師 17名

助手 1名

認定・資格

名前	認定・資格
宮城竜也	基準撮影認定員
	胃がん検診専門技師
仲座義富	アドバンス診療放射線技師
	第一種衛生管理者
	衛生工学衛生管理者
	エックス線作業主任者
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者

名前	認定・資格
大城盛寛	アドバンス診療放射線技師
	医用画像情報管理士
	核医学検査技能検定3級
与古田 拓	アドバンス診療放射線技師
	エックス線作業主任者
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者

名前	認定・資格
松田優二	X線CT撮影認定技師
	第一種衛生管理者
	エックス線作業主任者
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者
新垣弘扇	検診マンモグラフィ認定技師
津波麻利子	アドバンス診療放射線技師
	検診マンモグラフィ認定技師

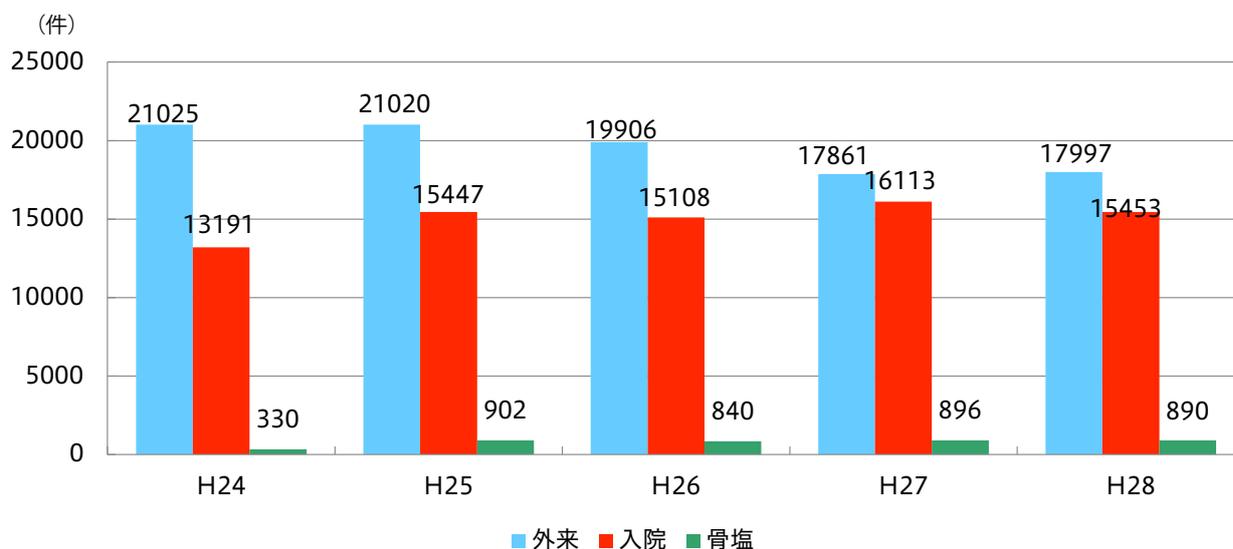
名前	認定・資格
新垣千登勢	検診マンモグラフィ認定技師
程岡美貴	検診マンモグラフィ認定技師
出津 利	検診マンモグラフィ認定技師
	X線CT撮影認定技師
神谷己代	検診マンモグラフィ認定技師
大隣幸代	検診マンモグラフィ認定技師

運営方針

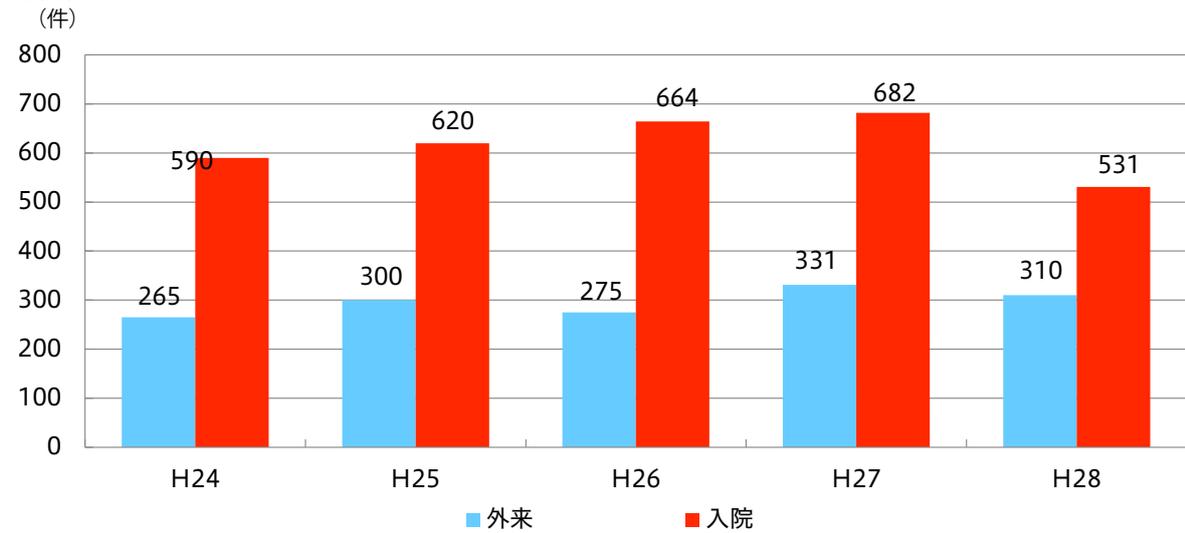
1. 患者さんの医療被ばく低減
2. 患者さんが安心して検査を受けられるためのインフォームドコンセント
3. 技師の技術向上
4. 安全な検査のための機器保守点検

検査・治療実績

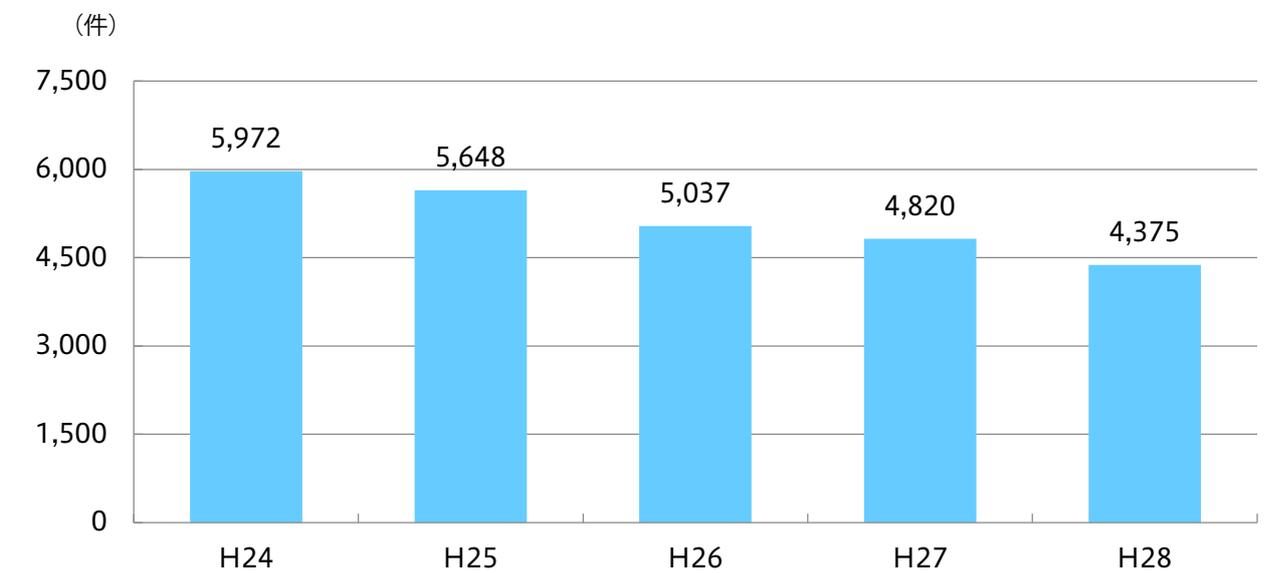
一般撮影



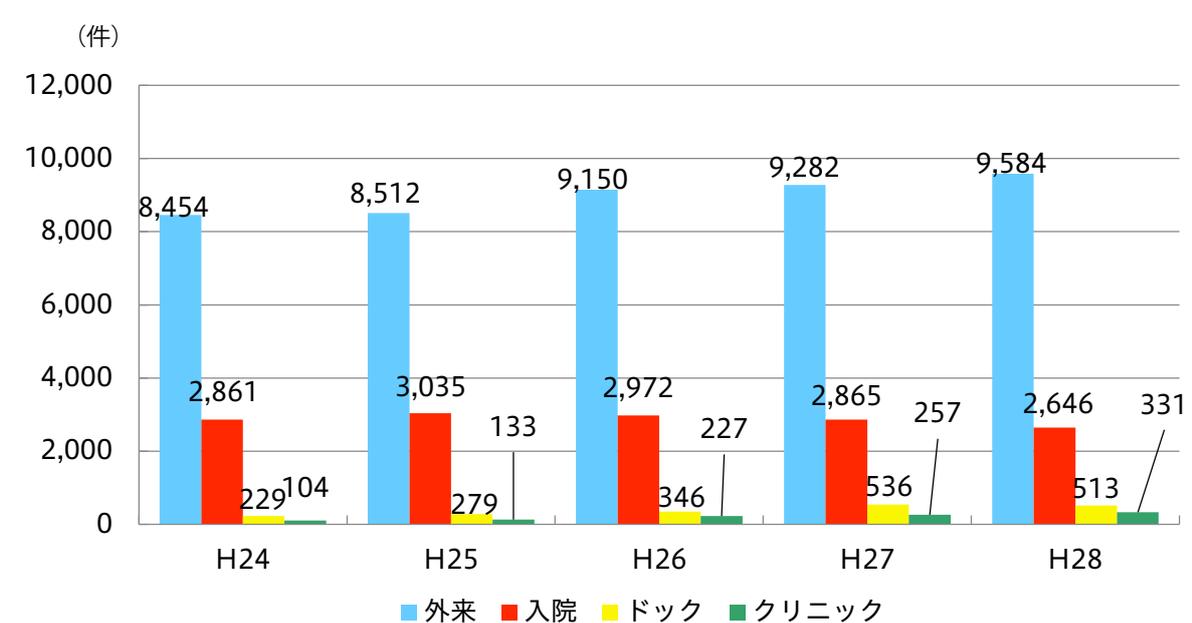
透視検査



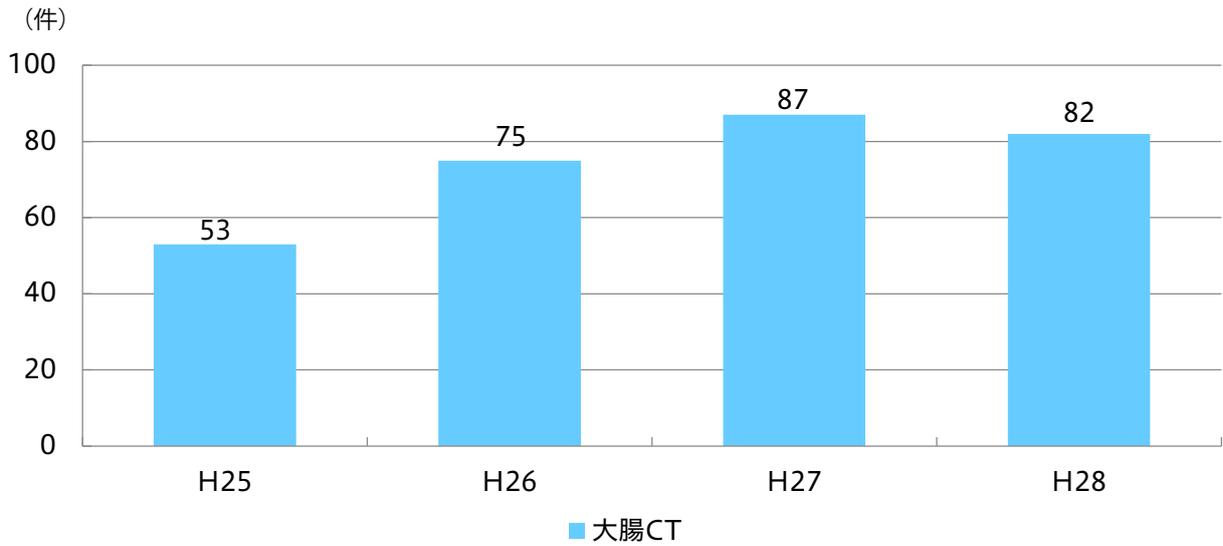
透視検査 (人間ドック)



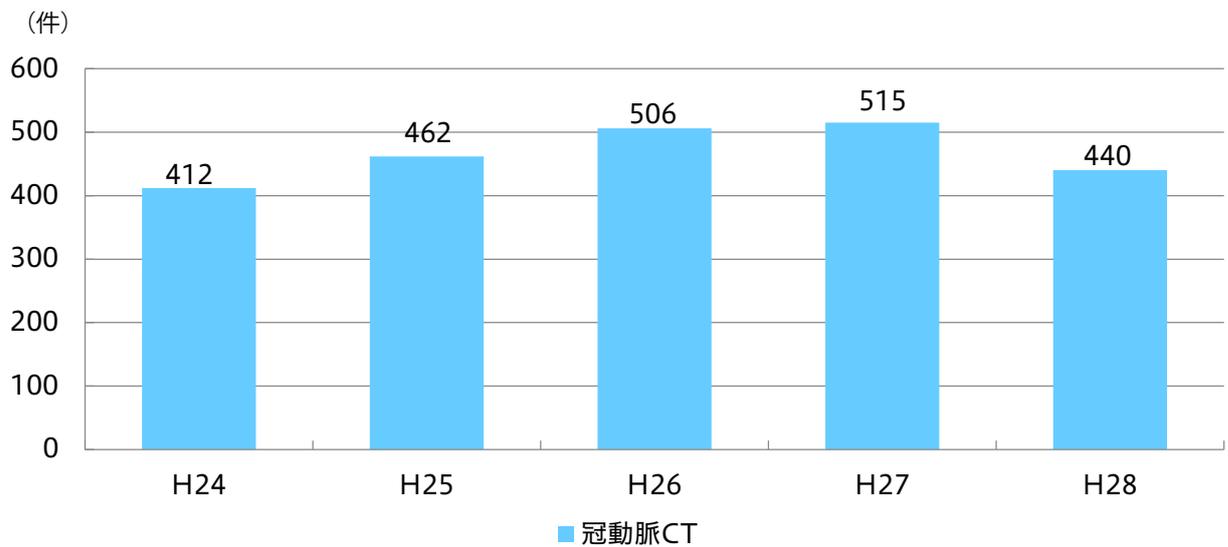
CT検査



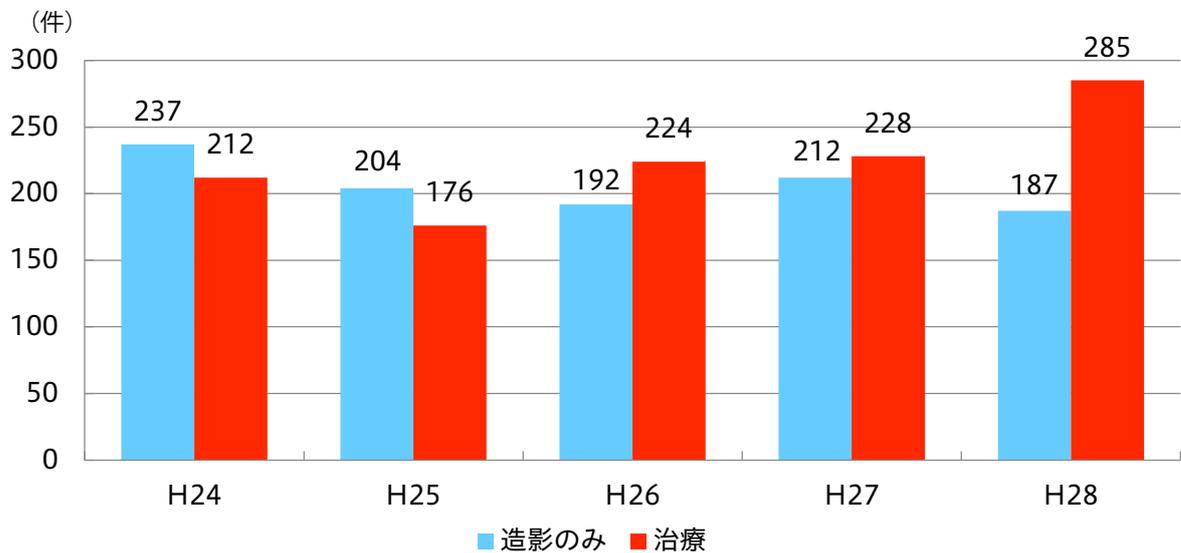
大腸 CT



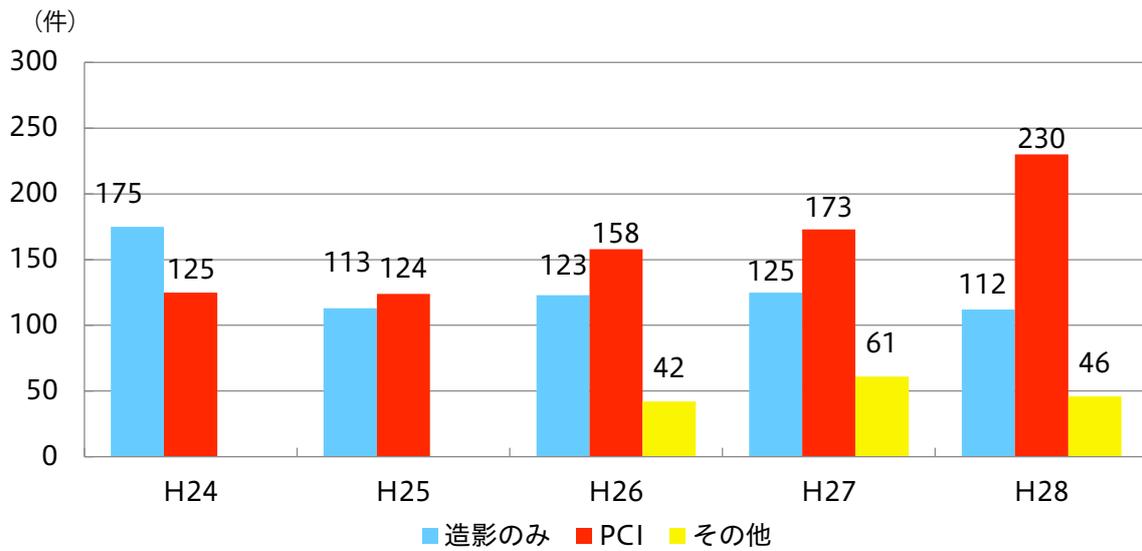
冠動脈 CT



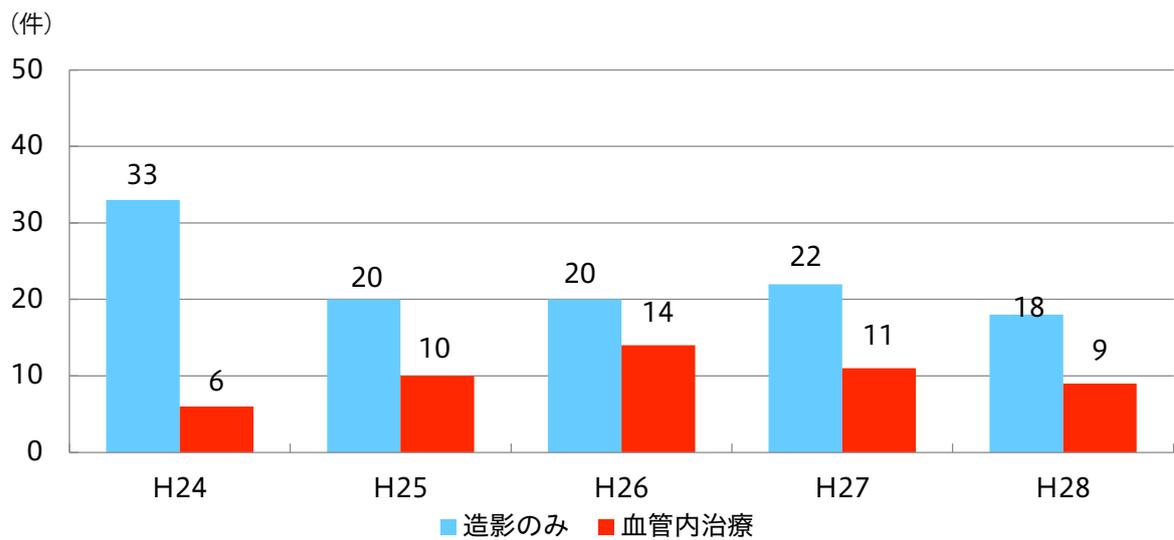
angio 総計



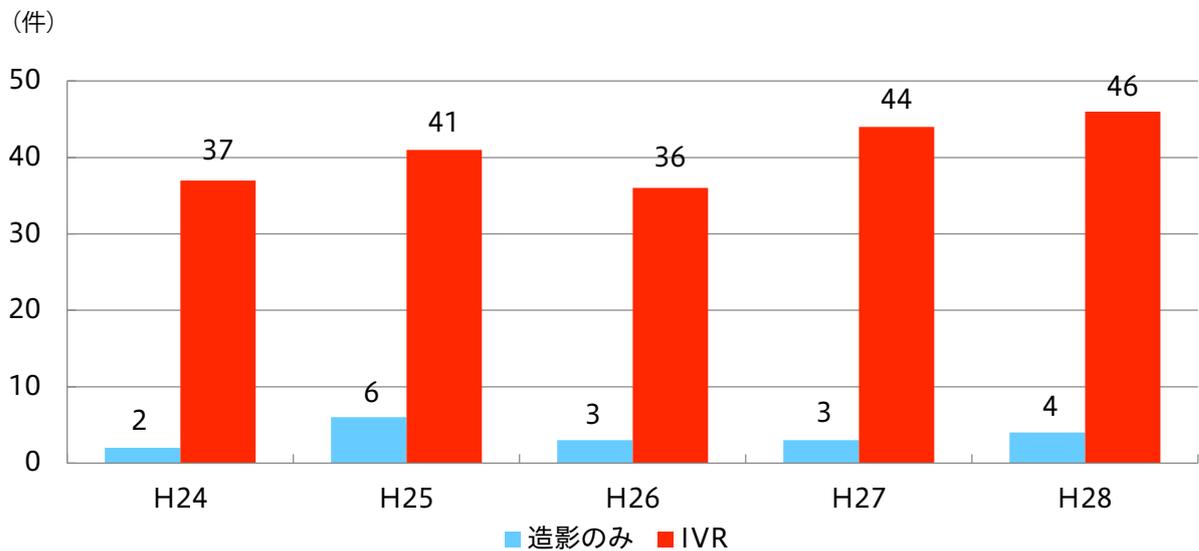
心臓カテーテル



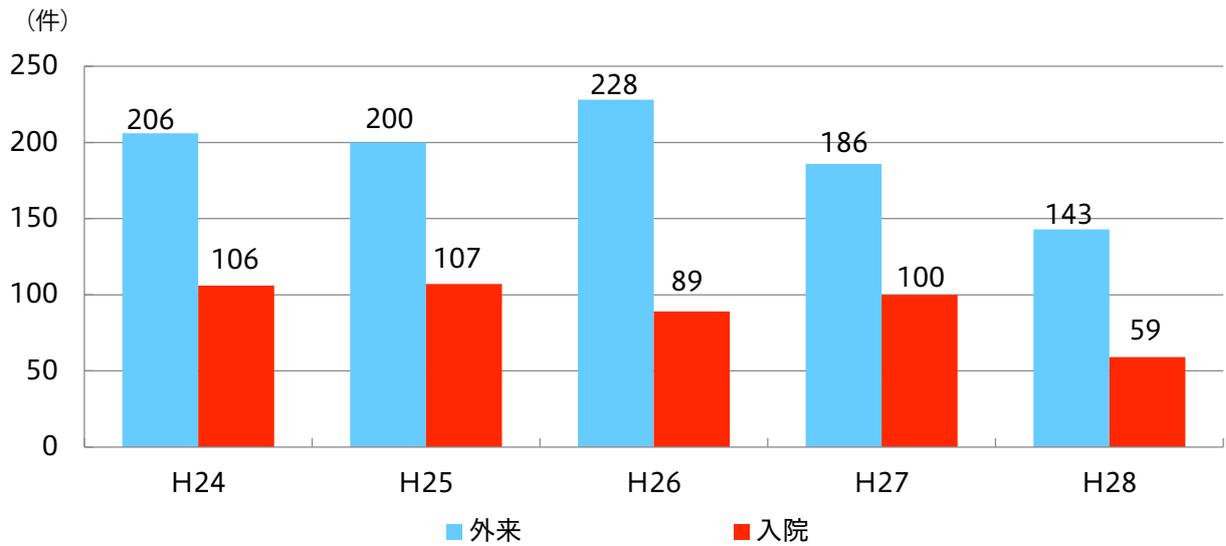
脳アンギオ



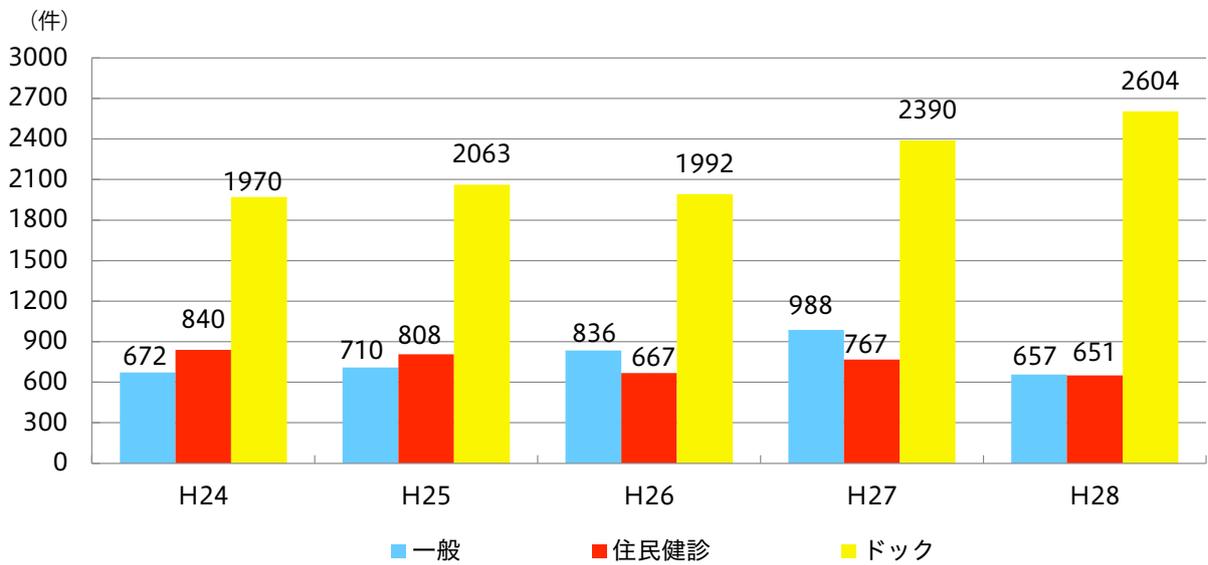
腹部アンギオ



RI 検査



マンモグラフィ検査



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者研究者
当院における職種別放射線被ばくの現状	第 61 回沖縄県放射線技師会学術発表会	那覇市	2016 年 5 月 22 日	石原 悟
当院のステレオガイド下マンモトーム生検の使用経験	第 61 回沖縄県放射線技師会学術発表会	那覇市	2016 年 5 月 22 日	新垣 弘扇
食道 X 線造影における動画撮影の有用性	第 66 回日本病院学会	盛岡市	2016 年 6 月 23 日	津波 麻利子
VV-ECMO が奏功した気管支ステント留置の症例	第 58 回全日本病院学会	熊本市	2016 年 10 月 8 日	仲座 義富
気管支ステント留置術において画像支援が有効な症例	第 32 回日本放射線技師学術大会	岐阜市	2016 年 9 月 16 日	島尻 豊久
食道アカラシアに対して食道 X 線検査が有用だった症例	第 29 回日本消化器診断情報研究会	福岡市	2017 年 2 月 11 日	程岡 美貴

活動実績

院外勉強会

演題名	勉強会名	開催地	日時	発表者
心不全患者さんにおける胸部 X 線の撮り方見方考え方	第 9 回放射線技師のための勉強会	南部医療センター	2016 年 5 月 17 日	仲座 義富
胃がん ～陥凹性病変・組織型について～	第 9 回放射線技師のための勉強会	南部医療センター	2016 年 5 月 17 日	新垣 弘扇
感染対策	沖縄県放射線技師会 フレッシュアップセミナー	南部医療センター	2016 年 6 月 5 日	大城 盛寛
レントゲンから見た肺炎画像 ～病原微生物と抗菌剤～	第 10 回放射線技師のための勉強会	南部医療センター	2016 年 9 月 1 日	仲座 義富
CT と MRI の違いについて	出前健康講話	西原町	2016 年 9 月 14 日	石原 悟
悪性リンパ腫について	沖縄銀杏会	ちばなクリニック	2016 年 9 月 23 日	宮城 竜也
当院における CT Colonography について	第 12 回放射線技師のための勉強会	南部医療センター	2017 年 3 月 2 日	松田 優二

院内研修会

演題名		開催地	日時	発表者
慢性疾患領域別研修 胸写の見方	当院看護師向け勉強会	当院	2016 年 6 月 24 日	仲座 義富
胸部レントゲンの見かた	当院看護師向け勉強会	当院 (ICU)	2016 年 12 月 9 日	仲座 義富

科内勉強会

演題名	開催地	日時	発表者
GIST おさらい	当院	2016 年 4 月 2 日	津波 麻利子
カルテの見かた	当院	2016 年 4 月 26 日	大城 盛寛
レントゲン撮影実技	当院	2016 年 5 月 27 日	島尻 豊久
Trauma Pan Scan 実践編 part III	当院	2016 年 6 月 22 日	宮城 直哉
悪性リンパ腫について	当院	2016 年 8 月 13 日	新垣 弘扇
マンモ読影について	当院	2016 年 9 月 3 日	程岡 美貴
ACL 術後ルーチン画像作成法	当院	2016 年 9 月 6 日	出津 利恵
当放射線科でのインシデント報告と対策～インシデント事例の検証と情報共有～	当院	2016 年 10 月 28 日	石原 悟
死亡時画像診断	当院	2016 年 11 月 29 日	与古田 拡
レントゲンの撮影統一化に向けて マニュアル作成	当院	2016 年 12 月 14 日	松田 優二
第 2 回レントゲン撮影	当院	2017 年 1 月 19 日	島尻 豊久
病原性肺炎と抗生剤について	当院	2017 年 3 月 1 日	仲座 義富
感染	当院	2017 年 3 月 31 日	津波 麻利子

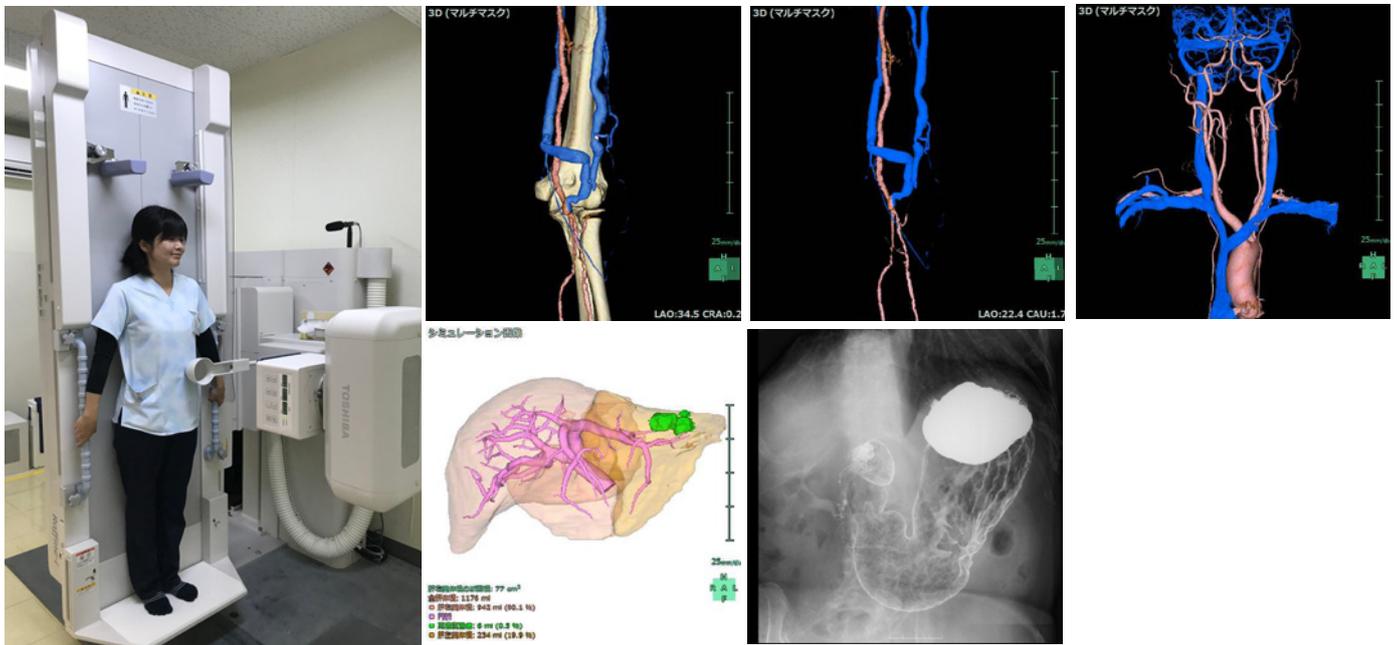
実績報告資料

8 階予防医学センターの X 線 TV 装置を新型デジタル X 線 TV 装置へ入れ替えを行いました。この装置は最新型のフラットパネルを搭載し高画質で低被ばくを実現しております。

また、当院では更なる安全な検査を求め、電動肩当装置としっかりと握れる段付きハンドグリップを搭載しましたので受診者には安心して検査を受けていただけます。

平成 29 年度に新規開設となる口腔ケア科の準備として当放射線科ではデンタル撮影を予定しており、平成 28 年度末にデンタルスポット撮影装置の設置準備を行っております。また必要に応じて 320 列 CT によるデンタル 3D 撮影も受け入れる準備をしております。

CT 画像による術前の参考画像として肝臓の 3D 画像による形態や体積または血管走行などまた、透析患者さんのシャントの血管走行や狭窄部位、または PTA などの支援画像として上肢血管の 3D 画像の提供も行っています。



【デンタル画像】

臨床検査科

臨床検査科技師長 神谷 乗敏

平成 28 年度は、① 5 年後を見据えた人材育成②医療機器の段階的な更新③病院規模に合わせた臨床検査業務の構築④ハートライフクリニックの業務支援を基本方針としました。夜間当直時には当直技師全員が緊急脳 MRI の撮影ができるようになり、何時でも脳梗塞、脳出血に対応できるようになりました。自動分析機器 2 台目の更新後は運用がスムーズになり、試薬調整や機器保守に時間がとれるようになりました。日本臨床検査技師会、沖縄県医師会、臨床検査技師会、日本医師会の外部精度管理事業にも参加し良好な結果が得られました。全国医学検査学会や沖縄県医学検査学会には演題の発表があり、また教育研修システムとして平成 28 年 4 月より東京にある細胞検査士養成施設の多摩がんセンターへ研修参加、ほかにも超音波検査士、骨髄検査技師、その他スキルアップの為に支援も構築しつつあります。平成 27 年 2 月よりハートライフクリニック応援のため 2 名の新人を採用し、代わりに中堅技師を応援に出し、県内外大学からの学生の長期現地実習も受け入れ教育システムも構築し次年度も受け入れ予定です。

職員数

総数

32 名

職種別

臨床検査技師	30 名	眼科助手 (OMA)	1 名
視能訓練士	1 名	検査助手	2 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
比嘉一廣	国際細胞検査士 細胞検査士 上級健康食品管理士
神谷乗敏	上級健康食品管理士
斎藤辰好	超音波検査士
島袋泰彦	超音波検査士 衛生管理者
仲松勝彦	超音波検査士 衛生管理者
照屋祥子	超音波検査士

氏名	認定・資格名
安里奈美	超音波検査士
津波克幸	国際細胞検査士 細胞検査士
新垣和史	緊急検査士
宮城 健	2 級臨床検査士 (細菌)
森山武志	2 級臨床検査士 (細菌) 衛生管理者
照屋 結	細胞検査士
武島万林	細胞検査士

沖縄県 臨床検査技師会 役員

	役職
神谷 乗敏	一般検査 部門長
斎藤 辰好	理事
津波 克幸	病理細胞検査 副分野長

運営方針

臨床検査は①疾病の診断②治療方針決定③予後の判定にかかわる重要な情報である。迅速・正確なデータの提供を目的とする。

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者、研究者
座長	第 52 回沖縄県医学検査学会	西原町	2016 年 6 月	仲松勝彦
小児二次性高血圧血症	第 52 回沖縄県医学検査学会	西原町	2016 年 6 月	◎安里奈美
ホジキンリンパ腫患者尿に見られた Reed-Sternberg 様細胞の検討	第 52 回沖縄県医学検査学会	西原町	2016 年 6 月	◎照屋結、北川磨亜邦、諸見里真実、津波克幸、斎藤辰好、神谷乗敏、比嘉一廣
尿中 2,8 ジヒドロキシアデニン結晶の症例	第 52 回沖縄県医学検査学会	西原町	2016 年 6 月	◎北川磨亜邦、照屋結、諸見里真実、津波克幸、斎藤辰好、神谷乗敏
検査科の新規導入検査	院内研究発表会 (医療技術部勉強会)	当院	2016 年 7 月	◎金城奈津子
高感度食道内圧測定機器によるアカラシアの術前術後の測定例	日本医学検査学会世界医学検査学会	神戸市	2016 年 9 月	◎神谷乗敏
当検査における病棟業務の取り組み	九州医学検査学会シンポジウム	佐賀市	2016 年 10 月	◎神谷乗敏
慢性心不全の心エコー	看護師対象の院内講習会	当院	2016 年 6 月	島袋泰彦
MRI で何がわかるの	市民公開講座	当院	2017 年 2 月	斎藤辰好
組織型判定に苦慮した悪性中皮腫の一例	第 37 回沖縄県臨床細胞学会	西原町	2017 年 2 月	◎津波克幸 照屋 結 北川磨亜邦 諸見里真実
子宮頸部スメアで間質細胞と漿液性腺癌の鑑別を要した一症例	第 37 回沖縄県臨床細胞学会	西原町	2017 年 2 月	◎照屋 結 北川 磨 亜邦 津波克幸 諸見里真実
座長	第 37 回沖縄県臨床細胞学会	西原町	2017 年 2 月	比嘉一廣
細胞検査士養成講座	2 次試験対策講習会	西原町	2016 年 11 月～12 月	津波克幸
リンパ節転移を起こした前立腺癌の一例	細胞診断学研究会・定例会	西原町	2016 年 12 月	照屋結
リンパ節転移を起こした腺様嚢胞癌の一例	細胞診断学研究会・定例会	西原町	2016 年 12 月	比嘉一廣

検査・治療実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	511	414	459	445	472	447	520	412	443	468	464	516	5571
CVR-R-ECG	0	0	0	0	0	1	1	2	1	3	0	11	19
マスター心電図	7	15	16	11	12	14	11	17	17	6	10	23	159
トレッドミル負荷心電図	1	2	2	1	3	4	2	4	2	0	0	3	24
ホルター心電図	7	15	16	11	12	14	11	17	17	6	10	23	159
24 時間血圧測定 ABPM	0	2	0	2	0	0	1	1	1	0	1	3	11
肺機能検査 2 項目	54	48	59	54	72	62	66	65	60	62	56	80	738
肺機能検査 4 項目	6	19	15	11	15	15	14	16	11	19	12	12	165
ABI 測定	27	20	22	15	13	11	11	13	13	17	7	18	187
サーモグラフィ	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4
呼気中尿素試験	45	58	52	27	57	50	53	60	58	56	55	46	617
脳波検査	2	2	5	7	2	4	8	4	4	4	7	1	50
睡眠・薬物賦活脳波	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
神経伝達速度 (MCV)	3	3	3	4	7	3	3	1	7	6	6	7	53
聴性脳幹反応 (ABR)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
レートポテンシャル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
終夜睡眠ポリグラフィー	5	1	5	5	2	4	1	2	1	3	5	6	40
呼気中一酸化窒素	9	11	9	11	5	11	10	9	12	10	11	14	122

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心肺運動負荷試験	2	3	6	6	3	7	6	7	2	3	3	2	50
心エコー	239	198	196	198	205	198	203	197	215	195	231	242	2,517
腹部エコー	336	421	388	336	344	354	397	304	362	294	301	320	4,157
泌尿器科エコー	107	79	117	95	101	103	110	113	110	108	110	140	1,293
表在エコー	169	140	206	192	213	181	213	193	179	149	154	144	2,133
血管エコー	85	70	86	139	109	106	98	111	105	123	86	109	1,227
胎児エコー	34	29	30	30	24	19	19	16	24	29	25	28	307
経食道エコー	2	2	1	1	3	3	2	3	0	9	4	5	35
経皮的酸素ガス分圧	1	4	3	0	3	2	1	2	1	3	3	4	27
皮膚灌流圧測定検査	1	5	4	2	0	1	2	2	2	0	0	5	24
簡易聴力検査	10	5	12	8	3	9	12	60	11	9	13	22	174
標準聴力検査	38	36	36	32	36	38	34	32	45	38	41	42	448
ティンパノメトリー	9	11	17	11	16	18	16	15	13	23	14	15	178
MRI	313	346	379	374	399	354	382	351	365	358	357	447	4,425
食道PHモニター	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	2	8
食道内圧検査	3	2	1	1	2	3	0	1	2	1	5	5	26
経直腸エコー	2	0	1	2	1	1	1	1	0	0	0	0	9
ENOG	2	0	1	1	0	1	0	0	2	1	1	1	10
アブミ骨反射検査	3	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	8

検体検査(科別) 入外	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3,105	3,062	3,130	3,181	3,192	3,089	3,162	3,052	3,268	3,160	3,255	3,419	38,075
外科	711	736	754	751	772	819	746	761	787	717	731	841	9,126
整形外科	210	295	315	243	263	242	264	253	244	282	289	287	3,187
眼科	21	29	36	21	36	27	29	25	27	46	34	30	361
透析科	347	373	370	339	398	374	338	374	395	395	378	363	4,444
小児科	163	198	152	163	193	133	177	138	120	96	155	176	1,864
脳神経外科	78	75	79	51	73	75	102	100	76	147	127	116	1,099
産婦人科	346	363	354	399	362	351	343	311	371	309	324	394	4,227
耳鼻咽喉科	20	17	10	11	19	13	18	15	15	9	8	18	173
心療内科	1	2	2	2	1	1	1	1	2	2	6	1	22
泌尿器科	491	439	530	520	499	501	503	489	513	468	487	550	5,990
皮膚科	3	4	2	0	1	1	3	5	3	6	4	4	36
麻酔科	5	4	9	2	4	3	3	10	6	6	7	2	61
形成外科	72	59	71	75	107	59	43	44	86	66	67	92	841
検診科	1,285	1,181	1,662	1,520	1,394	1,299	1,349	1,698	1,366	1,047	867	1,251	15,919
救急科	830	854	884	884	794	835	895	797	912	1,091	1,184	883	10,843
(ク) 糖尿病内科	943	584	1,008	887	1,011	957	960	958	1,071	971	985	1,057	11,392
(ク) 内科	509	441	529	452	472	524	491	515	611	576	615	644	6,379
(ク) 小児科	198	138	159	166	144	187	239	175	223	226	312	270	2,437
(ク) 検診	2	7	12	2	7	5	95	10	22	11	21	21	215
合計	9,340	9,131	10,068	9,718	9,742	9,495	9,761	9,731	10,118	9,631	9,856	10,419	117,010

検体検査(病棟)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ICU	234	189	219	268	259	271	216	216	229	276	296	266	2,939
2階西病棟	176	268	195	208	214	205	202	168	157	136	150	208	2,287
3階新病棟	72	94	72	105	76	57	37	57	64	101	77	60	872
3階病棟	267	271	316	264	298	208	275	243	290	305	300	293	3,330
4階病棟	354	399	337	379	408	359	386	351	388	406	404	402	4,573
5階病棟	442	455	391	417	455	457	495	422	452	507	499	576	5,568

検体検査(病棟)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6階病棟	563	605	600	614	618	561	609	532	688	669	627	685	7,371
7階病棟	400	431	503	422	434	387	485	470	455	413	425	455	5,280
合計	2,508	2,712	2,633	2,677	2,762	2,505	2,707	2,459	2,723	2,813	2,778	2,945	32,222

骨髓像分類

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
骨髓像分類	8	11	25	21	26	19	26	26	21	19	23	17	242

病理細胞診

病理細胞診	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織	379	361	479	462	442	456	401	428	480	442	455	458	5,243
細胞診	408	371	51	572	580	559	557	524	593	463	464	489	5,631
剖検	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	2	8

臨床工学科

臨床工学科技士長 大城 安

平成 28 年度は代謝部門、ME 機器管理部門、循環器部門の各部門共、県外関連学会の演題発表を積極的に行いました。また平成 29 年度後期に透析室の新館への増設移転が計画され、透析室の環境に配慮した詳細設計に係る打合せ協議に取り組みました。

新年度は臨床工学技士 1 ～ 2 年目の新人スタッフのスキルアップを計りながら、事業計画に準じ事業計画達成に努力してまいります。特に平成 29 年度は 8 月 28 日より新館での透析開始を予定されており、スムーズな移転計画・実施に取り組みます。

新館新設に伴い不整脈治療である、カテーテルアブレーションが開設されます。臨床工学科循環器部門もチームの一員を担います。

これまで臨床工学技士養成校である九州保健福祉大学の実習指定病院として実習生を受入れてまいりましたが、平成 29 年度より新たに SOLA 沖縄保健医療工学院の学生の実習生受入れを予定しており、実習生の教育体制を強化します。

職員数

総数

10 名

職種別

臨床工学士 10 名

認定・資格

氏 名	認 定 ・ 資 格 名
大城安	透析技術認定士 呼吸療法認定士 医療機器情報コミュニケーター(MD I C) 医療ガス保安管理技術者 V E L A 保守管理研修終了者 E V T - 4 保守管理研修終了者 O T - 7 0 7 保守管理研修終了者
野原剛	透析技術認定士 呼吸療法認定士 第 2 種ME技術実力検定試験 実習指導者講習会終了者 ペースメーカー関連業務習得(セミナー第 I 期) ペースメーカー関連業務習得(セミナー第 II 期) V E L A 保守管理研修終了者 ザビーナ保守管理研修終了者 E V T - 4 保守管理研修終了者 カンガルー 6 2 4 型ポンプ保守管理研修終了者 フットポンプ S C - D700 保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者 医療ガス保安管理技術者

氏 名	認 定 ・ 資 格 名
弓濱義之	透析技術認定士 呼吸療法認定士 第一種衛生管理者 透析液安全管理責任者 ペースメーカー関連業務習得(セミナー第 I 期) ペースメーカー関連業務習得(セミナー第 II 期) 第 2 種ME技術実力検定試験 ACLS V E L A 保守管理研修終了者 O T - 7 0 7 保守管理研修終了者 カンガルー 6 2 4 型ポンプ保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者 フットポンプ S C - D700 保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-100NX)保守管理研修終了者

氏 名	認 定 ・ 資 格 名
仲松晋也	第 1 種ME技術実力検定試験/臨床ME 専門認定士 透析技術認定士 呼吸療法認定士 実習指導者講習会終了者 透析液安全管理者 V E L A 保守管理研修終了者 ザビーナ保守管理研修終了者 E V T - 4 保守管理研修終了者 O T - 7 0 7 保守管理研修終了者 トップTOP - 6 1 0 0 保守管理研修終了者 JMS輸液ポンプ(O T-808C)保守管理研修終了者 コンパクトドレーンユニット保守管理研修終了者 電気メス(Force Triad)保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者 フットポンプS C - D700保守管理研修終了者 シリンジポンプ(T E - 35型)保守管理講習会修了者
大瀨明日香	第 2 種ME技術実力検定試験 O T - 7 0 7 保守管理研修終了者 V E L A 保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者 A C H - f°メンテナンス技術講習会修了者 日機装コンソール(DCS-100NX)保守管理研修終了者

氏 名	認 定 ・ 資 格 名
内里司	呼吸療法認定士 透析技術認定士 透析液安全管理責任者 V E L A 保守管理研修終了者 ザビーナ保守管理研修終了者 E V T - 4 保守管理研修終了者 O T - 7 0 7 保守管理研修終了者 カンガルー 6 2 4 型ポンプ保守管理研修終了者 トップTOP - 6 1 0 0 保守管理研修終了者 電気メス(Force Triad)保守管理研修終了者 フットポンプS C - D700保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者
宮城直史	
新川桂一郎	第 2 種ME技術実力検定試験 V E L A 保守管理研修終了者 O T - 7 0 7 保守管理研修終了者 トップTOP - 6 1 0 0 保守管理研修終了者 JMS輸液ポンプ(O T-808C)保守管理研修終了者 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者 シリンジポンプ(T E - 35型)保守管理講習会修了者
平敷幸大	第 2 種ME技術実力検定試験 日機装コンソール(DCS-27・28・73)保守管理研修終了者 JMS輸液ポンプ(O T-808C)保守管理研修終了者
仲程通孝	日機装コンソール(DCS-100NX)保守管理研修終了者
平良航	JMS 輸液ポンプ(O T-808C) 保守管理研修終了者

平成 28 年度技士取得ライセンス

名 称	認定資格	主 催	開催地	実施・取得年月日	氏 名
第 9 回透析液安全管理責任者研修会	透析液安全管理責任者研修会修了者	日本臨床工学技士会	東京都(御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)	平成 28 年 7 月 16 日 ～ 7 月 17 日	内里司
輸液ポンプメンテナンス講習会(O T-808 O T80C)	輸液ポンプメンテナンス講習修了者(O T-808 O T80C)	JMS 株式会社	沖縄県(沖縄県医師会館)	平成 28 年 10 月 27 日	平敷幸大
医療ガス保安管理技術者講習会	医療ガス保安管理技術者	公益財団法人医療機器センター	東京都(大田区産業プラザ Pio)	平成 28 年 11 月 8 日 ～ 11 月 9 日	野原剛
3 学会合同呼吸療法認定士認定試験	呼吸療法認定士	3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会	東京都(品川プリンスホテル アネックスタワー)	平成 29 年 1 月 1 日	弓濱義之

理念

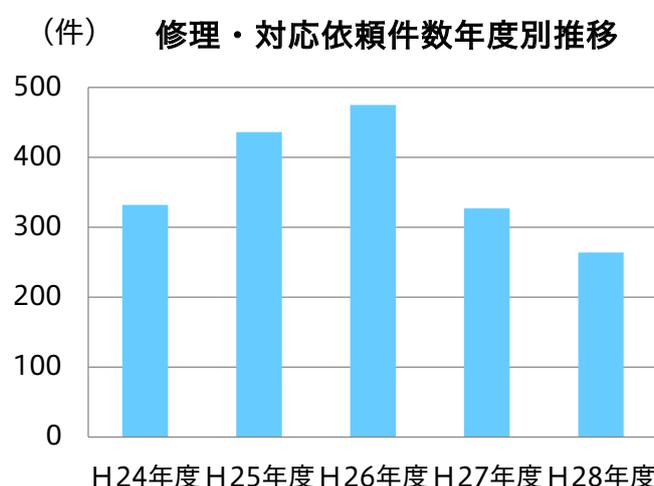
臨床工学科は急性期医療としての役割を遂行する為に他部門との連携を密にし、高度な医療技術の提供および機器の保守管理を行い、安心かつ安全な医療の提供を行います。

運営方針

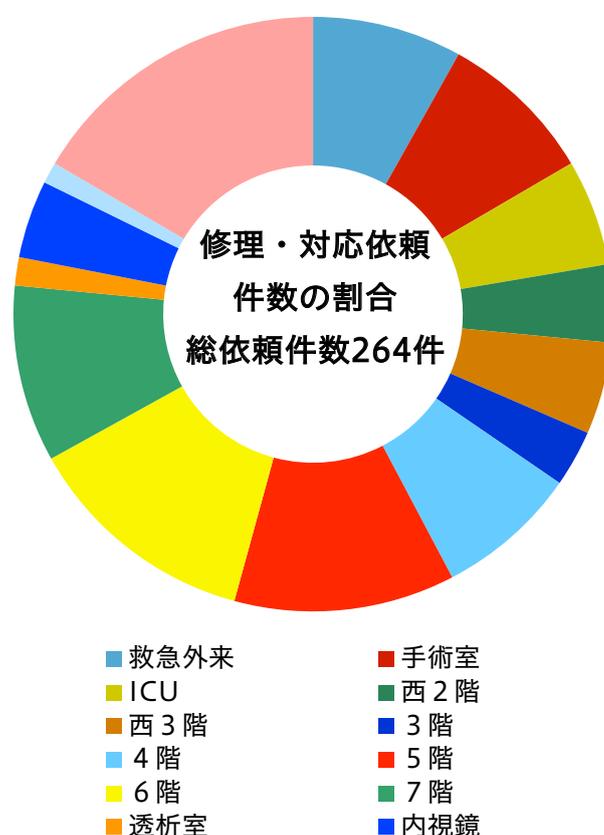
1. 良質な診療支援を行うため、組織、業務の改善に努める。
2. 安心・安全で信頼される診療技術の提供に努める。
3. 医療機器の医療事故防止に努める。
4. 高度医療機器の効率的運用と安全性の確保
5. 医療機器の標準化・機種統一を積極的に進める。

業務実績

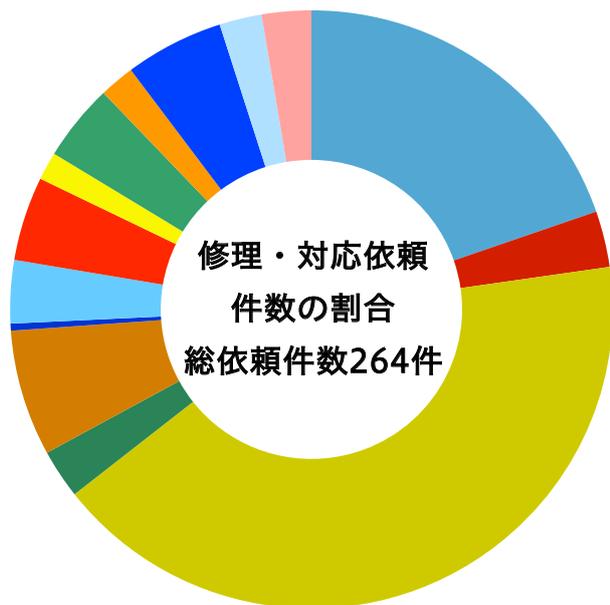
【ME 機器管理実績】



■ 昨年度より依頼件数は減少している。理由として、ME ラウンドによる予防保守に力を入れたことがある。また、ME 機器管理担当メンバーの入れ替わりにより件数のカウントに個人差が生じたことも原因と考えられ、今後の検討課題となる。



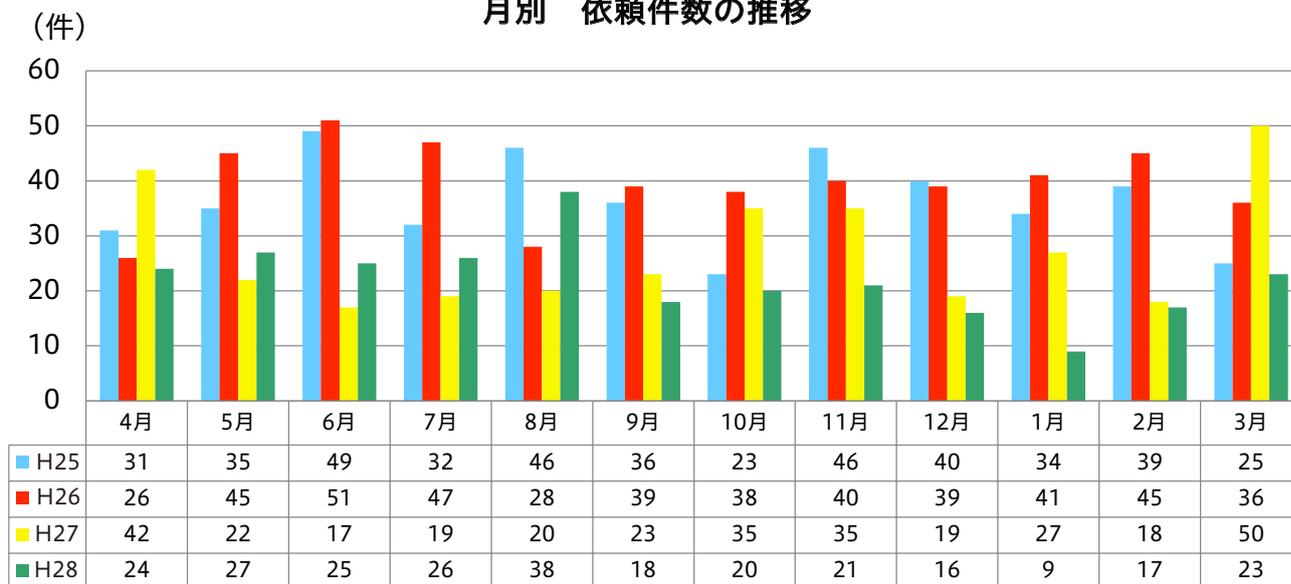
■ 264件中16.3%をMEセンターで発見。各階病棟から依頼を受けている現状である。



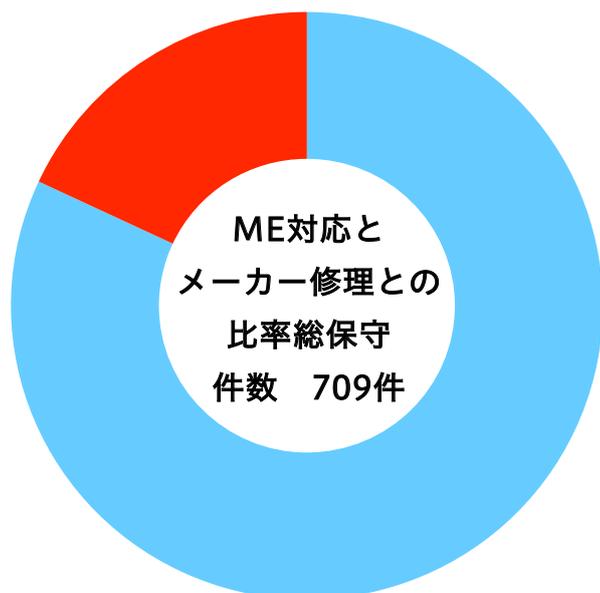
■ 多種類の機器で依頼が発生している。

- 輸液ポンプ
- 生体情報モニタ
- 手術医療機器
- ネブライザ
- 吸引器
- 検査機器
- 蘇生バッグ
- シリンジポンプ
- 除細動器、AED
- 保育器
- 酸素流量計
- 人工呼吸器
- フットポンプ
- その他

月別 依頼件数の推移



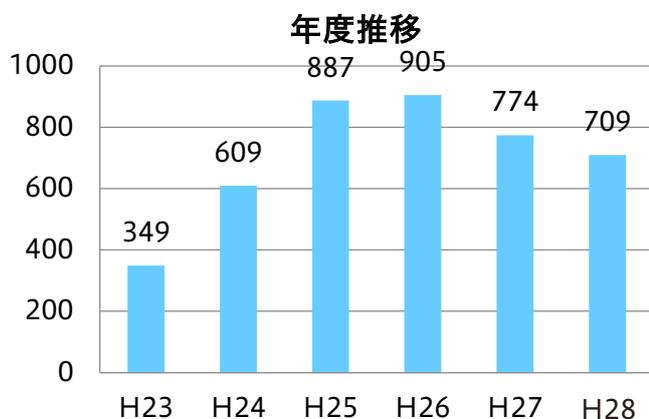
■ 毎月 20 件を超える依頼が発生している。今年度は月平均 22 件の依頼があった。



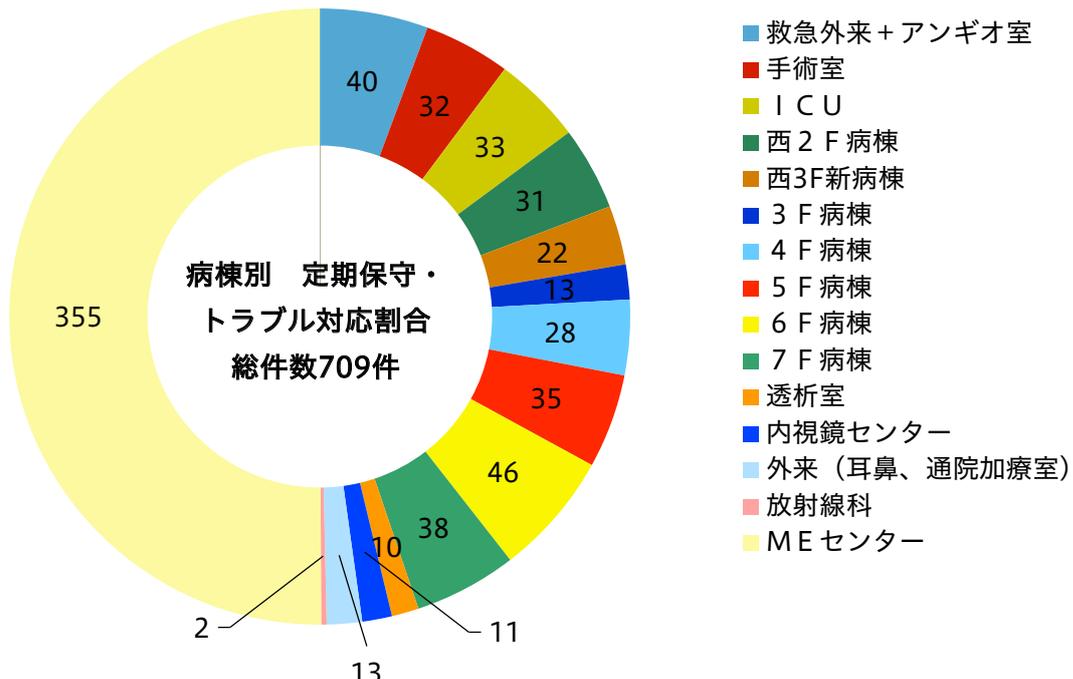
■ ME対応 ■ メーカー修理

■ 定期保守及びトラブル対応の件数は全体の81.9%をMEのみで解決に至っている。今年度は、使用年数が長くなった輸液ポンプを、更新せずに今後2～3年間使用する目標を掲げ、内部時計用の電池を交換する取り組みを行った。電池交換後にメーカーで行う点検を臨床工学技士で行うことでコスト削減に成功している。電池交換を行ったため、メーカー修理割合が微増したが、80%以上のトラブルに対し対応可能であり、院内で解決する割合が高い状況である。また、例年通りメーカー修理に至る際にも臨床工学科が現場との橋渡しとなり、スムーズに修理が進むようにサポートしている。そのため上記709件に対して臨床工学科は全てに関与している。1日平均2.3件の対応をしている。

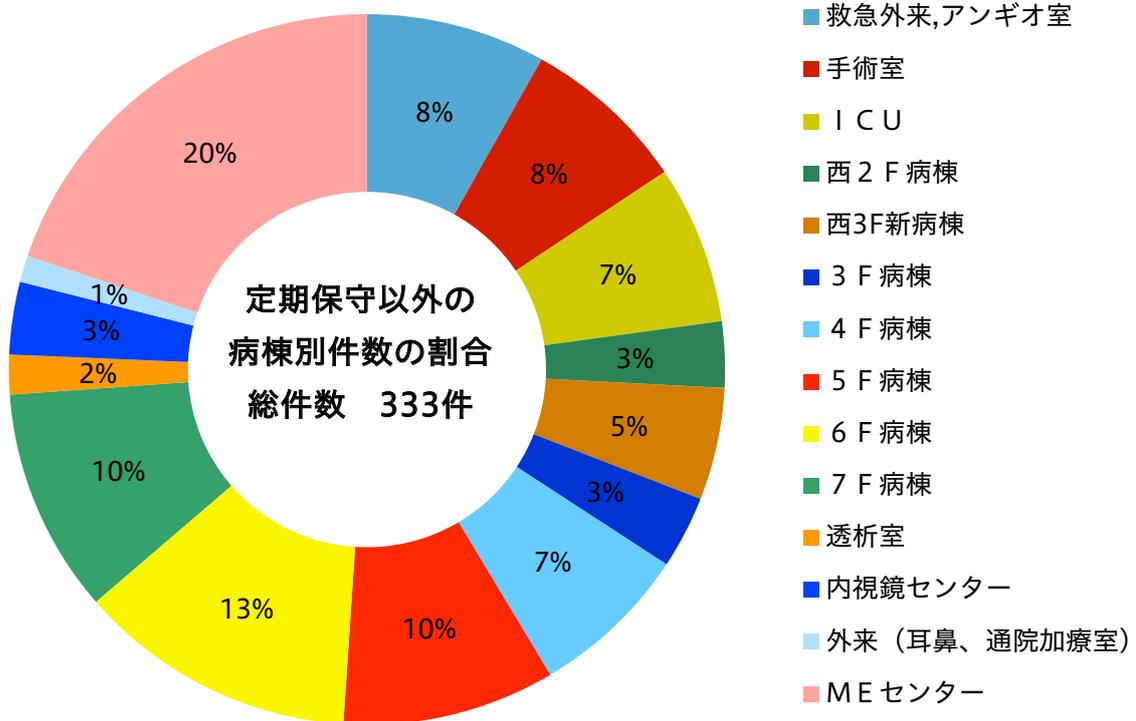
(件) 定期保守・トラブル対応件数



■ ME 機器管理を担当する臨床工学技士の入れ替わりにより、保守扱いとしてカウントする事例が減少したことが、総件数の減少になっていると考えられる。



■ 50.1%は臨床工学科による定期保守に加え、臨床工学技士が発見対応したトラブルを未然に防いだ例が多い。

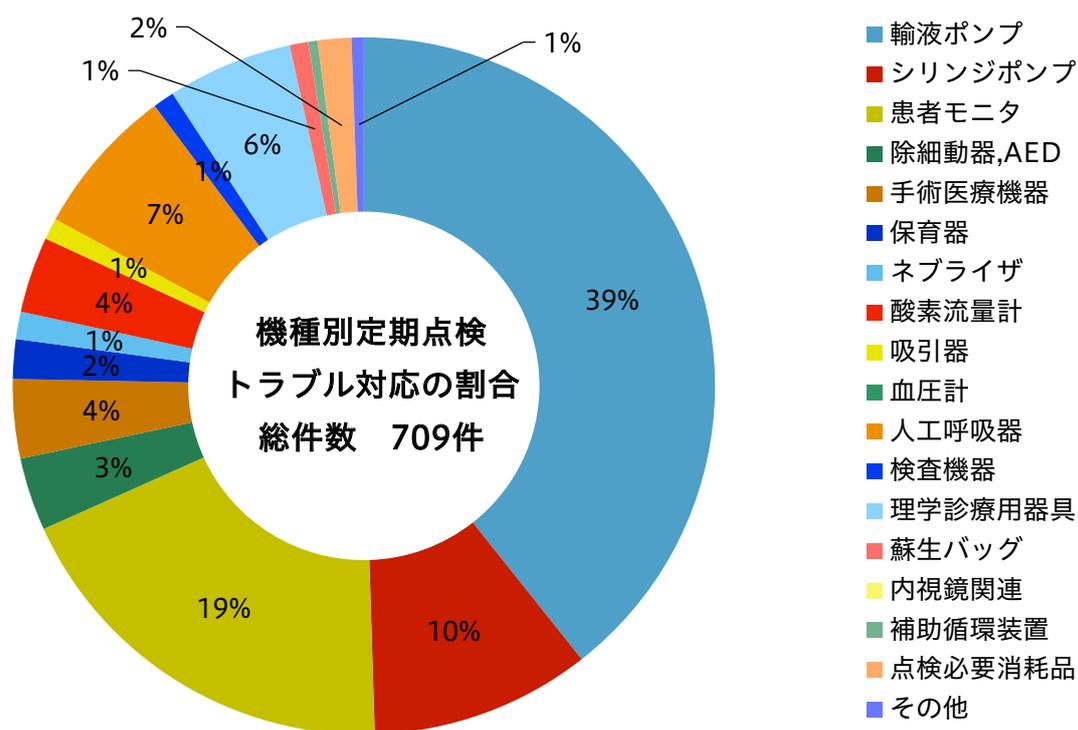


■ 定期保守を除外した場合においても臨床工学科の未然トラブル対応の割合は大きい。さらに多くの病棟で医療機器のトラブルが発生していることがわかる

対応種別 保守・トラブル対応件数

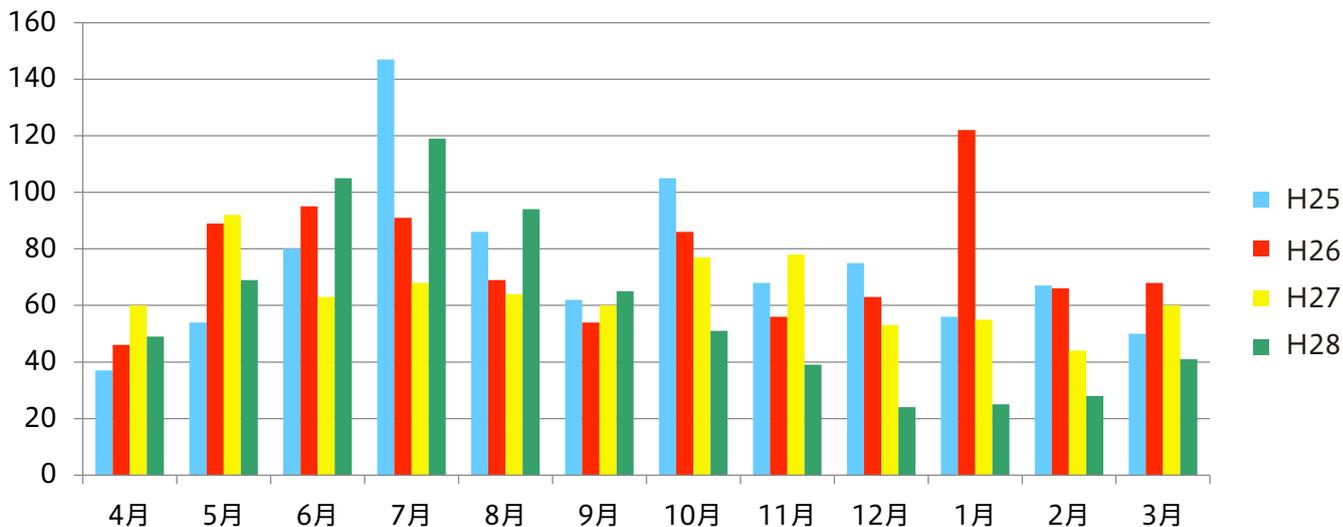
作業内容	件数
1ヶ月点検	3
1年点検	249
3ヶ月点検	14
6ヶ月点検	12
定期部品交換	65
点検	14
バッテリーリフレッシュ	16
バッテリー交換	7
部品交換	127
部品交換(中古)	16
修理	35
清拭	2
説明	1
操作説明	11
調整	32
動作確認	59

作業内容	件数
修理見送り	1
廃棄	5
定期校正	7
O2 センサ交換	3
納品時点検	14
トラブル対応	6
ソフトウェア VerUP	1
グリスアップ	1
更新	1
試運転	1
修理見送り	1
その他	6
全件数	709



■機種に関わらず対応し、特に台数が多く、中央管理機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ等）は定期保守を確実に施行し、高い割合となった。患者モニタはセンサ類の交換が目立ち、センサの老朽化が原因と思われる

月別保守件数の推移



■毎月コンスタントに保守、トラブル対応を行い、月平均にすると 59 件の定期保守、トラブル対応を行っている。

人工呼吸器について

点検種類	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
始業点検	227 台 / 年	400 台 / 年	551 台 / 年	301 台 / 年	364 台 / 年
終業点検	263 台 / 年	327 台 / 年	359 台 / 年	366 台 / 年	436 台 / 年
使用中点検 (ラウンド点検)	2643 台 / 年 (1日平均 8.5 台)	2507 台 / 年 (1日平均 8.0 台)	2576 台 / 年 (1日平均 8.2 台)	2073 台 / 年 (1日平均 6.6 台)	2068 台 / 年 (1日平均 6.6 台)

ポンプについて

機種	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
輸液ポンプ	2,048 台 / 年 (1日平均 6.5 台)	2,093 台 / 年 (1日平均 6.7 台)	2,377 台 / 年 (1日平均 7.6 台)	2,230 台 / 年 (1日平均 7.1 台)	2,283 台 / 年 (1日平均 7.3 台)
シリンジポンプ	1,126 台 / 年 (1日平均 3.6 台)	1,377 台 / 年 (1日平均 4.4 台)	1,423 台 / 年 (1日平均 4.6 台)	1,385 台 / 年 (1日平均 4.4 台)	1,579 台 / 年 (1日平均 5.0 台)
経腸栄養ポンプ	19 台 / 年	46 台 / 年	29 台 / 年	23 台 / 年	44 台 / 年
フットポンプ	なし	262 台 / 年	415 台 / 年	523 台 / 年	568 台 / 年
ドリップアイ	なし	30 台 / 2014 年 2-3月	267 台 / 年	273 台 / 年	310 台 / 年

肝腫瘍ラジオ波焼灼術 立ち会い件数の推移

年度	内科	外科	内科(中止)	外科(中止)	総数
H21	2	0	0	0	2
H22	7	4	3	0	14
H23	10	2	1	0	13
H24	27	1	0	1	29
H25	29	1	0	2	32
H26	37	7	0	0	44
H27	27	12	2	0	41
H28	15	6	0	1	21

在宅酸素療法対応件数

業者別対応件数

	フクダ	テイジン(南西)	オカノ	総数
H23	17	11	0	28
H24	12	11	2	25
H25	20	8	4	32
H26	22	16	8	46
H27	25	16	0	41
H28	28	22	4	54

対応内容別対応件数

	導入	指示変更/再開	中止	外泊	その他
H23	27	0	1	0	0
H24	23	0	0	1	1
H25	17	7	1	1	5
H26	27	5	1	1	12
H27	27	1	0	1	12
H28	35	9	3	0	8

レンタル対応(開始、返却)

	NPPV(VISION、V60)	NPPV(ASV-CS)	NHFネーザルハイロー
H24	74	76	なし
H25	58	41	11
H26	106	75	18
H27	79	29	4
H28	116	52	4

【循環器実績】

心カテ・PM埋込症例数

月	カテーテル検査						TPM	PMI	PMC	IVCF	PPI
	CAG	PCI	緊急	総PCI	IABP	ECMO		M/S	PM		
4月	7	11	3	14	0	0	2	4	28	0	8
5月	7	5	3	8	0	0	0	1	14	0	2
6月	19	7	4	11	0	0	0	5	20	0	6
7月	10	3	3	6	0	0	2	1	17	0	12
8月	7	7	3	10	1	0	2	3	15	0	9
9月	12	9	6	15	0	0	0	2	13	0	6
10月	10	1	8	9	1	0	3	3	28	1	5
11月	10	5	5	10	3	3	0	0	10	1	12
12月	7	3	7	10	1	0	0	0	22	0	15
1月	6	7	9	16	2	0	2	0	18	0	9
2月	11	6	3	9	1	0	0	2	14	0	7
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計	106	64	54	118	9	3	11	21	199	2	91

※ CAG は検査のみ、PCI+ 緊急が総 PCI 数になります。

PMI: ペースメーカ植え込み術。PMC: ペースメーカクリニック。PPI: 経皮的末梢動脈形成術。

IVCF: 下大静脈内留置フィルター。TPM: 体外式ペースメーカ

【血液浄化部実績】

出張血液浄化実績

年月	血液浄化療法								血漿浄化療法					合計
	HD (SLED 含)	HDF (SLED-f 含)	CHD	CHF	CHDF	白血球 除去療法		血液吸着		血漿吸着 ビリルビン 吸着	PP		CART	
						GCAP	LCAP	PMX	DHP		PE	DFPP		
2016.4	1	0	0	0	18	0	0	2	0	0	0	0	3	24
5	8	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	6	18
6	4	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	4	22
7	3	0	0	0	19	0	6	1	0	0	0	0	2	31
8	5	0	0	0	14	0	7	0	0	0	0	0	8	34
9	3	0	0	0	7	0	6	1	0	0	0	0	2	19
10	2	0	0	0	33	0	7	0	0	0	0	0	1	43
11	5	0	0	0	22	0	7	2	0	0	0	0	0	36
12	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
2017.1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	5
2	4	0	0	0	34	0	0	2	0	0	0	0	0	40
3	4	0	0	0	12	0	0	1	0	0	0	0	3	20
計	43	0	0	0	162	0	49	9	0	0	0	0	33	296

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
透析室内の携帯電話使用医基準見直しへの試み	第 61 回日本透析医学会学術集会・総会	大阪府 (大阪国際会議場)	2016 年 6 月 11 日	○仲程通孝、仲松晋也、豊川真理、大城安
院内携帯電話使用基準見直しへの取り組み	第 91 回日本医療機器学会大会学術集会	大阪府 (大阪国際会議場)	2016 年 6 月 24 日～6 月 25 日	○仲松晋也、仲程通孝、宮城直史、豊川真理、大城安
座長	第 11 回九州臨床工学会	熊本県 (市民会館シアーズホーム夢ホール・一番館)	2016 年 10 月 2 日	○大城安
当院の VA 委員会活動報告第 1 報 ～委員会立上げと課題～	第 20 回日本アクセス研究会学術集会・総会	熊本県 (熊本県立劇場)	2016 年 11 月 13 日	○大瀧明日香、内里司、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江、大城安
当院の VA 委員会活動報告第 2 報 ～VA 委員によるポータブルエコー活用～	第 20 回日本アクセス研究会学術集会・総会	熊本県 (熊本県立劇場)	2016 年 11 月 13 日	○大城安、大瀧明日香、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江
透析室内の携帯電話使用医基準見直しへの試み	第 23 回院内研究発表会	院内 2階講堂	2016 年 11 月 18 日	○仲程通孝、仲松晋也、豊川真理、大城安
座長	医療機器安全管理基礎講習会	宜野湾市 (SOLA 沖縄)	2017 年 1 月 29 日	○大城安
ロジスティックとして参加した沖縄県総合会場防災訓練 (SUC 開設・運営を担当して)	第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会	名古屋国際会議室	2017 年 2 月 13 日～2 月 15 日	○野原剛
ECMO における人体模擬回路「Endo-Circuit」の作成	第 44 回日本集中治療医学会学術集会	ロイトン札幌 / 札幌市教育文化会館	2017 年 3 月 9 日～3 月 11 日	○弓濱義之、三戸正人、遠藤智之
当院の VA 委員会活動報告第 1 報 ～委員会立上げと課題～	第 35 回沖縄県人工透析研究会	宜野湾市 (沖縄コンベンションセンター)	2017 年 3 月 12 日	○大瀧明日香、内里司、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江、大城安
当院の VA 委員会活動報告第 2 報 ～VA 委員によるポータブルエコー活用～	第 35 回沖縄県人工透析研究会	宜野湾市 (沖縄コンベンションセンター)	2017 年 3 月 12 日	○大城安、大瀧明日香、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江
座長	第 35 回沖縄県人工透析研究会	宜野湾市 (沖縄コンベンションセンター)	2017 年 3 月 12 日	○野原剛

活動実績

院内外研修実績

題目	開催地	実施年月日	参加者	○発表者と共同研究者 ◎講師・座長
沖縄パイタルサインセミナー	沖縄コンベンションセンター	2016 年 4 月 30 日	新川桂一朗、大城安、内里司	
第 62 回沖縄県 CE 技術交流会 災害対策・臨床工学技士に求められること	沖縄県 (SOLA 沖縄)	2016 年 5 月 8 日	野原剛、内里司	

題目	開催地	実施年月日	参加者	○発表者と共同研究者 ◎講師・座長
COM.TEC 講習会	沖縄県 (ITI 株式会社)	2016 年 5 月 10 日	内里司、野原剛、大城安	
第 14 回 沖縄クリティカルケアリハビリテーション研究会セミナー	沖縄県 (大浜第一病院ふれあいセンター)	2016 年 5 月 28 日	仲松晋也	
透析室内の携帯電話使用医基準見直しへの試み	大阪府 (大阪国際会議場)	2016 年 6 月 10 日～6 月 12 日	野原剛、仲松晋也	○仲程通孝、仲松晋也、豊川真理、大城安
院内携帯電話使用基準見直しへの取り組み	大阪府 (大阪国際会議場)	2016 年 6 月 24 日～6 月 25 日	仲松晋也	○仲松晋也
県立中部病院 VA 委員施設見学	沖縄県	2016 年 6 月 30 日	大城安、大瀧明日香、宮城幸江、瀬底真由美、米須真由美、清水史恵	
第 9 回 透析液安全管理責任者研修会	東京都 (御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)	2016 年 7 月 16 日～7 月 17 日	内里司	
美ら島レスキュー 2016	自衛隊那覇駐屯地	2016 年 7 月 20 日	野原剛	
モニター講習会	院内 (2 階講堂)	2016 年 7 月 21 日	渡辺詩織、平良航	
第 21 回 3 学会合同呼吸療法認定士認定講習会	東京都 (品川プリンスホテル アネックスタワー)	2016 年 8 月 29 日～8 月 31 日	弓濱義之	
沖縄県総合防災訓練	石垣島 / 西表島	2016 年 9 月 3 日	野原剛	
座長	熊本県 (市民会館シアーズホーム夢ホール・一番館)	2016 年 10 月 1 日～10 月 2 日	大城安	◎大城安
緊急自動車運転技能講習会	沖縄県 (馬天自動車学校教習コース)	2016 年 10 月 10 日	野原剛	
牧港中央病院 VA 委員施設見学	沖縄県 (宜野湾市)	2016 年 10 月 13 日	大城安、大瀧明日香、宮城幸江、瀬底真由美、米須真由美、清水史恵	
電波の安全性に関する説明会	EM ウェルネスリゾート コスタビタ沖縄ホテル&スパ	2016 年 10 月 26 日	仲松晋也	
輸液ポンプメンテナンス講習会 (OT-808 OT80C)	沖縄県 (沖縄県医師会館)	2016 年 10 月 27 日	平良航、平敷幸大	
第 38 回日本手術医学会・総会	沖縄県 (沖縄コンベンションセンター)	2016 年 11 月 4 日～11 月 5 日	仲松晋也	
医療ガス保安管理技術者講習会	東京都 (大田区産業プラザ Pio)	2016 年 11 月 8 日～11 月 9 日	野原剛	
第 5 回沖縄不整脈セミナー	中部徳洲会	2016 年 11 月 11 日	平敷幸大	
高橋内科クリニック VA 委員施設見学	福岡県	2016 年 11 月 11 日	大城安、大瀧明日香	
当院の VA 委員会活動報告第 1 報～委員会立上げと課題～	熊本県 (熊本県立劇場)	2016 年 11 月 12 日～11 月 13 日	大瀧明日香、大城安	○大瀧明日香、内里司、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江、大城安
当院の VA 委員会活動報告第 2 報～VA 委員によるポータブルエコー活用～	熊本県 (熊本県立劇場)	2016 年 11 月 13 日	大瀧明日香、大城安	○大城安、大瀧明日香、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江
第 23 回院内研究発表会	院内 2 階講堂	2016 年 11 月 18 日	仲程道孝、平敷幸大、城間秀史、渡辺詩織、大城安	○仲程道孝、仲松晋也
九州保健福祉大学バイザー会議	宮崎県延岡市 (キャトルゼゾン・マツイ)	2016 年 12 月 4 日	大城安、内里司	
第 10 回 Vascular Access 超音波研究会	東京都 (ベルサール飯田橋ファースト)	2017 年 1 月 8 日	大城安	
Electro Physiology Okinawa Comedical 勉強会	沖縄県 (ITI 株式会社)	2017 年 1 月 15 日	平敷幸大	

題目	開催地	実施年月日	参加者	○発表者と共同研究者 ◎講師・座長
医療機器安全管理基礎講習会	沖縄県 (SOLA)	2017年1月29日	仲松晋也、平敷幸大、仲程通孝、渡辺詩織、平良航、大城安	◎大城安
第29回沖縄呼吸ケアセミナー	沖縄県産業支援センター	2017年2月11日	弓濱義之、内里司、平敷幸大	
ロジスティックとして参加した沖縄県総合会場防災訓練 (SUC 開設・運営を担当して)	名古屋国際会議室	2017年2月13日～2月15日	野原剛	○野原剛
	沖縄県 (ラグナガーデンホテル)	2017年2月16日	大城安、野原剛、	
第2回腎代替療法研究会	那覇市 (那覇市医師会館)	2017年2月25日	大城安、平良航	
第2回沖縄県 I-HDF 共催セミナー in 沖縄	沖縄県 (沖縄県医師会館)	2017年2月25日	野原剛、	
ECMOにおける人体模擬回路「Endo-Circuit」の作成	北海道 (ロイトン札幌)	2017年3月9日～3月11日	弓濱義之	○弓濱義之、三戸正人、遠藤智之
当院のVA委員会活動報告第1報～委員会立上げと課題～	沖縄県 (コンベンションセンター)	2017年3月12日	大瀧明日香、内里司、仲程通孝、平良航、渡辺詩織、城間秀史、野原剛、大城安	○大瀧明日香、内里司、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江、大城安
当院のVA委員会活動報告第2報～VA委員によるポータブルエコー活用～	沖縄県 (コンベンションセンター)	2017年3月12日	大瀧明日香、内里司、仲程通孝、平良航、渡辺詩織、城間秀史、野原剛、大城安	○大城安、大瀧明日香、米須真由美、清水史恵、瀬底真由美、野原剛、宮城幸江
座長	沖縄県 (コンベンションセンター)	2017年3月12日	大瀧明日香、内里司、仲程通孝、平良航、渡辺詩織、城間秀史、野原剛、大城安	◎野原剛

院内外研修実績 (受講)

題目	主催	開催地	実施年月日	参加者
第9回透析液安全管理責任者研修会	日本臨床工学技士会	東京都 (御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)	2016年7月16日～7月17日	内里司
第21回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	東京都 (品川プリンスホテルアネックスタワー)	2016年8月29日～8月31日	弓濱義之
輸液ポンプメンテナンス講習会(OT-808 OT80C)	JMS 株式会社	沖縄県 (沖縄県医師会館)	2016年10月27日	平良航、平敷幸大
医療ガス保安管理技術者講習会	公益財団法人 医療機器センター	東京都 (大田区産業プラザ Pio)	2016年11月8日～11月9日	野原剛

実績報告資料等



臨床工学科 29 年度目標

【チーム医療に不可欠なスタッフ育成】
臨床工学技士の特殊性・専門性を活かし他職種との連携を密にし、より良質で効果的な医療を提供できるようなスタッフを育成

【挑戦】
増設により始まる新しい分野への参入をめざし、関連部署との連携を強固なものにする

栄養科

栄養科科长 久場 徳子

平成 28 年度は小児アレルギー外来の開設に伴い栄養指導依頼が増え、栄養指導件数は前年度から 310 件増となりました。

また、給食管理においては、料理の盛り付け方によって出来栄に差があるため、模範となる料理を撮影、盛り付け例を示し、器選定や盛り付け方法を統一するよう取り組みました

職員数

総数

29 名

職種別

管理栄養士 6 名

調理師 10 名

調理補助 6 名

食器洗浄 6 名

事務 1 名

認定・資格

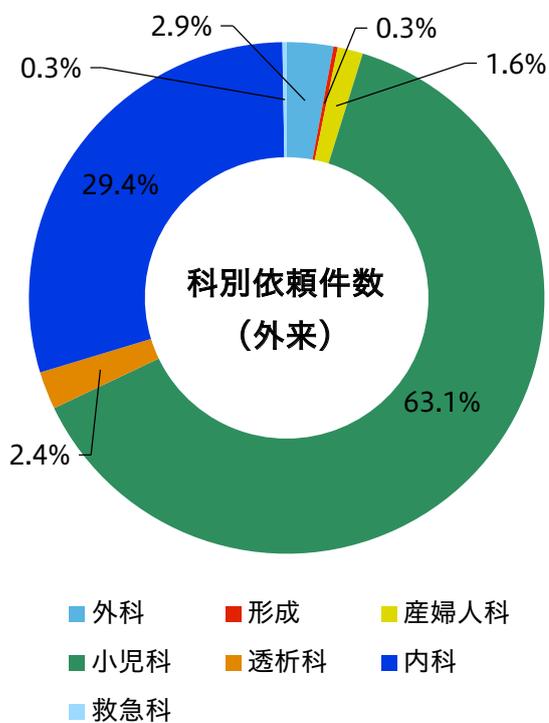
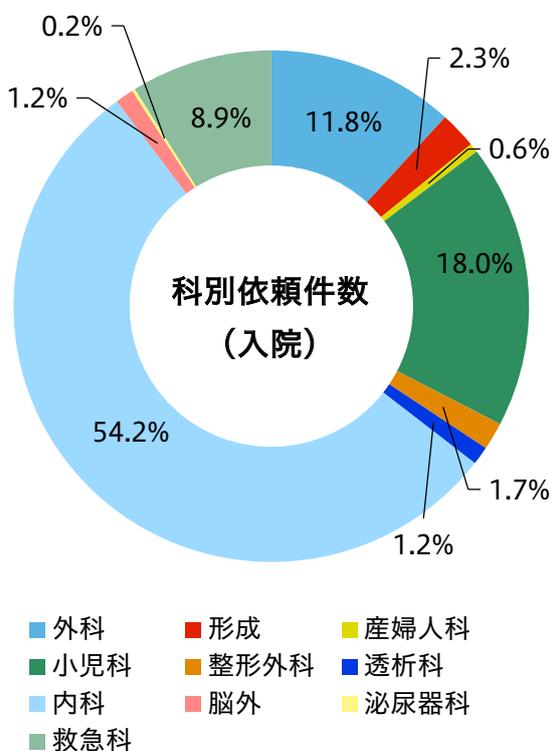
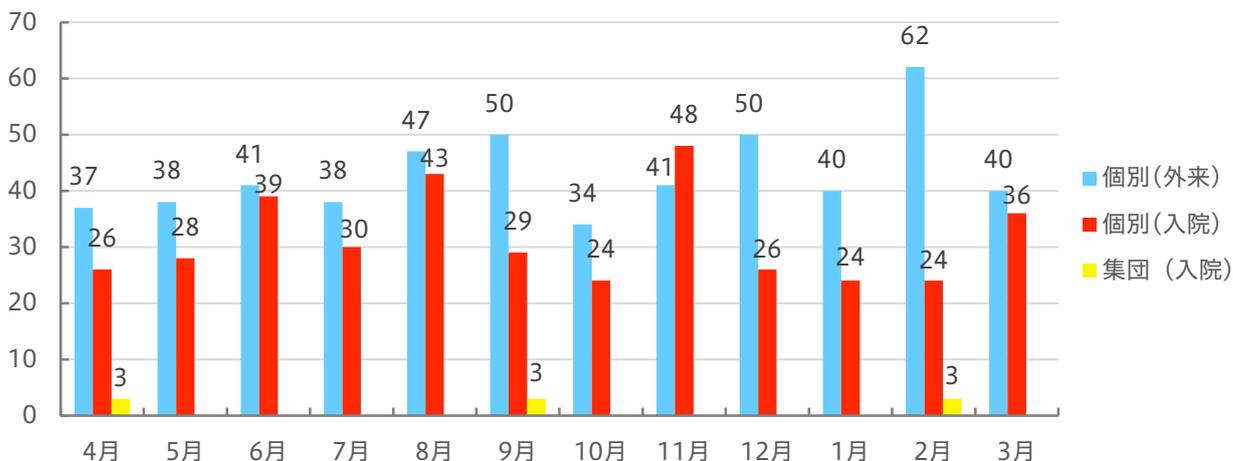
氏名	認定・資格名
久場徳子	健康運動指導士 糖尿病療養指導士 栄養サポート専門療法士
真栄城ゆかり	糖尿病療養指導士 栄養サポート専門療法士

氏名	認定・資格名
渡真利ゆりか	健康運動指導士 沖縄県地域糖尿病療養指導士
高屋美希	沖縄県地域糖尿病療養指導士
当真結子	沖縄県地域糖尿病療養指導士 栄養サポート専門療法士
棚原佳世	沖縄県地域糖尿病療養指導士

運営方針

- ・ 患者様のニーズに応える食事を提供します。
- ・ 衛生面かつ安全面に配慮した業務を行います。
- ・ 患者様の病態に応じた食事の支援をいたします。

平成 28 年度栄養指導実施件数



研究業績

研究発表

演題名	学会名	開催地	年月日	発表者と研究者
味覚チェック栄養指導の試み	糖尿病学会九州地方会	鹿児島	2016年11月14日 ～15日	渡真利ゆりか
ワークライフバランス	院内研究発表会	院内	2016年11月18日	当真 結子
味覚チェック栄養指導の試み	沖縄 CDE 講習会	県内	2016年3月11日	渡真利ゆりか

活動実績

科内研修

名称	開催地	実施年月日	講師
食中毒対策	栄養科	2016年4月15日	当真
カリウムについて	栄養科	2016年6月1日	久場
食物アレルギー	栄養科	2016年8月3日	棚原
ワークライフバランス	栄養科	2016年8月24日	当真
配膳の工夫	栄養科	2016年10月7日	久場、佐久本
料理盛り付け	栄養科	2016年12月27日	当真
糖尿病の検査値	栄養科	2016年1月25日	久場

講師派遣

題名	開催地	実施年月日	参加
健康食品との付き合い方(出前講座)	西原町	2016年1月17日	棚原 佳世
看護部慢性疾患領域研修	院内	2016年5月27日	久場 徳子
心リハ教室	循環器病棟	2ヶ月毎	栄養士
緩和勉強会	院内	2016年12月12日	当真 結子
健康教室(健康増進委員会)	コスタピスタ	2016年1月14日	当真 結子
心リハスタッフ勉強会	循環器病棟	2017年3月21日	真栄城 ゆかり

研修受講実績

研修名	開催地	実施年月日	参加
糖尿病腎症予防戦略、佐賀県地域医療連携	那覇市	2016年4月3日	高屋、当真
高齢化社会における在宅医療のあり方	那覇市	2016年4月22日	高屋
糖尿病療養指導士講習会	那覇市	2016年6月6日	久場
臨床懇話会	南風原町	2016年6月25日	久場 真栄城 当真
健康運動指導士講習会	沖縄市	2016年7月10日	久場
糖尿病薬の効果を最大限に引き出す食の工夫	那覇市	2016年8月10日	高屋
アトピーの栄養療法	ハートフルクリニック	2016年8月27日	高屋
急性期、慢性期での経腸栄養管理	那覇市	2016年9月27日	高屋
スポーツ栄養と糖尿病	那覇市	2016年10月12日	高屋、当真
がん治療時の栄養介入	那覇市	2016年10月29日	高屋
栄養士会療養部会研修会	那覇市	2016年10月12日	久場、当真、高屋
医療事業部研修会	那覇市	2016年10月29日	久場、当真、高屋
琉球摂食嚥下研究会	南風原町	2016年11月30日	久場
栄養士会療養部会研修会	那覇市	2016年10月29日	久場、高屋
アレルギー大学	琉大	2016年10月29日、11月5日、11月26日、12月3日	棚原
公衆衛生(食中毒)研修会	宜野湾マリン支援センター	2016年5月27日、11月8日	末吉、運天、緑間、井口、仲程
日本病態栄養学会	京都	2017年1月14～15日	久場
日本静脈経腸栄養学会	岡山	2017年2月22～25日	当真
玄米と糖尿食	読谷	2017年2月25日	高屋
第12回 NST フォーラム	浦添市	2017年3月11日	真栄城 当真
沖縄県 CDE 講習会	南風原町	2017年3月11日	渡眞利

イベント参加

名称	内容	開催地	発表年月日	発表
救急フェア	保水液	院内	2016年7月30日	棚原・当真
糖尿病サマーキャンプ	血糖管理、食育	玉城青年自然の家	2016年8月3～6日	当真

薬局

薬局長 田中 健嗣

今年度は昨年末に退職者が発生したため、薬剤師 10 名（欠員 7 名）で、新年度を迎えました。昨年度に引き続き人員確保のため在職者の母校をはじめ、各大学へ積極的な P R 活動を継続しています。また、少人数で運用ができる様に、業務の一時休止や内容の見直しを行いました。特に薬局内の事務作業や薬剤師業務の中で事務職が代行可能な業務の移行を行いました。薬局内の確認作業の簡略化、日常業務の簡素化を図りました

職員数

総数

18 名

職種別

薬剤師 10 名

看護師 1 名

薬局助手 5 名

一般事務 2 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
田中 泉	認定実務実習指導薬剤師
大関秀和	認定実務実習指導薬剤師

氏名	認定・資格名
義田育美	NST 専門療法士
知念尚恵	糖尿病療養指導士

理念

- ・ 私たちは心と心を結ぶ信頼される医療を目指します。
- ・ 患者さんが喜ぶ医療を目指します。

運営方針

- ・ 全ての入院患者さんの状況把握と関与
- ・ 医薬品の適正使用
- ・ 「より安全な薬物療法」と「より質の高い薬物療法」

活動実績

講師・発表実績

内容	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
講師	フィジカルアセスメント研修会	沖縄県	2016年5～2017年3月	大関秀和
講師	沖縄県緩和ケア研修	沖縄県	2017年1月7～8日	田中健嗣

平成 28 年度計画及び実績

項目		目標	実績
薬剤管理指導	月間	500件	500件
	年間	6,000件	6,008件
情報配信	DI ニュース		4報
	薬審結果報告		5報
	薬剤切り替え		38報
	名称変更		1報
	厚労省通知		0報
	メーカーの通知		10報
	その他		14報
薬剤師人数		23名体制	11名/17名枠
学会参加		4件	沖縄県薬剤師学会大会
学会発表		0題	沖縄県薬剤師学会大会
薬剤師病棟配置		複数病棟を兼任で配置(未算定)	
スタッフ育成・認定専門薬剤師育成		フィジカルアセスメントのインストラクターを育成	
実習・研修	薬局内勉強会		90件
	県内勉強会		40件
	県外講演会	臨床腫瘍薬学会 日本緩和医療薬学会 がん対策推進企業アクション講習会 九州大腸がんセミナー等	10件

その他の実績

- ・ 薬剤師詰め所の資料保管庫の入れ替え
- ・ 持参薬科入力の開始
- ・ 院外薬局との連絡会議の定例化
- ・ 院内CRCの雇用を申請→平成29年度より雇用決定
- ・ 病棟注射カートの見直し
- ・ アンブルピッカーの導入準備（看護部への説明準備・資料作成）
- ・ がん認定薬剤師、認定取得へ向けての活動（単位取得・学会登録）
- ・ 医薬品情報士の資格取得の検討。
- ・ 術前中止薬のリニューアル
- ・ ロボピックのカセットの見直し

リハビリテーション科

リハビリテーション科療法士長 玉城 義彦

現在、リハビリテーション科は脳血管疾患リハ、運動器疾患リハ、呼吸器疾患リハ、がんのリハ、心大血管リハの5つの疾患別リハビリの施設基準が認可されています。

ここ数年はがんのリハビリテーション体制の強化と心大血管リハビリテーションの体制強化に取り組み、それぞれの認定士・指導士の育成に取り組んできました。更に今年度はウイメンズリハビリテーションや形成外科分野リハビリテーションに対象を広げ体制作りに取り組んできました。

また、科内の勉強会に加え、様々な診療科の先生や看護師、技師を招いての勉強会も継続して行っており、知識や技術の向上と各職種間のスムーズな連携に繋がっています。

平成 29 年度も引き続き、専門療法士育成等の推進と各職種間の連携の推進に取り組み、救急及び急性期リハビリテーションの充実・拡充に向けて取り組んでいきます。

職員数

総数

27 名（助手 1 名含む）

職種別

理学療法士	15 名（育休職員含む）	言語聴覚士	4 名
作業療法士	7 名	助手	1 名

認定・資格

氏名	資格・認定資格
理学療法士	
玉城義彦	介護支援専門員 地域包括ケア推進リーダー（日本理学療法士協会認定） 介護予防推進リーダー（日本理学療法士協会認定）
新垣 健	がんのリハビリテーション研修終了
神里祥子	がんのリハビリテーション研修終了
玉栄優子	がんのリハビリテーション研修終了
金城勝一朗	がんのリハビリテーション研修終了
波平静香	呼吸療法認定士
狩俣貴康	呼吸療法認定士
福地美香	呼吸療法認定士
弘岡 亮	心臓リハビリテーション指導士

氏名	資格・認定資格
理学療法士	
長嶺敦司	健康運動指導士 糖尿病療養指導士
作業療法士	
柴野比智也	がんのリハビリテーション研修終了
富永涼子	がんのリハビリテーション研修終了
宮城奈津希	がんのリハビリテーション研修終了 呼吸療法認定士
言語聴覚士	
大城盛彦	がんのリハビリテーション研修終了
松川玲子	高次脳機能障害認定言語聴覚士（日本言語聴覚士会認定）

理念

患者さんの目標（家庭復帰等）に向かって、機能的予後予測に即した、リハビリテーション全体をマネージメントする。

運営方針

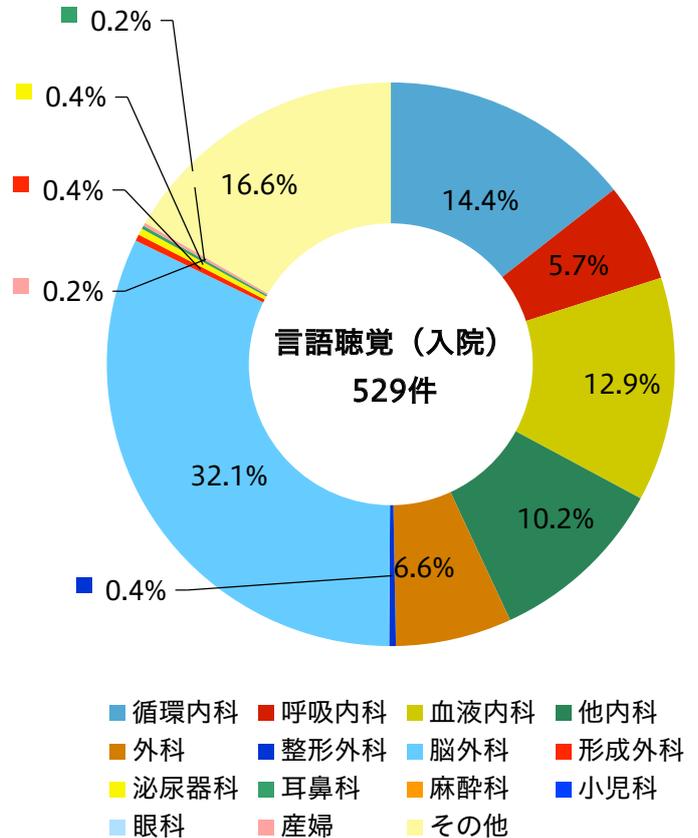
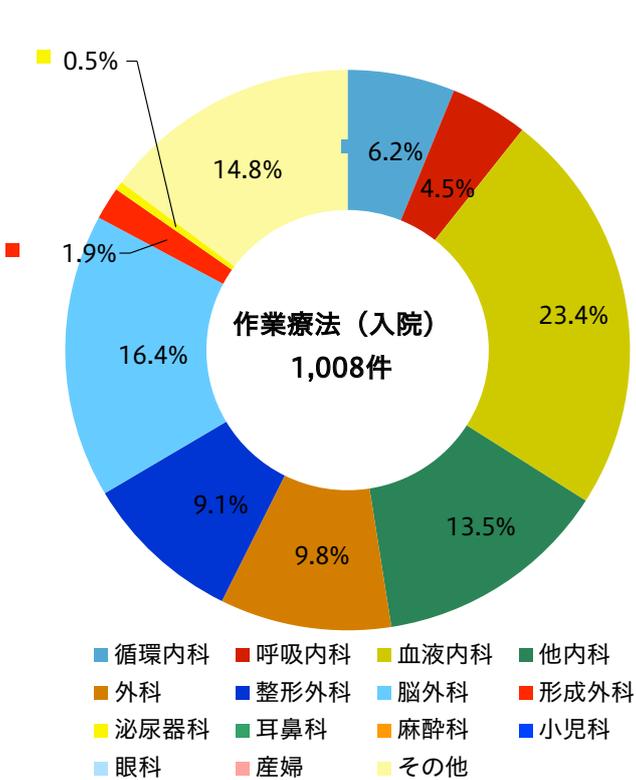
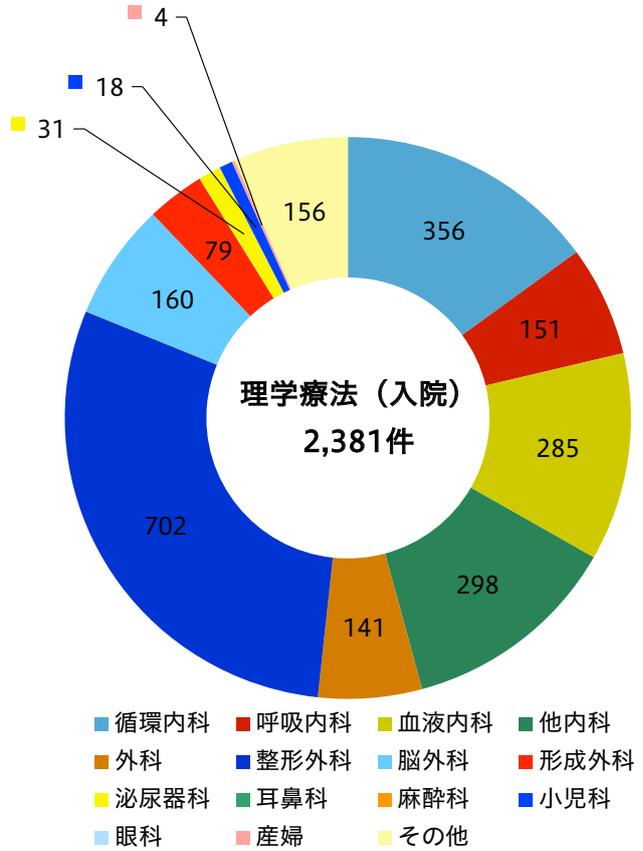
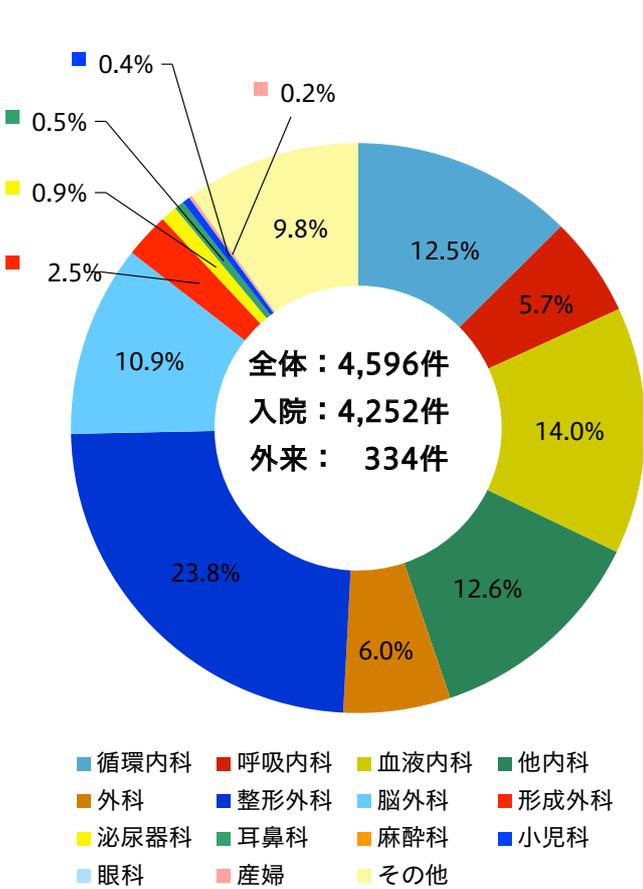
急性期病院におけるリハビリテーションを担い、その役割を明確にし、実践する。

院内外の関連職種間とのコミュニケーションや連携の強化を図る。

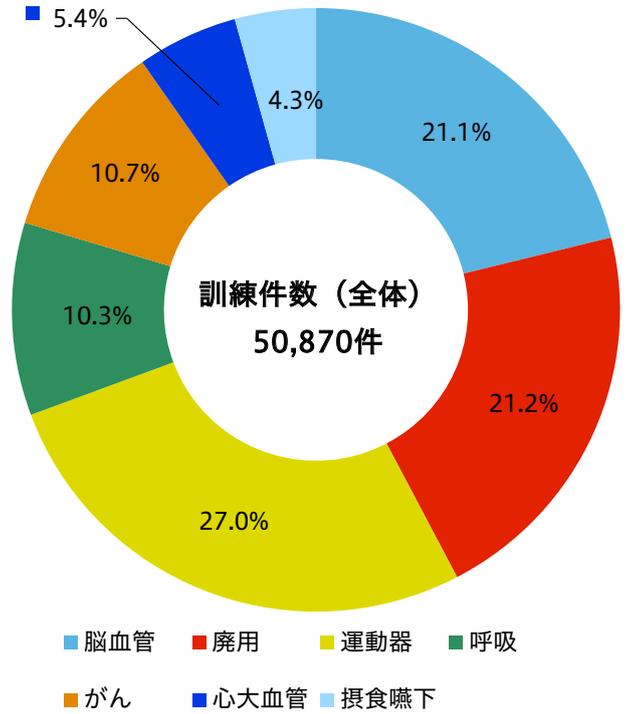
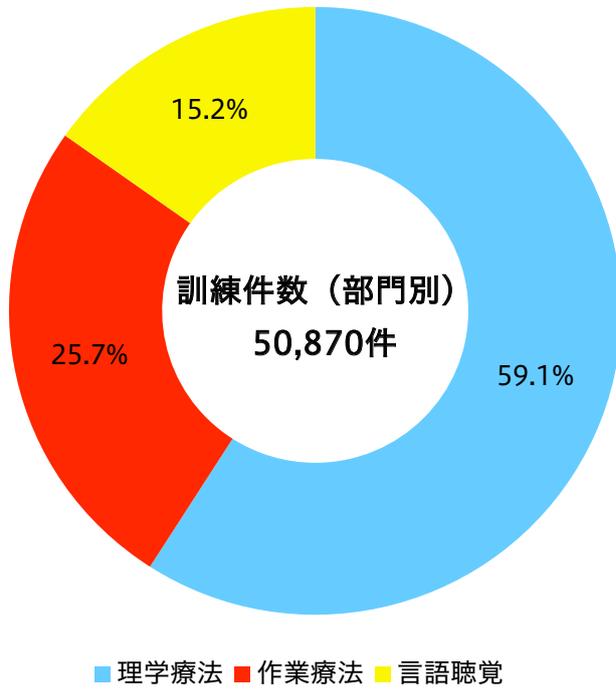
部及び個々の診療技術の向上を目指す

検査・治療実績

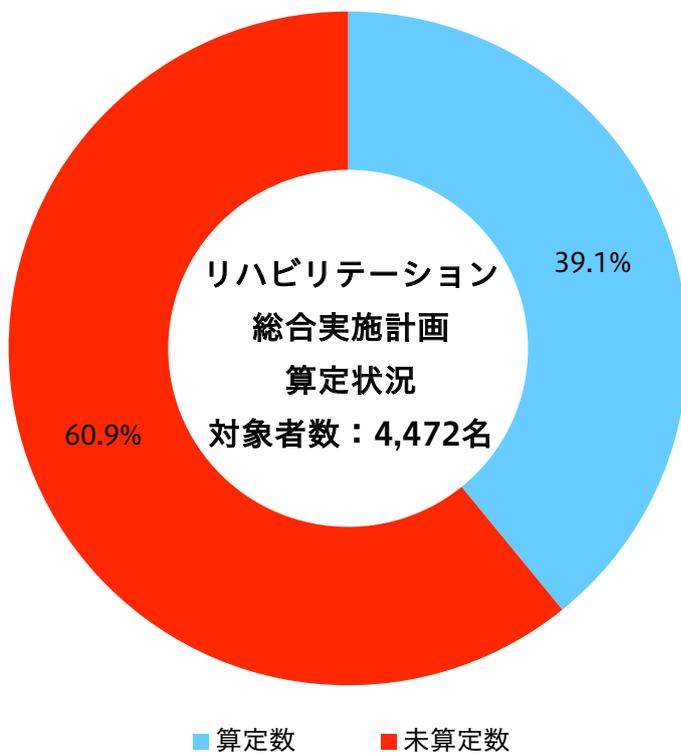
診療科別リハビリテーション処方状況



疾患別リハビリテーション実施状況



リハビリテーション総合実施計画



算定状況	
対象患者数	4472
算定数	1750
未算定数	2722
算定率	39.1%
未算定率	60.9%
算定点数	525,000
未算定点数	816,600

活動実績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
(発表) 左片麻痺を呈したアルコール依存症の症例	沖縄県作業療法士協会 事例報告	与那原町	2016年9月4日	大見謝勝人
(アドバイザー) 外来リハビリテーションにおける神経難聴者の訓練について	沖縄県言語聴覚士会症 例検討会	那覇市	2016年9月	大城盛彦
(ポスター発表) 咽頭温存療法頸部食道術後の反回神経麻痺から約半年後に経口摂取・発声が可能になった一症例	第22回日本摂食嚥下リ ハビリテーション学会・ 学術大会		2016年9月	大城盛彦
司会	第51回日本理学療法士 協会全国学術研修大会 共催セミナー	宜野湾市	2016年10月7日	玉城義彦
(発表) 「PCPS導入により救命した劇症型心筋炎の負荷量増加に考慮した例」	第回九州理学療法士・ 作業療法士合同学会 2016	鹿児島県	2016年11月13日	弘岡 亮
(ポスター発表) Spaghetti Wrist 症例の術後のハンドセラピーを経験して	沖縄県作業療法士学会	那覇市	2017年1月9日	宮城奈津希
(発表) 「外来心臓リハビリテーションの参加率と心不全再入院患者の特徴」	沖縄県理学療法士学術 大会	那覇市	2017年2月19日	弘岡 亮

院内講師実績

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
(講師) 「心臓リハビリ…運動って？」	領域別看護勉強会	当院	2016年8月	弘岡 亮
(発表) ワークライフバランス ～みんながハッピーになるために～	院内研究発表会本選	当院	2016年11月18日	仲村和也、島田 真紀子、佐々木正雪

論文著書

演題名	雑誌名	掲載年・号・頁	発表者と研究者
(トピックス) 理学療法士の政治活動を考える ～診療報酬改定から垣間見えたもの～	理学療法沖縄	2017.2.28) 2016 VOL.18) Page45-50	玉城 義彦

実績報告資料等

平成28年度 目標達成状況①

- ◎ 実績の把握・分析の活用、施設基準・人員に見合う実績の評価を行い業務改善や増員の必要性の検討を行う
 - 作業療法士定員1名増員達成
 - 7名体制維持
 - がん研修セラピスト8名維持
 - 1チーム増を検討 ⇒ 11名～12名体制へ
 - 呼吸療法認定士4名維持 (PT3名 OT1名)
 - 平成29年度1名減 (PT3名⇒2名) ⇒ 体制安定のため数名育成中
 - 心臓リハビリテーション指導士1名維持
 - 体制安定のため数名育成中
 - 老朽化治療機器更新プラン検討
 - リハビリ訓練室移転に伴い老朽化治療機器更新プラン作成

平成28年度 目標達成状況③

- ◎ 未請求算定項目の改善
 - ④リハビリテーション総合計画料の60%以上算定可能なシステムの構築
 - 未達成！ 取り組み継続中
 - リハビリ総合実施計画料について、電子カルテ利用し看護師、相談員、リハスタッフがそれぞれ担当項目を決め入力継続中
 - ※算定率 45% → 40% 5%減 (全外登録患者対象)
 - ⑤初期加算 (14日以内) 及び外来管理加算が算定可能な診療体制構築
 - 未達成！ 取り組み継続中
 - 医師体制が、人件費や採算性の課題で未構築
 - ⑥各指導料算定の強化
 - 各指導料についてはその都度算定実施中

課題

- ◎ リハビリテーション専門医師の確保 (病院機能評価、監査・返還、指導に耐える体制)
- ◎ 未請求算定項目 リハビリテーション実施計画料等)
- ◎ セラピスト適正人員の分析、増員の必要性の検討 (産・育休、各診療科との連携拡大に伴う補充等の必要性)
- ◎ 専門性の獲得 (各種認定・専門セラピスト)
- ◎ 研修・講習会への参加、学会発表 (部費：研修費予算の制限)
- ◎ 病棟担当の検討 (各病棟にあわせた連携の獲得)
- ◎ 請求 (単位) 制限と影響因子
 - 回診、委員会活動、患者予定の変更 (遅刻・検査・体調不良等)
 - 診療報酬改定後の減額報酬の対策
- ◎ リハビリテーション機器の老朽化と更新
- ◎ 増築に伴うリハビリテーション訓練室移動への対策

平成28年度 目標達成状況②

- ◎ 各病棟との連携充実のため
 - ①カンファレンス (症例検討会等) の継続と質的向上
 - 各病棟でのカンファレンス実施継続。
 - ②ケースワーカーとの連携充実とスムーズな退院・転院への取り組み
 - リハ実施日数の短縮横違い ⇒ スムースな転・退院推進
 - ③回診等へ参加し医師との連携を強める
 - (早期開始・経過報告・リハ実施患者の確保等)
 - 整形外科、脳外科、外科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科 回診へ参加継続。
 - リハ処方数の増加継続 → リハ必要性の認識定着
 - 入院日からリハ開始の日数短縮横違い → 早期リハの推進

平成28年度 目標達成状況④

- ◎ 医療の質の向上のため
 - ⑦病院機能評価に準じたシステムの構築
 - マニュアルの電子化実施 (楽2ライブラリ)、改定作業継続
 - 備品、物品の整理整頓 → 備品の確認と管理実施継続
 - 回診やカンファレンスなど病棟との連携推進会議継続
 - リハスタッフに加え、医師、病棟と連携しての勉強会継続
- ◎ リハビリテーション訓練室移動に向けての計画策定
 - ⑧移転に伴い治療訓練機器更新の再検討
 - 廃棄機器の選定、更新機器の選定、新規導入機器の選定
 - ⑨訓練室レイアウトの検討
 - 仮移転訓練室、最終移転先訓練室について 関係課・業者との打ち合わせ実施

平成29年度 目標

- ◎ 実績の把握・分析の活用、施設基準・人員に見合う実績の評価を行い業務改善や増員の必要性の検討を行う
- ◎ 各病棟との連携充実のため
 - ①カンファレンス (症例検討会等) の継続と質的向上
 - ②ケースワーカーとの連携充実とスムーズな退院・転院への取り組み
 - ③回診等へ参加し医師との連携を強める
 - (早期開始・経過報告・リハ実施患者の確保等)
- ◎ 未請求減額算定項目の改善
 - ④リハビリテーション総合計画料の60%以上算定可能なシステムの構築
 - ⑤初期加算 (14日以内) 及び外来管理加算が算定可能な診療体制構築
 - ⑥各指導料算定の強化
- ◎ 医療の質の向上のため
 - ⑦病院機能評価改善指摘項目の改善計画と実践
 - ⑧老朽化したリハビリテーション機器の計画的更新
- ◎ リハビリテーション訓練室移動に向けての計画策定

医療技術部 年度総括



医療技術部部長
宮城 竜也

薬剤師は1名退職しましたが1名の薬剤師が就職したため増減はありませんでした。しかし、薬剤師は定数の17名に対し未だ4名の欠員状態が続いているため、来年度も大学訪問や就職イベント等に積極的に参加し薬剤師17名の確保に努めたいと考えています。また、今後は治験など幅広く業務拡大を図っていきたいと考えています。

検査科は4名の検査技師が就職しました（正職3名、パート1名）。細胞検査士も1名は新卒で就職し1名は県外で研修を終えたので現在2名増員し、現在は雇用延長も含めて4名の細胞検査士が在籍しております。また来年度は新たに細胞検査士を1名増員する予定です。将来的には細胞検査士5名体制を構築していきたいと考えています。

臨床工学士は平成28年3月に2名退職し、また7月に1名退職しましたが平成28年度中に3名の臨床工学士が就職したため増減はありませんでした。現在、臨床工学科が中心になって院内の携帯電話の使用できる区域の制限緩和を進めており、来年度に向け緩和の推進を進めてまいりたいと思います。また将来的には手術室に臨床工学技士を配置し、高度な手術機器の管理も出来るような体制も構築していきたいと考えています。

今年度のリハビリテーション科はPT1名が退職、また同じくPTで産休・育休入りがありましたが、欠員補充を行い増減ありませんでした。STは欠員1名なのでこれも来年度の早い時期に補充を行う予定です。リハビリ科の心臓リハビリテーションはスタッフ1名体制なので、早急に心臓リハビリテーションスタッフ育成を積極的に進めていきます。

栄養科は管理栄養士の1名の退職がありましたが平成28年度では欠員補充に至らず、来年度4月を目標に欠員補充を行う段取りとなっています。調理師1名と調理補助2名が退職しましたが欠員補充で増減はありません。今後、産婦人科の授乳婦食の改善を行うべく管理栄養士の増員と調理器具の増設を進めていきます。

放射線科は2名の退職者と2名の産休・育休入りがありました。平成28年4月1日付で3名の新卒者と1名の経験者が就職したため増減はありませんでした。経験者と新卒者1名は当直できるようになったので、次年度はさらに2名が当直できるように教育していきます。また女性技師2名は、今後、検診マンモグラフィ認定技師の取得を目指します。

今後も学会発表等に力を入れ個人のスキルアップに繋げていきたいと考えています。次年度は増改築に向け当院にとって大きな改革の年になると思われれます。医療技術部としても全ての部署がスムーズに移設できるよう各所属長と密に連携を取っていきたいと考えています。

事務部

部門紹介

事務部は総務課、経理課、請求業務課、管財課、診療情報管理室、経営企画室、地域医療連携室の7部署で構成されており、163名の職員が所属しています。

職員数

総数

163名

職種別

一般事務	119名	施設技術者	5名
診療情報管理士	8名	調理師（収益部門）	2名
医療ソーシャルワーカー	5名	その他	24名

各部署概要・実績

総務課

総務課課長 吉川 忍

職員数

総数

23 名

職種別

一般事務	10 名	患者送迎サービス係	8 名
秘書	3 名	司書	1 名
警備員	1 名		

運営方針

事務処理の迅速化を図る

各部署に対する支援強化を図る

職場環境の整備に努める

ワークライフバランスの推進

活動実績

院内行事運営など

年月日	名称
2016 年 4 月 1 日	入職式・新入職員オリエンテーション (1 日目)
〃	新入職者歓迎会
〃	春季 職員健診 (35 歳未満：4/1～11、35 歳以上：4/1～30)
2016 年 4 月 2 日	新入職員オリエンテーション (2 日目)
2016 年 4 月 25 日	院内合同慰霊祭
〃	適時調査 九州厚生局沖縄支部
2016 年 7 月 7 日	院内献血
2016 年 7 月 20 日	救急車型ドクターカー納車式
2016 年 8 月 4 日	院内火災訓練
2016 年 8 月 22 日	ハートライフ病院 開院 28 周年
2016 年 10 月 3 日	永年勤続者 (10 年および 20 年勤続) 表彰
2016 年 10 月 20 日	ボランティア民謡公演 演者：内間 安雄 師範 うるま民謡愛好会・安雄師範民謡研究所顧問
2016 年 11 月 8 日	医療監視 (中部保健所による立入検査)
2016 年 12 月 30 日	御用納め納会
2017 年 1 月 4 日	仕事始め
2017 年 1 月 5 日	院内成人式
2017 年 1 月 6 日	新春もちつき大会
2017 年 1 月 24 日	院内献血

経理課

事務副部長 比嘉 靖

職員数

総数

4名

職種別

一般事務 4名

運営方針

1. 経理・財務内容の的確な開示を行い、経営実態の理解を図る。
2. 正確且つ迅速に経理に関する経営資料を作成する。
3. 各部門予算執行状況の把握。
4. 経理予算業務のマニュアル化を図る。

平成 28 年度目標

1. 迅速な財務報告資料作成に向けた業務効率化（部署間のシステム連携）
2. 課内業務のローテート
3. 経費削減に向けた積極的な提案

活動実績

研修・セミナー参加等

日時		名称
6月	TKC 那覇事務所	FX4 クラウドレベルアップ研修会
7月	経理課	リース取引の処理方法について
9月	経理課	医療法人会計基準について
10月	経理課	リバースチャージについて
		医療法人の広告規制について
		医療法人会計基準の実務対応について①
11月	経理課	医療法人会計基準の実務対応について②
	アイティーアイ那覇支社	経営スタッフ育成カリキュラム①
12月	経理課	マイナンバーについて
	アイティーアイ那覇支社	経営スタッフ育成カリキュラム②
1月	経理課	国税関係書類スキャナ保存制度について①
	経理課	H29 年度税制改正について
2月	全日本病院協会	社会医療法人モデル経理規程 研修会
	アイティーアイ那覇支社	経営スタッフ育成カリキュラム③
3月	経理課	国税関係書類スキャナ保存制度について②

管財課

課長 宮里 毅

管財課用度係

職員数

総数

5 名

職種別

一般事務 5 名

運営方針

物品の安全供給

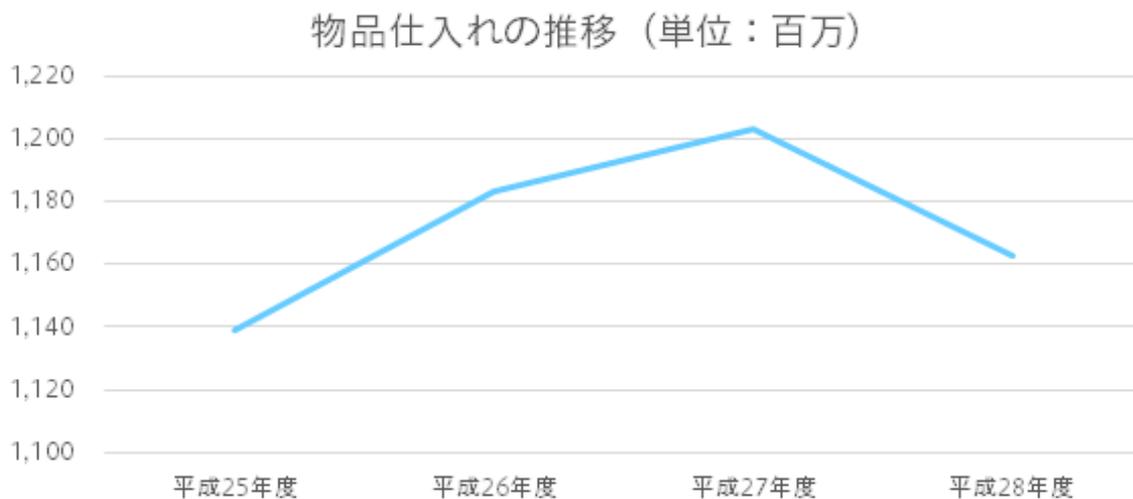
物品の管理（在庫・定数管理）の強化

課員の教育

理念

患者の安心・安全のため、部署として、病院職員として出来る最善の策（行為）を日々、研究・実践する。

用度係実績



その他今年度の実績

平成 27 年度目標

- ①増改築による病衣の形態変更
- ②予算管理の為の増改築部分の機器導入計画・見積もり等

管財課施設管理係

職員数

総数

5名

職種別

施設技術者 5名

認定・資格

認定・資格	人数
第三種電気主任技術者	2
第一種電気工事士	2
第二種電気工事士	5
消防設備士甲種 1 類	2
消防設備士甲種 2～7 類・特類	1
消防設備士乙 4 類	3
2 級ボイラー技士	5

認定・資格	人数
危険物取扱者乙 4 類	5
1 級電気工事施工管理技士	1
2 級管工事施工管理技士	1
2 級土木施工管理技士	1
第二種冷凍機械	2

運営方針

安全管理と節電に努める

理念

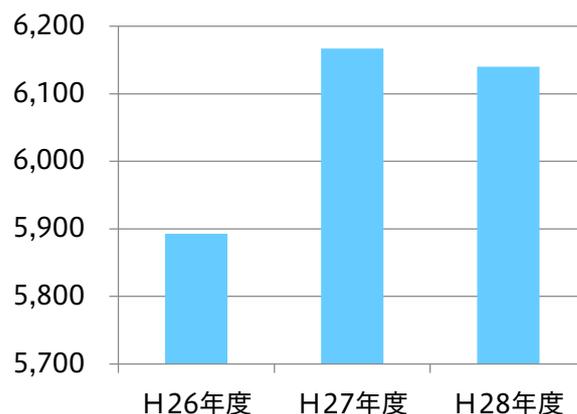
関係法令等を遵守し、建築物の設備及びその環境を常に最良の状態に維持するとともに、事故を防止し更に予防保全的業務を実施することにより耐用年数の延長を図り、省エネルギーの達成に務める。

業務実績

ハートライフ病院

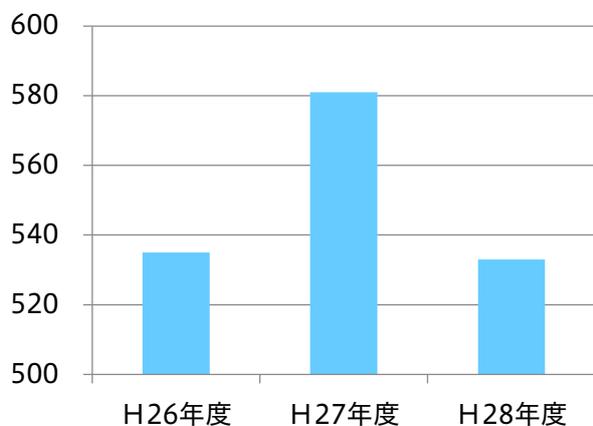
総電力量 (単位: 千 kwh)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
総電力量	5,893	6,167	6,140
対前年比	1.1% 増	4.6% 増	0.4% 減



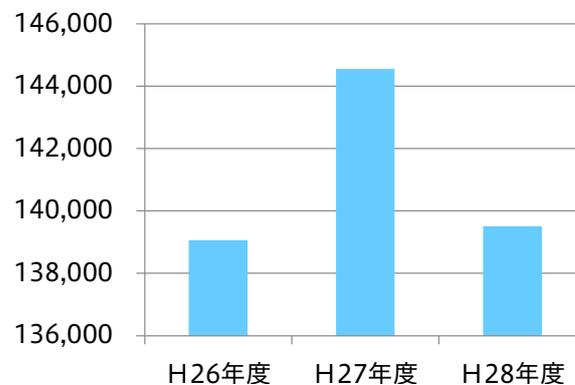
蓄熱電力量 (単位: 千 kwh)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
蓄熱電力量	535	581	533
対前年比	2.2% 減	8.5% 増	8.2% 減



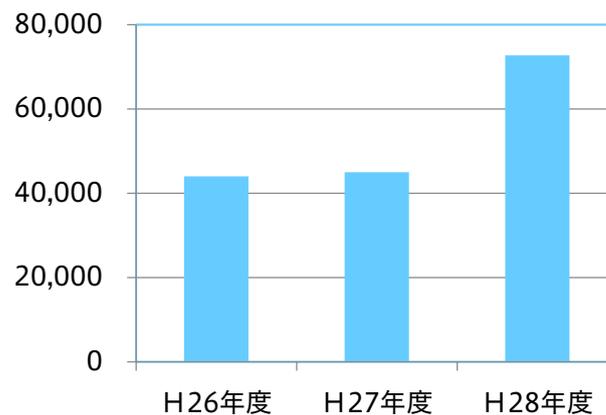
A 重油使用量 (ボイラ) (単位: ℓ)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
A 重油使用量 (ボイラ)	139,058	144,553	139,505
対前年比	7.0% 減	3.9% 増	3.5% 減



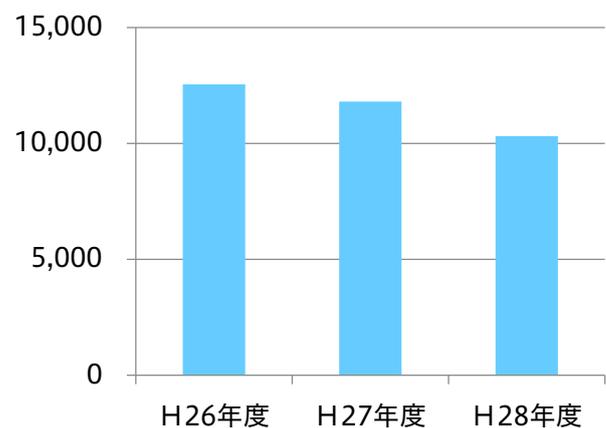
A 重油使用量 (常用発電機) (単位: ℓ)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
A 重油使用量 (常用発電機)	44,029	44,975	72,727
対前年比	43% 減	2.1% 増	62% 増



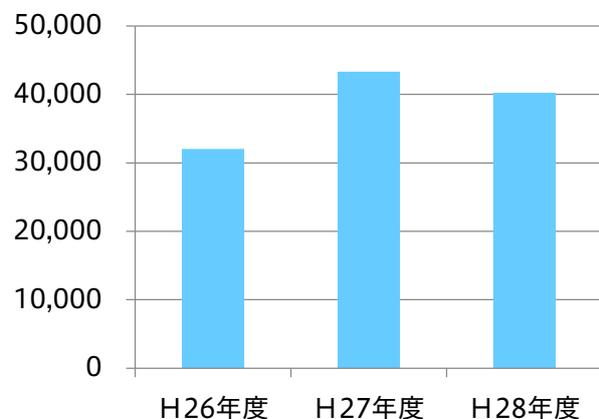
LPG 使用量 (厨房) (単位: m³)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
LPG 使用量 (厨房)	12,545	11,802	10,310
対前年比	2.1% 減	6.0% 減	12.6% 減

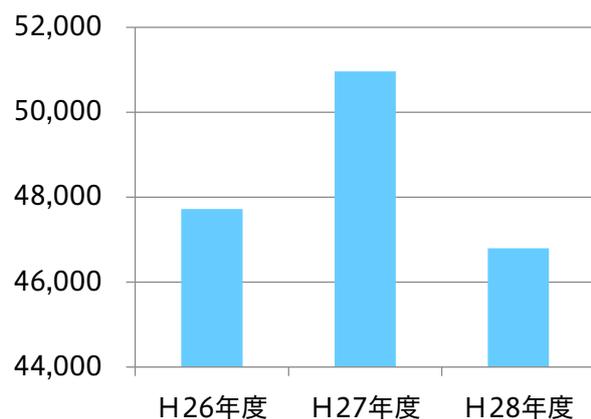


LPG 使用量 (吸収式冷凍機) (単位 :m³)

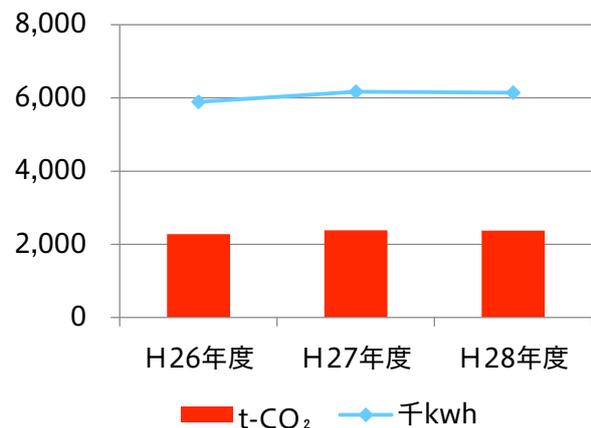
	H26年度	H27年度	H28年度
LPG 使用量(吸収式冷凍機)	32,033	43,341	40,253
対前年比	0.02% 増	35% 増	7.1% 減

上水道使用量 (単位 :m³)

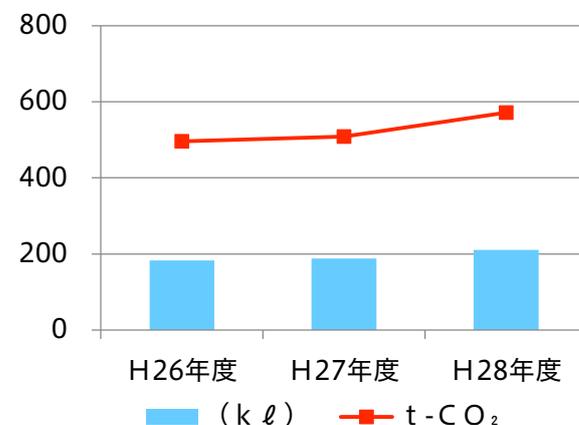
	H26年度	H27年度	H28年度
上水道使用量	47,717	50,960	46,794
対前年比	5.0% 減	6.8% 増	8.1% 減

エネルギー使用量 (電力)・CO₂ 排出量

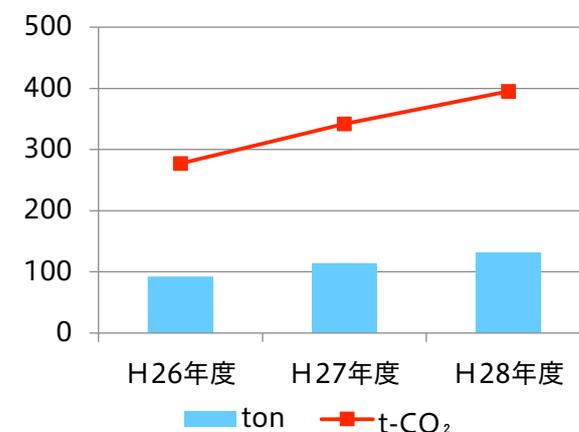
	H26年度	H27年度	H28年度
エネルギー消費量(電力)	5,893	6,167	6,140
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	2,280	2,387	2,376

エネルギー消費量 (A 重油)・CO₂ 排出量

	H26年度	H27年度	H28年度
エネルギー消費量(A 重油)	183	188	211
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	496	509	572

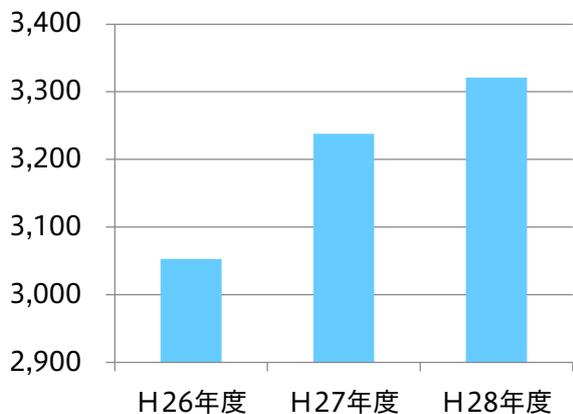
エネルギー消費量 (LPG)・CO₂ 排出量

	H26年度	H27年度	H28年度
エネルギー消費量(LPG)	92.3	114.1	132
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	277	342	395



CO₂ 総排出量 (t-CO₂)

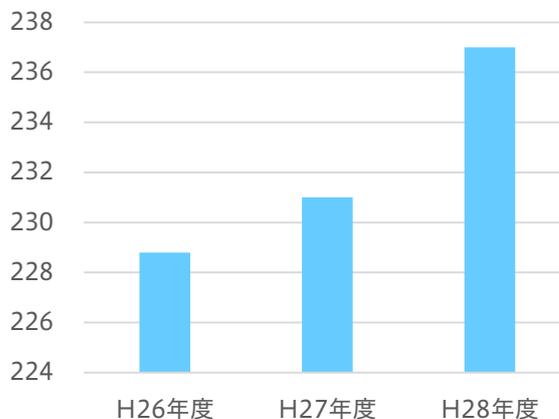
	H26 年度	H27 年度	H28 年度
CO ₂ 総排出量	3,053	3,238	3,321
対前年比	2.4% 減	6.0% 減	2.5% 増



ハートライフクリニック

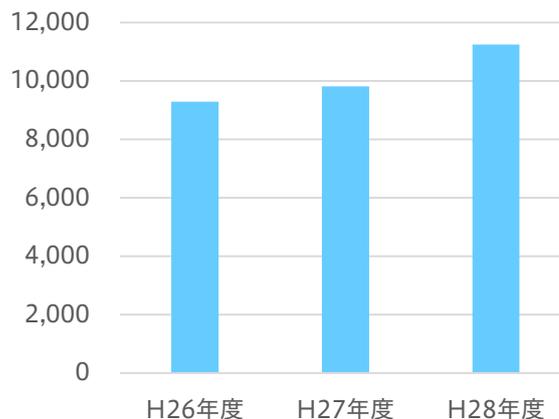
総電力量 (単位: 千 kwh)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
総電力量	229	231	237
対前年比	1.0% 増	1.2% 増	2.7% 増



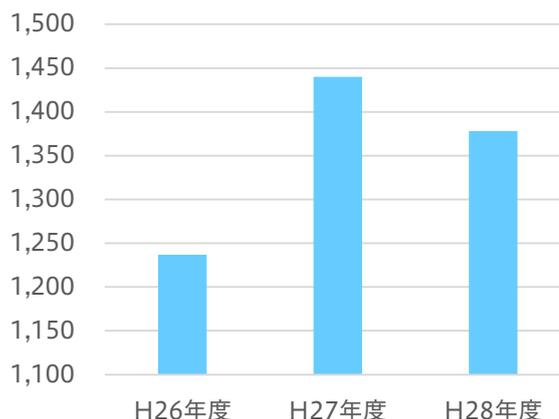
LPG 使用量 (単位: m³)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
LPG 使用量	9,293	9,815	11,250
対前年比	12.9% 減	5.6% 増	14.6% 増



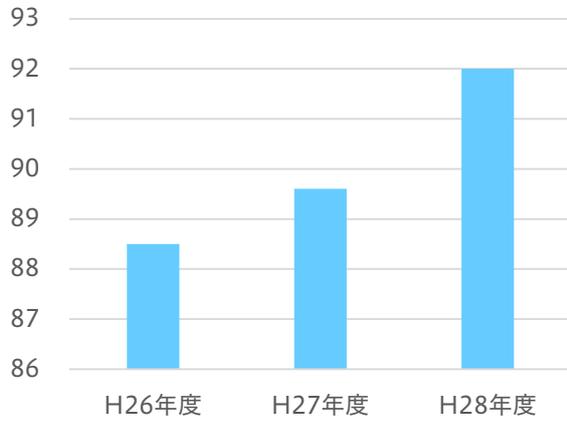
上水道使用量 (単位: m³)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
上水道使用量	1,237	1,440	1,378
対前年比	9.5% 増	16.4% 増	4.3% 減



エネルギー使用量（電力）:CO₂ 排出量（t）

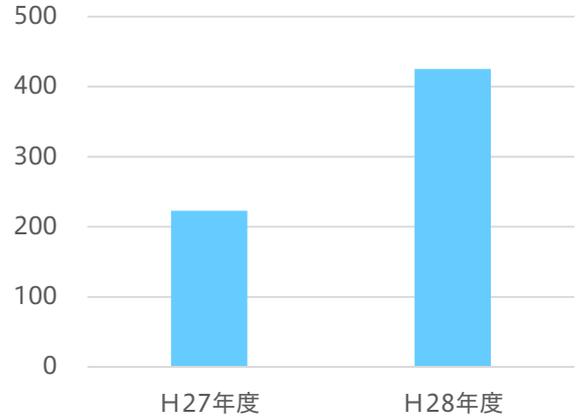
	H26年度	H27年度	H28年度
エネルギー使用量（電力）	89	90	92
対前年比	1.1% 増	1.1% 増	2.2% 増



ハートライフ地域包括ケアセンター

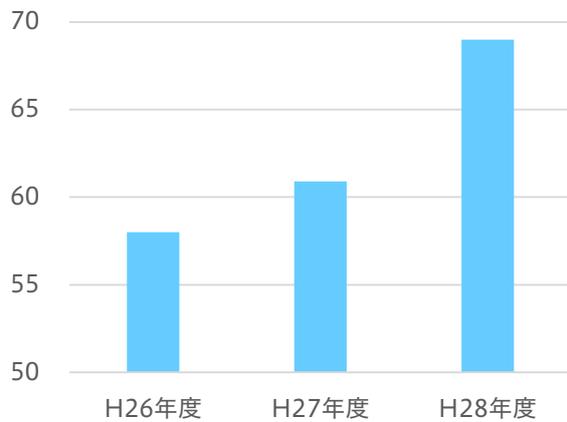
総電力量（単位：千 kWh）

	H27年度	H28年度
総電力量	223	425
対前年比	86.0	90.5% 増



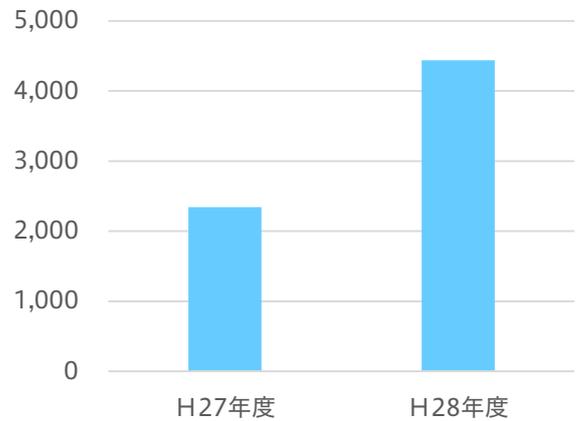
エネルギー使用量（LPG）:CO₂ 排出量（t）

	H26年度	H27年度	H28年度
エネルギー使用量（LPG）	58	61	69
対前年比	12.1% 減	5.1% 増	13.1% 増



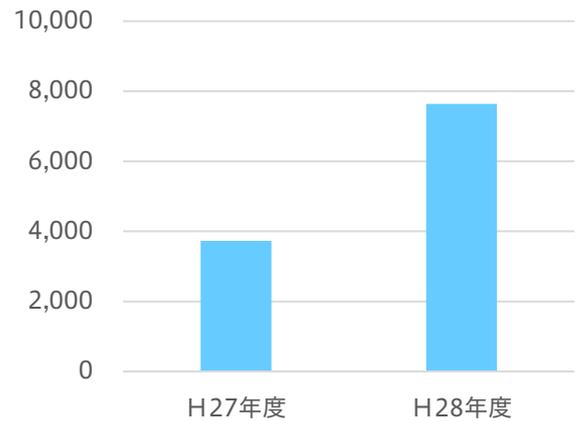
LPG 使用量（単位：m³）

	H27年度	H28年度
LPG 使用量	2,343	4,440
対前年比		89% 増



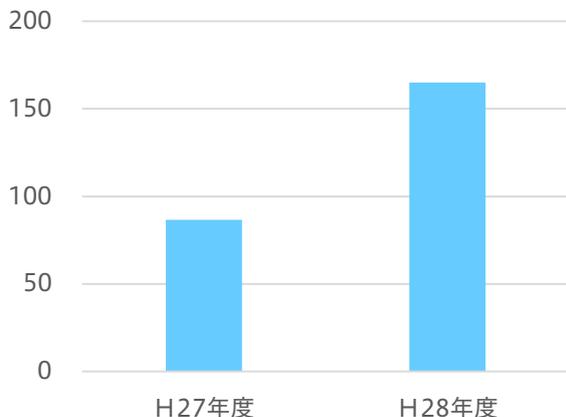
上水道使用量（単位：m³）

	H27年度	H28年度
上水道使用量	3,731	7,637
対前年比		104% 増



電力 CO2 排出量

	H27 年度	H28 年度
t-CO2	87	165
対前年比		90% 増



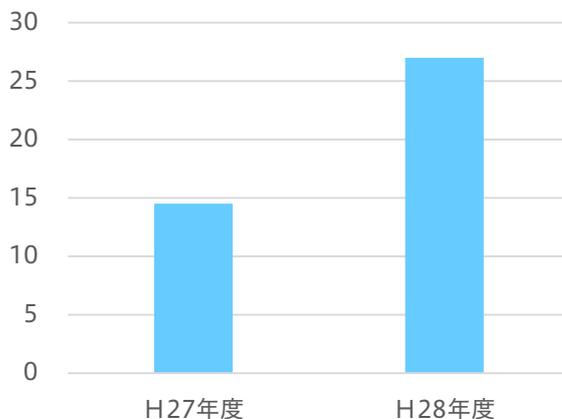
法人全体のエネルギー使用量

エネルギー発熱量 :GJ

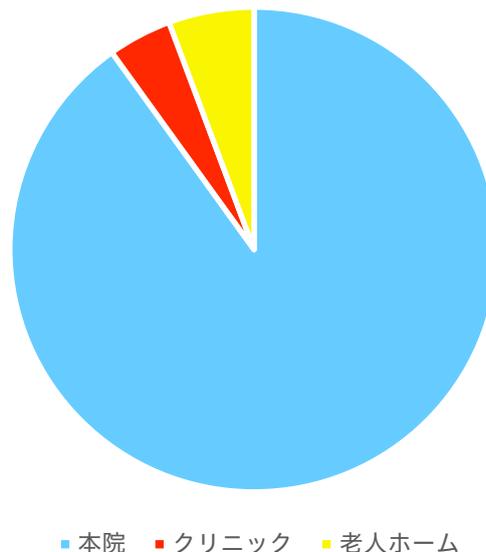
	本院	クリニック	老人ホーム
電力量	61,215	2,362	4,237
LPG 使用量	5,116	1,138	449
A 重油	8,250		
合計	74,581	3,500	4,686

LPG CO2 排出量

	H27 年度	H28 年度
t-CO2	15	27
対前年比		80% 増



法人全体エネルギー使用量
原油換算合 計(2135kℓ)



平成 27 年度 2,069kℓ 対前年比 3.2% 増加

活動実績

セミナー・勉強会などへの参加

名称	開催地	年月日	氏名
低圧電気取扱者講習会	福岡市	2016 年 4 月	宜保 卓
低圧電気取扱者安全衛生特別教育	大阪市	2016 年 6 月	比屋根 斉
ボイラー水管理技術講習会	浦添市	2016 年 9 月	比屋根 斉
役職者研修会	当院	2016 年 10 月・11 月	具志堅徳明
高圧電気設備保安管理講習会	福岡市	2016 年 11 月	具志堅徳明
医療ガス保安管理技術者講習	東京都	2016 年 11 月	宜保 卓
蓄電池設備整備資格者再講習	宜野湾市	2016 年 12 月	具志堅徳明
ボイラー技士講習	宜野湾市	2016 年 12 月	比屋根 斉
自衛消防業務再講習	福岡市	2017 年 1 月	比屋根 斉

自衛消防業務再講習	福岡市	2017年2月	具志堅徳明
自衛消防業務再講習	福岡市	2017年3月	比屋根 宗
自衛消防隊講習会	中城村	2017年3月	宜保 卓

防災訓練

名称	開催地	年月日	氏名
新入職員向け消防訓練	当院	2016年4月1日	比屋根 斉
消防総合訓練	クリニック	2016年9月3日	比屋根 斉
消防総合訓練	当院	2016年9月25日	比屋根 斉
消防総合訓練	ハートライフ地域包括ケアセンター	2016年9月26日	比屋根 斉

電気、水道、消防、建築、医療ガス等、各設備法定点検・検査及び定期自主点検の実施

2016 年	4 月	消防訓練・エレベーター点検・浄化槽設備点検・常用発電機点検
		第一種圧力容器法定検査・ダムウェーター点検
		受変電設備点検・貯水槽・貯湯槽清掃 (ケアセンター)
	5 月	簡易専用水道検査 (本院・クリニック・ケアセンター) エレベーター点検
		浄化槽設備点検・常用発電機点検・温水ボイラーばい煙測定
		消防設備点検 (本院)
	6 月	受変電設備点検 (クリニック) 害虫防除 (ケアセンター)・ダムウェーター点検
		消防設備点検 (ケアセンター)・衛生害虫防除 (厨房・病棟)・エレベーター点検
		浄化槽設備点検・常用発電機点検・電話交換機更新・ダムウェーター点検
	7 月	飲料水水質検査・冷却水レジオネラ菌検査・受変電設備点検 (ケアセンター)
		特殊建築物設備検査・エレベーター点検・ダムウェーター点検
		浄化槽設備点検・常用発電機点検・消防訓練
8 月	受変電設備年次点検 (クリニック)	
	消防設備点検 (クリニック)・院内空調フィルター換気扇清掃・常用発電機点検	
	第一種圧力容器法定検査・エレベーター点検・浄化槽設備点検	
9 月	ダムウェーター法定検査・消防訓練 (本院)・受変電設備点検 (ケアセンター)	
	衛生害虫防除 (厨房)・医療ガス設備保守点検・エレベーター点検	
	浄化槽設備点検・浄化原水槽清掃・常用発電機点検・ダムウェーター点検	
10 月	非常用発電設備年次点検・受変電設備点検 (クリニック)	
	全館空調フィルター、換気扇清掃 (本院)・エレベーター点検・浄化槽設備点検	
	常用発電機点検・ダムウェーター点検・受変電設備点検 (ケアセンター)	
11 月	貯水槽法定清掃 (本院・クリニック)	
	消防設備点検 (本院)・上水道タンク清掃・エレベーター点検・浄化槽設備点検	
	常用発電機点検・ダムウェーター点検・空調機フィルター清掃 (クリニック)	
12 月	害虫防除 (ケアセンター)・受変電設備点検 (クリニック)	
	衛生害虫防除 (厨房・病棟)・エレベーター点検・浄化槽設備点検	
	防火・防災点検・ダムウェーター点検・消防訓練 (ケアセンター)	
2017 年	1 月	受変電設備点検 (ケアセンター)
		防火・防災対象物点検・エレベーター点検・ダムウェーター点検・浄化槽設備点検
		常用発電機点検・受変電設備点検年次点検 (本院)
	2 月	受変電設備点検 (クリニック)
		常用発電機点検・エレベーター点検・ダムウェーター点検・浄化槽設備点検
3 月	消防設備点検 (クリニック)・受変電設備年次点検 (ケアセンター)	
		衛生害虫防除 (厨房)・エレベーター点検・ダムウェーター点検・浄化槽設備点検
		常用発電機点検・受変電設備点検 (クリニック)

診療情報管理室

診療情報管理室課長 柳 学

職員数

総数

9名

職種別

診療情報管理士 8名（うち3名がん登録専従）

一般事務 1名

認定・資格

認定・資格名	人数
診療情報管理士	8

事業計画・評価

項目	概要	達成率	評価
業務（収入）計画	○ DPCの機能評価係数IIアップに向けて。	0%	救急医療管理加算の査定への対応で、算定基準を下げたため、算定回数が大幅減。その影響で平成29年度の救急医療係数が大きく下がった。
	○ 病院指標の作成と公開他	100%	各診療科の部長等へ評価コメントを依頼し、期日までに自院ホームページへアップ、機能評価係数への評価は行われた
	○ 診療データ分析及び院内へのフィードバック		
	○ 「MEDI-ARROWS」「病院ダッシュボード」のさらなる活用の拡充	50%	病院ダッシュボードの活用が出来なかった（その後契約解除）
	○ データ精度向上への取り組み	30%	業務、チェック体制の見直し等に課題有り。各担当のスキルアップも図る。
	○ カルテ廃棄の作業。（保管スペースの確保）	0%	コンテナ倉庫分のカルテを来年度増築部分設置予定の倉庫へカルテを移動予定
	○ 整理・整頓	80%	部署内の整理整頓
要員計画	○ 特になし		
教育研修計画	○ 平成28年度「第24回院内研究発表会」へ演題発表	100%	予選会を2位で、本選では1位を獲得
	○ 沖縄県診療情報管理研究会定例勉強会（毎月）への参加及び発表	0%	現状は沖縄県診療情報管理研究会の活動が停止しているで参加できていない
	○ 沖縄県がん診療連携協議会がん登録部会主催の院内がん登録研修会への参加（年4回？）	100%	H29.03.04に平成28年度第1回がん登録研修会が開催予定で参加予定
	○ DPC夏季セミナーへの参加	100%	診療情報管理室、請求業務課から各1名参加
	○ その他のDPCに関連する研修会等への参加	100%	県内5件、県外1件参加
	○ ITスキルの向上（Excel・Access・FileMaker・QlikView・GIS分析等）	20%	毎月の部署でのExcel等勉強会にてExcelについては実施できたが、その他について実施出来なかった
	○ 請求業務課入院係りの各病棟担当勉強会へ診療情報管理室からも参加	20%	7F病棟は実施出来たが、他の病院は未実施
○ 請求業務課とのExcel等勉強会の継続	100%	引き続き実施しレベルアップを図る	
設備計画	○ QlikViewの院内への普及とシステム導入の検討	0%	参加している委員会等では一部QlikViewを用いた分析資料の説明は行なっているが、お金を掛けてまで導入する必要性が本当にあるか？・・・現状でFreeで充分か？

活動実績

研修・勉強会などへの参加

題名・タイトル	目的	開催地	開催日時	参加者
がん登録実務初級認定者研修	がん登録実務に関わる知識・技術の向上	国立がん研究センター・がん対策情報センター	2016 年 5 月 29 日～5 月 30 日	雨宮絢
院内がん登録実務中級修了者研修	院内がん登録に関する高度で専門的な知識および技術を修得すること	国立がん研究センター	2016 年 6 月 21 日～6 月 22 日	宮平奈美子
院内がん登録実務中級修了者研修	がん登録実務に関わる知識・技術の向上	国立がん研究センター・国際研究交流会館	2016 年 7 月 7 日～7 月 8 日	兼濱亜紀
九州・沖縄合同継続研修会・医療経営セミナー	2016 年度診療報酬改定の情報収集	かりゆしアーバンリゾート・ナハ6F「ニライカナイ」	2016 年 6 月 10 日	柳学
医療経営セミナー・実践!自院のデータでみる疾患別の経営分析(その症例、利益は本当に出てますか?～いかに経営的な視点を臨床側に戻すか～)	自院の E・F・D/ 様式 1 ファイルを用いて実践形式で分析する	(株)アトル沖縄ビル2F 会議室	2016 年 7 月 21 日	柳学、呉屋亮太
DPC 研究班夏期セミナー(北九州会場)	DPC 研究班の講演聴講・DPC 分析実習及び情報交換	北九州・産業医科大学	2016 年 8 月 28 日～8 月 30 日	呉屋亮太
第4回 MDV 沖縄地区勉強会	「EVE・MC を使えば改善できる!」事例発表の拝聴、グループディスカッションへの参加及び情報交換	大浜第一病院2階ふれあいセンター	2016 年 9 月 24 日	柳学、真栄平久美子、大城克枝、呉屋亮太
「看護必要度ショック」完全対策セミナー H ファイル提出直前に抑えるべき要点～データの精度向上から病床戦略までの基本ステップ～	看護必要度の精度向上への情報収集・中頭病院の取り組み事例講演の拝聴・「看護必要度分析」活用事例の拝聴	沖縄県産業支援センター	2016 年 12 月 13 日	柳学
「地域医療構想と構想策定後の取り組みに向けて」講演会	「地域医療構想と構想策定後の取り組みに向けて」講演会聴講	おきでんふれあいホール	2017 年 1 月 15 日	柳学
平成 28 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会(傍聴)	沖縄県の今後のがん対策について最新情報を収集する為	琉球大学医学部附属病院・管理棟3階	2017 年 2 月 17 日	宮平奈美子
「前回診療報酬改定のデータ検証と2018 年同時改定に向けた病院の対応」	三水会定例会・講演会聴講	豊見城中央病院	2017 年 2 月 22 日	柳学
新標準登録様式と多重がんの変更点を確認し、データの精度を高める	「平成 28 年度第 1 回院内がん登録研修会」	琉球大学医学部附属病院・1 階小講義棟	2017 年 3 月 4 日	宮平奈美子、兼濱亜紀、雨宮絢

院内勉強会

演題名	勉強会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
働きやすい環境を作り世界を広げる	第 23 回院内研究発表会	当院	2016 年 11 月 18 日	兼濱亜紀
「病院情報の公表」について～沖縄県内 DPC 対象病院との比較～	DPC 勉強会	当院	2016 年 11 月 29 日	大城克枝、呉屋亮太、田河美智代、真栄平久美子、柳学

請求業務課

請求業務課 課長 宮城 淳

職員数

総数

41名

職種別

一般事務 41名（うち診療情報管理士資格取得者 2名）

認定・資格

認定・資格名	人数
診療情報管理士	2

運営方針

1. 患者さんには（目配り・気配り・誠心誠意）
2. 細分化業務の早期構築（量から質の人材育成）
3. 請求漏れ発生の防止（診療では補助・保険では本業の心）
4. 新入職員及び職員教育・研修の充実と実施

業務計画

- ①病院収入の確保とサポート
 - ・減点査定・レセプト返戻の対策と強化
 - ・診療報酬改定の早期対策と強化
 - ・医療保険制度改革の早期対策と強化
 - ・新規施設基準の届け出と強化
- ②保険請求知識の向上
 - ・請求漏れ防止の対策強化
 - ・職員への指導及び教育。査定・返戻の減少対策及び勉強会
- ③窓口サービスの強化・患者誤認の防止の徹底
 - ・患者さんへの目配り、気配り
 - ・氏名、生年月日の再確認

活動実績

セミナー・勉強会などへの参加

名称	開催地	年月日	参加者
三水会医事定例勉強会	中部徳洲会	2016年4月20日	宮城、伊集、新垣
医業経営セミナー（三水会）	那覇市	2016年6月10日	宮城、桑江、伊集
医療経営セミナー（アトル）	与那原町	2016年7月21日	宮城、桑江、伊集
結核指定医療機関連絡会議（公費事務担当）	沖縄市	2016年8月19日	松原、石川

名称	開催地	年月日	参加者
沖縄県子供医療費 + 低所得者	県医師会	2016 年 8 月 22 日	桑江、上原
三水会医療講演会	県医師会	2016 年 8 月 24 日	宮城、桑江、伊集
三水会医事定例勉強会	中部徳洲会	2016 年 9 月 16 日	桑江、波平、伊集、田中
第 4 回 MDV 沖縄地区勉強会	那覇市	2016 年 9 月 24 日	桑江、伊集
労災診療費算定実務研修会	県医師会	2016 年 10 月 6 日	比嘉(優)、仲宗根
沖縄県子供医療費母子・父子 + 南風原町	県医師会	2016 年 11 月 10 日	上原、佐和田
三水会医事定例勉強会	中頭病院	2016 年 12 月 21 日	桑江、波平、伊集、田中
自動車保険請求に関する説明会	県医師会	2017 年 1 月 24 日	喜屋武
医療経営セミナー(三水会)	豊見城市	2017 年 2 月 22 日	宮城、桑江、伊集
日本病院会病院中堅職員育成研修医事管理コース	東京都	2017 年 3 月 11 日～ 3 月 12 日	松原

実習生受け入れ

実習校	期間	受入れ人数
那覇日経ビジネス 1 年生企業見学	2016 年 5 月 13 日	5 人
薬剤師学生医事研修	2016 年 5 月 16 日	1 人
日経ビジネス専門学校 2 年生企業実習	2016 年 7 月 19 日～ 8 月 13 日	2 人
沖縄女子短期大学企業実習	2016 年 8 月 18 日～ 8 月 31 日	1 人
那覇日経ビジネス「職員の企業実習」	2017 年 3 月 22 日～ 3 月 28 日	1 人

その他

名称	開催地	年月日	参加人数
日経教育グループへ講師派遣	沖縄市	2016 年 5 月 28 日	宮城
那覇日経専門学校授業へ講師派遣	那覇市	2016 年 6 月 14 日	宮城

実績報告資料等

総合入院体制加算

【 算定率式 】

$$\frac{D+E+F+G}{A-(B+C)}$$

取り組み状況

H28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
A 総退院患者数	703	686	736	705	716	713	671	634	727	660	658	803	8,412
B 死亡退院患者数	19	29	27	9	26	27	29	17	21	26	28	28	286
C 化学療法施行患者数	22	25	27	35	34	35	35	27	30	32	30	42	374
D 診療情報提供料1(添付加算)あり患者数	172	161	166	170	161	157	166	141	167	161	155	171	1,948
E 治癒患者数(老人保健施設等含)	91	91	82	96	77	60	74	60	73	59	56	99	918
F 地域連携診療計画加算(退院支援加算)	3	8	8	11	12	11	9	21	12	13	13	18	139
G 退院後外来にて情報提供料1(添付加算)算定患者数	21	29	32	48	37	38	33	39	23	32	29	41	402
総合入院体制加算40%以上	43.4%	45.7%	42.2%	49.2%	43.8%	40.9%	46.5%	44.2%	40.7%	44.0%	42.2%	44.9%	43.9%
《参照》 H27年度	40.3%	44.3%	42.4%	46.3%	41.1%	43.3%	39.0%	41.8%	41.4%	45.3%	44.3%	46.9%	43.0%

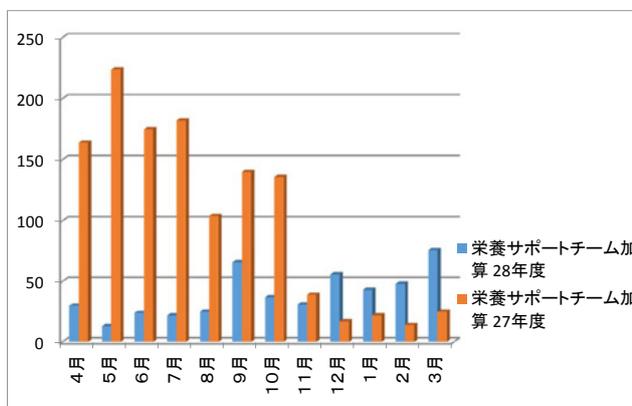
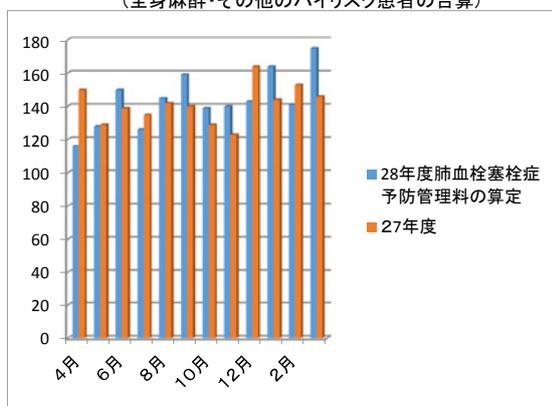
28年度 DPC入院における 予定入院・緊急入院・緊急入院(救急医療除く)

月	予定入院患者数		緊急入院患者数		緊急入院(救急医療入院を除く)患者数	
	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度
4月	153	190	148	308	288	106
5月	180	158	129	318	311	106
6月	193	173	154	286	297	144
7月	170	168	120	254	314	174
8月	191	156	112	141	309	277
9月	209	181	96	140	288	280
10月	154	154	115	125	316	286
11月	170	163	108	101	260	269
12月	173	179	141	107	279	262
1月	200	176	134	117	266	268
2月	158	184	176	114	200	274
3月	209	170	237	134	232	311
合計	2,160	2,052	1,670	2,145	3,360	2,757

月	28年度肺血栓塞栓症予防管理料の算定	27年度
4月	116	150
5月	128	129
6月	150	139
7月	126	135
8月	145	142
9月	159	140
10月	139	129
11月	140	123
12月	143	164
1月	164	144
2月	141	153
3月	175	146
合計	1726	1694

月	28年度	27年度
4月	30	164
5月	13	224
6月	24	175
7月	22	182
8月	25	104
9月	66	140
10月	37	136
11月	31	39
12月	56	17
1月	43	22
2月	48	14
3月	76	25
合計	471	1242

(全身麻酔・その他のハイリスク患者の合算)



平成 27 年 11 月より栄養サポートチームにおける管理栄養士の人員不足によるラウンド回数が低下しました。平成 28 年 12 月からは業務改善によりラウンド回数が増加、更に人員増加により運用改善中です。

地域医療連携室

地域医療連携室 主任 砂川 直樹

職員数

総数

16 名

職種別

一般事務 8 名

入退院調整看護師 2 名

医療ソーシャルワーカー 6 名

認定・資格

認定・資格名	人数
社会福祉士	5

認定・資格名	人数
医療福祉連携士	1

理念

ハートライフ病院地域医療連携室は、「患者さん」を中心として「地域社会・連携先各機関」と「ハートライフ病院」がスムーズに連携出来るように機能することを目的として存在する。

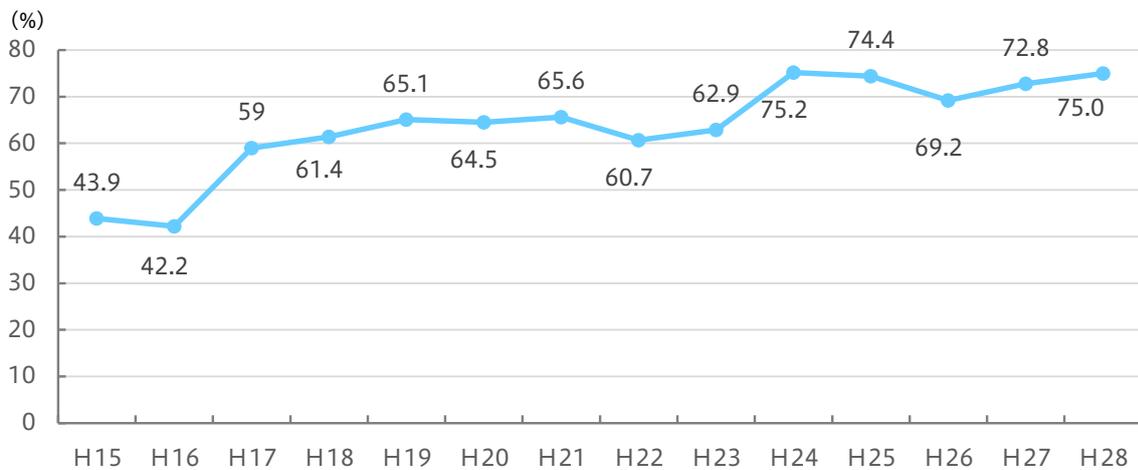
運営方針

- ①患者さんとそのご家族、連携先各機関の信頼に応える支援を目指す。
- ②院内各部署、院外関連機関とのより良い連携体制の構築に努める。
- ③常に、部署のチーム力と接遇スキルの向上を目指し続ける。

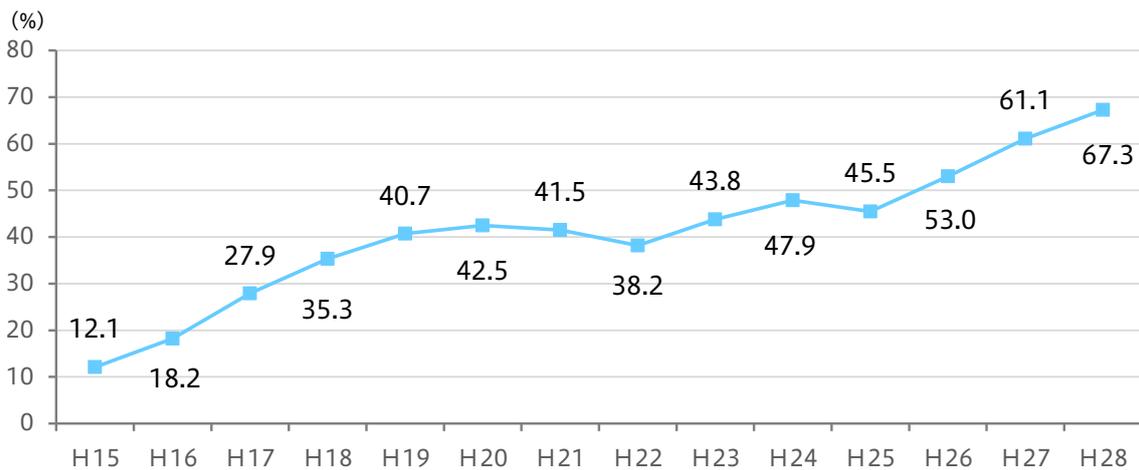
業務実績

【前方連携（事務）担当の実績報告】

地域医療支援病院紹介率の実績（月平均紹介率 基準値 65% 目標値 71%）



地域医療支援病院逆紹介率の実績（月平均逆紹介率 基準値 40% 目標値 55%）

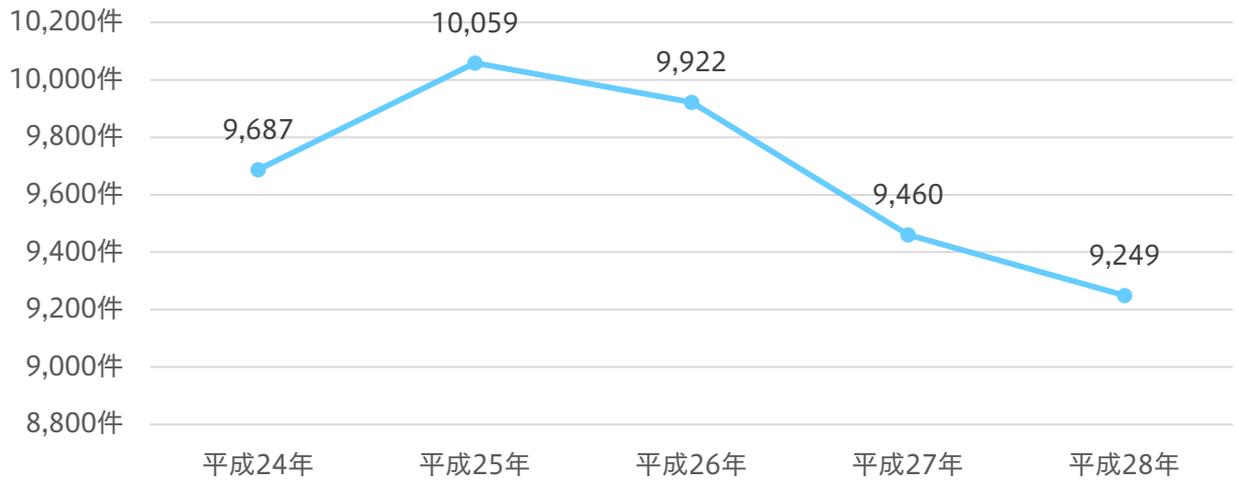


【後方連携（医療ソーシャルワーカー）担当の実績報告】

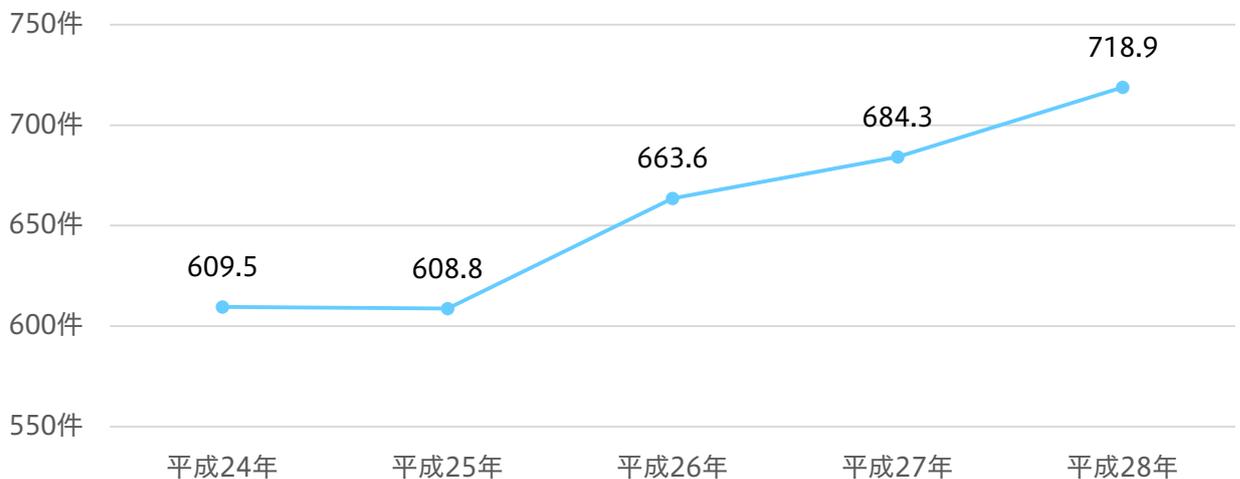
全体の相談件数の推移

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
延べ件数	10,057	9,687	10,059	9,922	9,460	9,249
月平均の延べ件数	838	807	838	826	788	771
月平均の新規入院	578.8	609.5	608.8	663.6	684.3	718.9
病床利用人数	279.7	279.3	276.8	277	275.7	274.7
在院日数	14.6	13.9	13.7	12.6	12.2	11.6

延べ件数

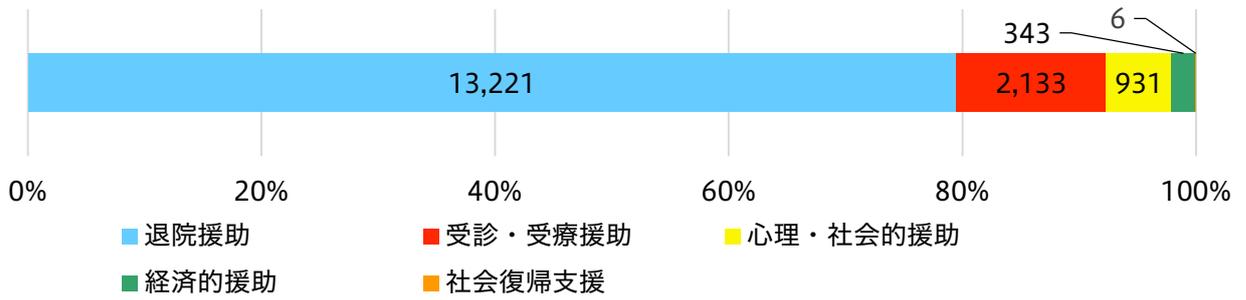


月平均の新規入院

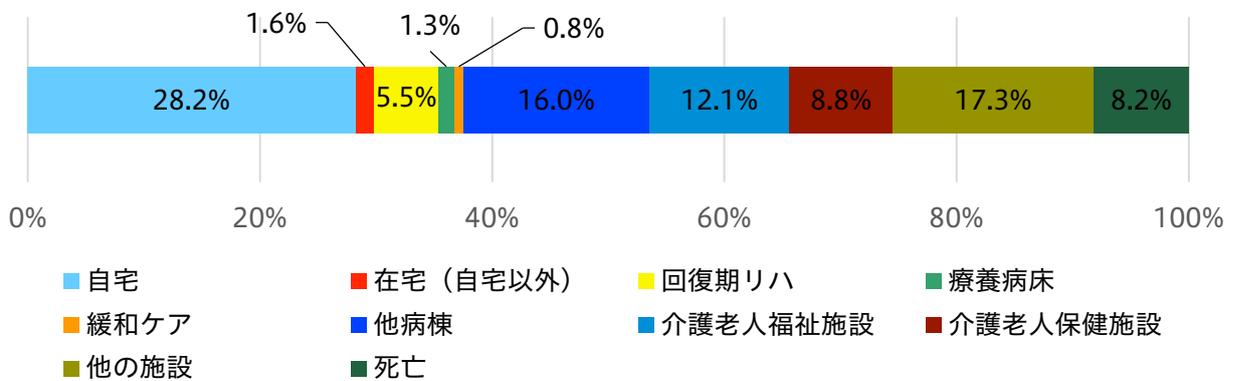


【相談援助ケース（入院）の概要】

相談援助内容



MSW 援助後の退院先種別



【卒後臨床研修事務局の実績報告】

卒後臨床研修事務局主催のセミナーや懇談会など

内容	開催地	日程
新研修医オリエンテーション	当院	2016 年 4 月 6 日～8 日
公立豊岡病院但馬救命救急センター長 小林誠人先生による講演会	当院	2016 年 7 月 7 日
八戸市立市民病院救命救急センター所長 今明秀先生による講演会	当院	2016 年 11 月 4 日
平成 28 年度第 1 回卒後臨床研修管理委員会開催	当院	2016 年 6 月 2 日
公立久米島病院見学、久米島マラソンへの参加	久米島町	2016 年 10 月 22 日～23 日
平成 28 年度第 2 回卒後臨床研修管理委員会開催（書面会議）	当院	2016 年 10 月 12 日
平成 28 年度第 3 回卒後臨床研修管理委員会開催	当院	2017 年 3 月 2 日
平成 28 年度初期臨床研修修了式・修了パーティー開催	西原町	2017 年 3 月 23 日

セミナー・勉強会などへの参加

内容	開催地	日程
群星沖縄新研修医オリエンテーション	宜野湾市	2016 年 4 月 4 日～5 日
沖縄県医師会新研修医歓迎レセプションへの参加	南風原町	2016 年 4 月 8 日
群星沖縄会議	浦添市	2016 年 4 月 11 日～2017 年 3 月 13 日
平成 28 年度臨床研修医確保対策合同説明会参加モデル事業第 1 回作業部会への参加	南風原町	2016 年 6 月 29 日
研修医募集定員に係る調整会議への参加	西原町	2016 年 6 月 16 日
第 10 回沖縄県女性医師フォーラム	南風原町	2016 年 9 月 23 日
琉球大学医学部クリニカルクラークシップに関する会議	西原町	2016 年 11 月 24 日
県内の専門（後期）研修説明会	南風原町	2016 年 12 月 11 日
群星沖縄ポートフォリオ大会・忘年会への参加	那覇市	2016 年 12 月 12 日
初期臨床研修運営協議会	当院	毎月第 2・第 4 火曜日
基本的臨床能力評価試験	当院	2017 年 1 月 30 日、2 月 4 日
群星沖縄修了式への参加	宜野湾市	2017 年 3 月 15 日

医学生・院外研修医の受け入れ

内容	日程
琉球大学医学部クリニカルクラークシップ学生（5～6 年次）受け入れ（延べ 62 名）	2016 年 1 月 18 日～9 月 30 日
琉球大学医学 5～6 年次学生 1 日泌尿器実習受け入れ（延べ 5 名）	2016 年 1 月 25 日～5 月 16 日
医学生病院見学受け入れ（延べ 25 名：県外 11 名、県内 14 名）	2016 年 4 月 23 日～2016 年 3 月 25 日
琉球大学医学部附属病院 1 年目研修医受け入れ（延べ 6 名：救急 5 名、消化器内科 1 名、呼吸器内科 1 名、循環器内科 1 名）	2016 年 7 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
中部徳洲会病院 2 年目研修医受け入れ（延べ 4 名：産婦人科 3 名、形成外科 1 名）	2016 年 6 月 1 日～2017 年 2 月 28 日
中頭病院 2 年目研修医受け入れ（延べ 1 名：形成外科）	2016 年 7 月 1 日～2016 年 7 月 31 日
沖縄協同病院 1 年目研修医（延べ 1 名：放射線科）、2 年目研修医受け入れ（延べ 1 名：整形外科）	2016 年 7 月 1 日～2017 年 1 月 31 日
浦添総合病院 1 年目研修医（延べ 1 名：小児科）、2 年目研修医受け入れ（延べ 2 名：産婦人科、放射線科）	2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

リクルート活動

内容	開催地	日程
琉球大学医学部にて初期臨床研修病院説明会への参加	西原町	2016 年 6 月 4 日
レジナビフェア大阪（研修病院説明会）への参加	大阪府	2016 年 7 月 3 日
レジナビフェア東京（研修病院説明会）への参加	東京都	2016 年 7 月 17 日
レジナビフェア福岡（研修病院説明会）への参加	福岡県	2017 年 3 月 5 日
レジナビフェア東京（研修病院説明会）への参加	東京都	2017 年 3 月 19 日

研修参加実績

内容	開催地	日程
院内JPTEC・JATEC (1年目研修医 5名参加)	当院	2016年4月2日
院内BLS・ICLS (1年目研修医 5名参加)	当院	2016年4月16日
ACLS-EPコース (2年目研修医 2名参加)	浦添市	2016年6月19日
新臨床研修医 RyuMIC 講習会 AHA BLS Providerコース(G2010) (1年目研修医 5名参加)	西原町 浦添市	2016年4月23日 (5名) 2017年11月23日 (1名)
新臨床研修医 RyuMIC 講習会 AHA ACLS Providerコース (G2010) (1年目研修医 6名)	西原町 浦添市	2016年5月21日～22日 (5名) 2017年1月21日～22日 (1名)
JPTEC in Okinawa (1年目研修医 1名、2年目研修医 1名参加)	中城村	2016年6月5日、2017年3月5日
ITLS Accessコース (2年目研修医 1名参加)	中城村	2016年11月26日
エコー勉強会	当院	2016年7月9日、2017年3月11日

その他

内容	開催地	日程
九州厚生局適時調査	当院	2016年6月8日
琉球大学主催 RyuMIC 臨床研修指導者養成講習会 (医師4名参加)	西原町	2016年11月19日～20日
山口大学主催卒後臨床研修指導医養成講習会 (医師2名参加)	山口県	2016年11月25日～26日

活動実績

各種勉強会

開催年月日	担当科	開催場所	院外参加者	院内参加者	合計
2016年4月15日(水)19:00～21:30	学術講演会 (消化器)	講堂	6	10	16
2016年4月20日(水)18:00～20:00	救急科	講堂	64	32	96
2016年5月26日(木)19:00～20:30	消化器	講堂	6	28	34
2016年7月22日(金)18:00～20:00	救急科	講堂	72	35	107
2016年7月28日(木)19:00～20:30	消化器	講堂	4	24	28
2016年8月22日(月)19:00～21:00	中部地区医師会 (消化器)	講堂	7	12	19
2016年8月30日(火)18:00～19:00	小児科	講堂	26	30	56
2016年10月6日(木)19:00～20:30	消化器	講堂	4	15	19
2016年10月21日(金)18:00～20:00	救急科	講堂	54	37	91
2016年11月17日(木)19:00～20:30	消化器	講堂	4	14	18
2017年1月25日(金)18:00～20:00	救急科	講堂	52	34	86
2017年2月2日(木)19:00～20:30	消化器	講堂	7	16	23

地域医療連携室主催の研究会や懇談会など

名称	開催地	開催年月日	参加者
救急フェア	当院	2016年7月30日	前方連携、當銘、新屋、高澤
地域医療支援病院運営委員会	当院	2016年8月24日	前方連携
第12回地域医療連携懇談会	西原町	2017年9月29日	地域医療連携室

講演会・懇談会などへの参加実績

名称	開催地	開催年月日	参加者
沖縄協同病院地域連携懇談会参加	那覇市	2016 年 9 月 8 日	新垣、仲本
中頭病院落成式参加	沖縄市	2016 年 9 月 8 日	新垣、仲本、新屋
那覇市立病院地域連携懇談会参加	那覇市	2016 年 9 月 15 日	砂川、喜納
南部地区地域連携懇談会参加	八重瀬町	2016 年 9 月 16 日	新垣、砂川
大浜第一病院地域連携懇談会	那覇	2016 年 10 月 5 日	望月
浦添総合病院懇談会	那覇市	2017 年 1 月 11 日	竹本、砂川
沖縄県立中部病院連携懇談会	北谷町	2017 年 1 月 19 日	竹本、新垣、西田
中頭病院連携懇談会	沖縄市	2017 年 1 月 26 日	望月、嶋崎、喜納
県立南部医療センター連携懇談会	那覇市	2017 年 2 月 2 日	望月、砂川、粟盛
沖縄赤十字病院連携懇談会	那覇市	2017 年 2 月 15 日	新垣、砂川、西田
豊見城中央病院連携懇談会	那覇市	2017 年 3 月 2 日	粟盛、望月、砂川、喜納
南部徳洲会病院連携懇談会	那覇市	2017 年 3 月 8 日	高澤、喜納

勉強会・研修会などへの参加

	名称	開催地	開催年月日
院内	ハート教室	当院	2016 年 5 月 13 日
	メディエーター講習会 基礎編 運営	当院	2016 年 5 月 28 日
	化学療法勉強会	当院	2016 年 6 月 22 日
	中学生職場体験	当院	2016 年 6 月 29 日
	地域相談支援フォーラム In 沖縄実行委員	当院	2016 年 8 月 2 日
	メディカルサポートセンターについて	当院	2016 年 9 月 23 日
	緩和ケア委員会勉強会 (発表)	当院	2016 年 10 月 24 日
	D-MAT 報告会	当院	2016 年 10 月 25 日
	ぐしかわ看護専門学校 統合実習指導	当院	2016 年 11 月 1 日
	救急講演会	当院	2016 年 11 月 4 日
	個人情報保護法伝達講習会	当院	2016 年 11 月 28 日
	DPC 勉強会	当院	2016 年 11 月 29 日
	沖縄看護専門学校 統合実習指導	当院	2016 年 12 月 1 日
	地域連携講演会 (臓腑領域の内視鏡診断と治療の現状と進捗)	当院	2016 年 12 月 8 日
	院内緩和ケア研修会	当院	2017 年 1 月 7 日
	運動器のすゝめ	当院	2017 年 1 月 13 日
	整形外科医研修会 (事務局)	当院	2017 年 1 月 14 日
	地域連携 web 講演会	当院	2017 年 1 月 24 日
	ハート教室	当院	2017 年 2 月 17 日
	医療安全講演会「医療事故調査制度」	当院	2017 年 2 月 21 日
	DPC 講演会：松坂市民病院 瀬古口先生	当院	2017 年 2 月 24 日
	職員ニーズ対応は病院づくりの基盤 (倉敷中央病院)	当院	2017 年 3 月 3 日
	第 7 回沖縄県緩和ケア研修会 2015	当院	8/29 ~ 8/30
	沖縄国際大学社会福祉士実習 (1 名)	当院	夏季 23 日間
	おきなわ多発性骨髄腫患者の会	当院	通年
	沖縄看護専門学校看護学生実習指導	当院	

	名称	開催地	開催年月日
院外	入退院支援連携デザインに関わる専門職リーダー養成研修	那覇市	2016年4月16日
	診療情報提供書、電子的送受に関する評価について(県医師会)	那覇市	2016年4月28日
	精神科救急医療責任者等連絡会議	与那原町	2016年6月8日
	在宅医療・介護を考える県民との懇談会	那覇市	2016年7月23日
	東部消防と12誘導心電図伝送システムの実績報告会	西原町	2016年9月23日
	在宅医療推進のための多職種研修会	那覇市	2016年11月3日
	医療福祉連携士フォーラム	南城市	2016年11月12日
	医療福祉連携フォーラム in 沖縄	南城市	2016年11月12日
	南城市介護保険関係者研修会・交流会	南城市	2016年11月22日
	関西学院大学学生 災害SWの機能について	那覇市	2016年11月30日
	沖縄病院緩和ケア交流会	南城市	2017年1月20日
	南城市ケアマネ連絡会研修会	南城市	2017年1月20日
	九州沖縄ブロック地域相談支援フォーラム in 沖縄	那覇市	2017年2月11日
	地域連携協議会(琉大病院)	西原町	2017年3月8日
	日本医療マネジメント学会 参加	福岡県	2016年4月22日・23日
	病院医療ソーシャルワーカー研修会	東京都	2日間
	社会福祉士実習指導者研修会	那覇市	2日間
	入退院支援連携デザイン事業専門職リーダーフォローアップ研修	那覇市	2日間
	南城市医療連携デザイン検討会	南城市	3回
	めだかの学校	当クリニック	通年
	めだかの放課後	那覇市	通年
	おきなわがんサポートハンドブックワーキング	西原町	通年
	西原町高齢者虐待防止対策協議会	西原町	通年
	西原町高齢者虐待防止対策協議会・実務者会議	西原町	通年
	おきなわ脳卒中地域連携委員会総会	南風原町	通年
	九州MSW協議会教育研修部会	福岡県	

学会発表

名称	学会名	開催地	開催年月日	参加者
患者さんやその家族のための「れんけい」	院内研究発表会	当院	2016年10月13日	発表者：喜納(前方連携)

血液内移植サポート業務

名称	開催地	開催年月日	対応者
血縁ドナー対応	当院	2016年4月～3月	西田
臍帯血運搬費用関連	当院	2016年4月～3月	西田
骨髄バンク運搬費用関連	当院	2016年4月～3月	西田・新垣
骨髄移植の覚書・運搬調整関連	当院	2016年4月～3月	新垣
骨髄採取の覚書関連	当院	2016年4月～3月	新垣

出前健康講話

演題	依頼元	日付	講演担当医師
熱中症 ～その予防と対策～	コーポハウジング(フェストーン)	2016年7月15日	褥瘡対策創傷ケア管理室 嘉数 智子
「ロコモティブシンドロームって何?」 ～要支援・要介護にならな為の予防運動～	中城村久場公民館	2016年7月20日	理学療法士 長嶺 敦司
熱中症とその予防	中城村津波構造改善センター	2016年7月25日	血液浄化部医長 菅谷 明子
爪について	西原町内間自治会	2016年8月26日	形成外科部長 東盛 貴光
お酒に関連した肝臓の病気	沖縄県労働基準協会中部支部(沖縄市産業交流センター)	2016年9月9日	消化器内科 佐久川 廣

演 題	依 頼 元	日付	講演担当医師
CTとMRI検査について	西原町森川自治会	2016年9月14日	放射線技師 石原 悟
健康食品との付き合い方	西原町森川自治会	2017年1月11日	管理栄養士 棚原 佳世
いつまでも自分の足で歩こう	西原町内間自治会	2017年1月27日	リハビリテーション科療法士長 玉城 義彦
「ロコモティブシンドロームって何？」 ～要支援・要介護にならないための予防運動～	西原町森川自治会	2017年2月28日	理学療法士 長嶺 敦司

実習生受け入れ

名称	開催地	開催年月日	対応者
西原中学校 1 名、西原東中学校 2 名、実習対応	当院	2016年6月29日	喜納
日経ビジネス専門学校学生 2 名、実習生対応	当院	2016年7月27日	喜納
実習生対応 (沖縄国際大学 1 名)	当院	2016年8月23日	喜納
実習生対応 (沖縄女子短期大学 2 名・名桜大学 1 名)	当院	2016年8月31日	喜納
実習生対応 (中城中学校 2 年生 3 名)	当院	2016年9月15日	喜納
看護学生実習対応	当院	2016年10月31日	砂川・望月
看護学生実習対応	当院	2016年11月25日	砂川・望月

市民公開講座

名称	開催地	開催年月日	対応者
第 1 回市民公開講座「早期発見・早期治療なら乳がんなんて怖くない」 演者：乳がん看護認定看護師 砂川 克子	当院	2016年11月26日	喜納
第 2 回市民公開講座「大腸がんで死なないために～予防と早期発見が大切～」 演者：外科部長 宮平 工	当院	2016年12月17日	喜納
第 3 回市民公開講座「MRI 検査で何が分かるの？」 演者：検査科副技師長 斎藤 辰好	当院	2016年1月28日	喜納
第 4 回市民公開講座「心不全になったらどうすればいいの？」 演者：慢性心不全認定看護師 島袋 すがこ	当院	2016年2月25日	喜納
第 5 回市民公開講座「痛くないお産」 演者：産婦人科医医師 上原 博香	当院	2016年3月25日	喜納

実績報告資料等

平成28年度の目標

- I. 社会医療法人としての役割強化
夜間・休日の救急車受け入れ件数1,700件/年↑
僻地医療の検討と取り組み
- II. 地域医療支援病院（紹介率65%↑・
逆紹介率40%↑）としての役割強化
目標 紹介率74%・逆紹介率60%
- III. 新規入院患者数増 目標690人/月
- IV. 病床利用率93.7%の達成
（93.7%=平均利用率281床）
- V. 平均在院日数の短縮 目標12.4日以内

達成度（実績）

- ① 救急隊への毎月の訪問、救急症例検討会の内容の充実、ドクターカー型救急車を購入。近隣登録医への救急車出動を行い、救急隊の負担軽減に繋がっている。夜間救急受け入れの目標は達成した。
- ② 紹介率 75.0%・逆紹介率 67.3% ⇒ 『達成』
- ③ 各種勉強会、地域医療連携懇談会の開催。
- ④ 新規入院患者数は718.9/月、平均在院日数11.6日と目標『達成』。病床利用率は274.8床と目標未達成。

平成29年度の目標

- I. 社会医療法人としての役割強化
夜間・休日の救急車受け入れ件数1,700件/年↑
僻地医療の検討と取り組み
- II. 地域医療支援病院（紹介率65%↑・
逆紹介率40%↑）としての役割強化
目標 紹介率80%・逆紹介率70%
- III. 新規入院患者数増 目標763人/月
- IV. 病床利用率92.5%の達成
（92.5%=平均利用率285床）
- V. 平均在院日数の短縮 目標12.0日以内

ハートライフ病院 企画室・法人事務局 経営企画室

課長 安里 竜

当課は、現在・過去・未来の3つのステージで法人運営の課題を発見し、それに取り組み、必要な準備を進める部署です。各種診療支援・経営支援の分析、事業計画の取りまとめ、医療制度に関する情報収集、新規事業の企画等を主な業務としています。平成 24 年度の組織改編に伴い、企画室の配下に、IT・システム業務を行うための電算係と、内外への広報・広告を行うための広報係が包括化され、業務の幅がとて広い特徴があります。

総数

8 名

職種別

企画室	事務職 2 名	安里 竜、稲福 怜美奈
電算係	事務職 4 名	宮城 克己、高橋 慎二、前原 純樹、安里 健二
広報係	事務職 2 名	知念 政治、仲田 尚正

運営方針（平成 27 年 4 月 1 日更新）

1. 新規事業への早期取組
 - a. 新規事業の経営企画面での関与（介護事業、本院増改築事業）
 - b. 診療体制の活性化
 - c. 研究体制の活性化（臨床倫理・治験体制の強化）
2. 診療支援・経営支援のための情報収集と分析
 - a. 診療実績と収支構造の把握と分析
 - ① DPC データの積極活用
 - ②原価計算・管理会計の導入
 - ③ベンチマーク
 - b. 診療マーケティング分析体制の構築
事業拡大に向けた広報・地域医療連携への活用
 - c. 医療制度改革の方向性の把握と分析
 - ①診療報酬改定
 - ②介護報酬改定
 - ③病床機能分化（病床機能報告制度・地域医療構想・地域包括ケア）
 - d. 上記取組の現場と経営層への積極的なフィードバック
3. 業務体制の強化
 - a. 経営感覚と現場感覚の両立
 - b. 配下部署の教育体制の強化

活動報告

※企画室・経営企画室の主担当分のうち、一部実績を抜粋 ※配下部署はその項を参照、★は今年度新規

区分	内容
プロジェクト	★平成 28 年度診療報酬改定の対応(勉強会の開催、情報提供等) ★新しい DPC 分析システム基盤の構築(MDV Medical Code、EVE) ★算定率向上プロジェクト(医学管理料、入院基本料等加算等) ★周術期口腔機能管理を目的とした歯科口腔ケアの立ち上げ 地域災害拠点病院 本院増改築プロジェクト(IT・広報部分の統括) 薬局業務サポート(治験・倫理委員会事務局補佐) その他多数...
事務局活動	★手術室改善ワーキンググループ事務局 ★算定率向上ワーキンググループ事務局(医学管理料、入院基本料等加算) ★診療材料コスト最適化ワーキンググループ(管財課用度係の補佐) 地域災害拠点病院申請準備事務局(申請事務) 臍帯血移植施設事務局(契約事務) 財団法人骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄移植・採取認定施設更新事務局 おきなわ津梁ネットワーク導入推進事務局 治験・倫理委員会事務局(薬局の補佐)
その他業務	配下部署(電算係、広報係、臨床研究推進事務局)の業務管理 電子カルテユーザー会システム管理者部会役員(安里) 電子カルテユーザー会沖縄地方部会世話人(安里) MDV 沖縄地区勉強会世話人(安里) MDV ユーザー会幹事病院(平成 29 年度より、奥島、安里)

学会・講習会・報告会等実績

名称	開催地	開催日	参加者
MDV MC 活用研究会(福岡グループ)	福岡	2016 年 4 月 21 日	MDV ユーザー
電子カルテユーザー会システム管理者部会	本院	2016 年 5 月 27 日	SS システム部会役員
電子カルテ沖縄ユーザー会(世話人)	浦添市	2016 年 6 月 24 日	SS システムユーザー
MDV MC 活用研究会(福岡グループ)	福岡	2016 年 7 月 22 日	MDV ユーザー
電子カルテユーザー会 (システム管理者部会役員・部会座長)	大阪	2016 年 8 月 26 日	SS システム部会役員 SS システムユーザー
製鉄記念八幡病院(運用見学)	先方病院	2016 年 9 月 14 日	当院職員
MDV 沖縄地区勉強会	大浜第一病院	2016 年 9 月 24 日	MDV ユーザー
MDV MC 活用研究会(福岡グループ)	福岡	2016 年 10 月 14 日	MDV ユーザー
電子カルテ沖縄ユーザー会(世話人)	浦添市	2016 年 11 月 25 日	SS システムユーザー
電子カルテユーザー会システム管理者部会	大阪	2017 年 1 月 27 日	SS システム部会役員
DPC 講演会 松阪市民病院 世古口先生(院内講演会)	本院	2017 年 2 月 24 日	全職員

次年度の行動指針

1. 業務支援・経営支援のための情報収集・分析・提案

単に情報をおつめるだけでなく、分析し、戦略構築と企画提案につなげる

2. 経営層と運営層への積極的なフィードバック

情報を視える化し、適時のフィードバックを通して、時機を見逃さない

3. 法人理念と事業計画を基軸にする

いかなる場合でも過去・現在・未来を俯瞰し、法人理念と事業計画に沿って今やるべきことを判断し、ニーズの掘り起こしとそれに答える企画提案を実現することで、顧客に貢献する

4. コスト意識を持つ

1 円を積み上げる努力(現場の汗)、1 円を使う責任(重み)を忘れない

5. 現場へ足を運び、現場力を身につけること

経営活動の力点・支点・作用点はいずれもすべて現場に存在するので、現場へと積極的に足を運び、

現場のニーズや課題を引き出すコミュニケーションを怠らない

6. 企画室の顧客は「地域社会」と「法人（各施設、部署、職員、患者と利用者）」

患者さんや利用者、その家族、地域住民、連携機関、行政はもちろんのこと、法人内の各施設、部署、職員もすべて「顧客」として接する

年度総括

平成 28 年度は、診療支援・経営支援への取組を強化しました。電子カルテや DPC、レセプト、診療材料など、診療支援・経営支援につながるデータを二次活用し、診療報酬の未算定項目への取組とコスト削減のための多職種による対策チームをテーマごとに立ち上げ、単に収支につながる数字を求めるだけでなく、現場の業務の質の改善につながるコミュニケーション基盤づくりに精力的に取り組みました。そのうち、院長が長年推進している「周術期口腔機能管理を目的とした歯科口腔ケア科の開設」は、取組が形となった成果の一つです（平成 29 年 4 月開始予定）。一定の成果は実りつつあると感じていますが、他職種に熱意を伝播させながら、今後も取組を継続することが重要だと感じます。また、1 年前から申請を続けていた地域災害拠点病院も、中部徳洲会病院と中頭病院とともに、当院も指定を受けることができました。

しかしながら一方で、その他の事業への取組が弱くなってしまったことは否めません。それは主に次に示す 3 点で、次年度はこの 3 点への取組を最優先します。

まず 1 点目、多額のコストを要する増改築事業に向けて、低投資最大効果を得るための支出構造の最適化に向け、優先度を高めることとしていた原価計算・管理会計体制にほとんど着手できなかったことは、経営の数字を管理する部署の一つとして大いなる反省点です。平成 29 年夏には、新しい増築棟がオープンしますので、それまでには収支の最適化をより客観的に評価できる管理会計体制を構築せねばなりません。今年はこの点にまず重点をおいて取り組みます。

2 点目は、病床利用を維持するための 3 指標（新規入院患者数、病床利用数、平均在院日数）の変化に対して、積極的な分析と具体的な対策立案が出来なかった点です。DPC 入院期間日数や医療技術の高度化により、急性期病院の平均在院日数は、更に短縮傾向が加速するでしょう。当院は DPC データを用いたベンチマーク分析によると、沖縄県内の急性期病院の中でも「治癒（入院する原因となった病態を治して退院させる）」割合が高いことが特徴にあります。短期に治癒する医療サービスの高度化の推進は、社会貢献の一助であり、これを妨げることは当会の理念に反します。しかしながら、高度な医療サービスの質を維持するには、高額な医療機器の購入・維持費や、医師・看護師・医療技術系技師・事務職などの人件費など、大変おおきなコストがかかります。ですから、病床利用を維持するために、地域の医療機関・介護施設・居宅施設と連携を強化するための具体的な方策を立てなければ、医療の質を維持することが難しいのです。治療技術の革新的なイノベーションが起きない限り、受療率（病気にかかる割合）にそう大きな変化は生じません。予防医学や治療技術の革新的なイノベーションが起これば、健康長寿社会になることは当会の念ずるところに同じではありますが、残念ながら、県内で生じる病気の患者さんは一定の割合で必ずいらっしゃるのです。そのような現実があるなか、患者さんに当院を選んでいただけるよう、地域医療支援病院・社会医療法人としての当会の役割である医療・介護・居宅施設などとの連携強化を軸にして、具体的な対策の立案と実行が急務なのです。次年度はこの点にも重点をおいて取り組みます。

3 点目は、介護事業への積極的な介入が出来なかったことです。当会は急性期医療のハートライフ病院、糖尿病・生活習慣病専門医療のハートライフクリニック、地域包括ケアに於ける介護領域をカバーするハー

トライフ地域包括ケアセンター（住宅型有料老人ホーム、通所介護、訪問介護、訪問看護、ケアプランセンター）の3事業と各種収益事業から成り立っています。主軸となる住宅型有料老人ホームは、当会内の病院・クリニックとの医療連携を軸にして立ち上がりましたので、他施設と比較して介護度はもちろん、医療ニーズの高い入居者さんの割合が多くいらっしゃいます。高い介護・医療ニーズに対して当会で最適なサービスが提供できるよう、業務サービスの質を担保するためのエビデンスに基づきながら企画提案することに、次年度は積極的に取り組みます。

中長期的な経営基盤の安定化に向けて、各種データを活用・分析した結果（エビデンス）を示しながら、現場と経営層へと説得力ある企画提案活動を行います。また、国の示す地域包括ケア（地域医療構想、病床機能分化）に際して、法人各施設の高度の維持と拡大、特に、4疾病5事業に於けるハートライフ病院の立ち位置の高度化は、法人経営上重要な課題だと感じています。そこに向けて、地域のニーズ、現場のニーズの両方を汲み取りながら、方向性について提案する準備も怠りません。

企画室配下部署における担当業務の拡大に伴い、業務量に人員体制が追いつかなくなってきました。企画室とその所属部署の5年後、10年後を見据えた人員体制の強化と教育研修体制の強化にも継続して取り組みます。これらの取組を推進するためには、当課に所属するスタッフひとりひとりが自ら意志を抱き、未来の当会を支えるための中心的な役割を担う人財に育つよう、従来の運営方針に加え、より具体的な行動方針を新たに定めます。

最後に、病院の経営企画担当になってもうすぐ満5年あまりが経過しますが、その短い時間でも強く感じるがあります。それは、病院事業においても、やはり経営活動の力点・支点・作用点は、いずれも「現場」にあるということです。反論もあろうかと思いますが、少なくとも当職はそう強く感じます。これは、いかに当院の現場職員ひとりひとりが、自ら考え、積極的に行動している努力の顕れだと思えます。だからこそ、各事業を推進する上で、経営の目標と現場の目標にずれが生じないよう留意するために、経営企画の行動指針に「現場に足を運び、現場力を磨くこと」を加えることは必然なのかもしれません。

電算係

係長 宮城 克己

認定・資格

認定・資格名
第二種情報処理技術者
システムアドミニストレータ
第一級陸上特殊無線技士
デジタル第 1 種工事担当者
ソフトウェア開発技術者

認定・資格名
日本商工会議所簿記検定試験 2 級
cisco certified network associate
cisco certified network professional (BSCI)
cisco certified network professional (BCMSN)
microsoft certified professional (70-270)

運営方針

IT への理解力と応用力を身に着け、院内の IT 環境の充実に努める

1. 院内ネットワークの有効活用
2. 電子カルテ・部門システムの理解と磨き上げ
3. スキルの向上
 - a) プログラミング、ドキュメント化技術の向上
 - b) 病院業務への理解を深める

活動報告

- ・ ネットワーク障害対応
- ・ 台風によるインターネット回線不具合対応
- ・ インターネットスポットのパスワード管理 (月ごとに変更)
- ・ 電子カルテ用ウィルスチェックソフトのライセンス更新
- ・ 電子カルテ定期サービスパック適用
- ・ 平成29年度医療改定
- ・ 平成29年度介護システム改定対応
- ・ 沖縄県緩和ケア研修会、ITサポート
- ・ 患者待ち時間調査結果集計
- ・ 電子カルテサーバー保守契約更新
- ・ 第3回クリニカルパス大会サポート
- < 進行中 >
 - ・ 本院増改築に伴うネットワーク敷設、IT機器移設サポート
 - ・ 透析サーバーリプレース
 - ・ 生体モニターシステムリプレース
- ・ 産婦人科・周産期システム入替サポート
- ・ IT推進委員会の開催(1回/月)
- ・ 財務統計処理
- ・ 不要IT機器の買い取り業者への売却
- ・ IT機器の自前修理による修理費用、買換え費用の削減
- ・ 情報系ネットワーク機器入れ換え
- ・ PACSサーバーリプレース
- ・ 電子カルテサーバーリプレース計画
- ・ 口腔ケア科新設サポート
- ・ 新版医事導入サポート
- ・ 医薬品情報システム導入サポート
- ・ 新版医事システム導入サポート
- ・ 口腔ケア科電子カルテ導入サポート
- ・ 医薬品情報システム導入サポート

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
電子カルテ用ノートパソコンの自前修理におけるコスト削減の試み	第58回全日本病院学会	熊本市	2016年10月8日	安里健二

次年度目標

- ・ 本院増改築に伴うネットワーク敷設、IT機器移設
- ・ 新版医事、口腔ケア科電子カルテシステム、医薬品情報システム稼働
- ・ 透析システムサーバーリプレース
- ・ 生体モニターシステムリプレース
- ・ 内視鏡システムリプレース

広報係

副主任 知念 政治

活動目的

広報専任担当者 2 名で、病院・クリニック・地域包括ケアセンターの各種広報活動を行っております。中心業務は各施設の現状や PR ポイント、新規業務などをホームページや広報誌、マスメディア等を通じ内外に発信する事ですが、その活動に関わる情報の収集から取材・撮影を行い、広報誌や公式サイト、デジタルサイネージコンテンツなどの作成を行ったり、報道機関向け資料の作成なども行います。また、定期的に開催される「かりゆし会広報委員会」事務局を運営し、施設内における掲示物などに関する規定を作成・管理を行ったり、全体の広報方針や広告関連予算を審議し理事会への提案も行います。また、毎年度の年報作成についても「かりゆし会年報作成委員会」事務局を運営し、作成業務にあたっております。

認定・資格

認定・資格名	人数
初級システムアドミニストレータ	1
サーティファイ web クリエイター能力検定試験 上級	1

認定・資格名	人数
サーティファイ Flash クリエイター能力認定試験 上級	1
ユニバーサルデザインコーディネーター 準 2 級	1

活動報告

<かりゆし会>

- ・公式ホームページ維持・更新
- ・採用ポータルサイトリニューアル

<ハートライフ病院>

- ・入院案内パンフレット
- ・臨床研修事務局関連作業
 1. 修了証・アルバムの作成
 2. 募集ホームページ更新
 3. 初期研修医募集パンフレット作成
- ・平成 27 年度年報作成
- ・QI プロジェクト広報
- ・講演会ポスター作成
- ・その他院内掲示ポスター作成
- ・広報誌あすなろ No. 84 ~ 87 計 4 回の発行
- ・講演会、勉強会、イベントのサポート
(写真・動画撮影など)
- ・デジタルサイネージコンテンツ作成
- ・診療体制表の改良および
プリントサービスの提供・管理
- ・増改築プロジェクト
 1. 広報活動
 2. サイン計画
- ・市民公開講座運営補佐
 1. 広報活動
 2. 会場運営
- ・その他付随業務

<クリニック>

- ・糖尿病教室ポスター作成
- ・その他付随業務

<地域包括ケアセンター>

- ・入居者募集に係わる広報活動

<はーとらいふ保育園>

- ・園児募集に係わる広報活動
- ・外観デザイン作成

主な報道・取材対応

区分	内容	掲載媒体	年月日
寄稿仲介	「レキオクリニック」 副院長 佐久川 廣	週間レキオ	2016年7月21日
取材依頼・対応	救急車型ドクターカー導入	沖縄タイムス・琉球新報	2016年7月25日
取材対応	九州医事新報	九州医事新報	2016年7月27日
寄稿仲介	「レキオクリニック」 ヘルニアセンター長 高原裕夫	週間レキオ	2016年8月18日
取材対応	沖縄県広報みんなでグッジョブ運動 「ジョブ魂3/グッジョブ探検隊 看護」	沖縄テレビ (OTV)	2016年9月8日
CM 撮影協力	沖縄県広報ヘルスアクション創出事業「がん検診篇」「特定健診篇」	テレビCM	2016年9月15日
取材対応	沖縄県広報みんなでグッジョブ運動 「ジョブ魂3/グッジョブニューフェイス (若手社員座談会)」	沖縄テレビ (OTV)	2016年9月20日
取材誘致・対応	「彩職賢美」 外科外来 砂川克子	週間ほーむぷらざ	2016年9月29日
取材対応	ユニ・チャーム メンリッケ 企業製品 PR CM 撮影	企業製品 PR CM	2016年10月

事務局運営

1. 広報委員会

2. 年報作成委員会

学会発表

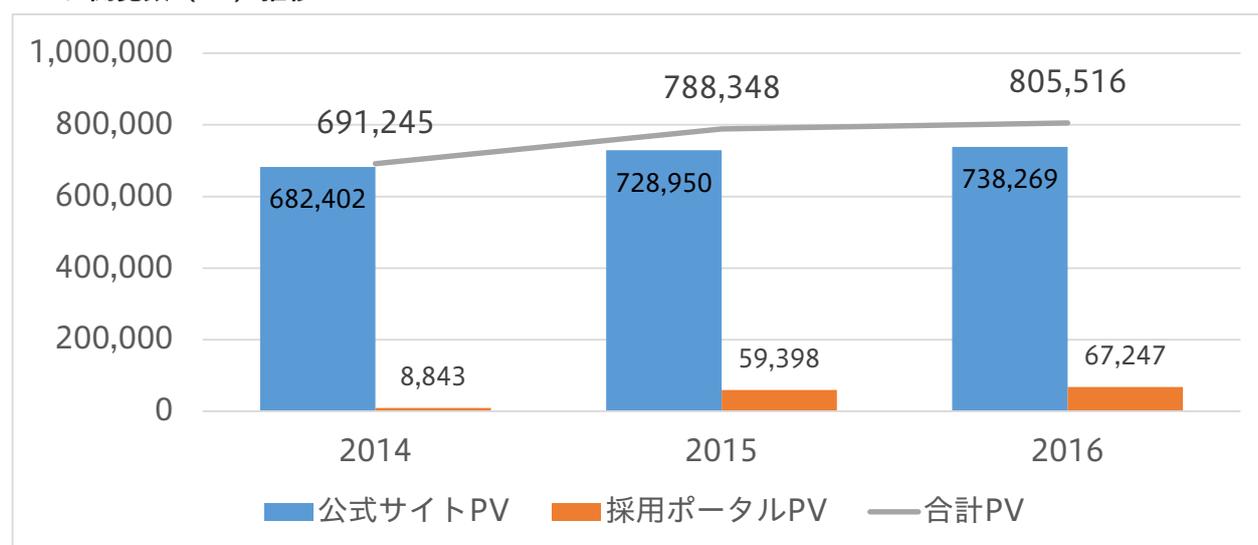
演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
ユニバーサルデザイン (UD) 一伝わるデザインを目指してー	第58回全日本病院学会	熊本市	2016年10月8日	知念政治

活動実績

名称	開催地	年月日	参加者
個人情報保護「情報を守ることは自分自身を守ること」	当院	2016年4月1日	新入職員対象

公式サイト統計

ページ閲覧数 (PV) 推移



※ 2014年8月18日より採用情報専用ポータルを立ち上げ、公式サイトより情報を分離しました。

※ 2014年より現在の集計方法に変更

料飲・販売

事務副部長 比嘉 靖

職員数

総数

17 名

職種別

調理師 2 名

その他 15 名

運営方針

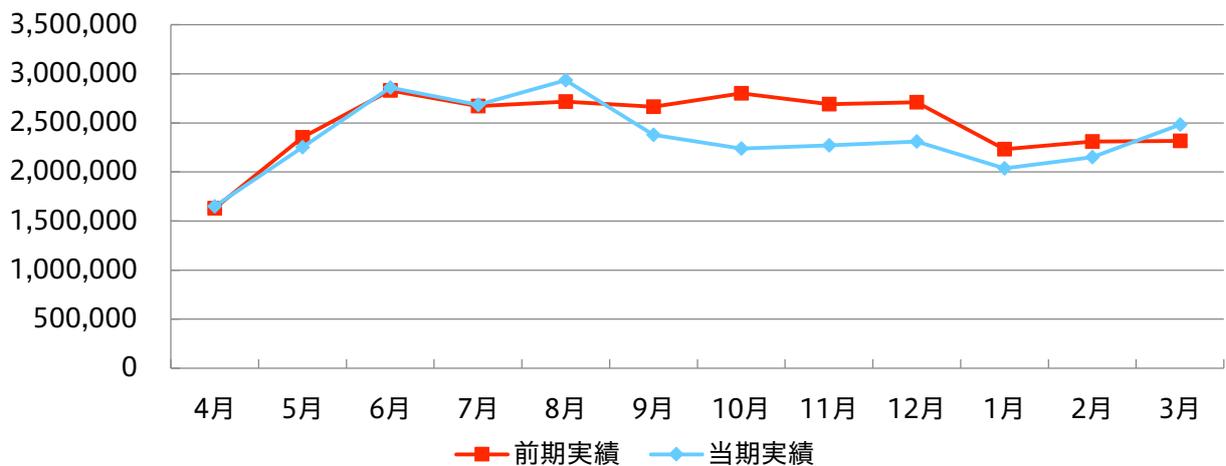
食の安全とより良いサービスの提供

理念

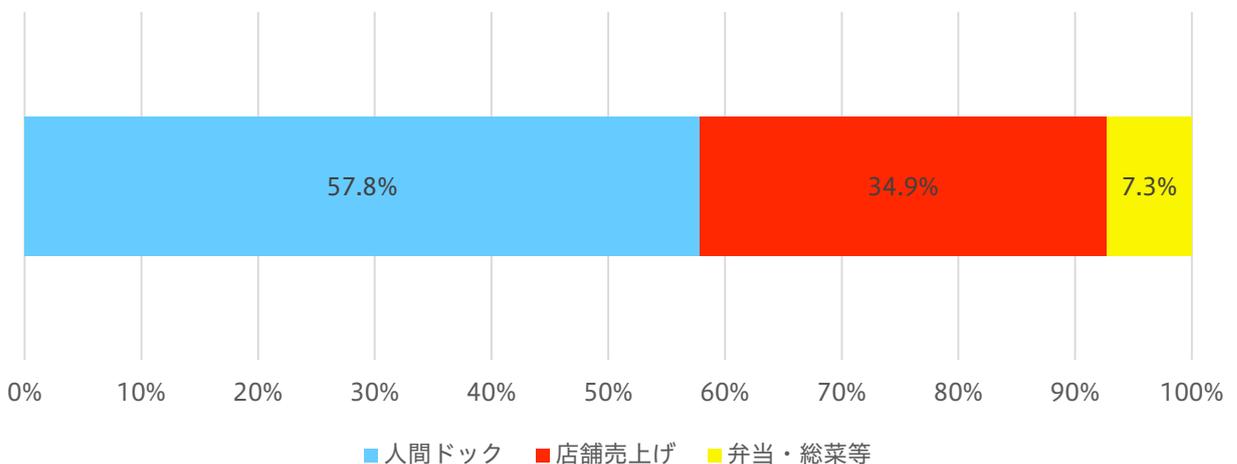
目配り・気配り・思いやり

業務実績

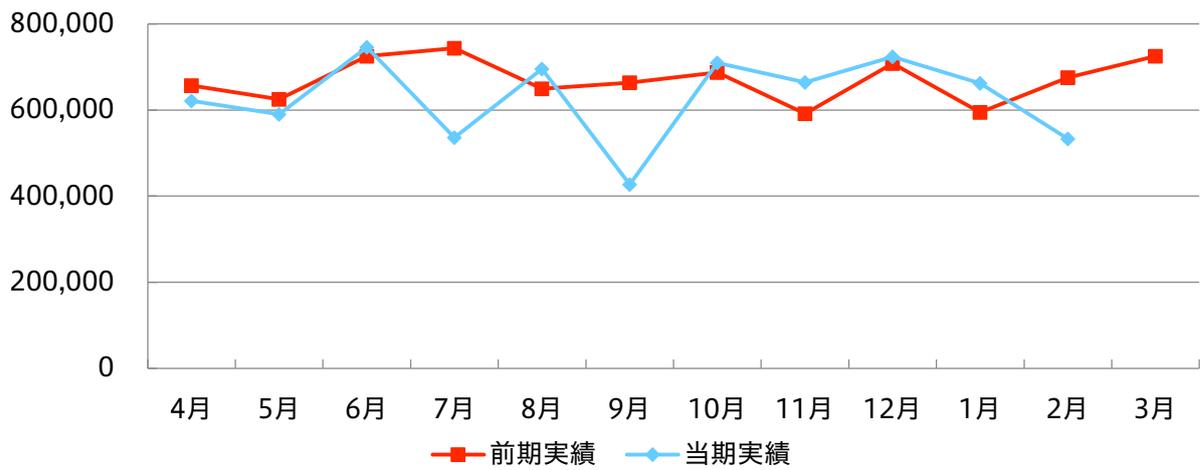
食堂 トマト 売上推移



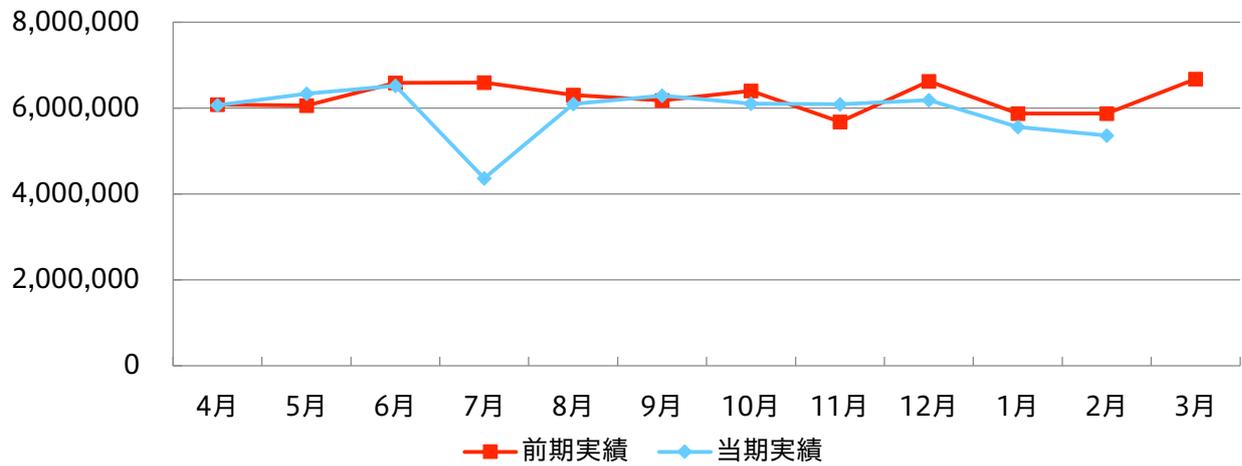
食堂 トマト 売上割合



喫茶 グリーン ケイブルズ売上推移



売店 ハートストア売上推移



※喫茶店と売店の直営は平成 29 年 2 月で終了しました。売店は外部委託しております。

人事課 (法人事務局)

課長 比嘉 康文

職員数

総数

5 名

職種別

一般事務 4 名

臨床心理士 1 名

運営方針

1. 「組織は人」 <人を大切にする>
 - (1) 人材育成 (人間性やスキルを伸ばす)
 - (2) 労務環境改善 (ワークライフバランス)
 - (3) 公平な人事考課制度の確立
 - (4) 職員の精神衛生の充実
2. 「人材確保」
 - (1) 計画採用の確立
 - (2) 人材の活性化 (再雇用制度・短時間勤務制度・異動・障がい者雇用)
 - (3) 離職率の低下対策

活動実績

業務実績

年月日		名称
2016 年	7 月	契約職員最低賃金引き上げ (@750 円) 案作成 理事会承認
2016 年	12 月	保育事業・保育士給与テーブル (案) 作成 理事会承認

主な活動

年月日		名称
2016 年	通年	退職者 (一身上都合) 面談
2016 年	通年	社会医療法人 (県内 4 法人) 事務情報交換会 1 回 / 月 参加
2016 年	5 月	北部地区医師会 北部看護学校 学校訪問
2016 年	5 月	学校法人湘央学園 浦添看護学校 学校訪問
2016 年	7 月	2017 (H29 年度) 看護師採用 面接試験
2016 年	8 月	2017 (H29 年度) 看護師採用 面接試験
2016 年	8 月	福祉教育専門学校 三幸カレッジ (那覇・沖縄校) 介護職採用 学校訪問
2016 年	9 月	ハラスメントアンケート調査実施
2016 年	10 月	役職者研修 [課(科)長、係長(副技師長)、主任]
2016 年	11 月	院内研究発表会 「法人事務局・人事課立ち上げと実績報告」～離職率・退職理由からみえる当会の現状～
2016 年	11 月	職員満足度調査
2016 年	12 月	学校法人嘉数女子学園 沖縄女子短期大学 保育士採用 学校訪問
2016 年	12 月	沖縄県保育士・保育所総合支援センター 保育士採用 企業訪問
2017 年	1 月	沖縄県内高等学校 (13 校) 看護助手・介護職 採用 学校訪問
2017 年	2 月	2017 年 (H 29 年度) 看護部新入職者 オリエンテーション
2017 年	2 月	2018 年 (H 30 年度) 看護師採用合同説明会参加 [(株) 沖縄タイムス社主催]
2017 年	2 月	月給制医師・面談
2017 年	3 月	年俸制医師・年俸契約及び面談

事務部 年度総括



事務部長
當銘 秀之

平成 28 年度の事務部は、総務課、経理課、請求業務課、管財課、診療情報管理室、経営企画室、地域医療連携室の構成でスタートしました。昨年度法人事務局に人事課が設置されましたが、総務課、経理課との作業範囲が曖昧なところがありましたので、作業分担・分業を明確にする一年でした。今後更なる分業化により効率的に運用していく予定です。

病院収益は診療報酬改定の影響等で、対前年比で若干減収になりましたが、当期純利益は微増になりました。事務部全体で取り組んだ電気・ガス・水道の光熱費およびその他経費削減の取り組みで確実に成果を出し、前年比で削減することができました。微力ながら純利益増の一要因になったかと思えます。今後も継続して経費削減に努めていく所存です。

昨年度の 1 月から始まったハートライフ病院の増築工事は、スケジュールどおり進捗しており、平成 29 年 7 月には竣工を迎え 9 月からは新しい建物での診療および業務が開始されます。移転等で大変な時期を迎えますが、職員の皆さま方の更なるご協力を宜しくお願い致します。

10 月には、前年度の院内研究発表会事務部予選会の上位 3 名の方々が、第 58 回全日本病院学会 in 熊本大会で発表を行いました。他発表者と比較しても見劣りすることなく、大変すばらしい発表内容・発表態度でした。平成 29 年度は、石川県で開催される学会での発表を予定しています。

ほかにも平成 28 年度は市民公開講座の開始・運用、口腔ケア科の開設、企業主導型保育所の設置に多くの事務部職員が関わりました。また、一般病床増床および災害拠点病院指定に向けての取り組みの結果、3 月には 8 床が増床され、災害拠点病院にも指定されました。各担当者の尽力に心より感謝申し上げます。

平成 30 年度には医療介護同時改定を迎えますので、平成 29 年度は変化、多様化する医療制度に組織として取り組めるように、職員一丸となって、「笑顔で親切」のスローガンのもと、より良い病院作りに邁進致します。

医療安全管理室

部門紹介

医療安全管理者 外間 真紀子

平成 19 年に当院の医療安全部門として、組織横断的活動を行うために病院長を直属とする医療安全管理室が設置されました。統括責任者を副院長の久場とし、看護師 1 名を医療安全管理者（リスクマネージャー）として専従配置しています。また、医療安全管理室が事務局となっている医療安全管理委員会は、診療部門、看護部門、医療技術部門、事務部門の各部門の代表者が参加する総勢 23 名のメンバーで構成され、毎月会議を開催しています。

医療安全管理室 理念

1. 心と心を結ぶ信頼される医療を目指す
2. 医療行為は、治療を目的としたものでなければならない

医療安全管理室 運営方針

1. 医療事故防止の為に安全管理体制を確立し、患者中心の医療そして医療全体の質の向上を図る
2. 医療安全に関する職員への教育・研修、情報の分析、対策の立案、事故発生時の初動対応、再発防止立案、発生予防及び発生した事故の影響拡大の防止等に努める
3. 安全管理体制を組織内に根付かせ機能させる事で、医療機関における安全文化の醸成を促進する

職員数

総数

1 名

職種別

医療安全管理室 専従看護師 1 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
外間 真紀子	医療安全管理者認定

活動実績

インシデント報告件数

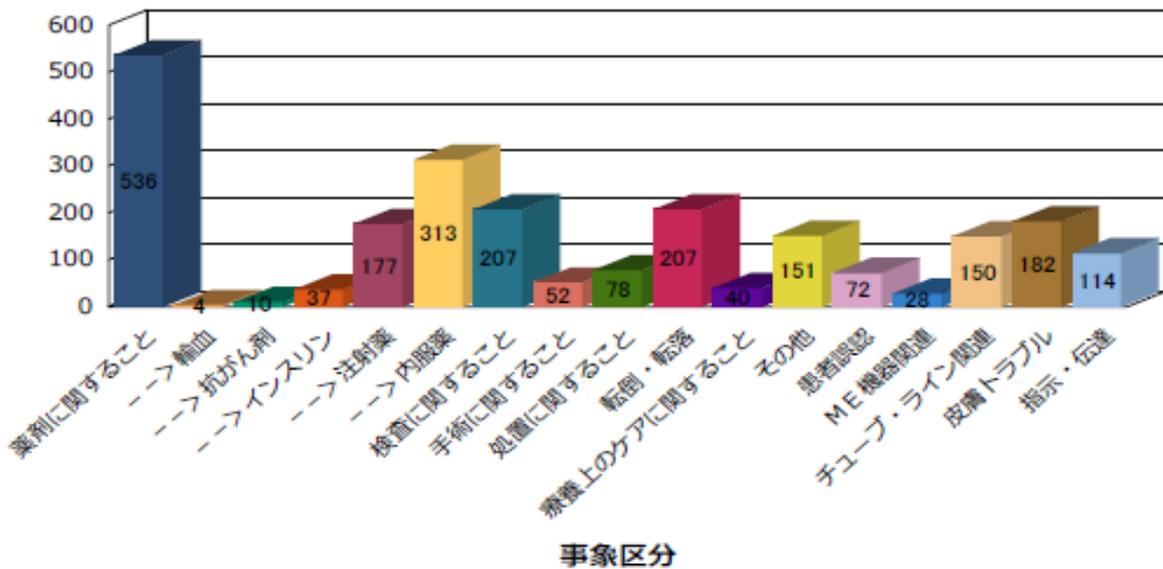
毎年、安全文化の醸成、医療事故の低減を目標に活動を行っております。

昨年度より新報告システムを運用することで、入力が簡便になり事例の原因分析が迅速に行われるようになりました。また、新しい分析手法を導入し、必要な対策がタイムリーに検討・実施され、現場で活かされるよう働きかけております。

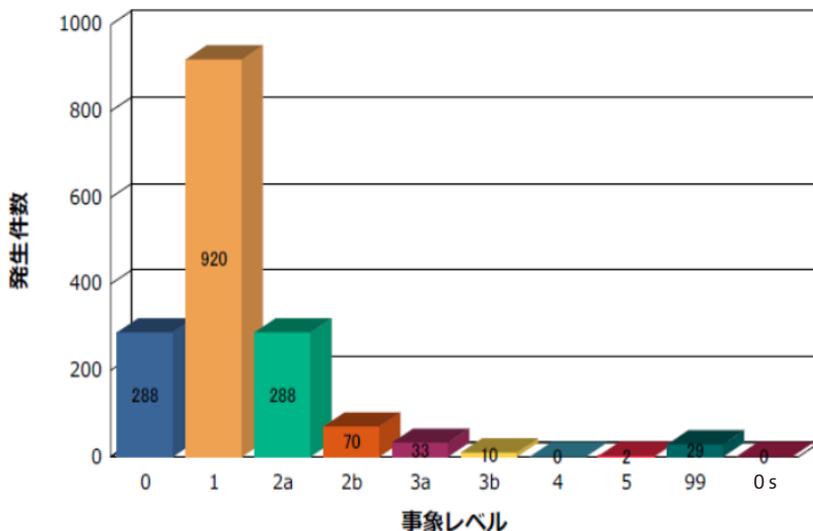
特に患者誤認防止策では、直前照合を徹底することにより医療安全活動の本質である未然防止が強化され、その結果、薬剤関連のインシデント件数も減少傾向となっております。また、10月より医療事故調査制度が施行され、制度の理解を行うため勉強会、講演会などを開催し事故発生時の対応マニュアルなどの作成・整備を行っております。

今後は、患者・ご家族と共に行う医療安全を強化し、安全文化の確立に努めていきたいと思っております。

事象区分毎発生件数



事象レベル毎発生件数



※「0s」は当院独自の基準で患者サポート委員会で検討し対応を協議します。

研修実績

(データ作成 医療安全管理室 外間)

研修名	主催	開催地	開催日	講師
医療安全について	新入職オリエンテーション	当院	平成 28 年 4 月 1 日	久場良也
療養環境と医療安全	看護部新入職者研修	当院	平成 28 年 4 月 5 日	中野久乃
医療安全講習～初級編～	研修医 1 年目基礎研修	当院	平成 28 年 4 月 6 日	中野久乃
医療事故調査制度 (講演)	医療安全	当院	平成 27 年 4 月 28 日	久場良也、中野久乃
医療安全講習 ～初級編～	3 カ月フォローアップ	当院	平成 28 年 6 月 26 日	中野久乃
即効性 ImSAFER=QuickSAFER	領域研修①	当院	平成 28 年 6 月 10 日	中野久乃、看護部会
医療安全の基礎知識	研修医オリエンテーション	当院	平成 28 年 10 月 7 日	外間真紀子
医療事故調査制度 (RCA 分析)	全日病	院外	平成 28 年 11 月 8 日～ 平成 28 年 11 月 9 日	事故調査委員会
KYT	領域研修②	当院		中野久乃、看護部会
医療事故調査制度 (講演)	医療安全	当院	平成 27 年 11 月 2 日	久場良也、中野久乃
患者誤認	領域研修③	当院	平成 28 年 11 月 11 日	外間真紀子、看護部会
転倒転落	領域研修④	当院	平成 28 年 11 月 9 日	外間真紀子、看護部会
医療事故調査制度 (RCA 分析)	全日病	院外	平成 28 年 12 月 10 日～ 平成 28 年 12 月 11 日	事故調査委員会
医療安全 (RRS)	沖縄県看護協会	院外	平成 29 年 1 月 27 日	外間真紀子
医療事故クレーム対応	沖縄県医師会	院外	平成 29 年 2 月 10 日	事故調査委員会
QI 意見交換会	日本病院会	院外	平成 29 年 2 月 13 日	外間真紀子
医療事故調査制度 (伝達講習)	医療事故調査委員会	院内	平成 29 年 2 月 21 日	事故調査委員会
薬剤勉強会 (認知症)	エーザイ	院外	平成 29 年 2 月 24 日	外間真紀子
KYT	1 年目フォローアップ	院内	平成 29 年 3 月 10 日	外間真紀子

医療安全管理室 年度総括



医療安全管理室
外間 真紀子

平成 28 年度の目標

1. 安全文化の定着
2. レベル 3 の低減 (目標 5 件以下)
3. 患者誤認低減 (目標 2 5 件以下)

今年度は安全文化の定着を目標としたが目標達成はできなかった。

マニュアルのシステム化は整備することができた。

また、現場介入していく中で下記の様な課題も見えてきた。

下記を次年度の課題とし、安全文化の定着を目指す。

(課題)

- 1 KYT (0、1 レベルの報告増 3 レベル低減)
- 2 部署での事例の分析 (再発防止)
- 3 医療事故調査制度のシステム整備 (院内安全風土の醸成)
- 4 情報共有・連携の強化 (チーム医療)
- 5 医療職としての責務 (職業倫理)

感染対策管理室

部門紹介

感染対策管理室 石川 由希

感染対策管理室は平成 20 年に院長直下の感染に関する諮問機関として設置され、平成 24 年には 1 人目の感染管理認定看護師が誕生、平成 26 年からは感染管理認定看護師が 3 名となり専従看護師 1 名と手術室に 1 名、ICU に 1 名の配置となりました。専従看護師は病院全体に関わる感染管理業務を行い、兼任看護師は現場で看護ケアを行いながら感染対策を実践しております。感染対策教育は新人教育、研修医研修、感染管理領域別研修、助手研修、部署別研修、手指衛生などを専従、兼任で分担し実施しています。感染対策管理室では日々病棟をラウンドし感染対策の実施状況を確認、スタッフへ手袋やエプロンの着脱、手指衛生タイミングの指導や、感染に関する相談を受けます。

また院内感染対策委員会やコメディカル部門も含めた各部署より選出されたメンバーで構成される感染対策小委員会などの企画運営を行います。

その他に週一回の耐性菌・抗菌薬・環境ラウンドを ICT (infection control team) で実施し、ラウンド後に ICT ミーティングを行い現場での感染対策実践に繋げています。また、院外活動として中部地区感染症ネットワークへの参加、看護協会の感染管理研修を担当、病院だけでなく地域に貢献できるよう努めています。今後も病院、地域全体で感染対策が徹底出来るよう活動していきます。

感染管理対策室 理念

感染管理をとおして、患者さんが病院を信頼し、安心して質の高い医療を提供できることを目指し活動しています。

職員数

総数

2 名

職種別

感染対策管理室 専従看護師 1 名

一般事務 1 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
石川由希	感染管理認定看護師 第一種衛生管理 呼吸療法認定士 医療環境管理士
宮城美那	感染管理認定看護師
城間克也	感染管理認定看護師

活動実績

平成 28 年度の目標と実績（実績 / 目標）

MRSA 院内発生	血培汚染率	針刺し切創・粘膜汚染	アルコール製剤使用量
58 件 / 50 件以下	5.80% / 3.0% 以下	21 件・4 件 / 15 件以下	3.1ℓ / 1,000 患者に対し 4.21ℓ 以上

研修・学会参加

名称	開催地	年月日	主催	参加者
セントラルサービス リプロセッシング集中セミナー	カルチャーリゾート フェストーネ	2016 年 7 月 17 日	特定非営利活動法人 日本感染管理支援協会	宮城美那
日本感染管理ベストプラクティスワーキンググループミーティング	カルチャーリゾート フェストーネ	2016 年 7 月 17 日	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会	石川由希、宮城美那
シスメックス細菌セミナー in 沖縄 2016	ロワジュールホテル那覇	2016 年 7 月 30 日	シスメックス株式会社	石川由希
感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座（前期）	花王すみだ事業場 セミナーハウス	2016 年 9 月 17 日～18 日	HAICS 研究会	石川由希、宮城美那
平成 28 年熊本地震 沖縄県医師会医療救護班 JMAT 活動報告会	沖縄県医師会 3F ホール	2016 年 9 月 24 日	沖縄県医師会	久場良也、石川由希、高宮里沙
潜在性結核感染症～治療対象者選定と治療の実際～	沖縄県医師会ホール	2016 年 9 月 15 日	沖縄県健康長寿課 結核感染症班	普天間光彦
抗菌薬の適正使用について	中部地区医師会 3F ホール	2016 年 10 月 13 日	日本医師会生涯教育講座	石川由希
感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座（後期）	花王すみだ事業場 セミナーハウス	2017 年 1 月 7 日～8 日	HAICS 研究会	石川由希
第 30 回 沖縄県感染管理研究会	国立劇場おきな小劇場	2017 年 1 月 14 日	沖縄県感染管理研究会	石川由希、城間克也
第 8 回 沖縄 HIV 臨床カンファレンス	琉球大学 研究者交流施設・50 周年記念館	2017 年 1 月 21 日	沖縄県健康長寿課 結核感染症班	石川由希
第 33 回 沖縄感染症研究会	ホテルロイヤルオリオン	2017 年 2 月 11 日	沖縄感染症研究会	石川由希
第 32 回 日本環境感染学会総会・学術集会	神戸	2017 年 2 月 4 日～25 日	日本環境感染学会	石川由希（発表）、城間克也（発表）
沖縄県感染管理認定看護師会	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	2017 年 3 月 4 日	沖縄県感染管理認定看護師会	宮城美那、城間克也、石川由希

勉強会実施実績

名称	開催地	年月日	演者	対象
院内感染対策について	当院	2016 年 4 月 1 日	石川由希	新入職者全員
看護部入職者研修 療養環境と感染対策、PPE 着脱、手指衛生	当院	2016 年 4 月 5 日	石川由希、宮城美那、城間克也	看護部新入職者
院内感染対策研修医オリエンテーション	当院	H27 年 4 月 7 日	城間克也	研修医 1 年目
標準予防策を学ぶ～手指衛生編～	当院	2016 年 4 月 12 日	城間克也	感染対策小委員会
血液培養採取	当院	2016 年 4 月 14 日	石川由希	看護部新入職者
職業感染～針刺し事故の対応～	当院	2016 年 4 月 15 日	城間克也	看護部新入職者
清潔操作～おさえよう！清潔操作！尿路感染の基礎知識～	当院	2016 年 4 月 19 日	宮城美那	看護部新入職者
標準予防策を学ぶ～理解から実践へ～	当院	2016 年 5 月 6 日	城間克也	感染管理領域研修 1
第 3 回 看護フェア	沖縄県看護協会	2016 年 5 月 14 日	城間克也	一般

名称	開催地	年月日	演者	対象
標準予防策を知ろう 手洗い講習会	当院	2016 年 5 月 18 日	普天間光彦、石川由希	全職員対象
手指衛生 5 つのタイミング	当院	2016 年 5 月 20 日	石川由希	看護助手
標準予防策を学ぶ～理解から実践へ～	当院	2016 年 6 月 3 日	城間克也	感染管理領域研修 1
手指衛生 5 つのタイミング	当院	2016 年 6 月 17 日	石川由希	看護助手
血流感染について	当院	2016 年 6 月 24 日	石川由希	看護部新人 3 ヶ月 フォロー
標準予防策を学ぶ～理解から実践へ～	当院	2016 年 7 月 1 日	城間克也	感染管理領域研修 1
感染対策の基礎知識 I 標準予防策	沖縄県看護協会	2016 年 8 月 3 日	宮城美那	看護師
標準予防策を学ぶ～理解から実践へ～	当院	2016 年 8 月 12 日	城間克也	感染管理領域研修 1
細菌検査（検体の取り扱いと耐性菌について） “知っている”から“やっている”へ～職業感染対策～	当院	2016 年 9 月 2 日	宮城健、宮城美那	感染管理領域研修 2
呼吸器への吸引操作に伴う感染とその対策について	当院	2016 年 9 月 6 日	城間克也	リハビリ職員
感染管理 II 職業感染防止	沖縄県看護協会	2016 年 9 月 10 日	石川由希	看護師
血液を介して起こる医療関連感染 ～肝炎ウイルス感染の基礎知識～	当院	2016 年 9 月 14 日	佐久川廣	全職員対象
インフルエンザ	ケアセンター	2016 年 9 月 26 日	石川由希	ケアセンター職員
手指衛生を行うべき場面を考える	当院	2016 年 9 月 30 日	城間克也	看護部新人 6 ヶ月 フォロー
院内感染対策研修医オリエンテーション	当院	2016 年 10 月 4 日	石川由希	研修医 1 年目
細菌検査（検体の取り扱いと耐性菌について） “知っている”から“やっている”へ～職業感染対策～	当院	2016 年 10 月 7 日	宮城健、宮城美那	感染管理領域研修 2
透析室における“手指衛生 5 つのタイミング”とは？ ～理解から実践へ～	当院	2016 年 10 月 17 日	城間克也	透析職員
感染管理	当院	2016 年 10 月 31 日	石川由希	ぐしかわ看護専門学校
細菌検査（検体の取り扱いと耐性菌について）“知っている”から“やっている”へ～職業感染対策～	当院	2016 年 11 月 4 日	宮城健、宮城美那	感染管理領域研修 2
感染管理	当院	2016 年 11 月 25 日	石川由希	おもと会沖縄看護専門学校
細菌検査（検体の取り扱いと耐性菌について）“知っている”から“やっている”へ～職業感染対策～	当院	2016 年 12 月 2 日	宮城健、石川由希	感染管理領域研修 2
手洗い・ノロウイルス	当院	2017 年 2 月 8 日～9 日	石川由希	栄養科
手洗い・ノロウイルス	当院	2017 年 2 月 8 日～3 月 31 日	石川由希	食堂とまと
感染対策	当院	2017 年 2 月 15 日	石川由希	関西福祉科学大学養護教諭看護臨床実習
日常ケアや処置における感染対策	当院	2017 年 3 月 10 日	城間克也	看護部新人 1 年目 フォロー

実績報告資料

<p>平成 29 年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • MRSA 院内発生 50 件以下 • 血培汚染率 3.0% 以下 • 針刺し・切創 15 件以下 • 速乾性擦式アルコール製剤使用量 4.17L 以上

感染対策管理室 年度総括

感染対策管理室
石川 由希

平成 28 年度感染対策は感染管理認定看護師 1 名が専従、2 名が兼任の体制で活動しました。

今年度は感染対策で重要な手指衛生の遵守チェックを各部署のリンクナースが行いました。当院の手指衛生遵守率は 43.2% で、目標の 40% はクリアできました。次年度は各部署での手指衛生勉強会等を充実させ、遵守率アップを目指します。

診療報酬改定に伴い、ICT（インфекションコントロールチーム）で侵襲的処置を行う部署の環境ラウンドを毎月 1 回ずつ調剤台や汚物室などテーマを決めて実施しました。

今までは、新型インフルエンザ等が発生した場合のシミュレーションを外来で行っていましたが、今回初めて ICU において実施し現場レベルで問題点を確認する事ができました。

今後、クリニックやケアセンター、平成 29 年度開設の保育園まで幅広く感染対策を充実させていくために、組織体制の見直しやシステム構築を行っていく必要があります。

栄養サポート室

部門紹介

栄養サポート室 真栄城 ゆかり

栄養サポート（以下 NST）とは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、リハビリなどの専門スタッフが連携し、それぞれの知識や技術を持ち合い患者さんにとって最適な方法で栄養支援を行う医療チームの事を言います。

当院 NST は、平成 17 年に院長直下の委員会として発足し、同年に NST 稼働施設認定を取得しました。翌 18 年には褥瘡対策委員会と合併し NST・褥瘡対策委員会として協働で活動しています。

栄養サポート室 理念

医療チームの一員として、それぞれの専門スタッフが知識や技術を持ち合い患者さんに最適な方法で栄養支援を行う。

栄養サポート室 運営方針

入院患者さんに対し個々の栄養状態を把握し最もふさわしい栄養管理を提言することで、早期回復を助け患者さんの QOL 向上に貢献する。

職員数

総数

1 名

職種別

栄養サポート室 管理栄養士 1 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
真栄城 ゆかり	栄養サポートチーム専門療法士 日本静脈経腸栄養学会員

NST 回診&カンファレンスについて

NST 対象患者選択

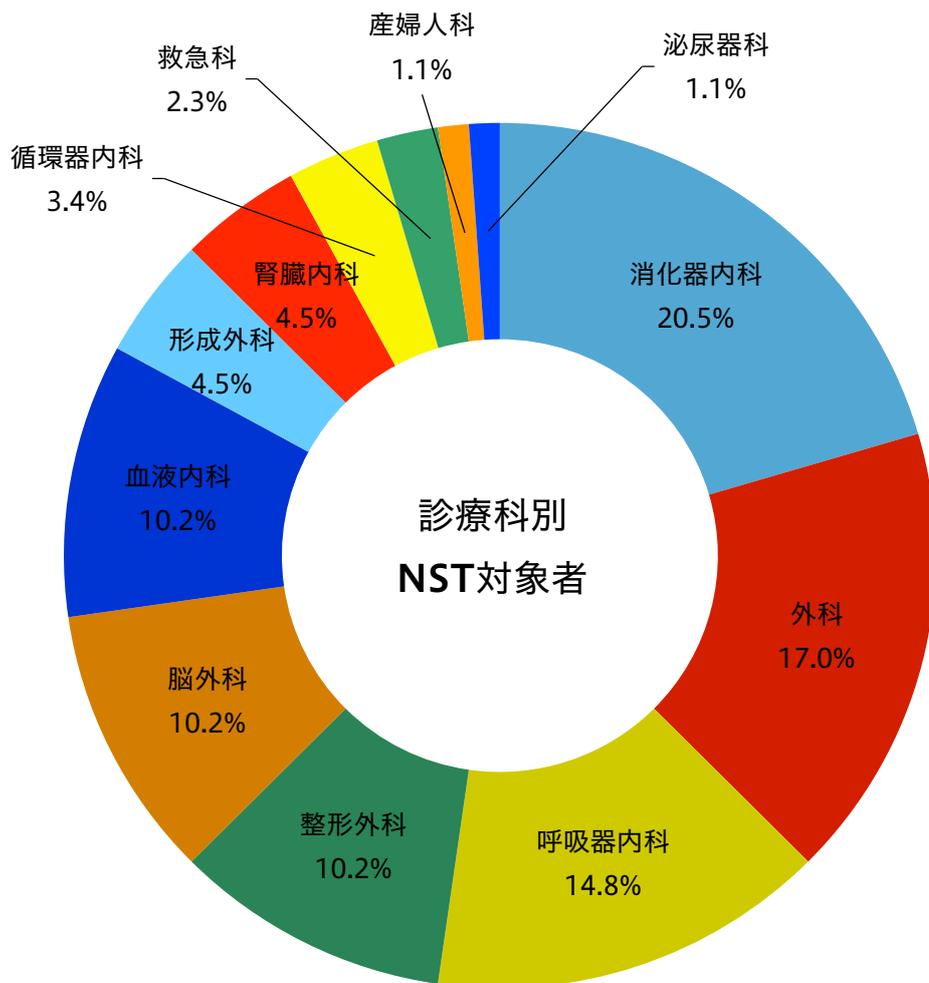
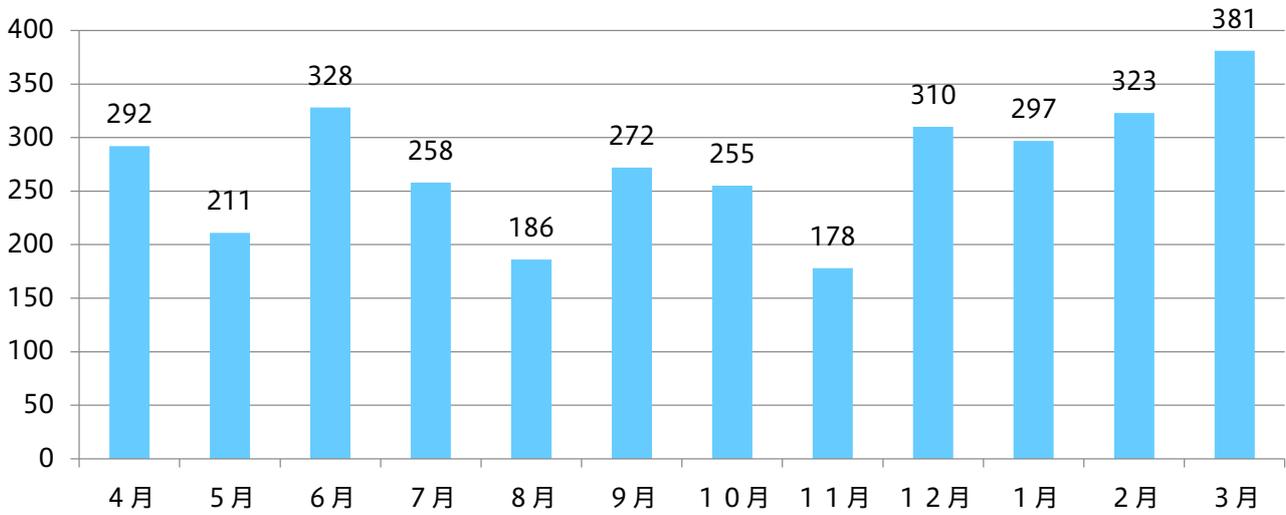
- 回診前週の採血でアルブミン値 3.0mg /dl 以下の患者
- 褥瘡を有してる
- 摂食・嚥下障害がある
- 経腸栄養中のトラブル（下痢・便秘・胃食道逆流・瘻孔トラブルなど）

NST 対象除外

- 術後の採血でアルブミン値が 3.0mg /dl 以下
- ターミナル期の患者（予後が短く介入困難）
- 化学療法中などの患者でも摂食が十分な場合

業務実績

NST 対象者件数



活動実績

研修実績

研修名	主催	開催地	開催日
排便エキスパートセミナー	ネスレ	浦添	平成 28 年 7 月 23 日
第 15 回沖縄ウoundマネジメント研究会	沖縄ウoundマネジメント研究会	浦添	平成 28 年 9 月 10 日
臨床栄養セミナー	ネスレ	浦添	平成 28 年 9 月 27 日
摂食嚥下障害のメカニズムと多職種で関わる摂食嚥下障害ケア	北山病院	名護	平成 28 年 11 月 5 日
褥瘡・創傷の外用薬について	委員会	院内	平成 28 年 11 月 10 日
栄養サポートセミナー	大塚製薬	那覇市	平成 28 年 12 月 8 日
TENA コンチネンスケアフォーラム in 沖縄	ユニチャーム	那覇市	平成 28 年 12 月 17 日
栄養管理	委員会	院内	平成 29 年 1 月 12 日
NST フォーラム	大塚製薬	浦添	平成 29 年 3 月 11 日

栄養サポート室 年度総括



栄養サポート室
真栄城 ゆかり

平成 28 年度は、外科部長を栄養サポート室委員長、外科医師 1 名、消化器内科医師 1 名を副委員長とし、看護師 33 名、医療技術部 11 名で構成しています。栄養サポート室では全入院患者さんに対し、採血結果 Alb 値 3.0g/dL 以下でカンファレンス対象者のリスト作成を行い、リンクナースは NST 回診及びカンファレンスの対象となる患者さんをリストアップし、毎週木曜日に病棟回診とカンファレンスを、毎月第 2 木曜に NST 褥瘡委員会を実施しています。また、平成 28 年度から創傷カンファレンスへも参加しています。

カンファレンスでは、適切な経腸栄養剤の選択、食事形態や食事量の検討を行い主治医や病棟スタッフに対し提案・助言をフィードバックし栄養状態の改善に努めました。

栄養管理は、すべての疾患治療の上で共通する基本的医療のひとつです。症状や疾患に対する専門的な栄養療法の知識を習得し、患者さん個々に応じた栄養管理が実施できるよう取り組んでいきたいと考えております。

栄養サポート室は、褥瘡委員会と協働で活動しており、平成 26 年度からは形成外科医が常勤となり、褥瘡の予防からケアに至るまで強化する事ができたと思います。

内視鏡センター

部門紹介

内視鏡センター長 折田 均

内視鏡センターは日本内視鏡学会の認定指導施設で、内視鏡センターには指導医や専門医、消化器内視鏡技師を含む看護スタッフなど 34 名が従事しています。当センターでは通常検査や予防医学センターの検査のほか、消化管出血などに対する緊急内視鏡処置も多数行っており、総胆管結石などの胆・膵の処置（ERCP 関連）や従来は外科的手術が必要だった、病変が広い早期食道がんや胃がん、大腸がんに対して、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を取り入れています。

職員数

総数 34 名

職種別

指導医 4 名	内視鏡技師 1 種 6 名
専門医 4 名	看護師 10 名
その他 7 名	助手 3 名

担当医師

(平成 28 年 9 月時点)

	氏名	学会認定など
院長	奥島 憲彦	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本食道学会認定医 日本体育協会公認スポーツドクター 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本消化器内視鏡学会専門医
副院長 内科部長	佐久川 廣	日本肝臓病学会指導医 日本感染症学会指導医 日本感染症学会インフェクションコントロールドクター 日本感染症学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医 日本肝臓学会専門医 日本がん治療認定医機構認定医 日本がん治療認定医機構暫定教育医
内視鏡センター長	折田 均	日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
内視鏡センター 副センター長	仲本 学	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医

	氏名	学会認定など
予防医学センター 副センター長	宮里 稔	日本消化器内視鏡学会専門医 日本東洋医学会認定医
消化器内科部長 5 階病棟医長	宮城 純	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器がん検診学会認定医 日本内科学会認定内科医
大腸・肛門外科医長	阿嘉 裕之	日本大腸肛門病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本外科学会認定登録医
消化器内科医長	柴田 大介	日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医
	洲鎌 理知子	日本消化器内視鏡学会専門医
	小橋川 ちはる	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医

内視鏡センター 運営方針

1. インフォームドコンセントを充実させ、受検者の満足に答える医療サービスを提供する。
2. 安全性を確保しつつより高いレベルへの診断能の向上、内視鏡治療の質の向上をめざす。
3. 消化器内視鏡指導施設として、医師及びコメディカルスタッフの指導・育成を行う。

目標

- (1) より高い診療技術の向上
- (2) 患者安全の確保
- (3) 洗浄・消毒の徹底と管理

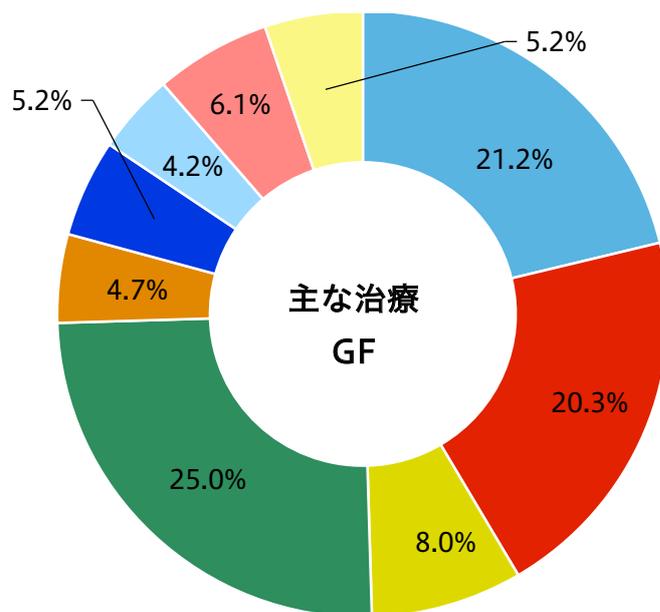
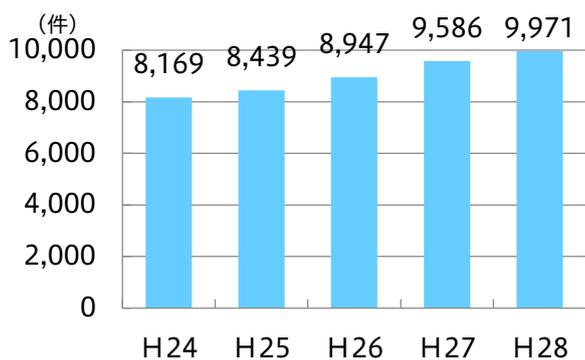
検査・治療件数

内視鏡検査及び内視鏡的治療

種別	合計
胃内視鏡	9,971
大腸内視鏡	3,020
ERCP	115
小腸内視鏡	1
気管支鏡	59
上部消化管 (内訳)	
止血術	45
EMR	11
EVL	53
EIS	11
食道狭窄拡張術バルーン	13
食道狭窄拡張術ブジー	43
食道ステント留置術	4
焼灼術	43
異物摘出術	10
胃瘻造設術	34
粘膜下層切開剥離術	17
イレウスチューブ挿入	5
POEM	9
胃・十二指腸・小腸拡張	9
超音波内視鏡	14

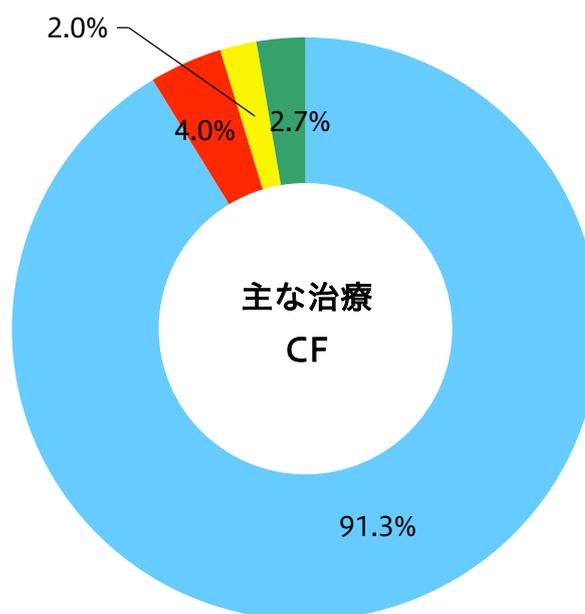
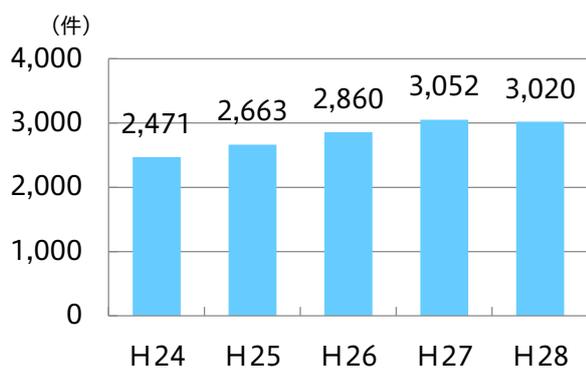
下部消化管 (内訳)	
EMR	409
止血術	18
直腸狭窄拡張術	12
異物摘出術	1
超音波内視鏡	1
粘膜下層切開剥離術	9
ステント	1
マーキング	5
胆道・膵管 (内訳)	
乳頭切開術 (EST)	46
乳頭拡張術 (EPBD)	13
総胆管結石碎石 / 採石術	37
経鼻胆管ドレナージ (ENBD)	5
胆管 stent	67
膵管 stent	24
気管支鏡 (内訳)	
経気管支肺生検 (TBLB)	36
肺胞洗浄 (BAL)	35
異物摘出術	0
ステント挿入	0

GF 件数



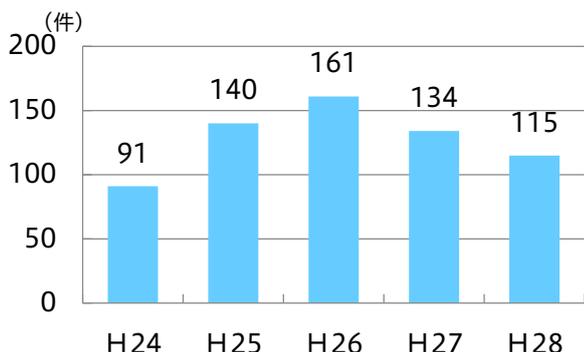
- 止血術
- 食道狭窄拡張術ブジー
- 粘膜下層切開剥離術
- EVL
- 異物摘出術
- EIS
- POEM
- 食道狭窄拡張術バルーン
- EMR

CF 件数

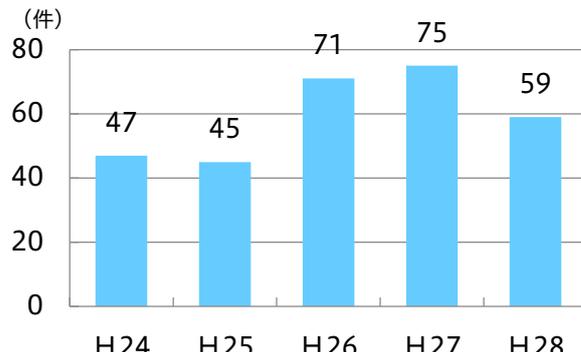


- EMR
- 止血術
- 粘膜下層切開剥離術
- 直腸狭窄拡張術

ERCP 件数



BF 件数



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
急性発症の様式を呈し自己免疫性肝炎との鑑別を要した抗ミトコンドリア陰性原発性胆汁性肝硬変の 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	福岡県	2016 年 5 月 28 日	柴田大介、城間丈二、仲本学、折田均、宮城純、佐久川廣
肝胆道系酵素を契機に発見された膵癌の 1 例	第 107 回日本消化器病学会	佐賀県	2016 年 6 月 24 日	牟田宏樹、佐久川廣、柴田大介
著明な胆道系酵素上昇を伴い診断に苦慮したリウマチ性多発筋痛症の 1 例	第 121 回沖縄県医師会医学学会総会	沖縄県	2016 年 6 月 12 日	山田義貴、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣 (社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院消化器内科)、狩俣かおり (社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院血液内科)
乳癌術前化学療法導入後に顕在化した糞線虫症の 1 例	日本消化器病学会九州支部第 108 回例会・日本消化器内視鏡学会九州支部第 102 回例会	熊本県	2016 年 11 月 1 日	宮崎優樹、折田均、柴田大介、仲本学、宮城純、佐久川廣
ALP 優位の肝胆道系酵素上昇を伴ったリウマチ性多発筋痛症の 1 例	第 108 回日本消化器病学会九州支部例会	熊本県	2016 年 11 月 25 日	石川瀬里、仲本学、柴田大介、宮城純、折田均、佐久川廣
急性発症した AIH+PBC オーバーラップ症候群の 1 例	第 108 回日本消化器病学会九州支部例会	熊本県	2016 年 11 月 25 日	大山恵理子、佐久川廣、柴田大介
自然退縮した肝細胞癌の 1 例	第 122 回沖縄県医師会医学学会総会	沖縄県	2016 年 12 月 11 日	太田沙也加、柴田大介、仲本学、宮城純、折田均、佐久川廣

内視鏡センター 年度総括



内視鏡センター長
折田 均

平成 28 年度の内視鏡件数は上部内視鏡検査が過去最高の件数となり、下部内視鏡検査はほぼ横ばいとなりました。その要因としては内視鏡医の人員がある程度充足したことが挙げられ、現行の体制では、検査件数も飽和状態に達しつつあります。

1 年後には内視鏡センターの拡充が予定されており、施設がフル稼働すれば、検査件数も飛躍的に増えることが予想されます。そのためには、施設拡充に備えて人員（内視鏡医や内視鏡技師など）の確保を進めなければなりません。

予防医学センター

部門紹介

予防医学センター長 謝花 隆光

予防医学センターは昭和 63 年の開院時からスタートしており、当初は外来部分に位置し、平成 3 年に 9 階建ての建物が完成し 8 階へ移動しました。

スタート時の受診者はドックが 46 名、健診が 197 名でしたが、平成 28 年度には、日帰りドックが 12,553 名、2 日ドックが 423 名、健診が 1,961 名となりました。総受診者数は 16,963 名で、前年度より 2,267 名増となっています。

職員数

総数

47 名

職種別

医 師	5 名	クラーク	7 名
看 護 師	12 名	検査技師	6 名
保 健 師	5 名	助 手	2 名
一般事務	10 名		

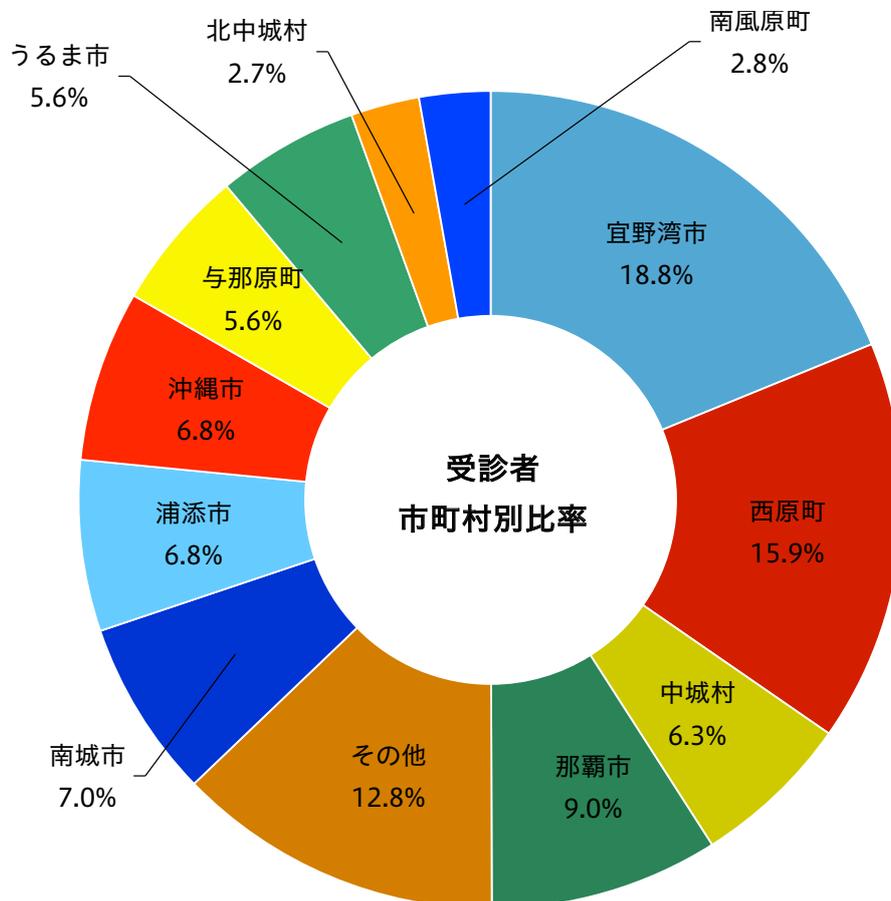
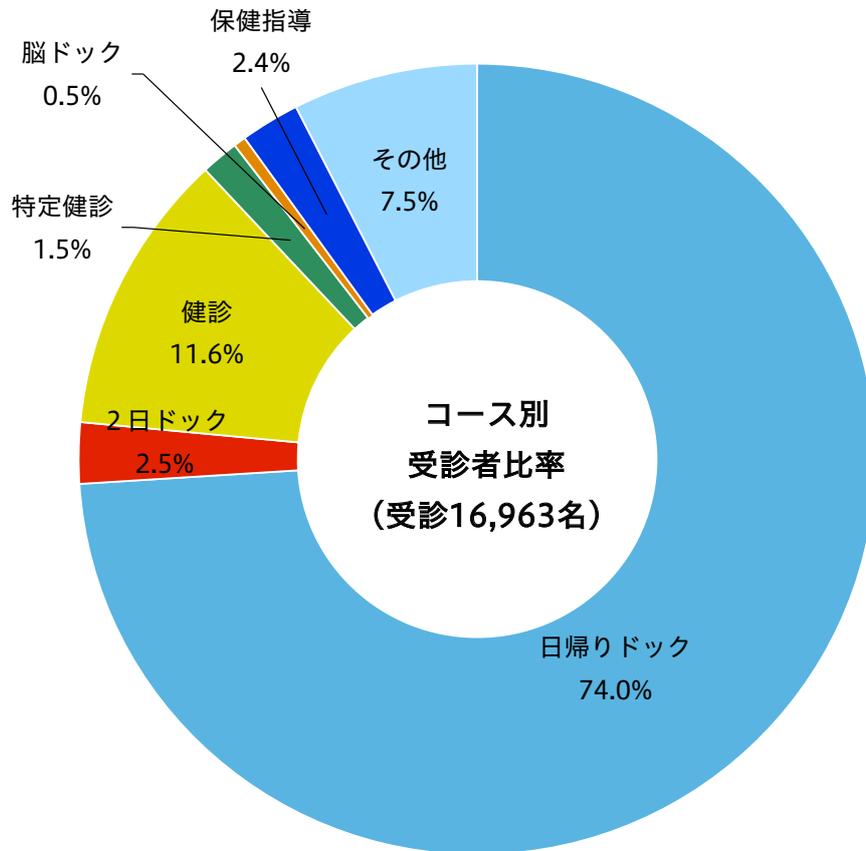
予防医学センター 理念

1. 受診者に満足いただけるよう、心のこもった親切・丁寧な接遇につとめます
2. 診断技術と検査の精度向上に心がけ、質の高い信頼される健診に努めます
3. 医師、保健師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務職などスタッフ全員が相互連携協力して、最良の健診サービスに努めます
4. 受診者に満足していただけるよう、健診結果を十分に説明し、かつ事後の健康支援に努めます

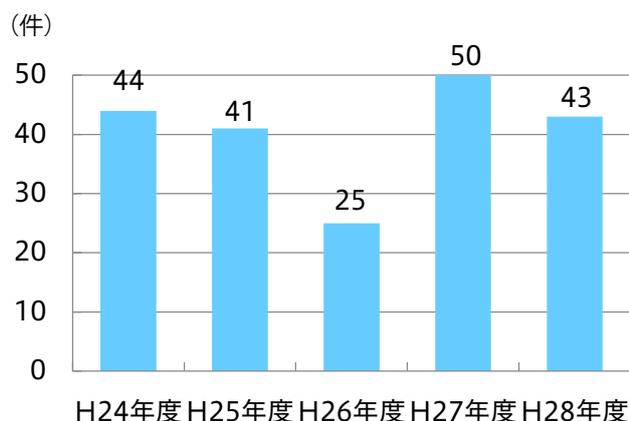
予防医学センター 運営方針

私たちは、受診者との心のふれあいを大切に信頼される予防医学をめざします。

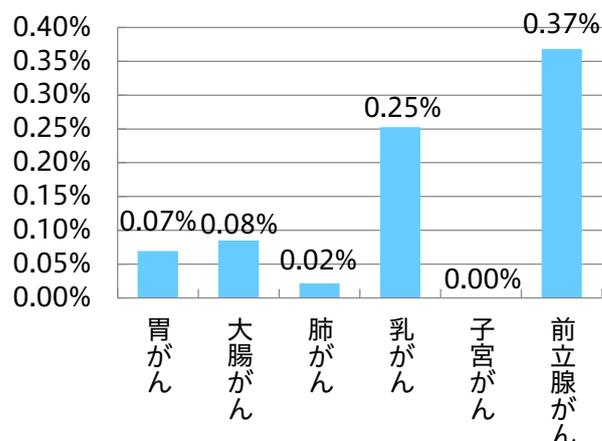
検査件数



悪性腫瘍発見報告数



全受診者に対する悪性腫瘍発見率



活動実績

学会発表

演題名	主催(学会名)	場所	日時	参加者
オプション下部消化器内視鏡検査を導入しての報告	日本人間ドック学会	松元等級REIホテル	2016年7月28日～7月29日	甲斐博子
生活習慣病フォローアップの取り組みについて	日本人間ドック学会	松元等級REIホテル	2016年7月28日	桃原勝美
自動電話システムの導入	全日本病院学会	熊本県	2016年10月8日	宮城さおり

院外勉強会

演題名	主催(学会名)	場所	日時	参加者
健診機関交流会	中部地区医師会	中部地区医師会健診センター	2016年4月4日	知花幸子・呉屋みなみ
心臓超音波セミナー	GEヘルスケア・ジャパン	浦添市産業振興センター	2016年4月9日	砂川 実・川上国男・上地利恵子
看護協会通常総会・全国機能別交流集会	日本看護協会	千葉県 幕張メッセ	2016年6月7日～6月9日	小橋川広美
看護職と倫理～患者の権利擁護を考える～	沖縄県看護協会	大浜第一病院	2016年6月30日	小橋川広美
二次健診研修会	宜野湾市 健診増進課	宜野湾市保健相談センター	2016年11月22日	桃原勝美
特定保健指導担当者合同会議	全国健康保険協会沖縄支部	沖縄産業支援センター	2017年3月9日	桃原勝美
宜野湾市二次健診研修会	宜野湾市 健診増進課	宜野湾市保健相談センター	2017年3月28日	桃原勝美
特定保健指導担当者合同会議及び研修	全国健康保険協会 沖縄支部	沖縄県産業支援センター	2017年3月10日	呉屋みなみ・桃原勝美

院内勉強会

演題名	講師	場所	日時	参加人数
症例検討：覚醒度判定基準のながれ	看護部	9階 検査フロア	2016年4月3日	22人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年4月18日	6人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年5月23日	6人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年5月24日	6人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年5月25日	6人
ピロリ菌と疾患	宮里稔副センター長	9階 検査フロア	2016年6月9日	29人
症例検討：脳ドック時の転倒への対応	看護部	9階 検査フロア	2016年8月25日	22人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年9月12日	6人

演題名	講師	場所	日時	参加人数
脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査	NKメディコ	9階 検査フロア	2016年9月15日	27人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年10月21日	6人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2016年11月21日	6人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2017年2月20日	6人
糖尿病の薬	糖尿病療養指導士・堀江恭子	8階 検査フロア	2017年3月7日	30人
乳腺 勉強会	野村寛徳	9階 検査フロア	2017年3月27日	6人

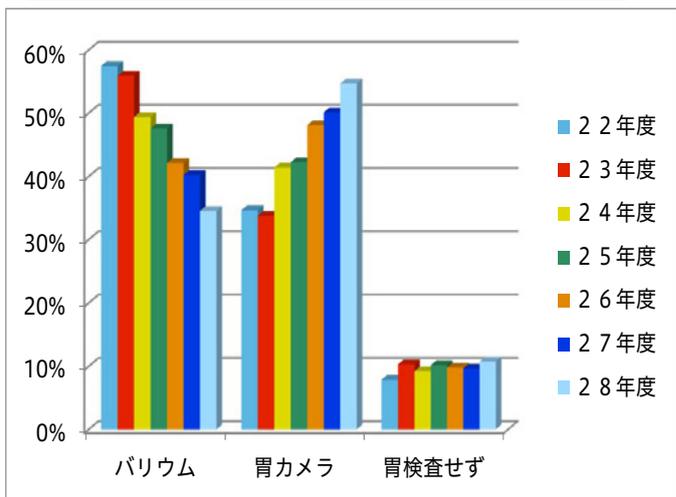
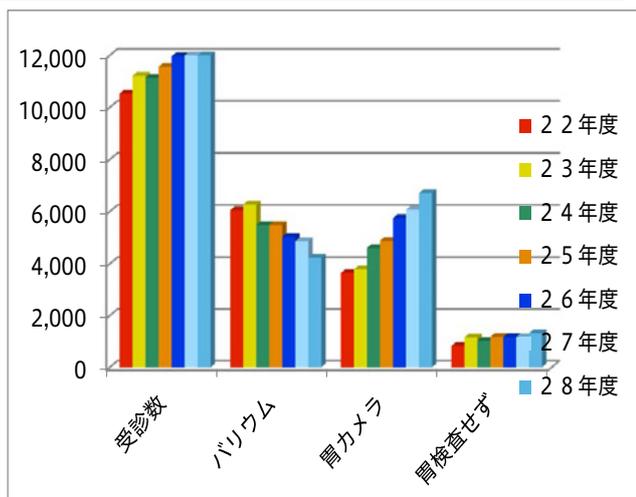
実績報告資料等

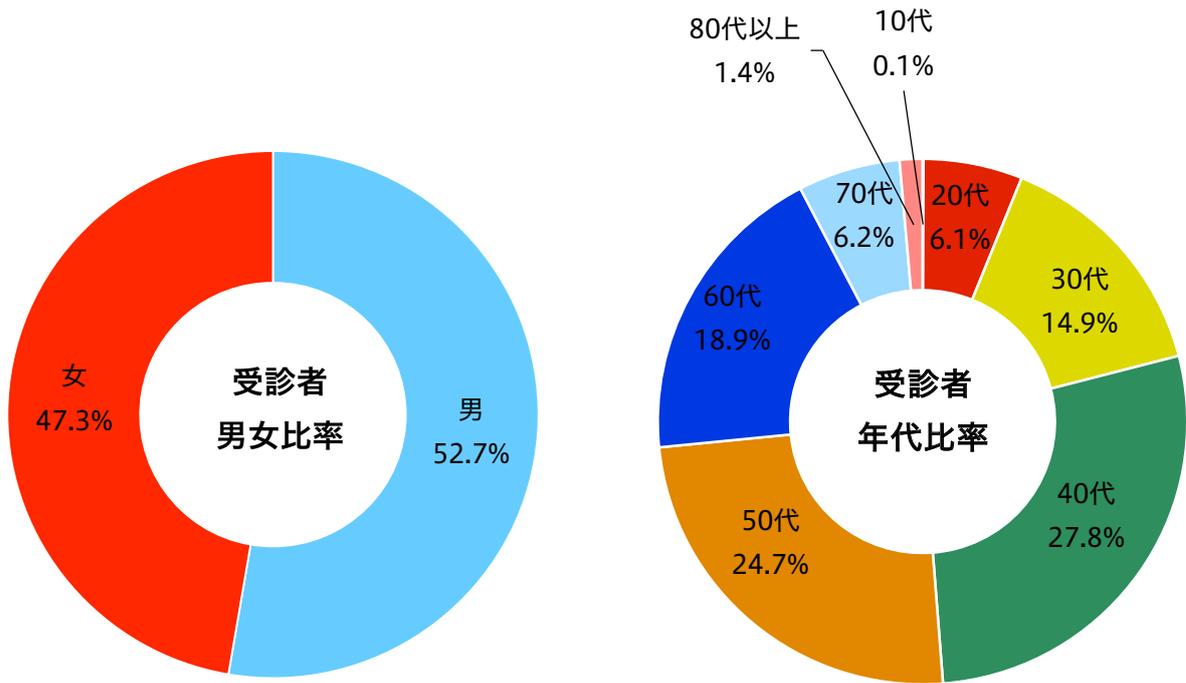
日帰りドックの胃検診の推移 (件数)

年度	受診数	バリウム	胃カメラ	胃検査せず
22年度	10,532	6,052	3,650	830
23年度	11,215	6,270	3,788	1,157
24年度	11,137	5,499	4,613	1,025
25年度	11,561	5,498	4,886	1,177
26年度	11,967	5,041	5,755	1,171
27年度	12,115	4,874	6,072	1,169
28年度	12,270	4,239	6,710	1,321

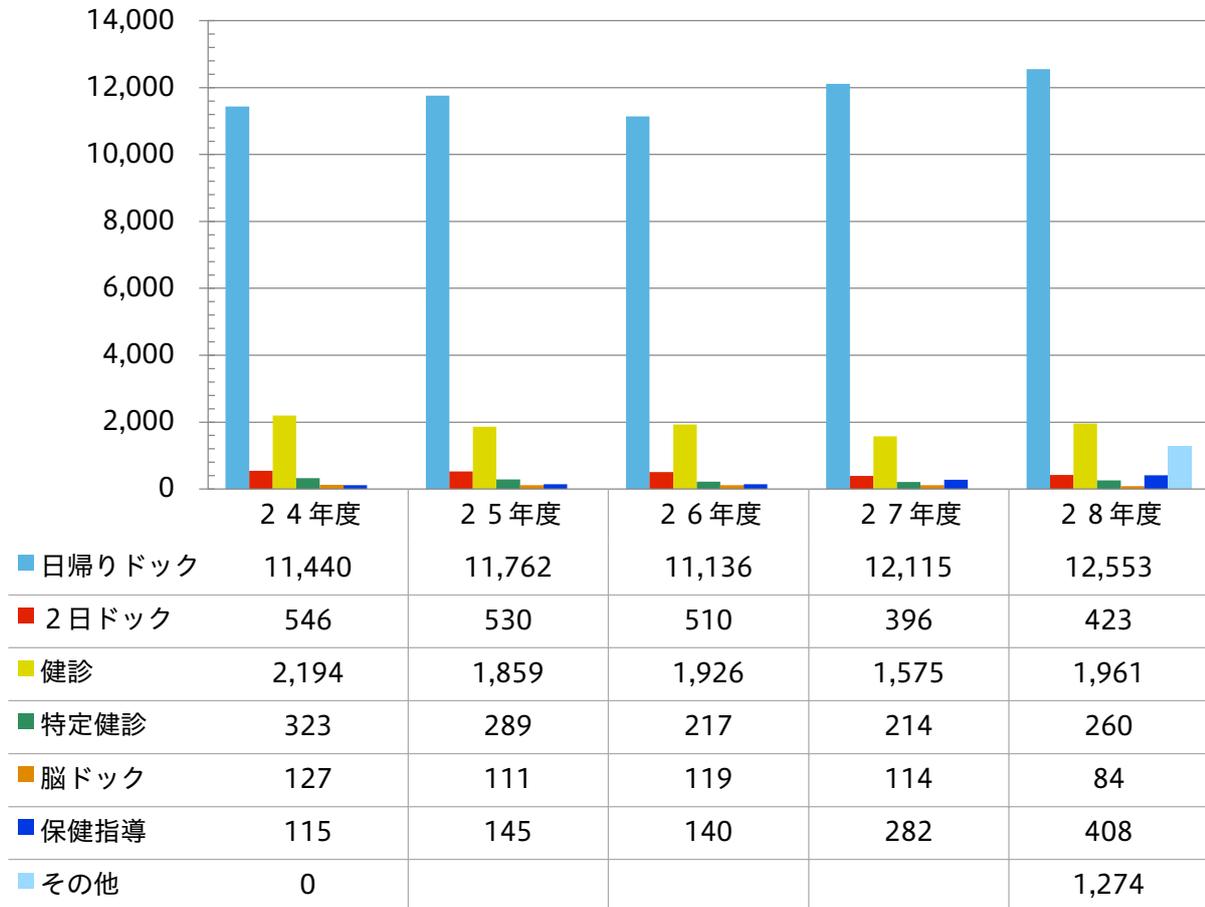
日帰りドックの胃検診割合の推移 (割合%)

年度	バリウム	胃カメラ	胃検査せず
22年度	57%	35%	8%
23年度	56%	34%	10%
24年度	49%	41%	9%
25年度	48%	42%	10%
26年度	42%	48%	10%
27年度	40%	50%	10%
28年度	35%	55%	11%





受診者数の推移



予防医学センター 年度総括



予防医学センター
センター長
謝花 隆光

平成 28 年度の予防医学センターは、前年度の人間ドック健診施設認定機能評価認定を受けて、人間ドック・健診受診者数増加、受診者の視点に立った業務改善、スタッフ教育の充実による健診・ドックの質の向上、オプション検査の充実はもちろんのこと、平成 29 年度から始まる改築に向けての具体的な課題に取り組みました。

1. 平成 28 年度の人間ドック・健診受診者数は 16,963 人で、平成 27 年度より 2,267 人の増加となりました。前年度に引き続き、消化器内科の先生方と内視鏡センターの皆様の御協力により、胃カメラ検査において経鼻内視鏡導入および早朝検査枠設置による検査枠の拡大を図ったことと、事前に受診予約者への自動音声連絡システムを導入したことで、キャンセル率が減ったことも受診者数増加の要因の一つと考えられます。
2. 受診者の視点にたったサービスを提供するため、投書やゆいまーノート（健診ドック終了後、自由に意見を記入してもらったもの）の意見や苦情、提案に対して、改善点を貼り出し、受診者にフィードバックしています。
3. 平成 27 年度より院内での 2 日ドック（宿泊）が廃止となり、ホテルでの宿泊コースと自宅からの通院 2 日コースの選択となりましたが、平成 28 年度もそのいずれかからの選択制を継続しました。
4. 大腸カメラ検査、CT 検査や MRI 検査、乳腺エコー検査、マンモグラフィーなど、その他ほとんどのオプション検査項目で検査数が増加しています。平成 28 年度より、オプションとして、血清ピロリ菌検査が加わりました。また琉球大学放射線科との提携により、PET 検査もオプションとして選択できるようになりました。平成 29 年度は、血液検査オプションとして、アレルギー検査（36 項目）が加わります。
5. 平成 27 年 12 月より、改正労働安全衛生法により該当する企業・事業所に対して、雇っている労働者のストレスチェックが義務化されましたが、引き続き当センターでもストレスチェックを継続していきます。
6. 医師や看護師・保健師チーム、検査科、外部からの講師による勉強会を頻回に行い、また病院の勉強会にも積極的に参加して、スタッフ間の共有知識を増やし、日常業務に役立てています。平成 28 年度は人間ドック学会学術大会で 2 題、全日本病院学会で 1 題の演題発表を行いました。

平成 28 年度も、診察や読影に御協力して下さった医局の先生方、看護部、放射線科、臨床検査科、各外来診療科、救急室、内視鏡センター、ハートライフクリニック、薬局、地域医療連携室、栄養科、厨房、食堂とまと（敬称略）、その他各部署の御協力を深く感謝申し上げます。

委員会活動

医療安全管理委員会

委員会名	医療安全管理委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	29 名
事務局・担当部署	医療安全管理室	担当者名	外間真紀子
委員名	<p>【医局】久場良也、高良 誠、石川瀬里、湧川 林、仲本 寛 【看護部】宮平典子、外間真紀子、安村公均、古波倉美登利、宮城幸恵、堀江恭子（糖尿病療養指導士）、甲斐博子 【医療技術部】神谷乗敏、田中健嗣、田中 泉、大城 安、野原 剛、久場徳子、石原悟、大城盛彦、照屋俊樹、斉藤辰好、翁長宏人、池村久美子（臨床心理士） 【事務部】仲地智俊、宮城淳、河上裕一、大湾政作</p> <p>【ハートライフクリニック】林 広江</p>		
活動目的	<p>1) 医療事故防止のための安全管理体制を確立し、患者中心の医療そして医療全体の質の向上をはかる。 2) 医療事故やニアミスの情報を収集し、分析して具体的な事故防止対策に役立てる。</p>		
活動内容	<p>1) 医療事故防止策の検討及び研究に関すること 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること 3) 医療事故防止のための職員に対する指示に関すること 4) 医療事故防止のために行う提言に関すること 5) 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること 6) リスクマネージャーの養成に関すること 7) その他医療事故の防止に関すること ※委員会開催：毎月第 3 金曜日 17:00 ～</p>		
備考			

医療ガス安全・管理委員会

委員会名	医療ガス安全・管理委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	14名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	野原 剛
委員名	【医 局】久場良也 【看護部】仲地ますみ、内間幸人、安村公均、外間真紀子、米須智子、宮平典子、古波倉美登利、竹本直美、宮城 つかさ 【医療技術部】野原 剛、田中 健嗣 【事務部】比嘉 靖、具志堅徳明		
活動目的	医療ガス（診療に供給する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素をいう）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。		
活動内容	1. 医療ガス設備について実施責任者に保守点検を行わせること。監督責任者は、実施責任者による業務を指導、監督する。 2. 帳簿を備え、行った保守点検業務について記録を作成し保存する。 3. 医療ガス設備に係る新設及び増設工事・部分改造・修理等に当たっては臨床各部門にその旨周知徹底を図り、使用に先立って厳正な試験・検査を行い、安全を確保する。 4. 医療施設内の各部門に医療ガスにかかわる知識を普及し、啓発に努める。 5. その他医療ガスに関わる事項。		
備考	平成28年度の振り返り 医療ガス安全・管理委員会は医療ガス（診療に供給する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素をいう）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的に取り組んでいます。 ※医療ガス安全・管理委員会事務局担当者が大城から野原へ変更になりました。 平成29年度に向けた展望 平成29度は医療ガスの安全管理教育を当院の医療ガス安全・管理委員が行う予定です。 また、医療ガス法定点検及び自主点検を確実に実施します。		

実績報告資料等

平成28年度 医療ガス設備点検整備報告書

平成29年4月12日

(院内アウトレット)点検・修理・取替実施箇所

1. 9/23(金)～10/1(土) 全館医療ガス設備保守点検(オカノ)

(マニホールド室)点検・修理取替実施箇所

1. 5/25(水) 予備酸素マニホールド取替工事(ボンベ4本増設)
2. 5/29(土) 笑気マニホールド・窒素マニホールド取替工事
3. 7/7(木) 医療ガス設備定期自主点検
4. 9/23(金)～10/1(土) 医療ガス設備保守点検(オカノ)
5. 9/26(月) CE設備定期自主検査(オカノ)

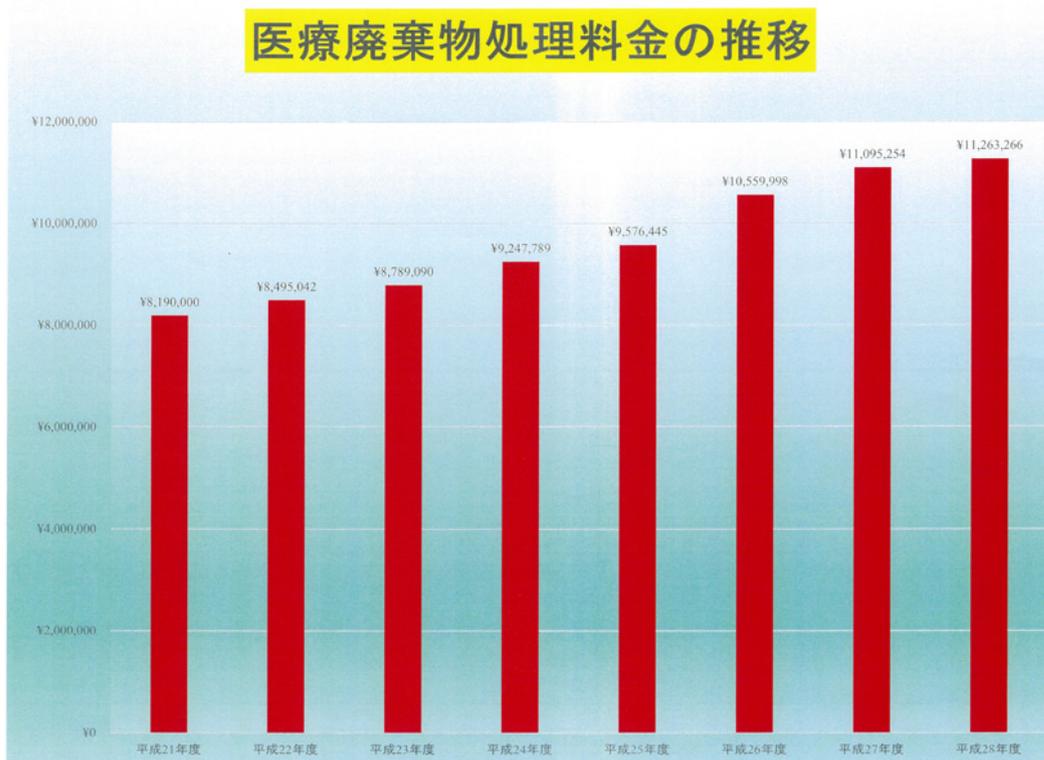
医療事故対策委員会

委員会名	医療事故対策委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	13 名
事務局・担当部署	医療安全管理室	担当者名	外間真紀子
委員名	【医 局】久場良也、佐久川 廣、西原 実、宮平 工、與座 一、末吉健次 【医療安全管理室】外間真紀子専任看護師 【看護部】宮平典子、池村久美子（メディエーター） 【事務部】當銘秀之、仲地智俊、宮城 淳、河上裕一		
活動目的	病院で発生する医療事故、訴訟問題に迅速に対応するとともに適切な対応を図るため		
活動内容	1) 医療事故発生の事実及び経過の確認に関すること 2) 医療事故の原因調査に関すること 3) 医療事故発生に伴う対応策に関すること 4) 訴訟等の対応策に関すること		
備考			

医療廃棄物委員会

委員会名	医療廃棄物委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	21 人
事務局・担当部署	事務部	担当者名	宮里 毅
委員名	【医 局】普天間光彦 【看護部】宮平典子、内間幸人、安村公均、外間真紀子、米須智子、諸喜田久美、島袋 すが子、比嘉憲貴、宮城つかさ、古波蔵 美登利、竹本直美、石川由希 【医療技術部】仲座義富、斎藤辰好、神谷乗敏、田中健嗣、砂川 実 【事務部】吉川 忍、宮里 毅、大城利信(国際ビル)		
活動目的	医療廃棄物の管理に関する基準を定め、医療廃棄物を適正に処理し、感染を防止する。		
活動内容	年 1 回以上、必要に応じて管理委員会を開催する。 1) 年 1 回、4 月入職者へのオリエンテーション 2) 国際ビル産業職員への処理及び取り扱い、感染対策等の説明指導 3) 処理法変更時、各部署へ説明指導		
備考			

実績報告資料



院内感染対策委員会

委員会名	院内感染対策委員会		
委員長名	普天間光彦	構成人数	18名
事務局・担当部署	感染対策管理室	担当者名	石川由希
委員名	【感染対策管理室】石川由希(感染管理認定看護師) 宮城好美 / 大湾政作(事務) 【医局】普天間光彦、奥島憲彦、花城直次、国島知子、国古史雄、仲吉博亮、大山恵理子(研修医) 【看護部】宮平典子、宮城美那(手術室 / 感染管理認定看護師)、城間克也(ICU/ 感染管理認定看護師) 【医療技術部】神谷乗敏、田中健嗣、宮城 健 【事務部】當銘秀之、桑江 高		
活動目的	1) 感染発生の予防と防止 2) 感染発生時の発生源の調査、拡散防止、治療 3) 再発防止 4) アウトブレイク時の早期対応 5) サーベイランスの実施		
活動内容	1) サーベイランスの計画、実施、評価 2) アウトブレイクの調査と対策への直接関与 3) 医療従事者への教育 4) 感染委員会のマネジメント 5) 感染管理に関する相談 6) 厚生労働省サーベイランス JANIS への参加 7) 部署のラウンドとチェック、指導 *耐性菌・抗菌薬ラウンド: 毎週月曜日 14 時～ *環境ラウンド: 1 回 / 月 15 部署 *感染対策委員会: 毎月第 3 月曜日 17 時～ * ICT 会議: 毎週月曜日 14 時 30 分～		
備考			

実績報告資料等



衛生委員会

委員会名	衛生委員会		
委員長名	奥島 憲彦	構成人数	15 名
事務局・担当部署	事務局	担当者名	吉川 忍
委員名	【医 局】奥島憲彦、菅谷明子、菅野善一郎 【看護部】宮平典子、池村久美子、石川由希、屋我裕子 【医療技術部】神谷乗敏、仲座義富、田中健嗣 【事務局】吉川 忍、波平 勇一郎、大山 朝史、宮城さおり 【ハートライフクリニック】高橋紗也子		
活動目的	職員の健康保持及び、健康増進を図る 職員のメンタル不調の予防		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 春季職員健診、秋季職員健診の実施 ● メンタルヘルス研修会の開催（全職員対象、役職者対象を各 3 回） ● 職業性ストレス簡易評価（Web）の実施 ● 職員 B 型ワクチン接種 3 回実施 ● 職員インフルエンザワクチン接種の啓蒙 ● 針刺し事故に対するフォロー実施 ● 喫煙に関するアンケート調査実施 ● 職員満足度調査（H27.11）ワークライフバランス委員会と共同 ● ひやみかち健康経営宣言登録（沖縄労働局） ● 第 1 種衛生管理者資格取得（15 名） ● 衛生工学衛生管理者資格取得（2 名） 		
備考			

実績報告資料等



ひやみかち健康経営宣言

厚生労働省 沖縄労働局 「ひやみかち健康経営宣言」
No. 270306001
平成 27 年 3 月 6 日 登録
平成 年 月 日 更新

代表者メッセージ

沖縄が長寿日本一から転落して久しく、糖尿病罹患率が全国 1 位、肥満率も全国 1 位と長寿日本一から遠退く一方です。出生率は全国一位で少子高齢化は全国と比較すると緩やかですが、高齢者の割合も高くなっています。しかし、県民の寿命は短くなり健康寿命は更に短くなっています。健康寿命が長いことが沖縄の健康長寿日本一への最終目標で、それを実現するには現役世代の健康管理が最も重要と考えます。

社会医療法人かりゆし会では、地域の医療・保健・福祉を支える立場から「職員の健康無くして、地域の健康は守れない」をスローガンに健康経営を推進し、平成 26 年 4 月にワークライフバランス企業認証を取得いたしました。今後も、取り組みの継続と発展で、沖縄の健康長寿日本一に貢献して参ります。

取組事項

1. 「笑顔で親切」をモットーに、職員間のコミュニケーションを大切にす
2. 職員健診 100% 受診の継続
3. ハラスメントをしない・させない
4. 敷地内禁煙と禁煙奨励
5. メンタルヘルス研修会の実施と職場復帰支援
6. スポーツ大会・サークル活動などの余暇活動の支援

社会医療法人かりゆし会 社会医療法人かりゆし会 社会医療法人かりゆし会
ハートライフ病院 ハートライフクリニック ハートライフ地域包括ケアセンター
院長 奥島憲彦 院長 山本 壽一 センター長 西銘 宣子

「健康経営®」は N P O 法人健康経営研究会の登録商標です。


社会医療法人
かりゆし会 **ハートライフ病院**


社会医療法人
かりゆし会 **ハートライフクリニック**

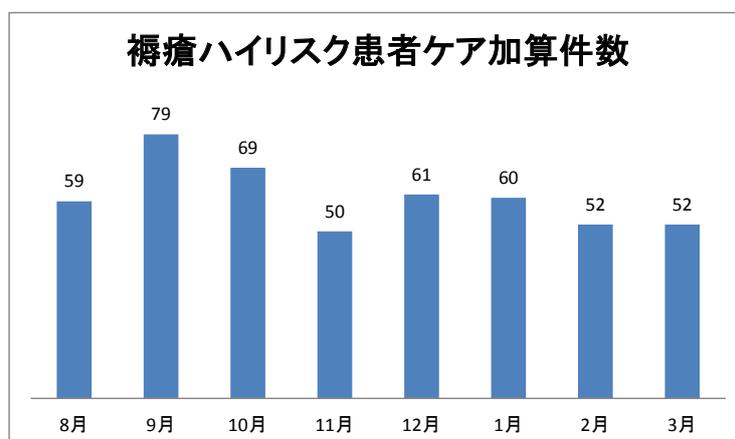
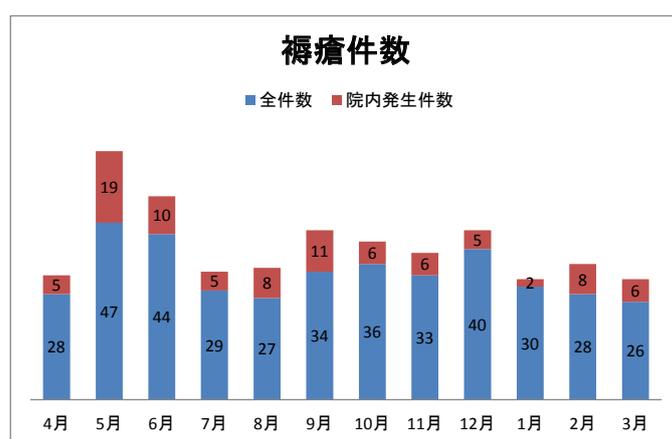
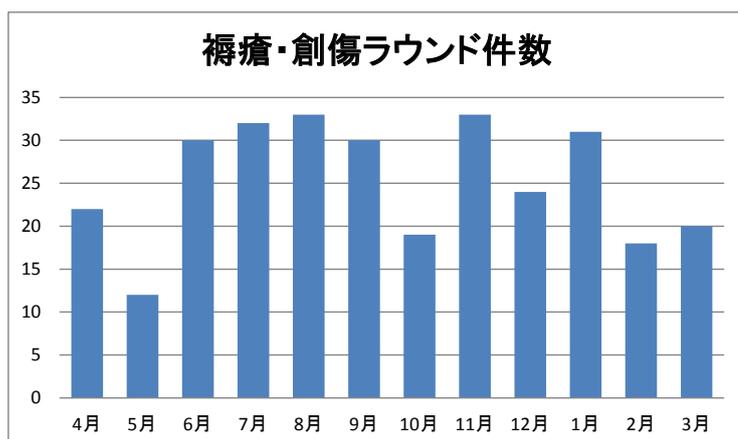

社会医療法人
かりゆし会 **ハートライフ地域包括ケアセンター**

<http://heartlife.or.jp/>

NST・褥瘡対策・排泄ケア委員会

委員会名	NST・褥瘡対策・排泄ケア委員会		
委員長名	宮平 工 (NST) / 東盛貴光 (褥瘡)	構成人数	52 名
事務局・担当部署	看護部	担当者名	嘉数智子
委員名	<p>【医 局】 宮平 工、宮城 純、阿嘉裕之、菅谷明子、東盛貴光、溝淵貴俊</p> <p>【看護部】 新川優子 (主任)、嘉数智子 (褥瘡管理専従)、橋本絵理、宮里伸也、本村いずみ、東 初美、神谷富士子、比嘉若菜、當真さゆり、足立聖子、中村智夏、伊敷よし乃、外間幸代、新地博美、與那嶺美咲、池原勇也、平田美加、佐藤広美、末吉彩夏、新垣涼香、与那城友子、前田利枝子、與那嶺裕、下地久美子、富盛真希、本郷朋美、平良りりー、川端みゆき、宮城久美子、米須さやか、松原賛美</p> <p>【医療技術部】 真栄城ゆかり (NST 専従)、翁長寛人、田中 泉、西盛麻子、義田育美、富田美智代、松川玲子、大城盛彦、島田真紀子、新垣 健、川本桂子</p>		
活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院患者の褥瘡発生を予防する 2. 褥瘡発生 (入院時より有する) 患者に対して適切なケアを実施する 3. 褥瘡ケアに対する質の向上 4. 低栄養にある患者のアセスメントを行い適切なアドバイスを行う 5. オムツ交換の手技だけではなく、患者さんにとって尊厳のある排泄ケアの実施 		
活動内容	<p>毎週水曜日：褥瘡回診、毎週木曜日：NST 回診を実施。</p> <p>外科医師、形成外科医師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、褥瘡専従看護師、NST 専従管理栄養士にて回診を実施。医師による処置だけではなく、低栄養にある患者の場合は栄養士や NST が介入し、理学療法士によるポジショニングの指導などを行っている。</p>		
備考	<p>褥瘡対策室看護師嘉数が皮膚・排泄ケア認定看護師取得 「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」算定開始 (平成 28 年度 7 月より)</p>		

実績報告資料等



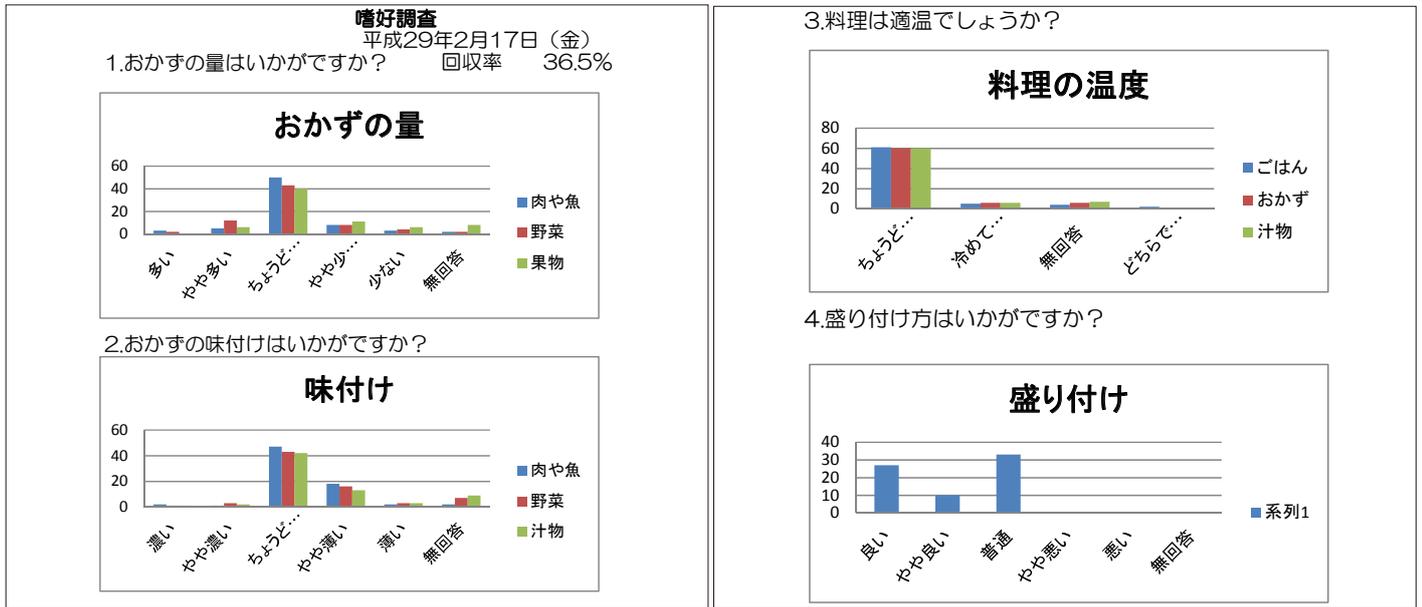
エネルギー管理委員会

委員会名	エネルギー管理委員会		
委員長名	松元 悟	構成人数	7名
事務局・担当部署	管財課施設管理係	担当者名	宮里 毅
委員名	【医 局】松元 悟 【看護部】宮平典子 【医療技術部】仲座義富 【事務部】當銘秀之、宮里 毅、具志堅 徳明 【クリニック】野村 拓		
活動目的	・各事業所の光熱費などが適正に使用されているかを年間を通して管理する。 ・省エネ器具や補助金などを活用して、費用削減に努める。		
活動内容	1. 毎月第 2 金曜日に委員を開催し、省エネの検討を行い理事会にて提案する。 2. コピー機のランニングコスト削減を行った。 3. 契約電力の見直しを継続して行っており、最適化を行っている。 4. エネルギー合理化補助金を取得するために、業者と調整中。		
備考	【平成 28 年度実績】 ・ 全館空調に関する補助金について申請準備が完了し、次年度 6 月初旬に申請 ・ コピー機単価削減について、5 年契約で約 1700 万の削減 【平成 29 年度目標】 ・ エネルギー使用量の 1%減 (対前年比) ・ CO ₂ (総排出量) 1%減 (対前年比) ・ 補助金を活用した老朽化機器の更新 (空調・照明) ・ 24 時間使用している照明の LED への変更		

栄養管理委員会

委員会名	栄養管理委員会		
委員長名	宮平 工	構成人数	14 人
事務局・担当部署	栄養科	担当者名	久場徳子
委員名	【医 局】宮平 工 【看護部】宮平典子、仲地ますみ、崎山久美、外間 真紀子、宮城つかさ、米須智子、比嘉暢、島袋すが子、安村公均、竹本直美、屋良ちえみ 【医療技術部】久場徳子 【事務部】宮城 淳		
活動目的	栄養管理の充実・向上とその適正な運営を図る		
活動内容	・嗜好調査、喫食調査（年 4 回） ・栄養管理の体制、食事計画、改善などの食事に関する検討と対策 ・上記の対策に対する評価		
備考			

実績報告資料等



【ご意見】 平成29年 2月17日（金）

- ・酢の物など酸味のあるものがほしい（常）
- ・食事時間帯の選択（常）
- ・1口しょうゆが濃い（常）
- ・濃い味が好きだけと病院食の味に慣れようと思います（常）
- ・味も良い（常）
- ・卵焼きに味が無い、お粥とても美味しい、たまにぬるい時がある（常）
- ・美味しいです（常）
- ・酢の物が薄く感じる、味が薄い場合もある、バランスがいい（
- ・選択メニューがあていい（常）
- ・味噌汁が受け付けられない（常）
- ・前は味噌汁においがあり食べ辛かったが、今は美味しい、野菜炒めが好み、煮付けが少し苦
- ・毎日美味しい食事を提供して頂き感謝しております。調理職員の皆さまがお元気で頑張ることを願っております。
- ・肉、チキンは入れないで下さい（エネ塩）
- ・白いドレッシングがよい（エネ塩）
- ・美味しい肉（エネ塩）
- ・できたら低カロリーのデザートがあると嬉しい（エネ塩）
- ・味覚障害の為、何が美味しいか濃いか薄いかわからなく困っている（糖）
- ・ネームプレートに食事内容の記載があると、食べるものがわかるので安心です（離
- ・見た目で彩りがあってほしい（軟エネ）

化学療法委員会

委員会名	化学療法委員会		
委員長名	西原 実	構成人数	13 名
事務局・担当部署	薬局	担当者名	大関秀和
委員名	【医 局】西原 実、友寄毅昭 【医療安全管理室】外間真紀子（専従看護師） 【看護部】安谷屋佳子、内間幸人、本田由佳理、宮城つかさ、仲田ひろ子 【医療技術部】田中健嗣、大関秀和、仲宗根ちひろ 【事務部】川満慎吾、田中淳也		
活動目的	当院で実施するすべての化学療法の医学的、薬学的、安全性及び経済学的評価を行い、その選択、購入、配布、及び使用等に関する勧告を行う。		
活動内容	1) 化学療法の運用上の改善を行う。 2) 化学療法に係る環境の整備を行う。 3) 院内で使用されるレジメンの検証を行う。 4) 使用薬剤、器具の整備を行う。 5) 勉強会、講演の企画を行う。 6) その他、化学療法に関わるすべての事項に関して検討・対応を行う。 ※委員会開催：毎月第一木曜日		
備考			

実績報告資料等

化学療法委員会

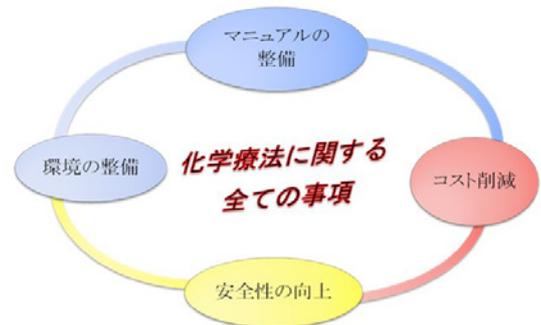
常任委員

友寄血液内科部長《委員長》
 西原外科系統括部長
 田中医薬品安全管理者
 大関副薬局長
 外間安全管理者
 安谷屋外来師長
 宮城4階病棟主任
 仲田6階病棟主任
 内間救急外来師長
 本田主任(外科外来)《事務局》
 仲宗根(薬局)《事務局》
 川満(MSW)
 田中(医事課)

非常任委員

佐久川副院長
 嘉川泌尿器科部長
 普天間呼吸器内科部長
 武田婦人科部長
 大西産科部長
 折田内視鏡センター長

化学療法委員会の役割



H28年度の活動内容

- プロトコールシステムの整備・改定
- マニュアルの整備・改定
- 新通院治療室の備品の検討
- がん治療学会への参加
- 化学療法同意書の改定
- 院内勉強会年2回開催
- 化学療法加算 1008件
- 外来通院治療室 化学療法件数 1460件

H29年度の活動目標

- プロトコールシステムの整備・改定
- マニュアルの整備改定(曝露対策マニュアル)
- 新外来通院治療室の運用開始
- 学会発表・参加
- 院内勉強会の開催
- 化学療法加算増加・がん患者指導料の算定増加への取り組み
- 無菌調整処理加算取得に向けた取り組み

がん対策推進委員会

委員会名	がん対策推進委員会		
委員長名	西原 実	構成人数	11名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	宮平奈美子
委員名	【医 局】西原 実、比嘉須奈子（メディカルクラーク） 【看護部】仲地ますみ、本田由佳理 【医療技術部】田中健嗣 【事務部】宮平奈美子、粟盛信子（入退院調整担当 / 看護師長）、新垣りか、桑江高、兼濱亜紀、望月祥子		
活動目的	がん診療を行う医療機関として、県、他医療機関との連携を取りながら、より充実したがん医療の提供の推進を図る。		
活動内容	1) セカンドオピニオン 2) 緩和ケア病院への紹介 3) がん患者さんの在宅退院への支援 4) 地域がん登録提出 5) 緩和ケア研修会開催（沖縄県・院内向け） 6) 沖縄県がん診療連携協議会聴講参加 7) 研修会受講の推進 8) その他		
備考			

実績報告資料等

H29年4月20日（木）がん対策推進委員会

H28年度実績													
I. セカンドオピニオン（件）													
＜当院受入れ＞			＜他院へ依頼＞			＜他院へ依頼＞			＜他院へ依頼＞				
H27年度			H28年度			H27年度			H28年度				
血液内科	7		血液内科	10		外科	22		外科	18			
消化器内科	4		消化器内科	5		婦人科	7		呼吸器内科	4			
婦人科	3		外科	4		血液内科	6		消化器内科	3			
外科	2		脳神経外科	1		消化器内科	5		血液内科	2			
脳神経外科	1		泌尿器科	1		呼吸器内科	3		婦人科	2			
形成外科	1					整形外科	1		循環器内科	1			
計	18		計	21		泌尿器科	1		泌尿器科	1			
						脳神経外科	1		脳神経外科	1			
						形成外科	1		形成外科	1			
						計	47		計	33			
II. 緩和ケア病院への紹介（件）													
＜病院別＞			＜病院別＞			＜科別＞			＜科別＞				
H27年度			H28年度			H27年度			H28年度				
AMC	10		AMC	10		外科	8		外科	13			
沖縄病院	4		沖縄病院	7		婦人科	5		血液内科	6			
オリーブ山病院	2		南部病院	2		血液内科	5		呼吸器内科	6			
南部病院	2		オリーブ山病院	1		消化器内科	3		消化器内科	4			
待機中に死亡	8		与勝病院	1		呼吸器内科	3		産婦人科	1			
計	26		待機中に死亡	9		泌尿器科	1		計	30			
			計	30		産婦人科	1						
						計	26						
III. がん患者在宅退院への支援（件）													
H27年度			H28年度			H27年度			H28年度				
外科	14		外科	8		外科	8		外科	8			
消化器内科	7		血液内科	4		消化器内科	4		消化器内科	4			
血液内科	5		消化器内科	3		呼吸器内科	3		呼吸器内科	3			
呼吸器内科	2		呼吸器内科	3		産婦人科	2		産婦人科	2			
産婦人科	2		泌尿器科	1		泌尿器科	1		泌尿器科	1			
泌尿器科	1		その他	2		その他	2		計	31			
計	31		計	23		計	26						
IV. 地域がん登録提出件数（沖縄県環境衛生研究所）													
H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	総計
623	337	379	249	197	313	23	81	662	763	1,022	600	353	5,602
V. 全国がん登録入力件数（沖縄県環境衛生研究所）													
H28年10月	H28年11月	H28年12月	H29年1月	H29年2月	H29年3月	VI. 院内がん登録提出件数（国立がん研究センター）							
40	40	50	68	100	65	症例年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
						提出年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
						件数	434	460	509	529	589		
VII. 研修会受講													
①第4回 沖縄県緩和ケア研修会 院内⇒ 医師 2名 看護師4名 薬剤師1名 MSW1名													
院外⇒ 医師19名 院外看護師3名 計30名													
②第4回 院内緩和ケア研修会 院内のみ⇒ 看護師7名 薬剤師2名 検査技師1名 作業療法士2名													
MSW1名 メディカルクラーク2名 計18名													
③がん対策推進企業アクション 統括セミナー参加 田中薬局長													
④第5回九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin沖縄 MSW川満・望月													
⑤院内がん登録実務初級研修会・初級修了者研修会/初級者認定試験 診療情報管理室 雨宮													
⑥院内がん登録実務中級研修会・中級修了者研修会 診療情報管理室 宮平 兼濱													
VIII. 第4回 沖縄県緩和ケア研修会開催 期日：H28年8月27日（土）・28日（日） 場所：当院 受講者30名													
IX. 第4回 院内緩和ケア研修会開催 期日：H29年1月7日（土） 場所：当院 受講者18名													
X. 平成28年度 沖縄県がん診療連携協議会聴講参加 第1回～第4回 計4回													
その他													
① おきなわがんサポートハンドブック2016年度版編集ワーキング（西田）													
② 沖縄県がん診療連携協議会ホームページ「がん種別セカンドオピニオンリスト」更新 8月													
③ 沖赤主催：沖縄県緩和ケア研修会 講師／ファシリテーター（西原）8月													
④ がん対策推進企業アクション がん検診のススメニュースレター2016 vol. 1～10配布													
⑤ 平成28年度 第5回九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム実行委員会（西田・望月）													
⑥ 院内がん登録2014年症例QI研究参加 7月													
⑦ 院内がん登録2015年症例 国立がんセンター提出 9月													
⑧ 沖縄県院内がん登録2014年集計参加（17病院） 12月													
⑨ 「子宮頸がん、乳がん検診調査票」受診率把握の為の女性職員アンケート実施 3月													

呼吸器ケア委員会

委員会名	呼吸器ケア委員会		
委員長名	普天間光彦	構成人数	8 名
事務局・担当部署	救急外来	担当者名	内間幸人
委員名	【医 局】 普天間光彦、菅谷明子、新垣珠代 【看護部】 内間幸人 【医療技術部】 仲松晋也、波平静香、狩俣貴康、弓濱義之		
活動目的	1) 人工呼吸器からの離脱に向けての支援（ウィニング計画立案・実施・コンサルテーション） 2) 人工呼吸器装着患者の合併症予防のための支援		
活動内容	1) 1 回 / 週のラウンドの実施 対象患者は、人工呼吸器装着中（NPPV 含む）で離脱を目指している患者 2) 呼吸ケア関連の勉強会の開催		
備考			

個人情報保護委員会

委員会名	個人情報保護委員会		
委員長名	仲地智俊	構成人数	5 名
事務局・担当部署	事務部	担当者名	仲地智俊
委員名	【医 局】 佐久川 廣（個人情報保護監査責任者） 【看護部】 宮平典子（部門責任者） 【医療技術部】 宮城 竜也（部門責任者） 【事務部】 當銘秀之（部門責任者）、仲地智俊（個人情報保護管理責任者）		
活動目的	社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院において、個人情報保護計画を策定し、実施・評価・改善を行い、当院職員に対して、個人情報保護を遵守する重要性を理解させ、実際に個人情報が適切に取り扱われることを活動目的とする。		
活動内容	1. 個人情報保護委員会における各委員の選出 2. 個人情報保護規定指針（ガイドライン）の策定・公示 3. 内部規定の策定 4. 個人情報の取り扱いに関わる同意書の整備 5. 個人情報漏洩時の報告および連絡体制の構築 6. 個人情報の取り扱いに関する相談窓口の設置 7. 個人情報保護にかかわる職員教育の実施 8. 委託業者の監督		
備考	主な実績報告 ①平成 28 年 4 月 新入職員オリエンテーションにて個人情報保護に関する説明を実施（広報係） ②平成 28 年 5 月 ツイッター利用時の個人情報に関する取り扱いについての注意喚起 ③平成 28 年 8 月 知人が患者さんとして受診した際の個人情報取り扱いに関しての注意喚起 ④平成 28 年 10 月 当院取材時の個人情報取り扱いについてマスコミへ注意喚起		

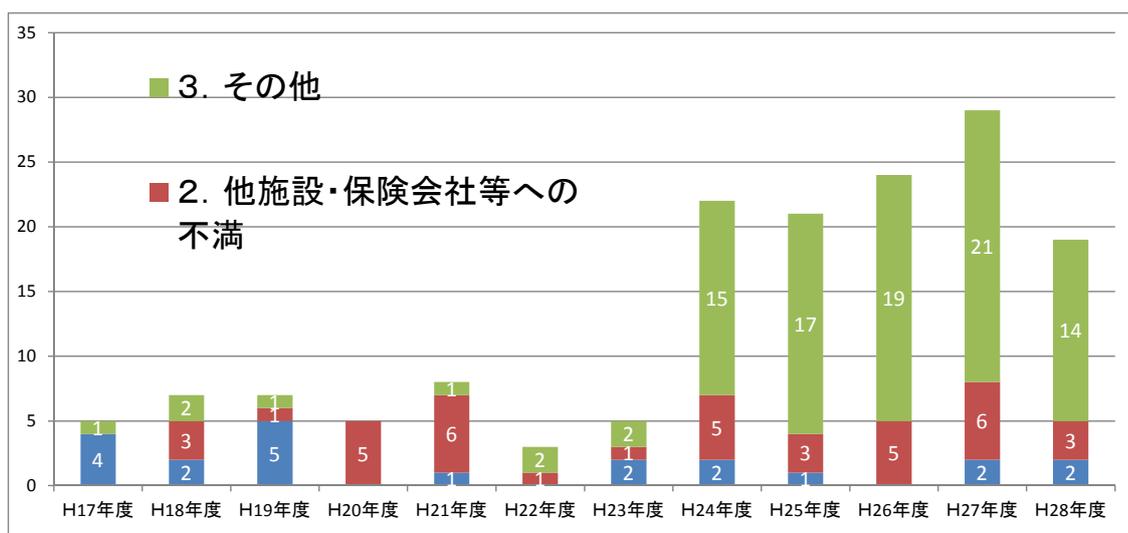
診療録管理委員会

委員会名	診療録管理委員会		
委員長名	佐久川 廣	構成人数	15名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	柳 学
委員名	【医 局】佐久川 廣、普天間光彦 【医療技術部】神谷乗敏、田中健嗣、久場徳子、石原 悟、新垣 健、仲松晋也 【医療安全管理室】外間真紀子 【事務部】柳 学、宮城克己、大城真澄、翁長良篤、呉屋亮太 【ハートライフクリニック】野村 拓		
活動目的	診療録管理委員会は、診療録帳票の検討、記載要領及び診療録の適切で効率的な利用、保管の為に必要な事項を調査、検討するため、また、診療情報の適用の可否を審議することを目的とする。		
活動内容	委員会毎月1回定例とし、第4水曜日に開催することを原則とする。 1) 検査伝票、診療帳票等の新規作成、改定に関すること 2) 入院、外来診療録の整備と質的向上の為に諸条件に関すること 3) 診療に関する諸様式の整備改定に関すること 4) 診療情報管理室の効率的な管理運営に関すること 5) 診療録管理に関すること 6) 診療情報の提供に関すること 7) その他		
備考			

実績報告資料等

診療録開示件数の推移(申請理由別)

年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
1. 診療に対する不満	4	2	5	0	1	0	2	2	1	0	2	2
2. 他施設・保険会社等への不満	0	3	1	5	6	1	1	5	3	5	6	3
3. その他	1	2	1	0	1	2	2	15	17	19	21	14
計	5	7	7	5	8	3	5	22	21	24	29	19



卒後臨床研修管理委員会

委員会名	卒後臨床研修管理委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	48 名
事務局・担当部署	卒後臨床研修事務局	担当者名	當銘麻子
委員名	<p>【医 局】奥島憲彦、普天間光彦、久場良也、佐久川 廣、西原 実、山本壽一、宮平 工、友寄毅昭、宮城 純、與座 一、国島知子、渡慶次 学、大西 勉、武田 理、嘉川春生、東盛貴光、末吉健次、太田沙也加、大山恵理子、仲本 寛、仲本正哉、宮城優樹、林絹子、石川瀬里、金城(根間)優美、牟田宏樹、山田義貴、湧川 林</p> <p>【看護部】宮平典子</p> <p>【医療技術部】宮城竜也</p> <p>【事務局】當銘秀之、當銘麻子、新屋瑞希</p> <p>【外部委員】川平 稔、垣花 学、佐藤香代子、渡部 尚、涌波淳子、涌波 満、中田安彦、深谷幸雄、阿部好弘、新里 脩、朝戸末男、安里尚彦、松本ノリス、今井千春、玉城 仁 ※敬称略、順不同。</p>		
活動目的	本委員会は、当院研修プログラムの管理及び研修計画の円滑な実施や研修管理委員会に関する事項について連携し、より具体的な業務を行う。また、卒後臨床研修管理委員会の運営に関し必要な事項を審議するため、卒後臨床研修委員会運営協議会を設置している。		
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 28 年度採用初期研修医第 13 期生 (5 名) の紹介 2. 研修スケジュールの確認 3. 初期研修再開希望者の採用について (書面会議) 4. 平成 27 年度採用初期研修医第 12 期生 (5 名) の修了判定 5. 平成 30 年度初期臨床研修医募集要項の確認 6. 研修医からの意見・要望等の取り入れ・検討 		
備考			

実績報告資料等

卒後臨床研修管理委員会

活動目的

本委員会は、当院研修プログラムの管理及び研修計画の円滑な実施や研修管理委員会に関する事項について連携し、より具体的な業務を行う。

また、卒後臨床研修管理委員会の運営に関し必要な事項を審議するため、卒後臨床研修運営協議会を設置している。

活動内容

1. 平成 28 年度採用初期研修医第 13 期生 (6 名) の紹介
2. 研修スケジュールの確認
3. 初期研修再開希望者の採用について (書面会議)
4. 平成 27 年度採用初期研修医第 12 期生 (5 名) の修了判定
5. 平成 30 年度初期臨床研修医募集要項の確認
6. 研修医からの意見・要望等の検討、取り入れ

RyuMIC・群星共同ハートライフ病院研修管理運営組織と責任者

- RyuMIC・群星共同ハートライフ病院初期臨床研修プログラムによる初期臨床研修の最終責任者は、ハートライフ病院長であり、研修修了の認定は病院長が行う。
- RyuMIC・群星共同ハートライフ病院初期臨床研修プログラムを統括・管理し、実効のある研修を実施するため、本病院群 (RyuMIC・群星共同プログラム) に研修管理委員会を設置している。また、実際の研修計画の策定及び円滑な実施、カリキュラム管理、研修医のサポートを行うため、ハートライフ病院長の下に卒後臨床研修管理委員会を設置している。

平成28年度第1回卒後臨床研修管理委員会(平成28年6月2日開催)
 平成28年度第2回卒後臨床研修管理委員会(平成28年10月12日開催※書面会議)
 平成28年度第3回卒後臨床研修管理委員会(平成29年3月2日開催)



地域医療支援病院運営委員会

委員会名	地域医療支援病院運営委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	15名
事務局・担当部署	地域医療連携室	担当者名	新垣りか・砂川直樹・仲地智俊
委員名	【医局】奥島憲彦、松元 悟、久場良也、佐久川 廣 【看護部】宮平典子 【事務部】當銘秀之 【外部委員】中城村長 浜田京介、西原町長 上間明、宜野湾市長 佐喜眞淳 中城北中城消防本部 消防長 安里常要、東部消防組合消防本部 消防長 神里昌二 宜野湾市消防本部 消防長 浜川秀雄、中部地区医師会理事 今井千春 中部地区薬剤師会 会長 前原信照、中部地区婦人連合会会長 比嘉光子 ※敬称略、順不同。		
活動目的	ハートライフ病院が地域のかかりつけ医、かかりつけ歯科医などからの要請に適切に対応し、地域における医療の確保に必要な支援を行うため、ハートライフ病院地域医療支援病院運営委員会を設置する。		
活動内容	地域医療支援病院の認定に係る次の各項目について、内外の委員を招集し検討を行い、認定要件を満たしているかの確認および向上を図る。 (1) 開設者 (2) 紹介率(紹介率・逆紹介率) (3) 共同利用 (4) 救急医療 (5) 研修 (6) 病床数 (7) 構造設備 (8) 諸記録 (9) 委員会 (10) 患者相談 (11) その他 (12) 居宅等		
備考	年度に1回以上委員会を開催する。		

地域医療支援病院認定に係わる以下の情報は、「病院概要」および「患者統計・病歴統計」をご参照ください。

(1)開設者 (2)紹介率(紹介率・逆紹介率) (3)共同利用 (4)救急医療

(5)研修 (6)病床数

(7) 構造設備

「集中治療室、化学・細菌及び病理の検査施設、病理解剖室、研究室、講義室、図書室、救急用または患者輸送用自動車、医薬品情報管理室」の設置が承認要件で、当院は満たしております。

(8) 諸記録

諸記録の①保存・管理や②閲覧など、日本医療機能評価機構の基準をクリアしており、診療情報管理室を中心に質の向上を図っております。

(9) 委員会

本委員会の設置にてクリアしております。

(10) 患者相談

専用の面談室あり。医療ソーシャルワーカー6名および医療メディエーター1名を配置して対応しております。

(11) その他

患者相談業務および地域の診療所等と、円滑に連携が行われる体制がとられております。

(12) 居宅等

主に在宅支援診療所や訪問看護ステーションなどの、在宅医療を担う医療機関との連携を行っております。

治験審査委員会

委員会名	治験審査委員会		
委員長名	松元 悟	構成人数	8 名
事務局・担当部署	治験管理センター、薬局	担当者名	田中健嗣
委員名	【医局】松元 悟、佐久川 廣、嘉川春生 【医療技術部】田中健嗣 【事務部】宮城 淳、大山朝史 【外部委員】2 名		
活動目的	治験を行う為に必要な第 3 者機関（院長の諮問機関）として、「治験の原則」に従って、すべての被験者の人権の保護、安全の保持および福祉の向上を図ることを目的とする。治験を開始する前から終了後に至るまで、その責務は継続するものである。		
活動内容	稼働治験数 :2 件		
備考			

実績報告資料等

<h4 style="color: blue;">主な役割</h4> <ul style="list-style-type: none"> • 治験を行う為に絶対に必要な第3者機関 • 病院長の諮問機関 • 医薬品、医療機器の主に開発データの収集を目的とするヒトを用いた「臨床試験」を客観的に判断し、実施の可否を検討する • 患者に不利にならないように眼を光らせ、安全に治験が行えるように迅速に対応する第3者機関 	<h4 style="color: blue;">対象となる案件</h4> <ul style="list-style-type: none"> • 治験（開発試験） • 市販後臨床試験 • 医師主導型臨床試験 <p style="text-align: right; font-size: small;">2017年3月現在</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #4F81BD; color: white;"> <th style="font-size: x-small;">年度</th> <th style="font-size: x-small;">H28</th> <th style="font-size: x-small;">H27</th> <th style="font-size: x-small;">H26</th> <th style="font-size: x-small;">H25</th> <th style="font-size: x-small;">H24</th> <th style="font-size: x-small;">H23</th> <th style="font-size: x-small;">H22</th> <th style="font-size: x-small;">H21</th> <th style="font-size: x-small;">H20</th> <th style="font-size: x-small;">H19</th> <th style="font-size: x-small;">H18</th> <th style="font-size: x-small;">H17</th> <th style="font-size: x-small;">H16</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: x-small;">稼働治験数</td> <td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> <tr> <td style="font-size: x-small;">終了治験</td> <td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td> </tr> <tr> <td style="font-size: x-small;">医師主導型臨床試験</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> <tr> <td style="font-size: x-small;">開催回数</td> <td>8</td><td>10</td><td>11</td><td>8</td><td>10</td><td>8</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> <tr> <td style="font-size: x-small;">断った数</td> <td>0</td><td>0</td><td>20</td><td>13</td><td>30</td><td>12</td><td>11</td><td>14</td><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	稼働治験数	2	2	3	3	3	4	2	2	2	0	0	0	0	終了治験	1	1	0	0	1	1	1	2	0	—	—	—	—	医師主導型臨床試験	0	0	0	0	1	1	1	1	3	0	0	0	0	開催回数	8	10	11	8	10	8	6	5	4	0	0	0	0	断った数	0	0	20	13	30	12	11	14	3				
年度	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16																																																																								
稼働治験数	2	2	3	3	3	4	2	2	2	0	0	0	0																																																																								
終了治験	1	1	0	0	1	1	1	2	0	—	—	—	—																																																																								
医師主導型臨床試験	0	0	0	0	1	1	1	1	3	0	0	0	0																																																																								
開催回数	8	10	11	8	10	8	6	5	4	0	0	0	0																																																																								
断った数	0	0	20	13	30	12	11	14	3																																																																												

薬事審議委員会

委員会名	薬事審議委員会		
委員長名	松元 悟	構成人数	9名
事務局・担当部署	薬局	担当者名	田中健嗣
委員名	【医 局】松元 悟、久場良也、佐久川 廣、普天間光彦 【看護部】西銘宣子 【医療技術部】田中健嗣、翁長寛人 【事務部】當銘秀之、宮城 淳、幾野 伸夫		
活動目的	毎年、多くの医薬品が開発され、新たに薬価収載されている。この数多くの市販される医薬品の中から、患者個々の病態や経済性に考慮した医薬品を選定することは、薬物療法を適正に行うにあたって重要な事である。また、同種・同効の医薬品ならびに後発医薬品が多く薬価収載されており、これらの医薬品を無秩序に購入し使用することは、医学・薬学・経済面から見ても合理的であるとはいえない。さらに新規購入医薬品が増えることで、使用されなくなった既存の薬剤の整理を行わない限り、採用医薬品は増加し過剰在庫による経済的負担と、医薬品を管理する人的、スペース的負担を増加させる。従って薬物療法の適正化と、医薬品管理業務における、医薬品の流通を円滑に行う為に、薬事審議委員会を設置する。		
活動内容	委員会の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用医薬品の採用 ・ 医薬品の適正な使用方法の協議 ・ 後発医薬品の採用方法 ・ 医薬品の副作用及び感染症の協議 ・ 既採用医薬品の再評価の必要性 ・ 在庫医薬品の適切な管理と運用 ・ 陳旧化した医薬品の取り扱い ・ 病院医薬品集・医薬品情報等について ・ 同種・同効薬の再評価 ・ 臨床試用医薬品の採否の決定 ・ 院内製剤の採否の決定 		
備考			

実績報告資料等

実績

審査品目	28-1	28-2	28-3	28-4	28-5	28-6	合計
審査品目	27	29	19	23	30	21	149
薬剤種別							
先発品・新薬	10	4	6	7	7	13	47
後発品	8	8	8	1	3	0	28
院内製剤							0
その他	6	10	7	16	19	13	71
審議内容							
新規採用	10	4	10	8	7	17	56
切り替え採用	8	10	10	5	12	5	50
採用規格追加	0	1	1	1	4	5	12
採用状況の変更	3	3	0	11	3	0	20
臨時採用	0	1	4	0	0	1	6
採用削除	1	2	0	5	3	2	13
限定設定状況							
患者限定	2	0	0	2	2	1	7
医師限定	2	0	0	0	2	0	4
診療科限定	5	6	7	3	2	4	27
外来限定	1	3	3	3	1	3	14
申請科・申請部署							
内科系	消化器	1			2	5	9
	呼吸器	2					3
	循環器	1	1		1		4
	血液	1	1	2	2	2	9
外科系	心療					1	1
	消化器			2		1	3
	乳腺形成		1	1			2
脳外科		1					1
整形外科	1	2				2	5
眼科	3				2	1	6
耳鼻科							0
泌尿器科	2		1	2		1	6
産婦人科	1	1					2
小児科	1						1
麻酔科			1				1
クリニック			1			1	2
薬局	9	20	11	15	19	4	78
その他		1			1	7	9

その他の審議事項

- 複数規格が採用になっている薬剤で、使用量が極端に少ない製剤の統一化を図った。
- 使用量上位の薬剤を中心に切り替えを行った。
- 事務局スタッフ退職に伴い、薬事事務局補佐員の変更を承認した。
- 開催日を隔月（奇数月）に変更した。
- 後発率向上のため、後発率調査・報告を定例化した。
- 患者限定薬のオーダー期限の設定ルールの見直しを行った。
- トロンピン製剤の適応外使用の検討を行った。
- 化血研の熊本工場被災に伴い、代替品の検討を行った。
- 電子処方箋に関して検討を行った。
- 一般名処方箋の導入の検討を行った。
- 「一回量」「一日量」併記について検討を行った。
- 注射オーダーの主義制限について検討を行った。
- 標準用法コードの導入の検討を行った。
- 納入価格交渉
- 禁忌薬情報の処方箋記載の検討を行った。
- 院内での使用量の少ない薬剤を抽出し、整理を行った。（下表参照）

院内採用削除及び院外限定切り替え薬剤一覧

薬品名	規格	薬品名	規格	薬品名	規格
ワッサーV配合顆粒	1g/包	シンセロン錠	8mg	セロトーン静注液	10mg
リンデロンA液	5mL/本	デスフェラル錠	500mg	リパロ錠	2mg
ムコスタ顆粒	0.5g/包	プレラン錠	1mg	ラミクタール錠	100mg
ガストローム顆粒	1.5g/包	ミニプレス錠	1mg	ダオニール錠	2.5mg
スクラルファート顆粒	1g/包	アマリール錠	3mg	グリミクロン錠	40mg

平成29年度目標

- 後発品使用率の向上及び維持（年間平均90%）。
- 院内採用薬を見直し、不動在庫の削減。
- 全体的な採用薬の見直し（同種・同効品の再評価）
- 採用ルール・審議検討ルールの見直し
- 医薬品情報士の資格取得の検討。

輸血療法委員会

委員会名	輸血療法委員会		
委員長名	佐久川 廣	構成人数	8 名
事務局・担当部署	臨床検査科	担当者名	蔵下 恒
委員名	【医局】佐久川 廣、阿嘉裕之 【看護部】安村公均、仲田ひろ子 【医療技術部】神谷敏敏、蔵下 恒、仲宗根ちひろ 【事務部】田中淳也		
活動目的	輸血療法の安全な実施及び血液製剤の適正使用を図ることを目的し、輸血療法に係る全般を議題、検討内容とする。		
活動内容	1) 手順書の作成 ①輸血医療に係る手順書を随時作成、改訂を行う ②手順書の内容を啓蒙する 2) 輸血ミスの防止 ①インシデント発生時、原因追究、対処法の検討をおこなう ②対処法に添った手順書の改訂や啓蒙を行う 3) 適正使用の実施 ①“輸血療法の適正化に関する指針”に則した使用を目指す ②“輸血療法の適正化に関する指針”の啓蒙を行う ③適正使用に則さない場合、指導、検討を行う 4) 輸血製剤の有効利用を促進する ①各種血液製剤使用量、廃棄量の報告を行う ②問題がある場合、個別に内容、対処法の検討を行う 5) 副作用、感染症の報告を行う 6) その他、輸血療法全般に関する全てを議題内容とする		
備考			

実績報告資料等

平成28年度 血液製剤使用状況報告

①血液製剤使用状況 ※()内は、H27年分(前年度)を表記

血液製剤	単位	使用量		金額		廃棄率	
		本数	使用量(%)	本数	金額(円)	本数	金額(円)
RBC	1U	6 (6)	53,184 (53,184)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2U	1631 (1805)	28,911,106 (31,995,430)	14 (14)	28 (248,164)	248,164 (0,78)	0,86 (0,78)
	合計	1637 (1811)	28,964,290 (32,048,614)	14 (14)	28 (248,164)	248,164 (0,77)	0,86 (0,77)
FFP	120	0 (4)	0 (35,820)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	240	224 (157)	448 (2,812,184)	6 (1)	12 (107,472)	2,68 (0,63)	2,68 (0,63)
	480	54 (338)	216 (7,982,546)	10 (5)	40 (118,085)	236,170 (1,48)	18,52 (1,48)
合計	278 (499)	664 (16,700)	5,287,606 (10,830,550)	16 (6)	52 (343,642)	5,8 (0,22)	5,8 (0,22)
PC	5U	0 (2)	0 (79,800)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	10U	828 (1058)	8280 (84,087,724)	2 (3)	20 (238,434)	159,750 (0,28)	0,24 (0,28)
	15U	82 (107)	1230 (12,754,828)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	926 (1196)	9830 (127,750)	78,515,828 (101,531,554)	2 (3)	20 (238,434)	159,750 (0,25)	0,22 (0,25)
HLA-PC	10U	19 (52)	190 (4,968,444)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	15U	1 (2)	15 (143,854)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20U	1 (0)	30 (191,496)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	21 (54)	225 (5,254,720)	2,159,825 (5,254,720)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	2862 (3592)	13987 (18611)	114,927,549 (150,380,740)	32 (26)	100 (80)	751,556 (622,595)	1,12 (0,72)

②自己血使用状況(診療科毎) ※()内は前年度(H27)実績

診療科	総人数		血液内科		整形外科		脳外		総数
	1名(0)	9名(11)	1名(1)	1名(0)	1名(1)	1名(0)	12名(11)		
患者数	200	400	200	400	200	400	200	400	200
採血量	2(0)	0(0)	2(2)	14(20)	0(4)	5(0)	0(0)	1(0)	4(5)
使用量	2(0)	0(0)	1(2)	12(20)	0(4)	4(0)	0(0)	0(0)	3(2)
使用合計	2(0)	0(0)	13(22)	26(20)	4(1)	0(0)	0(0)	0(0)	19(23)
廃棄数	0(0)	3(0)	1(3)	1(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	5(3)
使用単位	2(0)	250(42)	90(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	340(44)

③廃棄率状況(自己血含む):総数37件(H27年度 29件) ※()内は、H27年度を表記

○血液型毎

血液型	A型	B型	O型	AB型
廃棄件数	6(8)	13(6)	7(4)	11(6)

○製剤毎

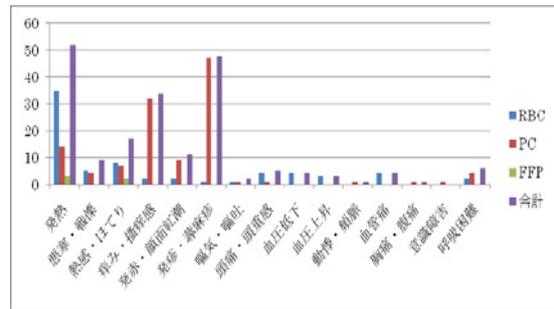
製剤名	RBC	FFP	PC	自己血
廃棄件数	14(41)	16(6)	2(3)	5(3)

○廃棄理由

廃棄理由	効期限切れ	トラブル	自己血未使用
件数	29(18)	3(4)	5(3)

④副作用報告件数

症状	発熱	悪寒	寒戦	発熱	痒み	発赤	発疹	嘔気	頭痛	血圧低下	血圧上昇	動悸	血管痛	胸痛	腰痛
RBC	35	5	8	2	2	1	1	4	4	4	3	0	4	0	0
PC	14	4	7	32	9	47	1	1	0	0	1	0	1	1	1
FFP	3	0	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	52	9	17	34	11	48	2	5	4	3	1	4	1	1	0
H27年度	47	12	11	79	19	107	3	1	7	3	5	2	3	1	1



- 副作用発生率(血液製剤に対する)
 - 全製剤 発生率: 4.6% (総報告件数: 2883件 総副作用報告数: 134件)
 - ※前年(H27年度) -5.6% (総報告件数: 3686件 総副作用報告数: 206件)
 - 製剤別
 - ・RBC 発生率: 3.3% (報告件数: 1637件 副作用報告数: 54件)
 - ※前年-RBC 発生率: 3.2% (報告件数: 1824件 副作用報告数: 59件)
 - ・PC 発生率: 7.9% (報告件数: 947件 副作用報告数: 75件)
 - ※前年-PC 発生率: 9.6% (報告件数: 1335件 副作用報告数: 121件)
 - ・FFP 発生率: 1.8% (報告件数: 278件 副作用報告数: 5件)
 - ※前年-FFP 発生率: 5.5% (報告件数: 507件 副作用報告数: 28件)

臨床検査適正委員会

委員会名	臨床検査適正委員会		
委員長名	佐久川 廣	構成人数	5名
事務局・担当部署	臨床検査科	担当者名	神谷乗敏
委員名	【医 局】佐久川 廣 【看護部】中野久乃 【医療技術部】神谷乗敏、斎藤辰好 【事務部】宮城 淳		
活動目的	臨床検査は診療の補助として行われるもので①疾病の診断②治療③予後を判断するための重要な情報を提供するものであるので質の高い検査データを提供することを目的とする。		
活動内容	1. 臨床検査に関わる業務の範囲の検討 2. 検査精度、機器選定並びに導入計画 3. 検査項目や正常値の検討 4. その他検査にかかわる必要事項の検討を行う		
備考	年3回開催を基本とし必要に応じ開催する		

実績報告資料等

参加外部精度管理業務

- 1、日本医師会精度管理
- 2、日本臨床衛生検査技師会精度管理
- 3、沖縄県医師会、臨床検査技師会精度管理
- 4、アボットジャパン
- 5、シスメックス
- 6、東ソー

日本医師会精度管理実績

平成24年98,2点
平成25年94,6点
平成26年90,6点
平成27年95,4点
平成28年97,6点

日本臨床検査技師会

平成28年29年度精度保証認証施設取得(更新)

機器更新及び検査導入実績

5月、ハートライフクリニック支援体制開始
7月、外来採血室BCロボ更新
8月、沖縄県医師会、臨床検査技師会精度管理参加
9月、日本医師会臨床検査精度管理参加

倫理委員会

委員会名	倫理委員会		
委員長名	與座 一	構成人数	10 名
事務局・担当部署	薬局	担当者名	田中健嗣
委員名	【医 局】 與座 一、宮城 敬 【看護部】 宮平典子、小橋川弘美 【医療技術部】 田中健嗣 【事務部】 當銘秀之、安里 竜、宮城 淳		
活動目的	社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院（以下、「病院」という。）の職員が行う医療行為および医学研究（以下、「医療行為等」という。）において、「ヘルシンキ宣言」（2000 年エジンバラ修正、2002 年ワシントン総会で注釈追加）を尊重し、国内の倫理指針の趣旨にそって、倫理的配慮が図られているかどうかを審議することを目的とする。		
活動内容	1) 医療にかかる法律の順守に関する事項 2) 患者の権利に関する事項 3) 医療行為等をめぐる生命倫理に関する事項 4) 臓器移植および新治療法の採用に関する事項 5) その他、病院長または委員長が必要と認めた事項 議題数：17 件		
備考	新法に則った、倫理委員会の体制作りに取り組んでおります。		

実績報告資料等

<h3 style="text-align: center;">審査内容</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 医療にかかる法律の順守に関する事項 • 患者の権利に関する事項 • 医療行為等をめぐる生命倫理に関わる事項 • 臓器移植および新治療法の採用に関する事項 • その他、病院長または委員長が必要と認めた事項 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※輸血に関すること、臓器移植に関すること ※生殖医療に関すること ※末期患者の治療に関すること、告知に関すること ※その他医療行為全般に係る患者の基本的擁護に関すること</p> </div> <p>当委員会は前項に係る所掌事項の検討機関であって、決定機関ではない。</p>	<h3 style="text-align: center;">案件内容・判断事項</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 医療倫理 • 職業倫理 • 臨床における倫理 • 臨床研究に関する倫理 <p style="color: red; text-align: center; margin-top: 20px;">• 治験の倫理 ⇒ 治験審査委員会</p>																																		
<h3 style="text-align: center;">28年度審議内容一覧</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">第28-1</td><td>乳輪乳腫への創傷(メディカルタウ)の実施について(自由診療)</td></tr> <tr><td>第28-2</td><td>骨髄不全患者における、PNH型血球創合とPNH関連の臨床症状を縦時的にみる観察研究</td></tr> <tr><td>第28-3</td><td>研究参加施設に新たに発生する全ての成人ALL 症例を対象とした5年生存率に関する前向き臨床研究</td></tr> <tr><td>第28-4</td><td>沖縄県におけるATL患者/HTLV-1キャリア生体試料バンク構築</td></tr> <tr><td>第28-5</td><td>第22回日本腹膜透析医学会学術集会・総会での症例報告</td></tr> <tr><td>第28-6</td><td>日血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植における検体保存事業の実施体制の変更</td></tr> <tr><td>第28-7</td><td>日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧治療と標準治療のランダム化比較試験</td></tr> <tr><td>第28-8</td><td>レプトスピラ症集団発生に関する当該学童へのアンケート調査</td></tr> <tr><td>第28-9</td><td>第44回日本集中治療医学会学術集会 一般演習登録の申請 ECMO(模型人工肺)における人体模擬回路作成</td></tr> <tr><td>第28-10</td><td>トキソプラズマ症の診断法の開発とトキソプラズマ分子系統解析(千葉大学への検査依頼)</td></tr> <tr><td>第28-11</td><td>人工乳の早期導入による牛乳アレルギー発症予防に関するランダム化比較試験</td></tr> <tr><td>第28-12</td><td>糖尿病チーム医療における臨床心理士との共働の必要性と課題</td></tr> <tr><td>第28-13</td><td>長期留置カテーテル管理の評価</td></tr> <tr><td>第28-14</td><td>非弁脈性心房細動患者における抗凝固薬の製造販売後比較評価研究への参加</td></tr> </table>	第28-1	乳輪乳腫への創傷(メディカルタウ)の実施について(自由診療)	第28-2	骨髄不全患者における、PNH型血球創合とPNH関連の臨床症状を縦時的にみる観察研究	第28-3	研究参加施設に新たに発生する全ての成人ALL 症例を対象とした5年生存率に関する前向き臨床研究	第28-4	沖縄県におけるATL患者/HTLV-1キャリア生体試料バンク構築	第28-5	第22回日本腹膜透析医学会学術集会・総会での症例報告	第28-6	日血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植における検体保存事業の実施体制の変更	第28-7	日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧治療と標準治療のランダム化比較試験	第28-8	レプトスピラ症集団発生に関する当該学童へのアンケート調査	第28-9	第44回日本集中治療医学会学術集会 一般演習登録の申請 ECMO(模型人工肺)における人体模擬回路作成	第28-10	トキソプラズマ症の診断法の開発とトキソプラズマ分子系統解析(千葉大学への検査依頼)	第28-11	人工乳の早期導入による牛乳アレルギー発症予防に関するランダム化比較試験	第28-12	糖尿病チーム医療における臨床心理士との共働の必要性と課題	第28-13	長期留置カテーテル管理の評価	第28-14	非弁脈性心房細動患者における抗凝固薬の製造販売後比較評価研究への参加	<h3 style="text-align: center;">28年度審議内容一覧</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">第28-15</td><td>高尿酸血症と高血圧を伴う慢性腎臓病患者を対象とした尿酸降下薬(尿酸産生抑制薬と排泄促進薬)の腎機能低下に対する影響の検討 URIC-CKD study</td></tr> <tr><td>第28-16</td><td>日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧治療と標準治療のランダム化比較試験(改訂)</td></tr> <tr><td>第28-17</td><td>自己免疫性出血病XIIの診断・診療に係る保険外検査</td></tr> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">※28年度倫理委員会 12回開催 (迅速審議、持回り審議含む)</p>	第28-15	高尿酸血症と高血圧を伴う慢性腎臓病患者を対象とした尿酸降下薬(尿酸産生抑制薬と排泄促進薬)の腎機能低下に対する影響の検討 URIC-CKD study	第28-16	日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧治療と標準治療のランダム化比較試験(改訂)	第28-17	自己免疫性出血病XIIの診断・診療に係る保険外検査
第28-1	乳輪乳腫への創傷(メディカルタウ)の実施について(自由診療)																																		
第28-2	骨髄不全患者における、PNH型血球創合とPNH関連の臨床症状を縦時的にみる観察研究																																		
第28-3	研究参加施設に新たに発生する全ての成人ALL 症例を対象とした5年生存率に関する前向き臨床研究																																		
第28-4	沖縄県におけるATL患者/HTLV-1キャリア生体試料バンク構築																																		
第28-5	第22回日本腹膜透析医学会学術集会・総会での症例報告																																		
第28-6	日血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植における検体保存事業の実施体制の変更																																		
第28-7	日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧治療と標準治療のランダム化比較試験																																		
第28-8	レプトスピラ症集団発生に関する当該学童へのアンケート調査																																		
第28-9	第44回日本集中治療医学会学術集会 一般演習登録の申請 ECMO(模型人工肺)における人体模擬回路作成																																		
第28-10	トキソプラズマ症の診断法の開発とトキソプラズマ分子系統解析(千葉大学への検査依頼)																																		
第28-11	人工乳の早期導入による牛乳アレルギー発症予防に関するランダム化比較試験																																		
第28-12	糖尿病チーム医療における臨床心理士との共働の必要性と課題																																		
第28-13	長期留置カテーテル管理の評価																																		
第28-14	非弁脈性心房細動患者における抗凝固薬の製造販売後比較評価研究への参加																																		
第28-15	高尿酸血症と高血圧を伴う慢性腎臓病患者を対象とした尿酸降下薬(尿酸産生抑制薬と排泄促進薬)の腎機能低下に対する影響の検討 URIC-CKD study																																		
第28-16	日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧治療と標準治療のランダム化比較試験(改訂)																																		
第28-17	自己免疫性出血病XIIの診断・診療に係る保険外検査																																		

DPC 委員会

委員会名	DPC 委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	13 名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	柳 学
委員名	【医 局】奥島憲彦、普天間光彦、内科系医師、外科系医師 【看護部】宮平典子、粟盛信子 【医療技術部】神谷乗敏、田中健嗣、仲座 義富、 【事務部】高橋慎二、伊集 準、柳 学、真栄平久美子		
活動目的	DPC 委員会は、DPC 対象病院として DPC 業務の適正な運用を図るために審議検討をすることを目的とする。		
活動内容	1) 適切なコーディングを行う体制に関すること。 2) 診断及び治療方法の適正化標準に関すること。 3) 院内で標準的な診断及び治療方法の周知徹底に関すること。 4) その他 DPC 業務に係る課題に関すること。		
備考			

実績報告資料等

DIC、敗血症、その他の真菌症、手術・処置の合併症の件数と請求率及び胃瘻造設術件数(DPC委員会にて報告)

H27年度		H28.04	H28.05	H28.06	H28.07	H28.08	H28.09	H28.10	H28.11	H28.12	H29.01	H29.02	H29.03
DIC(130100)	退院件数	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	請求率	0.00%	0.14%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.14%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
敗血症(180010)	退院件数	2	3	0	6	8	1	2	3	4	3	4	2
	請求率	0.27%	0.41%	0.00%	0.79%	1.03%	0.13%	0.27%	0.44%	0.52%	0.43%	0.58%	0.24%
その他の真菌症(180035)	退院件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	請求率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
手術・処置の合併症(180040)	退院件数	2	3	6	6	7	6	5	7	12	6	3	5
	請求率	0.27%	0.41%	0.78%	0.79%	0.90%	0.79%	0.69%	1.03%	1.56%	0.87%	0.43%	0.60%
胃瘻造設術	件数	4	3	1	2	2	4	3	3	3	5	0	2

退院患者数及びDPC入院期間別退院患者割合

退院患者数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
(電カル総数)	750.2	744	757	776	764	786	782	737	688	774	671	698	847	8,002
2016年度	741.5	737	741	774	756	774	757	721	681	769	662	691	835	8,898
(新生児自費)	23.6	19	32	19	28	32	23	31	22	18	27	15	17	283
(新生児重複)	8.7	7	16	4	8	14	5	16	7	5	9	5	8	104
(7日以内再入院A)	10.5	4	8	13	11	12	9	8	19	9	8	9	16	126
入院期間 I	18.5%	21.3%	18.5%	15.6%	19.7%	20.7%	17.8%	18.5%	17.5%	18.8%	17.2%	17.3%	19.1%	
入院期間 II	46.2%	47.2%	44.7%	50.6%	47.1%	43.6%	48.9%	45.1%	45.5%	43.5%	44.8%	47.1%	46.0%	
(I+II)	64.7%	68.5%	63.2%	66.2%	66.8%	64.3%	66.7%	63.6%	63.0%	62.3%	62.0%	64.4%	65.1%	
入院期間 III	32.4%	28.1%	33.5%	30.0%	30.4%	31.8%	31.4%	32.2%	35.6%	35.7%	34.9%	33.1%	32.7%	
2SD超え	2.8%	3.4%	3.3%	3.8%	2.8%	3.9%	1.9%	4.1%	1.4%	2.0%	3.1%	2.6%	2.2%	

緩和ケア委員会

委員会名	緩和ケア委員会		
委員長名	花城直次	構成人数	30 名
事務局・担当部署	看護部	担当者名	安村公均
委員名	【医局】花城直次、菅野善一郎 【看護部】安村公均、本田由佳里(がん化学療法認定看護師)、成田明日香、東 初美、仲村なおみ、 斉藤路子、上原沙織、大里奈央、高宮里沙、中野 愛、屋比久あかね、呉屋友美、外間勝貴、 伊佐友美、宮城秀也、東江幸恵、宮城久美子、久手堅政直、當眞さゆり、石原桂子 【医療技術部】大関秀和、上地美和、富田美智代、富永涼子、宮城奈津希、神里祥子、當眞結子 【事務部】川満慎吾(MSW)		
活動目的	癌の治療開始、又は生命を脅かす病に関連する問題を早期に取り組み、患者及び家族の生活の質の向上のために、各部署の専門家が協力してチームを作り以下の項目を要件とするケアを提供する。		
活動内容	癌の治療開始、又は生命を脅かす病に関連する問題を早期に取り組み、患者及び家族の生活の質の向上のために、各部署の専門家が協力してチームを作り、以下の項目を要件とするケアを行う。 1. 患者の痛みや、その他の不快な身体症状を緩和する 2. 患者に精神的・社会的・霊的な援助を行い、死が訪れるまで生きていくことに意味を見いだせるようなケアを行なう 3. 患者の家族を患者の療養中から死別した後まで支える		
備考			

診療報酬対策委員会

委員会名	診療報酬対策委員会		
委員長名	佐久川 廣	構成人数	7 名
事務局・担当部署	請求業務課	担当者名	波平勇一郎
委員名	【医 局】佐久川 廣、松元 悟、西原 実 【医療技術部】神谷乗敏、田中健嗣 【事務部】伊集 準、波平 勇一郎		
活動目的	当院目標査定率 0.14% の達成に努める		
活動内容	1) 保険診療に関すること 2) 請求漏れ、査定減の対策に関すること 3) 保険請求事務等の改善に関すること 4) レセプト作成、点検に関すること		
備考			

実績報告資料等

※平成28年度の査定率

平成28年4月	5月	6月	7月	8月	9月
0.3%	0.54%	0.31%	0.26%	0.29%	0.23%

10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
0.31%	0.21%	0.34%	0.21%	0.5%	0.47%

※平成28年度救急医療管理加算査定率

平成28年4月	5月	6月	7月	8月	9月
21.23%	35.92%	22.92%	23.16%	23.35%	16.52%

10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
20%	23.9%	24.83%	17.89%	32.34%	27.59%

※DPC係数の1つである救急医療係数を維持すべく「救急医療適正化委員会」を立ち上げ救急医療管理加算の算定率の向上を図っています。
査定されたものに関しては内容を検査し、再請求へ繋げていく。

※平成29年度目標

◆当院目標査定率0.14%の達成に努める

※目標0.14%以下への課題として

- ◆医師・看護師・コメディカル・請求業務課の連携の強化。
- ◆請求業務課の診療報酬点数解釈、点検業務の強化
- ◆査定された内容を再検証し次月請求への反映の取り組み。

IT 推進委員会

委員会名	IT 推進委員会		
委員長名	佐久川 廣	構成人数	19名
事務局・担当部署	企画室電算係	担当者名	宮城克己
委員名	【医 局】佐久川 廣、普天間光彦 【看護部】屋良ちえみ、安谷屋佳子、古波倉美登利 【医療技術部】田中健嗣、大城盛寛、仲松晋也、金城勝一郎 【事務部】當銘秀之、柳 学、安里 竜、宮城 淳、砂川直樹、幾野伸夫、宮城克己、高橋慎二、安里健二 オブザーバ：内間幸人（看護部／救急外来）		
活動目的	電子カルテ・オーダリングシステムをはじめとした院内情報システム（機器）の導入から開発、運営・保守に関する全般の検討を行い、院内 IT 環境の充足をはかる。		
活動内容	1) 医事・オーダリング・電子カルテなどの医業システムの運用方法の検討 2) グループウェアなどの情報サービス・業務システムの検討 3) 上記①②に係るネットワークの検討 4) IT 導入に伴うセキュリティ管理 5) 各部門システムの導入、運用検討 6) 職員の IT 知識の向上		
備考			

実績報告資料等

委員会の概要

発足 2007年4月発足
第4水曜日13:00に定期開催(ツキイチに変わりました)
※電子カルテプロジェクト中は毎週開催してました

目的 ITに関する導入・開発・運用・保守に関する全般を取り扱う

課題 ①医事・オーダリング・電子カルテなどの医業システムの選定
②グループウェアなどの情報サービス・業務システムの検討
③上記①②に係るネットワークの検討
④IT導入に伴うセキュリティ管理
⑤システム導入後の各部門への業務割り当て
⑥職員のIT知識の向上

委員会のメンバー

委員			
佐久川 廣	委員長	砂川 直樹	地域医療連携室
普天間 光彦	副委員長	幾野 伸夫	薬局
屋良 ちえみ	外来	高橋 慎二	電算係
安谷屋 佳子	外来	安里 健二	電算係
古波倉 美登利	内視鏡室	宮城 克己	電算係
田中 健嗣	薬局	オブザーバ	
大城 盛寛	放射線	内間 幸人	救急外来
仲松 晋也	臨床工学科		
金城 勝一郎	リハビリ		
當銘 秀之	事務部		
安里 竜	企画室		
柳 学	診療情報管理室		
宮城 淳	請求業務課		

2018年度 実績報告

実績	<ul style="list-style-type: none"> Pacsサーバーの入れ替え Windows10の自動アップデートについての対応検討 情報系ネットワーク機器入れ換 生理検査システム保守契約延長の検討 セキュリティUSB紛失への対応 Etc...
進行中	<ul style="list-style-type: none"> 新版医事、歯科カルテ、医薬品情報システム導入 増改築棟へのシステム移動検討 電子カルテサーバーリプレース 院内端末用セキュリティーシステム調査、更新

2018年度 課題と目標

- ❖IT環境の強化・利便性の向上
 - システム導入による業務効率の向上
 - ・ 新版医事導入による医事会計業務、診療報酬請求業務の効率向上とデータの二次利用
 - ・ 歯科カルテ導入後の業務
 - ・ 共有ファイルサーバー内の院内作成データの保守
 - ・ 入力されたデータを2次利用したシステムの提案
 - 部門業務のサポート
 - ・ 部門システム導入に伴う電子カルテシステムとの連携支援
 - ・ 既存システムで準備されていない業務の自作提供
- ❖体制面の強化（より安全に、かつ、確実に）
 - ITリテラシーの向上（使用方法・問題・課題の理解）
 - 危機管理（災害時・停電時対応など）
 - 院内ネットワーク環境の強化

クリニカルパス委員会

委員会名	クリニカルパス委員会		
委員長名	宮平 工	構成人数	34 名
事務局・担当部署	企画室、企画室電算係	担当者名	安里 竜、高橋慎二
委員名	【医局】宮平 工、大西 勉、折田 均、渡慶次 学、末吉健次、嘉川春生、親川 格、宮城 敬、秋元芳典、東盛貴光、新垣珠代、崎原徹裕、大城真澄（メディカルクラーク）、山城子エ（メディカルクラーク） 【看護部】仲地ますみ、成田明日香、屋宜 鮎美、與那覇亜紀子、米須智子、外間 勝貴、久手堅政直 【医療技術部】神谷 乗敏、仲座 義富、久場徳子、田中 健嗣、大見謝勝人、幾乃 伸夫 【院長直轄部門】外間真紀子（医療安全管理室）、石川由希（感染対策管理室）、真栄城 ゆかり（NST） 【事務局】安里 竜、松川三枝子、桑江幸子、高橋慎二		
活動目的	クリニカルパスを充実することで、医療の質の向上を図る 患者中心の安全な医療を提供する クリニカルパスを充実させ、業務の効率化を図るとともに、職員の業務負担軽減を図る 在院日数の短縮を図るとともに、コスト削減を担う パス大会の円滑な運用を図る		
活動内容	パスの作成・運用、勉強会の開催、パス大会の開催、その他		
備考			

実績報告資料等

第3回クリニカルパス大会開催

テーマ エ夫・苦勞した点あれこれ ～エ夫すればここまで使える～

開催日時：平成28年7月6日(水) 17:30～19:30

場所：2F講堂

対象：全職員

参加人数：76名

□一般演題 座長：外科部長 宮平 工

部署	看護師	医師
西2F病棟	具志堅 理沙	大西 勉
3F病棟	知念 宏共	渡慶次 学
4F病棟	西田 幸恵	宮平 工
5F病棟	鈴木 千恵	折田 均
7F病棟	奈良 成明	新垣 珠代

□特別講演 座長：産科部長 大西 勉

【豊見城中央病院 クリニカルパス検討会の活動】
 豊見城中央病院 パス検討委員会 委員長 兼島 貴乃 先生

外科 計505 適用率38.4%

腹腔鏡下直腸切除術	1	鼠径ヘルニア(LPEC) 生後6ヵ月未満	2
腹腔鏡下虫垂切除術(成人用)	27	鼠径ヘルニア(LPEC) 生後6ヵ月以上	41
腹腔鏡下虫垂切除術(小児前期5歳～10歳)	2	鼠径ヘルニア(LPEC) SDS: 生後6ヵ月以上	6
腹腔鏡下虫垂切除術(小児後期11歳～12歳)	1	鼠径ヘルニア(LPEC) 生後6ヵ月以上	8
腹腔鏡下虫垂切除術	1	痔瘻根治術	9
腹腔鏡下結腸切除術	27	痔核手術(四段階注射法) 痔瘻しり油	1
腹腔鏡下胆嚢摘出術	103	痔核手術(四段階注射法) 日帰り入院	44
腹会陰式直腸切除術	3	痔核手術(四段階注射法) 外来出し	3
乳房切除+SLNB	4	痔核手術(根治手術)	11
乳房温存術+SLNB	18	甲状腺手術(廓清あり)	12
乳房温存or乳房切除術+腋窩廓清術	13	経皮内視鏡下胃瘻増設	3
テイスージャーリー	9	経皮内視鏡下胃瘻造設PEG	14
直腸脱手術	1	化学療法(XELOX)	9
虫垂切除術	1	開腹直腸切除術	14
胆嚢炎	2	胃全摘術	1
大腸EMR	13	胃切除術	7
鼠径ヘルニア	1		
鼠径ヘルニア(TAPP)	93		

泌尿器科 計31 適用率13.1%

前立腺生検	5
TUR-P	8
TUR-BT	18

眼科 計439 適用率92.4%

翼状片(右)	11
翼状片(左)	12
翼状片	2
白内障(右)	198
白内障(左)	186
全層移植(右)	5
全層移植(左)	4
角膜内皮移植(右)	1
角膜内皮移植(左)	3
角膜移植(右)	10
角膜移植(左)	7

小児科 計107 適用率15.0%

アレルギー検査(0～1歳)	61
アレルギー検査(2～6歳)	33
アレルギー検査(7歳～)	2
新生児黄疸	11

整形外科 計206 適用率24.4%

ペースメーカー当日植え込み	1
γナイール・CCS(全麻)	76
TKA(腰麻) 前日入院	2
TKA(全麻) 前々日入院	4
TKA(全麻) 前日入院	9
TKA(腰麻) 前日入院	14
THA(腰麻) 転院	3
THA(腰麻) 自宅退院	14
BHA(全麻)	25
ACL(全麻)	23
ACL(腰麻)	35

内科 計671 適用率16.6%

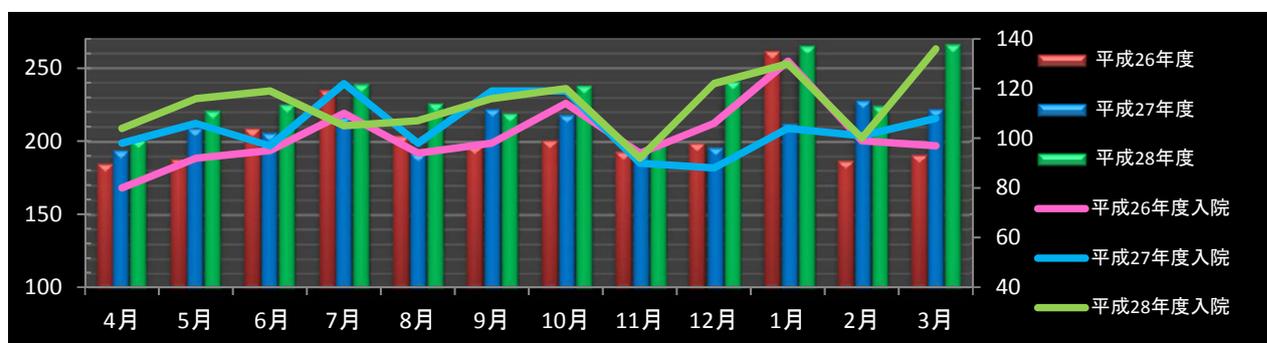
CAG(鼠径)	7	ペースメーカー当日植え込み	3
CAG(橈骨)	38	右PTA上肢(内シャント)	1
PCI(鼠径)	26	右PTA上肢(内シャント) 日帰り	1
PCI(橈骨)	59		
PSG	35	産婦人科 計502 適用率89.3%	
PTA下肢	10	ほとんどパス使用	502
PTA上肢(内シャント)	2		
RFA	5		
肝生検	52		
気管支鏡	16		
気管支鏡検査	27		
大腸EMR	368		
左PTA下肢	2		
左PTA上肢(内シャント)	3		
左PTA上肢(内シャント) 日帰り	6		
ペースメーカー	5		
ペースメーカー電池消耗	5		
全体	計2,461 適用率28.5%		

救急総合診療部委員会

委員会名	救急総合診療部委員会		
委員長名	銘苅 正	構成人数	18名
事務局・担当部署	地域医療連携室	担当者名	砂川直樹
委員名	【医 局】 奥島憲彦、久場良也、銘苅正、宮平工、末吉健次、渡慶次学、三戸正人、仲本 学 【看護部】 仲地ますみ、内間幸人、竹本健太、兼本愛美 【医療技術部】 斉藤辰好、石原 悟 【事務部】 安里竜、松原譲二、比嘉竜也、砂川直樹		
活動目的	救急総合診療部の体制（人財確保を含む）を整える。問題点の検討や改善など要望を早めに対応できるような正式なルートをつくる。		
活動内容	救急車搬送患者、時間外救急患者の受け入れに関する流れや問題点、救急総合診療部に係わるすべての職種のワークライフバランスを考えた話し合いをもち解決策を考え活動目的を達成する。救急総合診療部小委員会にて初期問題を検討する。重要事項に関しては救急総合診療部委員会で再検討し、救急総合診療部委員会としての承認を得る。その後議事録は翌月の運営委員会で報告する。		
備考	救急総合診療部小委員会は、月に1回以上、救急総合診療部委員会は毎月（第4水曜日）1回開催とする。		

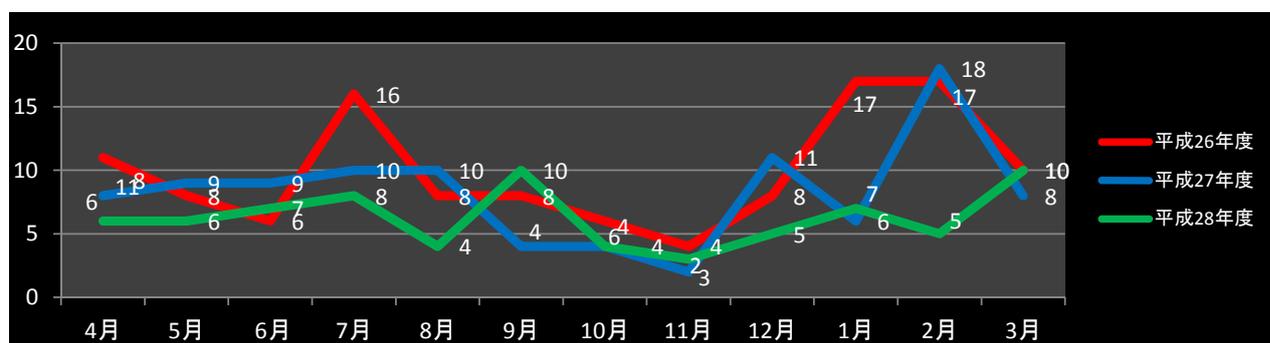
実績報告資料等

救急搬送患者受け入れ実数(年度別)



年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均入院率
平成26年度	185	188	209	235	204	197	201	193	199	262	187	191	2,451	204
平成27年度	194	209	206	217	192	222	218	191	196	212	228	222	2,507	209
平成28年度	201	221	225	239	226	219	238	200	241	265	224	266	2,765	230

救急搬送患者の断り実数(年度別)



(救急車断り件数)・・・断り件数は救急台帳より

年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成26年度	11	8	6	16	8	8	6	4	8	17	17	10	119	10
平成27年度	8	9	9	10	10	4	4	2	11	6	18	8	99	8
平成28年度	6	6	7	8	4	10	4	3	5	7	5	10	75	6

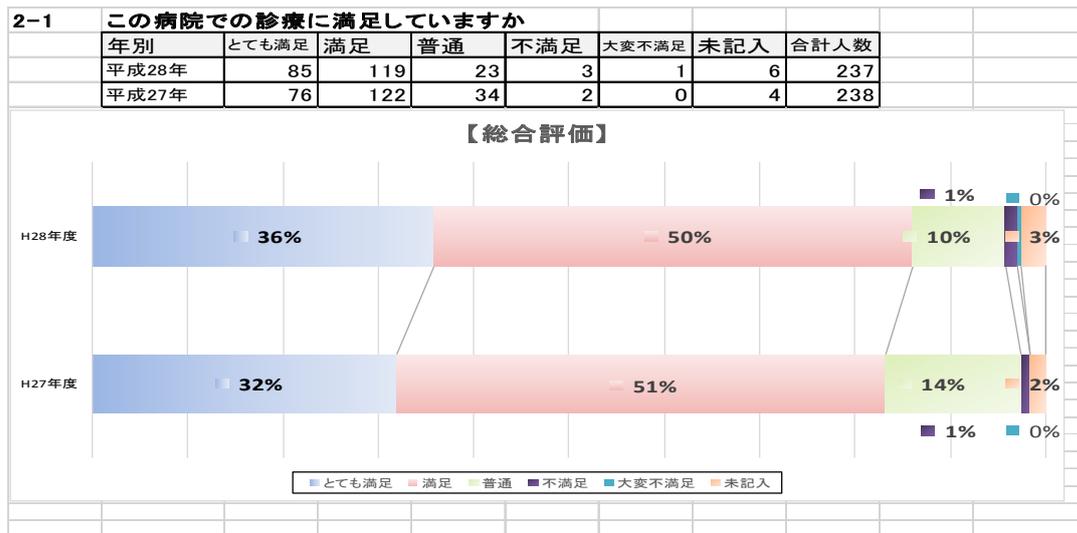
患者満足度向上委員会・投書対策委員会

委員会名	患者満足度向上委員会・投書対策委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	6名
事務局・担当部署	総務課	担当者名	富里 等
委員名	【医 局】奥島憲彦 【看護部】宮平典子 【医療技術部】宮城竜也 【事務部】當銘秀之、吉川 忍、富里 等		
活動目的	患者さんからの苦情相談に対して迅速に処理し、患者さんからの病院に対する信頼を向上する。		
活動内容	(1) 患者さんに対する接遇とコミュニケーションの質並びに待ち時間短縮の向上を図る。 (2) 患者さんからのクレームに対応する。 (3) 職員の接遇向上にむけた教育・研修・講演会等を企画立案する。 (4) 患者満足度調査。 (5) 快適な療養環境を図る。 (6) 接遇マニュアルの作成改定。		
備考	※開催日(毎月第3金曜日)		

実績報告資料等

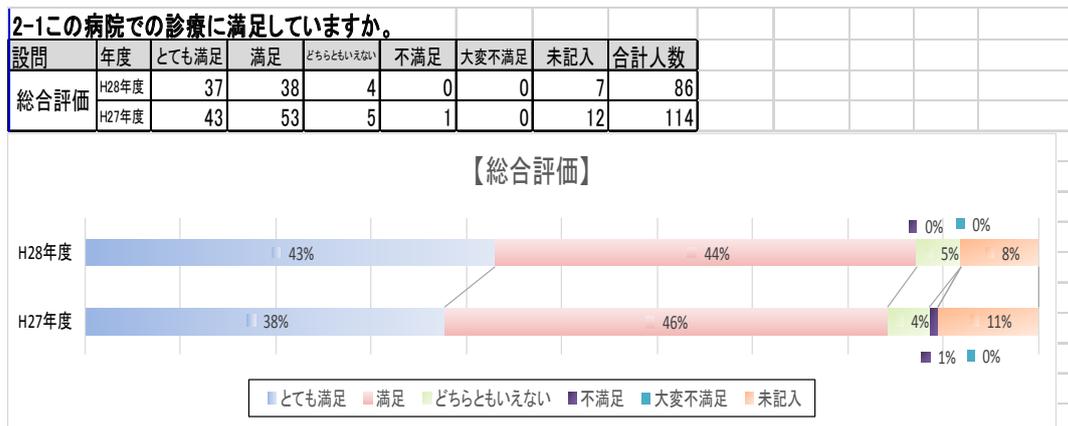
平成28年度 患者満足度調査(外来・透析室・内視鏡センター・予防医学センター) 調査日時:平成28年11月21日(月)~22日(火) 9:00~12:00 (2日間)

<外来>



平成28年度 患者満足度調査(病棟) 調査日時:平成28年11月21日(月)~26日(土) (6日間)

<病棟>



健康増進委員会

委員会名	健康増進委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	12名
事務局・担当部署	事務部・医療技術部	担当者名	金城信矢(事務部) 玉城義彦(医療技術部)
委員名	ハートライフ病院 【医 局】奥島憲彦、松元 悟、菅野善一郎、菅谷明子 【看護部】安村公均、屋我裕子、 【医療技術部】當眞結子、玉城義彦 【事務部】照屋尚美、金城信矢 ハートライフクリニック 【医 局】山本壽一 【リユーザ】長嶺敦司		
活動目的	職員の健康増進活動を支援する。		
活動内容	1) 健康増進に関する会議の開催 2) 健康増進に関する相談・指導 3) 健康増進のきっかけづくり 4) 部署・サークルの健康増進活動への支援 5) 健康増進に関する情報提供 6) 健康増進に関するニーズの集約 7) 健康増進に関する環境の整備 8) 健診後の生活指導の支援		
備考			

実績報告資料等

3、委員紹介 (28年度)

企画委員

委員長：奥島 憲彦(院長) 副委員長：松元 悟(副院長)
 アドバイザー：山本 壽一(クリニック院長)
 菅野 善一郎(医 局) 菅谷 明子(医 局)
 安村 公均(看護部長) 屋我 裕子(保健師)
 當眞 結子(管理栄養士) 照屋 尚美(総務課)
 金城 信矢(経理課) 玉城 義彦(リハビリ療法士長)
 長嶺 敦司(リハビリ理学療法士・運動指導士)

ハートライフ病院 健康増進委員会

4、平成28年度活動実績①

- 健康増進企画会議 毎月第4月曜日
- 健康増進委員会全体会議 4月・9月・3月
- 朝礼時のワンポイント体操 ラジオ体操指導 毎月朝礼時
- あすなる紙面へストレッチ体操掲載 毎月掲載
- アンケート調査 行事終了毎適宜実施

ハートライフ病院 健康増進委員会

4、平成28年度活動実績②

- 新入職員歓迎本島縦断駅伝大会 5月15日(日)
21世紀の森運動公園～ハートライフクリニック
(約80名参加)
- 卓球大会(2階講堂) 7月11・13・14日
11日 8チーム(約40名)
13日 8チーム(約40名)
14日 8チーム(約40名) 参加
- 第1回ソフトハレーホール大会 10月29日(土)
西原町民体育館
参加者：約80名

ハートライフ病院 健康増進委員会

4、平成28年度活動実績③

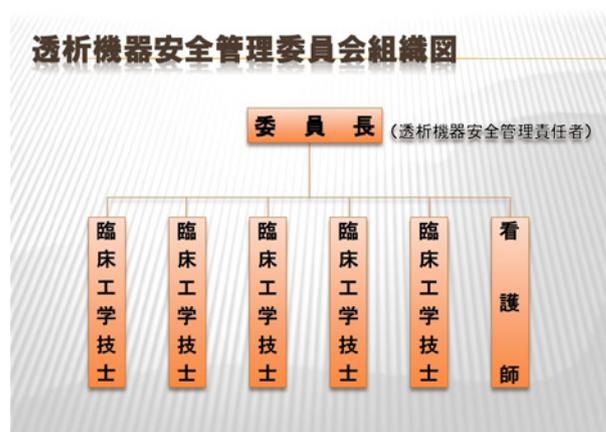
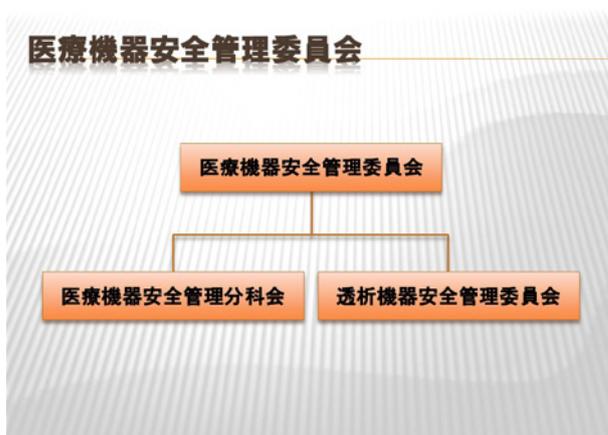
- 第4回消費エネルギーコンペ
若返りバトル2016!!
期間：8月～11月
応募：5名1グループ
内容：体内年齢の若返りを競う
※忘年会で表彰
- 健康増進ツアーin EMコスプレスタ 1月14日(土)1泊
会場：EMコスプレスタ
内容：
参加者：医師・保健師・栄養士・事務職員
理学療法士・健康運動指導士

ハートライフ病院 健康増進委員会

医療機器安全管理委員会

委員会名	医療機器安全管理委員会		
委員長名	松元 悟	構成人数	7 名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	大城 安
委員名	【医 局】松元 悟 【医療安全管理室】中野久乃 【看護部】宮平典子 【医療技術部】宮城竜也、神谷乗敏、玉城義彦、大城 安		
活動目的	ハートライフ病院内で使用される医療機器に係る安全管理体制を図るため医療機器安全管理委員会を設置する。		
活動内容	医療機器の安全使用のための研修 医療機器の保守点検 医療機器の保守点検に関する記録 医療機器の知識・情報の収集		
備考			

実績報告資料



医療機器安全管理分科会

委員会名	医療機器安全管理分科会		
委員長名	仲松 晋也	構成人数	9名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	仲松 晋也
委員名	<ul style="list-style-type: none"> ・仲松晋也 (医療技術部) ・弓濱義之 (医療技術部) ・柴野比智也 (医療技術部) ・大関秀和 (医療技術部) ・斎藤辰好 (医療技術部) ・石原 悟 (医療技術部) ・安村公均 (看護部) ・具志堅徳明 (事務部) ・諸見里和也 (事務部) 		
活動目的	医療機器安全管理分科会はハートライフ病院内で使用される医療機器に係る医療機器安全使用のための具体的方策などについて、指針を示すことにより、適切な医療機器安全管理を推進、安全な医療の提供に資することを目的とする。		
活動内容	医療機器の安全使用のための研修 医療機器の保守点検 医療機器の保守点検に関する記録 医療機器の知識・情報の収集		
備考			

透析機器安全管理委員会

委員会名	透析機器安全管理委員会		
委員長名	内里 司	構成人数	6名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	内里 司
委員名	<ul style="list-style-type: none"> ・内里 司 (医療技術部) ・大瀧明日香 (医療技術部) ・野原 剛 (医療技術部) ・平敷幸大 (医療技術部) ・仲程通孝 (医療技術部) ・宮城幸江 (看護部) 		
活動目的	透析機器安全管理委員会は血液透析業務における医療設備、医療機器に関連した安全管理及び品質管理を目的とし設置する。		
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 透析教育修練カリキュラムの整備に関する事。 (2) 透析液管理マニュアル完備に関する事。 (3) 透析機器及び水処理装置の保守・点検等の管理計画の策定に関する事。 (4) 管理記録、測定記録、報告書の作成並びに保管、管理に関する事。 (5) 職員への適正使用のための研修実施に関する事。 (6) 関連医療情報の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全 使用を目的とした改善のための方策の実施に関する事。 (7) その他、透析液に関する事。 		
備考			

広報委員会

委員会名	広報委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	7 名
事務局・担当部署	企画室広報係	担当者名	知念政治
委員名	【医局】久場良也 【病院担当】安里 竜、知念政治、仲田尚正 【クリニック担当】松田 渚 【地域包括ケアセンター担当】比嘉康文 【地域連携担当】砂川直樹		
活動目的	1) 各施設の現状、新規業務などをホームページや広報誌、新聞等を通じて院外に PR する。 2) 各施設の情報を収集・審議し、広報方針を決定する。 3) 広報・広告関連予算を審議し、理事会へ提案する。 4) 各施設における掲示物などに関して、規定を作成する。		
活動内容	企画室広報係より事業に関する広報・広告活動を提起し他職種で検討を行う。法律や条例、各評価機関の定めに従った情報提供。		
備考			

年報作成委員会

委員会名	年報作成委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	15 名
事務局・担当部署	企画室広報係	担当者名	知念政治
委員名	【医 局】奥島憲彦、嘉川春生、菅野善一郎 【看護部】仲地ますみ 【医療技術部】仲座義富、斎藤辰好 【事務局】當銘秀之、宮城映子、大城ますみ、仲松 泉、田河美智代、知念政治、仲田尚正 【クリニック】新垣優子 【地域包括ケアセンター】比嘉康文		
活動目的	病院年報の企画・データ収集・作成およびそれらのデータ保全。		
活動内容	病院年報の企画・データ収集・作成。 各科実績報告会の企画・運営。		
備考			

手術室運営委員会

委員会名	手術室運営委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	35 名
事務局・担当部署	手術室	担当者名	比嘉憲貴
委員名	【医 局】奥島憲彦、西原 実、嵩原裕夫、梁 英樹、宮平 工、花城直次、阿嘉裕之、国吉史雄、尾下陽大、野村寛徳、松元 悟、渡慶次 学、松田英敏、屋比久博巳、比嘉浩太郎、武田 理、大西 勉、喜久本藍、上原博香、喜久山明、嘉川春生、末吉健次、上笹 航、親川 格、東盛貴光、溝淵貴俊、友寄毅昭、狩俣かおり、宮城 敬、山入端敦、仲本学、折田 均、島袋泰、釜野武志、喜屋武秀文		
活動目的	手術を安全に、確実に遂行していくためには手術室の円滑な運営が大切であり、病院の管理体制・職員・設備などをふまえ、効率よく管理運営される事を目的とする。		
活動内容	問題や議案が発生した際に開催。 ここでは手術スケジュールの調整に関する事、安全管理・感染管理に関する事、設備に関する事。 機器の保守点検、新規購入等について協議し、その時々の問題解決機関となる。 議事録は別ファイル「手術室運営会議録」に保管する。		
備考			

安全管理委員会（台風対策委員会）

委員会名	安全管理委員会（台風対策委員会）		
委員長名	松元 悟	構成人数	6名
事務局・担当部署		担当者名	吉川 忍
委員名	【医 局】松元 悟、久場良也、普天間光彦 【医療技術部】宮城竜也 【看護部】宮平典子 【事務部】當銘秀之、吉川 忍		
活動目的	1. コンディション発令（台風対策）の有無、病院診療及び、職員出勤の有無などを検討し決定する。 2. コンディション解除の日時を検討し、病院診療時間および職員出勤時間などを決定する。		
活動内容	1. コンディション発令時刻の決定 2. コンディション解除時刻の決定 3. 診療時間の決定 通常診療休診の決定 通常診療開始の決定 4. 委員会開催日時の決定		
備考			

ICU・救急検討委員会

委員会名	ICU・救急検討委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	20名
事務局・担当部署	救急外来	担当者名	内間幸人
委員名	【医 局】久場良也、佐久川 廣、與座 一、西原 実、末吉健次、渡慶次学、嘉川春生、仲本 学、宮城 敬、普天間光彦、国島知子、大西 勉、武田 理、照屋明子、銘刘正、三戸正人 【看護部】仲地ますみ、内間幸人、安村公均、粟盛信子		
活動目的	救急外来、ICUの運営上の諸問題、搬送患者の取り扱い、感染問題、治療実績、地域消防との連携、勉強会の開催など		
活動内容	1) BLS コース企画、運営 2) ICLS コース企画、運営 3) 救急、災害フェアへの参加（東部消防との連携により西原のショッピングセンターにおいてBLS 講習会や健康相談会を実施する）		
備考			

図書委員会

委員会名	図書委員会		
委員長名	宮平 工	構成人数	4 名
事務局・担当部署	総務課・図書係	担当者名	宮城映子
委員名	【医 局】宮平 工 【医療技術部】石原 悟 【事務部】比嘉 靖、宮城映子		
活動目的	ハートライフ病院図書室の適正な管理運営をはかるため必要な事項等を審議検討することを目的とす。		
活動内容	図書委員会活動：委員長が招集し年 2 回開催。(4 月・10 月) 広報活動：「図書だより」を毎月 1 回発行し、院内各部署および他病院図書室などに配布。年 1 回所蔵目録の作成。		
備考			

実績報告資料等

ハートライフ病院図書室 概要

- 開室時間：月～金 8:30～21:00 土 8:30～18:00
(※担当者在室 平日8:30～17:30)
24時間利用可能(施設等は医局より請求を要する)
- 蔵書数：和書 2661冊、洋書 152冊
- 購読雑誌数：和雑誌 70誌
洋雑誌 30誌
- データベース：医中誌Web、PubMed、UpToDate、メディカルオ ンライン
- 視聴覚資料：DVD 55枚、CD-ROM 15枚、ビデオ 24本
- 機器の利用：パソコン3台、プリンター1台、視聴用DVD/ビデオ1台
- 図書室サービス：文献検索、文献複写依頼、図書購入手続



ハートライフ病院図書委員会

図書室業務実績(平成28年度)

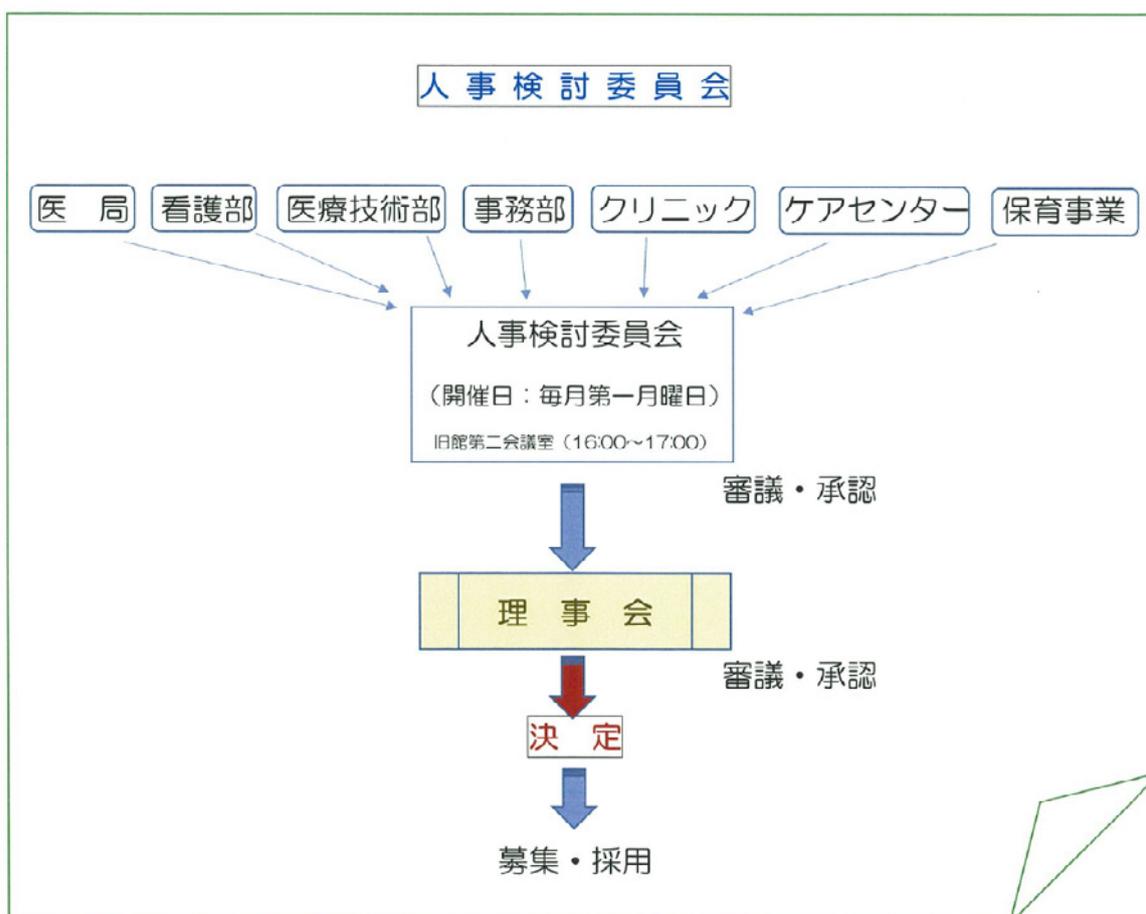
文献複写依頼	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
医 局	389	307	547	573	446
看護部	20	57	35	21	7
コ・メディカル	1	61	13	65	36
事務部	5	4	1	13	1
クリニック(他院外)	75	312	97	122	0
その他(院外)	5	0	0	0	0
小 計	495	741	693	794	490
デジタルオンライン (医中誌Web、PubMed)	7070	6053	7063	6224	7063
他施設からの依頼	289	154	179	121	96

受入資料	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
和雑誌(タイトル数)	66	72	74	73	70
洋雑誌(タイトル数)	34	30	30	31	30
図書(書籍)	240	151	183	159	133

人事検討委員会

委員会名	人事検討委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	5名
事務局・担当部署	法人事務局 人事課	担当者名	比嘉康文
委員名	【医局】奥島憲彦 【看護部】宮平典子 【医療技術部】宮城竜也 【事務局】當銘秀之 【法人事務局人事課】比嘉康文		
活動目的	1. 医療の質、向上に寄与するための人材確保 2. 各部門の現状把握・分析をし、適正人員及び適正人件費を検討し経営に寄与する。 3. 職員の採用（増員・補充・異動、その他）は人事検討委員会を通して検討する。増員・補充に関しては理事会の承認を得る。 4. 昇進・昇格人事を検討し、理事会へ提案する。 5. 業務委託の検討		
活動内容	平成28年度人事検討委員会開催数12回。承認された事案は理事会で審議され決定する。主な審議内容は、①昇進人事②業務拡張に伴う増員③退職・産休に伴う補充④給与表・資格手当の見直しなどがある。平成28年度は、かりゆし会全体で、212名を採用した。（ハートライフ病院159名、ハートライフクリニック5名、地域包括ケアセンター33名、保育事業6名、附随附帯業務9名）		
備考	人事検討委員会に提出する事案には、部署体制図を必ず添付するようお願いいたします。委員会は毎月第一月曜日に行われますので、稟議書等資料は、前週水曜日までに紙ベースにて人事課へ提出をお願いします。		

実績報告資料等



教育研修管理委員会

委員会名	教育研修管理委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	5 名
事務局・担当部署	看護部、副部長	担当者名	仲地ますみ
委員名	【医 局】久場良也、普天間光彦 【看護部】仲地ますみ 【医療技術部】宮城竜也 【法人事務局人事課】比嘉康文		
活動目的	医療・看護・医療技術、組織管理・運営、患者接遇、医療連携（ネットワーク）、IT 等に関する教育・研修を充実させ、人材の育成と医療レベルの標準化・向上に寄与する。		
活動内容	1) 病院全体の教育・研修実施状況について以下を把握する。 ①年間計画と実績 ②各部門の教育・研修の現状 ③学会発表、参加状況 ④研修会（講習会）への参加状況 ⑤研修後の報告の有無 ※①～⑤については、各部門、委員会、チーム責任者で推進し、実施と評価を行うものとする 2) 外部からの研修（実習）実績の集約 3) その他		
備考			

実績報告資料等

【平成28年度実習・研修受け入れ状況】

医師卒後臨床研修	34	初期研修	28
		後期研修	6
看護学生臨床実習	292	沖縄看護専門学校	90
		ぐしかわ看護学校	86
		北部看護学校	9
		看護系大学	32
		福岡看護専門学校	75
医療技術関連実習	148	医学生	119
		リハビリ	16
		事務系	10
		臨床検査	4
救急救命士臨床実習	82	中部地区MC	43
		他消防	34
		学生	5

【平成28年度院内研修・講演会実績】

内 容	実施件数	参加者(人)
医療安全	3	421
院内感染対策	2	199
教育	27	1102
発表・報告会	10	912
教養その他	9	554
計	51	3188

診療材料等管理検討委員会

委員会名	診療材料等管理検討委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	16名
事務局・担当部署	用度課	担当者名	諸見里和也
委員名	【医 局】久場良也、松元 悟 【看護部】仲地ますみ、諸喜田久美、安谷屋佳子、宮城幸江、米須智子、島袋すが子、内間幸人、安村公均、宮城つかさ、比嘉憲貴 【医療技術部】神谷乗敏、大城 安、宮城竜也 【事務部】諸見里和也		
活動目的	診療材料等に関する方針および懸案事項を審議、調整する。		
活動内容	1) 診療材料・医療消耗品等に係る方針に関すること。 2) 購買管理・在庫管理・使用管理に関すること。 3) 職員教育及び啓蒙に関すること。 4) 前各号に定めるものの他、理事長が必要と認める事項。		
備考			

実績報告資料等

平成28年度 診療材料検討委員会年間審議実績

申請審議件名	申請部署	現状使用材料	新規・変更採用材料	備考
DCピース新規採用	放射線・高良	新規	DCピース	採用
腹腔鏡下操作トロッカー変更	管財課・諸見里	エチコン社トロッカー	トップ・スレンダーポート	年間約¥580万削減 採用
腹腔鏡下カメラトロッカー変更	管財課・諸見里	エチコン社トロッカー	オリンパス・トロッカー	年間約¥50万削減 採用
シュアフューザー変更	麻酔科・島袋	ニプロ社シュアフューザー	楽々フューザー	年間約¥25万削減 採用

物品購入検討委員会

委員会名	物品購入検討委員会		
委員長名	松元 悟	構成人数	12 名
事務局・担当部署	用度課	担当者名	宮里 毅
委員名	【医 局】松元 悟、久場良也 【看護部】宮平典子、外間真紀子 【医療技術部】宮城竜也、仲座義富、神谷乗敏、大城 安、斎藤辰好 【事務部】當銘秀之、宮城 淳、宮里 毅		
活動目的	・委員会の年間予算内で、現場に必要な物品を検討し優先順位をつけて必要物品を購入すること。 ・年度内に購入が難しい物品などは、次年度の予算で購入するように調整する。		
活動内容	1. 毎月第一金曜日に委員を開催し、必要物品・機器の購入検討を行い理事会にて承認を得る。 2. 承認を得た物品・機器を現金購入および割賦購入する。		
備考			

ワークライフバランス委員会

委員会名	ワークライフバランス委員会		
委員長名	當銘秀之	構成人数	8 名
事務局・担当部署	事務部・総務課	担当者名	富里 等
委員名	【医局】奥島憲彦、菅谷明子 【看護部】宮平典子 【医療技術部】宮城竜也 【事務部】當銘秀之、吉川 忍、比嘉康文、富里 等		
活動目的	全職員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する		
活動内容	医師の勤務負担軽減（医師勤務実績表を作成し当直明け休日を推進） 「沖縄県ワーク・ライフ・バランス企業」認証の取得（H26.4 月） 職員満足度調査（H28.11 月実施）人事課、衛生委員会との共同 36 協定の遵守 かりゆし会 年次有給休暇取得率集計 かりゆし会 離職率集計 タイムレコーダ打刻徹底周知（実労働時間の把握）		
備考	※開催日：毎月第 4 木曜日		

実績報告資料等



ワーク・ライフ・バランス企業認証の認証式の様子
平成 26 年 4 月 23 日 沖縄県庁に於いて

患者サポート委員会

委員会名	患者サポート委員会																						
委員長名	西原 実	構成人数	9名																				
事務局・担当部署	地域医療連携室	担当者名	西田悠希子																				
委員名	【医局】西原 実 【医療技術部】仲座義富 【看護部】池村久美子（患者サポート窓口担当）、宮平典子、仲地ますみ 【事務部】仲地智俊、吉川 忍、桑江 高、西田悠希子																						
活動目的	1. 医療従事者と患者等との円滑なコミュニケーションを図る 2. 患者等の不安に寄り添い、入院生活を支援する 3. 患者サポート相談窓口担当者及び各部門の担当者等が患者等からの相談を円滑に実施できるよう支援する。																						
活動内容	1. 開催日 毎週木曜日 13時から14時（平成27年度計44回（通算223回）実施） 2. 場所 3階第2会議室 (1) 主な議事内容の分類（述べ件数、平成28年度） <table border="1" data-bbox="523 685 1361 1014"> <tr><td>医師の説明・対応</td><td>3</td></tr> <tr><td>検査</td><td>0</td></tr> <tr><td>接遇・配慮</td><td>9</td></tr> <tr><td>受診・入院対応</td><td>10</td></tr> <tr><td>医療費・診断書</td><td>2</td></tr> <tr><td>組織上の問題</td><td>5</td></tr> <tr><td>本委員会体制</td><td>9</td></tr> <tr><td>連携上の問題</td><td>2</td></tr> <tr><td>その他</td><td>11</td></tr> <tr><td>計</td><td>51</td></tr> </table> (2) 本委員会に寄せられた事例から、提案・改善に至ったもの ・不当な対応を訴える患者の対応について、医師、外来師長とカンファレンスを行い、対応に困った際にはメディエーターが待機し、スタッフへ対応についてアドバイスをを行うこととなった ・メディエーター研修への参加要請…院内のメディエーター養成研修修了者は現在34人。フォローアップ研修受講者は現在3人。 ・患者サポートカンファレンスを開催し、現場にフィードバックすることで、当委員会への相談は減少。現場で対応、解決する事例が増加したことが考えられる			医師の説明・対応	3	検査	0	接遇・配慮	9	受診・入院対応	10	医療費・診断書	2	組織上の問題	5	本委員会体制	9	連携上の問題	2	その他	11	計	51
医師の説明・対応	3																						
検査	0																						
接遇・配慮	9																						
受診・入院対応	10																						
医療費・診断書	2																						
組織上の問題	5																						
本委員会体制	9																						
連携上の問題	2																						
その他	11																						
計	51																						
備考																							

QI 委員会

委員会名	QI 委員会		
委員長名	奥島憲彦	構成人数	11 名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	柳 学
委員名	【医局】奥島憲彦、末吉健次、高良 誠 【院長直轄部門】外間真紀子、嘉数智子 【事務部】柳 学、安里 竜、知念政治、安里健二、田中淳也、雨宮 絢(真栄平 久美子)		
活動目的	当院は 2012 年度、2013 年度、2014 年度、2015 年度に引き続き日本病院会主催の「QI プロジェクト 2016」に参加しております。QI (Quality Indicator) とは「医療の質の指標」を意味しています。標準的な診療が行われているか、その実施率等を数値化し客観的に評価して「医療の質改善」繋げていくことを目的としております。		
活動内容	下記 32 項目の臨床指標データの収集。 1. 患者満足度 (外来患者) 2. 患者満足度 (入院患者) 3. 死亡退院患者率 4a. 入院患者の転倒・転落発生率・4b. 入院患者の転倒・転落による損傷発生率 (レベル 2 以上)・4c. 入院患者の転倒・転落による損傷発生率 (レベル 4 以上) 5. 褥瘡発生率 6. 紹介率 7. 逆紹介率 8. 尿道留置カテーテル使用率 9. 症候性尿路感染症発生率 10. 救急車・ホットラインの応需率 11. 特定術式における手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与率 12. 特定術式における術後 24 時間 (心臓手術は 48 時間) 以内の予防的抗菌薬投与停止率 13. 特定術式における適切な予防的抗菌薬選択率 14. 糖尿病患者の血糖コントロール HbA1c (NGSP) <7.0% 15. 退院後 6 週間以内の救急医療入院率 16. 急性心筋梗塞患者における入院後早期アスピリン投与割合 17. 急性心筋梗塞患者における退院時アスピリン投与割合 18. 急性心筋梗塞患者における退院時βブロッカー投与割合 19. 急性心筋梗塞患者における退院時スタチン投与割合 20. 急性心筋梗塞患者患者における退院時の ACE 阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤の投与割合 21. 急性心筋梗塞患者における ACE 阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤の投与割合 22. 急性心筋梗塞患者の病院到着後 90 分以内の初回 PCI 実施割合 23. 脳卒中患者のうち第 2 病日までに抗血栓治療を受けた患者の割合 24. 脳卒中患者のうち退院時抗血小板薬を処方した割合 25. 脳卒中患者の退院時スタチン処方割合 26. 心房細動を伴う脳卒中患者への退院時の抗凝固薬処方割合 27. 脳梗塞における入院後早期リハビリ実施症例の割合 28. 喘息入院患者のうち吸入ステロイドを入院中に処方された割合 29. 入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合 30. 統合指標 (手術) 31. (虚血性心疾患) 32. 統合指標 (脳卒中)		
備考	本誌の 28 ページで医療の質 Quality Indicator (QI) のデータをご覧頂けます。		

医療マネジメント学会「当院における多職種協働による・褥瘡対策への取り組み」

Q I 委員会から「当院における多職種協働による褥瘡対策への取り組み」について医療マネジメント学会で発表を行いました。

「褥瘡は医療の質保証のインディゲーターの一つとして位置づけされている」と言われています。

これまでの褥瘡に関する診療報酬では、2002 年の「褥瘡対策未実施減算」にはじまり、2004 年には「褥瘡対策管理加算」、2006 年に「褥瘡対策未実施減算」が廃止され「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」が加わりました。2012 年には DPC 対象病院では褥瘡対策は「入院基本料包括評価」となったため、病院においては、必ず褥瘡対策を行わなければならなくなりました。

当院では、2002 年度に褥瘡対策委員会が発足され活動を開始しました。当初は専任の医師と専任の看護師のみで回診を実施していました。2012 年度より褥瘡回診の対象となる患者さんの早期改善、新規発生の抑制への取り組みとし

て、多方面からアプローチできるよう管理栄養士、薬剤師。理学療法士も参加し多職種協働での回診を開始しました。
 その結果、2013年度から2016年度まで年平均8640人の入院患者さんのうち院内発生した褥瘡患者の平均は4.04人(0.05%)となっています。この結果は全国的にみて多くはない人数ですが、さらに院内発生が減少できるよう、専門的立場からアプローチケアの質向上につなげていきたいと思えます。

はじめに

「褥瘡は医療の質保証のインディケータの一つとして位置づけられている」と言われている。
 これまで褥瘡回診は、専任の医師と看護師が行っていたが、2014年度より管理栄養士、薬剤師、リハビリスタッフも回診に参加している。
 今回、褥瘡対策委員会の活動内容をまとめたので報告する。

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>

褥瘡対策における診療報酬の移り変わり

- ◆2002年 「褥瘡対策未実施減算」
- ◆2004年 「褥瘡患者管理加算」
- ◆2006年 「褥瘡対策未実施減算」の廃止
「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」
- ◆2012年 褥瘡対策は「入院基本料包括評価」

病院は必ず褥瘡対策を行わなければならない!

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>

当院の褥瘡対策委員会

- ◆全入院患者に対しリスクアセスメントを行い、日常生活自立度判定B、Cランクの患者は褥瘡評価をする
- ◆持ち込み褥瘡、入院中に発生した褥瘡は主治医を介して褥瘡回診へコンサルテーション
- ◆回診:週1回(水曜日)
- ◆構成メンバー
形成外科医師、WOC看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、各病棟リンクナース

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>

各職種の役割

医師	看護師	管理栄養士	薬剤師	リハビリ
局所管理治療 処置方法の指導	観察早期発見 指示による処置の実施 スキンケア体位変換	栄養状態の把握 栄養管理アセスメント ケアプラン	使用薬剤の把握 薬剤の 情報提供 副作用の有無確認	適切な体位変換方法の指導

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>

QIプロジェクトへの参加

- ・日本病院会会員病院の医療の質を継続的に向上させるプロジェクト事業
- ・「自院の診療の質を知り、経時的に改善すること」を目的とし、医療の質を測定、評価、公表するための指標の検討
～日本病院会・QIプロジェクトHPより抜粋～

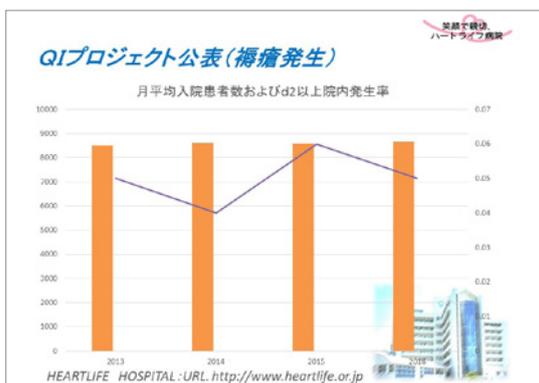
■当院では、2013年度よりQIプロジェクトへ参加し病院HPへ公開

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>

QIプロジェクト公表(褥瘡発生)

- 月平均入院延べ患者数
2013年度:8499.3人 2015年:8500.8人
2014年度:8612.6人 2016年:8656.3人
- 褥瘡院内発生月平均患者数(d2以上)
2013年度:4.17人 2015年:4.75人
2014年度:3.17人 2016年:4.08人
- 月平均発生率
2013年度:0.05% 2015年:0.06%
2014年度:0.04% 2016年:0.05%

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>



考察・まとめ

- ・褥瘡は、患者のQOL(生活の質)低下をきたし、治療が長期に及ぶことで在院日数の長期化や医療費の増大につながる。
- ・褥瘡ケアの質を向上させるためには、スタッフの褥瘡に対する意識・知識・技術の獲得が重要。
- ・多職種協働で活動する事は、専門的な立場からアプローチでき、患者を多面的にとらえケアの質向上につながると考えられる。

HEARTLIFE HOSPITAL: URL <http://www.heartlife.or.jp>

災害対策委員会

委員会名	災害対策委員会		
委員長名	久場良也	構成人数	8 名
事務局・担当部署	総務課	担当者名	吉川 忍
委員名	【医局】久場良也、西原 実、三戸正人 【看護部】内間幸人 【医療技術部】田中健嗣 【事務部】吉川 忍、宮里 毅（防災管理者） 【法人事務局】比嘉 康文		
活動目的	災害発生時、来院する多数の傷病者に対し、迅速・的確に対応し適切な災害医療を提供することを目的とする。		
活動内容	災害マニュアル作成委員会、災害訓練実施委員会、防災物品購入委員会を取りまとめ、マニュアル、火災訓練、大規模災害訓練実施の検討承認。		
備考			

増改築検討委員会

委員会名	増改築検討委員会		
委員長名	奥島 憲彦	構成人数	15 名
事務局・担当部署	事務部	担当者名	宮里 毅
委員名	【医局】奥島 憲彦、松元 悟、久場良也、佐久川 廣、西原 実、山本壽一、與座 一、普天間光彦 【看護部】宮平典子 【医療技術部】宮城竜也 【事務部】當銘秀之、安里竜、後原保光、新川進、比屋根宗、宮里毅		
活動目的	増改築計画の立案、および関連する業務・内容の検討・調整業務を行う。		
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎週第 2・第 4 水曜日開催。 2. 工事関連部署との調整。 3. 工事内容の検討・修整、および決定事項の周知。 4. 引っ越しのスケジュール調整と実施 5. 内覧会の準備対応 		
備考			

ハートライフクリニック 平成 28 年度 年次報告

Annual report of Heartlife Clinic 2016

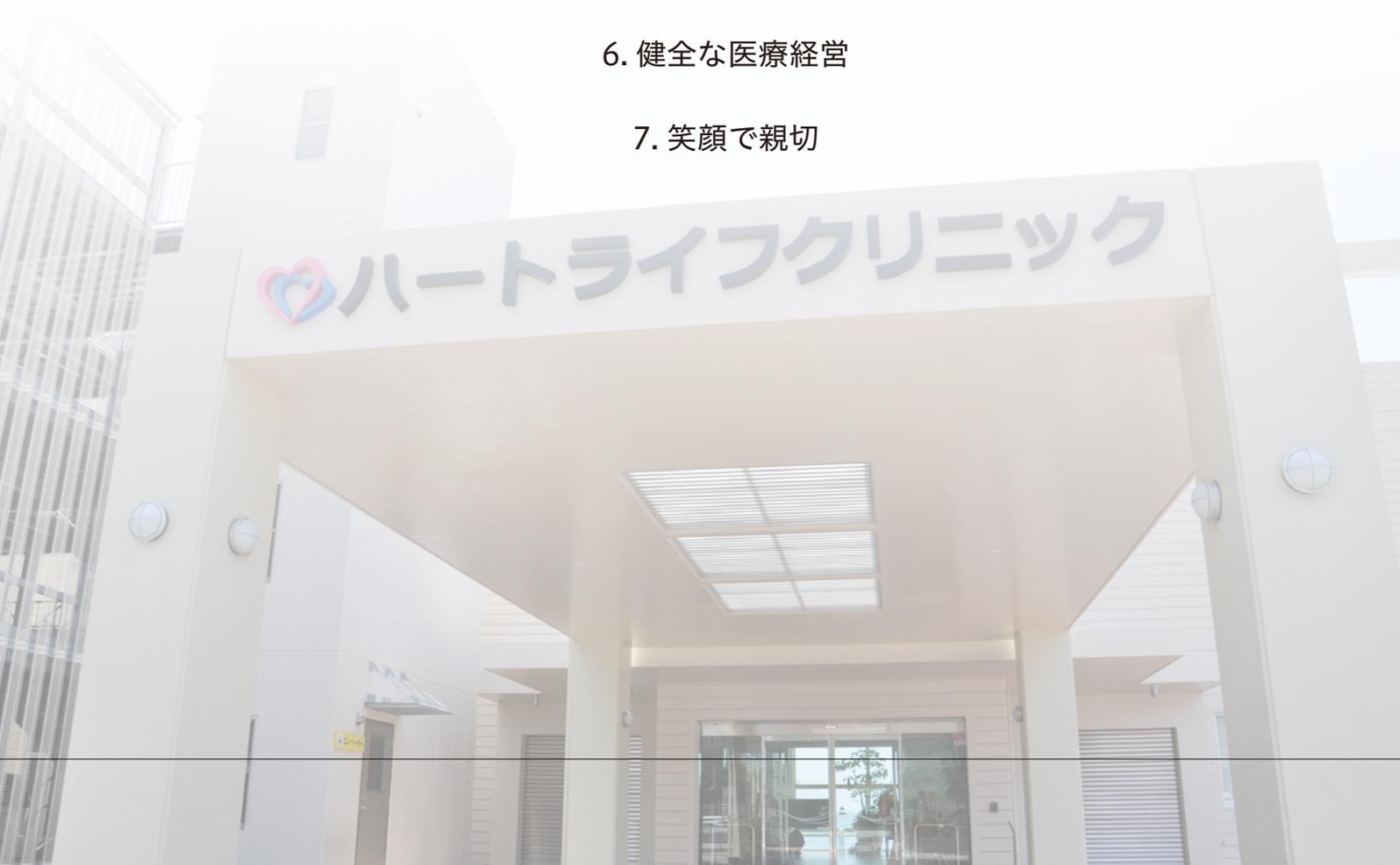


理念

わたしたちは心と心をつなぐ信頼される医療をめざします

基本方針

1. 生活習慣病の自立支援
2. 小児プライマリー（初期）医療
3. 地域循環型医療（かかりつけ医との連携）
4. 生活習慣病改善の指導で健康長寿を目指す
5. 研修教育クリニック（地域の医療関係者を含めて）
6. 健全な医療経営
7. 笑顔で親切



ハートライフクリニック

年報発刊によせての挨拶



ハートライフクリニックが誕生して5回目の年報となりました。クリニックへの受診患者さまは、開院以来年々増加しています。

近隣の患者さまの受診が圧倒的に多く、また再診の患者さまが増加していることから、地域のプライマリーケアとして、また慢性疾患の治療拠点として認識されてきたこととされます。さらに、離島から定期通院される患者さまや外国籍の患者さまも増えつつあり、専門性の高い医療を求めて受診されているものと思われます。

平成28年度のクリニック内科は、上地華代子医師が常勤として加わったことで、荒川幸弘医師との常勤医2人体制となり、また、本院の循環器内科與座一部長に外来コマ数を増やして頂いたこともあり、患者数が大幅に増えました。

小児科においては、本院から国島知子副部長（現部長）と川満豊医師、崎原徹裕医師、新里亜紀医師、普久原夏医師、そして琉球大学小児科学教室からの応援にて開院以来受診患者は増加の一途であります。特に、再診の患者が増えていることから、地域に根付いてきたと思われます。

糖尿病内科では1型糖尿病や重症合併症の紹介患者さまが多く、地域での糖尿病医療の専門性を発揮しています。透析予防チーム医療、フットケア外来、持続皮下血糖値モニター、インスリン持続皮下注射療法などの高度な糖尿病医療もおこなっています。土曜日には糖尿病教室と患者会を開催しています。

各科ともそれぞれの特徴を活かした診療を行っています。また、放射線科、臨床検査部門、医事課などクリニックでは最小人数で運営しているためハートライフ病院からの人的支援のお陰で医療の質が保たれています。本年報ではクリニックの状況がデータとして表現されています。今後とも皆さまのお力添えをお願い申し上げます。

社会医療法人かりゆし会
ハートライフクリニック
院長 山本 壽一

クリニック概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在 / データ作成 ハートライフクリニック 野村)

組織概要

施設名

社会医療法人かりゆし会 ハートライフクリニック

所在地

〒 903-0101 沖縄県中頭郡西原町字掛保久 288 番地

連絡先

電話 (098) 882-0810 (代表)

FAX (098) 882-0820

ホームページ <http://www.heartlife.or.jp/clinic/>

管理者一覧

理事長 安 里 哲 好

院長 山 本 壽 一

施設概要

敷地面積及び建物概要

敷地面積 5,866.90㎡ 建築面積 2,674.97㎡ 延べ床面積 5,959.94㎡

規模構造 鉄筋コンクリート造 地上 2 階建

職員数

総数 49 名

職種別

(平成 28 年 4 月 1 日現在 / データ作成 ハートライフクリニック 野村)

職種	人数	職種	人数	職種	人数	職種	人数
常勤医師	3	クラーク	6	臨床心理士	1	その他	4
非常勤医師	11	保育士	1	管理栄養士	2		
看護師	9	臨床検査技師	3	理学療法士	1		
准看護師	2	放射線技師	1	一般事務	5		

指導医・専門医・認定医

(平成 28 年 9 月現在 / データ作成 企画室広報 仲田)

名称	人数	名称	人数
日本内科学会総合内科専門医	2	日本内分泌学会専門医	1
日本内科学会認定医	6	日本循環器学会専門医	2
日本糖尿病学会研修指導医	1	日本呼吸器学会専門医	1
日本糖尿病学会専門医	3	日本小児科学会専門医	4
日本内分泌学会指導医	1	地域総合小児医療認定医	1

指定医療一覧

1. 保険医療機関
2. 生活保護指定医療機関
3. 被爆者一般疾病医療機関
4. 特定疾患治療研究事業医療機関
5. 小児慢性特定疾患治療研究事業医療機関
6. 労災保険指定医療機関

診療体制

標榜診療科目

糖尿病内科・内科・小児科

その他、専門外来など

- 禁煙外来

受付時間

月曜日～金曜日 午前 8:00～11:30
午後 13:00～16:30
土曜日(内科・小児科)
午前 8:00～11:30

診療時間

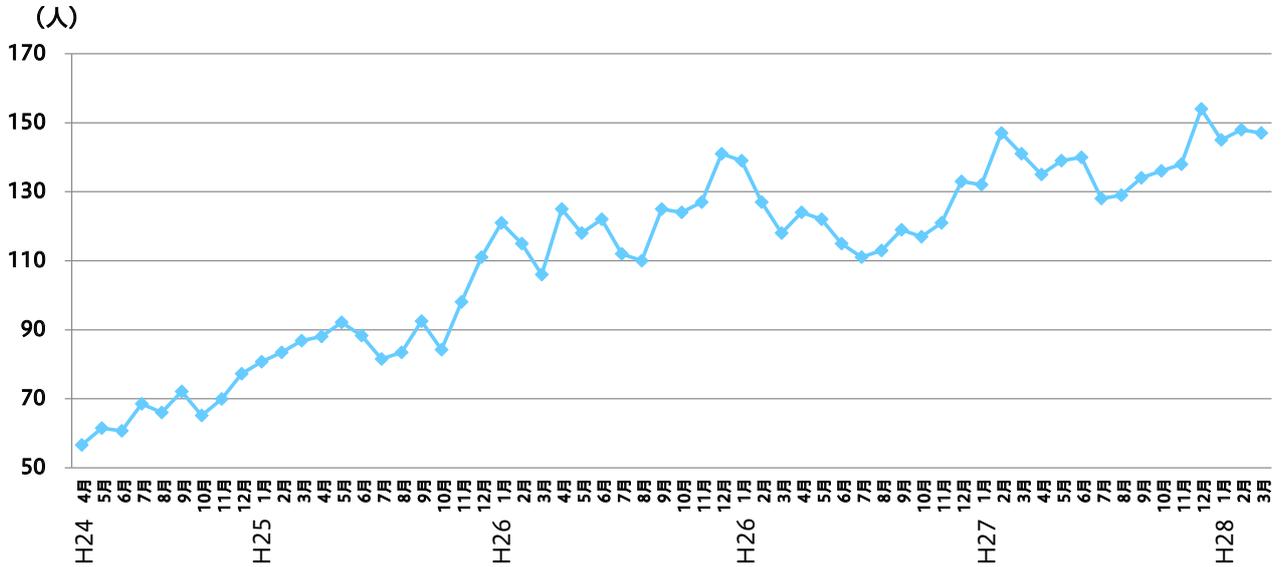
月曜日～金曜日 午前 9:00～12:00
午後 14:00～17:30
土曜日(内科・小児科)
午前 9:00～12:00

休診日

糖尿病内科/ 土曜日・日曜日・祝祭日
内科・小児科 / 土曜日午後・日曜日・祝祭日

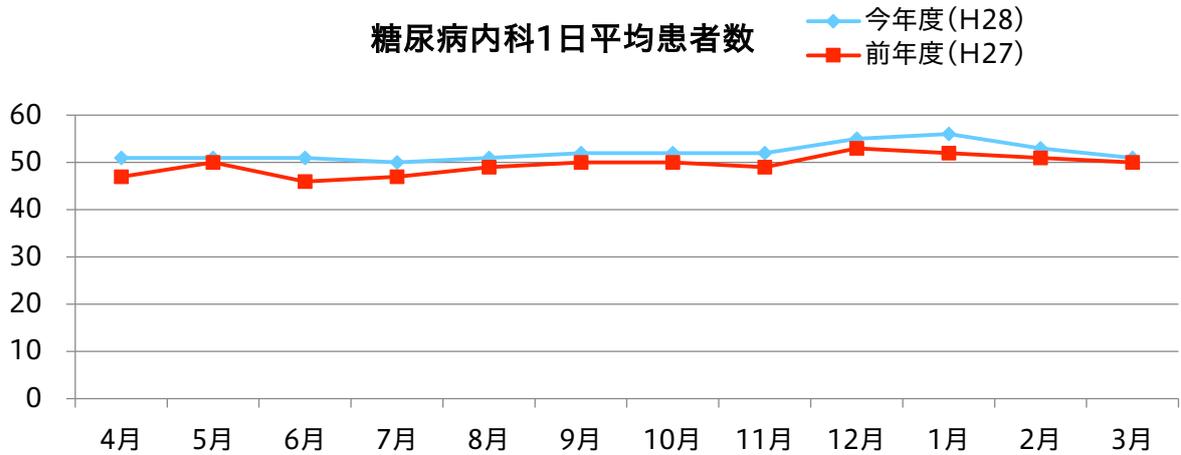
患者統計

開院からの1日平均外来患者数

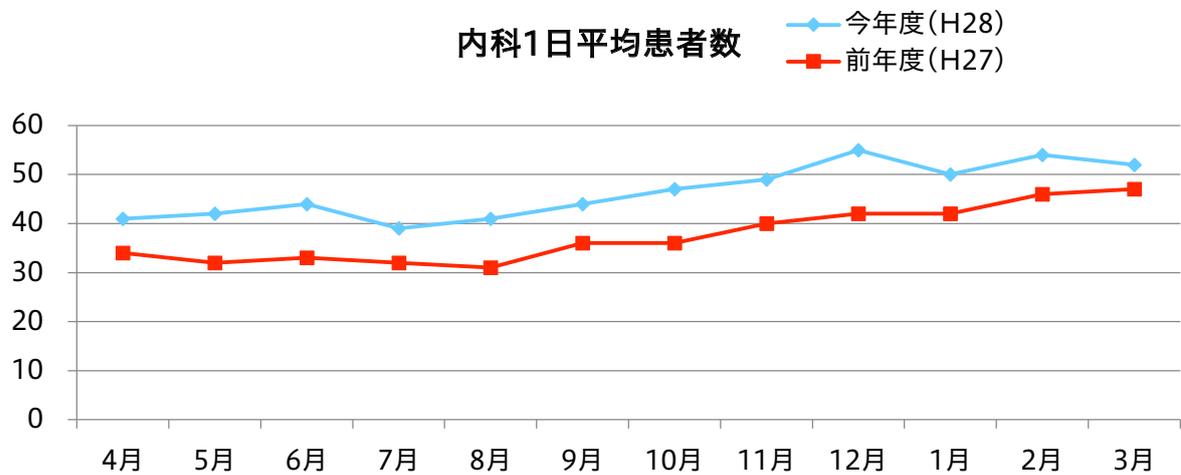


※ H27 年 1 月より内科と小児科の土曜診療を開始

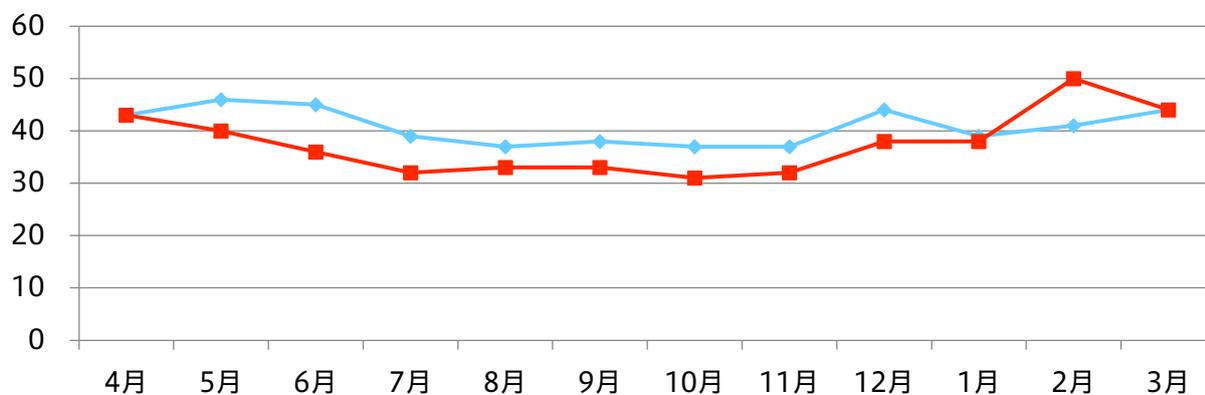
糖尿病内科1日平均患者数



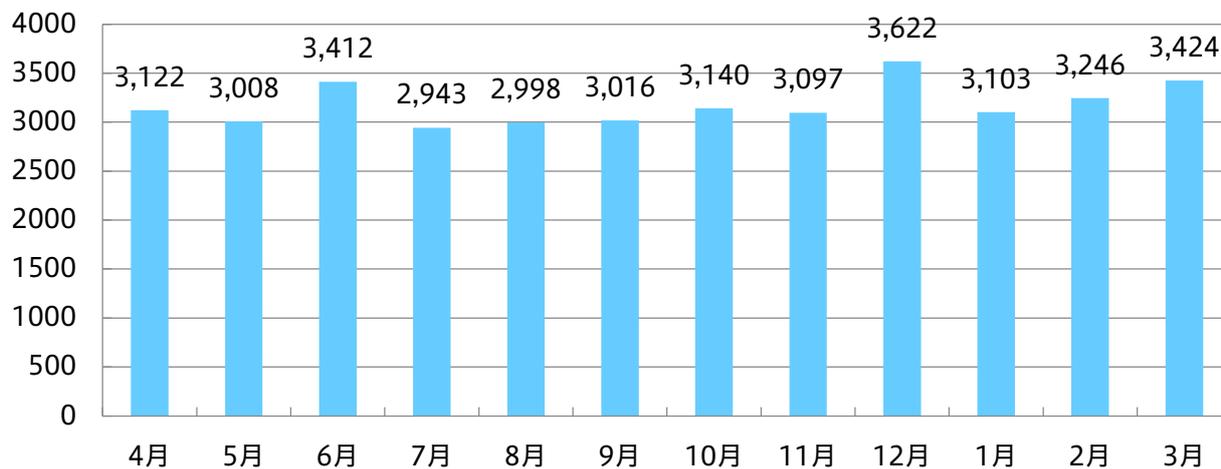
内科1日平均患者数



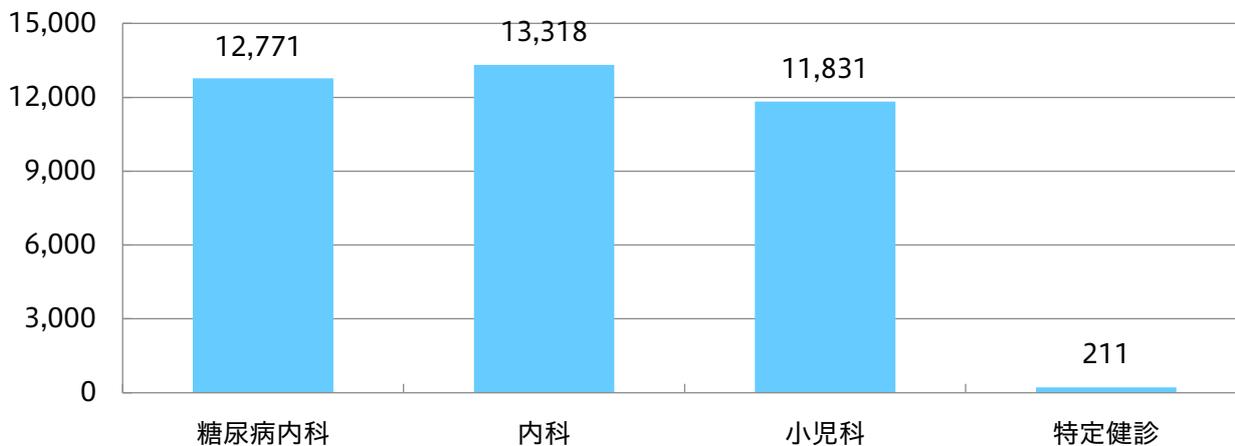
小児科1日平均患者数

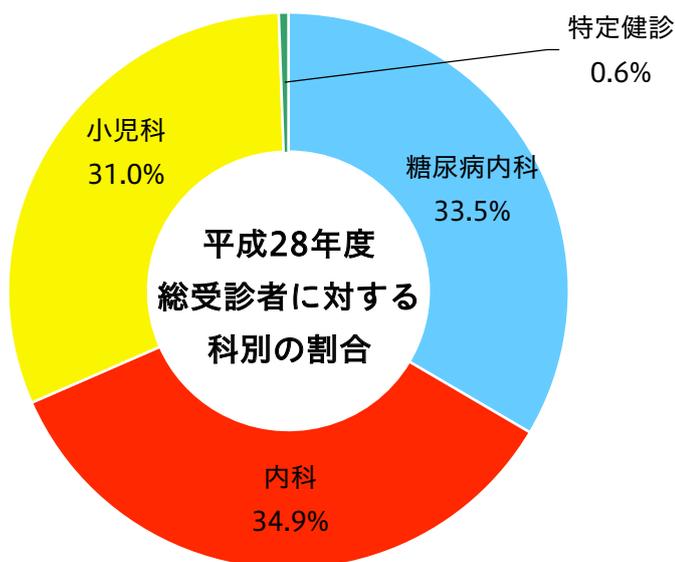


平成28年度 ハートライフクリニック月別外来受診者数

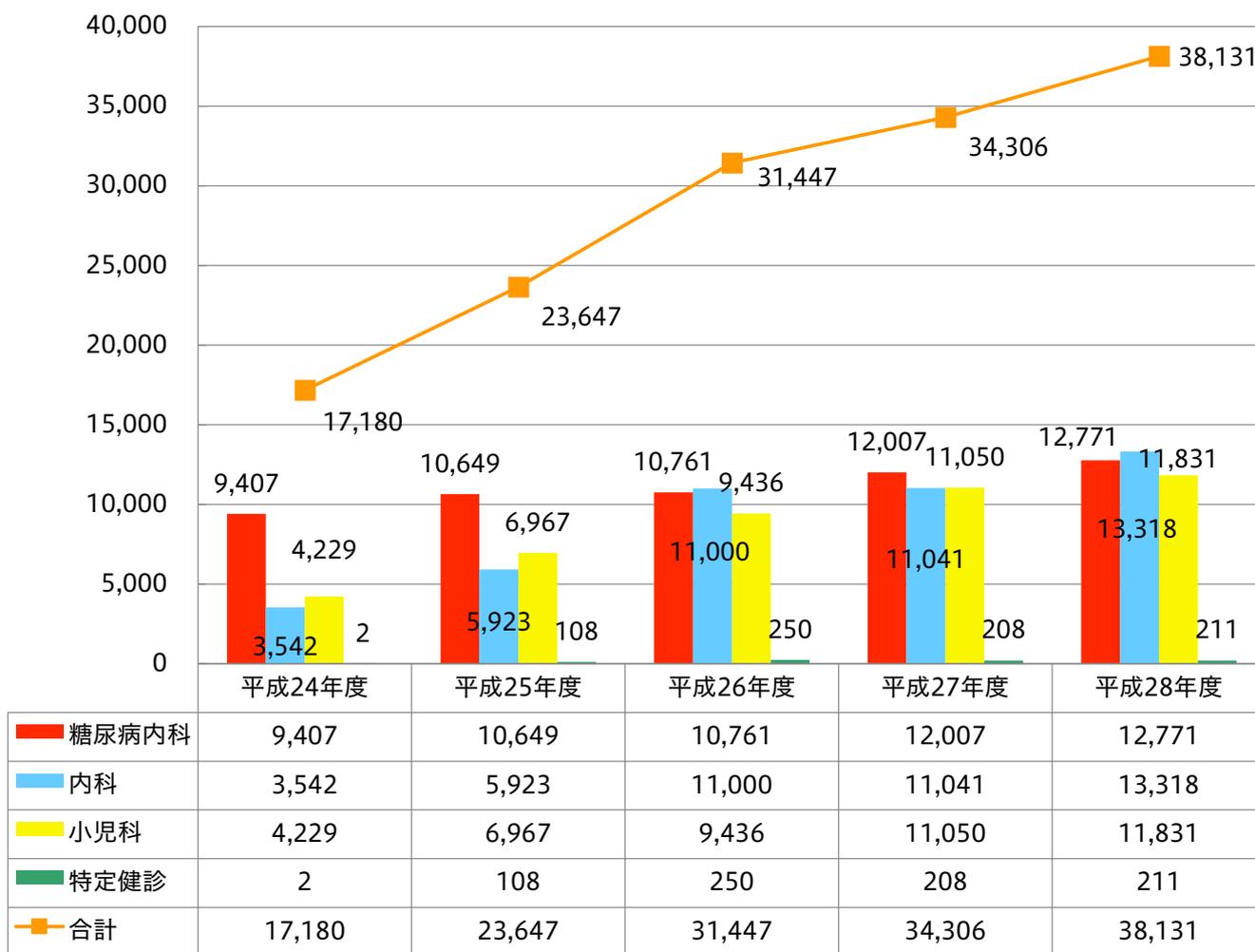


平成28年度 科別受診者数

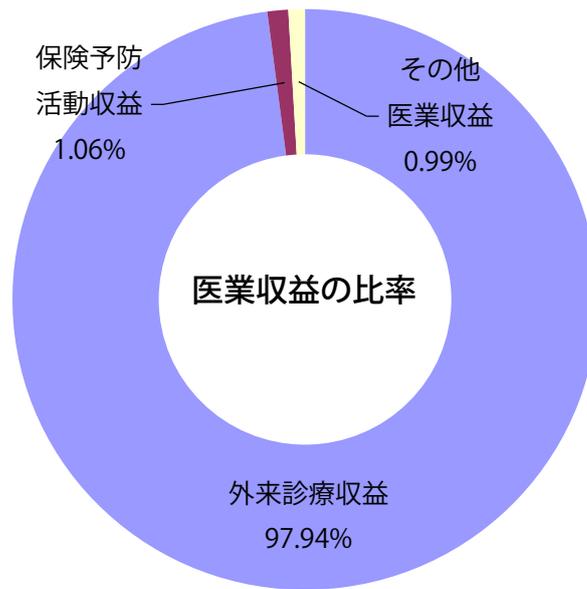




(人) 外来受診者数 年次推移 (平成24年度～平成28年度)



財務情報



ハートライフクリニック 業務実績

糖尿病内科

部門紹介

ハートライフクリニックの糖尿病内科は、患者さまの生活習慣や価値観を尊重しながら、患者さまが糖尿病と共によりよい目標を目指して、治療が続けられるようにサポートし続けています。

最新のインスリンポンプ療法やインクレチン自己注射療法、インスリン強化療法、14 日間 3 分間隔で血糖を自動測定する持続血糖皮下モニター CGMなどを外来ベースで導入しています。重症の合併症を持つ患者さまも紹介で受け入れています。また、糖尿病治療による心理的負担で疲弊した患者さまも本島内だけでなく離島からも通院されています。特にインスリンがなければ生きていけない1型糖尿病患者も多数通院されています。

当科では看護師や栄養士、検査技師や理学療法士、臨床心理士が糖尿病患者の療養指導を行っています。日本糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフは7名おり、透析予防のためのチーム医療、下肢の切断予防のためのフットケアなどの加算がとれる施設として厚生労働省から認定されています。

普段の診療以外では、糖尿病内科の休診日である土曜日に外来教育コースや糖尿病患者会「ハッピーハート会」を定期的で開催しています。1型糖尿病患者勉強会「ポパイの会」を年3回開催し、多数の患者さまが参加されました。さらに、日本糖尿病協会主催のウォークラリーや糖尿病週間の一般市民への啓発運動などにも協力しています。

職員数

総数 16名

医師	6名（常勤1名、非常勤5名）	検査技師	1名
看護師	5名	臨床心理士	1名
管理栄養士	2名	クラーク	1名

認定・資格

名称	人数
日本糖尿病療養指導士	7

名称	人数
沖縄県地域糖尿病療養指導士	3

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
味覚チェック栄養指導の試み	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都府	2016年5月20日	新垣優子、渡真利ゆりか、玉那覇美幸、島袋夕子、伊保希望、西原和枝、久高恵、仲里幸康、崎原みち代、山城小百合、山本壽一
糖尿病性腎症患者への支援アプローチ～透析予防への医療の構築を目指して～	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都府	2016年5月20日	西原和枝、玉那覇美幸、久高恵、島袋夕子、伊保希望、新垣優子、仲里幸康、山城小百合、崎原みち代、福地万里、野村拓、山本壽一
2型糖尿病運動療法未実施者が運動を踏み出せない理由を探る	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都府	2016年5月21日	長嶺敦司
講演会講師	平成28年度基礎講習会 主催：沖縄県地域糖尿病療養指導士会	那覇市	2016年7月10日	高橋紗也子
調理実習講師	糖尿病の食事と味付け	うるま市	2016年9月15日	新垣優子
糖尿病教室への効果的な患者召集の検討	第21回日本糖尿病教育・看護学会	山梨県	2016年9月19日	玉那覇美幸
同じ病気を持つ看護師としてこれから患者に出来ることは	第3回日本糖尿病医療学会	京都府府	2016年10月8日	伊保希望、山本壽一、久高恵、玉那覇美幸、島袋夕子、西原和枝、新垣優子、仲里幸康
「注射する時、いらいらする」と発言する1型糖尿病女性への介入は	第3回日本糖尿病医療学会	京都府府	2016年10月9日	久高恵、玉那覇美幸、西原和枝、島袋夕子、伊保希望、山本壽一
座長	第3回日本糖尿病医療学会	京都府府	2016年10月8日、9日	山本壽一
座長	第3回日本糖尿病医療学会	京都府市	2016年10月9日	高橋紗也子
司会	日糖協沖縄県栄養士部会・研修会	浦添市	2016年10月12日	新垣優子
味覚チェック栄養指導の試み～第2報～	第54回日本糖尿病学会九州地方会	鹿児島県	2016年10月14日	渡真利ゆりか、新垣優子、久高恵、玉那覇美幸、島袋夕子、西原和枝、伊保希望、高橋紗也子、仲里幸康、崎原みち代、山城小百合、山本壽一
座長	第54回日本糖尿病学会九州地方会	鹿児島県	2016年10月15日	山本壽一
糖尿病劇場 in かごしま	第54回日本糖尿病学会九州地方会	鹿児島県	2016年10月15日	山本壽一、岡崎研太郎、西村博之、丸田小百合、- 絆 - 糖尿病連携手帳を広める会
糖尿病劇場 in かごしま アイスブレイク	第54回日本糖尿病学会九州地方会	鹿児島県	2016年10月15日	長嶺敦司
糖尿病劇場出演者	第1回療養指導研修会 主催：沖縄県地域糖尿病療養指導士会	那覇市	2017年1月23日	仲里幸康・高橋紗也子
講演会講師	第163回地域向け医療講演会	那覇市	2017年2月8日	高橋紗也子
司会	日糖協沖縄県栄養士部会・調理実習	読谷村	2017年2月25日	新垣優子
診療間隔調査	平成28年度・第3回沖縄県日本糖尿病療養指導士の講習会	那覇市	2017年3月11日	玉那覇美幸
味覚チェック栄養指導の試み	平成28年度・第3回沖縄県日本糖尿病療養指導士の講習会	那覇市	2017年3月11日	新垣優子
～味覚チェック栄養指導の試み～第2報	平成28年度・第3回沖縄県日本糖尿病療養指導士の講習会	那覇市	2017年3月11日	渡真利ゆりか

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
2 型糖尿病運動療法未実施者が運動を踏み出せない理由を情報源から探る	平成 28 年度・第 3 回沖縄県日本糖尿病療養指導士の講習会	那覇市	2017 年 3 月 11 日	長嶺敦司
「注射する時、いらいらする」と発言する 1 型糖尿病女性への介入は	平成 28 年度・第 3 回沖縄県日本糖尿病療養指導士の講習会	那覇市	2017 年 3 月 11 日	久高恵

患者教育活動

ポパイの会開催

1 型糖尿病患者さんご家族を対象に、勉強会や情報交換会を開催しています。

開催日	テーマ	担当	参加者数
7 月 6 日 (水)	低血糖について	担当 西原 / 看護師	15 名
	シックデイについて	担当 伊保 / 看護師	
	シックデイ時の食事	担当 新垣 / 管理栄養士	
	ディスカッション	担当 久高 / 看護師	



■シックデイ時についての説明



■ディスカッション風景

ハッピーハート会

ハッピーハート会は患者、スタッフで構成されており、糖尿病に対する意識を深めること、また患者さん同士の親睦を図ることを目的としています。

テーマ	担当	開催日	参加人数
平成 27 年度 総会	スタッフ・会員	4 月 27 日	8 人
楽しく運動&災害の時のそなえ	看護師・理学療法士	7 月 30 日	22 人
糖尿病と寄り添って～体験談～	福治 みどり	10 月 29 日	10 人
第 9 回 美ら海ウォークラリー -	通院患者様	11 月 27 日	雨天中止
楽しく歌いましょう～音楽会～	通院患者様	1 月 28 日	14 人

楽しく運動&災害の時の備え



患者会メンバー



糖尿病と寄り添って～体験談～

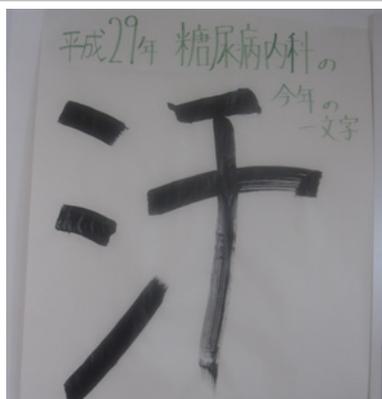


糖尿病教室

糖尿病教室とは、看護師や理学療法士など様々な専門家の講話を通して、糖尿病のセルフケアに役立つ情報や知識を学んでいただいたり、糖尿病の患者さん同士で自分なりのセルフケアの工夫や苦労話を話し合う場を設けるなど、より良いセルフケアを目指そうとするものです。

開催日	テーマ	職種 / 名前	参加人数
4月2日	糖尿病って知っている	看護師 / 玉那覇	12名
	やってみよう運動療法「いつでも・どこでも筋トレ編」	理学療法士 / 長嶺	
	糖尿病の薬について	薬剤師 / 上地	
4月9日	あなたの足大丈夫「糖尿病と足の関係」	看護師 / 島袋	12名
	糖尿病の神経障害の検査について”ジリジリ・ピリピリはありませんか”	臨床検査技師 / 仲里	
4月16日	食事療法で腎臓をまもる	管理栄養士 / 渡真利	10名
	糖尿病を話そう	臨床心理士 / 高橋	
5月14日	腸内細菌を味方につける食習慣～腸内細菌の乱れがコントロール不良へ～	管理栄養士 / 渡真利	11名
	健康食品について Part I ”ありん・くりん”	臨床検査技師 / 仲里	
5月28日	あなたの足大丈夫 Part II	看護師 / 島袋	11名
	糖尿病とストレス	臨床心理士 / 高橋	
6月4日	糖尿病と共に	看護師 / 久高	10名
	やってみよう運動療法「いつでもどこでも筋トレ編」	理学療法士 / 長嶺	
6月11日	糖尿病の薬について	薬剤師 / 知念	18名
	糖質制限食を考える	管理栄養士 / 渡真利	
6月18日	糖尿病検査について	臨床検査技師 / 仲里	12名
	低血糖&シックデイ	看護師 / 西原	
7月2日	糖尿病のストレス	臨床心理士 / 高橋	11名
	糖尿病患者さんの不安・心配事 Q & A	看護師 / 西原	
7月9日	やってみよう運動療法「痩せる運動と血糖改善運動」	理学療法士 / 長嶺	5名
	あなたの知らない糖尿病内科のあれこれ	臨床心理士 / 高橋	
7月16日	旧盆対策を考えよう	看護師 / 玉那覇	17名
	めざせ減塩マスター	管理栄養士 / 渡真利	
8月6日	検査データの見方について	臨床検査技師 / 仲里	13名
	糖尿病と上手に付き合っていこう	看護師 / 島袋	
8月13日	やってみよう運動療法「痩せる運動と血糖改善運動」	理学療法士 / 長嶺	12名
	薬について聞いてみよう	薬剤師 / 上地	
8月27日	動脈硬化の検査について	臨床検査技師 / 仲里	8名
	ほっこりリラクゼーション	臨床心理士 / 高橋	
9月3日	糖尿病について一緒に考えてみよう～カンパセーションマップ～	看護師 / 久高	6名
	ちょっと気になる脂質の話	管理栄養士 / 渡真利	
9月10日	糖尿病って何だろう？	看護師 / 玉那覇	10名
	やってみよう運動療法「いつでも何処でもストレッチ」	理学療法士 / 長嶺	
9月17日	糖尿病の食事療法の基本	管理栄養士 / 渡真利	10名
	検査について	臨床検査技師 / 仲里	
10月1日	糖尿病フットケア（足の痛み・しびれ・ビリビリ感）	看護師 / 西原	7名
	皆が困ったと思っていること～受診アンケートから～	臨床心理士 / 高橋	
10月8日	関係あるの？～糖尿病と口のこと～	看護師 / 島袋	9名
	やってみよう運動療法「効果的な歩け歩け」	理学療法士 / 長嶺	
10月15日	薬について	薬剤師 / 津波古	4名
	食事療法で腎臓を守ろう	管理栄養士 / 渡真利	
11月5日	検査について	臨床検査技師 / 仲里	23名
	日常生活で気をつけること（低血糖・シックデイ・旅行時など）	看護師 / 玉那覇	
	糖尿病について話してみよう	臨床心理士 / 高橋	
	糖尿病の方の間食対策（おやつ名人）	看護師 / 西原	
	腸内細菌を味方につける食習慣～腸内細菌の乱れがコントロール不良へ～	管理栄養士 / 渡真利	

開催日	テーマ	職種 / 名前	参加人数
11月12日	糖尿病と感染 やってみよう運動療法「いつでも何処でも筋トレ編」	看護師 / 久高 理学療法士 / 長嶺	13名
11月19日	検査について(歯周病) マンダラ塗り絵の会～カラーエクスペリエーション～	臨床検査技師 / 仲里 臨床心理士 / 高橋	9名
12月3日	糖尿病と付き合いよう やってみよう運動療法「痩せる運動と血糖改善運動」 薬について	看護師 / 玉那覇 理学療法士 / 長嶺 薬剤師 / 上地	9名
12月10日	糖尿病の食事～年末年始を乗り切ろう～ 検査について	管理栄養士 / 渡真利 臨床検査技師 / 仲里	11名
12月17日	糖尿病のあれこれ 糖尿病と認知症	看護師 / 島袋 臨床心理士 / 高橋	7名
1月7日	知って得する!糖尿病治療のコツ やってみよう運動療法「自宅で職場で出来る運動編」	看護師 / 久高 理学療法士 / 長嶺	15名
1月14日	栄養表示を活用しよう! 歯の健康と糖尿病	管理栄養士 / 渡真利 臨床検査技師 / 仲里	10名
1月21日	糖尿病の方に身につけてほしい自己管理の知識と技術 新春!健康・書き初めの会	看護師 / 西原 臨床心理士 / 高橋	9名
2月4日	糖尿病と言われたら やってみよう運動療法「いつでもどこでもストレッチ編」 薬について	看護師 / 島袋 理学療法士 / 長嶺 薬剤師 / 上地	9名
2月18日	減塩大作戦! 歯周病と動脈硬化	管理栄養士 / 渡真利 臨床検査技師 / 仲里	8名
2月25日	糖尿病と感染症 糖尿病と家族～我が家に糖尿病がやってきた～	看護師 / 玉那覇 臨床心理士 / 高橋	7名
3月4日	質の良い睡眠で糖尿病生活を楽しむ やってみよう運動療法「効果的な歩け歩け」	看護師 / 西原 理学療法士 / 長嶺	9名
3月18日	口腔内と食事の話 検査について(NASHについて)	管理栄養士 / 渡真利 臨床検査技師 / 仲里	7名
3月25日	フレイルとサルコペニアを知る 糖尿病クイズ三人寄せば文殊の知恵	看護師 / 久高 臨床心理士 / 高橋	3名



■今年の一文字院長と患者コラボ



■参加者と一緒に今年の目標設定



■運動講義



■間食のテーマで参加多数

心理相談室

ハートライフクリニック 2F の糖尿病内科には「心理相談室」があります。全国でもめずらしい糖尿病内科内の相談室です。来院される方の「こころ」と「からだ」、「毎日の暮らし」をトータルでサポート出来るようにと開室しています。

平成 28 年度 4 月から、常勤の臨床心理士として高橋紗也子（たかはしさやこ）が在籍しています。

支援内容		平成 28 年度実績	
患者様向け	カウンセリング	糖尿病の話だけに限らず、心にひっかかっていること、日々のことを時間をゆっくりとってお伺いしています。	196 件
	心理アセスメント	心理アセスメントで性格傾向や抑うつ感などを評価することで、具体的に療養計画に繋げていくことが出来ます。	4 件
	認知機能アセスメント	認知機能アセスメントで、認知機能の傾向を知ることによって、ご自身の得意不得意を知って、より主体的に生活をおくること、家族が日常生活で支援出来るポイント、医療スタッフの治療方針の検討に役立ちます。ご家族の介護相談にも応じています。 ※スクリーニング検査となりますので、診断には精査が必要となります。	35 件
	糖尿病教室	糖尿病の方がご自身の工夫で療養生活を送っていただくために必要な知識の心理に関することを講義しています。	月 1 回
	糖尿病患者会 (ハッピーハート会)	糖尿病を抱える方同士で支え合う仲間の集まりである患者会のイベントの手伝いや病気という繊細な話に触れる時のフォローアップをしています。	年 4 回
スタッフ向け	シェアリング	よりきめ細やかなケアのために医療スタッフ間で患者様の情報を共有する会をコーディネートしています。	週 1 回
	カンファレンス	症例を通して、「からだ」と「こころ」両面からのケアを考えるためのカンファレンスをコーディネートしています。	月 1 回

内科

内科医長 荒川 幸弘

部門紹介

平成 28 年度は呼吸器内科の上地医師の赴任に伴い、週 4 日の内科 2 診療体制と充実しており、與座医師の循環器内科の外来診療も週 2 回から 3 回になり、定期受診の患者数が増加しています。風邪症状・胃腸炎などの新規患者数も、昨年以上に増加してきています。

金曜日の腎臓内科外来も、着実に患者数を増やしており、慢性腎不全の進行予防に貢献していると考えられます。

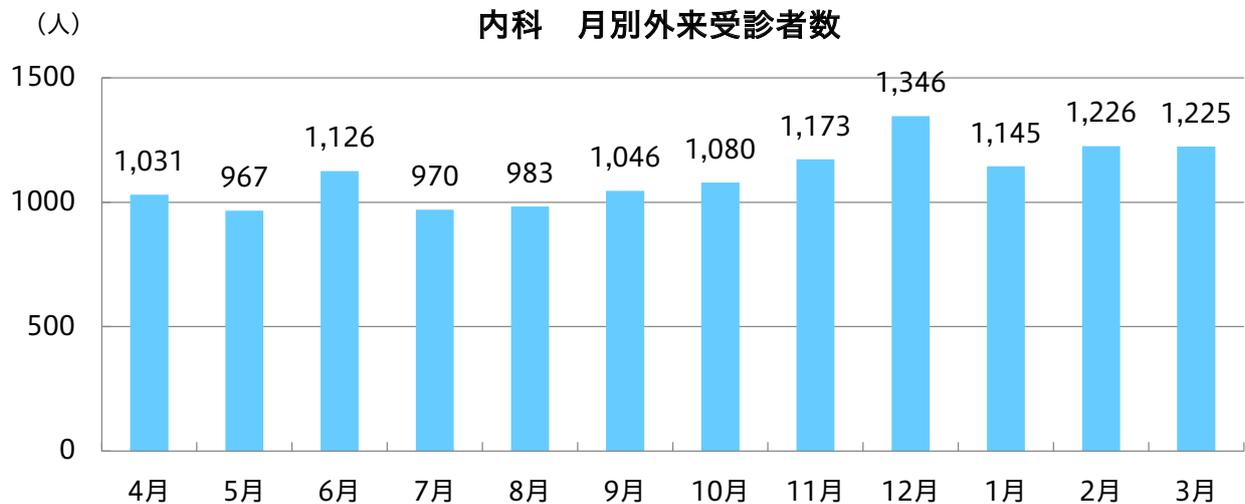
職員数

総数 10 名

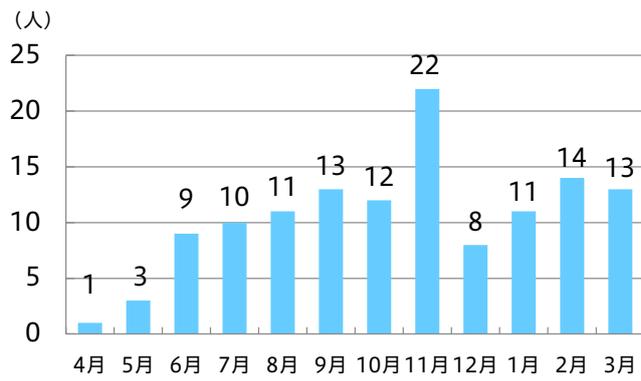
医師 5 名 (常勤 2 名 非常勤 3 名) クラーク 1 名

看護師 4 名

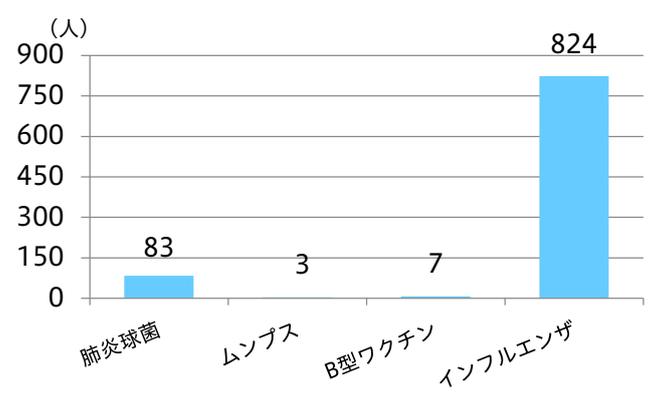
業務実績



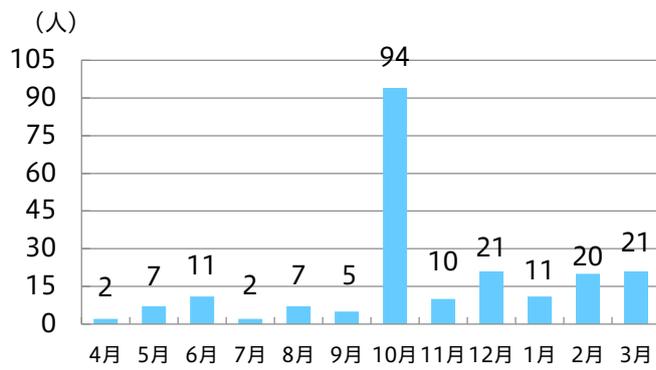
禁煙外来受診者数



予防接種・ワクチン接種実施数



特定健診受診者数



小児科

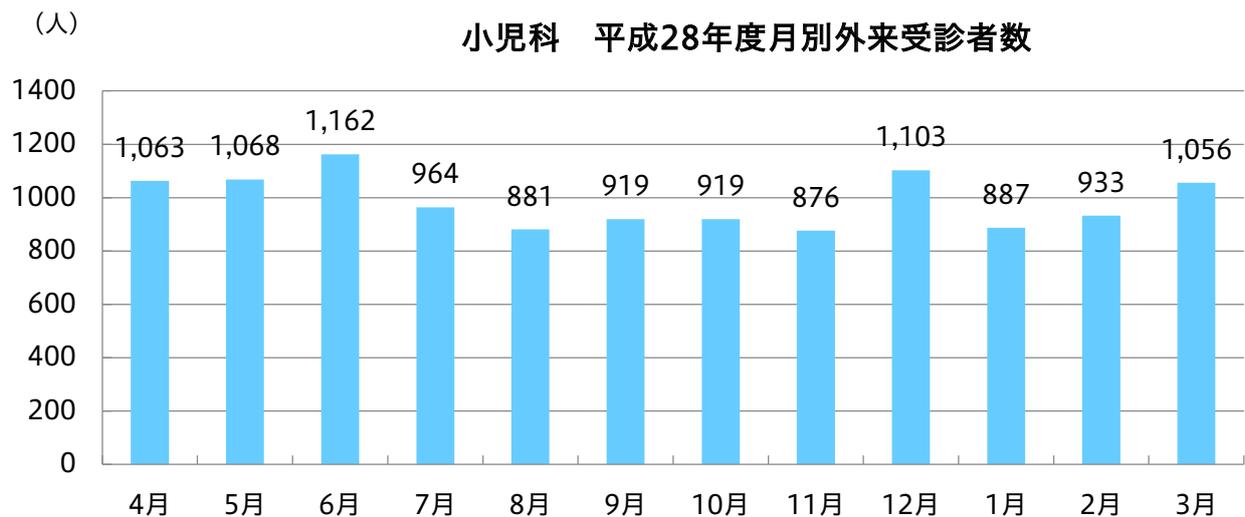
ハートライフ病院小児科副部長 国島 知子

部門紹介

小児科では一般外来を行っております。小児科内の壁面には、可愛らしいおさかなの壁紙を採用し、あがペエ子供造型教室のお子さんたちの絵画やオブジェの写真を掲示しています。お子さんが安心して怖がらずに来院できるような内装に配慮しました。

また、クリニック内では対応が困難な検査や、入院が必要となる専門的な治療は、他の医療機関やハートライフ病院などと連携して治療を行います。

業務実績



附属施設

疾病予防運動施設リューザ

疾病予防運動施設 リューザ 長嶺 敦司

部門紹介

疾病予防運動施設 Ryuew-ZA（リューザ）はハートライフクリニックと併設しているため、医師による運動処方箋をもとに医学的視点を加味し、安心で効果的な運動による疾病予防が可能です。

リューザでは、理学療法士が常駐しており、また、健康運動指導士といった運動の専門家が一人ひとりの身体の状態に合った運動プログラムを作成し、健康づくりを全面的にサポートします。

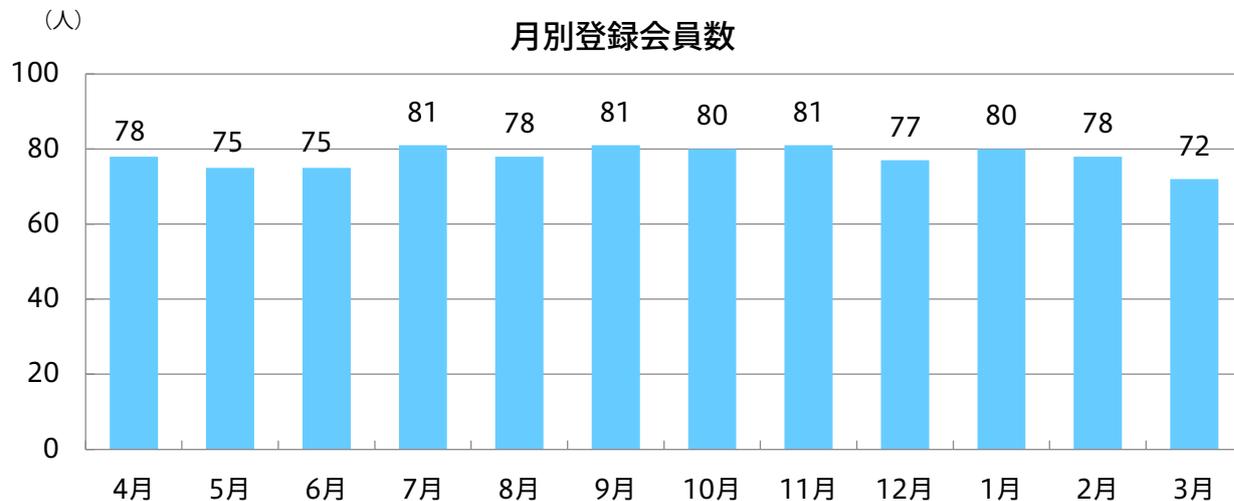
職員数

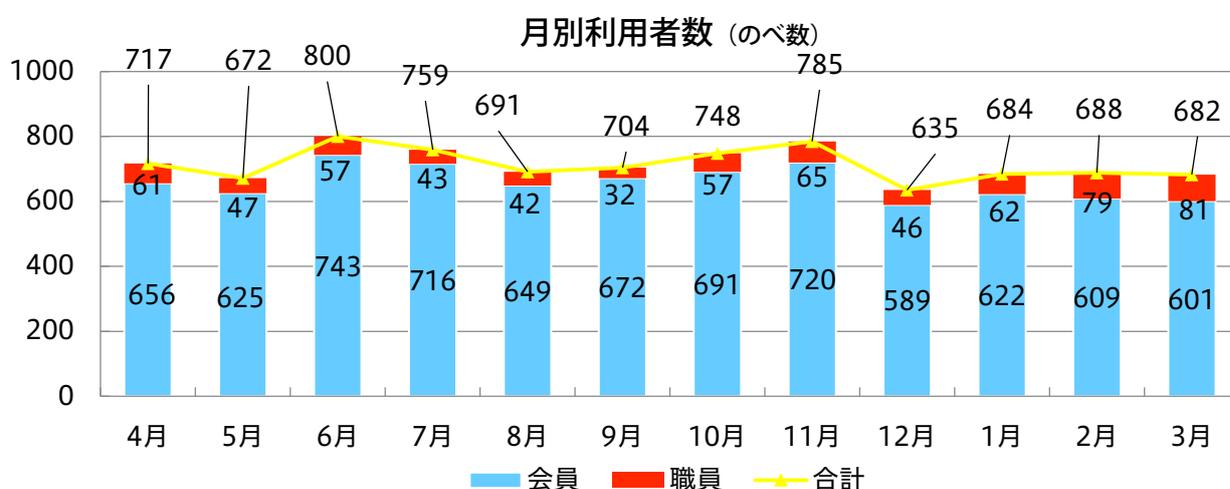
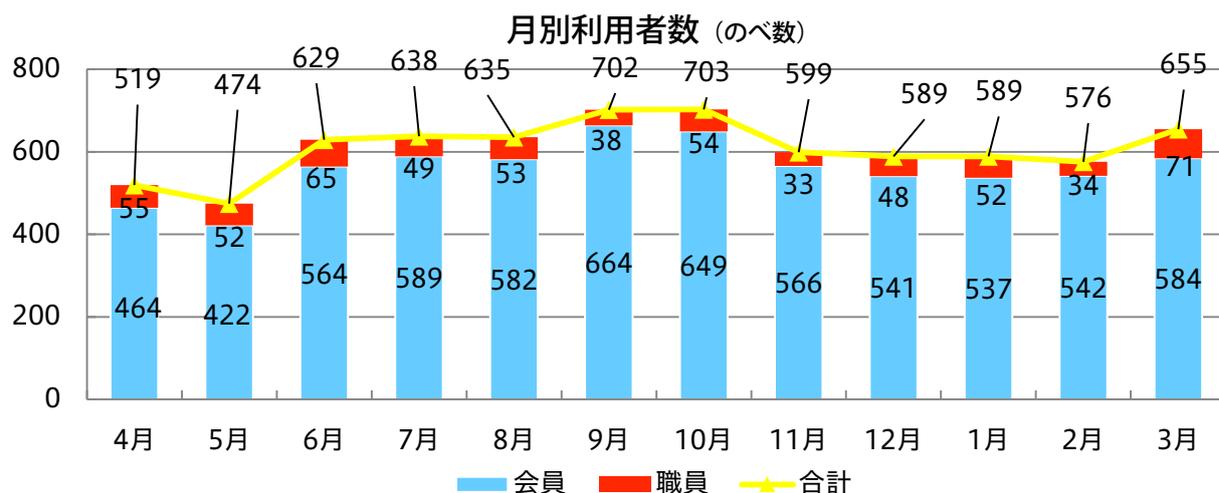
総数 5 名

理学療法士 3 名

健康運動指導士 2 名

業務実績





研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
2型糖尿病運動療法未実施者が運動を踏み出せない理由を探る	第59回日本糖尿病学会 年次学術集会	国立京都国際 会館	2016年5月18日	長嶺敦司
糖尿病劇場	第54回日本糖尿病学会 九州地方会	かごしま県民 交流センター	2016年10月14日	長嶺敦司

活動実績

講演会参加実施

名称	開催地	年月日	講師
日本糖尿病協会沖縄県士部会「いつでもどこでも運動療法」	男女共同参画 推進ハーモニ センター	2016年7月2日	講師：長嶺敦司
出前講座「ロコモティブシンドロームって何？」～要支援・要介護にならない為の予防運動～	中城村久場公 民館	2016年7月20日	講師：長嶺敦司
第2回沖縄県日本糖尿病療養指導士会の講習会「症例で考えるコーチングの活用例」	沖縄県看護研 修センター	2016年9月12日	ファシリテーター： 長嶺敦司
第51回日本理学療法士協会全国学術研修会「メタボリックシンドローム予防・糖尿病予防のための理学療法」	沖縄県コンベン ションセンター	2016年10月8日	司会：長嶺敦司
医療法人おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院「糖尿病の運動療法」	沖縄リハビリ テーション福祉 学院(与那原町)	2016年12月6日、 8日、13日、15日	講師：長嶺敦司

名称	開催地	年月日	講師
出前講座「ロコモティブシンドロームって何？」～要支援・要介護にならない為の予防運動～	西原町森川公民館	2017年2月28日	講師：長嶺敦司
第3回 沖縄県日本糖尿病療養指導士の講習会「2型糖尿病が運動療法を踏み出せない原因」	沖縄県看護協会(南風原町)	2017年3月11日	講師：長嶺敦司

広報誌あすなろへの寄稿

タイトル	号	監修
簡単フレーズで健康体操「ガッツポーズ体操」「いないいないばあ体操」「A&W アイスクリーム体操」	No.85 春号	長嶺敦司
簡単フレーズで健康体操「ウートー体操」「キューピー体操」	No.86 夏号	長嶺敦司
簡単フレーズで健康体操「イスに座るフリ体操」「デンデン体操太鼓」	No.87 秋号	長嶺敦司
簡単フレーズで健康体操「腰痛予防お尻を押して前を見ながら1、2、3」	No.88 新年号	長嶺敦司

ヘルシーカフェ ohana

ヘルシーカフェ ohana 新垣 優子

部門紹介

ヘルシーカフェ ohana（オハナ）は、ハートライフクリニックに来院される方や、生活習慣病が気になる方が来店されます。

カロリー計算されたモーニングセット・ランチや日替わり弁当、お客様の要望に合わせたオードブルやスイーツの予約注文も承っています。また、ハートライフ病院の産婦人科で出産された方へお祝い膳と特別コース料理、医局の当直弁当、院内講演会の軽食、小児デイケア（職員の子供対応）の幼児食なども利用していただいています。また、外来受診者の食事は刻み食の対応もしています（要予約）。今年度も衛生面に配慮し、お客様の食事サポートを行います。

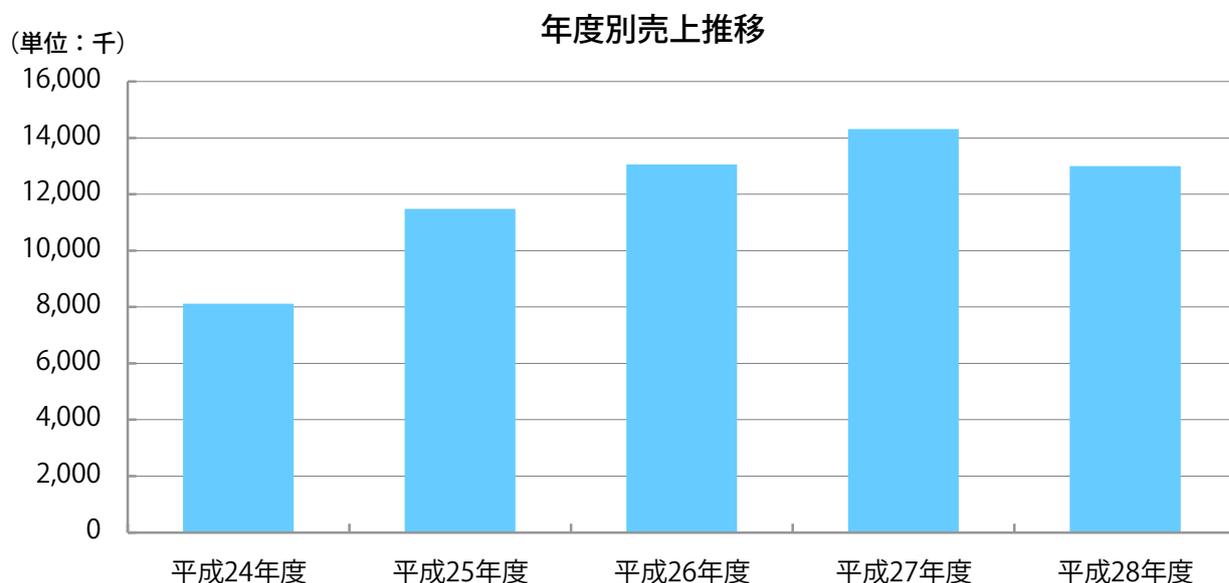
職員数

総数 4名

調理師 2名

フロア（配膳） 2名

業務実績



ハートライフ地域包括ケアセンター 平成 28 年度 年次報告

Annual report of Heartlife area comprehensive care center 2016



理念

わたしたちは、心と心を結ぶ信頼される、医療と介護をめざします

運営方針

1. 自分や自分の家族がして欲しいと思うケアを提供します。
2. いつでも笑顔で親切なケアを提供します。
3. 利用者の方の個性や楽しみを尊重し、その人らしく笑顔で日常生活を送れるように優しさと温かみのあるケアを提供します。
4. 医療と介護の連携により、切れ目のない支援を提供します。
5. 職員がやりがいと誇りを持って、働ける環境を作ります。



年報発刊によせての挨拶



ハートライフ地域包括ケアセンターは平成28年7月に開設から1周年を迎えました。

住宅型有料老人ホームでは1年で90名の入居目標を掲げていました。9月にまだ開いていない4階を開放し、受け入れ体制を整えましたが、3月末の入居者は73名で目標達成には至りませんでした。平成28年度の新規入居者は49名で退居者は39名、そのうち亡くなられた方が23名です。ホームでの看取りは11名でした。入院は月平均で13名～14名（ほとんどがハートライフ病院へ）、訪問診療も毎月20名程の対象者がいます。介護度は3.5前後で、医療度も高く退居者が多かったことと介護職員の離職率が高いことが目標達成できなかった大きな要因と考えられます。

デイサービスは60名定員のところ9割以上の利用率となっており、入居者が増えた時のサービスの調整が課題です。

訪問介護、ケアプランセンターは入居者の増加に伴い、利用者数を少しずつ増加させています。

訪問看護は、スタッフの退職に伴い1月～3月は利用者の減少がありました。ホームの入居者を早めに90名～95名にすることが、先ずは大きな課題です。そのためには介護職員の定着が重要で、次年度も引き続き取り組んでいきます。

社会医療法人かりゆし会
ハートライフ地域包括ケアセンター
センター長 西銘 宣子

施設概要

組織概要

施設名

ハートライフ地域包括ケアセンターを総称として、5 事業所で構成される。

1. 住宅型有料老人ホームはーとらいふ
2. デイサービスはーとらいふ
3. ヘルパーステーションはーとらいふ
4. 訪問看護ステーションはーとらいふ
5. ケアプランセンターはーとらいふ

所在地

〒 903-0103 沖縄県中頭郡西原町字小那覇 1606 番地

連絡先

電話 (098)944-3300 (代表)

ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/care/>

管理者一覧

理事長 安里 哲好

センター長 西銘 宣子

副センター長 比嘉 藤子

職員数

総数

53名

内訳

センター長	1名
副センター長（施設長兼）	1名
業務課長（法人事務局人事課長兼）	1名
事務職員	1名

●有料老人ホーム

看護師 4名（うち 1名施設長兼務）
 介護職員 18名
 相談員 1名

●訪問看護

看護師 3名

●訪問介護

介護職員 3名

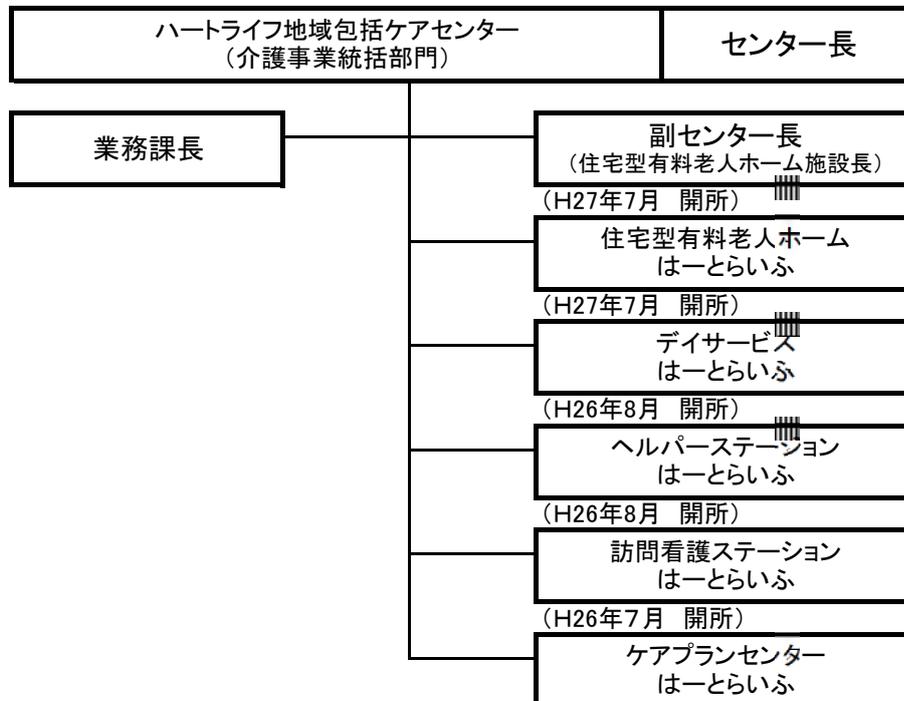
●デイサービス

看護師 3名
 介護職員 16名
 柔道整復師 2名

●ケアプランセンター

ケアマネージャー 2名

組織図



平成 28 年度 利用者実績

住宅型有料老人ホーム はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入居数	4	4	5	4	5	2	6	4	5	3	3	4	49
短期利用数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月末入居数	64	62	64	67	68	70	73	71	73	73	74	73	
退去数	2	6	3	1	4	0	2	8	3	4	1	5	39
内：死亡数	2(1)	3(2)	3(2)	0	1	0	2(2)	4(1)	2(1)	3(2)	0	3(1)	23(12)
看取	1	1	1	0	1	0	0	3	1	1	0	2	11
入院	11	14	12	17	22	21	11	11	10	12	12	11	164
訪問診療	18	18	18	19	20	18	20	20	21	21	20	21	234

※死亡者数の () は入院先で亡くなった方。

デイサービス はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	4	4	5	4	4	2	6	4	6	3	3	3	48
利用実人数	65	69	65	68	67	69	72	73	73	73	74	75	843
一日平均数	51	48	51	50	50	50	52	53	56	53	54	55	51.9
利用延べ人数	1,336	1,252	1,329	1,297	1,352	996	1,363	1,373	1,515	1,275	1,305	1,491	15,884

ヘルパーステーション はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	2	2	1	1	3	1	1	1	3	1	1	2	19
実人数	19	19	17	18	20	21	22	24	27	29	26	28	270
一日平均数	12	13	13	13	13	13	16	13	15	14	14	13	13.5
延べ人数	347	388	387	411	395	414	496	403	457	437	395	411	4,941

訪問看護ステーション はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	3	2	4	3	2	1	4	2	4	3	2	2	32
実人数	31	32	31	35	33	34	35	39	38	38	38	35	419
一日平均数	8	7	8	7	8	8	7	8	10	7	7	8	7.8
延べ人数	227	202	227	206	239	251	214	232	296	226	206	235	2,761

ケアプランセンター はーとらいふ

居宅	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	0	1	3	2	0	0	2	3	8	5	3	3	30
実人数	47	48	47	50	47	47	47	49	57	59	59	60	617

かりゆし会の1年

写真で振り返る かりゆし会の1年

平成28年4月1日～平成29年3月31日



科別実

第2回 ハートライフ病院 院内携帯電話使用基準説明会

第1回ハートライフ病院 院内携帯電話使用基準説明会

ハートライフ病院 平成27年度科別実績報告会 二日目

ハートライフ病院 平成27年度科別実績報告会 一日目

7月

5月

【講演会】医療事故調査制度について

講師：名古屋大学医学部附属病院 副院長
医療の質・安全管理室 教授 長尾 能雅 先生

【講演会】腰痛革命

講師：東京大学附属病院22世紀医療センター
運動器疼痛メデイカルリサーチ&
マネジメント講座長、特任准教授 松平 浩 先生

ハートライフ病院 慰霊祭

インターネット講演会 精神科リエゾンチームの取り組み

熊本地震へのDMAT派遣

救急症例検討会

【講演会】病院の差は職員の差

講師：福井県済生会病院 院長 登谷 大修 先生
入職式・オリエンテーション

平成28年

6月

感染対策講演会

全島縦断伝

第3回クリニカルバス大会 工夫・苦労した点あれこれ
「工夫すればここまでつかえる」
(特別講演) クリニカル検討会の活動
豊見城中央病院バス担当師長 兼島 貴乃 先生

4月

入職式



熊本地震へのDMAT派遣



全島縦断





演報告会



救急フェア



卓球大会

【講演会】糖尿病診療NowandFuture

beyond the BG control

講師・福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科
准教授 野見山 崇 先生

ハートライフ病院 総合防災訓練

9月

【講演会】皮膚の再生医療
講師：恵生会上白根病院 熊谷 憲夫 先生
ハートライフ病院地域医療連携懇談会

【講演会】急性期病院における業務集中化と職種別役割分担の取り組み
〜メディカルサポートセンター（入院支援センター）の価値と効果〜
講師：松本 武浩 先生 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
医療情報学 准教授 長崎大学病院 医療情報部 副部長

デイサービスはーとらいふ 敬老会

乳がん患者会

【講演会】航空業界における安全教育の現状
講師：JTAパイロット 佐藤 栄作 先生

ハートライフ地域包括ケアセンター 家族交流会

【講演会】患者さんに学ぶ 出会いを大切に

講師：国立病院機構沖縄病院名誉院長
介護老人保健施設「あけみおの里」施設長 石川 清司 先生

8月

救急フェア

救急症例検討会

ドクターカー納車式

卓球大会

【講演会】攻めの医療で救急救命に挑む

講師：公立豊岡病院但馬救急救命センター
センター長 小林 誠人 先生

救急症例検討会



ドクターカー納車式



新駅伝大会





有料老人ホームはーとらいふ家族交流会



かりゆし会ソフトバレー大会



第1回ハートライフ

ボランテニア民謡講演会
 うるま民謡愛好会・内間安雄民謡研究所顧問
 内間 安雄 氏

【講演会】原因不明の発熱へのアプローチ
 講師：沖縄県立中部病院 感染症内科 成田 雅 先生

【講演会】形成外科における様々な皮膚再建法
 講師：東京女子医科大学 形成外科 主任教授 櫻井 裕之 先生

院内研究発表会 事務部予選
 平成28年度 役職者研修会

11月

【講演会】胆膵内視鏡診療の最前線
 講師：埼玉医科大学国際医療センター
 消化器内科 教授 良沢 昭銘 先生

ハートライフ地域包括ケアセンター消防訓練

10月

デイサービスはーとらいふ 敬老会



地域医療連携懇談会



院内研究



個人情報保護法伝達講習会
 第二回 ハートライフ病院 市民公開講座
 「乳がんなんて怖くない」

新型インフルエンザ対応訓練
 院内研究発表会 本選
 消化器症例検討会
 役職者研修会

講師：株式会社インテリジエンスアンリミテッド
 代表取締役 藤本 ゆかり 先生

はーとらいふ保育園入園説明会
 はーとらいふ保育園 安全祈願祭

【講演会】ドクターカー8年8000件
 講師：八戸市民病院の救命救急センター
 センター長 今 明秀 先生

12月



病院市民公開講座



デイサービスはーとらいふ 忘年会



卒後臨床研修修了式

【講演会】

2016年度診療報酬制度改定に対する
DPC対応と今後の予測

講師：松阪市民病院総合企画室
副室長・診療部経営担当 世古口務 先生

【講演会】

クリーンコロンとコールドポリペクトミー
講師：昭和伊南総合病院 内科診療部長
消化器病センター長 堀内 朗 先生

消化器症例検討会

2月

消化器症例検討会

1月

平成28年納会

デイサービスはーとらいふ 忘年会

認定看護師活動報告会

3月

【講演会】急性期病院における精神症状の
マネージメントせん妄を中心に
講師：東京女子医科大学 医学部精神医学講座
教授・講座主任 西村 勝治 先生

【講演会】なぜ今、学校でがん教育が必要なのか？
講師：東京女子医科大学
がんセンター センター長 林 和彦 先生

初期臨床研修医第2期生修了パーティー

初期臨床研修医第2期生修了式

地域災害拠点病院指定

【講演会】職員ニーズ対応は病院づくりの基盤
当院の実践例と課題

講師：公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構
代表理事 副理事長 相田 俊夫 先生

救急症例検討会

【講演会】運動器エコーのススメ(二回目/専門医対象)
講師：城東整形外科 診療部長 皆川 洋至 先生

【講演会】運動器エコーのススメ 講師：城東整形外科
診療部長 皆川 洋至 先生

新春もちつき大会

平成29年

発表会



地域災害拠点病院交付式



卒後臨床研修修了式・修了パーティー



平成28年度 20年勤続者

かりゆし会に入職して 20 年。仲間とともに地域の皆様のお役に立てるよう努力して参りました。沖縄県医師会平成 27 年度永年勤続医療従事者表彰を受けた 9 名をご紹介します。



ハートライフクリニック 新垣 優子

20 年間という長い間、勤務をさせて頂くことができましたのも、これまで指導していただいた皆様のお陰と、心より感謝しています。これからも、多くの人たちとの絆を大切に、仕事に邁進していきたいと思えます。



予防医学センター 小橋川 広美

平成 8 年の入職の年に、「予防医学センター」へと名称が変わりました。20 年は長いようであつという間で、多くの方に支えられて今日の飛躍があります。20 年を共に過ごし成長させて頂き感謝しています。ありがとうございました。



臨床検査科 新里 直子

素晴らしい上司、同僚、後輩に恵まれ家族の協力を得ることもでき、無事に勤続 20 年を迎える事ができました。皆様に大変感謝しております。これからも初心を忘れること無くより良い医療を患者さんに提供できるよう努力致します。



総務課 渡久地 政重

急性期の医療事務が行いたくて平成 8 年に当院に入職しました。現在までのあいだ、2 年に 1 度計 10 回の診療報酬改定があり、また紙カルテから電子カルテへの移行、医事会計システムも 4 回変わりました。その都度壁にぶつかることもありましたが、良き同僚に恵まれ乗り越えてこれました。この場を借りて感謝申し上げます。



医療安全管理室 外間 真紀子

20 年を振り返ってみると、10 年目までは特に目標もないまま日々を過ごしてきたように感じます。しかし、10 年目を過ぎた頃の尊敬する先輩方との出会いがわたしの人生を大きく変えてくれたと思えます。20 年を節目にチャレンジします。



請求業務課 宮城 淳

沖縄にUターンのために東京から就職先をハートライフ病院に決めたのが、ついこの間のように思います。入社当時「外来患者1日800人」が当たり前の時代に、窓口対応、紙カルテ出し入れとまるでイベント会場で働いているような毎日でした。時代は変化し現在はIT技術が進み、紙カルテから電子カルテ・オーダーリングシステムとなり便利にはなりましたが、窓口での患者さんとの対応は人と人との絆で結ばれています。「わたしたちは心と心をつなぐ信頼される医療を目指します」と掲げている病院理念のもと、これからもずっと患者さんに愛されつづける病院づくりに貢献していきたいです。



企画室電算係 宮城 克己

「もう20年も在籍していたのか」という感覚です。わたしの初仕事はその日が台風だったこともあり、病室のサッシへ新聞紙を詰める作業でした。それからの20年、周りの方々に助けられ業務をこなしてこれた事に感謝し、今後も頑張っていきたいと思います。



内視鏡センター 山内 芳

あっという間の20年でした。大変な時期もありましたが、子育てをしながら仕事を続けてこれたのも、沢山の方に支えられたお陰だと思っています。本当に感謝です。これからも頑張っていきたいと思いますのでご指導のほどよろしくお願い致します。



請求業務課 山川 仁

私が入社して20年が経ちました。日々患者さんの対応や業務に追われ、幾度の失敗を経験しましたが、先生方や看護師さんなど諸先輩方にご指導いただき、長年続けられたと思っています。社会情勢の変化とともに医療業界も大きく変わりました。当院においてもDPC導入や電子カルテ導入、電子レセプトオンライン請求導入への移行等様々な変化がありましたが、今後も大きく変わりゆく中で職員一同力を合わせ、心と心をつなぐ医療を目指し一層精進してまいります。

サークル活動

サークル名	平成 28 年度の主な活動
アウトドアサークル	【4月】 県総合運動公園キャンプ 【5月】 ボルダリング 【7月】 北部山岳河川トレッキング 県総合運動公園キャンプ 【8月】 三角山トレッキング 【12月】 県総合運動公園キャンプ 【1月】 嘉津宇岳トレッキング
エクササイズサークル	美里工業高校合同練習 琉球大学との合同練習 沖縄プレミアリーグ観戦 その他、スパーリング・筋トレなど
空 手	月 2 ～ 3 回の練習
ゴルフ同好会	【7月】 オーシャンキャッスル 【11月】 ベルビーチゴルフクラブ ベルビーチゴルフクラブ 【1月】 芭蕉布ゴルフクラブ 【3月】 守礼ゴルフクラブ
三味線サークル	毎週複数回の練習 (年間 40 回)
写真・絵画サークル	複数回の写真の展示替え (ハートライ フ病院講堂前)
テニス	【11月】 第 61 回病院対抗テニス大会 参加 【3月】 第 62 回病院対抗テニス大会 参加 月複数回の練習
釣りサークル	【7月】 中城湾沖釣り 【10月】 中城湾沖釣り 【1月】 中城湾掛釣り 【2月】 太刀魚釣り・熱田漁港 【3月】 伊江島漁港・磯釣り 馬天漁港・太刀魚釣り
バスケットサークル	【1月】 病院交流大会参加 そのほか月に複数回の練習

サークル名	平成 28 年度の主な活動
バレーボールサークル	毎月複数回の練習 【10月】 331 カップ参加
フットサルサークル	【5月】 第 9 回病院対抗フットサル大 会参加 【6月】 第 1 回病院対抗ビーチサッカー 大会参加 【10月】 第 10 回病院対抗フットサル 大会参加 【3月】 第 11 回病院対抗フットサル大 会参加 月一回の練習
ボーリングサークル	【6月】 宜野湾ボール 【8月】 宜野湾ボール 【10月】 マチナトボール 【12月】 マチナトボール 【2月】 マチナトボール 【3月】 マチナトボール
マリンスポーツサークル	【4月】 ビーチダイビング 【6月】 ボートダイビング 【8月】 ボートダイビング 【11月】 シュノーケリング 【1月】 ビーチダイビング
ハートライフランナーズ	【6月】 あやはしトライアスロン参加 【1月】 海洋博公園全国トライアスロン 【2月】 沖縄マラソン参加 【3月】 南部トリムマラソン
バドミントンサークル	毎月 3 ～ 5 回の練習 平成 29 年 1 月 8 日大会出場 その他定例会等の開催

同好会

剣道	稽古日 / 毎週月曜日 19 時半～ 20 時 半 (西原体育館剣道場)
----	---

平成28年度『院内研究発表会』

テーマ

笑顔で働ける職場づくり ～WLBを充実させるには～

去る11月18日(金)に「平成28年度 院内研究発表会」が行われました。4部門で予選を行う選抜方式で開催され、各部門から予選を勝ち抜いた計12題で本選が行われました。今年は医療技術部門の運営で開催され、審査員として松元副院長、與座循環器内科部長、宮平看護部長、宮城医療技術部長、當銘事務部長にご参加頂きました。

3時間弱の発表、質疑が行われ見事入賞を果たした参加者は以下の通りです。

- 1位 診療情報管理室 兼濱 亜紀
「働きやすい環境を作り世界を広げる」
- 2位 栄養科 當眞 結子
「明日が「楽しい日」であるように ～今から出来る！事にトライしてみた～」
- 3位 リハビリテーション科 仲村 和也
「リハビリスタッフのワークライフバランス ～皆がハッピーになるために～」



診療情報管理室
兼濱 亜紀



栄養科
當眞 結子



リハビリテーション科
仲村 和也



安里 哲好 理事長 沖縄県医師会会長就任

沖縄県医師会 35 年の歴史上初めて行われた会長選挙で、当法人の理事長 安里 哲好が同会の会長に選出されました。



県医師会会長に安里氏 初の選挙

県医師会（会員約2300人）の臨時議員総会が26日、南風原町の県医師会館で開かれ、現副会長でハートライフ病院理事長の安里哲好氏（65）が新会長に選出された。県医師会65年の歴史に、初めての会長選挙となった。任期は2年。安里氏は「沖縄は65歳以上の健康寿命が全国最下位だ。これを改善させ、健康長寿を復活させたい。県民と共に歩む医師会にしたい」と抱負を述べた。

副会長は現副会長の玉城信光氏、那覇西クリニック院長の真田篤彦氏（67）が立候補。当選には代議員57人の過半数が必要で、1回目の投票で真田氏が23票、安里氏が26票となった。

新会長は6月23日の代議員総会から正式に就任する。



初選挙で安里氏選出 県医師会会長選 3氏が立候補

伊勢志摩サミットが開幕し、各国首脳が訪問した伊勢神宮（三重県伊勢市）の内宮周辺は26日、多数の警備関係者が行き交い厳戒ムードに包まれた。門前町

創立65年での初の県医師会会長選挙が26日、南風原町の県医師会館であり、副会長でハートライフ病院理事長の安里哲好氏（65）が当選した。6月23日の定例代議員総会を経て就任する。任期は2年。安里氏は「県民とともに歩む医師会を目指す。全国最下位レベルの65歳未満の健康状態を改善し、長寿復活に取り組みたい」と抱負を述べた。

安里氏は1950年8月、沖縄生まれ。77年山口大学医学部卒の循環器専門医で、2012年4月から県医師会副会長。

選挙は、6期10年務めた宮城信雄会長（69）と沖縄第一病院理事長の任期満了に伴うもの。安里氏、高城氏と、常任理事で那覇市医師会長の真田篤彦氏（67）が立候補した。代議員57人による1回目の投票で真田氏が最多23票を獲得したが過半数に届かず、17票で立ち、安里氏と宮城氏のうち、くじで選ばれた安里氏が過半数を獲得。安里氏が真田氏を再上回る31票を獲得した。過去の会長選は、複数の立候補がなく無投票で決まっていた。

副会長選挙は、現副会長

■沖縄タイムス 2016年5月27日号

健康長寿復活させる

「沖縄は30代から65歳の健康寿命が全国最下位だ。これを改善させ、健康長寿を復活させたい。県民と共に歩む医師会にしたい」と抱負を述べた。

副会長は現副会長の玉城信光氏、那覇西クリニック院長の真田篤彦氏（67）が立候補。当選には代議員57人の過半数が必要で、1回目の投票で真田氏が23票、安里氏が26票となった。

新会長は6月23日の代議員総会から正式に就任する。

■琉球新報 2016年5月27日号

県医師会会長に決まった

「沖縄は30代から65歳の健康寿命が全国最下位だ。これを改善させ、健康長寿を復活させたい。県民と共に歩む医師会にしたい」と抱負を述べた。

副会長は現副会長の玉城信光氏、那覇西クリニック院長の真田篤彦氏（67）が立候補。当選には代議員57人の過半数が必要で、1回目の投票で真田氏が23票、安里氏が26票となった。

新会長は6月23日の代議員総会から正式に就任する。

■琉球新報 2016年5月30日号

県医師会会長に就任へ 安里 哲好さん

65年の歴史を刻む県医師会、三つちえの橋を架け、中城町のハートライフ病院理事長で、自身を含めた10人歴代会長のうち中部地区から初の選出となった。6月、会員約2300人のトップに就く。

長寿県復活へ決意

地域ニーズに応じた病床数の確保、在宅介護との連携、医師不足解消。医師が、従来看護士として沖繩戦を生き抜いた母の強い希望があったから。戦後、長寿県への復活。

都道府県別平均寿命の首位に立つ。4千人超を取り上げたいという母の背中。有形無形の重荷を受け、安里氏は「一人は小さな責任、小さな挑戦。65歳未満の死亡率の高さを、長寿国復活の第一歩として、明日にも病気に、明日にも生命の危機が訪れる30代から65歳までに、大きな責任を負う。妻（60）との取り組みが急務だ」と決意を込める。

沖繩市青、那覇市住の学生時代は数学が得意。65歳。社会部・新垣敏子

■沖縄タイムス 2016年5月30日号

編集後記

今年度も職員の皆さんの一年間の頑張りが一杯つまった年報が完成しました。定期的に集まり準備をしてくださった年報委員の皆様にご心より感謝申し上げます。特に広報の知念さんと仲田さんの献身的な努力のおかげで完成することができました。年報を読むとハートライフ病院が年々診療内容において充実してきていること、医療の質がレベルアップしていると感じます。これもひとえに職員の一人ひとりが毎日の診療の現場で患者さんに対して全力投球している積み重ねだと思えます。職員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

10年後も地域の中核病院として輝ける体制づくりが始まっています。平成29年度も皆でスクラムを組んで頑張らしましょう。

年報作成委員長 奥島 憲彦

データ収集にご協力頂いた、各部署の皆様ありがとうございました。

年報作成委員会の皆様お疲れ様でした。

◇年報作成委員会◇

委員長	奥島 憲彦 (ハートライフ病院院長)
副委員長	嘉川 春生 (泌尿器科部長)
委員	菅野 善一郎 (心療内科医長)
	仲地 ますみ (看護副部長)
	仲座 義富 (放射線科技師長)
	斎藤 辰好 (臨床検査科副技師長)
	當銘 秀之 (事務部長)
	大城 真澄 (メディカルクラーク)
	仲松 泉 (メディカルクラーク)
	真栄平 久美子 (診療情報管理室)
	宮城 映子 (総務課図書係)
	新垣 優子 (ヘルシーカフェ ohana 主任)
	比嘉 康文 (ハートライフ地域包括ケアセンター業務課長)
企画調整	知念 政治 (企画室広報係副主任)
編集	仲田 尚正 (企画室広報係)

社会医療法人かりゆし会 平成 28 年度年報
第 23 巻 平成 29 年 10 月

編集発行人 社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
年報作成委員会
〒 901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地
電話 . (098) 895-3255 (代) FAX. (098) 895-2534
URL. <http://www.heartlife.or.jp/>